

「岡山のまちづくり」に関するアンケート調査報告書

平成 25 年 3 月
公明党岡山市議団

はじめに

岡山市は平成21年4月に政令指定都市へと移行し、本年4月に5年目をむかえます。進展する少子高齢・人口減少社会に備え、暮らしやすいまちとして発展し続けていくことを願う市民の期待に応えていかななくてはなりません。

本市は「岡山市都市ビジョン」を策定し、政令指定都市移行に合わせて、「新・岡山市総合計画」を策定しました。「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」、「中四国をつなぐ総合福祉の拠点都市」の2つの都市像を定め、これを実現するため7つの柱からなる都市づくりの方向を明らかにしました。しかし、この方向に沿って実施されてきた諸施策が、真に市民ニーズに合致したものであるかどうかを検証する必要があります。

一方、市民生活に目を向けますと、健康や就労に対する不安や、子育てや地域活動など市民サービスについての要望が多く寄せられ、多様化する市民ニーズに行政が的確に対応していくことが求められています。

そこで、私たち公明党岡山市議団は、今後岡山市の未来のまちづくりを推進する政策提言を行うにあたり、岡山市の現状と市民の実態を把握するため、市内在住の25歳から74歳までの男女を対象にアンケート調査を行いました。

この調査は項目が多岐にわたっていますが、市民の声を確実に反映させ未来のまちづくりのプランに活かしていこうと、精力的に取り組んでまいりました。このほど調査報告書をまとめ、市民の皆さまにお示しすることになりました。調査にご協力いただいた皆さまに心から感謝申し上げますとともに、伝統ある岡山市が政令指定都市として希望に満ちた未来へと羽ばたいていけるよう、寄せられた声を活かしていくことをお誓い申し上げます。

最後になりましたが、本調査の監修をいただいた馬居政幸静岡大学教授には大変お世話になりました。ここに厚く御礼申し上げます。

公明党岡山市議団

目次

I 調査概要	1
II 調査結果	5
1 あなたご自身のことについてうかがいます。	5
問1 性別を教えてください。	5
問2 3月1日現在の年齢を教えてください。	5
問3 結婚していますか。	7
問4 お子さんはいらっしゃいますか。	10
問4-1 お子さんは何人いらっしゃいますか。	11
問5 世帯の状況を教えてください。	13
問6 お住まいの区を教えてください。	17
問7 あなたが小学校時代を過ごした主な場所は次のうちどちらですか。	18
問8 あなたは休日にショッピング（買い物）に行く際、どの商店街で買うことが多いですか。	20
問9 あなたは、現在の生活に満足していますか。	25
問10 あなたは、結婚についてどのように考えていますか。	28
問11 「子どもを産み育てることを、今の社会は十分に評価していると思いますか。	33
問12 岡山市は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が整っている と思いますか。	38
問13 岡山市の町内会は活動が盛んであると言われていますが、あなたは町内会について どう思いますか。	41
問14 あなたは、普段ご近所の方と、どの程度のおつきあいをしていますか。	46
問15 あなたはこの1年間に、地域活動に参加したことがありますか。	50
2 健康についてうかがいます。	55
問16 あなたは、この1年以内に健康診断を受診しましたか。	55
問16-1 受診の際に、保険を使用しましたか。	58
問16-2 使用した保険はあなたの保険ですか。	61
問16-3 受診していない理由を教えてください。	64
問17 あなたが加入している健康保険は、次のどれですか。	67
問18 次のような検診や健康診断を受けたことがありますか。	72
問19 この1年の間に悩み事やストレスを感じたことがありますか。	77
問19-1 それは、どのような事柄が原因ですか。	80
問20 悩み事やストレスを解消するためにどのようなことをしますか。	84
3 就労についてうかがいます。	88
問21 あなたは次のうちどれにあてはまりますか。	88

問22	あなたの現在の主な通勤先（学生の方は通学先）はどちらですか。 ……	94
問22-1	1日の平均勤務時間と平均帰宅時刻（24時間制で）を（ ）にお書きください。 ……	97
問23	毎月の収入（手取り）は平均してどのくらいですか。 ……	100
問24	あなたは、仕事と家庭の関係についてどのように考えていますか。 ……	103
問25	「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感するほうですか、それとも同感しないほうですか。 ……	106
問26	あなたは、転職した経験がありますか。 ……	110
問26-1、問26-2	理由を教えてください。 ……	113
問27	現在職についてない方も含めて、これまでに転職した回数を教えてください。 ……	118
4	あなたの考えと、市の制度や政策についてうかがいます。 ……	121
問28	次のうちあなたの考えはどちらに近いですか。 ……	121
問29	岡山市内にある公的施設を利用したことがありますか。 ……	126
問30	行政で実施している次の取り組みを知っていますか。 ……	135
5	最後に全員にうかがいます。 ……	144
問31	あなたは日常生活において、情報ツールをどのくらいの頻度で利用しますか。 ……	144
問32	これからのまちづくりにおいて、行政に充実を求めることは何ですか。 ……	147

Ⅲ 考察 …… 馬居政幸 151

調査結果からみた岡山市の現状の特色と課題

1	はじめに ……	151
2	有識者への聞き取り調査による岡山市の現状の特色と課題 ……	152
1)	岡山市の現状の特色 ……	152
（1）功	：豊かな社会的資源（ハード）と社会的資本（ソフト） ……	152
（2）罪	：居住地と伝統（高齢者）に偏した社会的資源・資本の活用（機能） ……	152
2)	岡山市の新たなまちづくりのための課題 ……	153
（1）	岡山市の新たな自己認識を ……	153
（2）	市民の現実改編のための行政に ……	153
3	岡山市民への「まちづくり」に関する調査結果から ……	155
1)	市民の側からのまちづくりのための市民調査コンセプト ……	155
2)	調査結果から見えてくる特色と課題は ……	157
（1）	調査の概要 ……	157
（2）	対象者と有効回答者の間に見えてくるもの ……	158

(3) 結果の概要	162
①世帯の状況	162
②小学校時代を過ごした主な場所	164
③雇用形態	165
④月の平均収入	167
⑤転職経験	169
⑥健康診断の受診状況	170
⑦加入している健康保険	171
⑧未・既婚状況	173
⑨結婚について	174
⑩「子どもを産み育てること」に対する社会の評価	175
⑪高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境	176
⑫町内会について	178
⑬地域活動の参加状況	179
⑭公的施設の利用状況	181
⑮行政で実施している取り組みの認知状況	183
⑯まちづくりにおいて行政に充実を求めること	185
4 結語にかえて	187
附 論	189
附論1：三種の政策提言の構想私案	189
提言1. 岡山駅を基点とする「OKAYMAビッグプレイゾーン」の再開発	189
提言2. “公立幼稚園の新子ども園化”を起点に、小・中・高・大連携を視野に置く 「岡山っ子・未来飛翔システム」の創生	189
提言3. シティミュージアムと公民館の再定義・リファイニングを核に、 市民参画による「ネオ安心安全ネットワーク」の再構築	190
附論2：人口減少下の日本社会の課題	193
1 人口減少の偏頗性	193
2 格差の構造化	195
3 問題解決のための再定義と市民協働の課題	197

IV 補充報告 201

岡山市民の多様性とその分類軸に関する多変量解析

1	はじめに	201
2	岡山市民を分類する軸の析出	202
3	岡山市民の分類	207
4	岡山市民類型の特徴	215
4.1	アラ30世代	215
4.2	アラ40世代	218
4.3	少産世代	221
4.4	団塊世代	224
4.5	高齢世代	227
5	まとめに	229

V 附録 233

資料1	「岡山のまちづくり」に関する調査結果の概要	資料1-1～資料1-8
資料2	「岡山のまちづくり」に関するアンケート調査票	資料2-1～資料2-8
資料3	岡山・倉敷における聞き取り調査報告	資料3-1～資料3-21

I 調査概要

I 調査概要

1. 調査目的

公明党岡山市議団は、市民の皆様のご意見を参考にして、岡山市の未来のまちづくりを推進するための政策提言を行うことになり、その基礎資料を得るためのアンケート調査を㈱サーベイリサーチセンターに委託し、政務調査費により実施しました。

2. 調査設計

調査対象：岡山市内在住の25歳～74歳の男女

標本数：10,000人

抽出方法：選挙人名簿より無作為抽出

調査方法：郵送配布 郵送回収

調査期間：平成24年3月1日～平成24年4月16日

監修：馬居政幸（静岡大学 教育学部 教授）

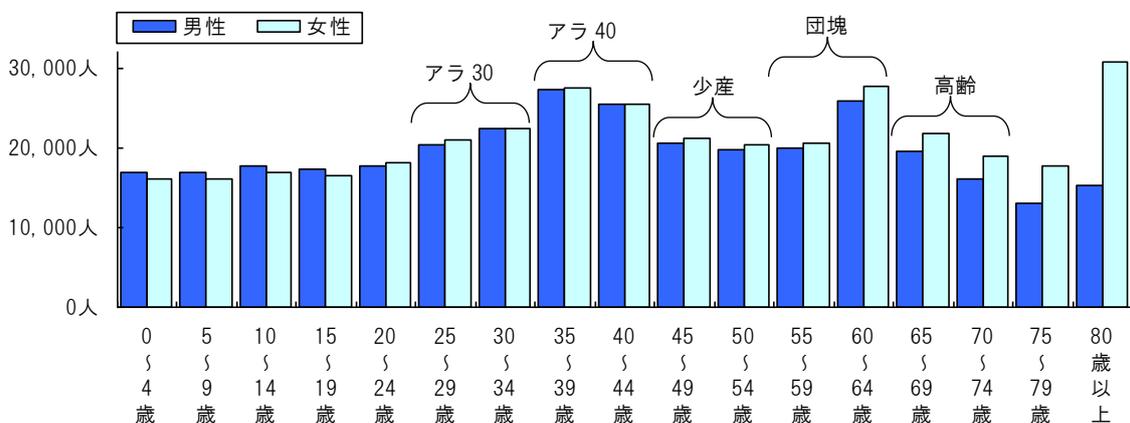
3. 報告書の見方

百分率は小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならないことがあります。また、1つの質問に2つ以上答える「複数回答」の場合、比率の合計が100%を超えることがあります。

4. 集計について

全体の回収率は、郵送調査のため36.8%と高くはありませんが、標本数を10,000人にするので、この調査は統計的に妥当な調査となっています。また、分析においては高齢世代の回収率が高く、全体平均が高齢者の回答に偏る傾向を避けられないため、世代別のクロス集計を中心に分析を行っています。その際、岡山市の課題を明確にするため、人口構成の特徴に応じて、アラ30（25～34歳）、アラ40（35～44歳）、少産（45～54歳）、団塊（55～64歳）、高齢（65～74歳）の5種の世代別に分析します。

岡山市男女別5歳年齢階級別人口構成



『岡山市統計月報 平成24年4月号』より

(住民基本台帳人口 平成24年3月末)

	アラ 30		アラ 40		少産		団塊		高齢		年齢 不詳	計
	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳		
発送数	819	894	1,211	1,183	978	972	942	1,263	955	783	-	10,000
有効回収数	207	247	368	355	349	363	360	541	457	417	11	3,675
有効回収率	26.5%		30.2%		36.5%		40.9%		50.3%		-	36.8%

※有効回収数は、回収数の3,682票(36.8%)から記入のない(または少ない)調査票を除いた数です。

※調査結果は5.0%未満の数字の表示を割愛している場合があります。

※回答者数は、Nと表示しており、回答比率はこれを100%として算出しています。

[解説] 監修者 (馬居政幸)

5. 回収結果

配布数：10,000人 (100.0%)

回収数：3,682票 (36.8%)

有効回収数：3,675票 (36.8%)

※有効回収数は、回収はされたが記入のない(または少ない)調査票を除いて集計した数です。

① 抽出数

		北区	中区	東区	南区	計
男女計	25～29歳	377	164	56	222	819
	30～34歳	377	207	87	223	894
	35～39歳	470	273	144	324	1,211
	40～44歳	495	256	147	285	1,183
	45～49歳	396	217	144	221	978
	50～54歳	401	173	152	246	972
	55～59歳	367	203	152	220	942
	60～64歳	473	240	217	333	1,263
	65～69歳	366	179	182	228	955
	70～74歳	346	114	132	191	783
	計	4,068	2,026	1,413	2,493	10,000
男性	25～29歳	179	86	27	113	405
	30～34歳	186	100	44	108	438
	35～39歳	231	132	77	162	602
	40～44歳	276	119	75	122	592
	45～49歳	221	116	70	98	505
	50～54歳	218	79	72	119	488
	55～59歳	207	99	79	109	494
	60～64歳	268	125	116	168	677
	65～69歳	181	95	91	108	475
	70～74歳	152	47	63	86	348
	計	2,119	998	714	1,193	5,024
女性	25～29歳	198	78	29	109	414
	30～34歳	191	107	43	115	456
	35～39歳	239	141	67	162	609
	40～44歳	219	137	72	163	591
	45～49歳	175	101	74	123	473
	50～54歳	183	94	80	127	484
	55～59歳	160	104	73	111	448
	60～64歳	205	115	101	165	586
	65～69歳	185	84	91	120	480
	70～74歳	194	67	69	105	435
	計	1,949	1,028	699	1,300	4,976

② 有効回収数

		北区	中区	東区	南区	不明	計
男女計	25～29 歳	91	42	16	57	1	207
	30～34 歳	104	53	26	64	0	247
	35～39 歳	138	92	44	94	0	368
	40～44 歳	149	78	49	79	0	355
	45～49 歳	138	76	45	90	0	349
	50～54 歳	148	66	63	86	0	363
	55～59 歳	139	79	58	82	2	360
	60～64 歳	204	93	95	146	3	541
	65～69 歳	173	83	90	107	4	457
	70～74 歳	185	56	68	100	8	417
	不明	4	1	1	3	2	11
計	1,473	719	555	908	20	3,675	
男性	25～29 歳	25	18	3	19	0	65
	30～34 歳	32	23	7	20	0	82
	35～39 歳	62	30	20	40	0	152
	40～44 歳	79	25	22	27	0	153
	45～49 歳	68	34	19	34	0	155
	50～54 歳	65	22	25	26	0	138
	55～59 歳	60	34	25	32	0	151
	60～64 歳	111	50	52	70	3	286
	65～69 歳	79	45	49	48	2	223
	70～74 歳	81	21	29	41	5	177
	不明	2	0	0	2	0	4
計	664	302	251	359	10	1,586	
女性	25～29 歳	66	24	13	38	1	142
	30～34 歳	72	30	19	44	0	165
	35～39 歳	76	62	24	54	0	216
	40～44 歳	70	51	27	52	0	200
	45～49 歳	70	42	26	56	0	194
	50～54 歳	83	44	37	60	0	224
	55～59 歳	78	45	33	50	2	208
	60～64 歳	93	40	43	74	0	250
	65～69 歳	92	37	40	58	1	228
	70～74 歳	103	34	39	57	3	236
	不明	2	1	1	0	0	4
計	805	410	302	543	7	2,067	
性別不明	40～44 歳	0	2	0	0	0	2
	50～54 歳	0	0	1	0	0	1
	55～59 歳	1	0	0	0	0	1
	60～64 歳	0	3	0	2	0	5
	65～69 歳	2	1	1	1	1	6
	70～74 歳	1	1	0	2	0	4
	不明	0	0	0	1	2	3
計	4	7	2	6	3	22	

③ 有効回収率

		北区	中区	東区	南区	計
男女計	25～29 歳	24.1%	25.6%	28.6%	25.7%	25.3%
	30～34 歳	27.6%	25.6%	29.9%	28.7%	27.6%
	35～39 歳	29.4%	33.7%	30.6%	29.0%	30.4%
	40～44 歳	30.1%	30.5%	33.3%	27.7%	30.0%
	45～49 歳	34.8%	35.0%	31.3%	40.7%	35.7%
	50～54 歳	36.9%	38.2%	41.4%	35.0%	37.3%
	55～59 歳	37.9%	38.9%	38.2%	37.3%	38.2%
	60～64 歳	43.1%	38.8%	43.8%	43.8%	42.8%
	65～69 歳	47.3%	46.4%	49.5%	46.9%	47.9%
	70～74 歳	53.5%	49.1%	51.5%	52.4%	53.3%
計	36.2%	35.5%	39.3%	36.4%	36.8%	
男性	25～29 歳	14.0%	20.9%	11.1%	16.8%	16.0%
	30～34 歳	17.2%	23.0%	15.9%	18.5%	18.7%
	35～39 歳	26.8%	22.7%	26.0%	24.7%	25.2%
	40～44 歳	28.6%	21.0%	29.3%	22.1%	25.8%
	45～49 歳	30.8%	29.3%	27.1%	34.7%	30.7%
	50～54 歳	29.8%	27.8%	34.7%	21.8%	28.3%
	55～59 歳	29.0%	34.3%	31.6%	29.4%	30.6%
	60～64 歳	41.4%	40.0%	44.8%	41.7%	42.2%
	65～69 歳	43.6%	47.4%	53.8%	44.4%	46.9%
	70～74 歳	53.3%	44.7%	46.0%	47.7%	50.9%
計	31.3%	30.3%	35.2%	30.1%	31.6%	
女性	25～29 歳	33.3%	30.8%	44.8%	34.9%	34.3%
	30～34 歳	37.7%	28.0%	44.2%	38.3%	36.2%
	35～39 歳	31.8%	44.0%	35.8%	33.3%	35.5%
	40～44 歳	32.0%	37.2%	37.5%	31.9%	33.8%
	45～49 歳	40.0%	41.6%	35.1%	45.5%	41.0%
	50～54 歳	45.4%	46.8%	46.3%	47.2%	46.3%
	55～59 歳	48.8%	43.3%	45.2%	45.0%	46.4%
	60～64 歳	45.4%	34.8%	42.6%	44.8%	42.7%
	65～69 歳	49.7%	44.0%	44.0%	48.3%	47.5%
	70～74 歳	53.1%	50.7%	56.5%	54.3%	54.3%
計	41.3%	39.9%	43.2%	41.8%	41.5%	

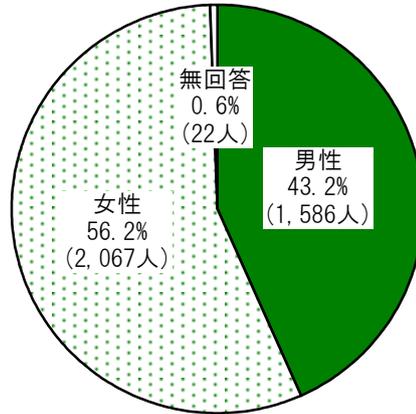
II 調査結果

II 調査結果

1 あなたご自身のことについてうかがいます。

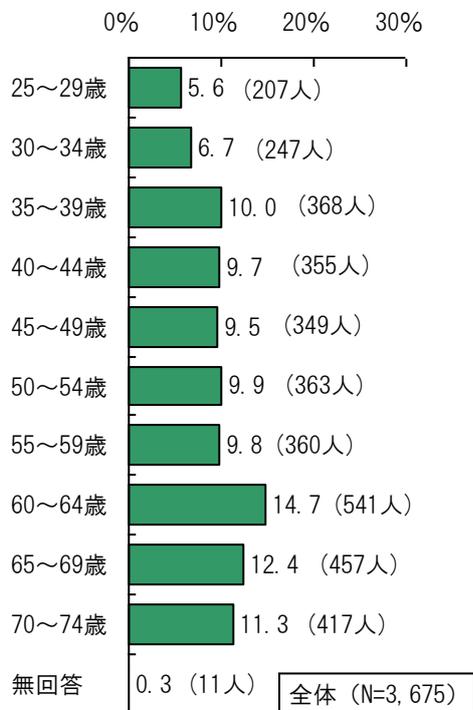
問1 性別を教えてください。(〇は1つ)

全体 (N=3,675)



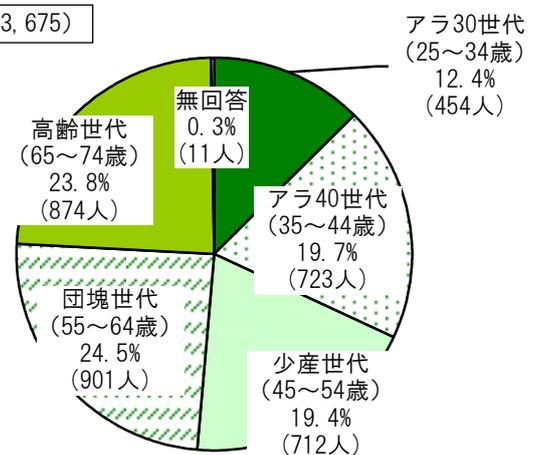
性別は、「男性」が43.2%、「女性」が56.2%となっています。

問2 3月1日現在の年齢を教えてください。(〇は1つ)



『世代』とりまとめ

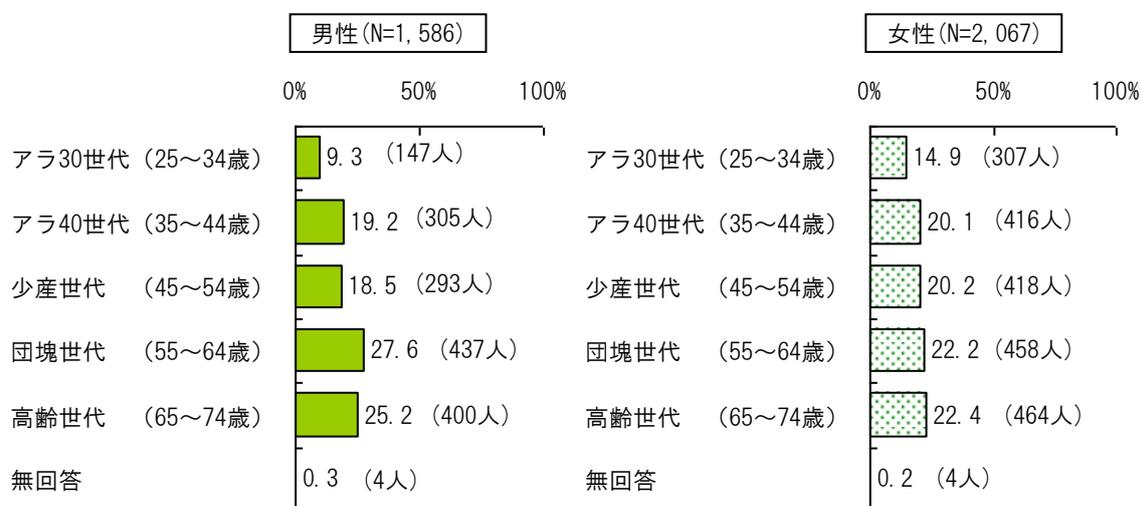
全体 (N=3,675)



※百分率は小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならないことがあります。

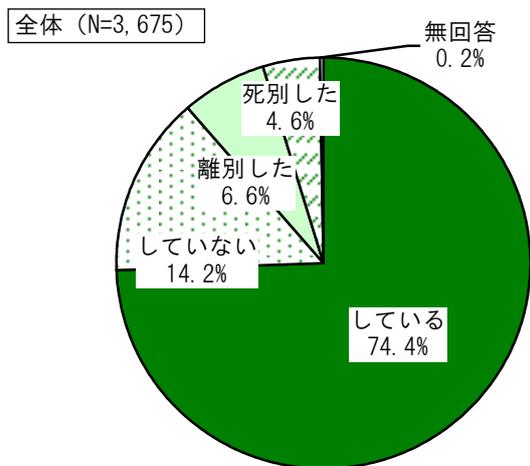
年齢は、「60～64歳」が14.7%と最も多く、次いで「65～69歳」が12.4%、「70～74歳」が11.3%などとなっています。年代は、「団塊世代 (55～64歳)」の24.5%や、「高齢世代 (65～74歳)」の23.8%が、他の世代に比べて多くなっています。

◆ 性別 ◆



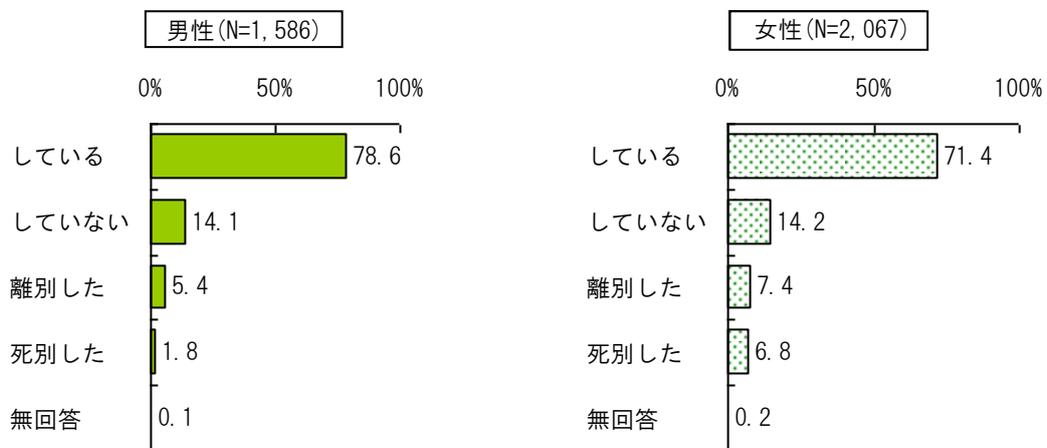
性別でみると、男性は「団塊世代 (55~64歳)」の27.6%と、「高齢世代 (65~74歳)」の25.2%が多くなっています。一方、女性は「アラ40世代 (35~44歳)」から「高齢世代 (65~74歳)」までが2割を超えています。

問3 結婚していますか。(〇は1つ)



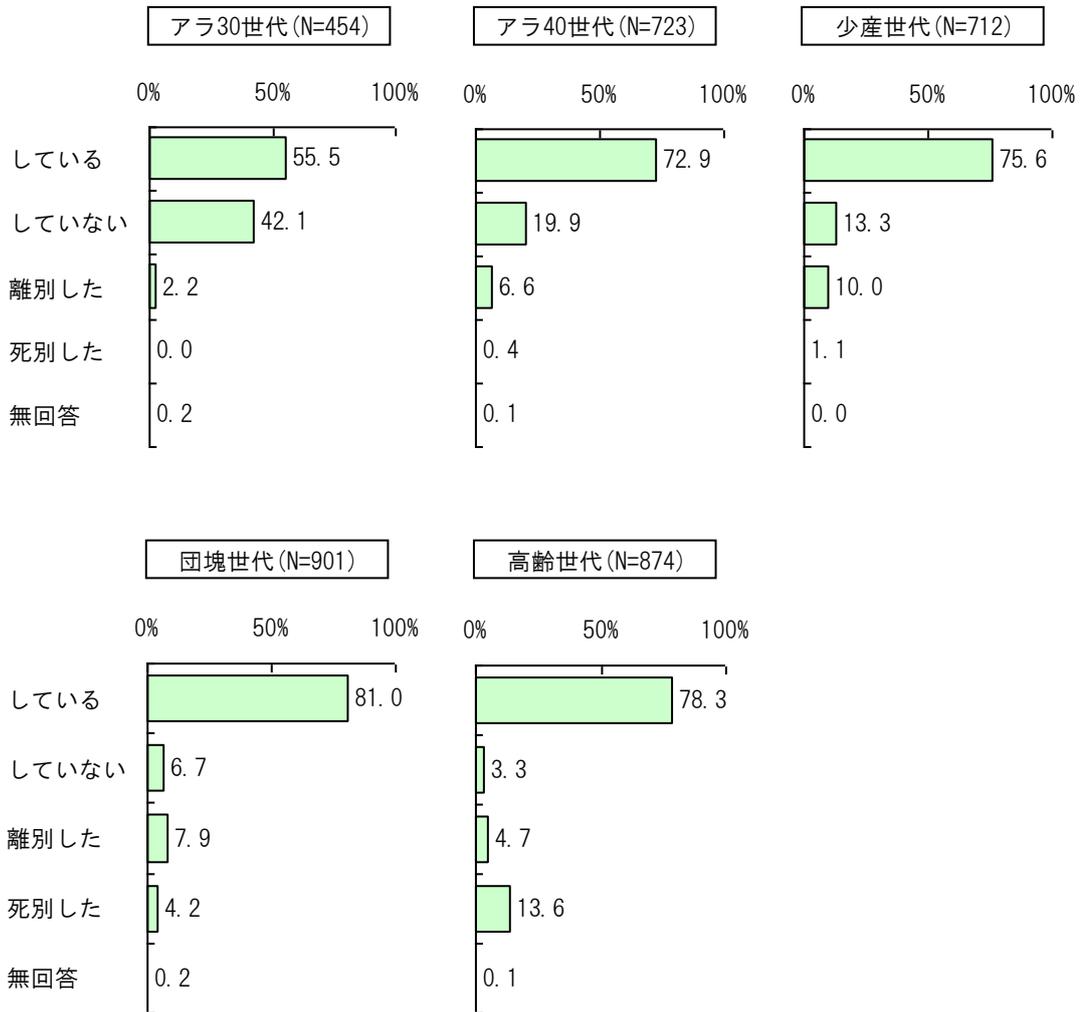
結婚しているかは、「している」が74.4%と最も多く、次いで「していない」が14.2%、「離別した」が6.6%などとなっています。

◆ 性別 ◆



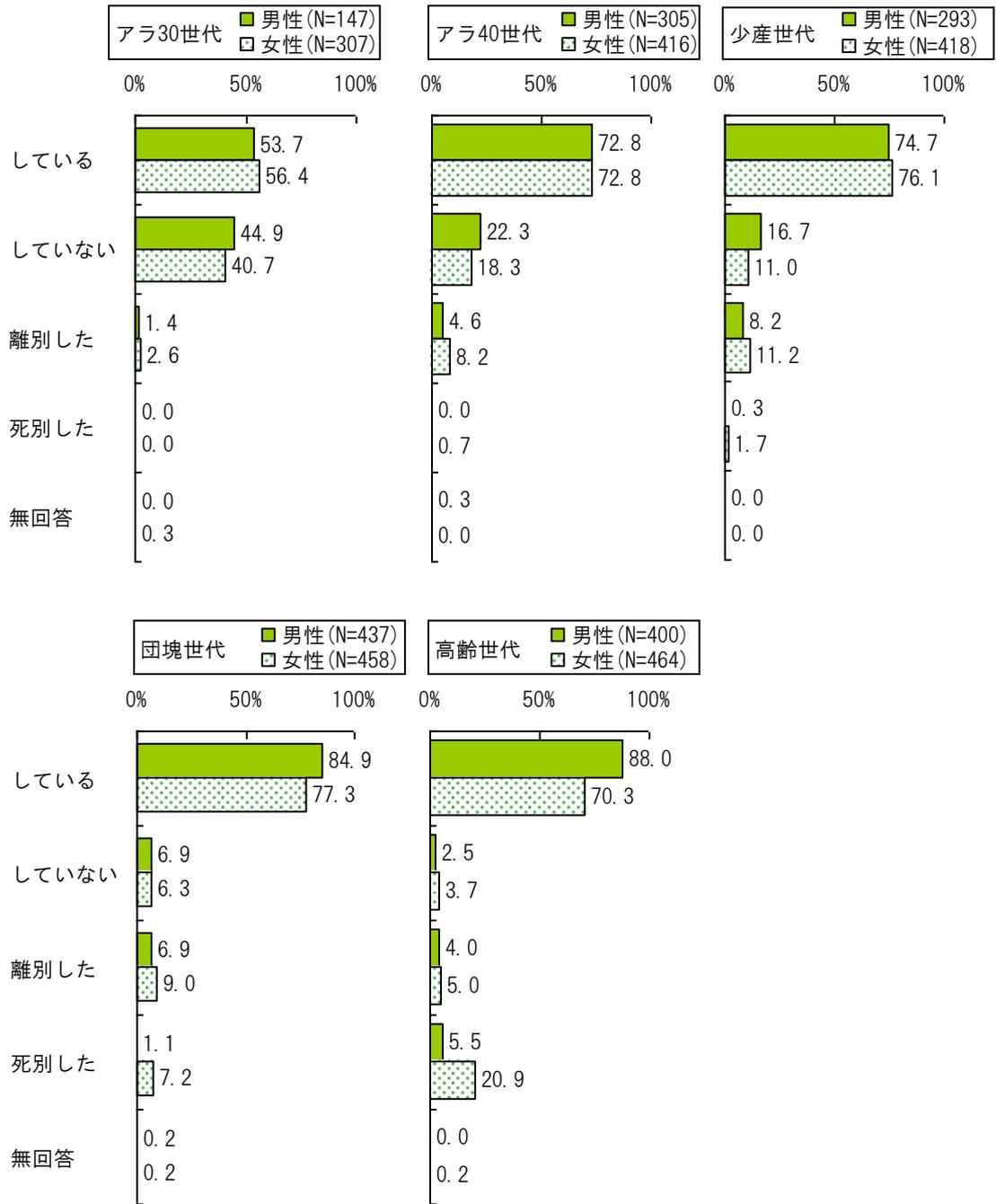
性別での大きな差異はみられません。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、年代が下がるほど「していない」が多く、アラ 30 世代は 42.1%、アラ 40 世代は 19.9%、少産世代は 13.3%などとなっています。

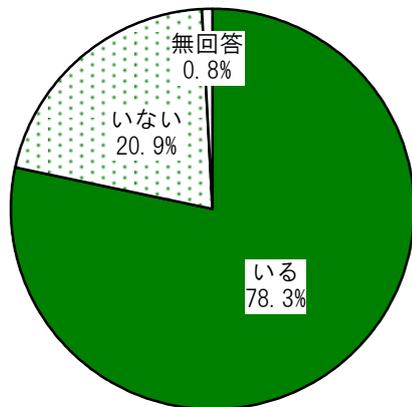
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別でみると、アラ30世代で「していない」は、男性が44.9%、女性が40.7%と、男性がやや多くなっています。

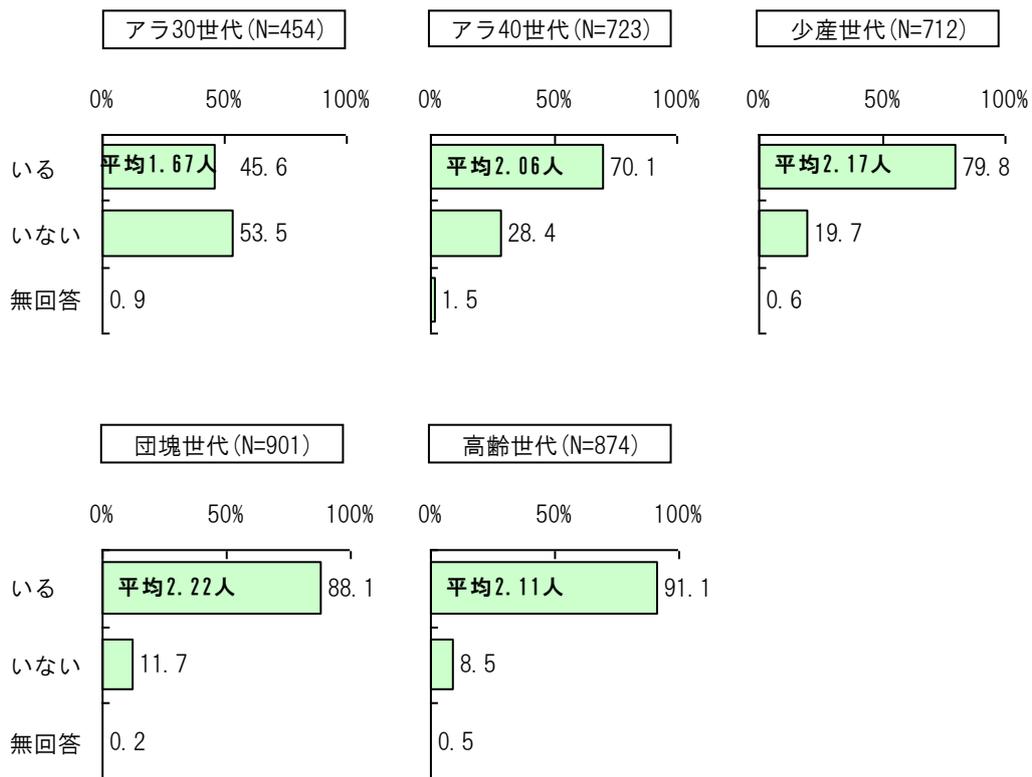
問4 お子さんはいらっしゃいますか。(〇は1つ)

全体 (N=3,675)



子どもの有無は、「いる」が78.3%、「いない」が20.9%となっています。

◆ 年代別 ◆



※平均は子どもの人数

年代別で見ると、年代が下がるほど「いない」が多く、アラ30世代は53.5%、アラ40世代は28.4%、少産世代は19.7%などとなっています。

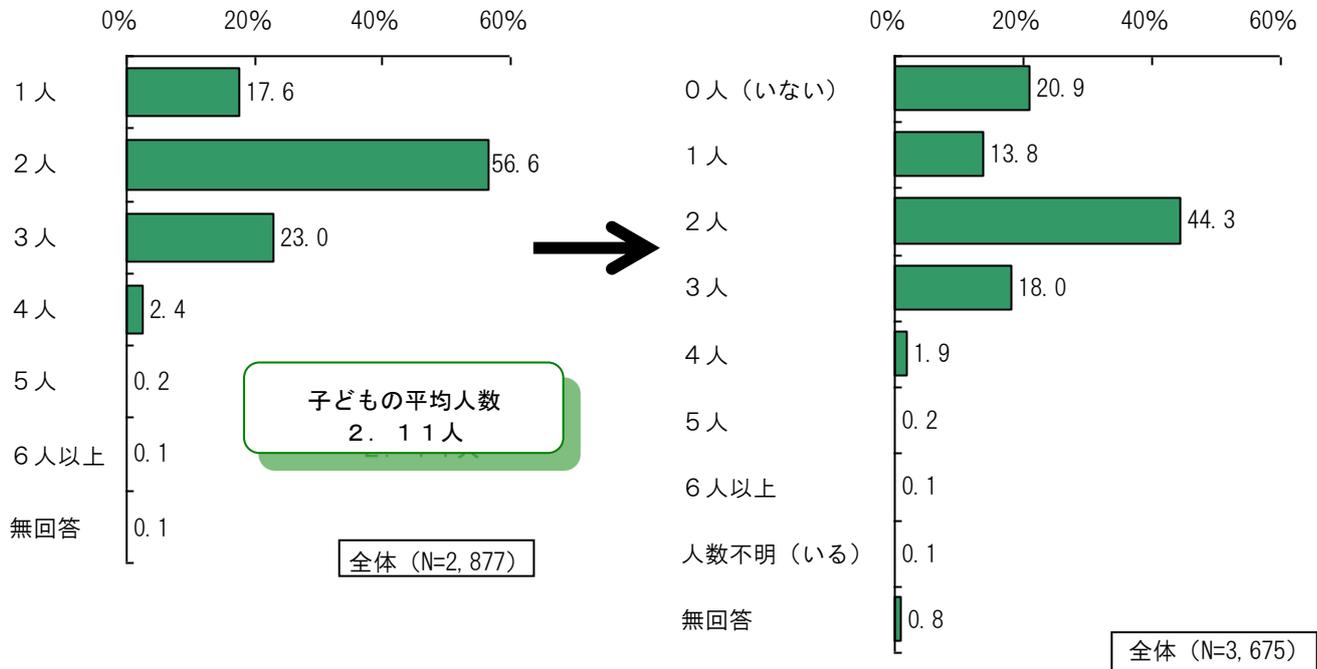
子どもの平均人数は、団塊世代が2.22人と他の世代よりもやや多くなっています。

※問4で「いる」と答えた方のみ

問4-1 お子さんは何人いらっしゃいますか。(〇は1つ)

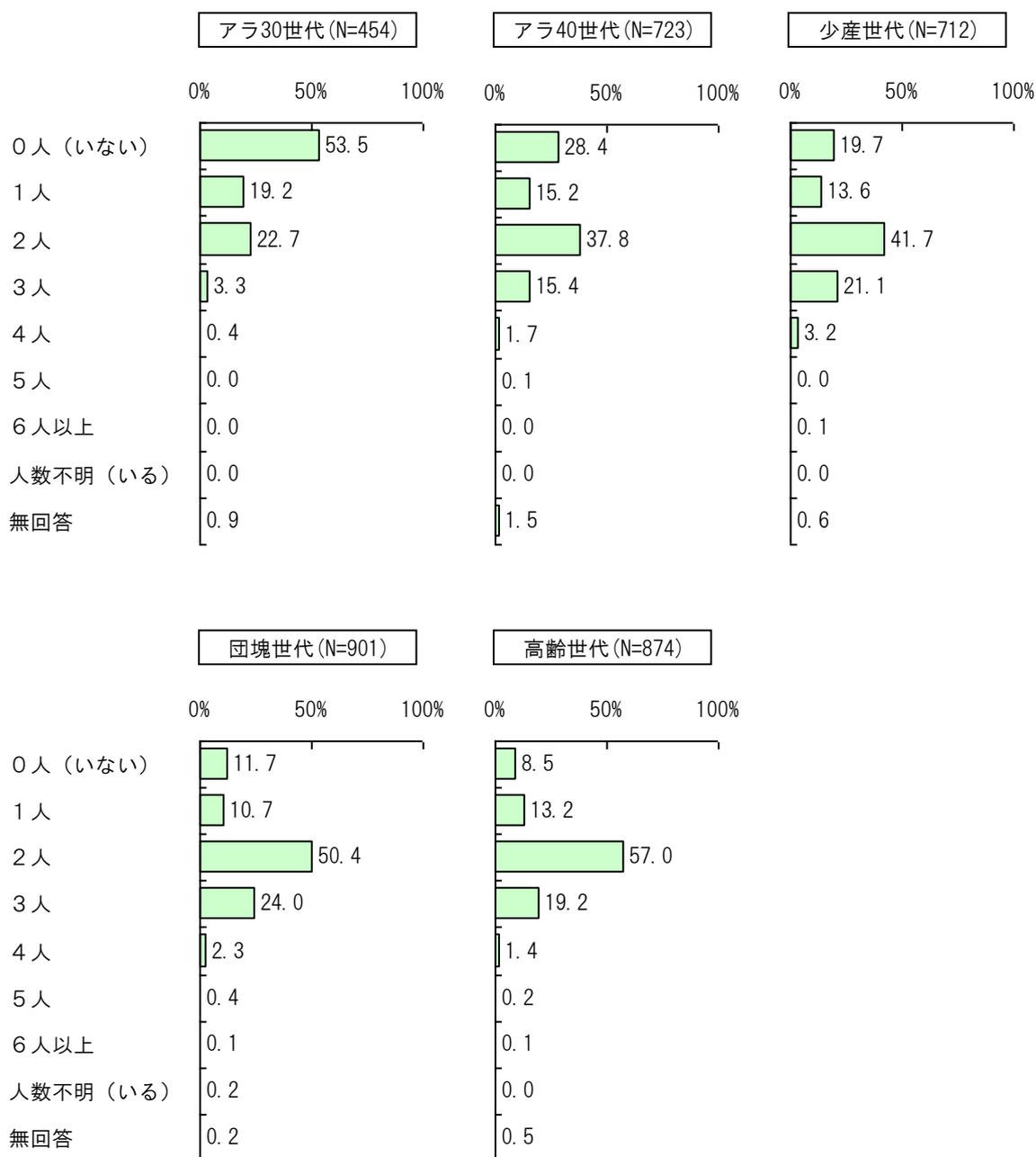
◆子どもがいる人

問4全体



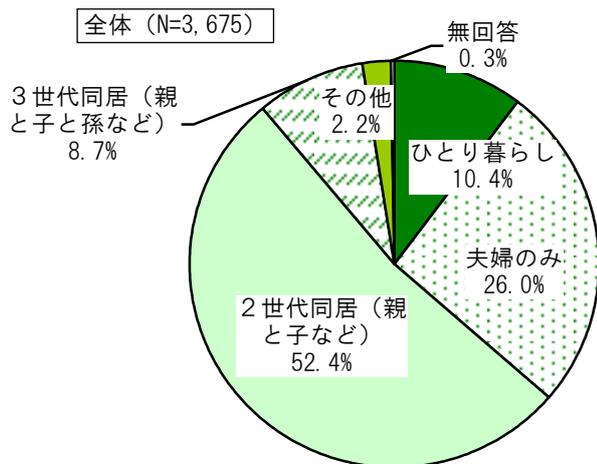
子どもの人数は、「2人」が56.6%と最も多く、次いで「3人」が23.0%、「1人」が17.6%などとなっています。子どもの平均人数は、2.11人となっています。

◆ (全体) 年代別 ◆



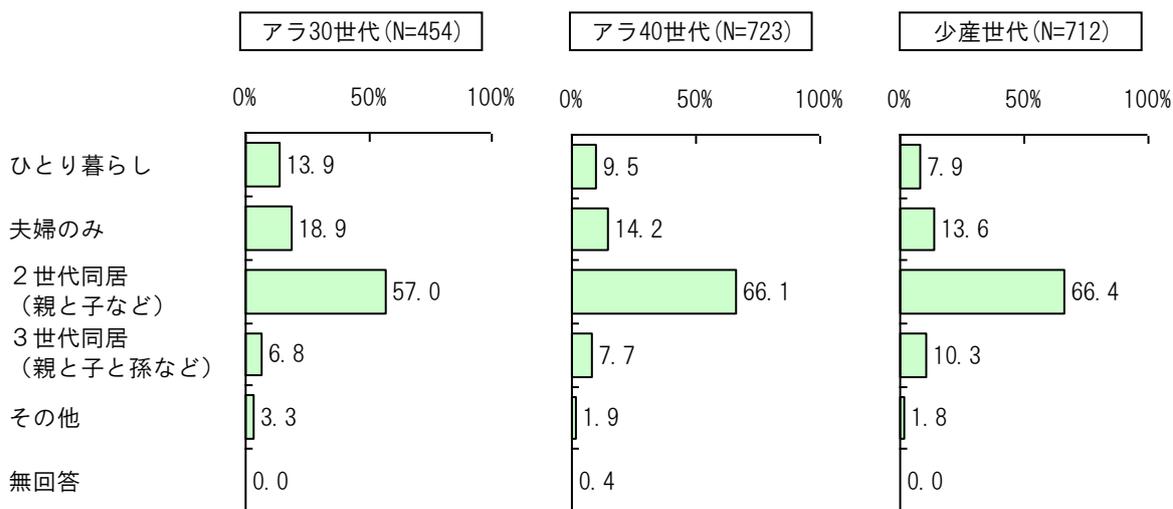
年代別で見ると、年代が上がるほど「2人」が多く、高齢世代は57.0%、団塊世代は50.4%、少産世代は41.7%などとなっています。アラ30世代は「0人 (いない)」が5割を超えています。

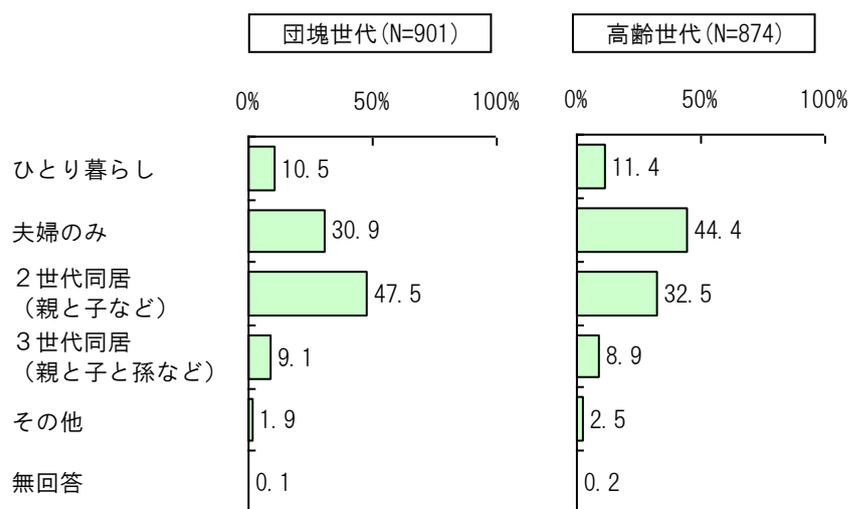
問5 世帯の状況を教えてください。(〇は1つ)



世帯の状況は、「2世代同居 (親と子など)」が52.4%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が26.0%、「ひとり暮らし」が10.4%などとなっています。

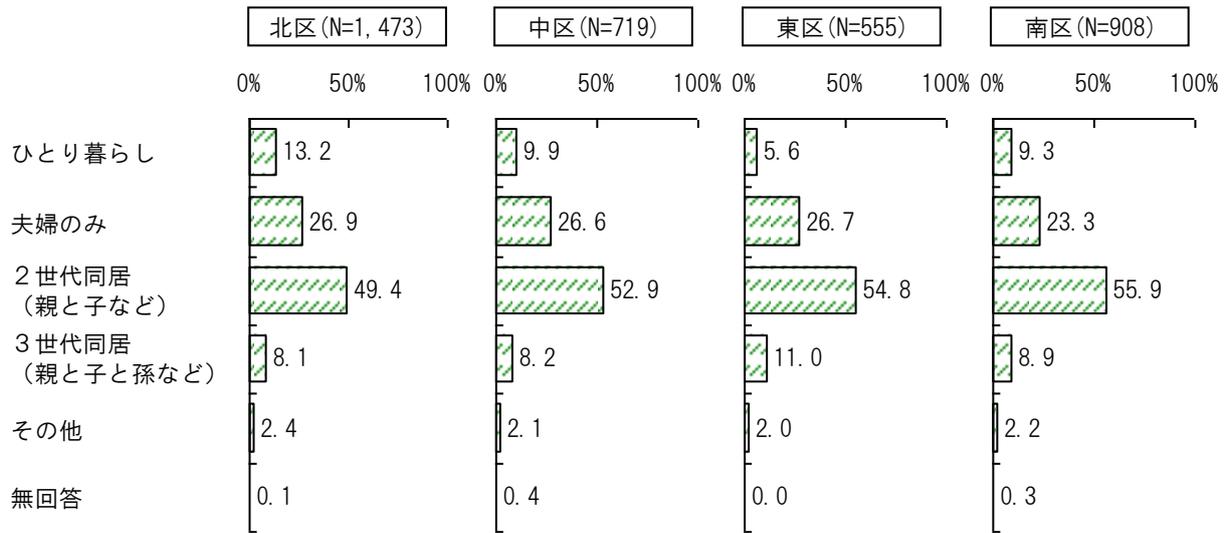
◆ 年代別 ◆





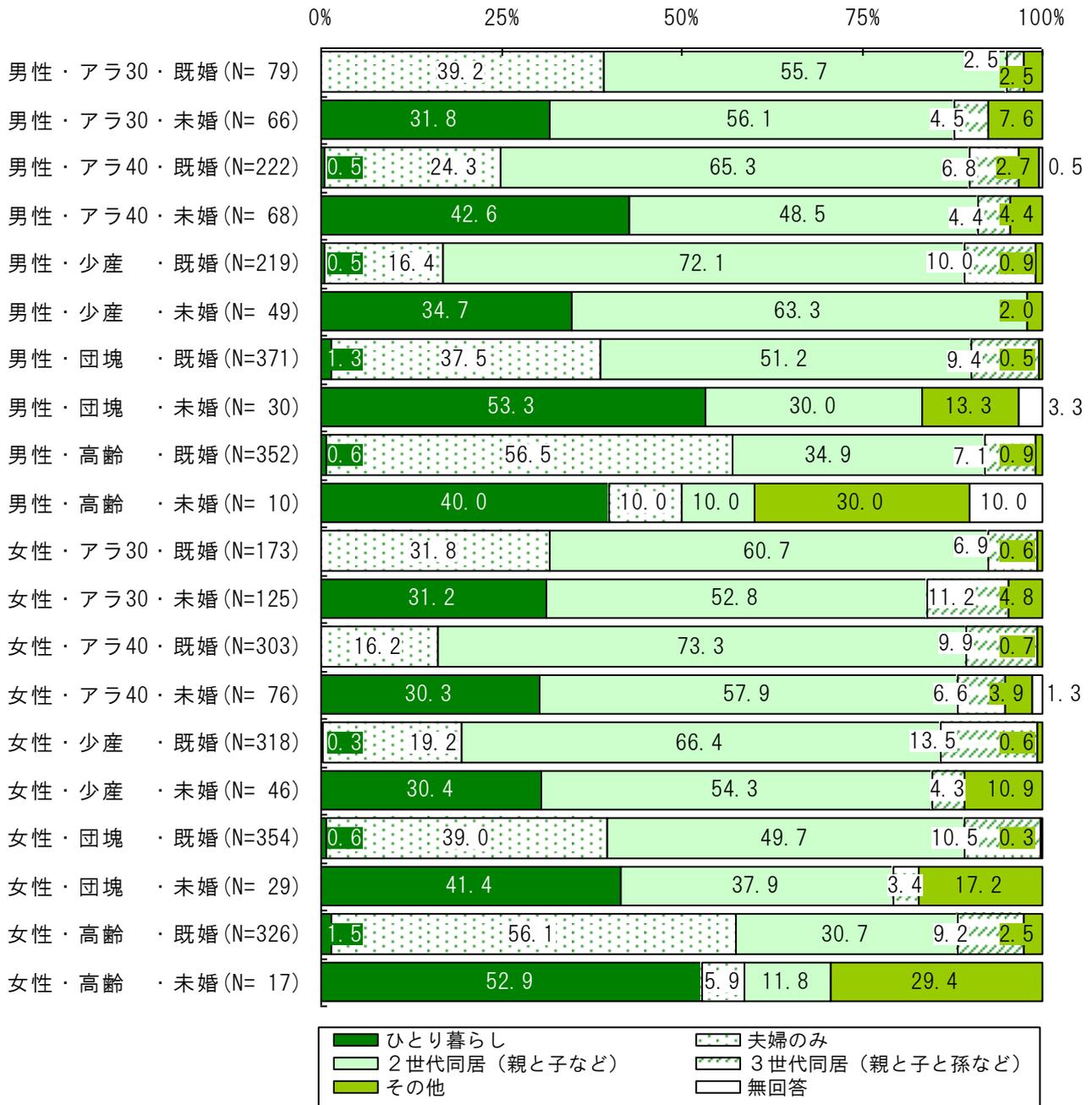
年代別でみると、アラ 30 世代から団塊世代までは「2 世代同居（親と子など）」が多く、少産世代は 66.4%、アラ 40 世代は 66.1%、アラ 30 世代は 57.0%と、いずれも 5 割を超えています。一方、高齢世代は「夫婦のみ」が多く、44.4%となっています。

◆ 居住区別 ◆



居住区別で見ると、いずれの区も「2世代同居(親と子など)」が多く、南区は55.9%、東区は54.8%、中区は52.9%などとなっています。北区は「ひとり暮らし」が13.2%と、他の区よりもやや多くなっています。

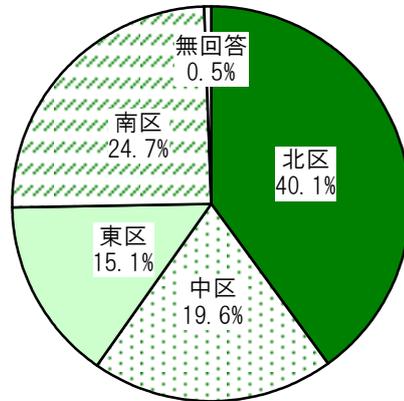
◆ 性・年代・未既婚別 ◆



性・年代・未既婚別でみると、女性の未婚者は年代が上がるほど「ひとり暮らし」が多くなっています。男女ともに既婚の高齢者は「夫婦のみ」が5割を超えています。男性の少産世代の既婚者や、女性のアラ40世代の既婚者は「2世代同居 (親と子など)」が多く、いずれも7割を超えています。

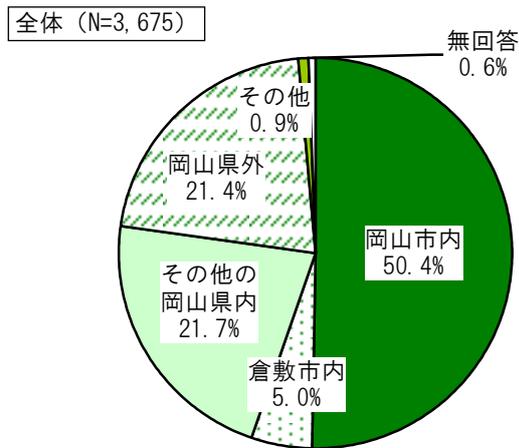
問6 お住まいの区を教えてください。(〇は1つ)

全体 (N=3,675)



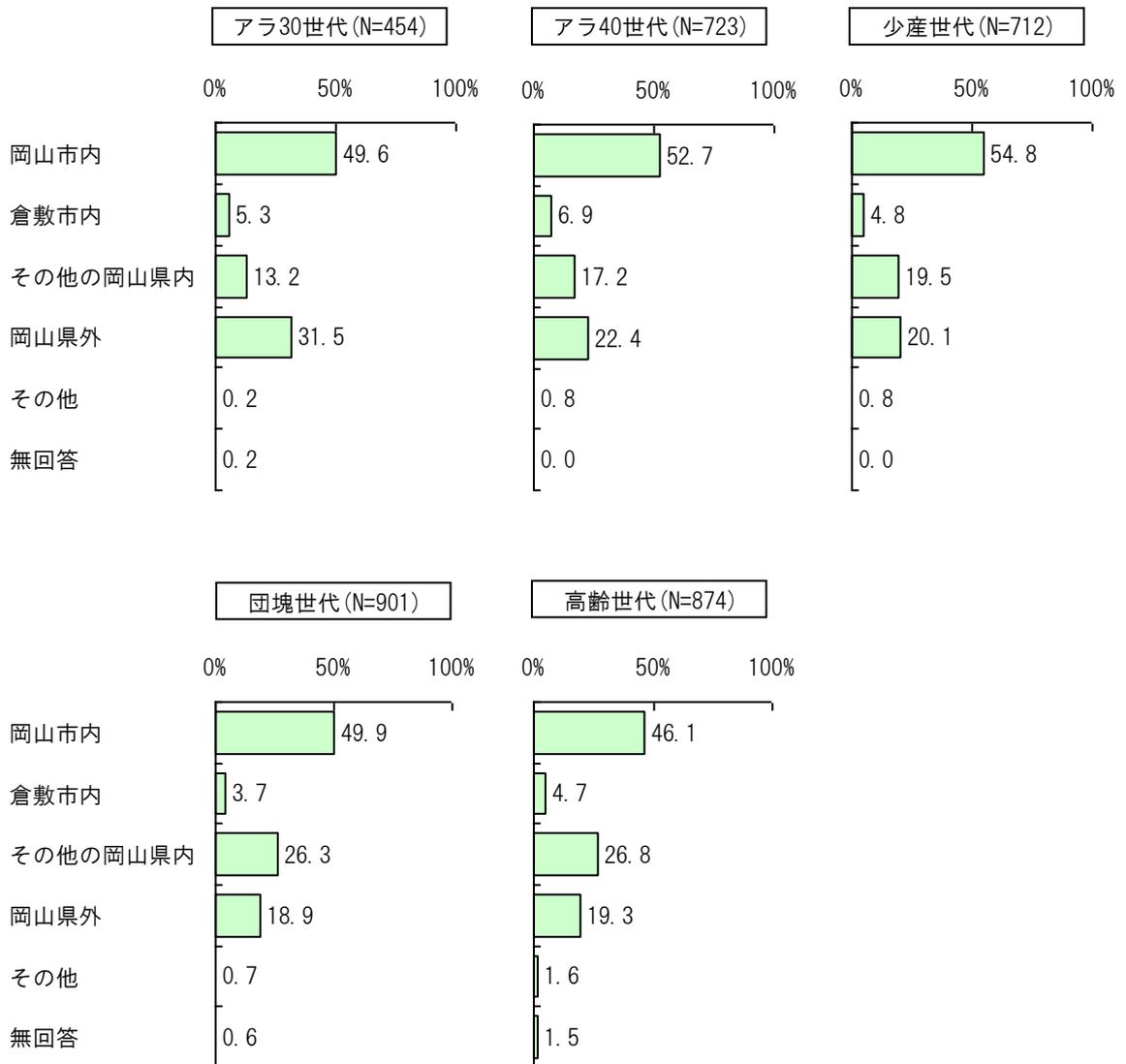
居住区は、「北区」が40.1%と最も多く、次いで「南区」が24.7%、「中区」が19.6%などとなっています。

問7 あなたが小学校時代を過ごした主な場所は次のうちどちらですか。(〇は主なもの1つ)



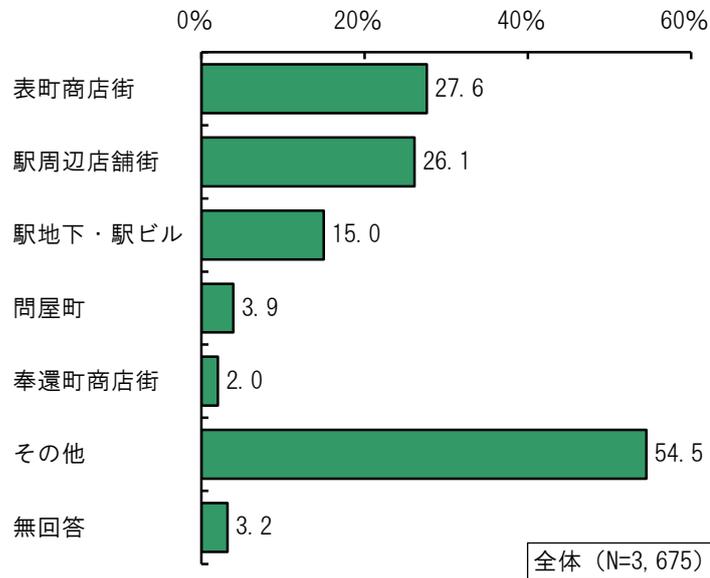
小学校時代を過ごした主な場所は、「岡山市内」が50.4%と最も多く、次いで「その他の岡山県内」が21.7%、「岡山県外」が21.4%などとなっています。

◆ 年代別 ◆



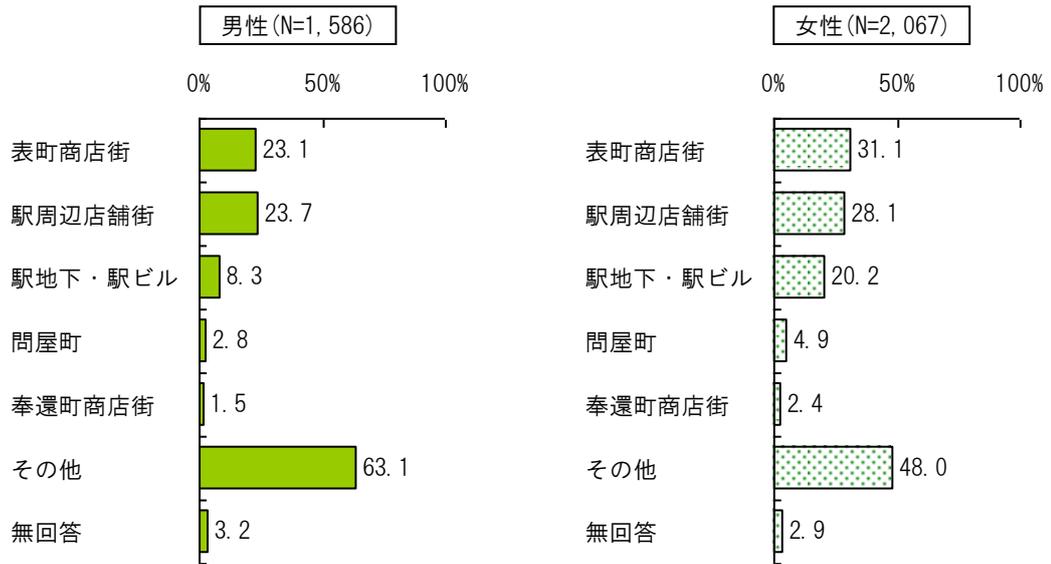
年代別で見ると、いずれの年代も「岡山市内」が多く、少産世代は54.8%、アラ40世代は52.7%、団塊世代は49.9%などとなっています。「その他の岡山県内」は、年代が上がるほど多く、高齢世代は26.8%、団塊世代は26.3%と、いずれも2割を超えています。「岡山県外」はアラ30世代が31.5%と他の年代よりも多くなっています。

問8 あなたは休日にショッピング（買い物）に行く際、どの商店街で買うことが多いですか。
(〇は2つ)



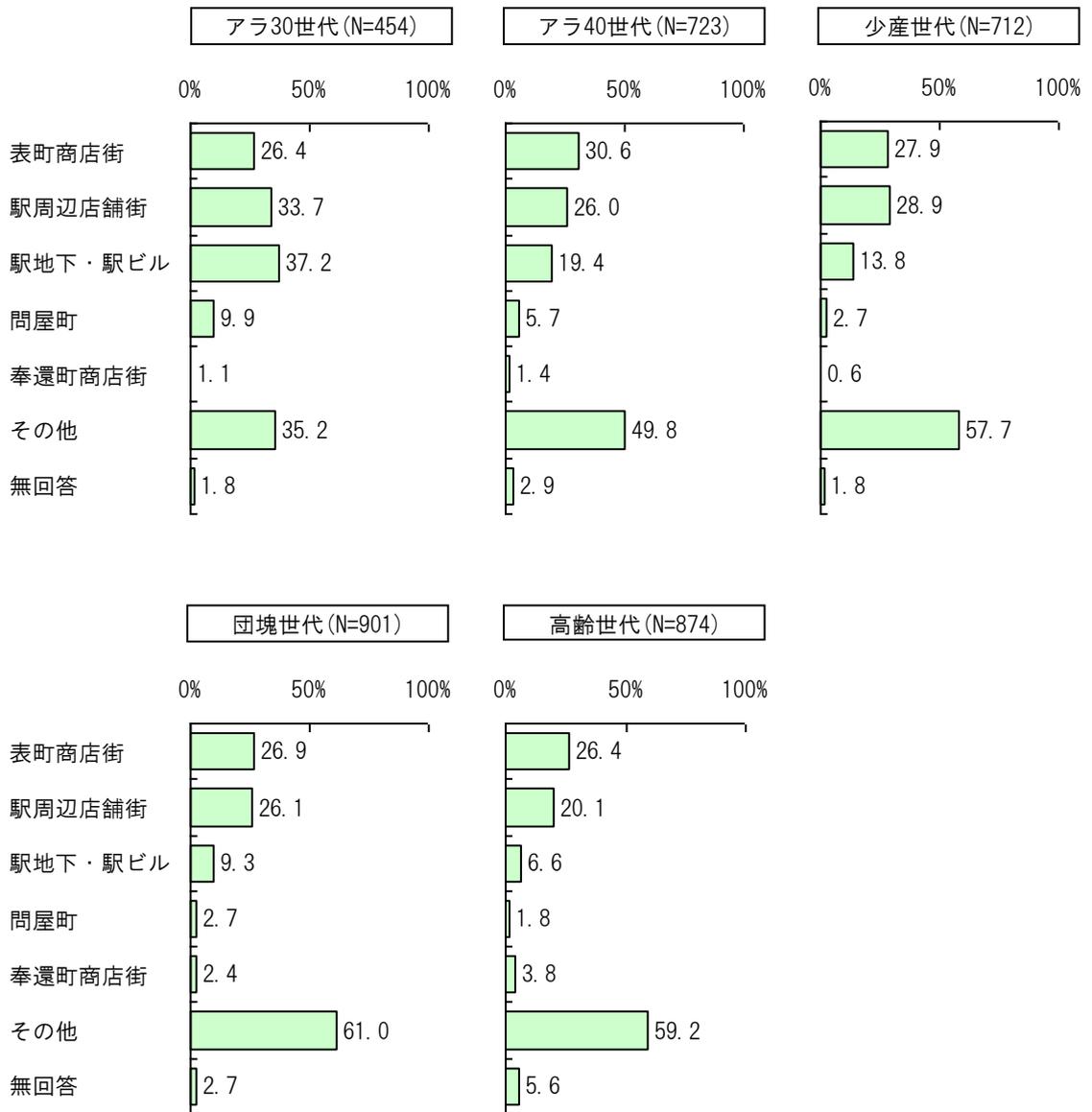
休日主に買い物をする商店街は、「表町商店街」が 27.6%と最も多く、次いで「駅周辺店舗街」が 26.1%、「駅地下・駅ビル」が 15.0%などとなっています。「その他」の内訳については、“近所や地元のスーパーに行く”や“イオン”などの回答が多くなっています。

◆ 性別 ◆



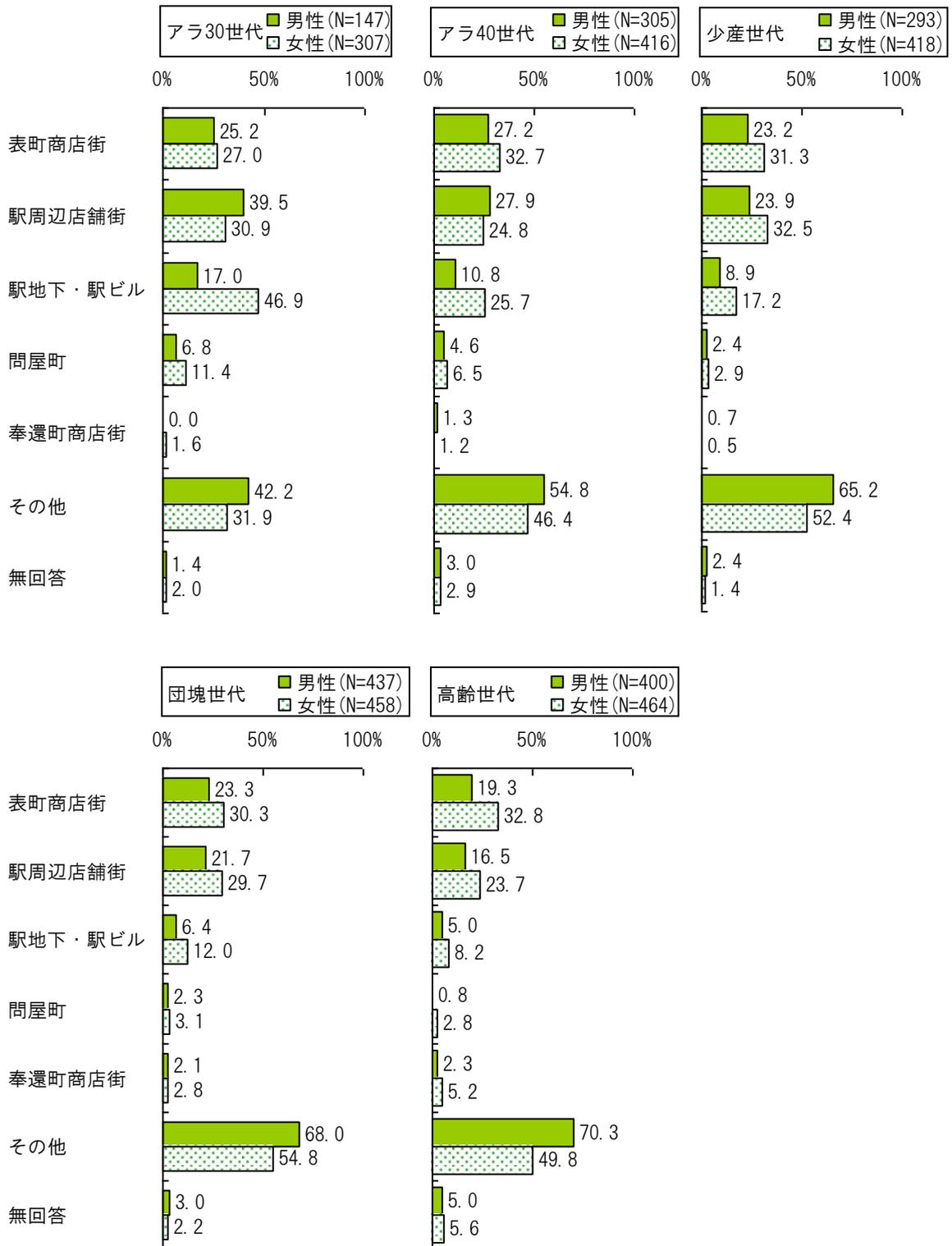
性別でみると、商店街で買い物をする人は女性が多く、「表町商店街」は 31.1%、「駅周辺店舗街」は 28.1%、「駅地下・駅ビル」は 20.2%などとなっています。「駅地下・駅ビル」については、男性の 8.3%よりも 11.9 ポイント高くなっています。

◆ 年代別 ◆



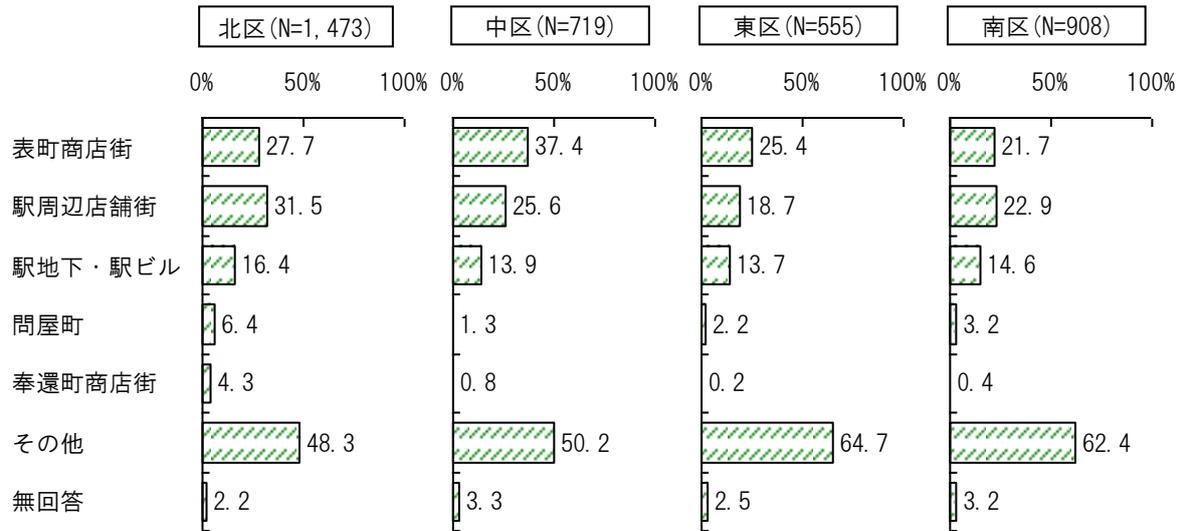
年代別でみると、「表町商店街」はアラ 40 世代が 30.6%と最も多く、次いで少産世代が 27.9%、団塊世代が 26.9%などとなっています。「駅周辺店舗街」はアラ 30 世代が 33.7%と、他の世代よりも多くなっています。「駅地下・駅ビル」や「問屋町」は年代が下がるほど多くなる傾向があります。

◆ 性・年代別 ◆



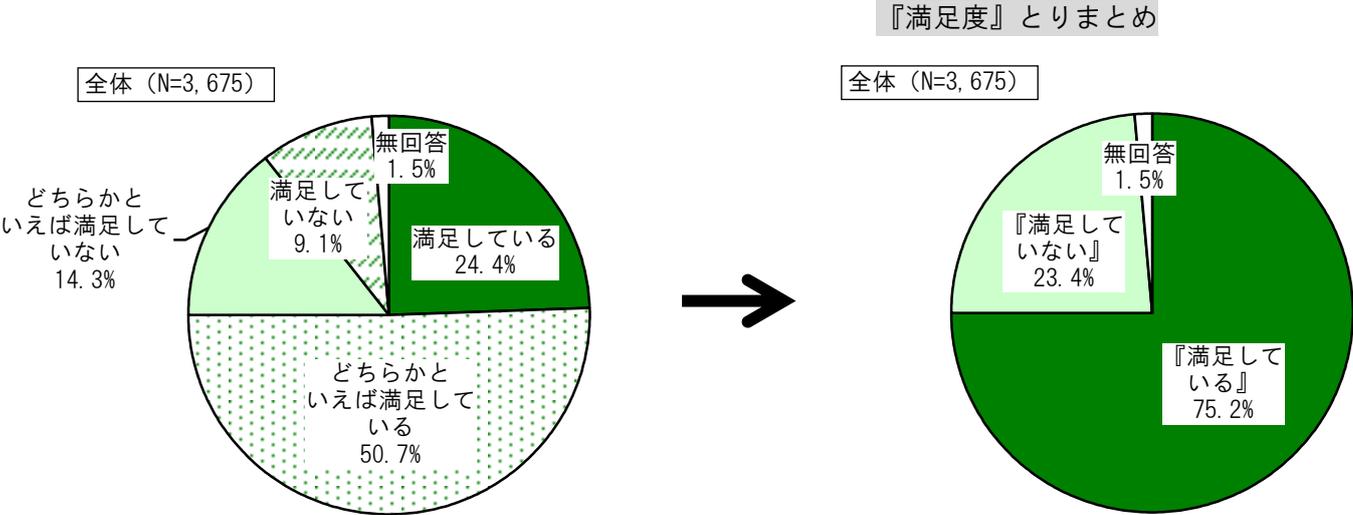
性・年代別でみると、「表町商店街」は女性のアラ40世代から高齢世代までが多く、いずれも3割を超えています。「駅周辺店舗街」は、男性のアラ30世代が39.5%と最も多く、次いで女性の少産世代が32.5%、女性のアラ30世代が30.9%などとなっています。「駅地下・駅ビル」は女性のアラ30世代が46.9%と多くなっています。

◆ 居住区別 ◆



居住区別でみると、中区や東区は「表町商店街」が多くなっています。北区は「駅周辺店舗街」が多くなっています。南区は「表町商店街」と「駅周辺店舗街」が同程度となっています。

問9 あなたは、現在の生活に満足していますか。(〇は1つ)

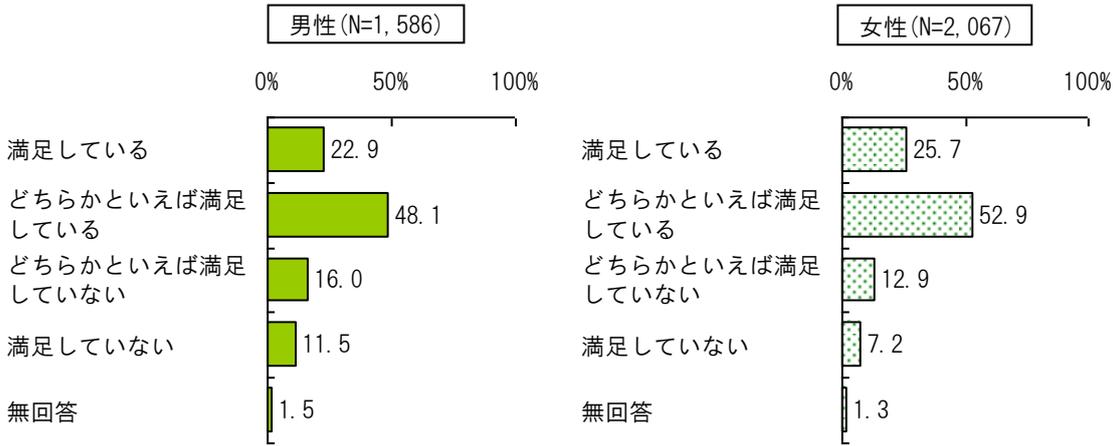


※百分率は小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならないことがあります。

生活の満足度は、「どちらかといえば満足している」が50.7%と最も多く、次いで「満足している」が24.4%、「どちらかといえば満足していない」が14.3%などとなっています。

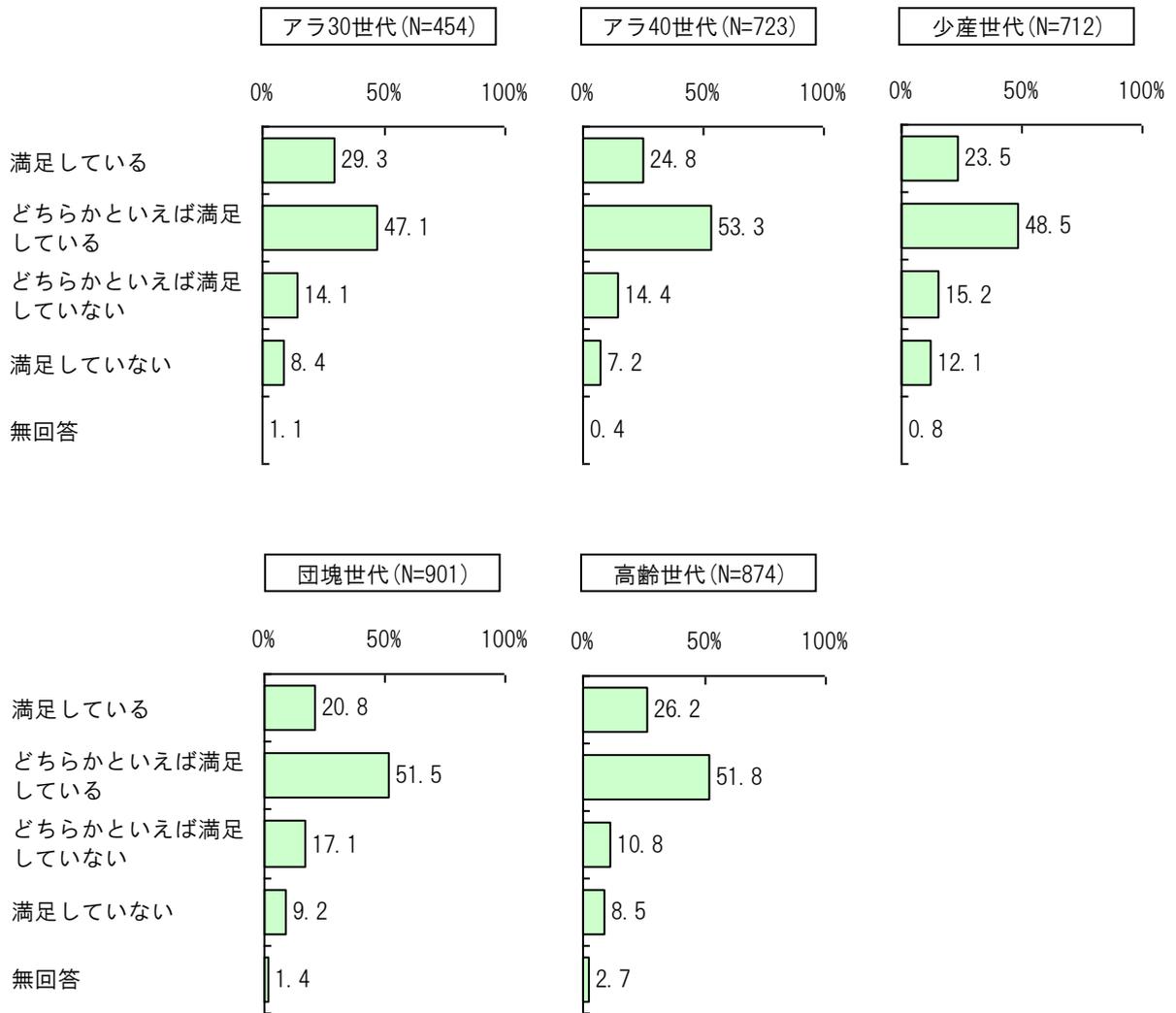
「満足している」の24.4%と、「どちらかといえば満足している」の50.7%を合わせた、『満足している』は75.2%となっています。

◆ 性別 ◆



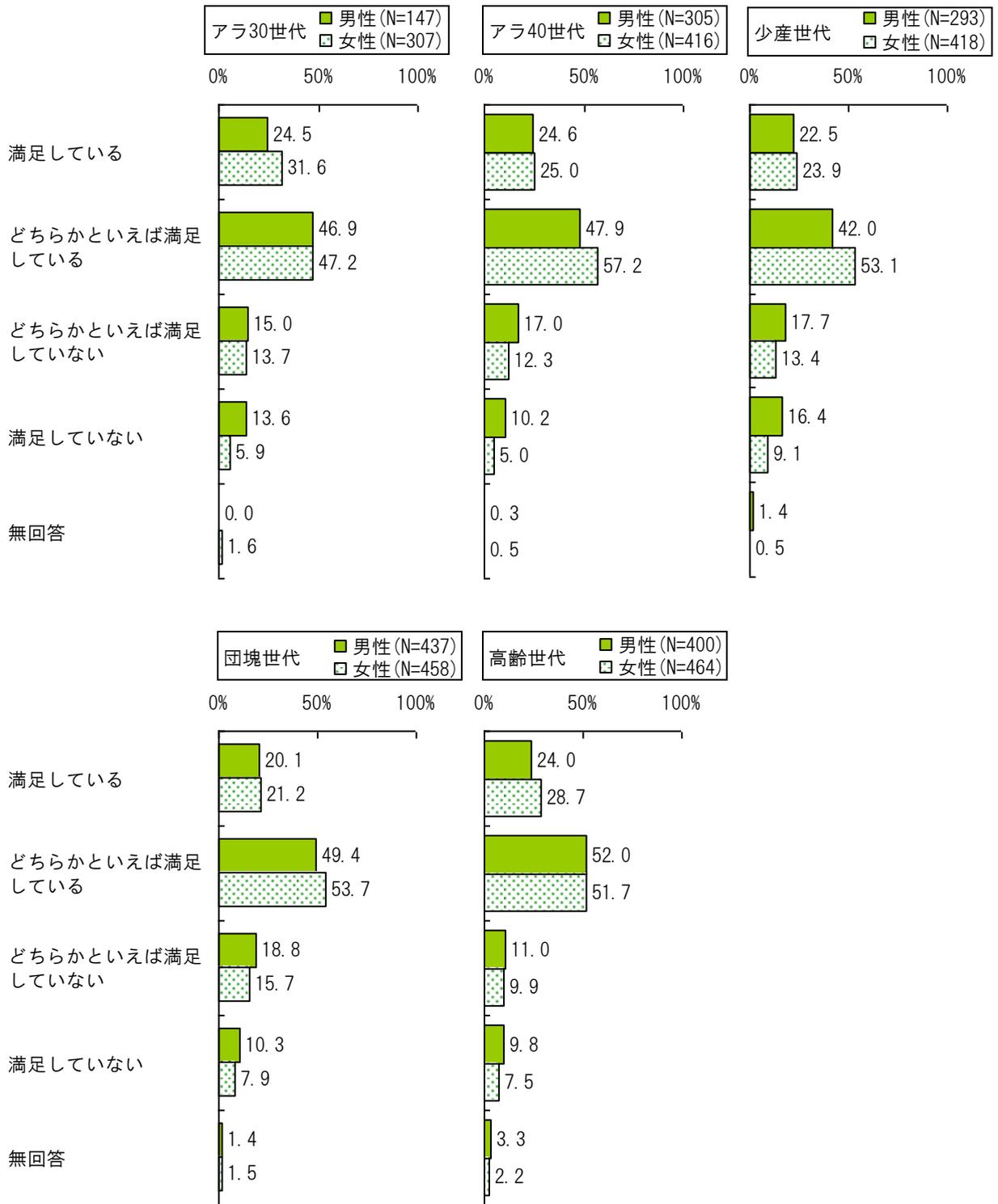
性別による大きな差異はみられません。

◆ 年代別 ◆



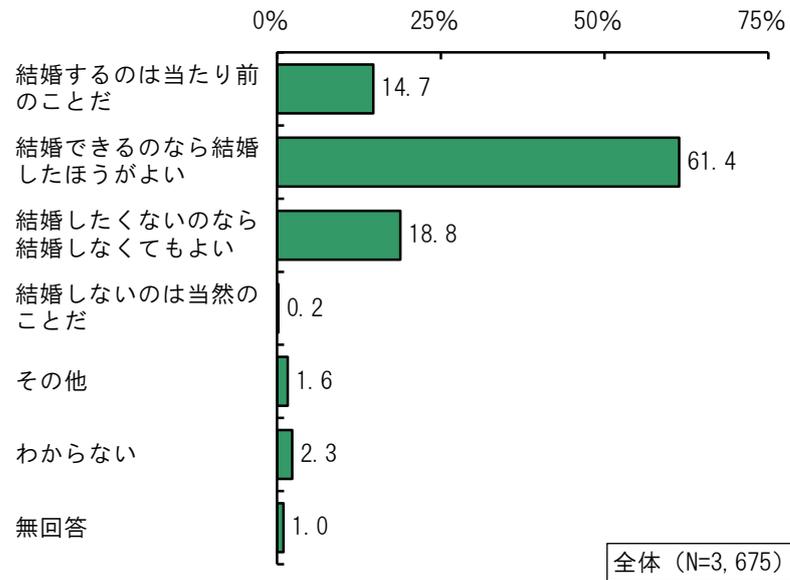
年代別で見ると、いずれの年代も「どちらかといえば満足している」が多く、アラ 40 世代は 53.3%、高齢世代は 51.8%、団塊世代は 51.5%などとなっています。

◆ 性・年代別 ◆



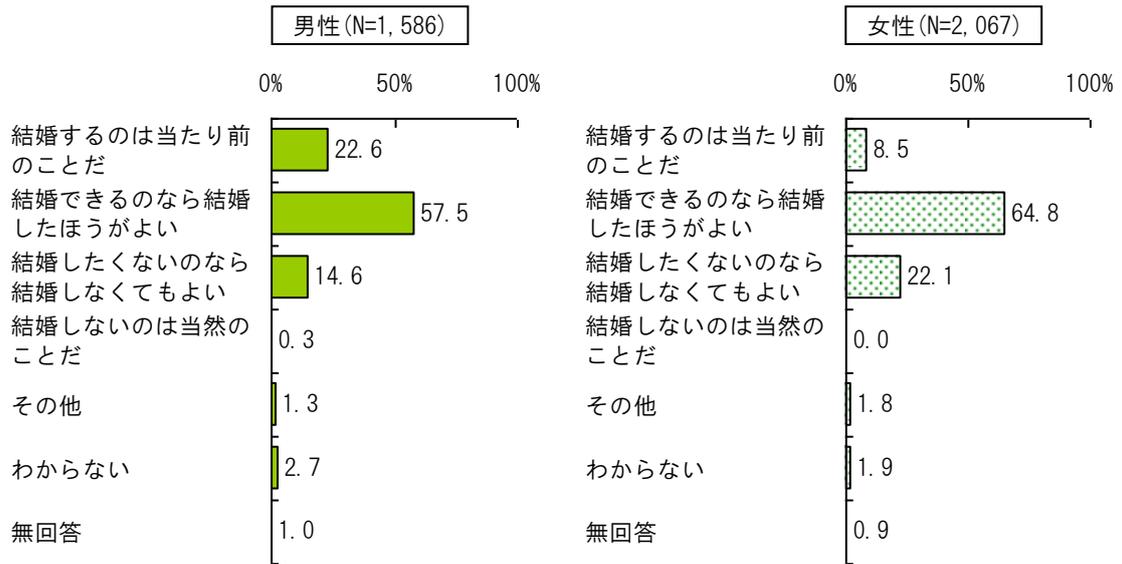
性・年代別でみると、少産世代は「どちらかといえば満足している」が女性は53.1%、男性は42.0%と、女性のほうが11.1ポイント高くなっています。アラ40世代は女性が57.2%、男性が47.9%と、女性のほうが9.3ポイント高くなっています。

問10 あなたは、結婚についてどのように考えていますか。(〇は1つ)



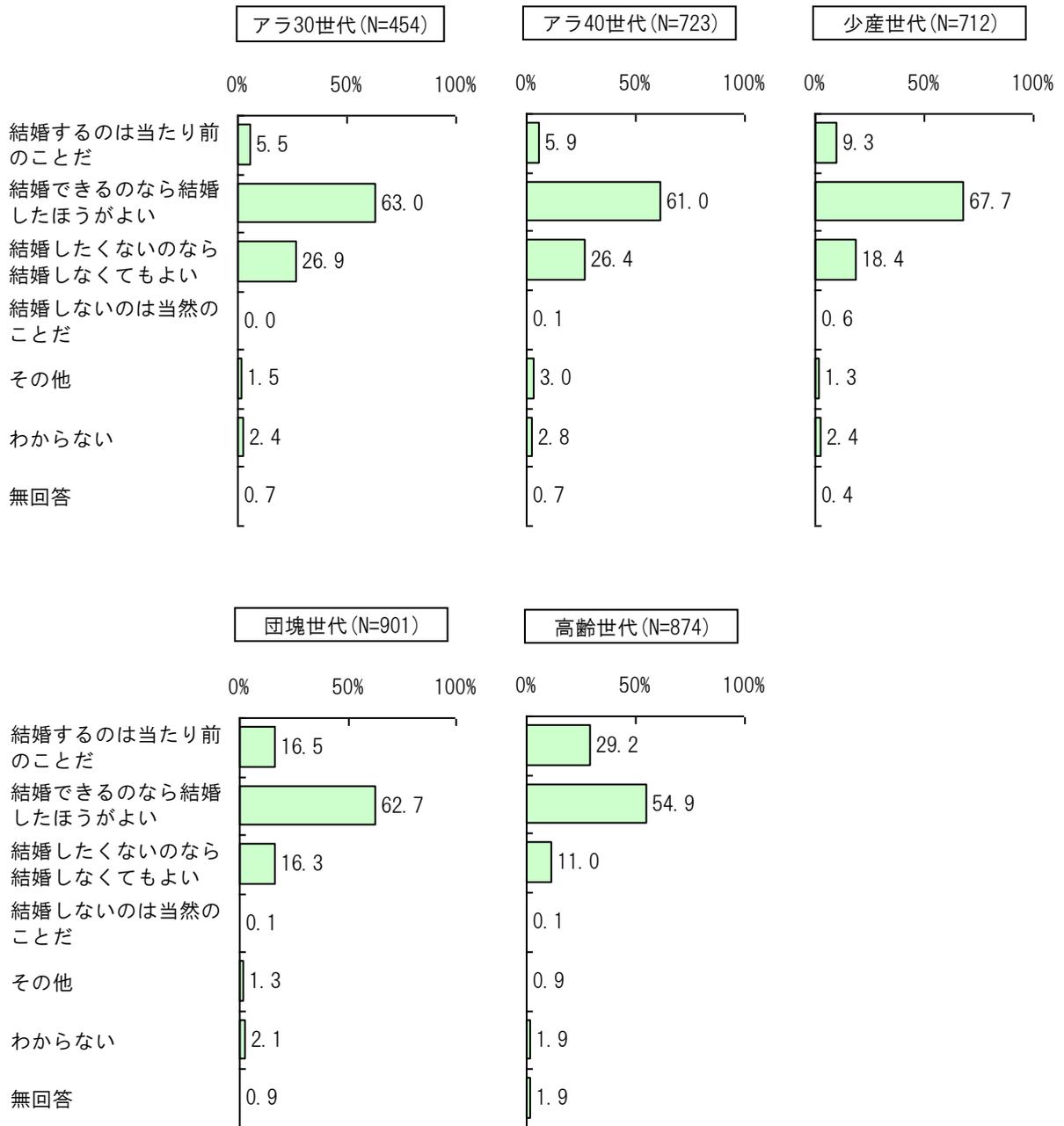
結婚観は、「結婚できるのなら結婚したほうがよい」が 61.4%と最も多く、次いで「結婚したくないのなら結婚しなくてもよい」が 18.8%、「結婚するのは当たり前なことだ」が 14.7%などとなっています。

◆ 性別 ◆



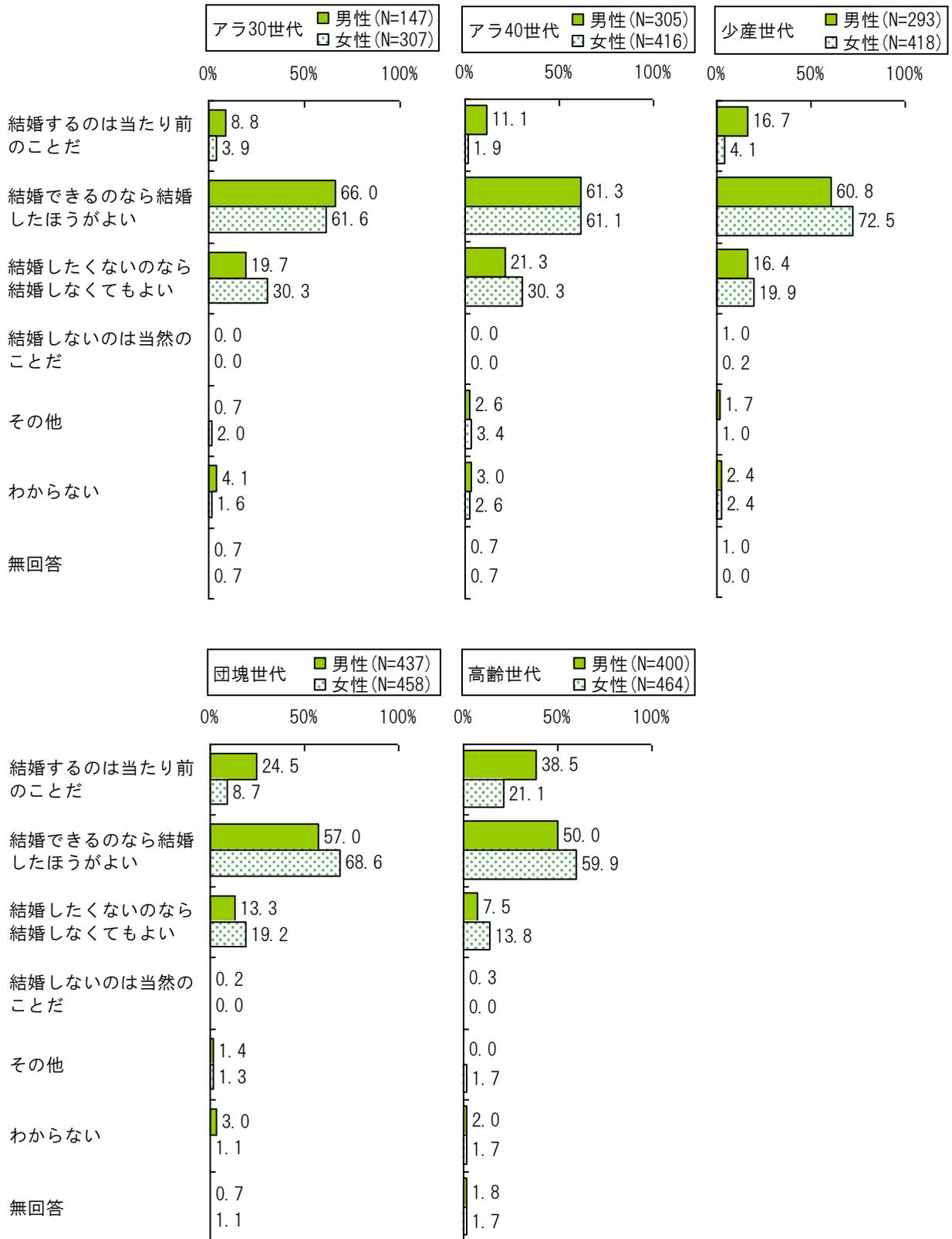
性別でみると、男性は「結婚するのは当たり前なことだ」が 22.6%と、女性の 8.5%よりも 14.1ポイント高くなっています。

◆ 年代別 ◆



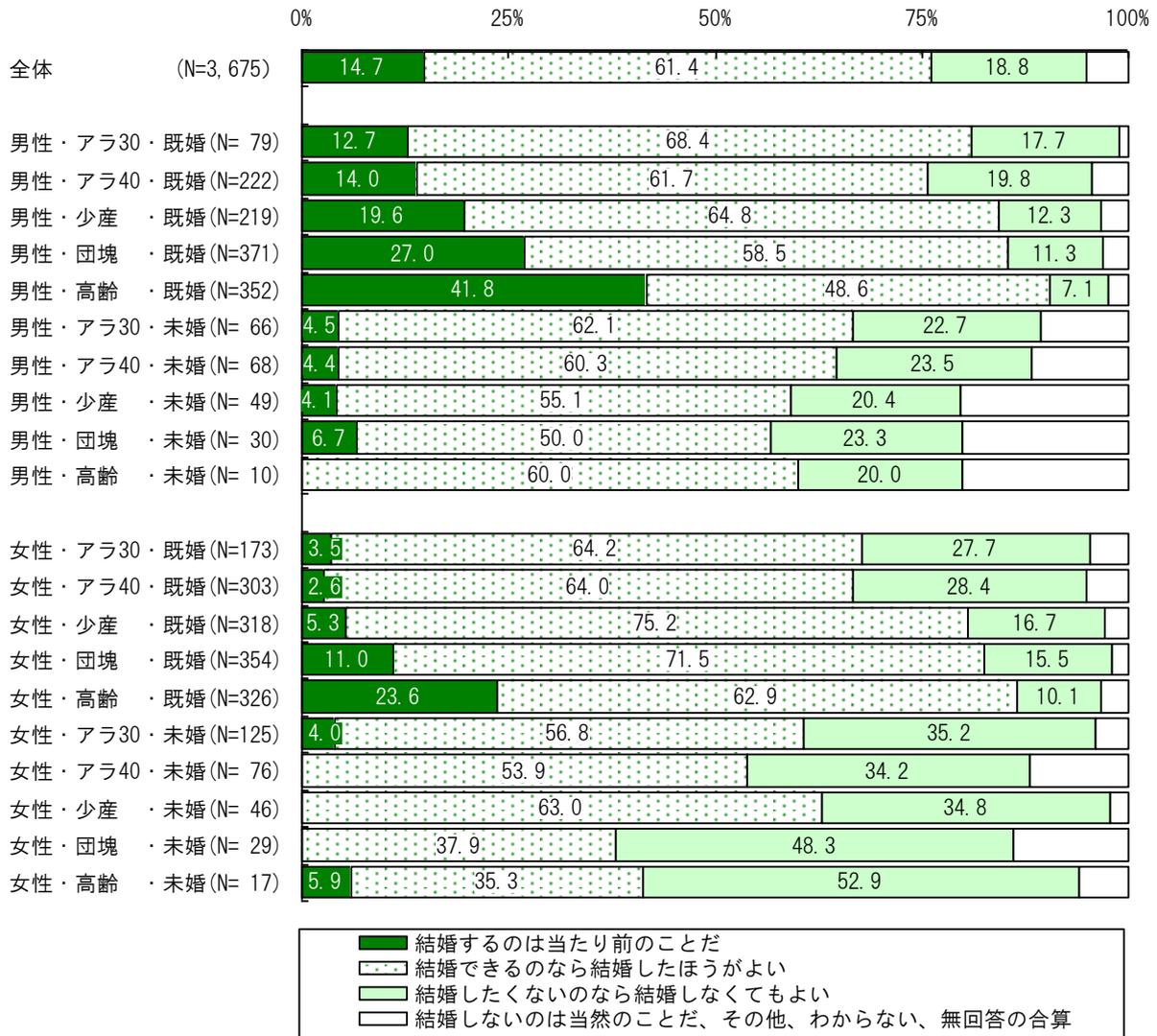
年代別でみると、年代が下がるほど「結婚したくないのなら結婚しなくてもよい」が多く、アラ30世代は26.9%、アラ40世代は26.4%、少産世代は18.4%などとなっています。「結婚するのは当たり前のことだ」は年代が上がるほど多く、高齢世代は29.2%、団塊世代は16.5%、少産世代は9.3%などとなっています。

◆ 性・年代別 ◆

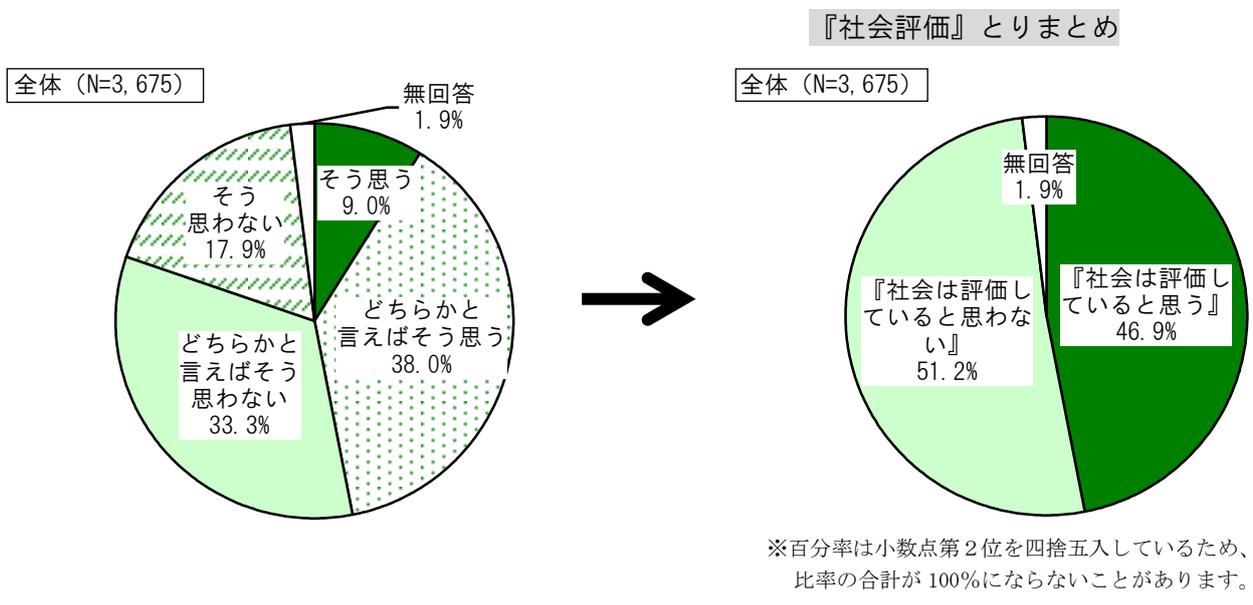


性・年代別で見ると、「結婚したくないのなら結婚しなくてもよい」は女性のアラ30世代やアラ40世代に多く、いずれも3割を占めています。男女ともに「結婚するのは当たり前のことだ」は年代が上がるほど多く、男性の高齢世代は3割を超えています。

◆ 性・年代・未既婚別 ◆



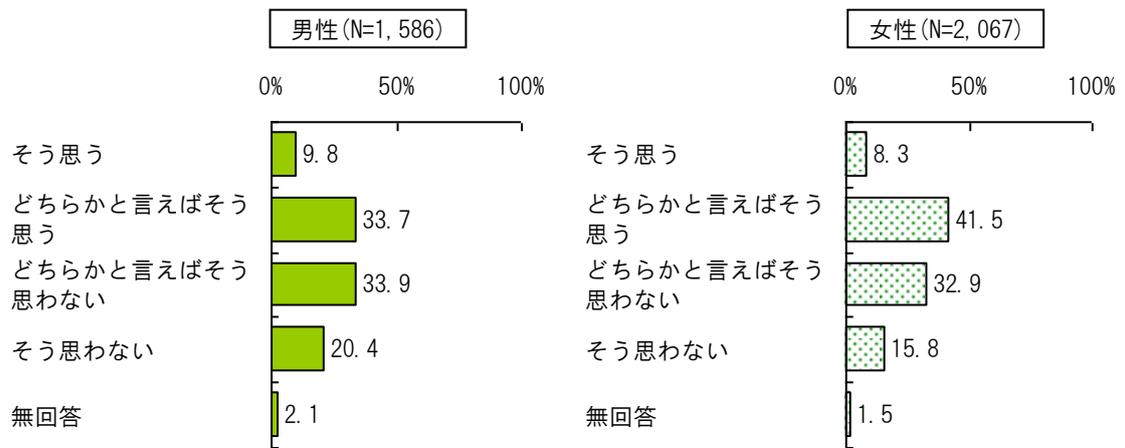
問11 「子どもを産み育てることを、今の社会は十分に評価していると思いますか。
(〇は1つ)



「子どもを産み育てることを社会が評価していると思うかは、「どちらかと言えばそう思う」が38.0%と最も多く、次いで「どちらかと言えばそう思わない」が33.3%、「そう思わない」が17.9%などとなっています。

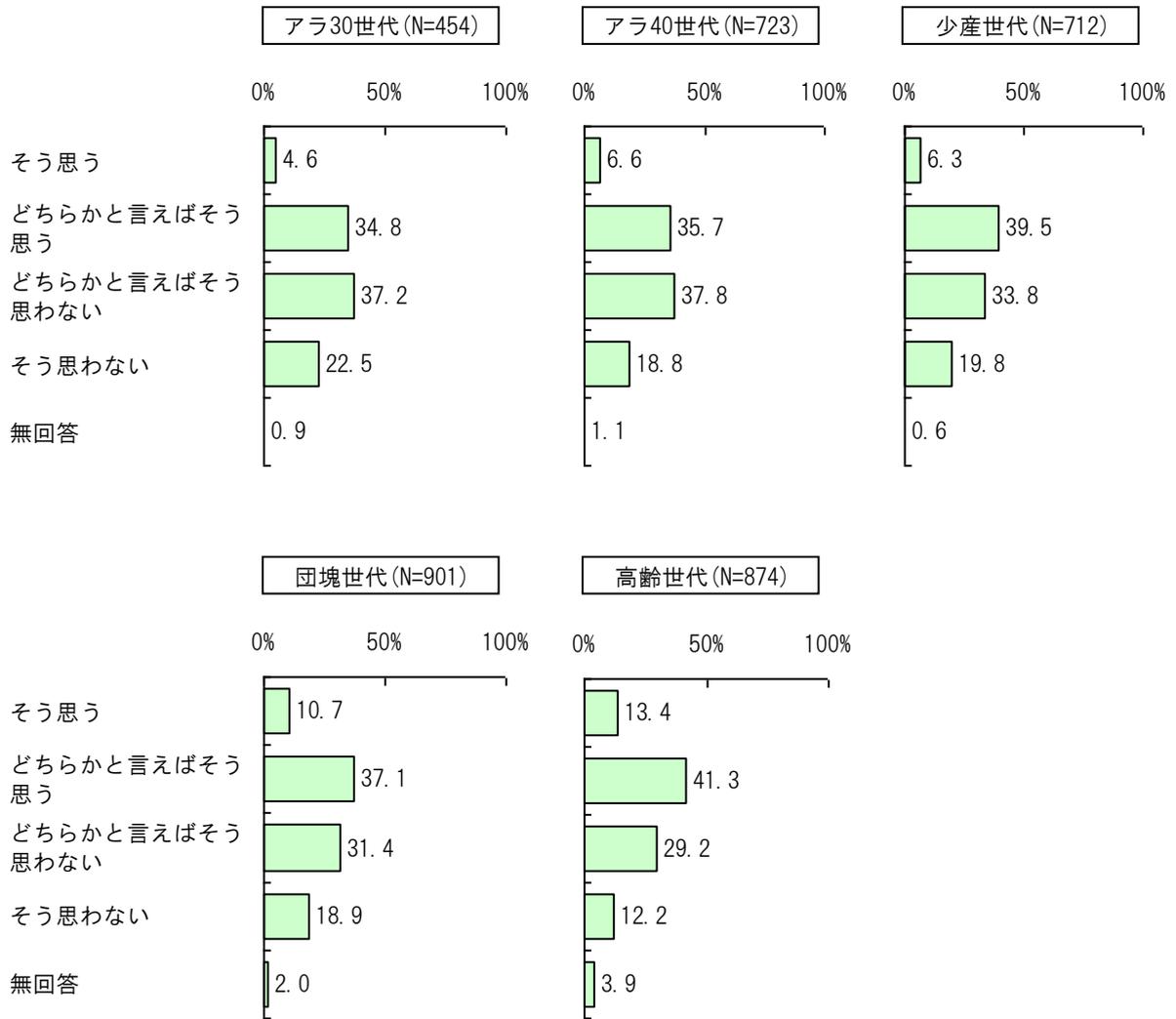
「どちらかと言えばそう思わない」の33.3%と、「そう思わない」の17.9%を合わせた『社会は評価していると思わない』は51.2%と半数を占めています。

◆ 性別 ◆



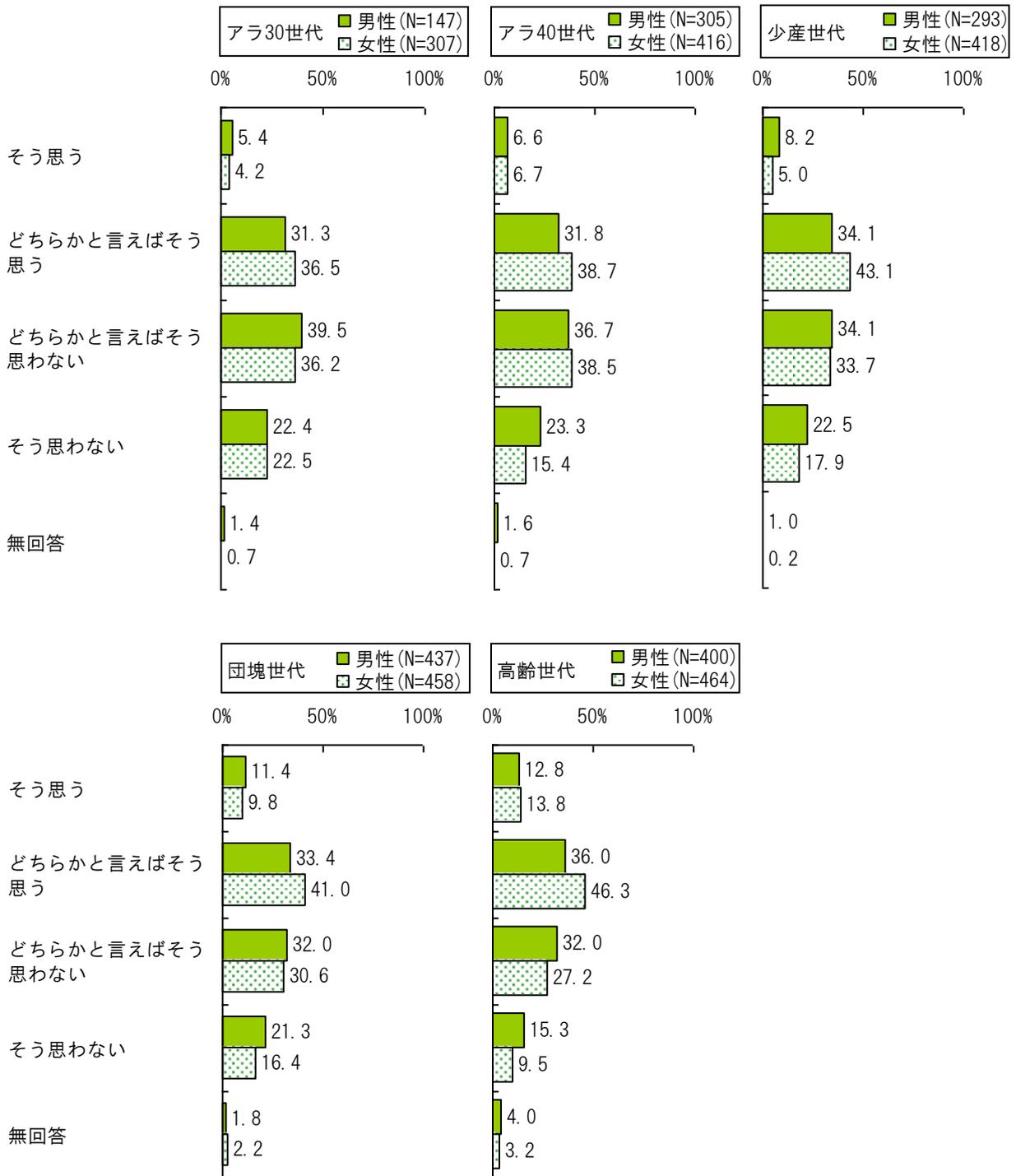
性別でみると、男性は「どちらかと言えばそう思う」と「どちらかと言えばそう思わない」が同程度となっています。一方、女性は「どちらかと言えばそう思う」が41.5%と多くなっています。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、少産世代から高齢世代までは「どちらかと言えばそう思う」が多く、高齢世代は41.3%、少産世代は39.5%、団塊世代は37.1%となっています。「どちらかと言えばそう思わない」は年代が下がるほど多い傾向があり、アラ40世代は37.8%、アラ30世代は37.2%となっています。

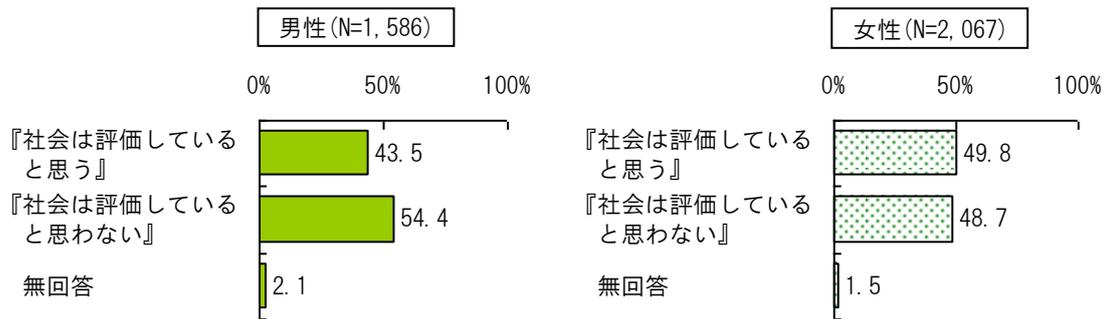
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別で見ると、男性のアラ30世代から団塊世代までや、女性のアラ30世代は「そう思わない」が2割を超えています。

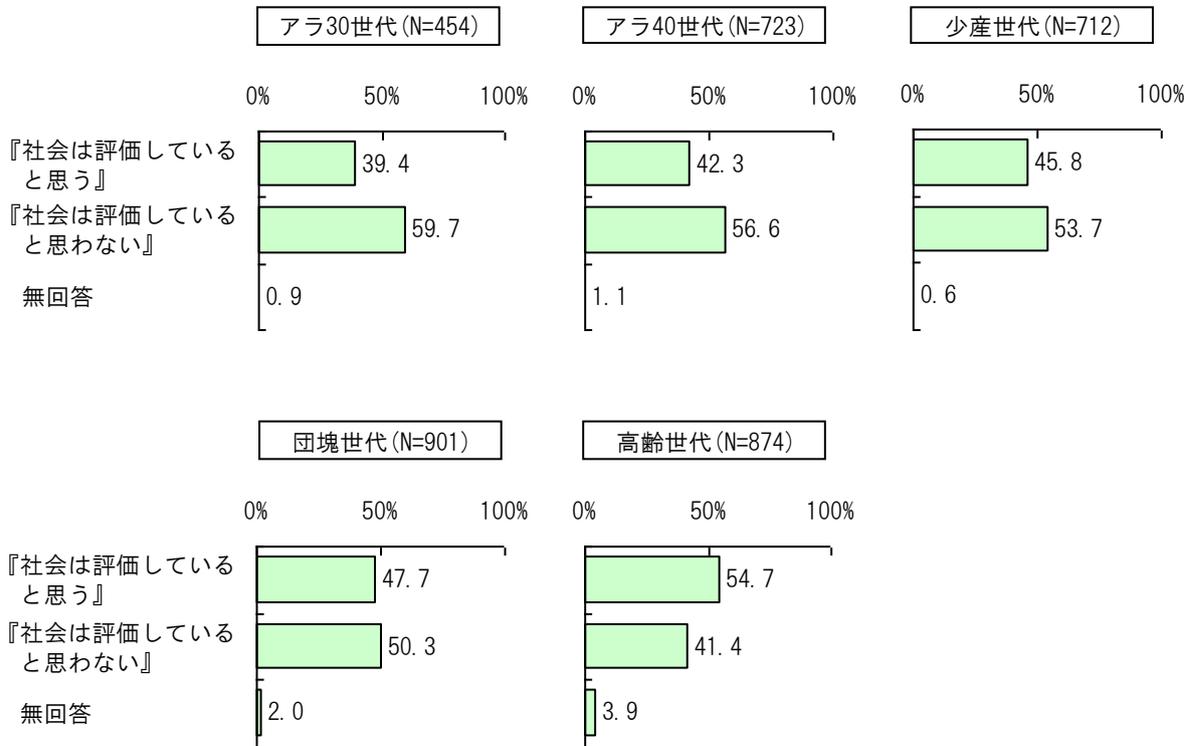
『社会評価』 とりまとめ

◆ 性別 ◆



性別でみると、男性は『社会は評価していると思わない』が5割を超えています。

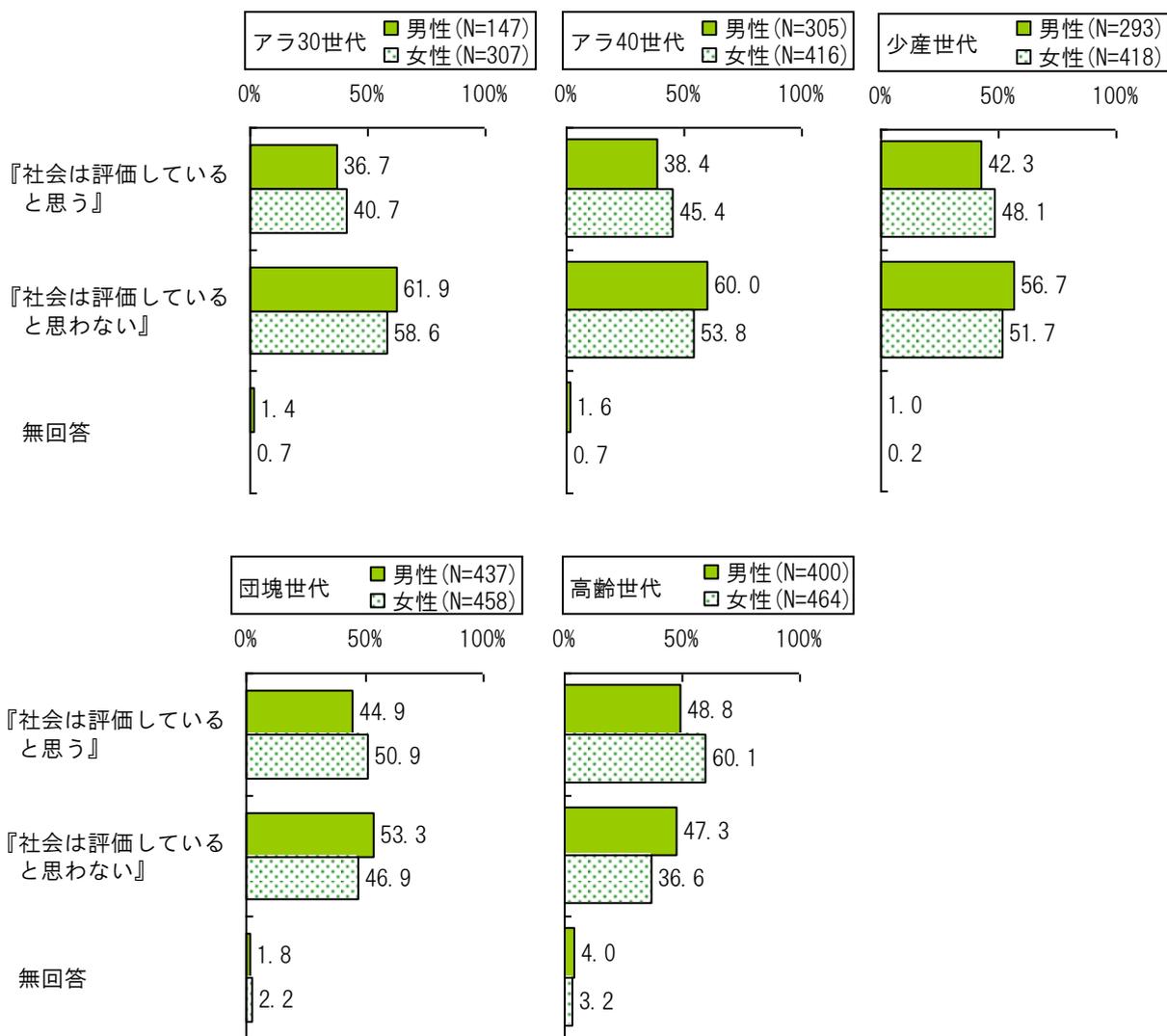
◆ 年代別 ◆



年代別でみると、年代が下がるほど『社会は評価していると思わない』が多くなっています。一方、『社会は評価していると思う』は年代が上がるほど多くなっています。

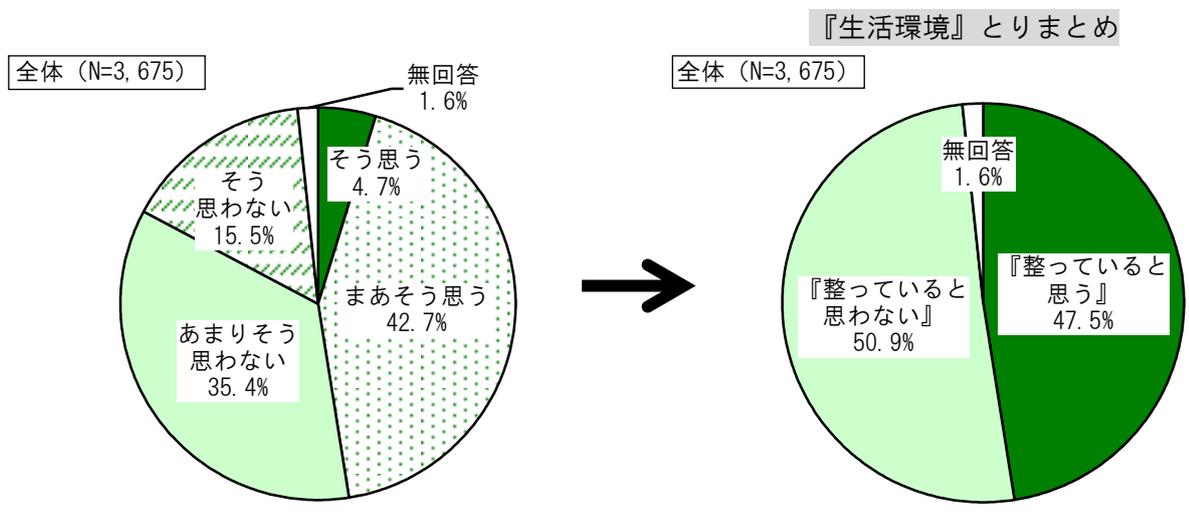
『社会評価』 とりまとめ

◆ 性・年代別 ◆



性・年代別で見ると、男女ともに年代が下がるほど『社会は評価していると思わない』が多く、男性のアラ30世代は61.9%、男性のアラ40世代は60.0%、女性のアラ30世代は58.6%などとなっています。

問12 岡山市は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が整っていると思いますか。(〇は1つ)

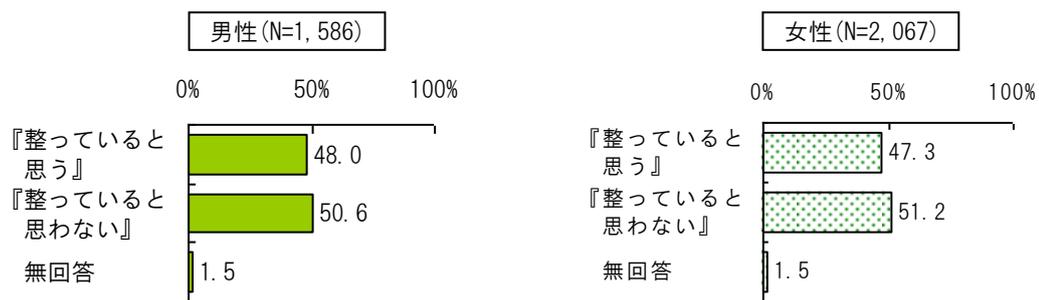


※百分率は小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならないことがあります。

岡山市は、暮らし続けるための環境が整っていると思うかは、「まあそう思う」が 42.7%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が 35.4%、「そう思わない」が 15.5%などとなっています。

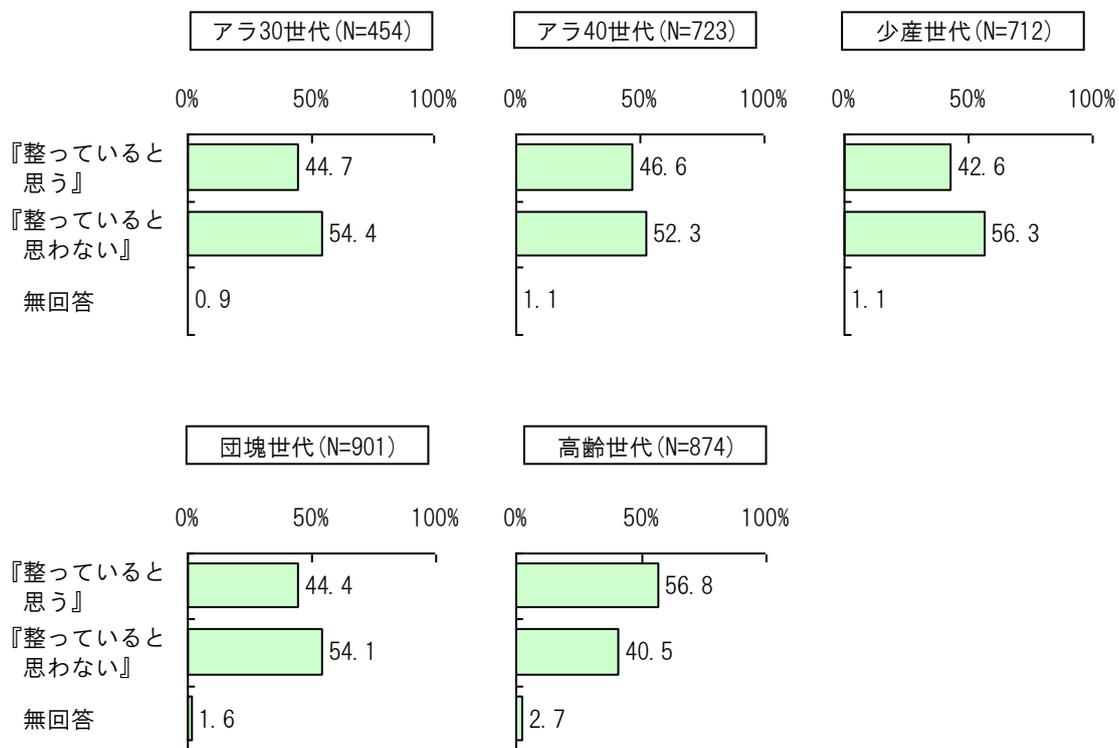
「あまりそう思わない」の 35.4%と、「そう思わない」の 15.5%を合わせた『整っていない』は 50.9%と半数を占めています。

◆ 性別 ◆



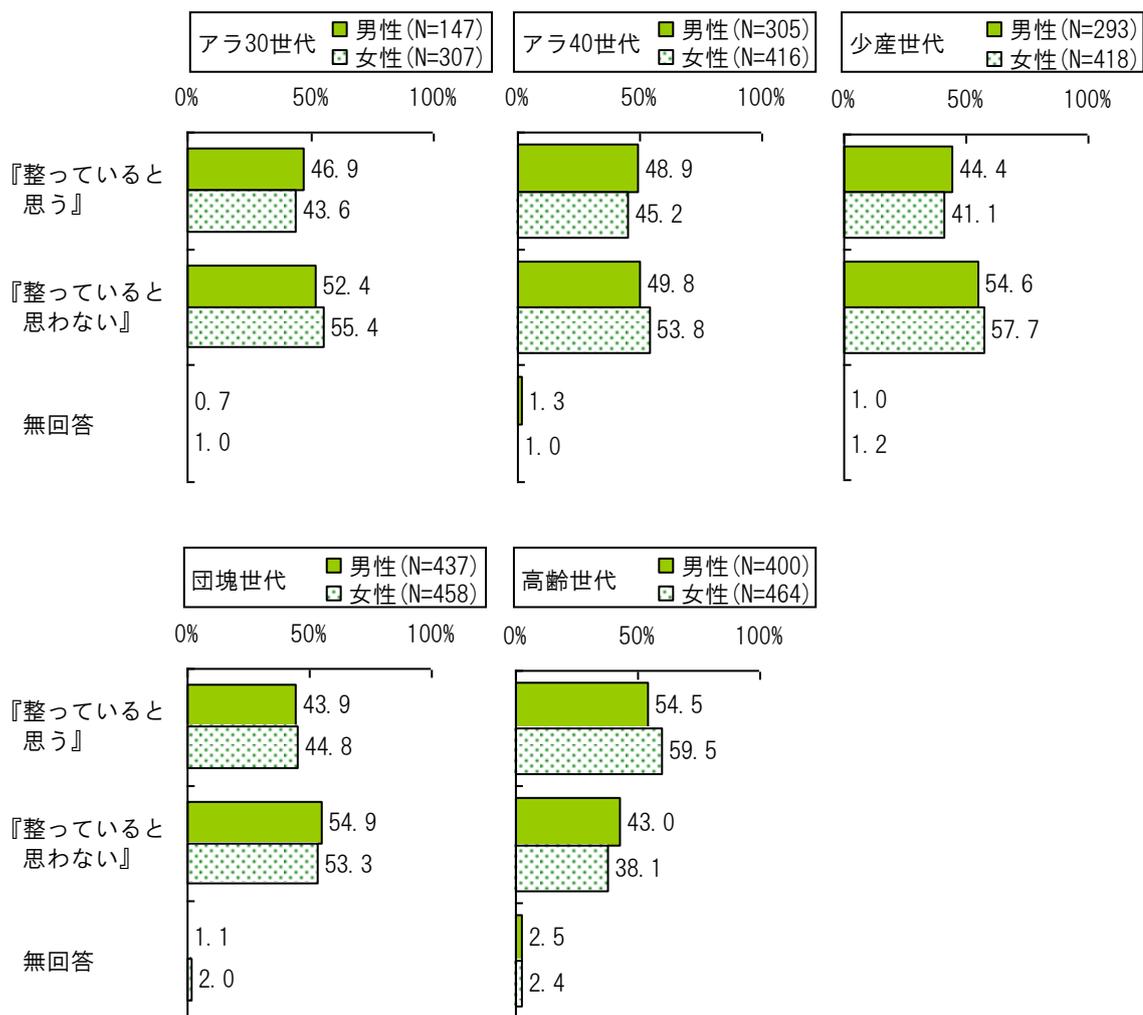
性別による大きな差異はみられません。

◆ 年代別 ◆



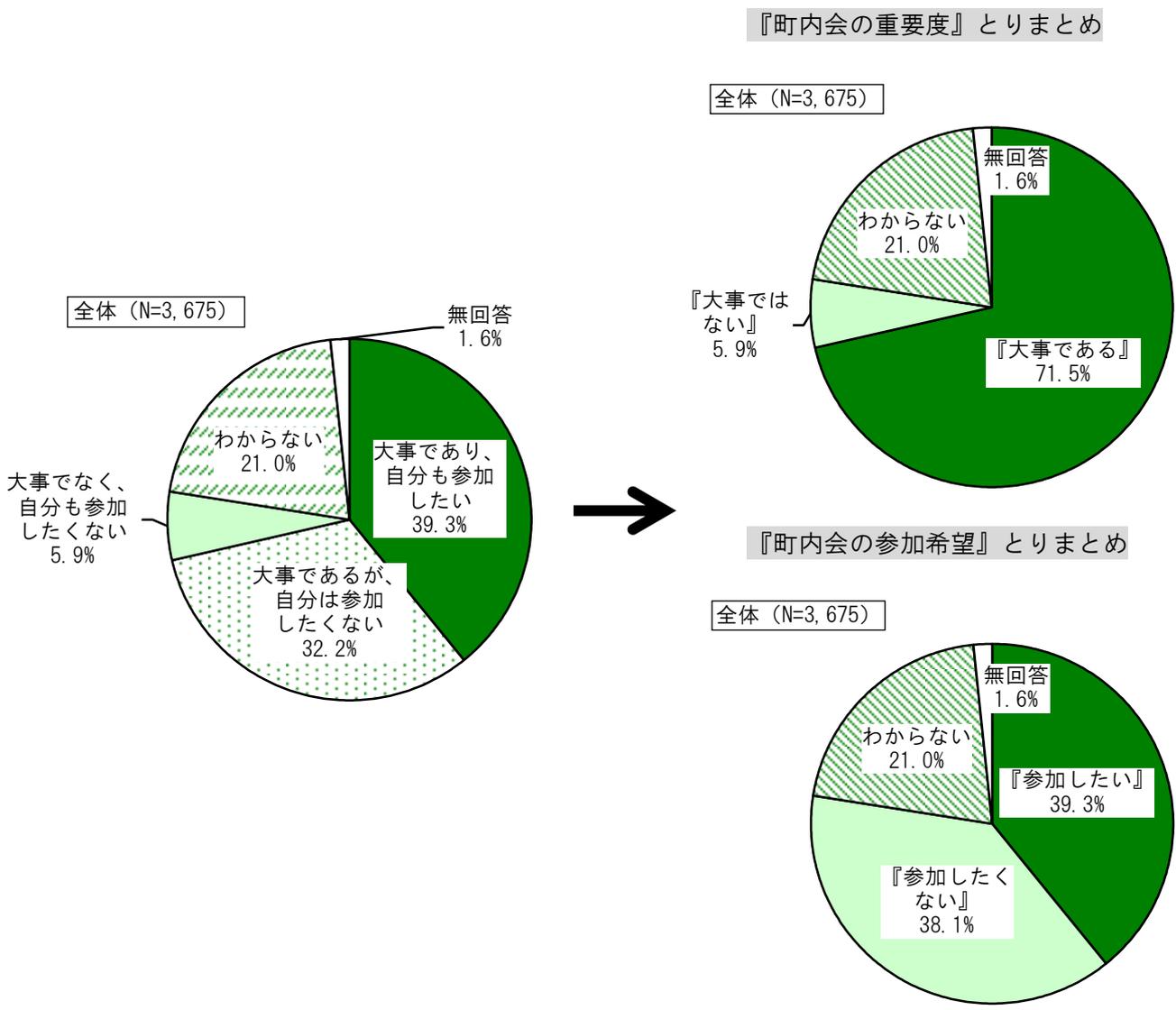
年代別でみると、アラ30世代から団塊世代までは『整っていないと思う』が多く、いずれも5割を超えています。一方、高齢世代は『整っていると思う』が多く、56.8%となっています。少産世代や高齢世代は、『整っていると思う』と『整っていないと思う』のポイント差が、それぞれ10ポイント以上あります。

◆ 性・年代別 ◆



性・年代別で見ると、男女ともにアラ 30 世代から団塊世代までは『整っていないと思わない』が多く、いずれも 5 割を占めています。一方、男女ともに高齢世代は『整っていると思う』が多く、女性は 59.5%、男性は 54.5%と、いずれも 5 割を超えています。

問13 岡山市の町内会は活動が盛んであると言われていますが、あなたは町内会についてどう思いますか。(〇は1つ)



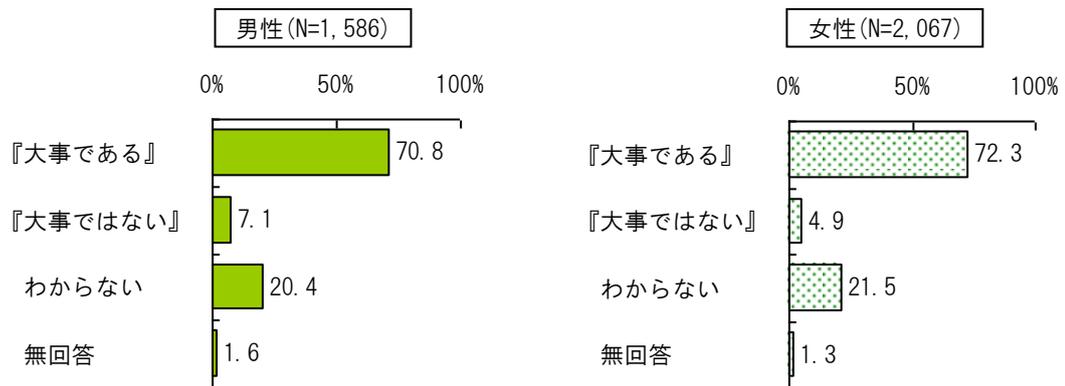
町内会についての考えは、「大事であり、自分も参加したい」が 39.3%と最も多く、次いで「大事であるが、自分は参加したくない」が 32.2%、「わからない」が 21.0%などとなっています。

町内会の重要度は、「大事であり、自分も参加したい」の 39.3%と、「大事であるが、自分は参加したくない」の 32.2%を合わせた『大事である』が 71.5%となっています。

町内会の参加希望は、『参加したい』が 39.3%、「大事であるが、自分は参加したくない」の 32.2%と「大事でなく、自分も参加したくない」の 5.9%を合わせた『参加したくない』が 38.1%と、いずれも同程度になっています。

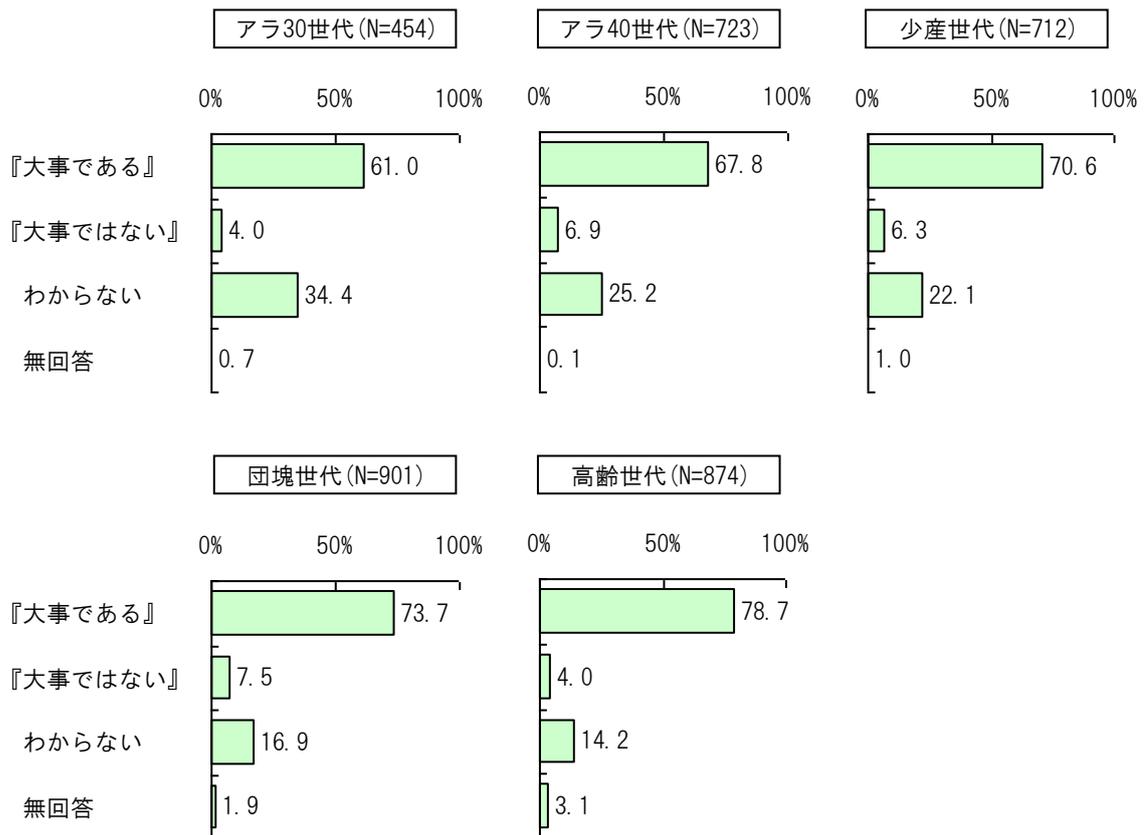
『町内会の重要度』とりまとめ

◆ 性別 ◆



性別による大きな差異はみられません。

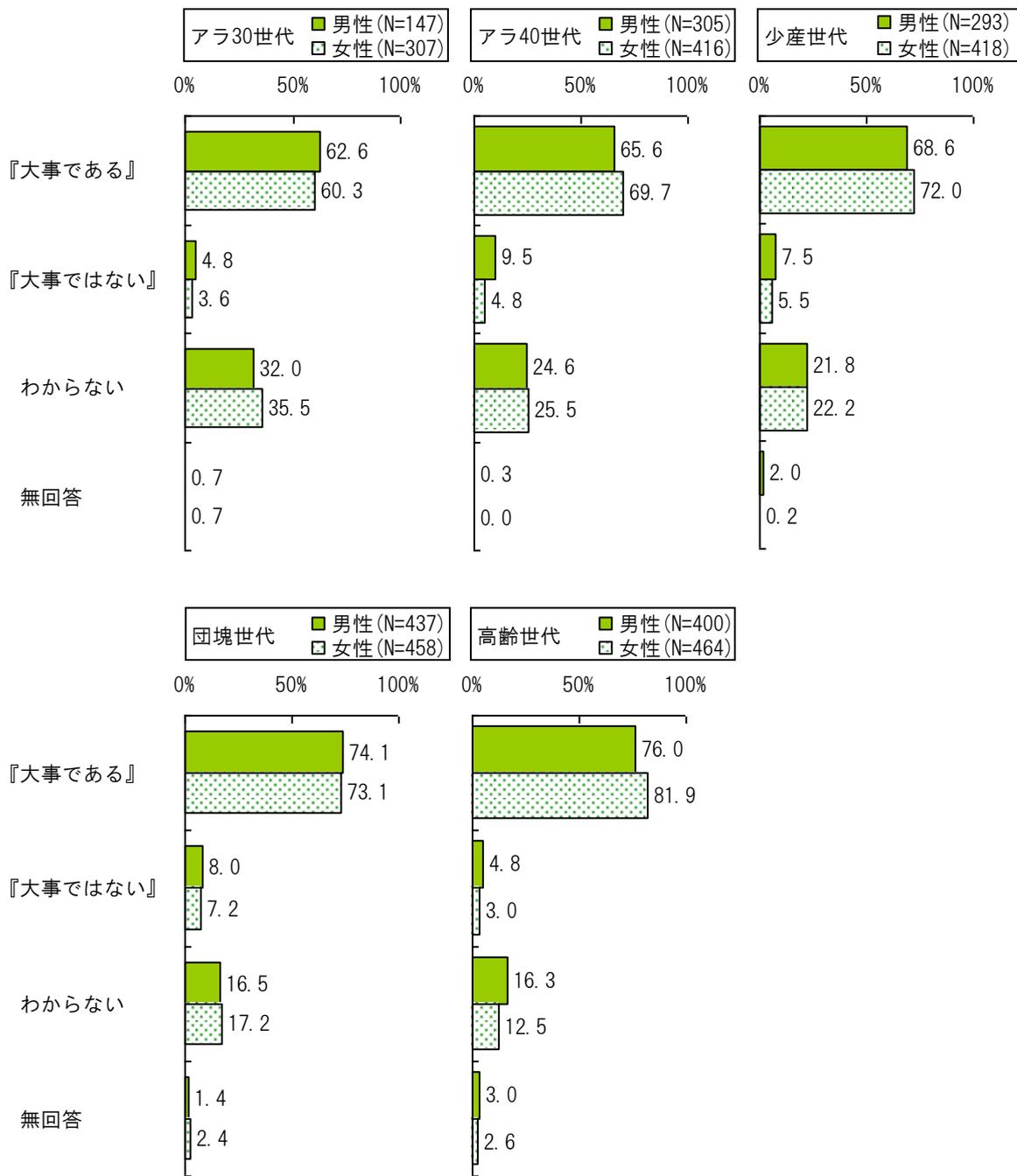
◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、年代が上がるほど『大事である』が多く、高齢世代は78.7%、団塊世代は73.7%、少産世代は70.6%などとなっています。

『町内会の重要度』とりまとめ

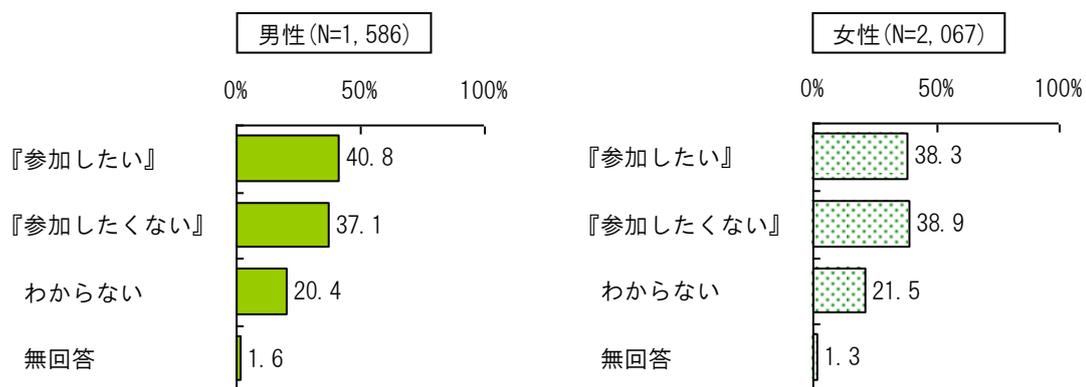
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別による大きな差異はみられません。

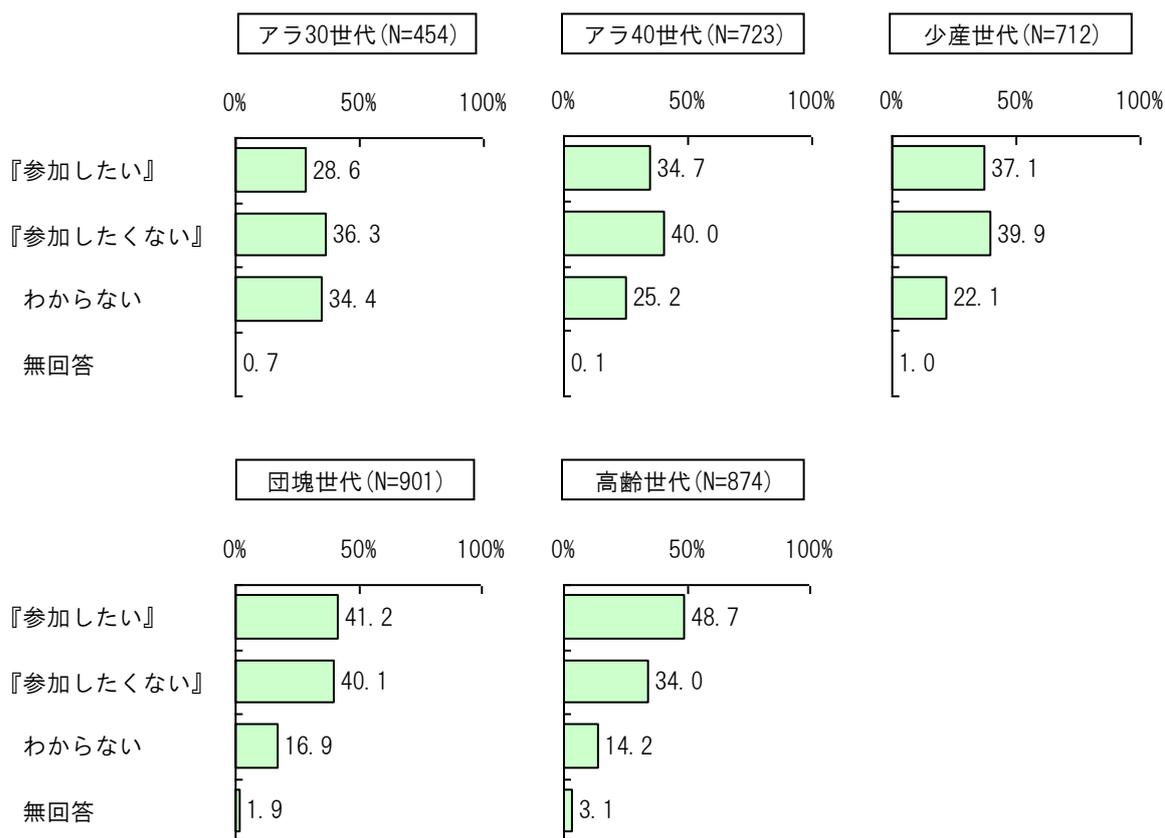
『町内会の参加希望』 とりまとめ

◆ 性別 ◆



性別による大きな差異はみられません。

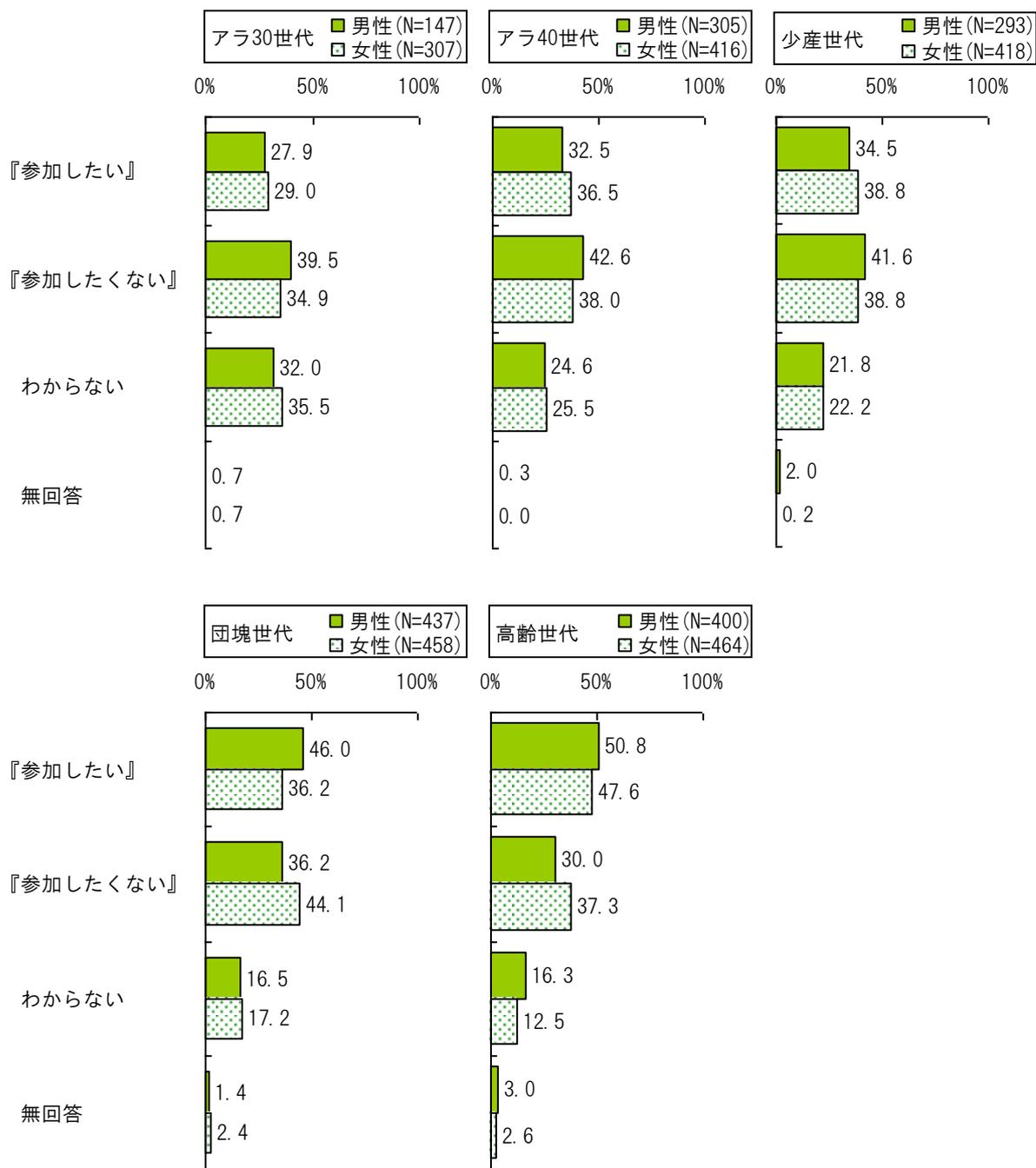
◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、高齢世代は『参加したい』が48.7%と、他の年代よりも多くなっています。アラ40世代から団塊世代までは『参加したくない』が4割を占めています。

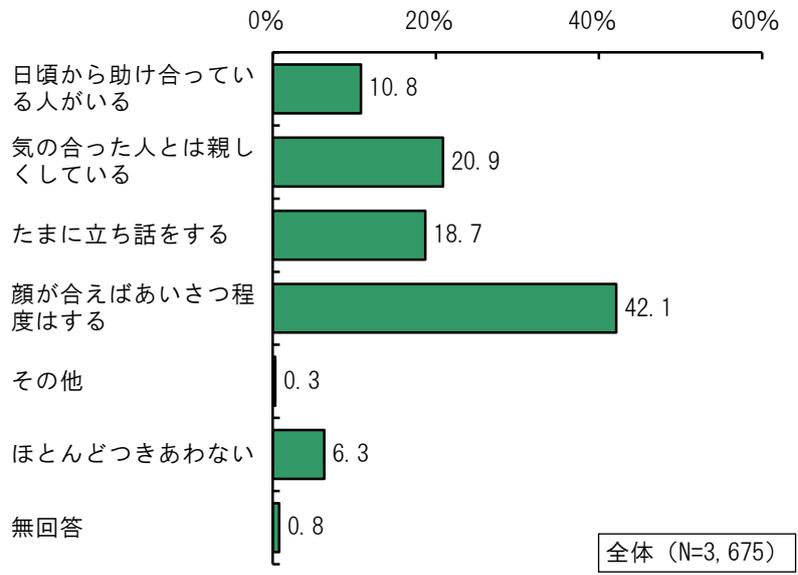
『町内会の参加希望』 とりまとめ

◆ 性・年代別 ◆



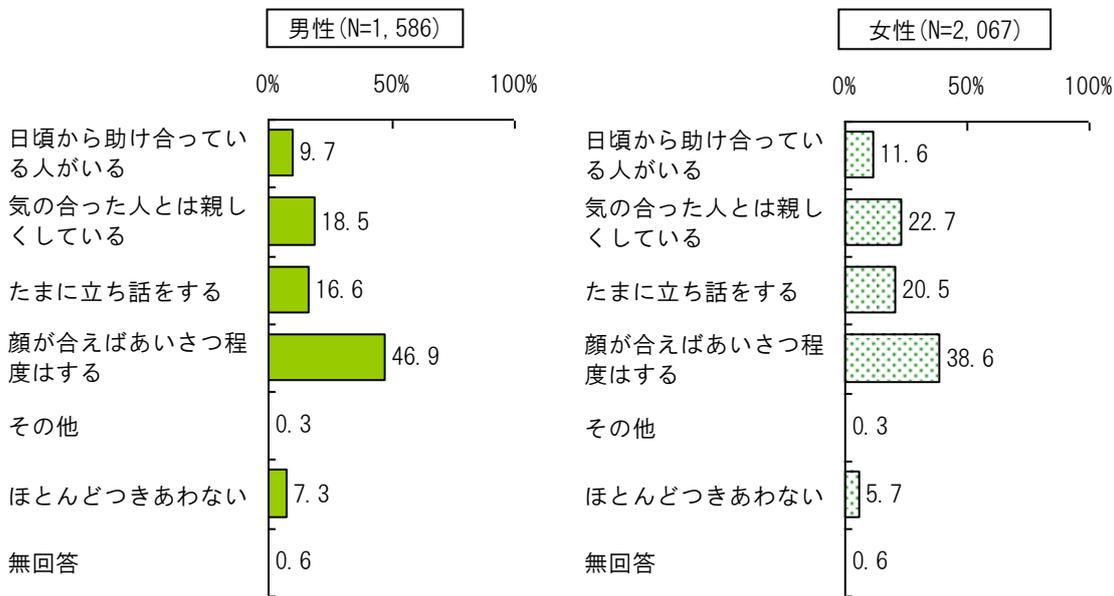
性・年代別で見ると、男女ともに高齢世代は『参加したい』が多く、男性は50.8%、女性は47.6%となっています。『参加したくない』は女性の団塊世代が44.1%と最も多く、次いで男性のアラ40世代が42.6%、男性の少産世代が41.6%などとなっています。

問14 あなたは、普段ご近所の方と、どの程度のおつきあいをしていますか。(〇は1つ)



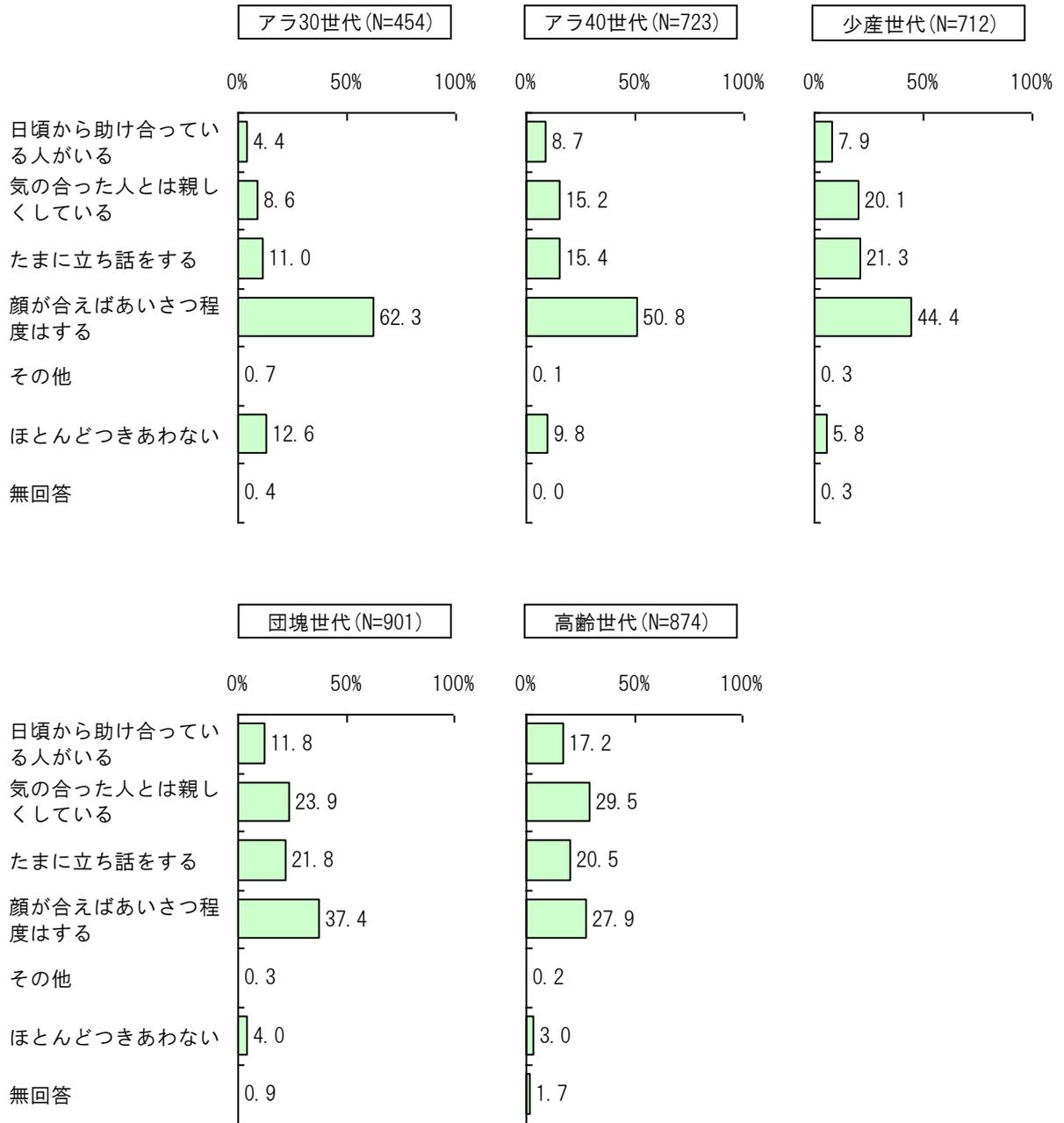
近所とのつきあいの程度は、「顔が合えばあいさつ程度はする」が 42.1%と最も多く、次いで「気の合った人とは親しくしている」が 20.9%、「たまに立ち話をする」が 18.7%などとなっています。

◆ 性別 ◆



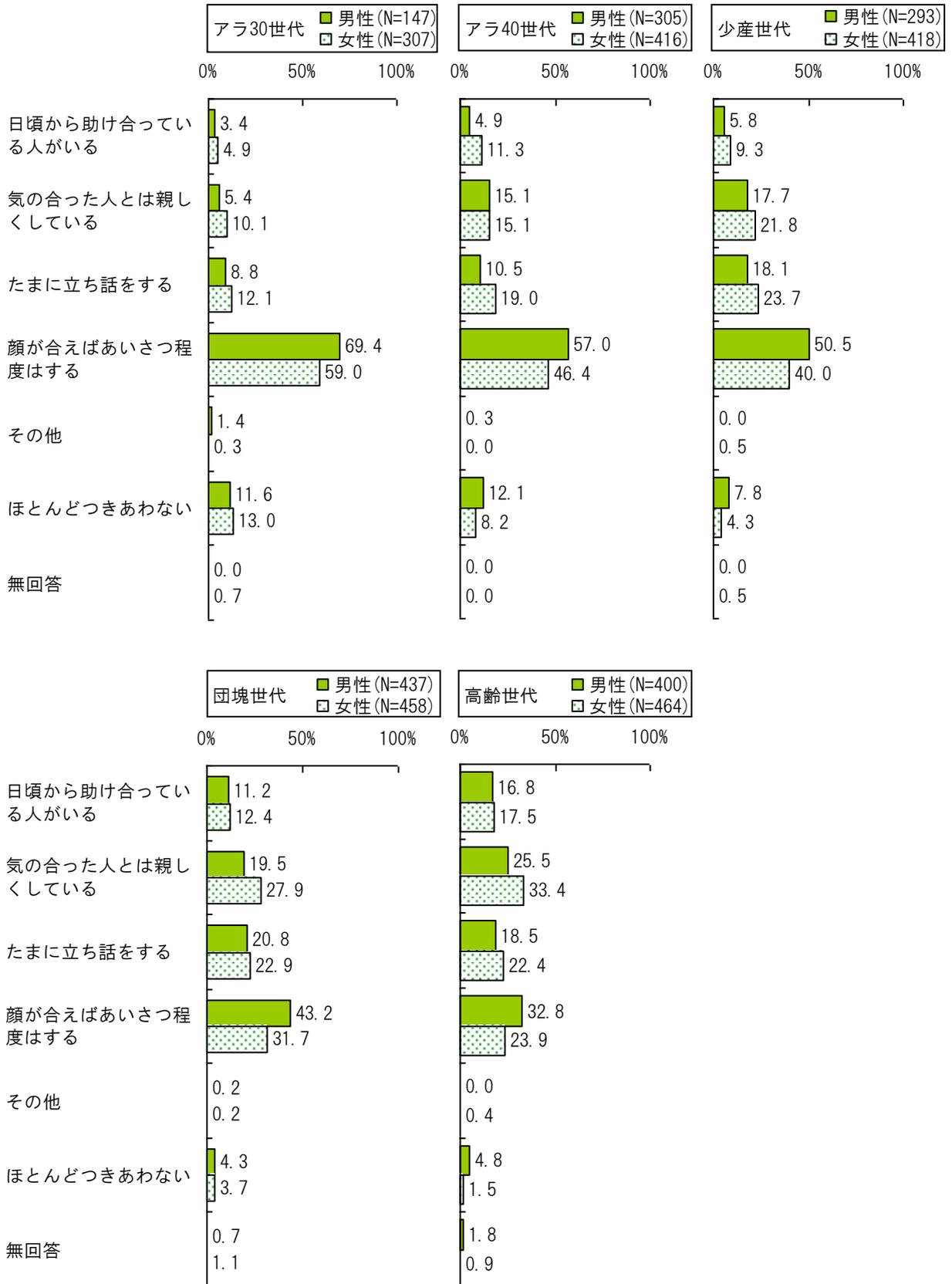
性別でみると、男女ともに「顔が合えばあいさつ程度はする」が多く、男性は 46.9%、女性は 38.6% となっています。

◆ 年代別 ◆



年代別でみると、年代が下がるほど「顔が合えばあいさつ程度はする」が多く、アラ30世代は62.3%、アラ40世代は50.8%、少産世代は44.4%などとなっています。また、「気の合った人とは親しくしている」や「日頃から助け合っている人がいる」は、年代が上がるほど多くなる傾向があります。

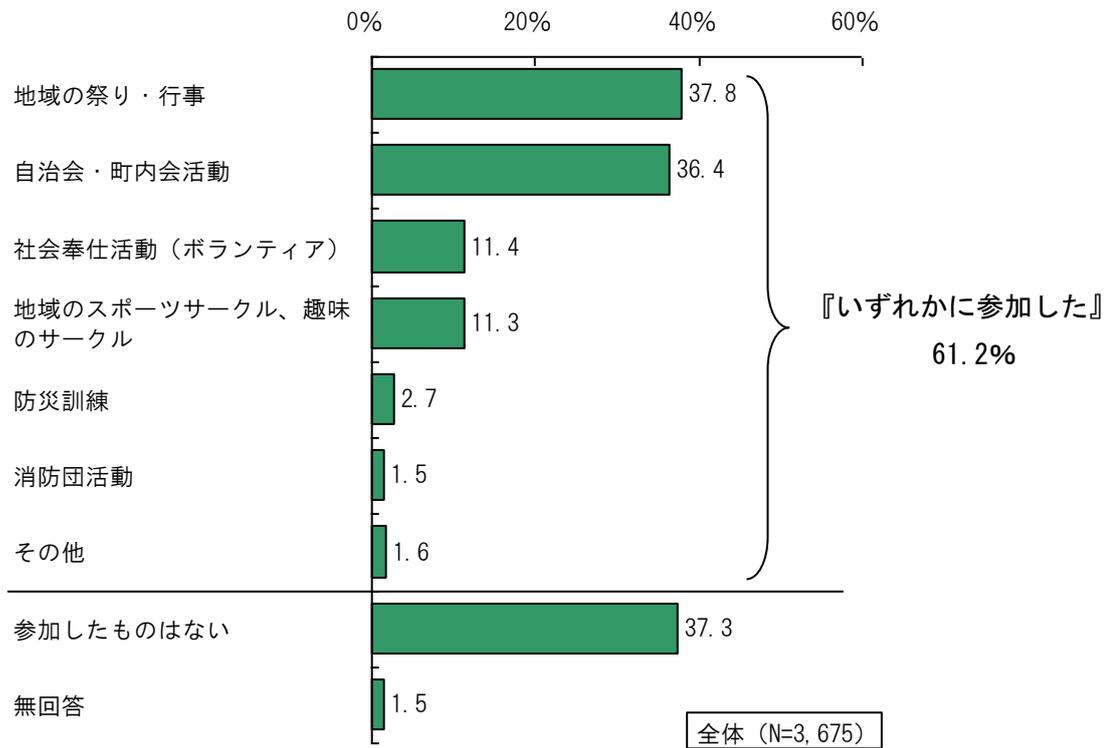
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別でみると、「顔が合えばあいさつ程度はする」は、男性のアラ 30 世代が 69.4%と最も多く、次いで女性のアラ 30 世代が 59.0%、男性のアラ 40 世代が 57.0%、男性の少産世代が 50.5%などとなっています。

男性のアラ 30 世代は、「気の合った人とは親しくしている」、「たまに立ち話をする」、「日頃から助け合っている人がいる」が他の年代よりも少なくなっています。

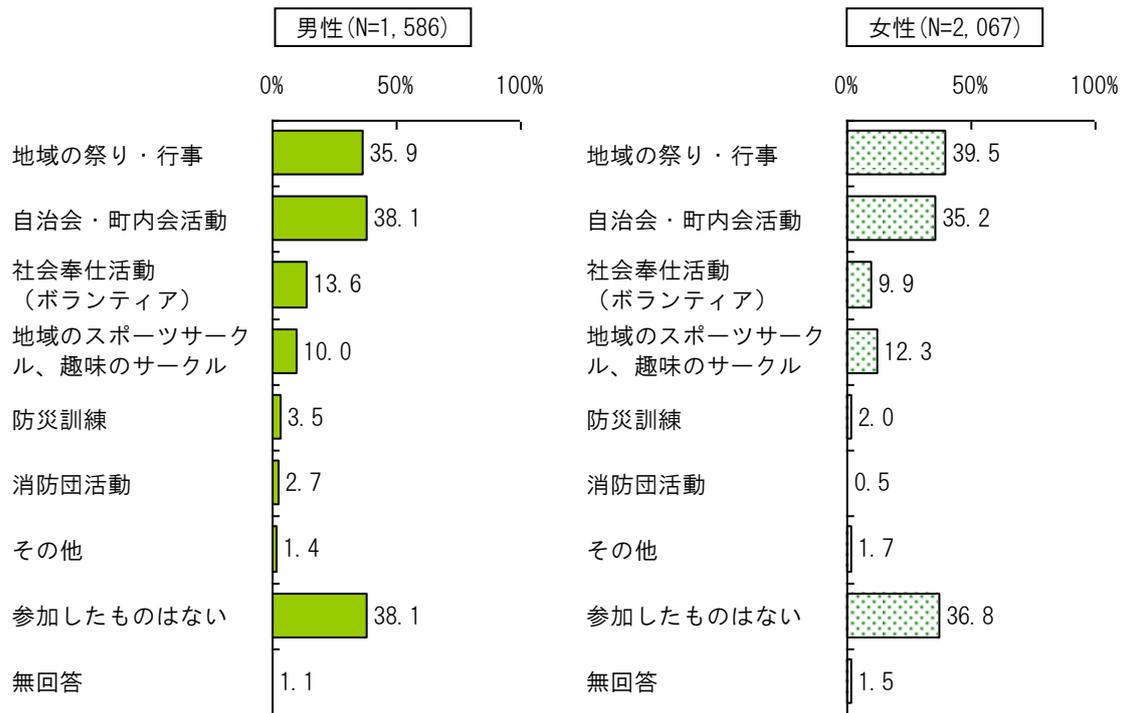
問15 あなたはこの1年間に、地域活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)



1年間で参加した地域活動は、「地域の祭り・行事」の37.8%と、「自治会・町内会活動」の36.4%が多く、次いで「社会奉仕活動 (ボランティア)」が11.4%などとなっています。

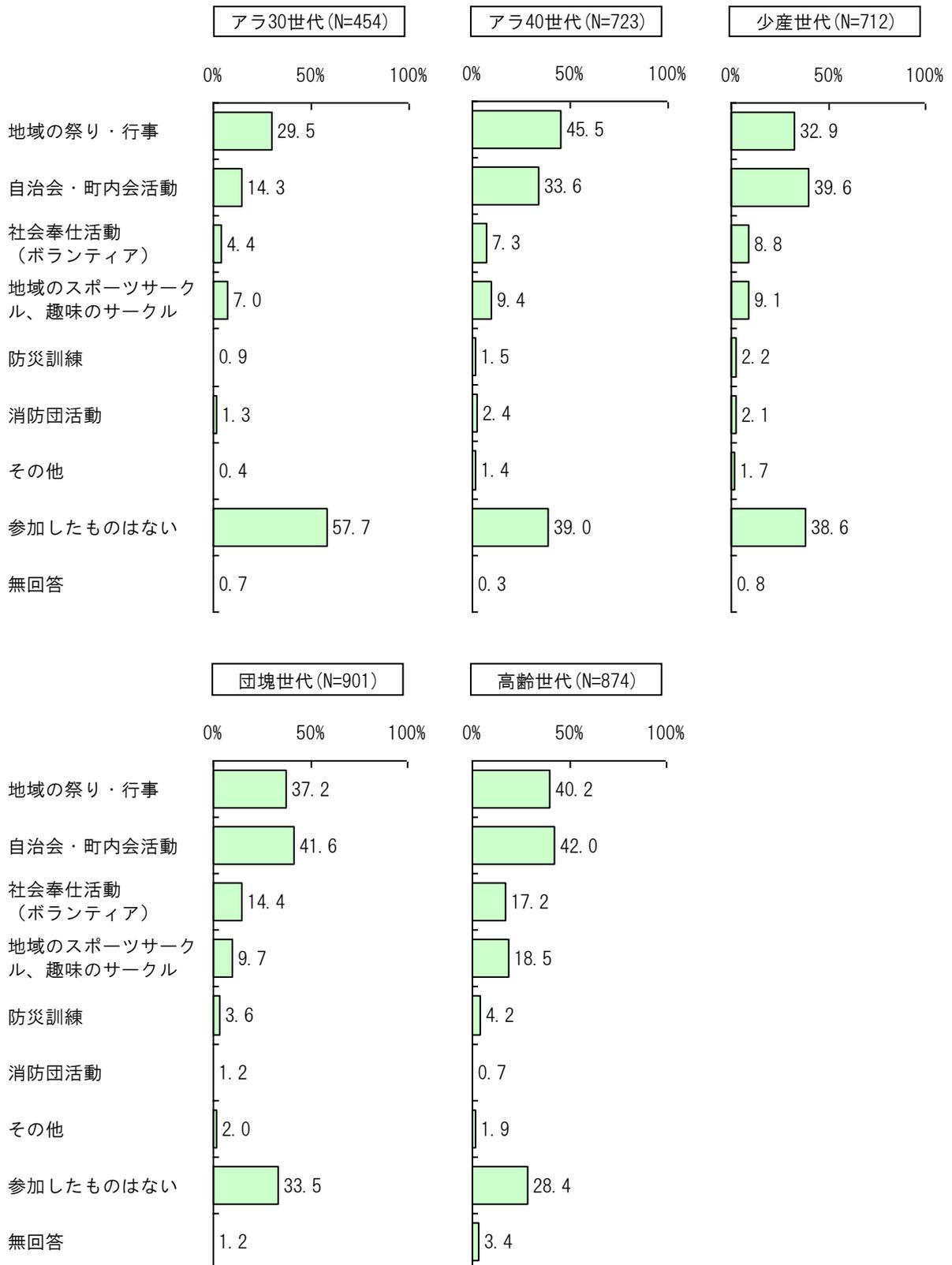
参加の有無は、『いずれかに参加した』が61.2%、「参加したものはない」が37.3%となっています。

◆ 性別 ◆



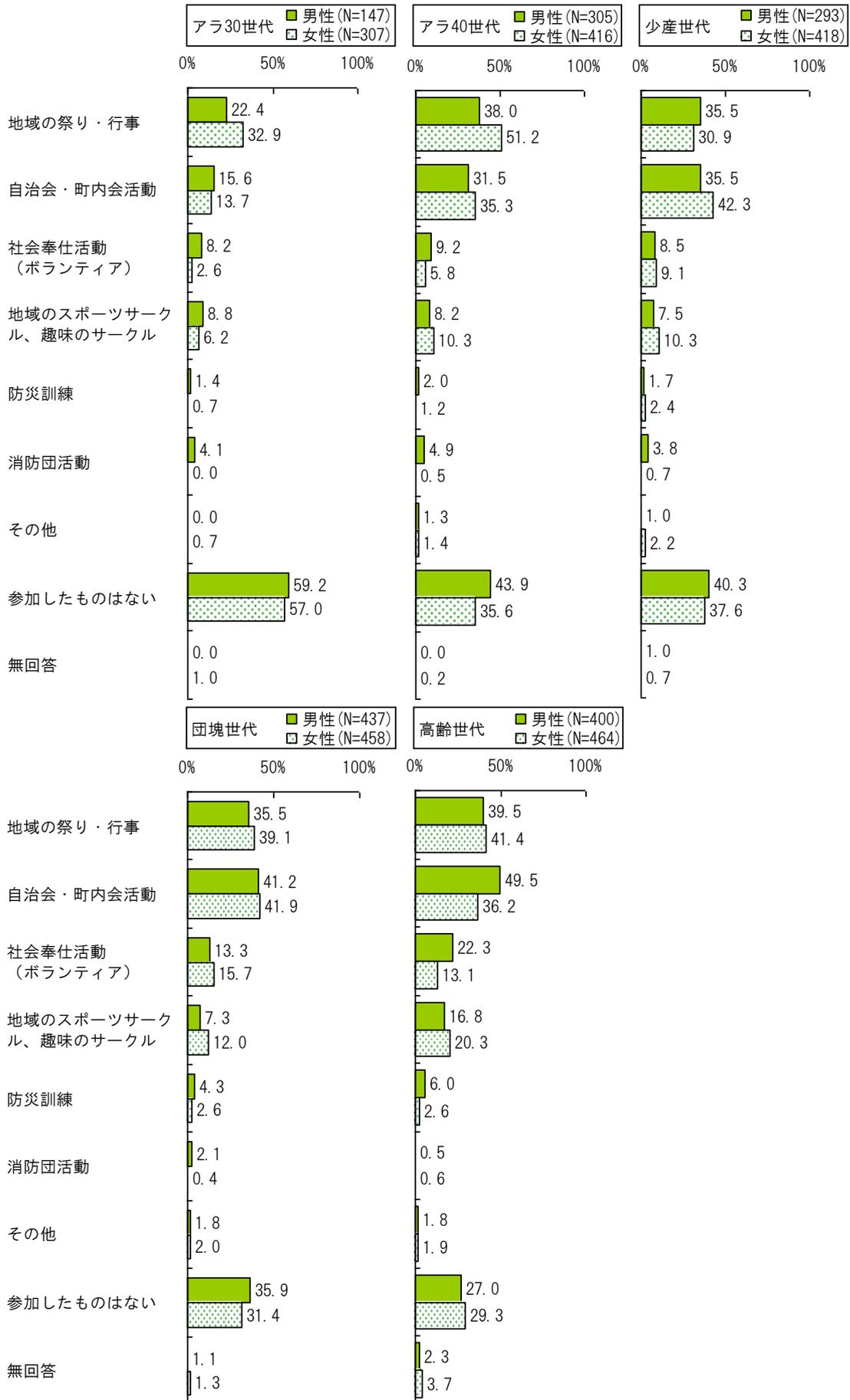
性別による大きな差異はみられません。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、アラ40世代や高齢世代は「地域の祭り・行事」が4割を占めています。年代が上がるほど「自治会・町内会活動」が多く、高齢世代は42.0%、団塊世代は41.6%、少産世代は39.6%などとなっています。一方、年代が下がるほど「参加したものはなし」が多く、アラ30世代は57.7%となっています。

◆ 性・年代別 ◆

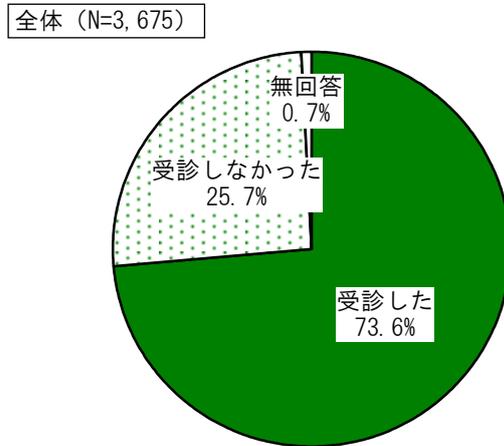


性・年代別でみると、「地域の祭り・行事」は女性のアラ 40 世代が 51.2%と最も多く、次いで女性の高齢世代が 41.4%、男性の高齢世代が 39.5%などとなっています。「自治会・町内会活動」は男性の高齢世代が 49.5%と最も多く、次いで女性の少産世代が 42.3%、女性の団塊世代が 41.9%などとなっています。

「参加したものはない」は男性のアラ 30 世代が 59.2%と最も多く、次いで女性のアラ 30 世代が 57.0%、男性のアラ 40 世代が 43.9%などとなっています。

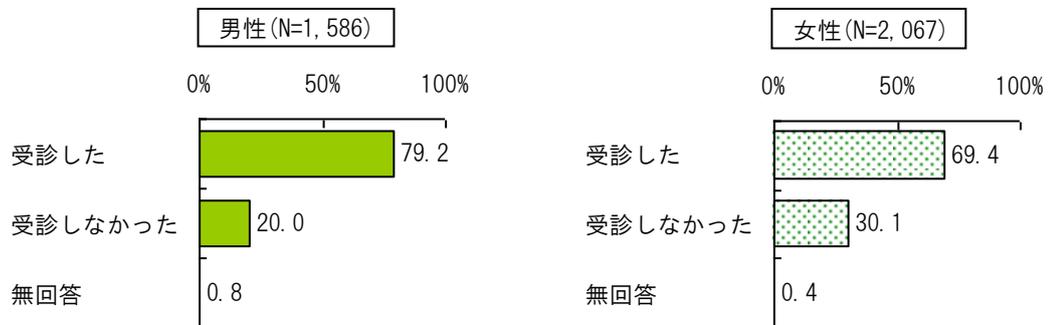
2 健康についてうかがいます。

問16 あなたは、この1年以内に健康診断を受診しましたか。(〇は1つ)



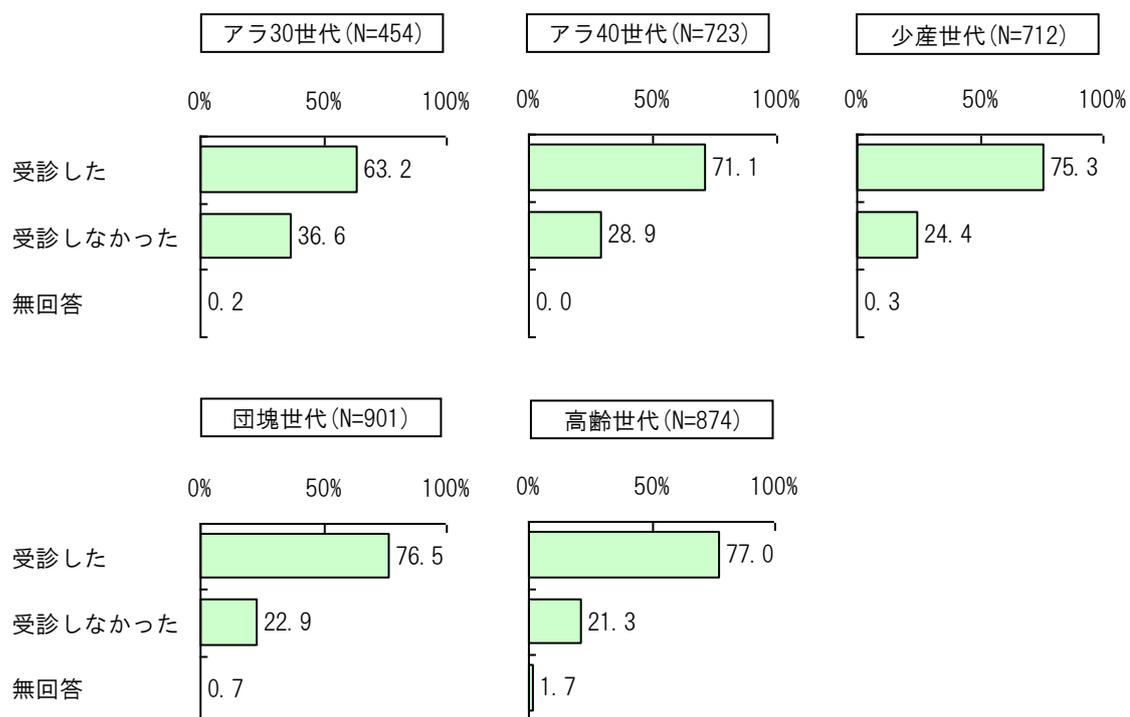
1年以内の健康診断受診の有無は、「受診した」が73.6%、「受診しなかった」が25.7%となっています。

◆ 性別 ◆



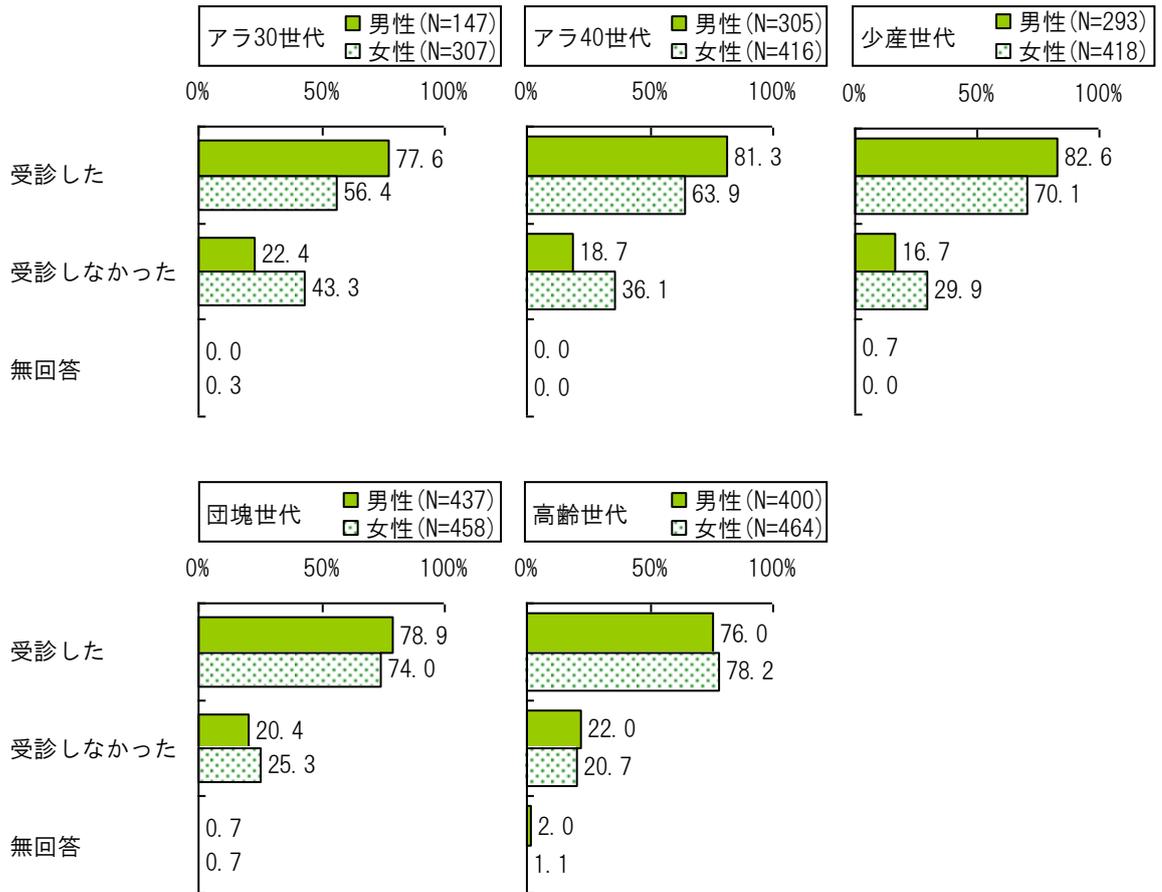
性別で見ると、女性は「受診しなかった」が30.1%と、男性の20.0%よりも10.1ポイント高くなっています。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、年代が上がるほど「受診した」が多く、高齢世代は77.0%、団塊世代は76.5%、少産世代は75.3%などとなっています。

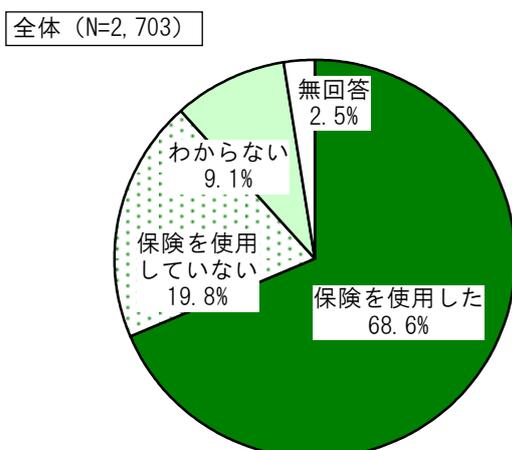
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別でみると、女性は年代が下がるほど「受診した」が少なく、アラ 30 世代では 56.4% となっています。

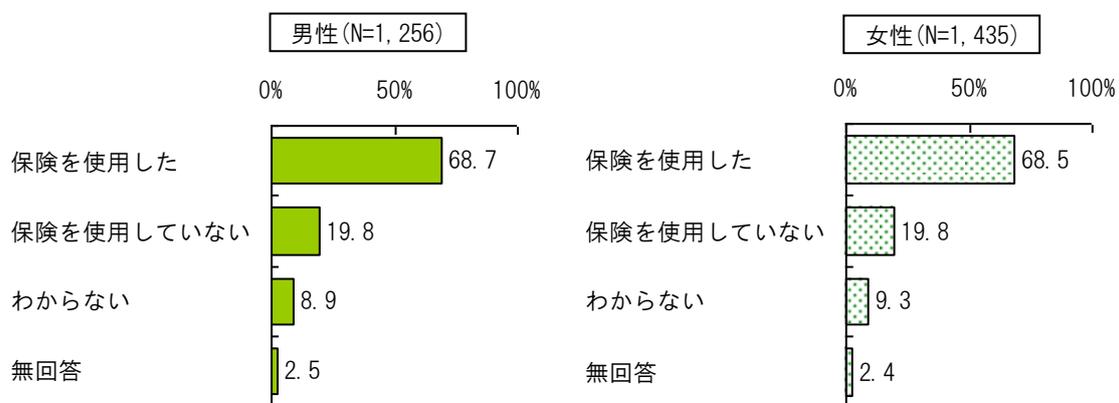
※問16で「受診した」と答えた方のみ

問16-1 受診の際に、保険を使用しましたか。(〇は1つ)



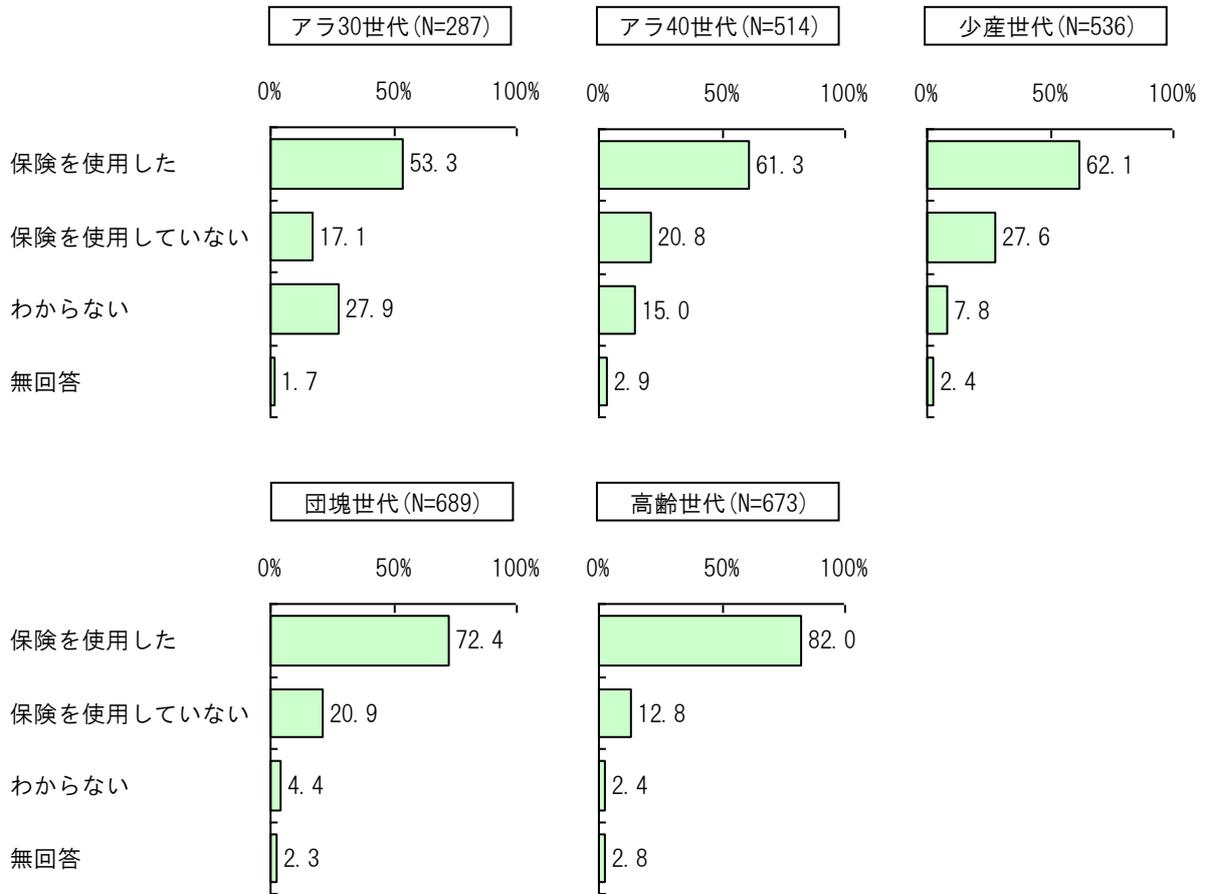
受診の際に、保険を使用したかは、「保険を使用した」が68.6%、「保険を使用していない」が19.8%、「わからない」が9.1%となっています。

◆ 性別 ◆



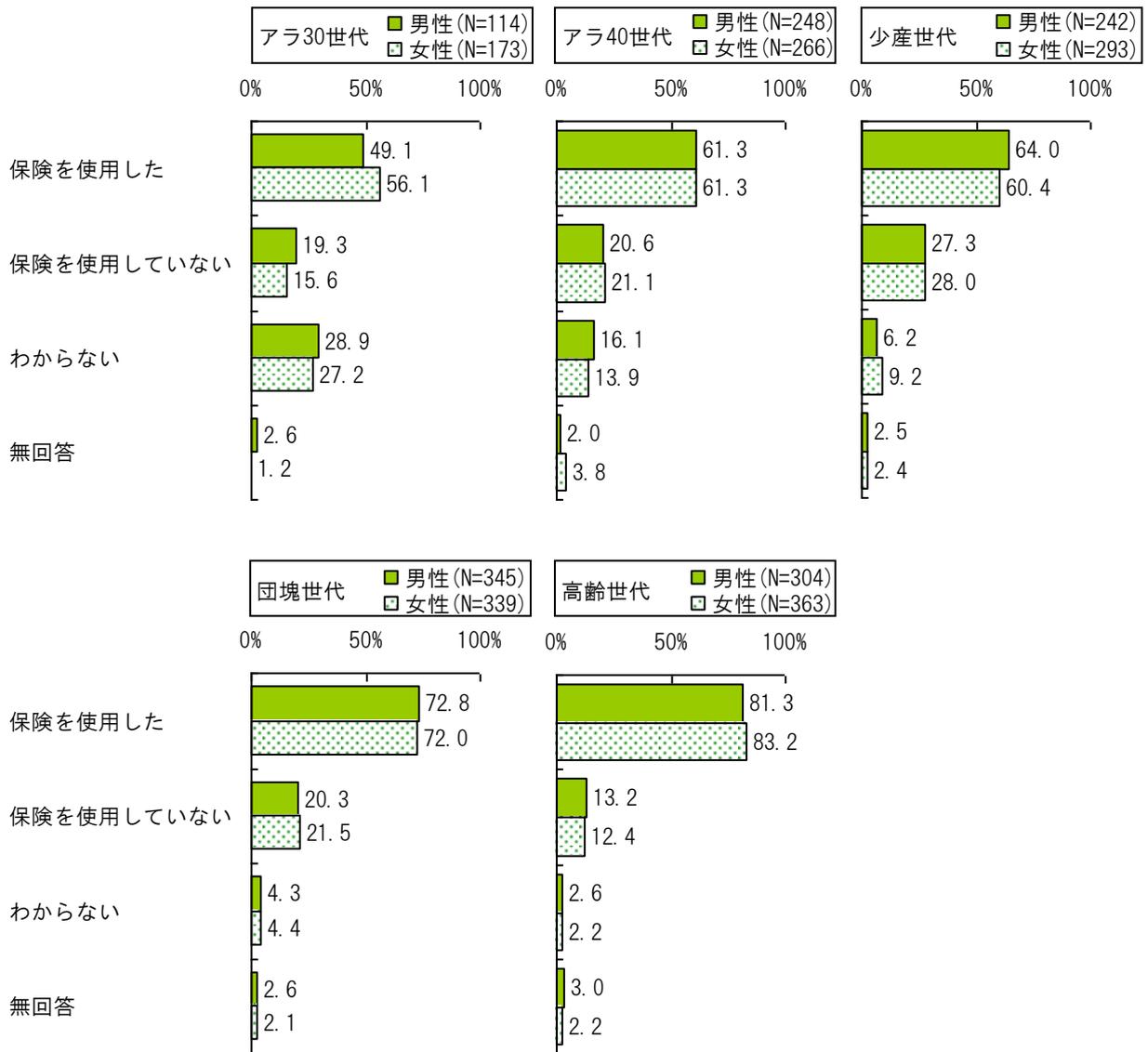
性別による大きな差異はみられません。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、年代が上がるほど「保険を使用した」が多く、高齢世代は82.0%、団塊世代は72.4%、少産世代は62.1%などとなっています。一方、「保険を使用していない」は少産世代が27.6%と最も多く、次いで団塊世代が20.9%、アラ40世代が20.8%などとなっています。

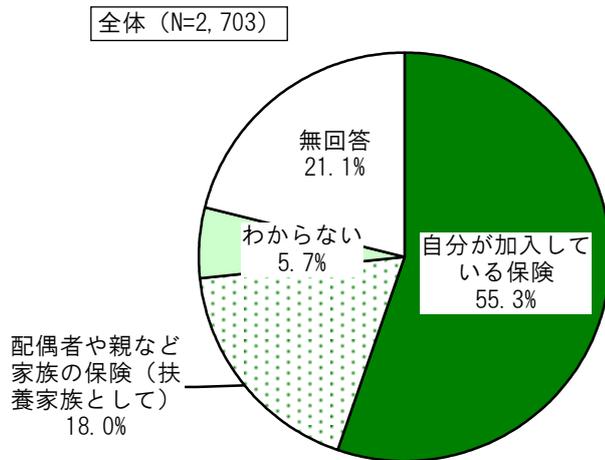
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別で見ると、年代が上がるほど「保険を使用した」が多く、高齢世代では男女ともに8割を超えています。「わからない」は年代が下がるほど多く、アラ30世代は男女ともに2割を超えています。

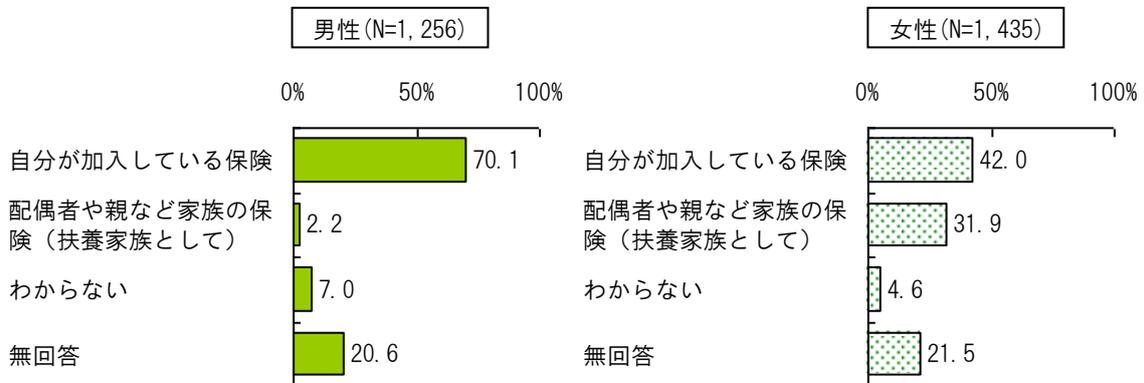
※問16で「受診しなかった」と答えた方のみ

問16-2 使用した保険はあなたの保険ですか。(〇は1つ)



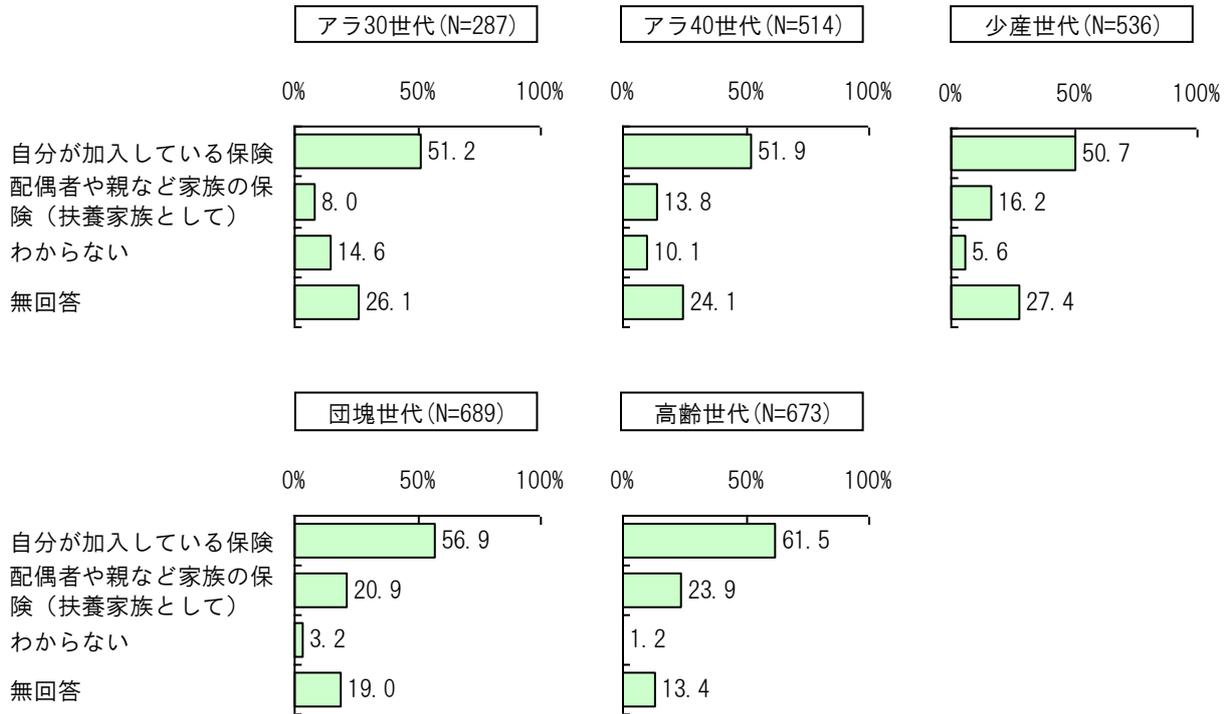
使用した保険は、「自分が加入している保険」が55.3%、「配偶者や親など家族の保険 (扶養家族として)」が18.0%、「わからない」が5.7%となっています。

◆ 性別 ◆



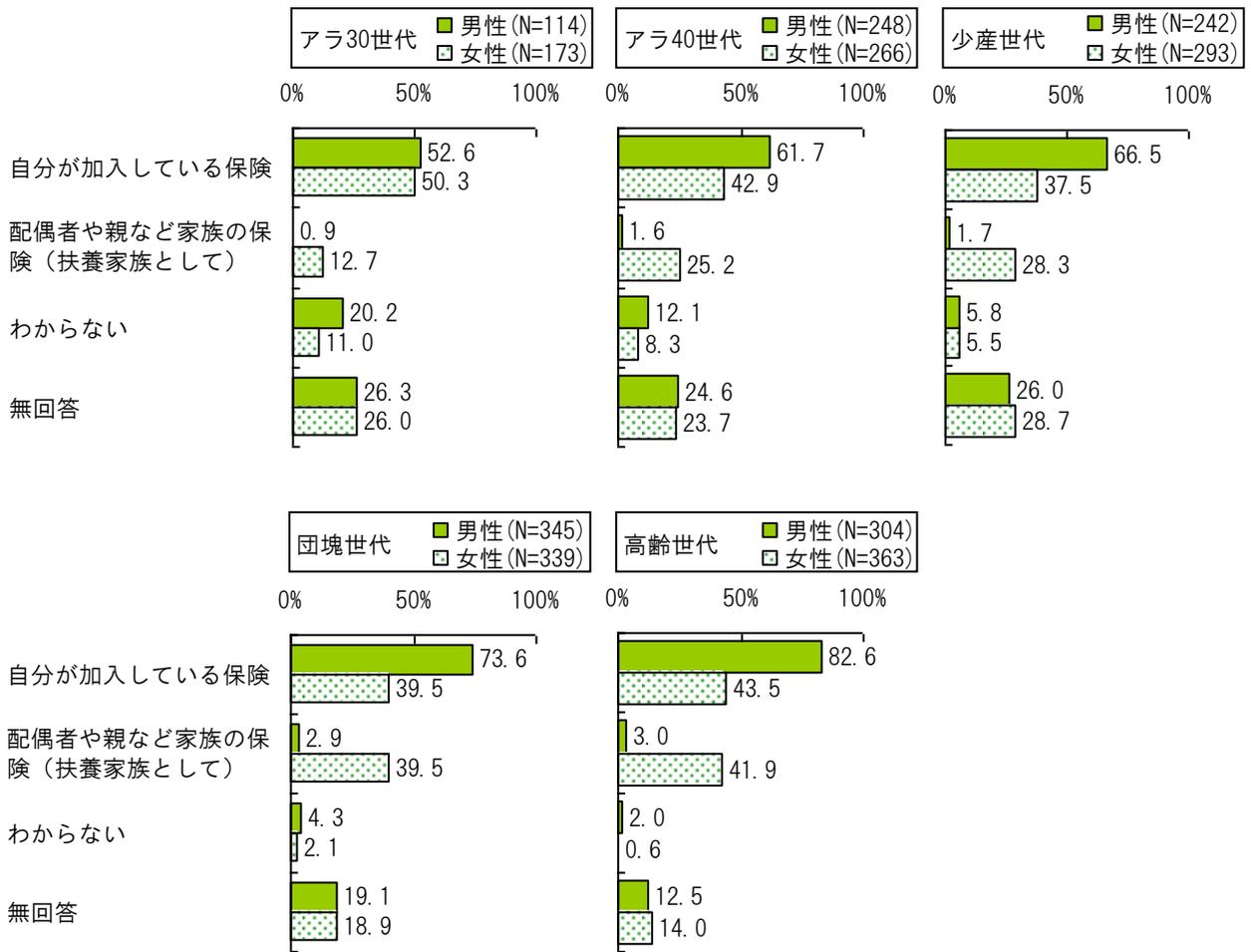
性別でみると、男性は「自分が加入している保険」が70.1%と、女性の42.0%より28.1ポイント高くなっています。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、いずれの年代も「自分が加入している保険」が多く、高齢世代は61.5%、団塊世代は56.9%、アラ40世代は51.9%などとなっています。年代が上がるほど「配偶者や親など家族の保険 (扶養家族として)」が多く、高齢世代は23.9%、団塊世代は20.9%、少産世代は16.2%などとなっています。

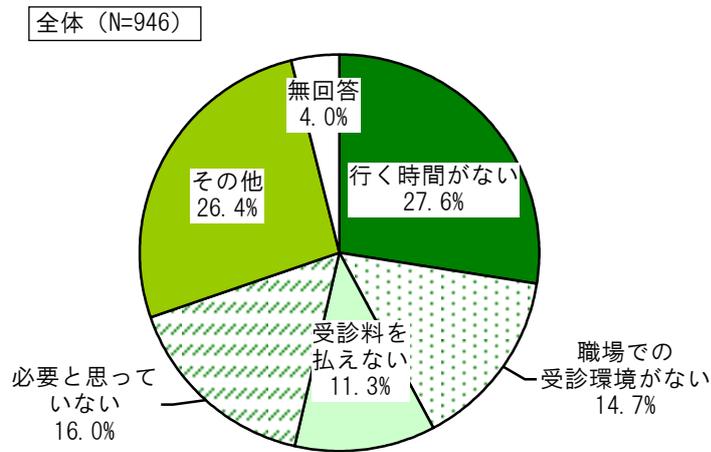
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別で見ると、男性は年代が上がるほど「自分が加入している保険」が多くなっています。一方、女性は年代が上がるほど「配偶者や親など家族の保険 (扶養家族として)」が多く、高齢世代は41.9%、団塊世代は39.5%、少産世代は28.3%などとなっています。

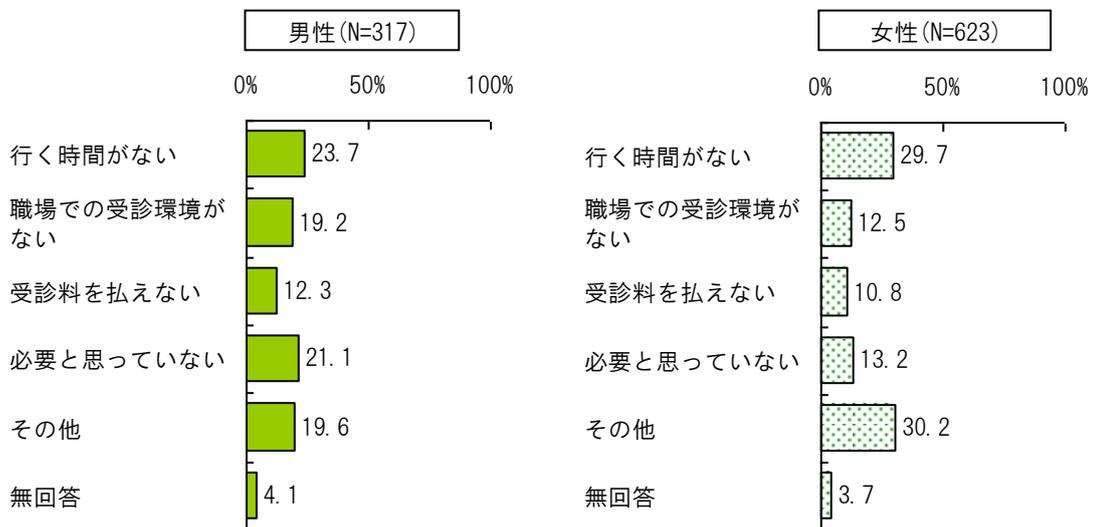
※問16で「受診しなかった」と答えた方のみ

問16-3 受診していない理由を教えてください。(〇は1つ)



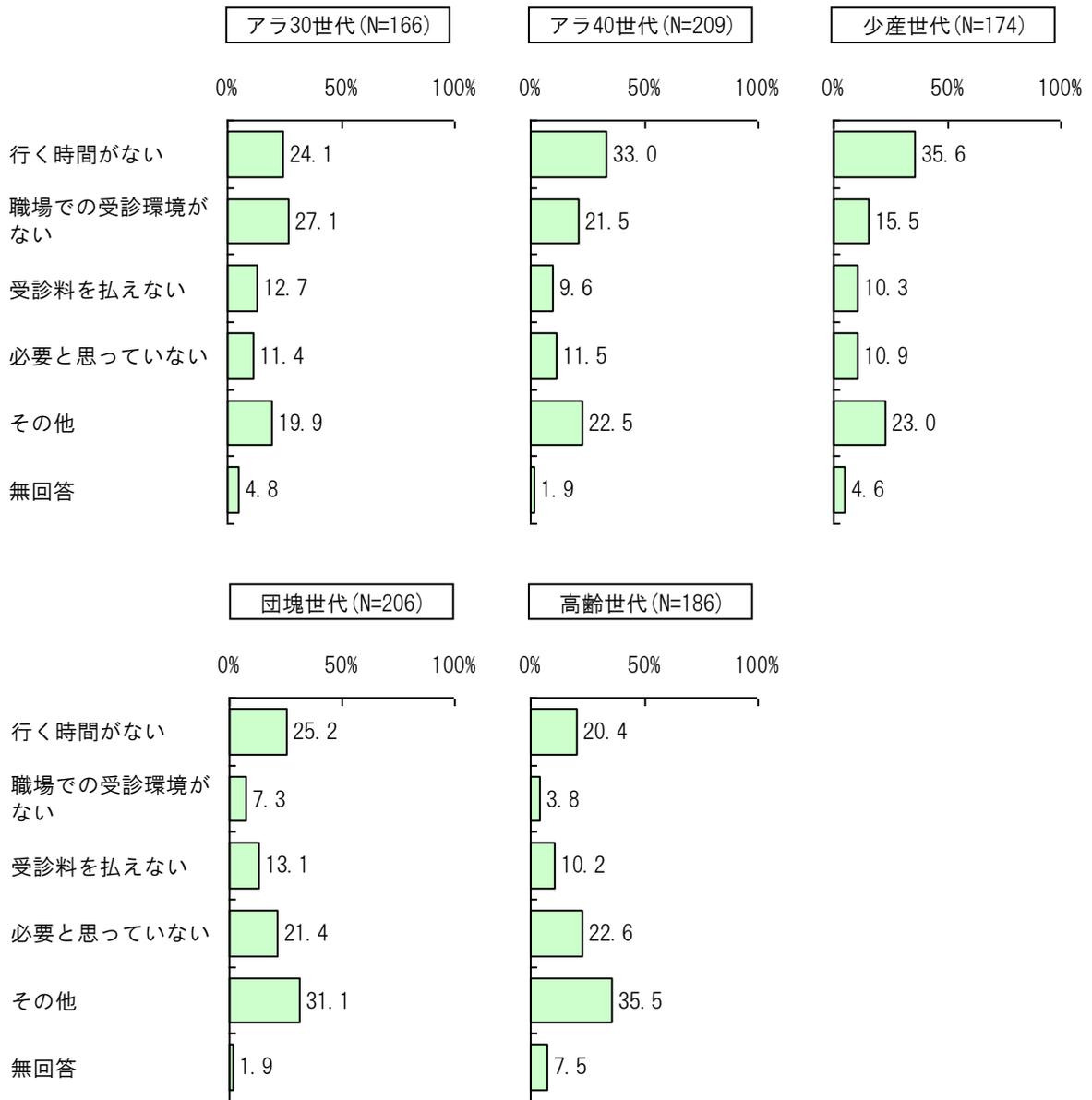
受診していない理由は、「行く時間がない」が 27.6%と最も多く、次いで「必要とっていない」が 16.0%、「職場での受診環境がない」が 14.7%などとなっています。

◆ 性別 ◆



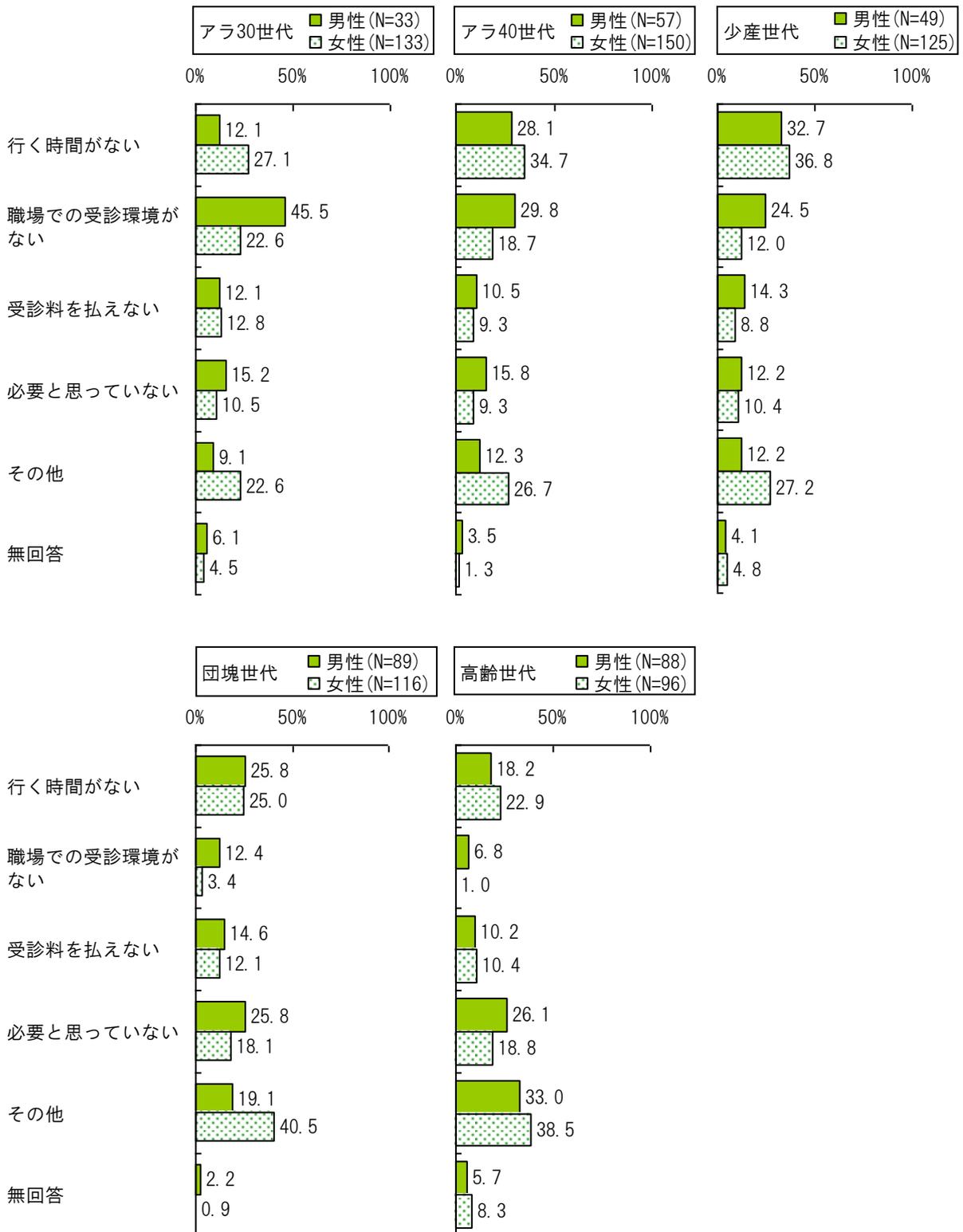
性別でみると、男性は「行く時間がない」、「職場での受診環境がない」、「必要とっていない」が2割を占めています。一方、女性は「行く時間がない」が3割を占めています。

◆ 年代別 ◆



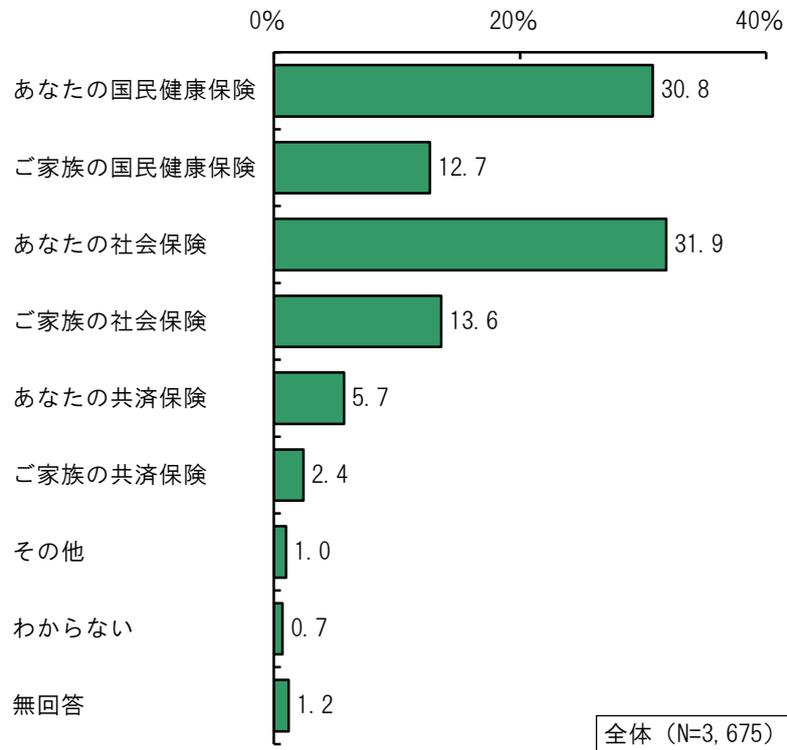
年代別でみると、アラ 40 世代から団塊世代は「行く時間がない」が多くなっています。アラ 30 世代は「職場での受診環境がない」が多く、27.1%となっています。高齢世代は「必要とっていない」が多く、22.6%となっています。

◆ 性・年代別 ◆



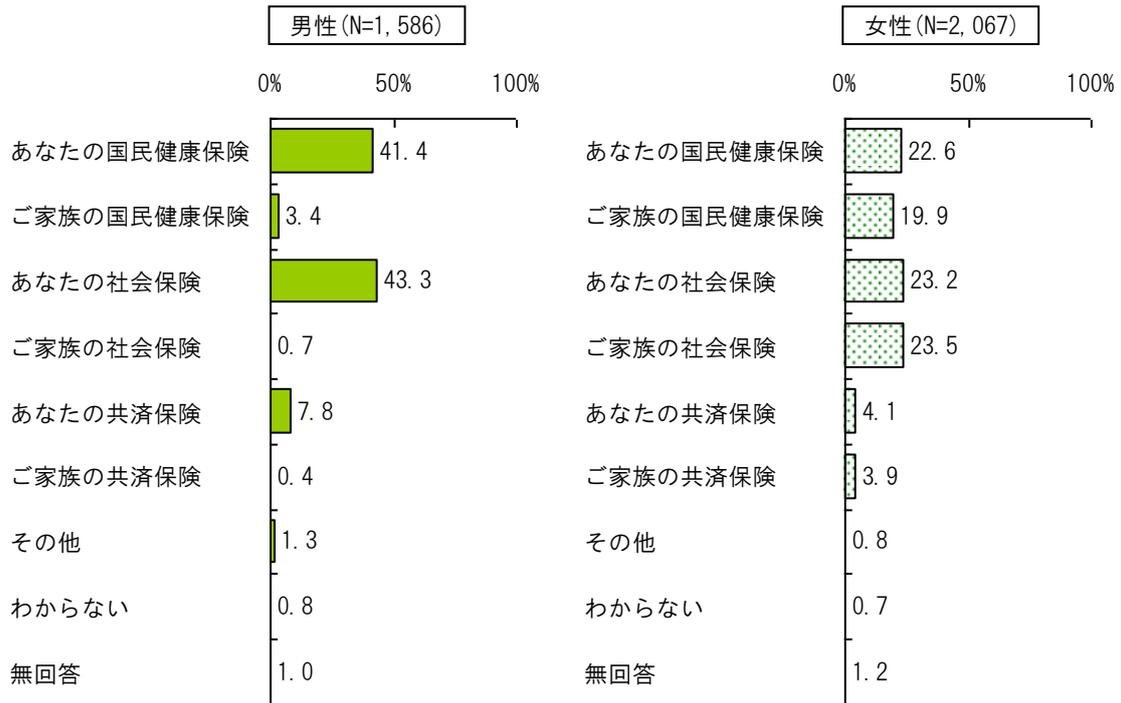
性・年代別で見ると、男性のアラ30世代やアラ40世代は「職場での受診環境がない」が多くなっています。男性の少産世代や、女性のすべての年代は「行く時間がない」が多くなっています。

問17 あなたが加入している健康保険は、次のどれですか。(〇は1つ)



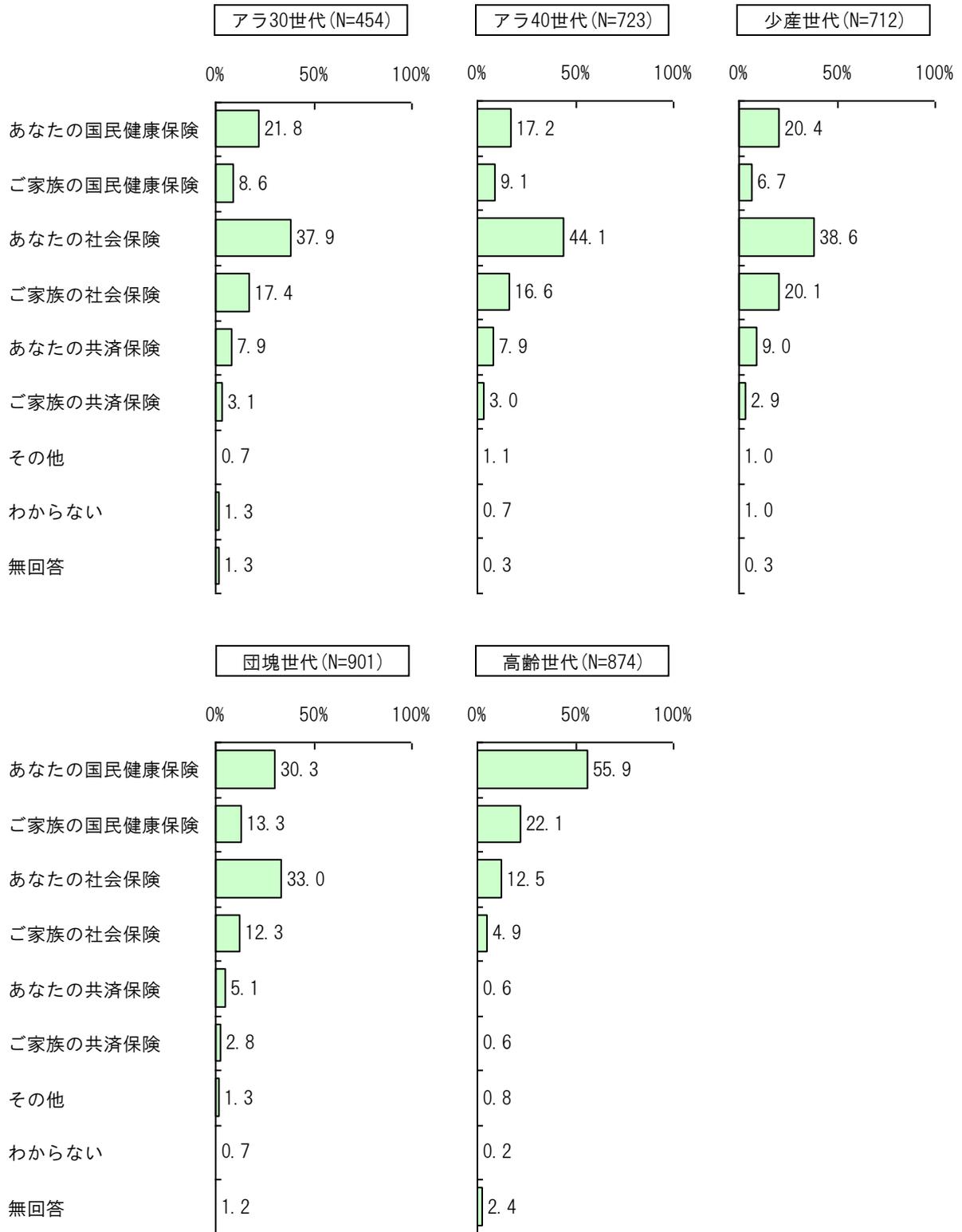
加入している健康保険は、「あなたの社会保険」の31.9%と、「あなたの国民健康保険」の30.8%が多く、次いで「ご家族の社会保険」が13.6%などとなっています。

◆ 性別 ◆



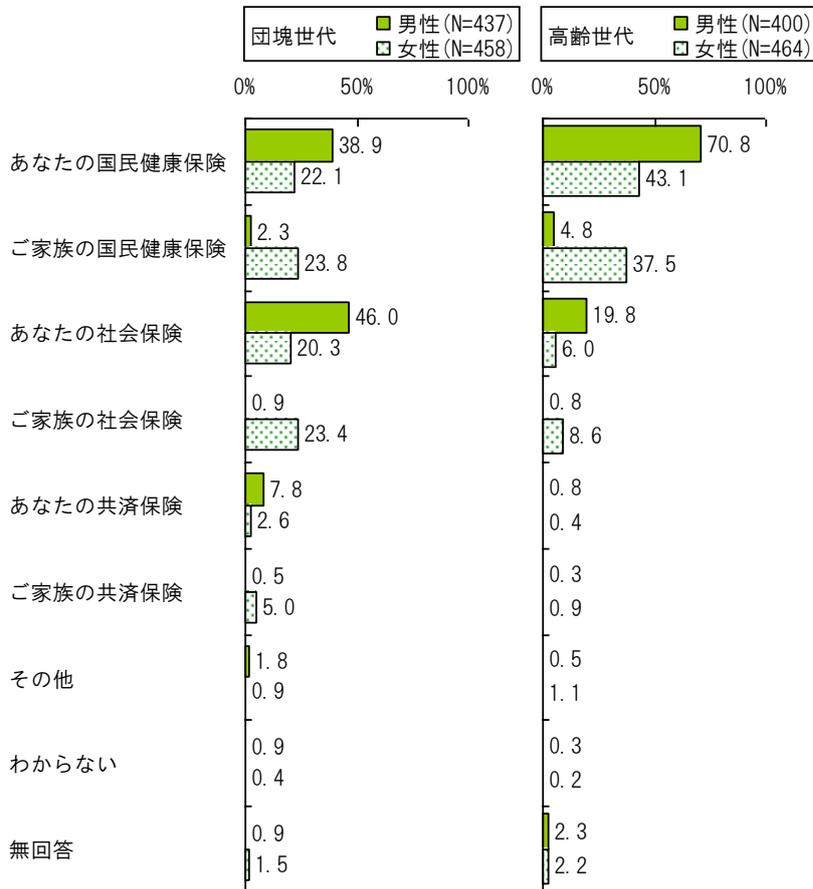
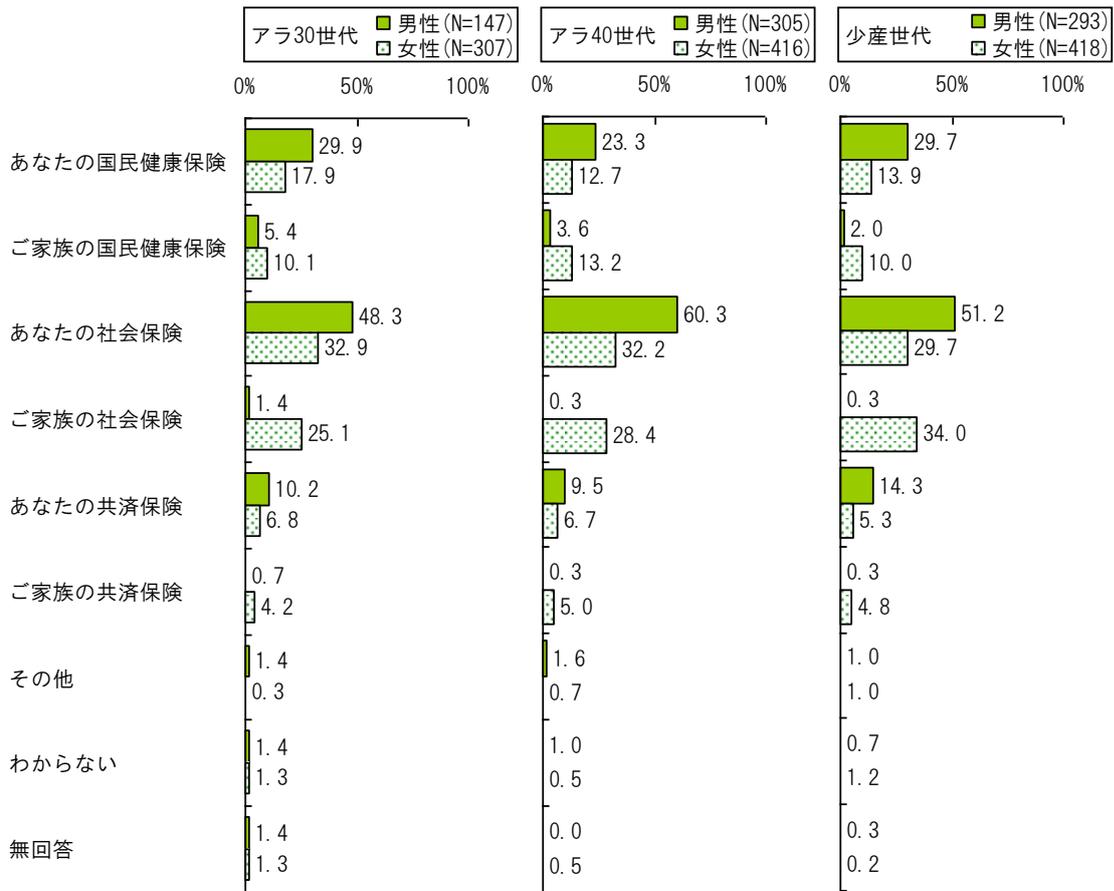
性別で見ると、男性は「あなたの社会保険」や「あなたの国民健康保険」が多く、いずれも4割を超えています。一方、女性は「ご家族の社会保険」、「あなたの社会保険」、「あなたの国民健康保険」、「ご家族の国民健康保険」が、いずれも2割を占めています。

◆ 年代別 ◆



年代別でみると、アラ 30 世代から団塊世代までは「あなたの社会保険」が多く、アラ 40 世代は 44.1%、少産世代は 38.6%、アラ 30 世代は 37.9%、団塊世代は 33.0%となっています。高齢世代は「あなたの国民健康保険」が 55.9%と、他の年代よりも多くなっています。

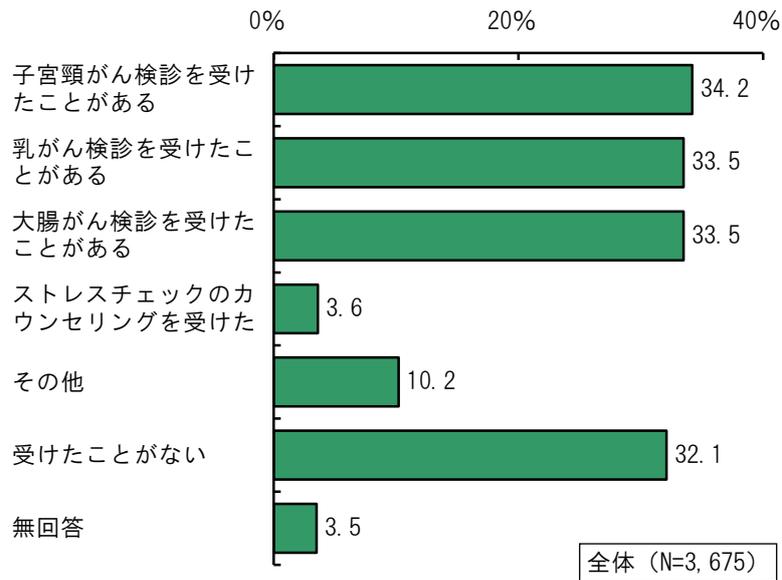
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別でみると、男性はアラ 30 世代から団塊世代までは「あなたの社会保険」が多く、アラ 40 世代は 60.3%、少産世代は 51.2%、アラ 30 世代は 48.3%、団塊世代は 46.0%などとなっています。また、女性のアラ 30 世代やアラ 40 世代も「あなたの社会保険」が多く、いずれも 3 割を超えています。男性の高齢世代は「あなたの国民健康保険」が 7 割を占めています。

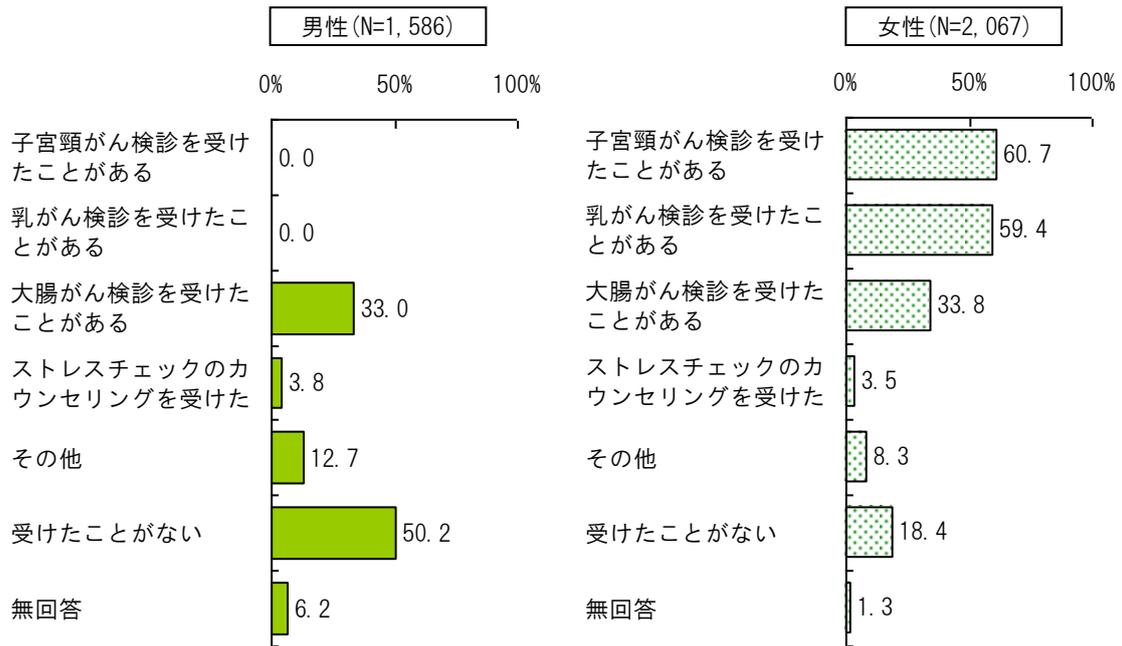
女性の少産世代は「ご家族の社会保険」が多く、34.0%となっています。

問18 次のような検診や健康診断を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)



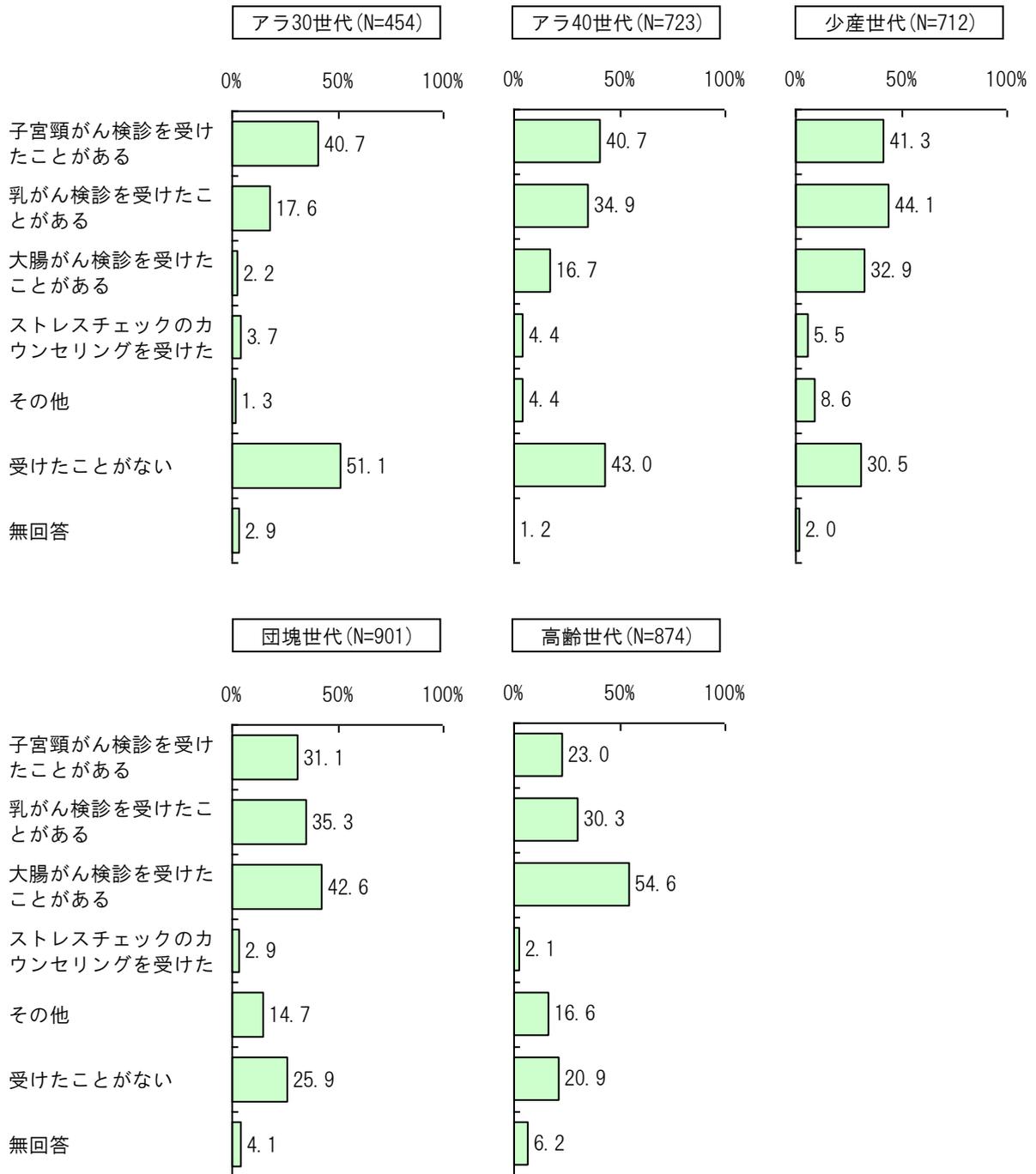
受診した検診や健康診断は、「子宮頸がん検診を受けたことがある」の34.2%、「乳がん検診を受けたことがある」や「大腸がん検診を受けたことがある」の33.5%が多くなっています。

◆ 性別 ◆



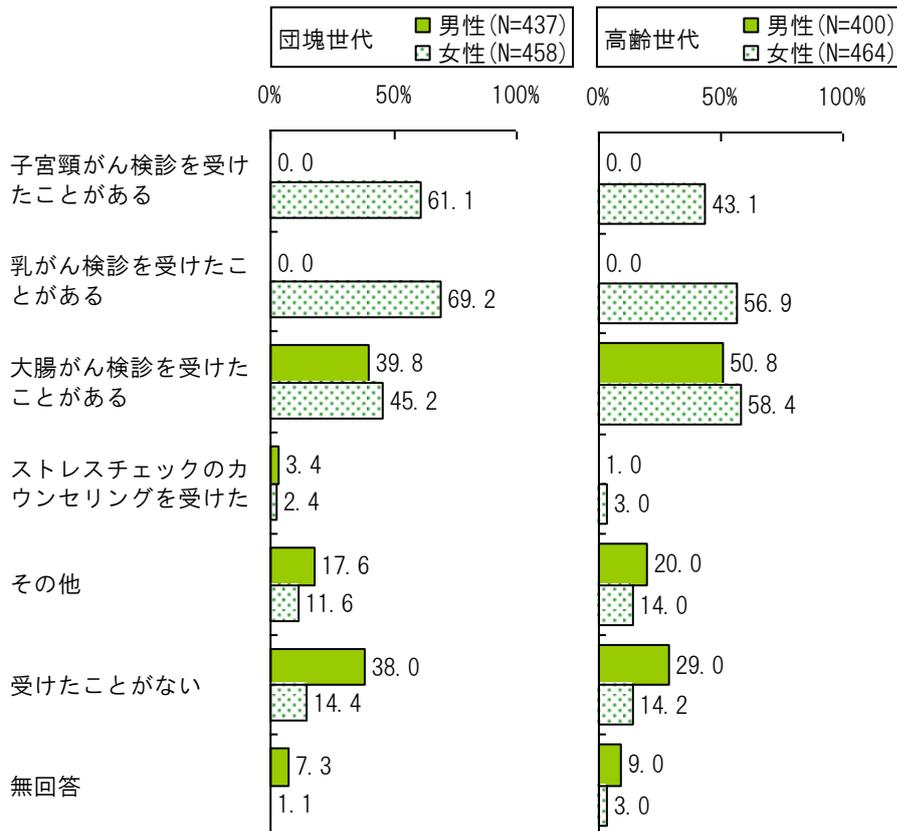
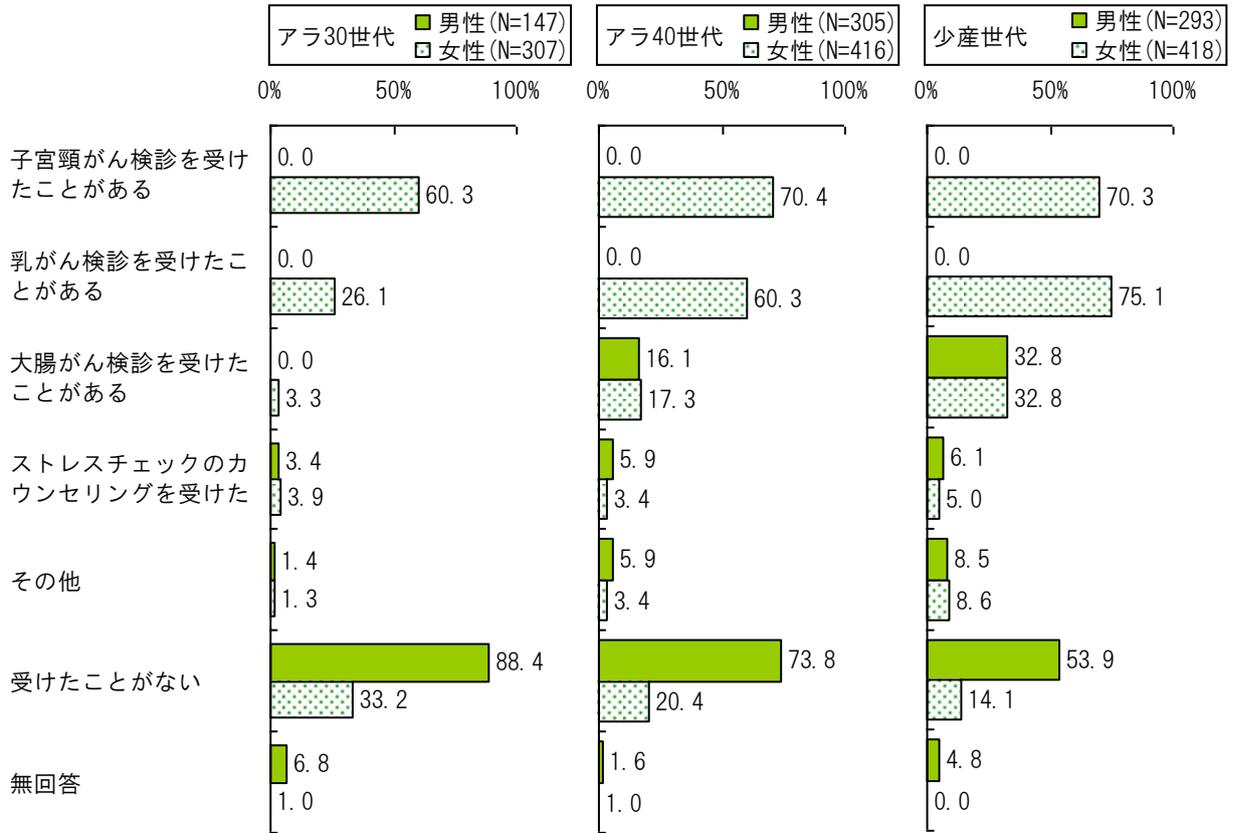
性別でみると、男性は「受けたことがない」が多く、50.2%となっています。受診経験者の中では、「大腸がん検診を受けたことがある」が33.0%と多くなっています。一方、女性は「子宮頸がん検診を受けたことがある」が60.7%と最も多く、次いで「乳がん検診を受けたことがある」が59.4%、「大腸がん検診を受けたことがある」が33.8%などとなっています。

◆ 年代別 ◆



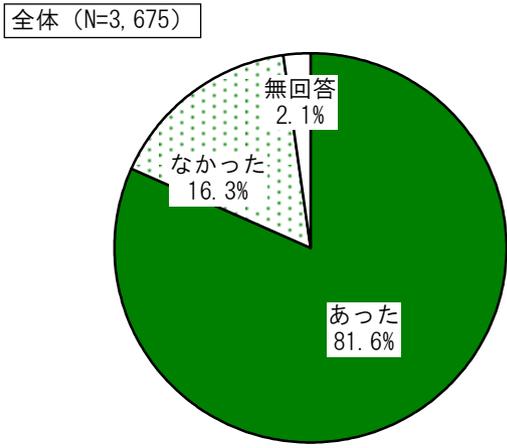
年代別でみると、アラ 30 世代やアラ 40 世代は「子宮頸がん検診を受けたことがある」が多くなっています。少産世代は「乳がん検診を受けたことがある」が多く、44.1%となっています。団塊世代や高齢世代は「大腸がん検診を受けたことがある」が多くなっています。一方、「受けたことがない」は年代が下がるほど多く、アラ 30 世代では5割を超えています。

◆ 性・年代別 ◆



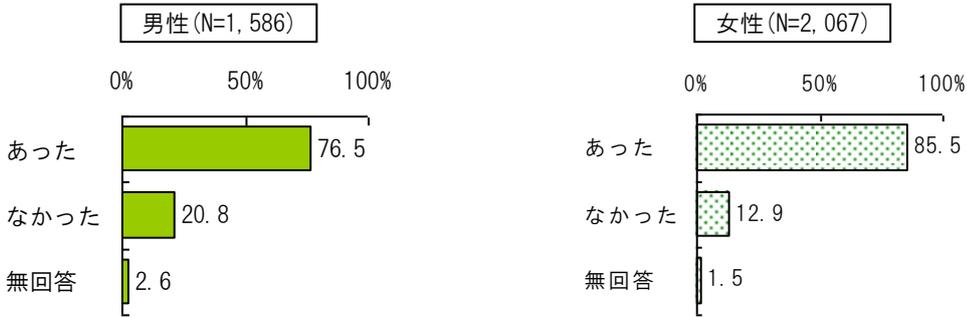
性・年代別でみると、女性の少産世代は「子宮頸がん検診を受けたことがある」と「乳がん検診を受けたことがある」がいずれも7割を超えています。男女ともに年代が上がるほど「大腸がん検診を受けたことがある」が多く、高齢世代はいずれも5割を占めています。

問19 この1年の間に悩み事やストレスを感じたことがありますか。(○は1つ)



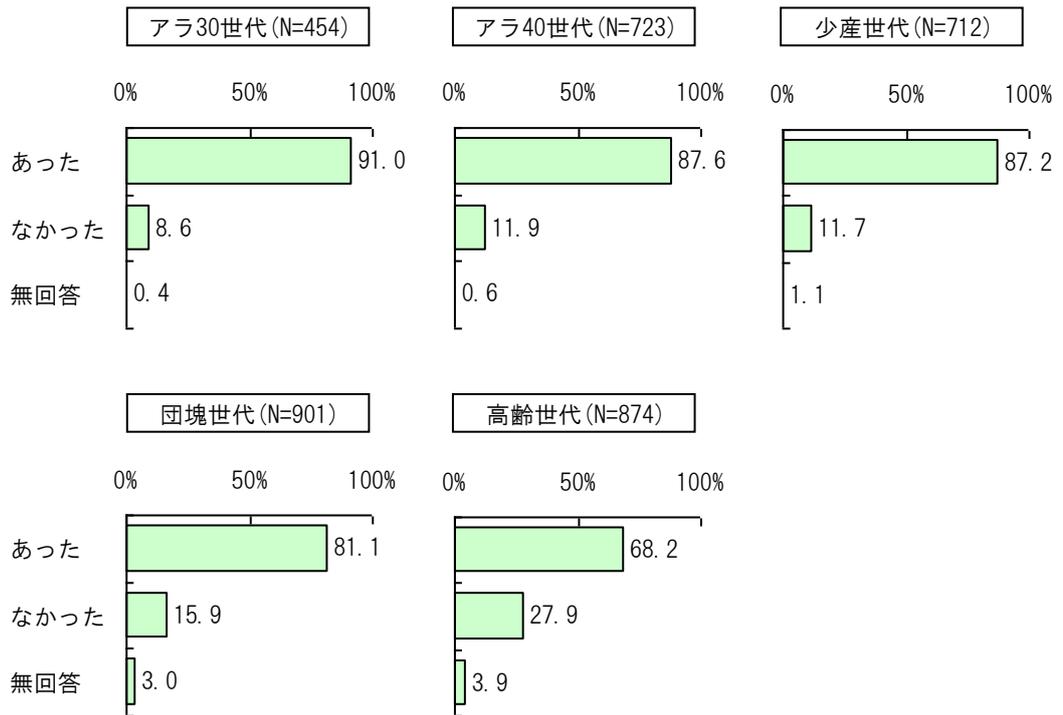
1年間に悩み事やストレスを感じたことの有無は、「あった」が81.6%、「なかった」が16.3%となっています。

◆ 性別 ◆



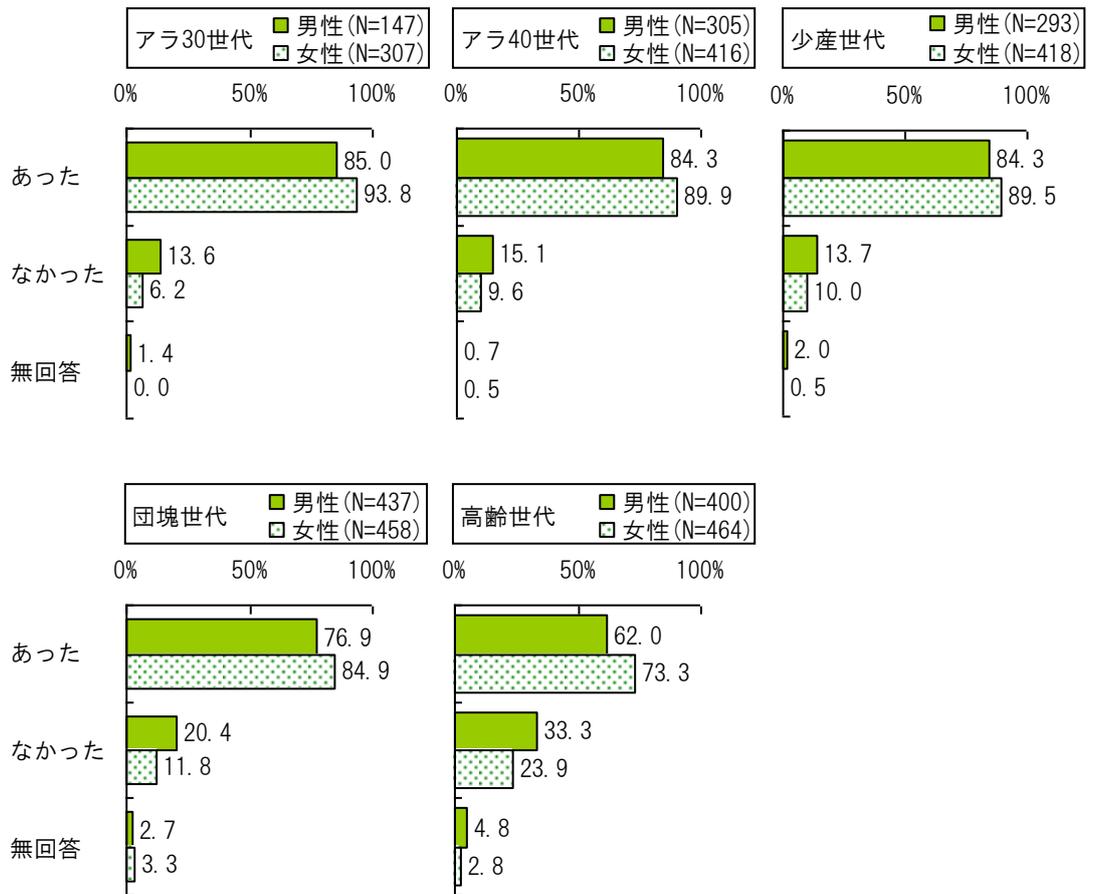
性別で見ると、男女ともに「あった」が多く、女性は85.5%、男性は76.5%と、女性のほうが9.0ポイント高くなっています。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、年代が下がるほど「あった」が多く、アラ 30 世代は 91.0%、アラ 40 世代は 87.6%、少産世代は 87.2%などとなっています。

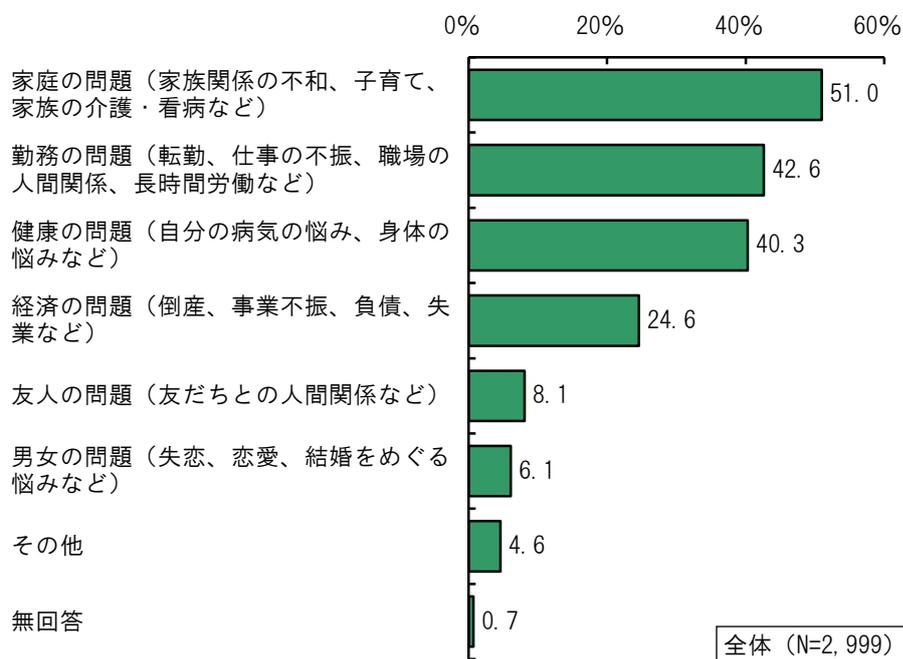
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別でみると、女性は「あった」が多く、アラ30世代は93.8%、アラ40世代は89.9%、少産世代は89.5%などとなっています。

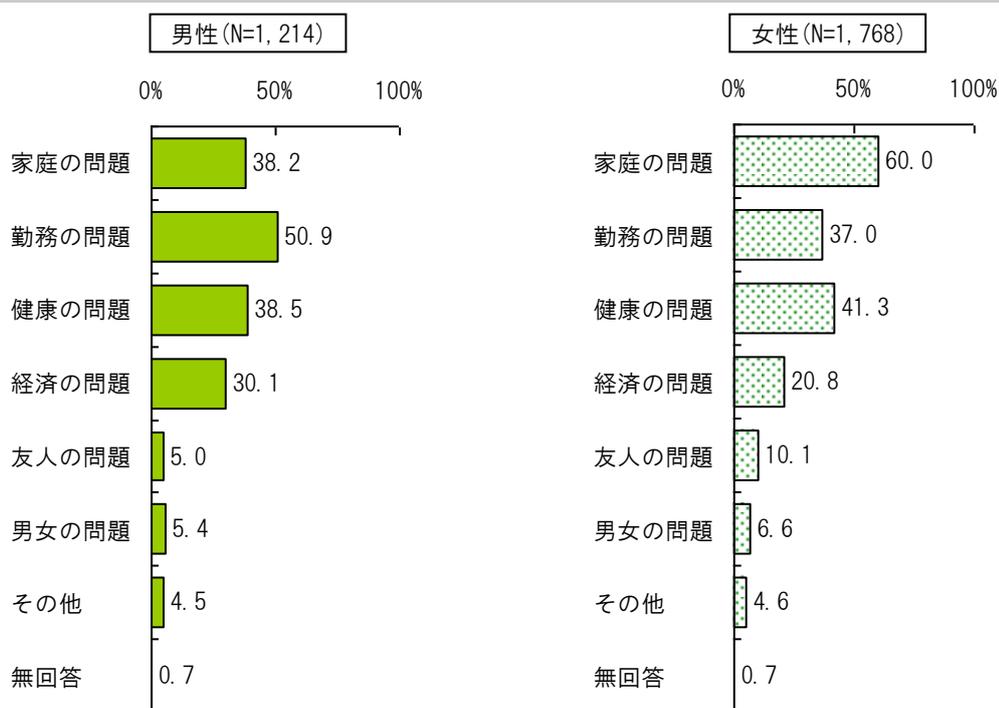
※問19で「あった」と答えた方のみ

問19-1 それは、どのような事柄が原因ですか。(〇はいくつでも)



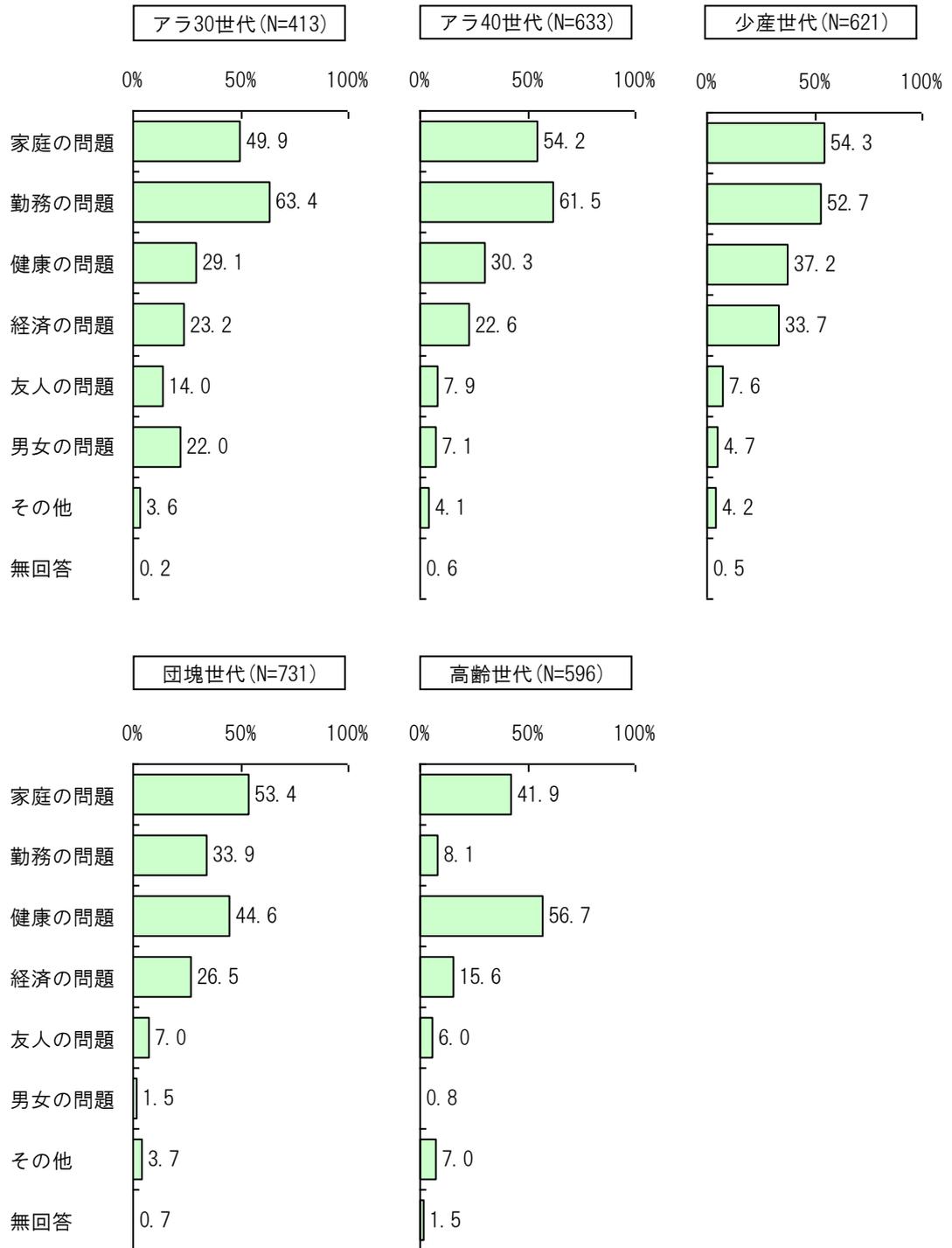
悩み事やストレスの原因は、「家庭の問題 (家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病など)」が 51.0%と最も多く、次いで「勤務の問題 (転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働など)」が 42.6%、「健康の問題 (自分の病気の悩み、身体の悩みなど)」が 40.3%などとなっています。

◆ 性別 ◆



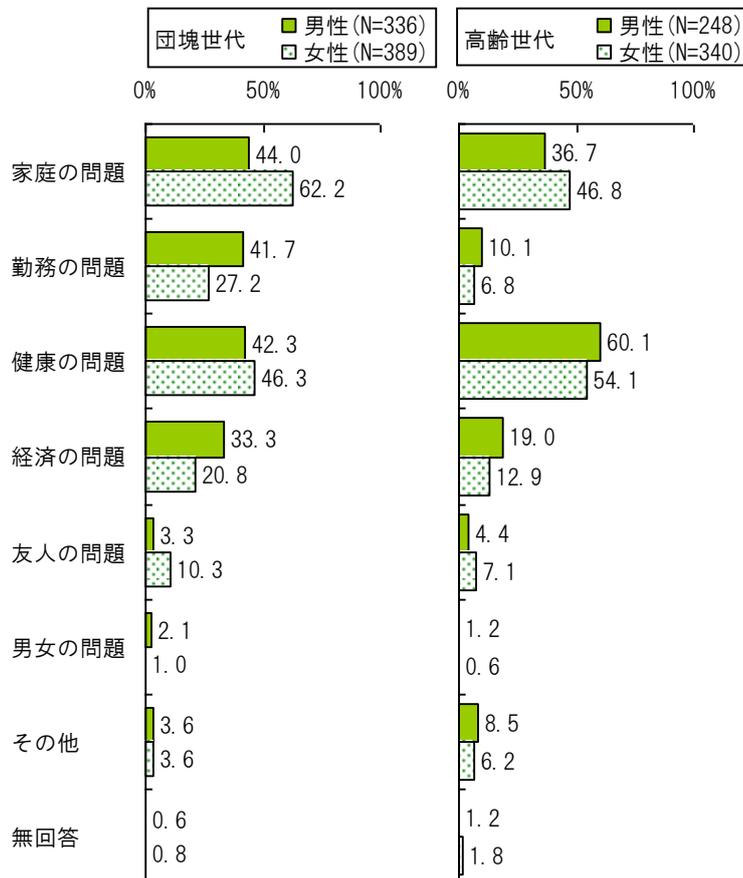
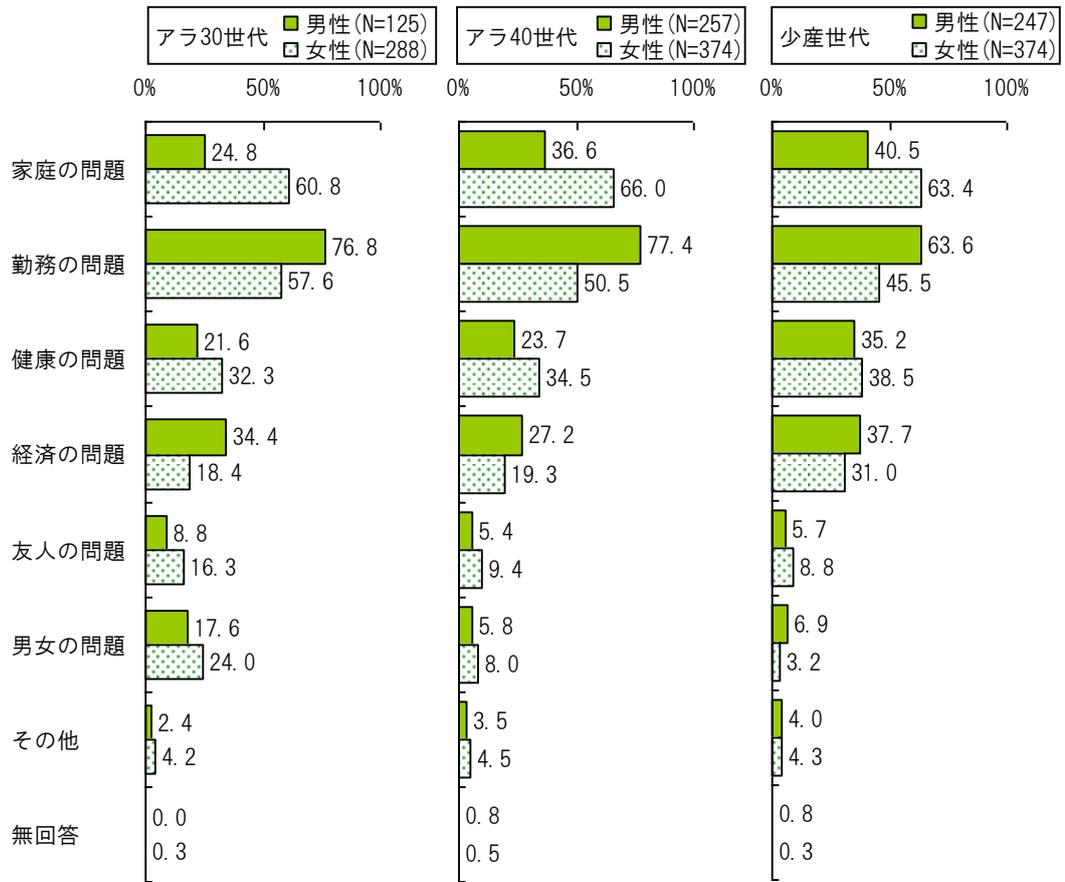
性別でみると、男性は「勤務の問題」が 50.9%と最も多くなっています。一方、女性は「家庭の問題」が 60.0%と最も多くなっています。

◆ 年代別 ◆



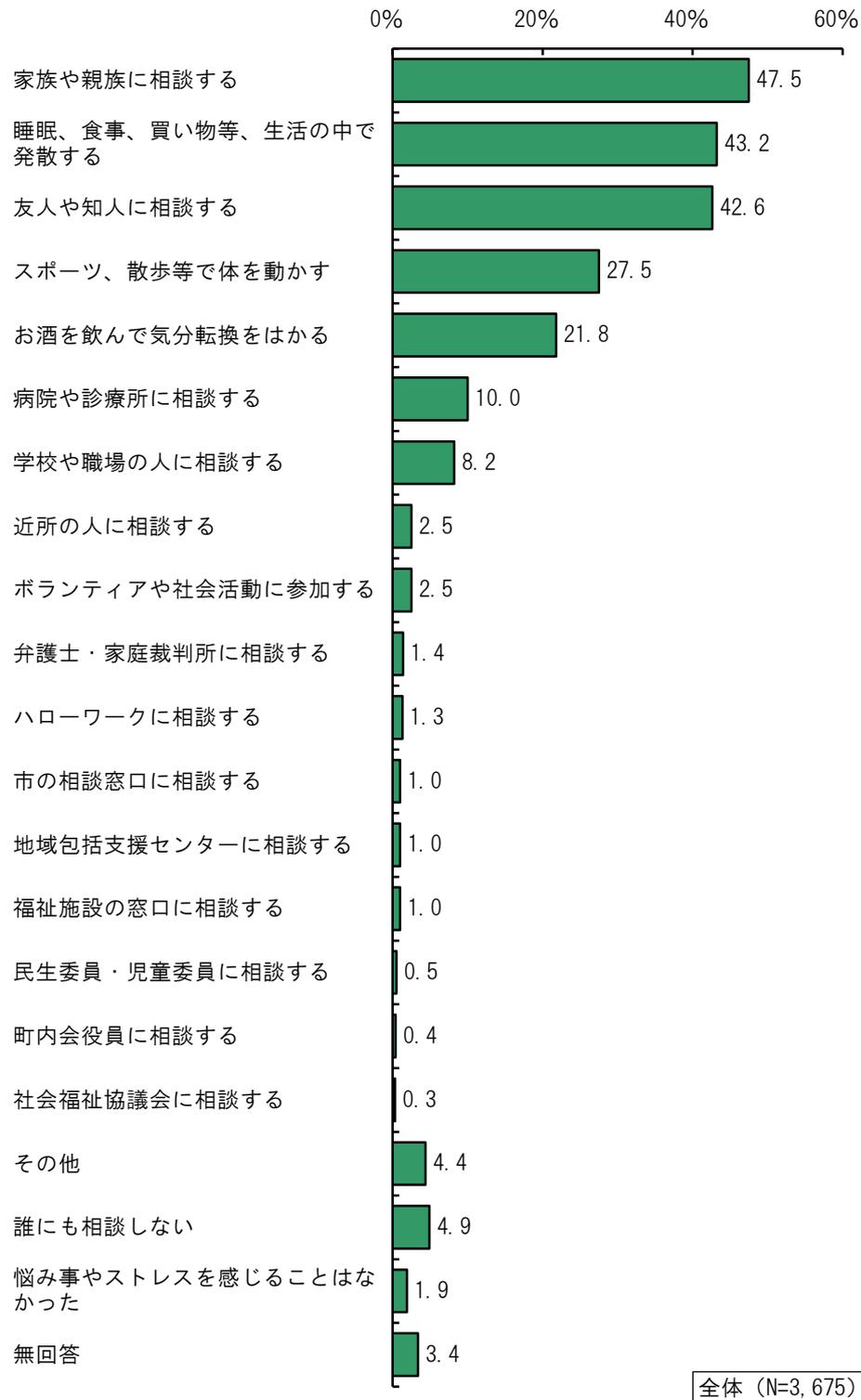
年代別でみると、アラ30世代やアラ40世代は「勤務の問題」が多く、いずれも6割を超えています。少産世代や団塊世代は「家庭の問題」が多く、いずれも5割を超えています。高齢世代は「健康の問題」が多く、5割を超えています。

◆ 性・年代別 ◆



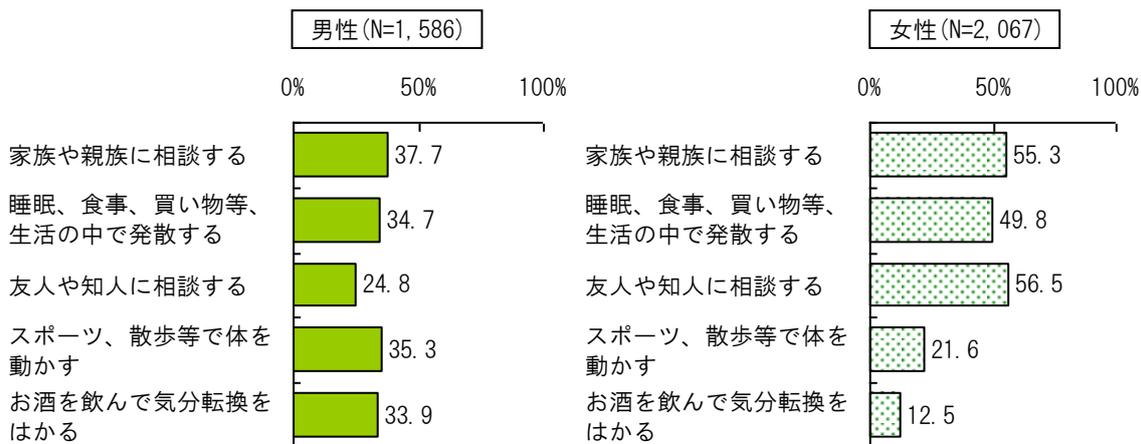
性・年代別で見ると、女性のアラ 30 世代から団塊世代までは「家庭の問題」が多く、いずれも 6 割を超えています。男性のアラ 30 世代から少産世代までは「勤務の問題」が多く、いずれも 6 割を超えています。男女ともに高齢世代は「健康の問題」が多くなっています。

問20 悩み事やストレスを解消するためにどのようなことをしますか。(〇はいくつでも)



悩み事やストレスの解消方法は、「家族や親族に相談する」が 47.5%と最も多く、次いで「睡眠、食事、買い物等、生活の中で発散する」が 43.2%、「友人や知人に相談する」が 42.6%などとなっています。

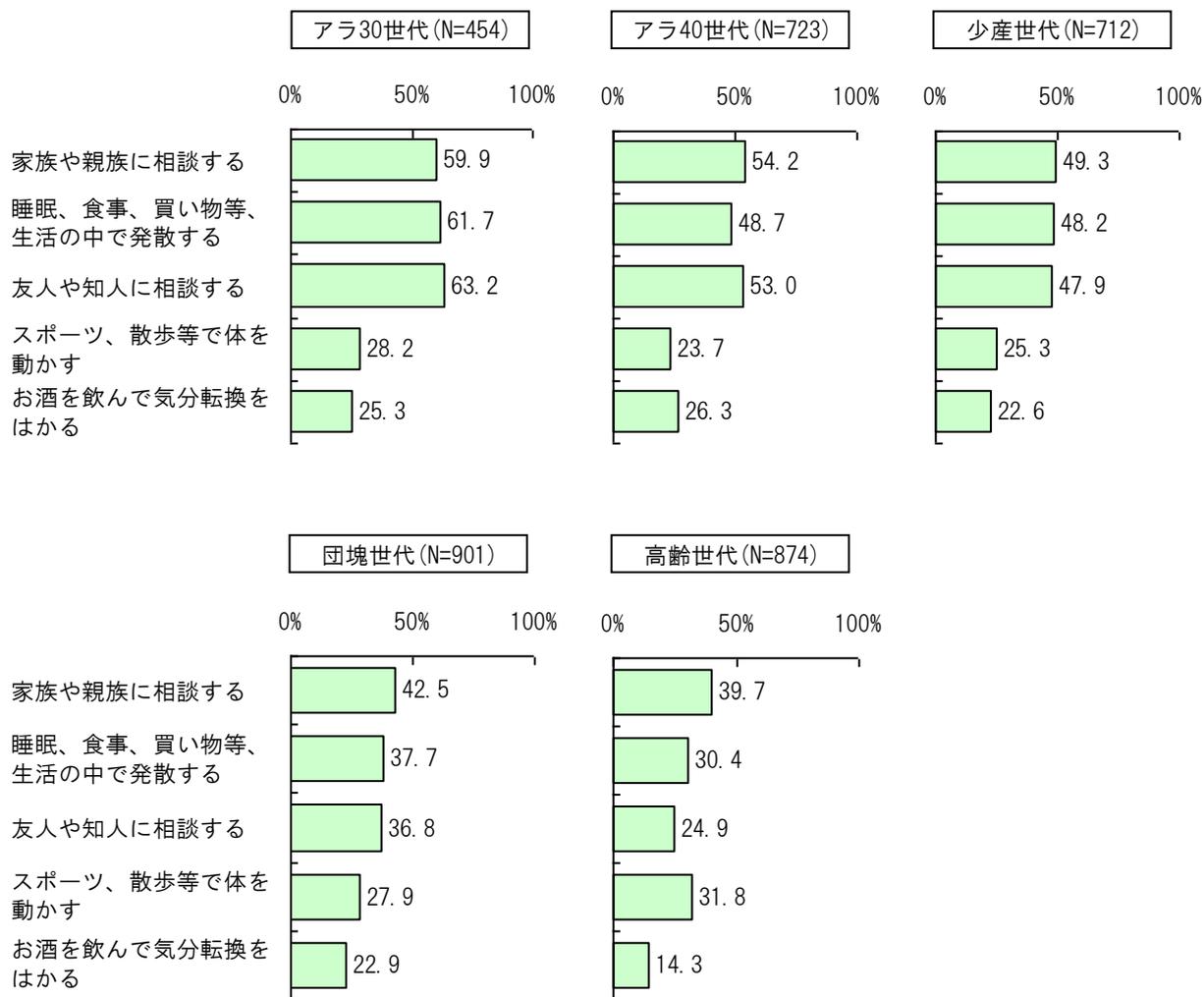
◆ 性別 ◆



性別で見ると、女性は上位3項目が男性よりも多く、「友人や知人に相談する」が56.5%、「家族や親族に相談する」が55.3%、「睡眠、食事、買い物等、生活の中で発散する」が49.8%となっています。男性は「スポーツ、散歩等で体を動かす」の35.3%や、「お酒を飲んで気分転換をはかる」の33.9%が女性よりも多くなっています。

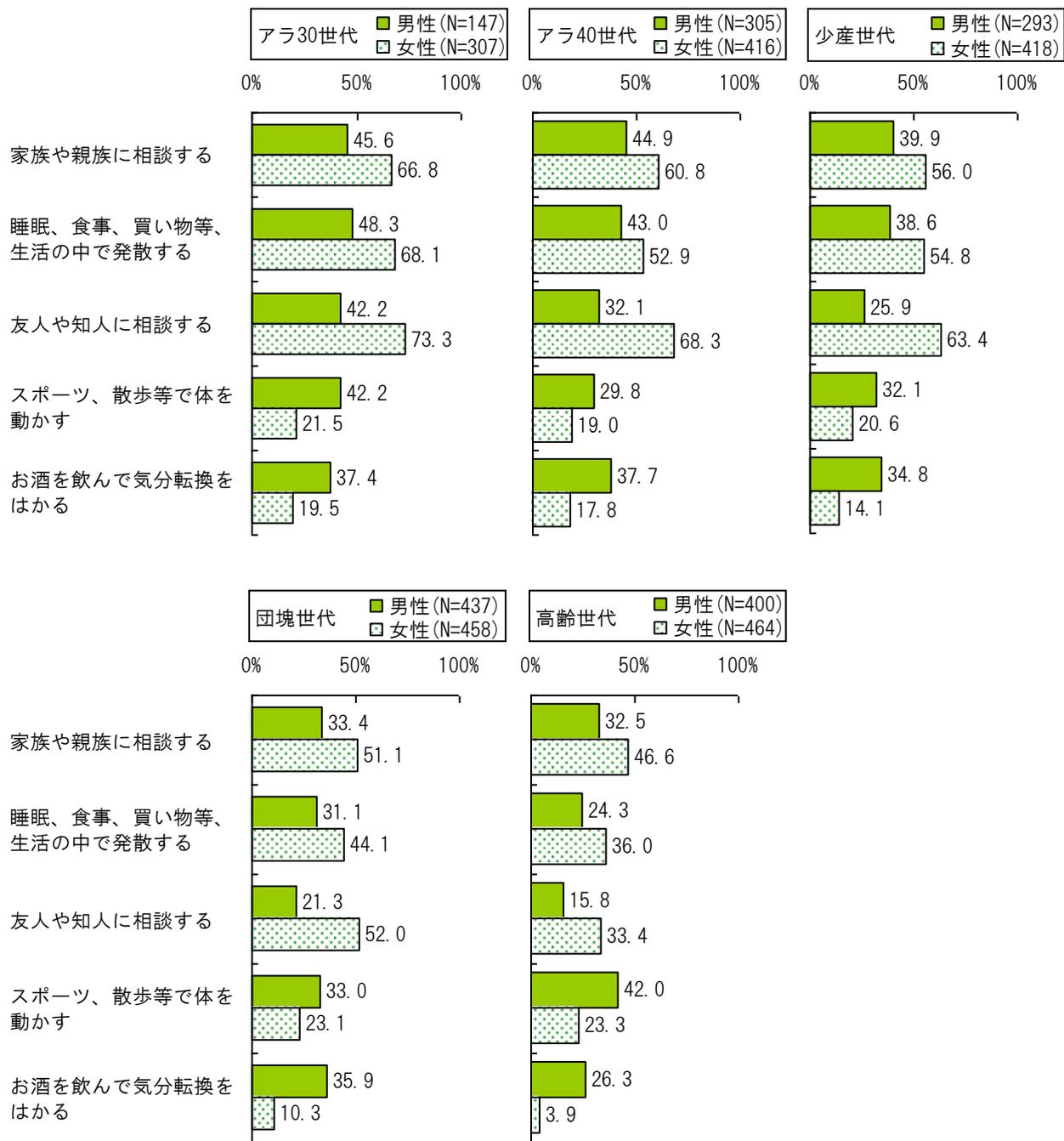
上位5項目を掲載

◆ 年代別 ◆



年代別でみると、年代が下がるほど上位3項目が多くなっています。高齢世代は「スポーツ、散歩等で体を動かす」が31.8%と他の年代よりも多くなっています。

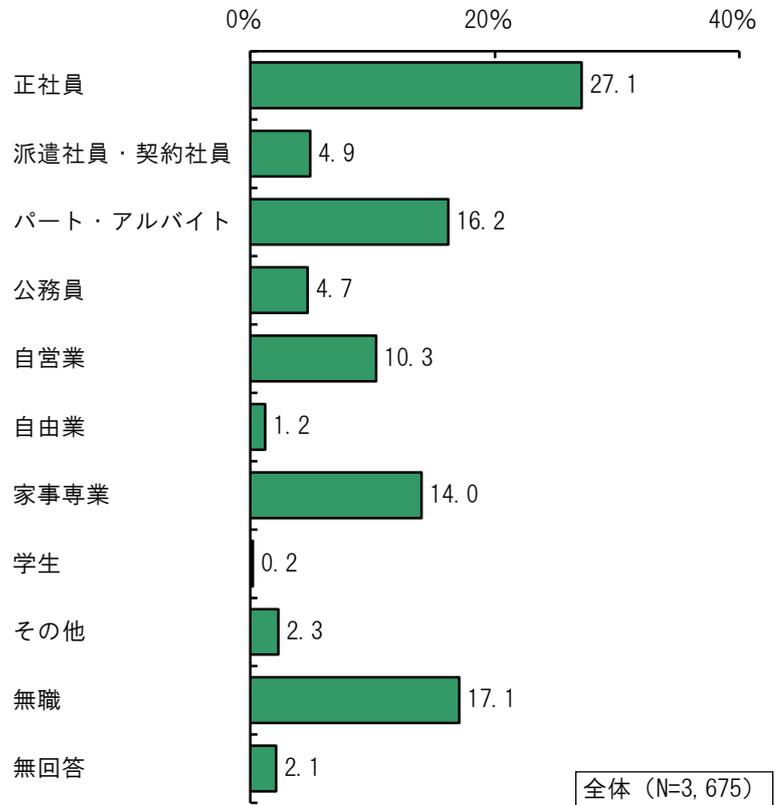
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別で見ると、女性はアラ 30 世代から団塊世代までで「友人や知人に相談する」が多く、いずれも 5 割を超えています。男性のアラ 30 世代や高齢世代は「スポーツ、散歩等で体を動かす」が多く、4 割を超えています。

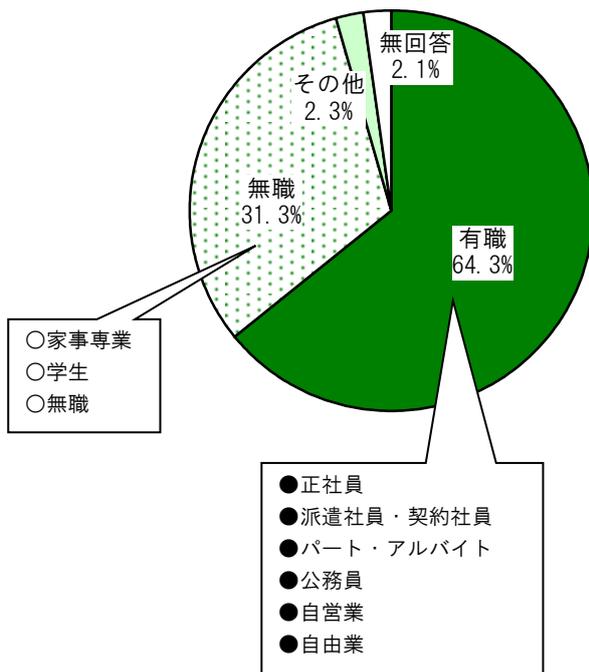
3 就労についてうかがいます。

問21 あなたは次のうちどれにあてはまりますか。(○は主なもの1つ)

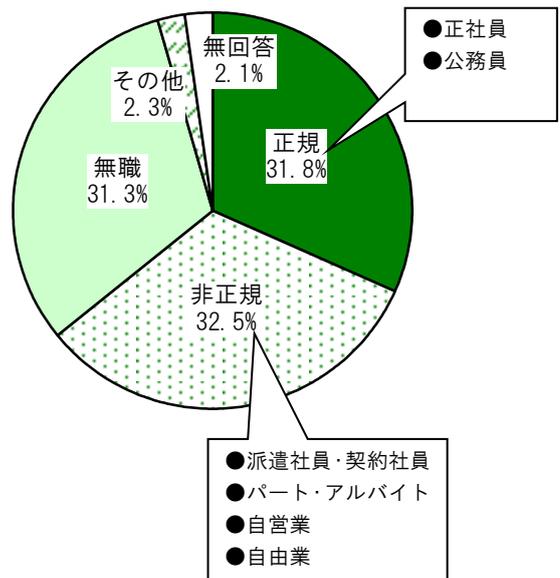


『就労状況』とりまとめ

全体 (N=3,675)



全体 (N=3,675)



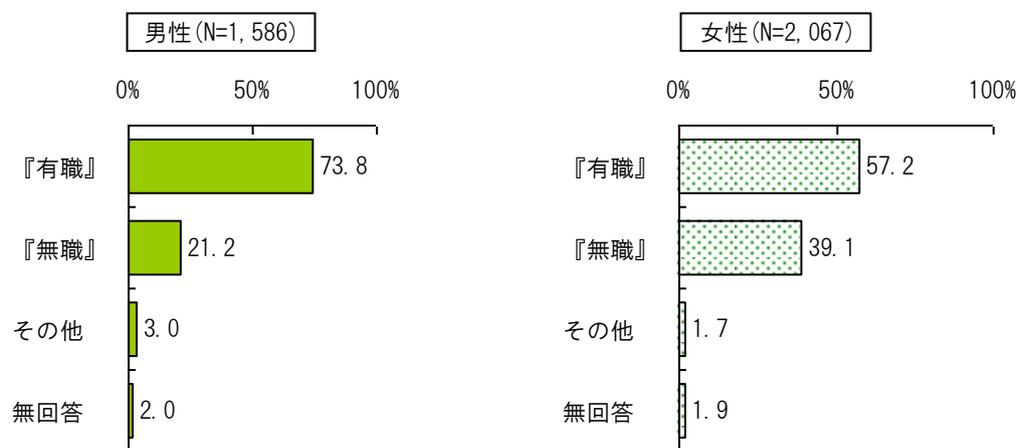
※百分率は小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならないことがあります。

職業は、「正社員」が27.1%と最も多く、次いで「無職」が17.1%、「パート・アルバイト」が16.2%などとなっています。

就労状況は、『有職』が64.3%、『無職』が31.3%となっています。また、『正規』は31.8%、『非正規』は32.5%となっています。

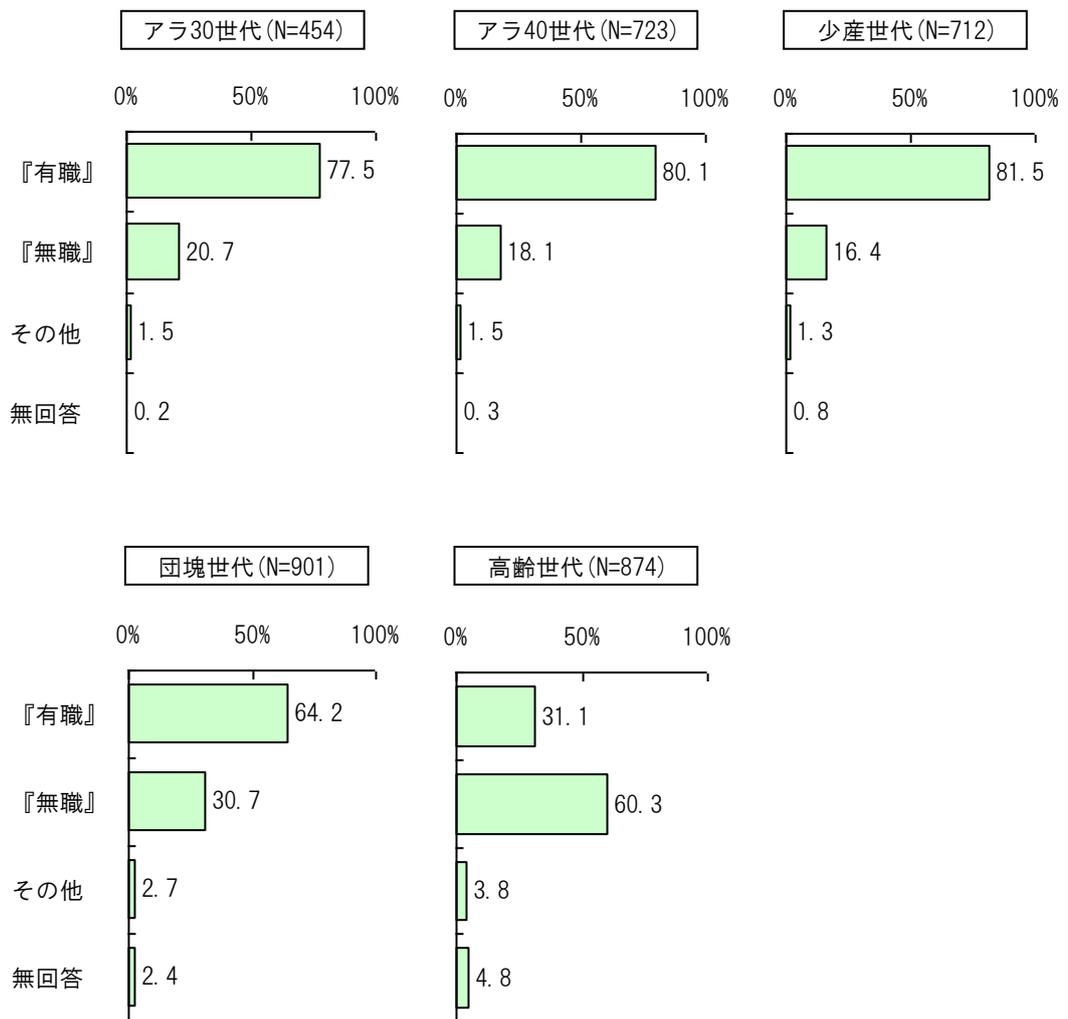
『就労状況』 とりまとめ

◆ 性別 ◆



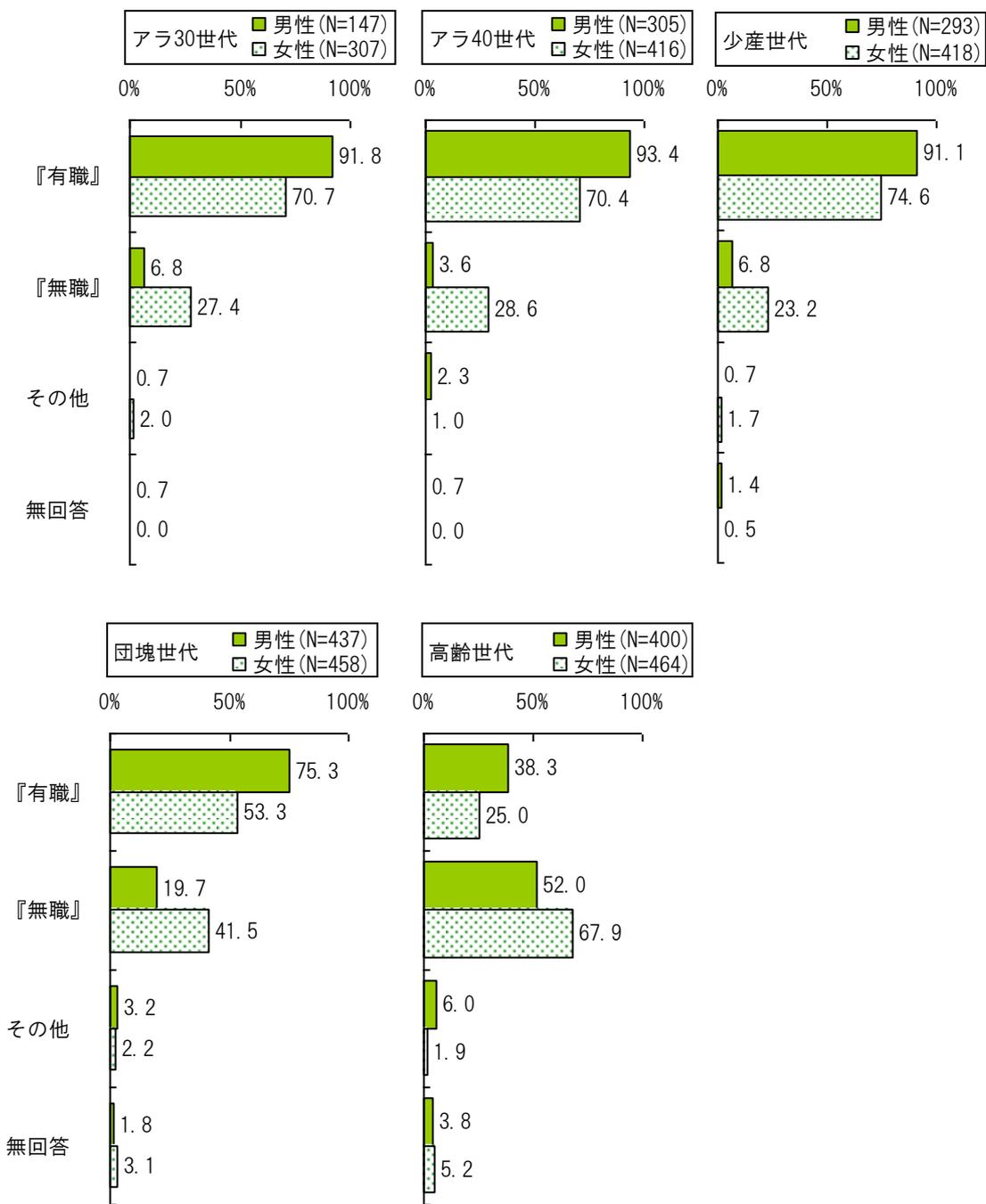
性別で見ると、男女ともに『有職』が多く、男性は73.8%、女性は57.2%となっています。女性は『無職』が男性よりも多く、39.1%となっています。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、アラ 30 世代から団塊世代までは『有職』が多く、いずれも 6 割を超えています。一方、高齢世代は『無職』が多く、6 割を占めています。

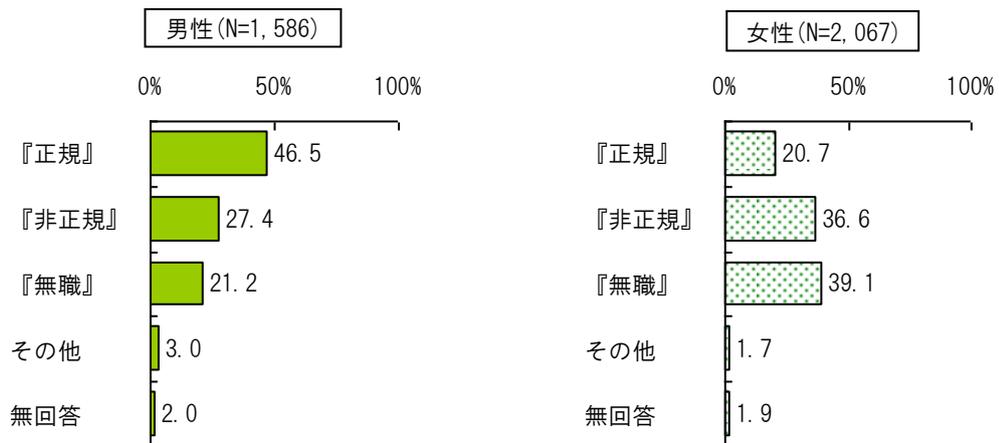
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別で見ると、男女ともに高齢世代は『無職』が多く、女性は67.9%、男性は52.0%となっています。

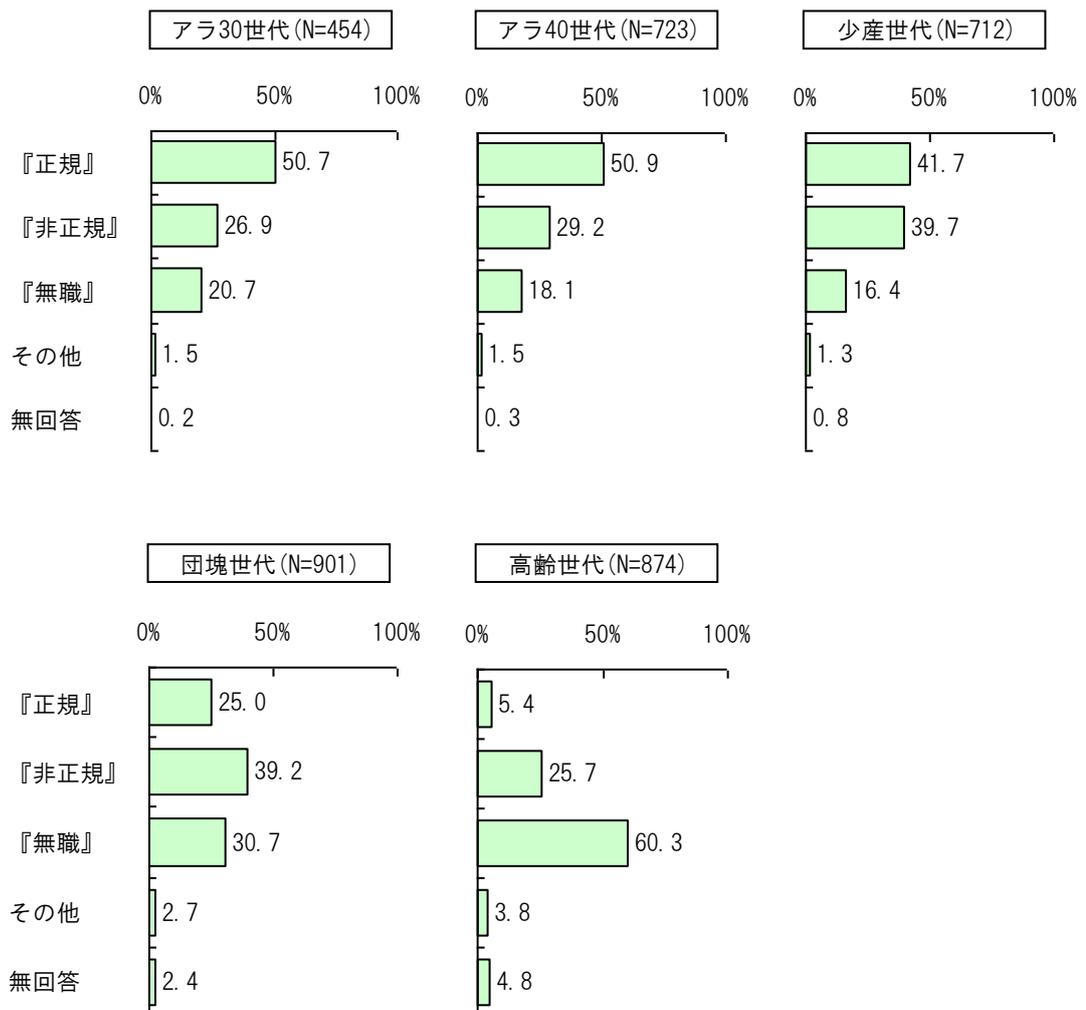
『就労状況』 とりまとめ

◆ 性別 ◆



性別でみると、男性は『正規』が多く、46.5%となっています。一方、女性は『無職』や『非正規』が多く、3割を超えています。

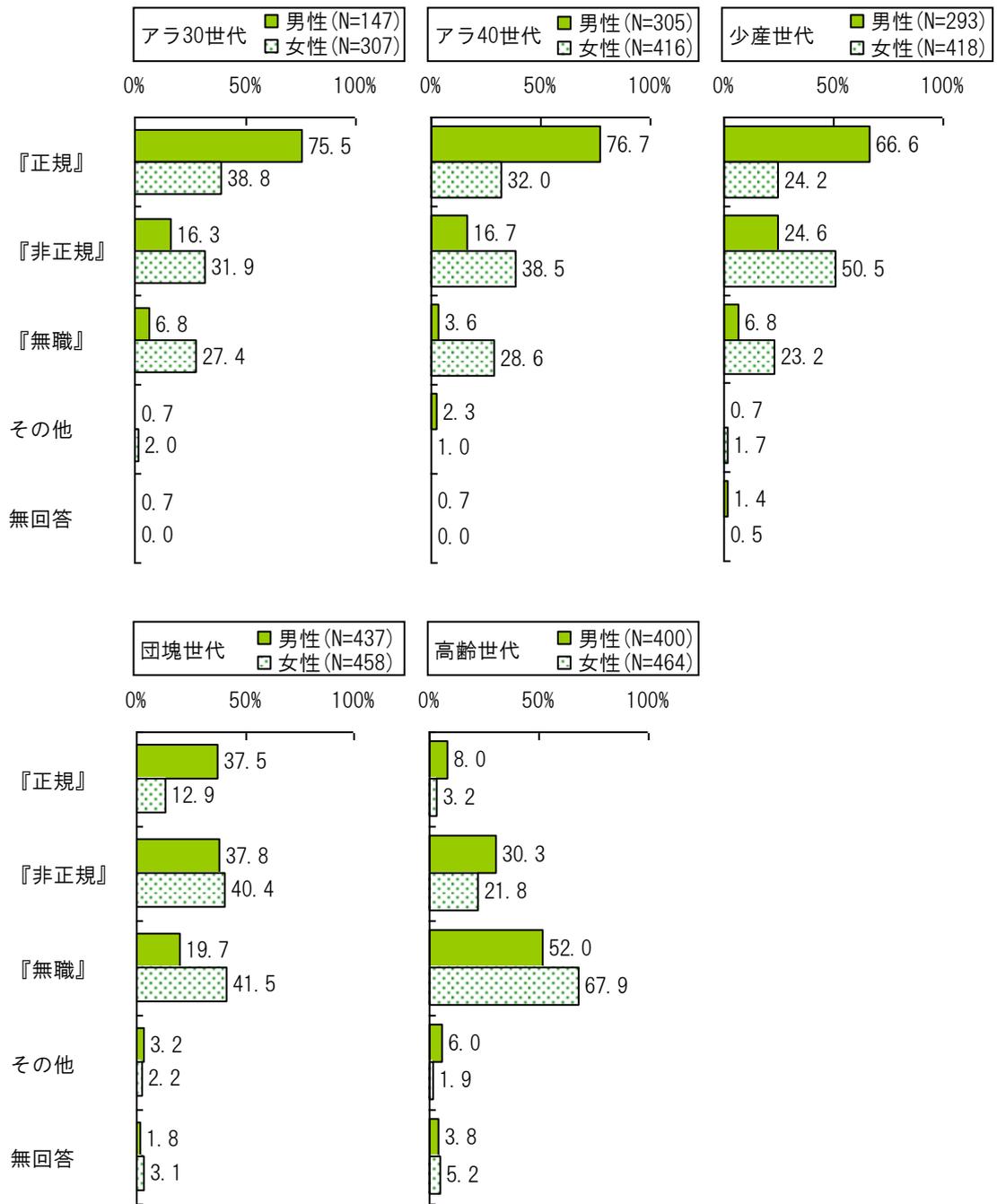
◆ 年代別 ◆



年代別でみると、アラ30世代から少産世代までは『正規』が多く、いずれも4割を超えています。団塊世代は『非正規』が多く、4割を占めています。高齢世代は『無職』が多く、6割を占めています。

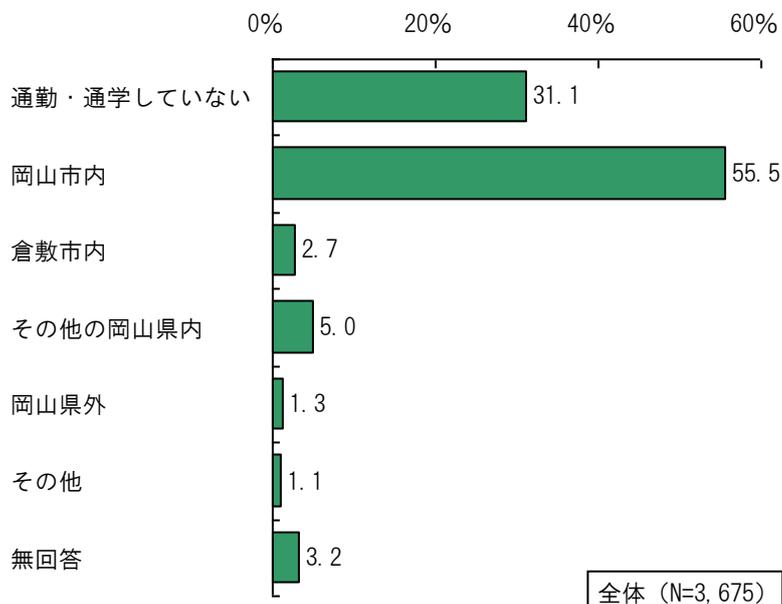
『就労状況』 とりまとめ

◆ 性・年代別 ◆



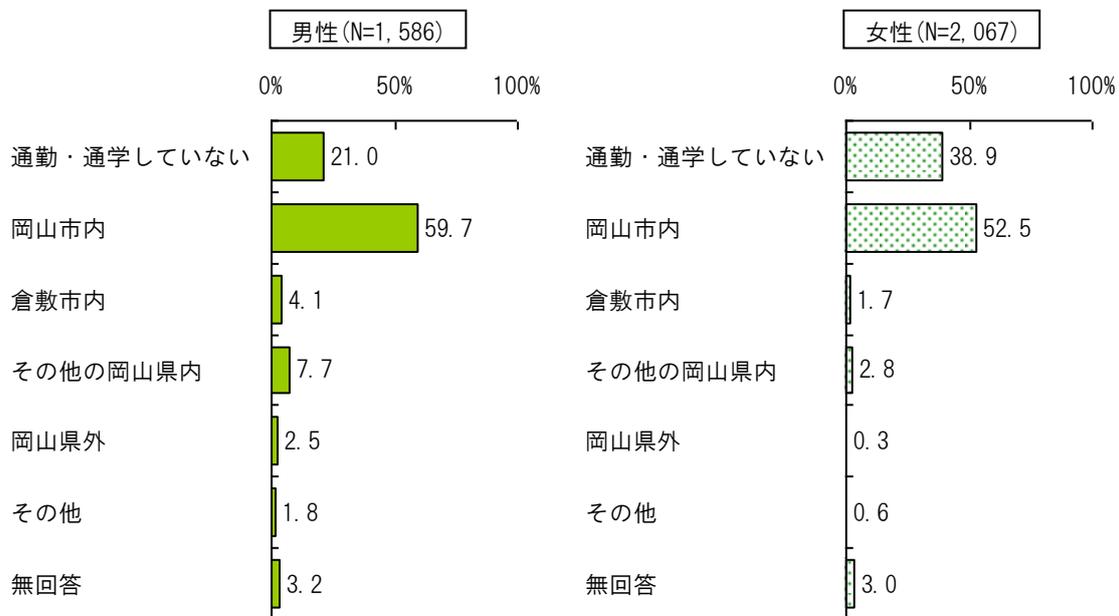
性・年代別で見ると、女性は年代が下がるほど『正規』が多く、アラ 30 世代は 38.8% となっています。

問22 あなたの現在の主な通勤先（学生の方は通学先）はどちらですか。（○は主なもの1つ）



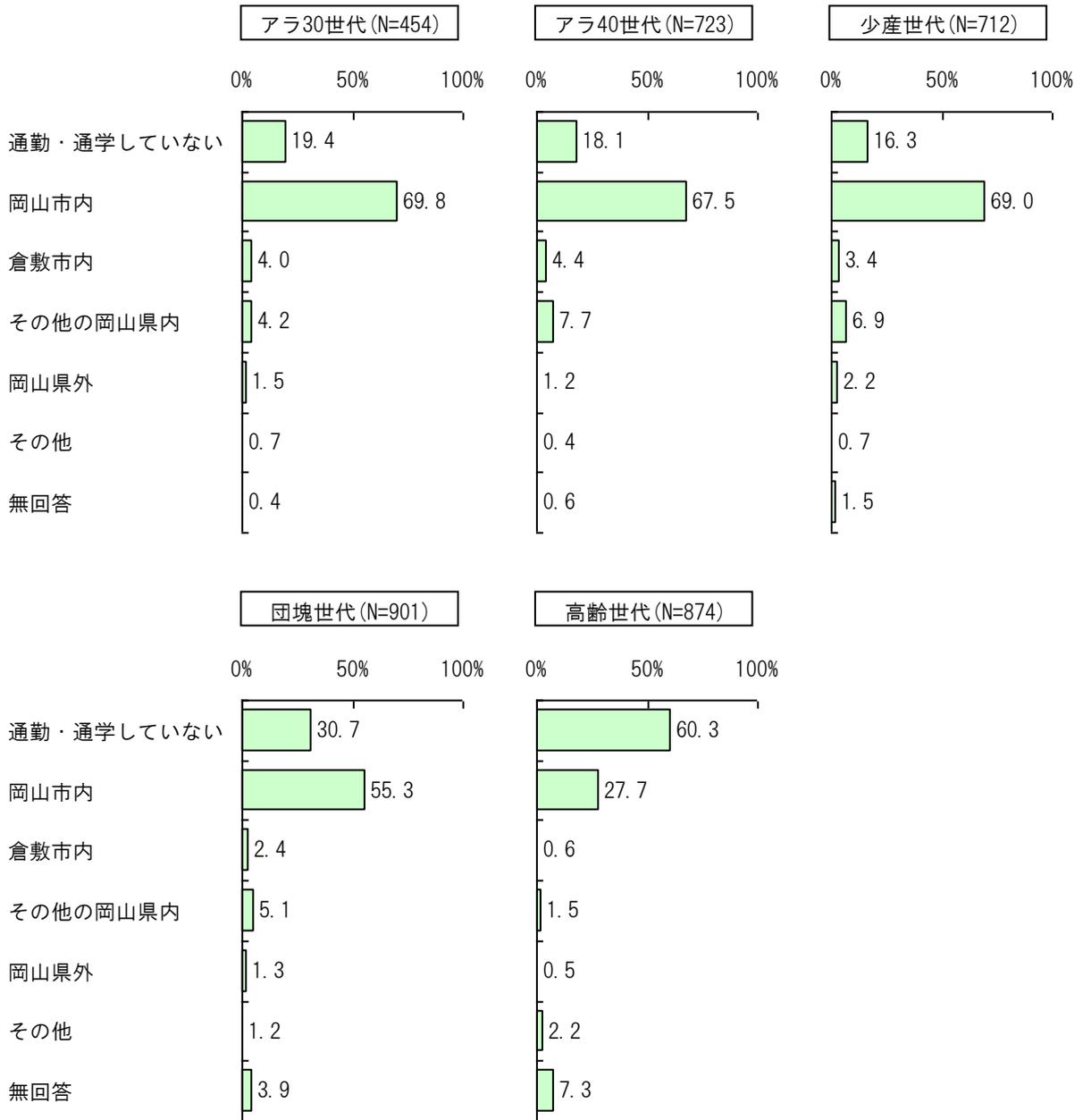
主な通勤・通学先は、「岡山市内」が55.5%と最も多く、次いで「通勤・通学していない」が31.1%、「その他の岡山県内」が5.0%などとなっています。

◆ 性別 ◆



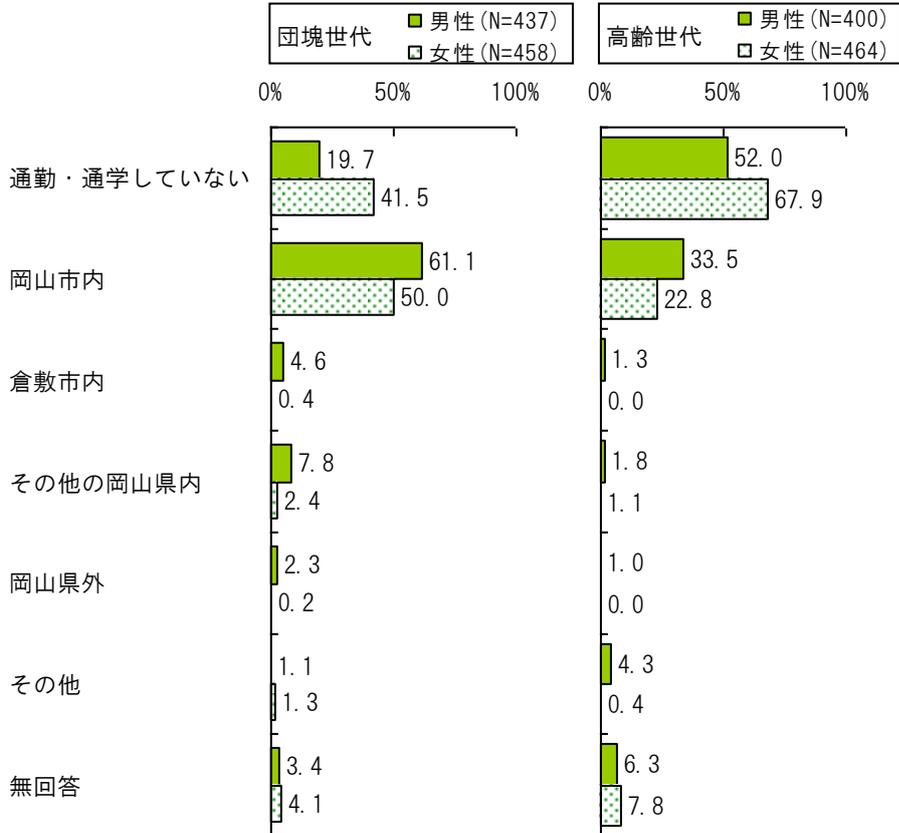
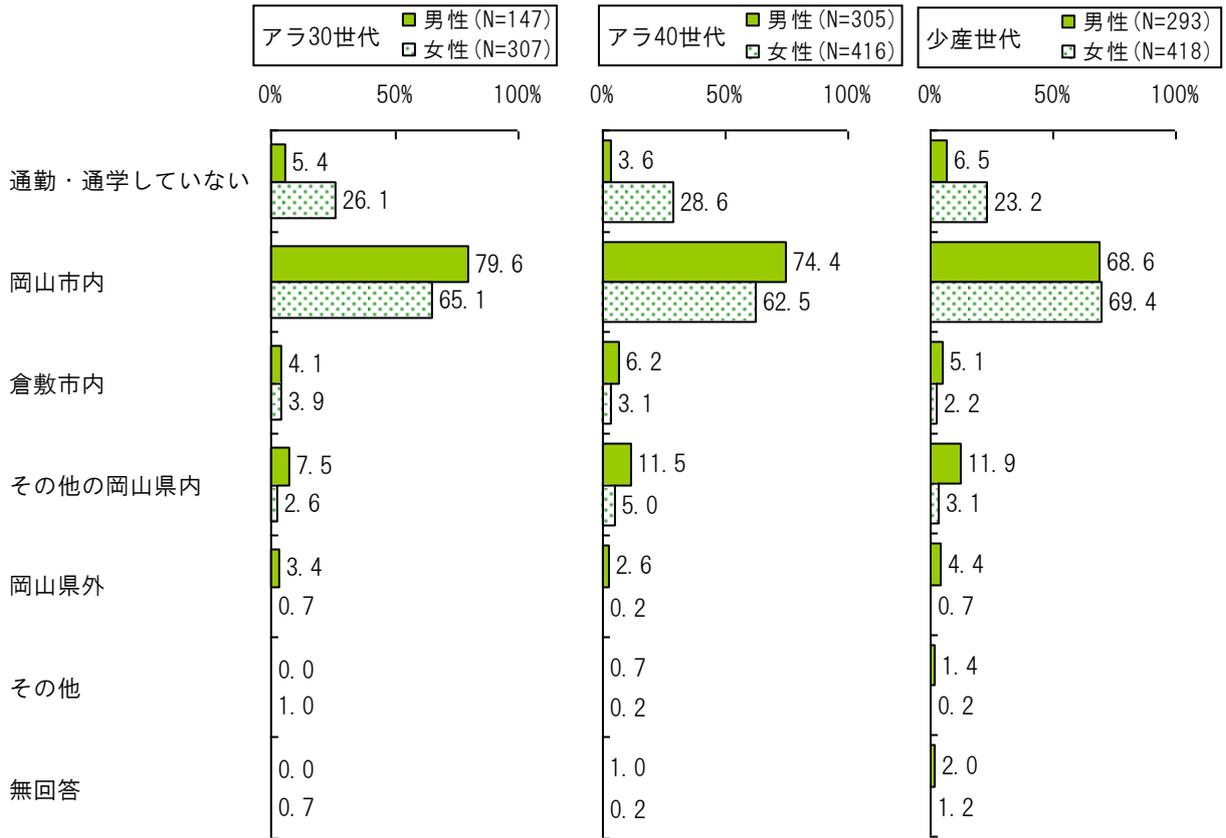
性別で見ると、男女ともに「岡山市内」が多く、男性は59.7%、女性は52.5%となっています。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、アラ30世代から団塊世代までは「岡山市内」が多く、いずれも5割を超えています。高齢世代は「通勤・通学していない」が多く、6割を占めています。

◆ 性・年代別 ◆

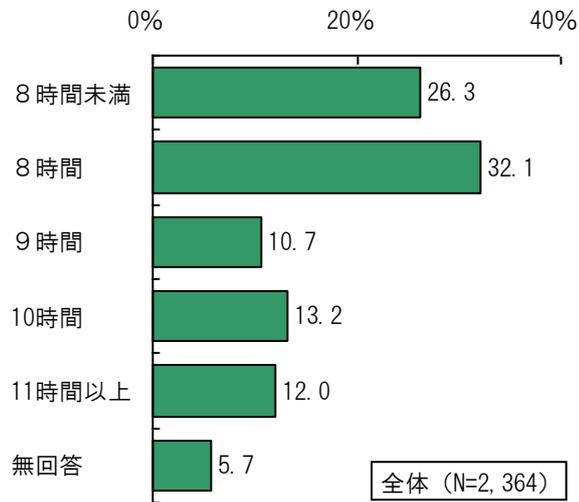


性・年代別でみると、男女ともに高齢世代は「通勤・通学していない」が多く、女性は67.9%、男性は52.0%となっています。

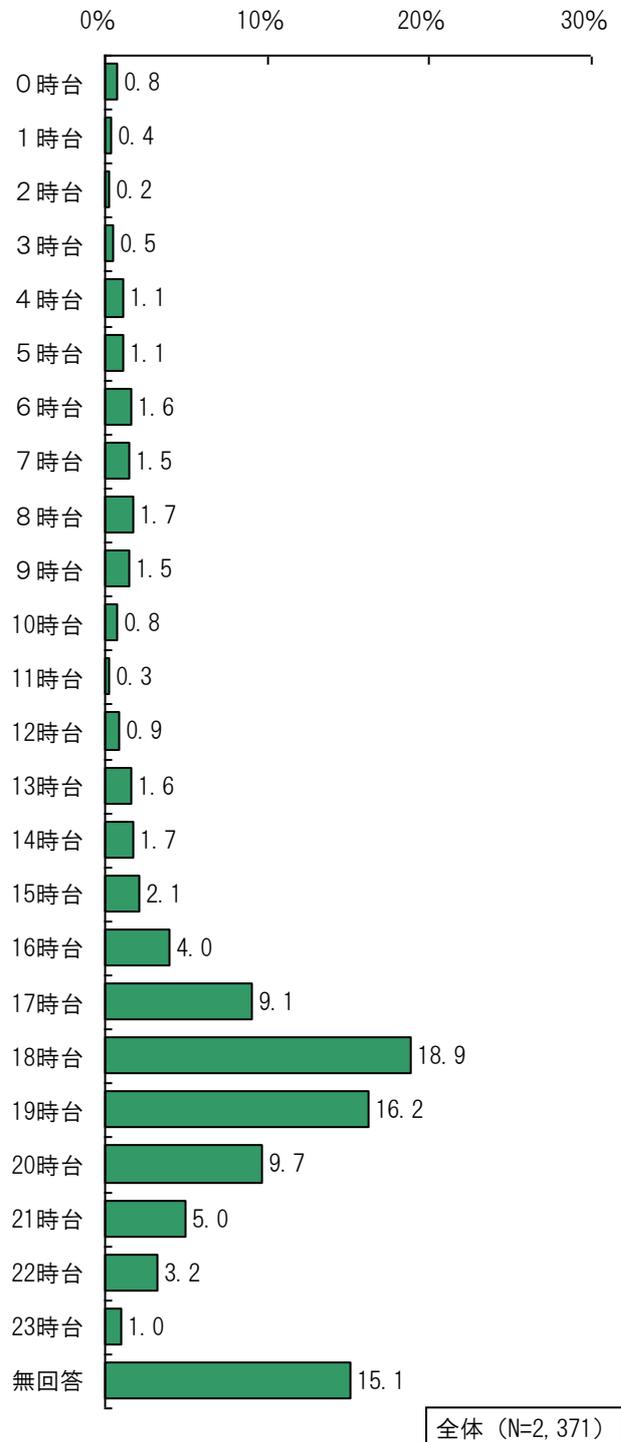
※問22で『通勤・通学している』と答えた方のみ

問22-1 1日の平均勤務時間と平均帰宅時刻（24時間制で）を（ ）にお書きください。

◆平均労働時間（通勤している人のみ）



◆帰宅時間帯（通勤・通学している人のみ）



平均勤務時間は、「8時間」が32.1%と最も多く、次いで「8時間未満」が26.3%、「10時間」が13.2%などとなっています。

平均帰宅時間は、「18時台」が18.9%と最も多く、次いで「19時台」が16.2%、「20時台」が9.7%などとなっています。

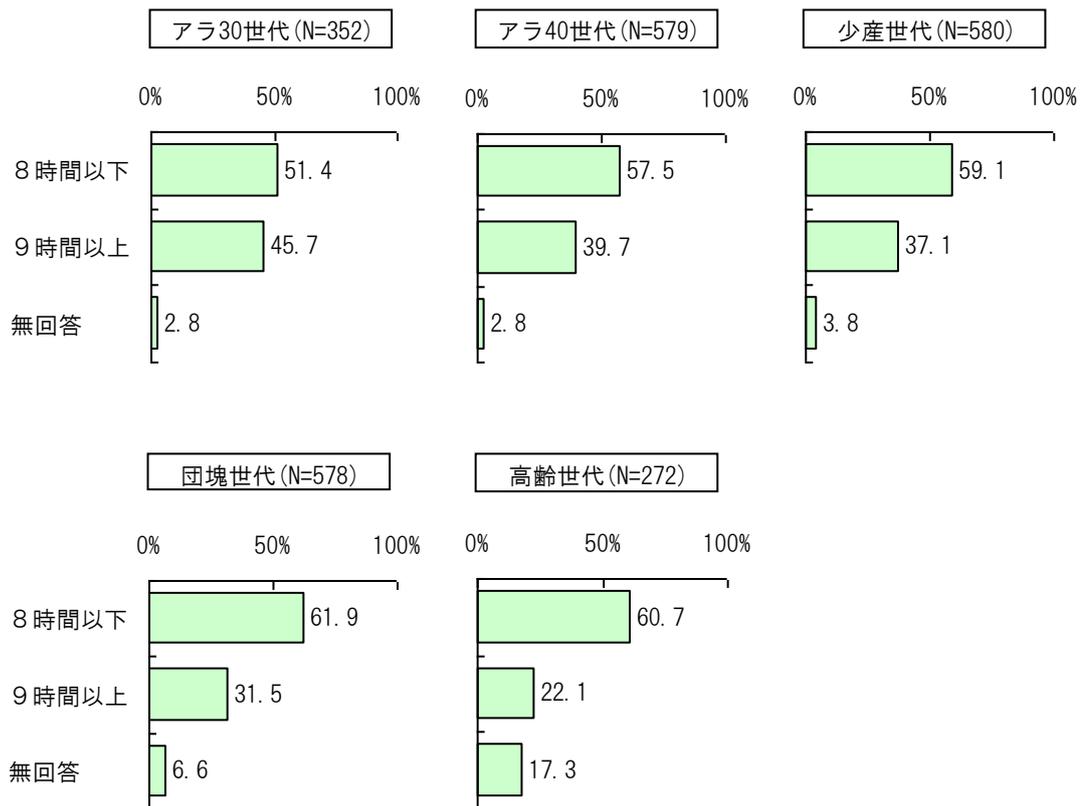
平均労働時間（通勤している人のみ）

◆ 性別 ◆



性別で見ると、男性は「9時間以上」が多く、51.3%となっています。一方、女性は「8時間以下」が多く、74.0%となっています。

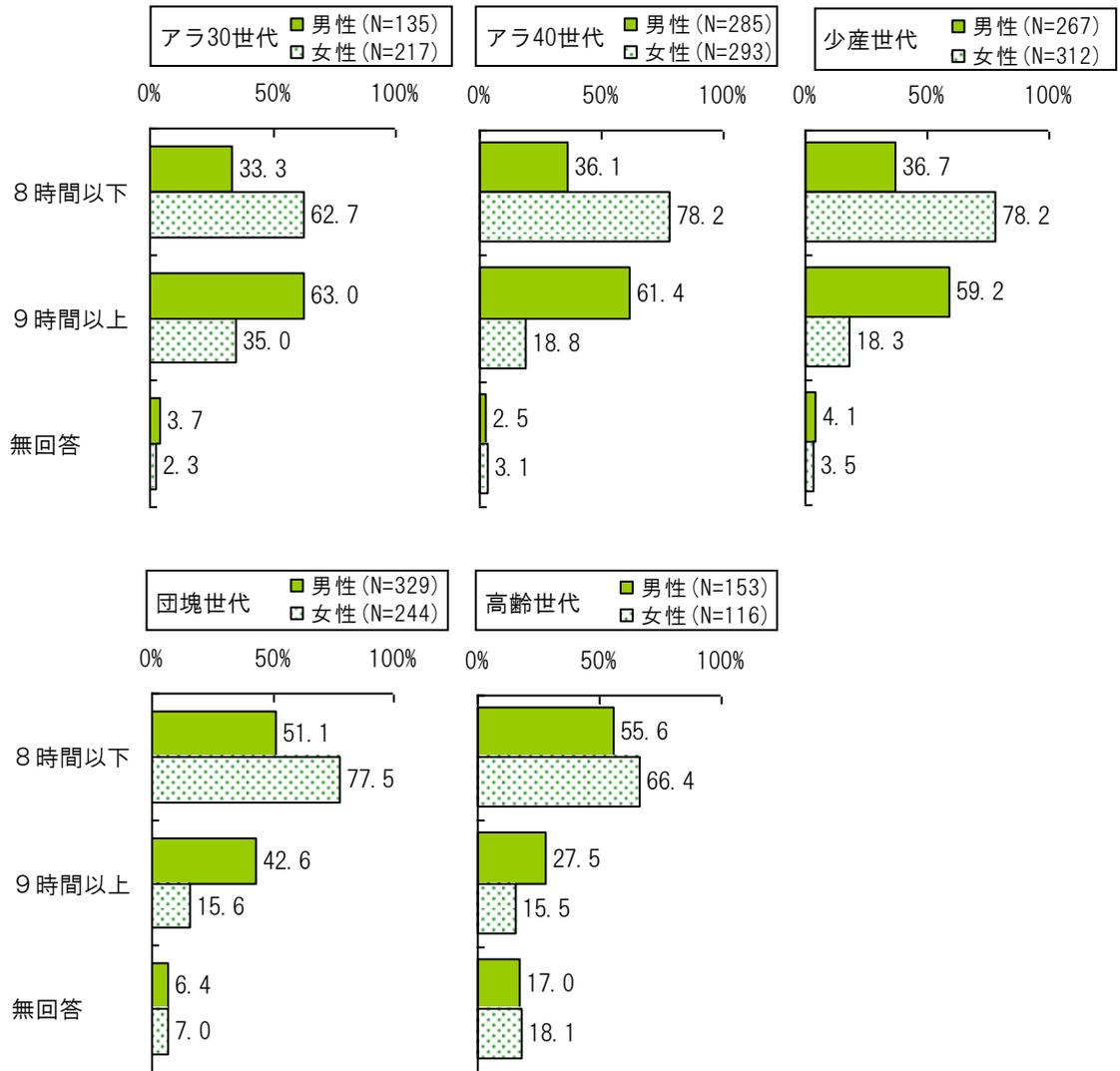
◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、いずれの年代も「8時間以下」が多く、団塊世代は61.9%、高齢世代は60.7%、少産世代は59.1%などとなっています。

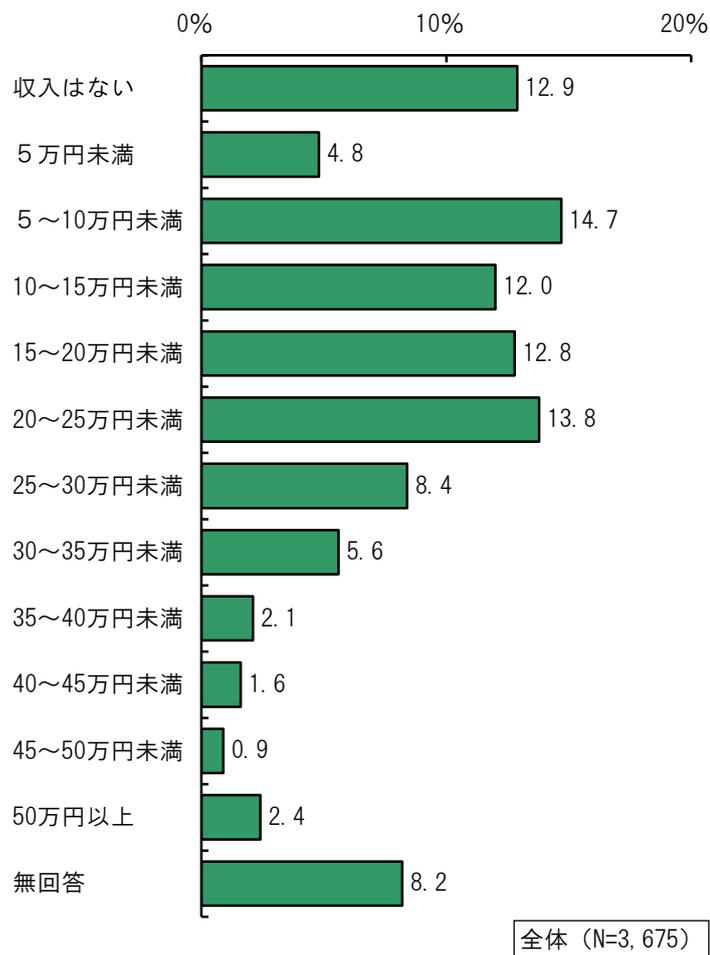
平均労働時間（通勤している人のみ）

◆ 性・年代別 ◆

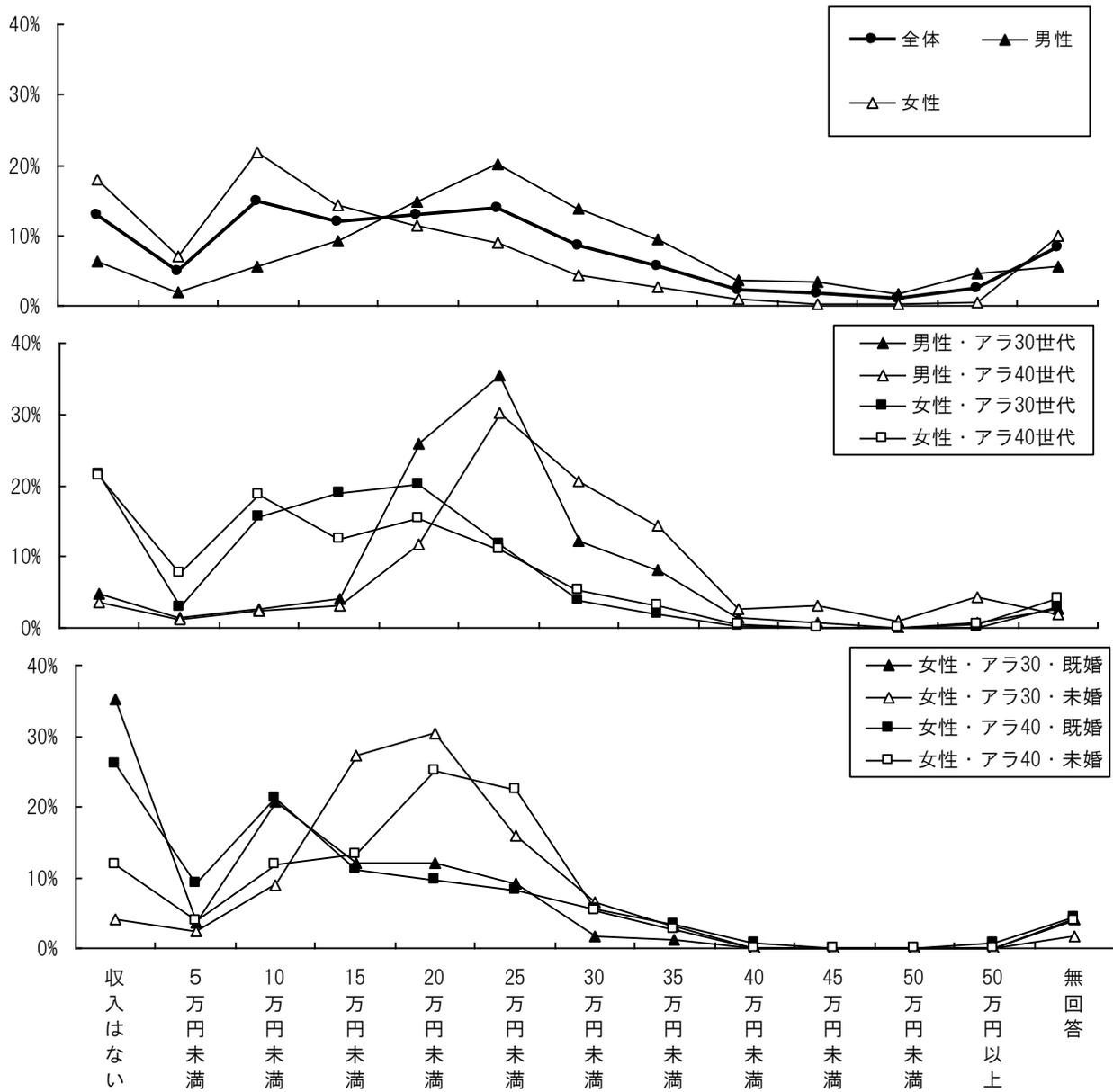


性・年代別で見ると、女性はいずれの年代も「8時間以下」が多く、6割を超えています。一方、男性はアラ30世代から少産世代までで「9時間以上」が多く、いずれも6割を超えています。

問23 毎月の収入（手取り）は平均してどのくらいですか。（〇は1つ）



月収は、「5～10万円未満」が14.7%と最も多く、次いで「20～25万円未満」が13.8%、「収入はない」が12.9%などとなっています。

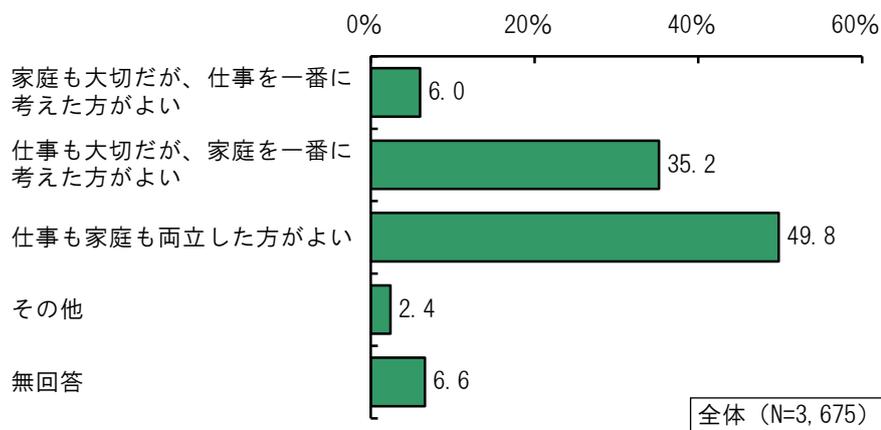


	調査数	収入はない	5万円未満	10万円未満 (5～10万円未満)	15万円未満 (10～15万円未満)	20万円未満 (15～20万円未満)	25万円未満 (20～25万円未満)	30万円未満 (25～30万円未満)	35万円未満 (30～35万円未満)	40万円未満 (35～40万円未満)	45万円未満 (40～45万円未満)	50万円未満 (45～50万円未満)	50万円以上	無回答
全体	3,675	12.9	4.8	14.7	12.0	12.8	13.8	8.4	5.6	2.1	1.6	0.9	2.4	8.2
男性	1,586	6.3	2.0	5.5	9.1	14.8	20.2	13.7	9.5	3.7	3.3	1.8	4.7	5.5
女性	2,067	18.0	7.0	21.7	14.3	11.3	8.9	4.3	2.6	0.9	0.3	0.2	0.6	10.0
男性・アラ30世代	147	4.8	1.4	2.7	4.1	25.9	35.4	12.2	8.2	1.4	0.7	-	0.7	2.7
男性・アラ40世代	305	3.6	1.3	2.3	3.0	11.8	30.2	20.7	14.4	2.6	3.0	1.0	4.3	2.0
女性・アラ30世代	307	21.5	2.9	15.6	18.9	20.2	11.7	3.9	2.0	0.3	-	-	-	2.9
女性・アラ40世代	416	21.2	7.7	18.8	12.5	15.4	11.1	5.3	3.1	0.5	-	-	0.5	4.1
女性・アラ30・既婚	173	35.3	3.5	20.8	12.1	12.1	9.2	1.7	1.2	-	-	-	-	4.0
女性・アラ30・未婚	125	4.0	2.4	8.8	27.2	30.4	16.0	6.4	3.2	-	-	-	-	1.6
女性・アラ40・既婚	303	26.1	9.2	21.1	11.2	9.6	8.3	5.6	3.3	0.7	-	-	0.7	4.3
女性・アラ40・未婚	76	11.8	3.9	11.8	13.2	25.0	22.4	5.3	2.6	-	-	-	-	3.9

性別で見ると、男性は「20～30万円未満」が34.0%と最も多く、次いで「10～20万円未満」が23.8%、「30万円以上」が22.9%などとなっています。一方、女性は「10万円未満」が28.6%と最も多く、次いで「10～20万円未満」が25.6%、「収入はない」が18.0%などとなっています。

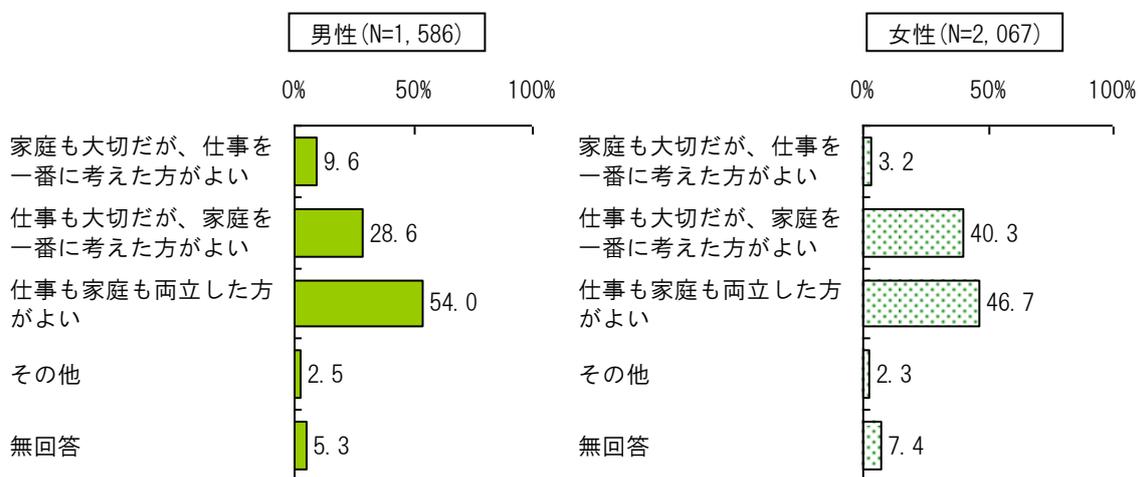
年代別で見ると、女性のアラ30世代やアラ40世代は「10～20万円未満」が多くなっています。男性のアラ30世代やアラ40世代は「20～30万円未満」が多く、特にアラ40世代は5割を占めています。

問24 あなたは、仕事と家庭の関係についてどのように考えていますか。(〇は1つ)



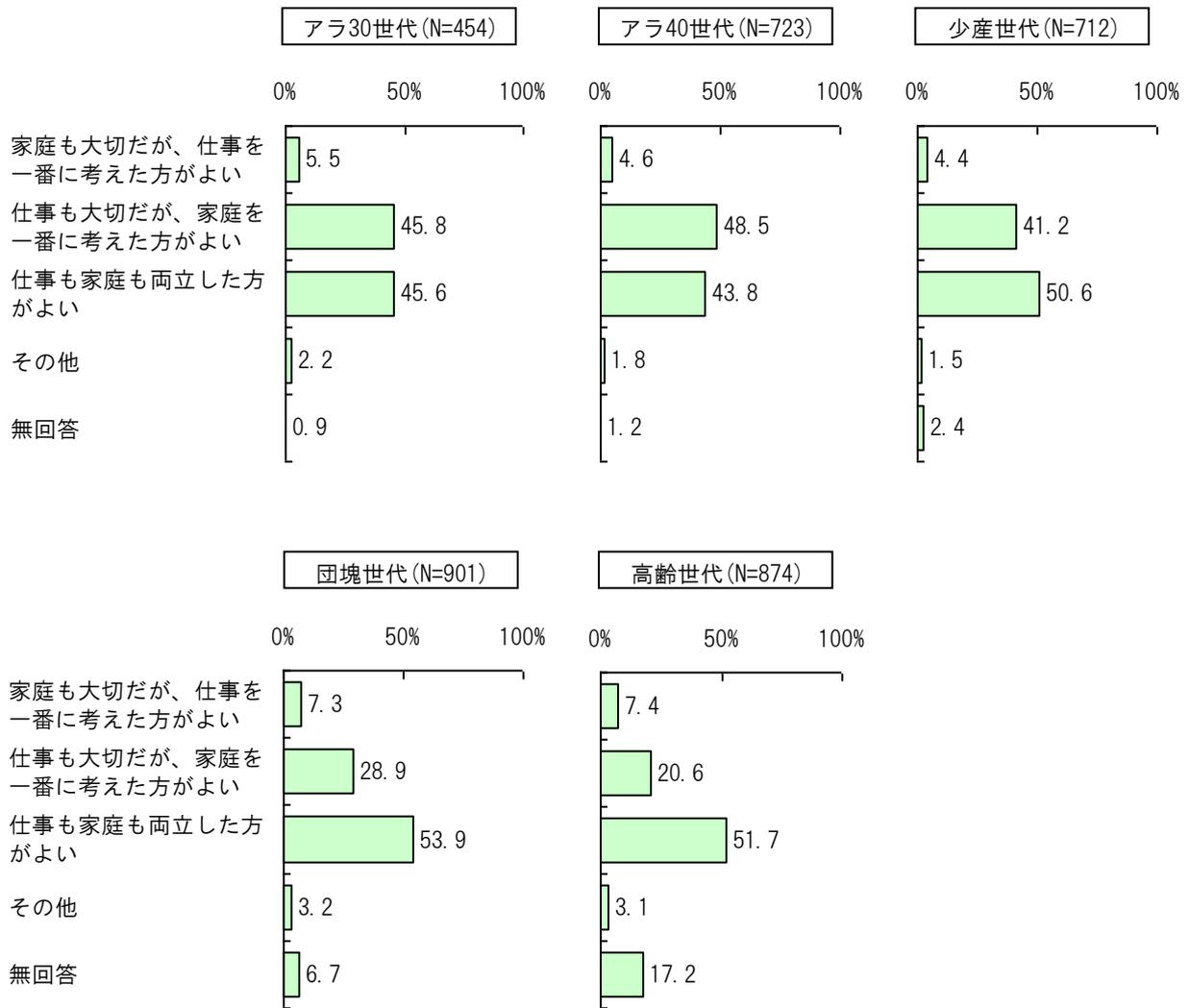
仕事と家族の関係は、「仕事も家庭も両立した方がよい」が 49.8%と最も多く、次いで「仕事も大切だが、家庭を一番に考えた方がよい」が 35.2%、「家庭も大切だが、仕事を一番に考えた方がよい」が 6.0%などとなっています。

◆ 性別 ◆



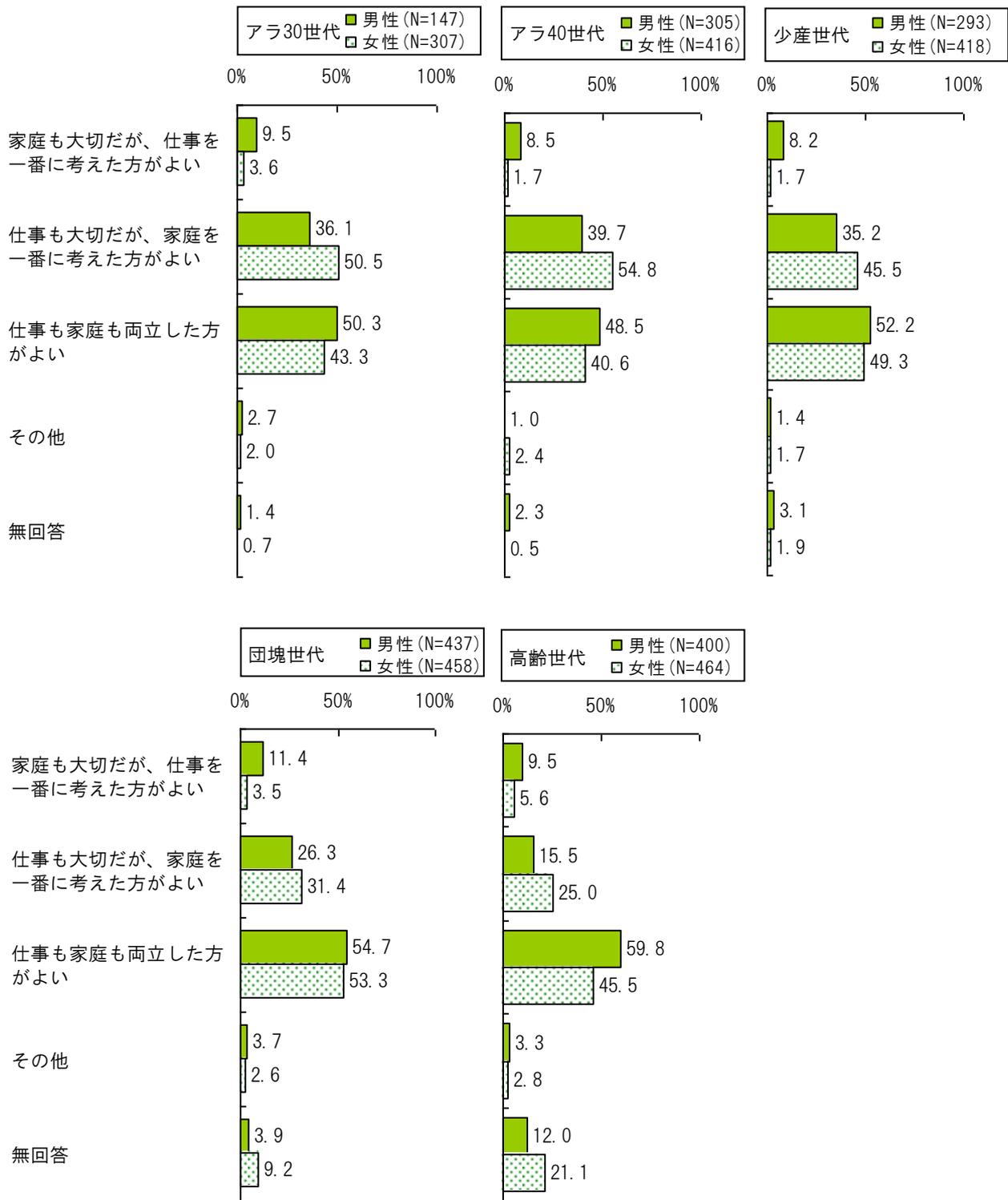
性別で見ると、男女ともに「仕事も家庭も両立した方がよい」が多く、男性は 54.0%、女性は 46.7% となっています。女性は「仕事も大切だが、家庭を一番に考えた方がよい」が 40.3%と、男性の 28.6% よりも 11.7 ポイント高くなっています。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、少産世代から高齢世代までは「仕事も家庭も両立した方がよい」が多く、いずれも5割を超えています。アラ30世代やアラ40世代は「仕事も大切だが、家庭を一番に考えた方がよい」が多くなっています。

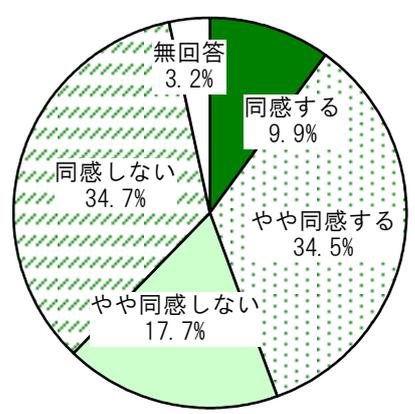
◆ 性・年代別 ◆



性・年代別でみると、男性はすべての世代で、女性は少産世代から高齢世代までで「仕事も家庭も両立した方がよい」が多くなっています。女性のアラ30世代やアラ40世代は「仕事も大切だが、家庭を一番に考えた方がよい」が多く、いずれも5割を超えています。

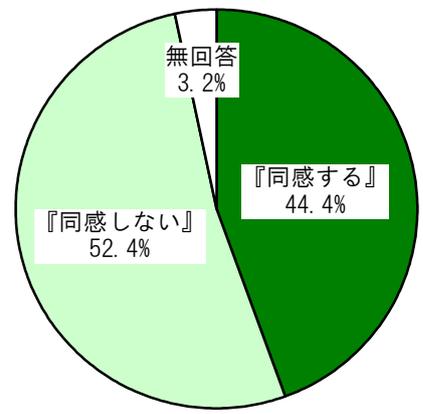
問25 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感するほうですか、それとも同感しないほうですか。(〇は1つ)

全体 (N=3,675)



『同感』とりまとめ

全体 (N=3,675)

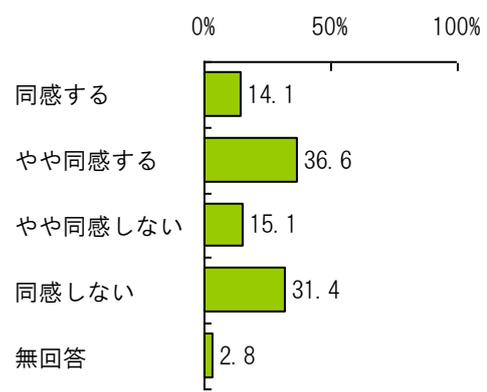


「男は仕事、女は家庭」という考え方は、「同感しない」の34.7%と「やや同感する」の34.5%が多く、次いで「やや同感しない」が17.7%などとなっています。

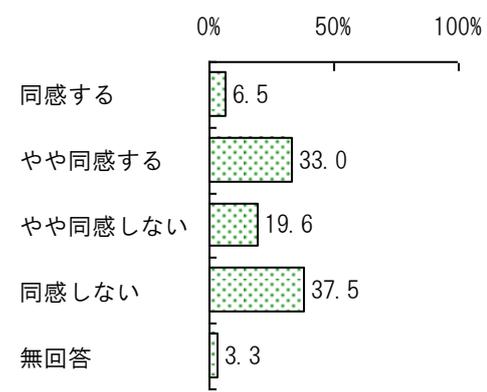
「やや同感しない」の17.7%と、「同感しない」の34.7%を合わせた『同感しない』は52.4%と半数を超えています。

◆ 性別 ◆

男性 (N=1,586)

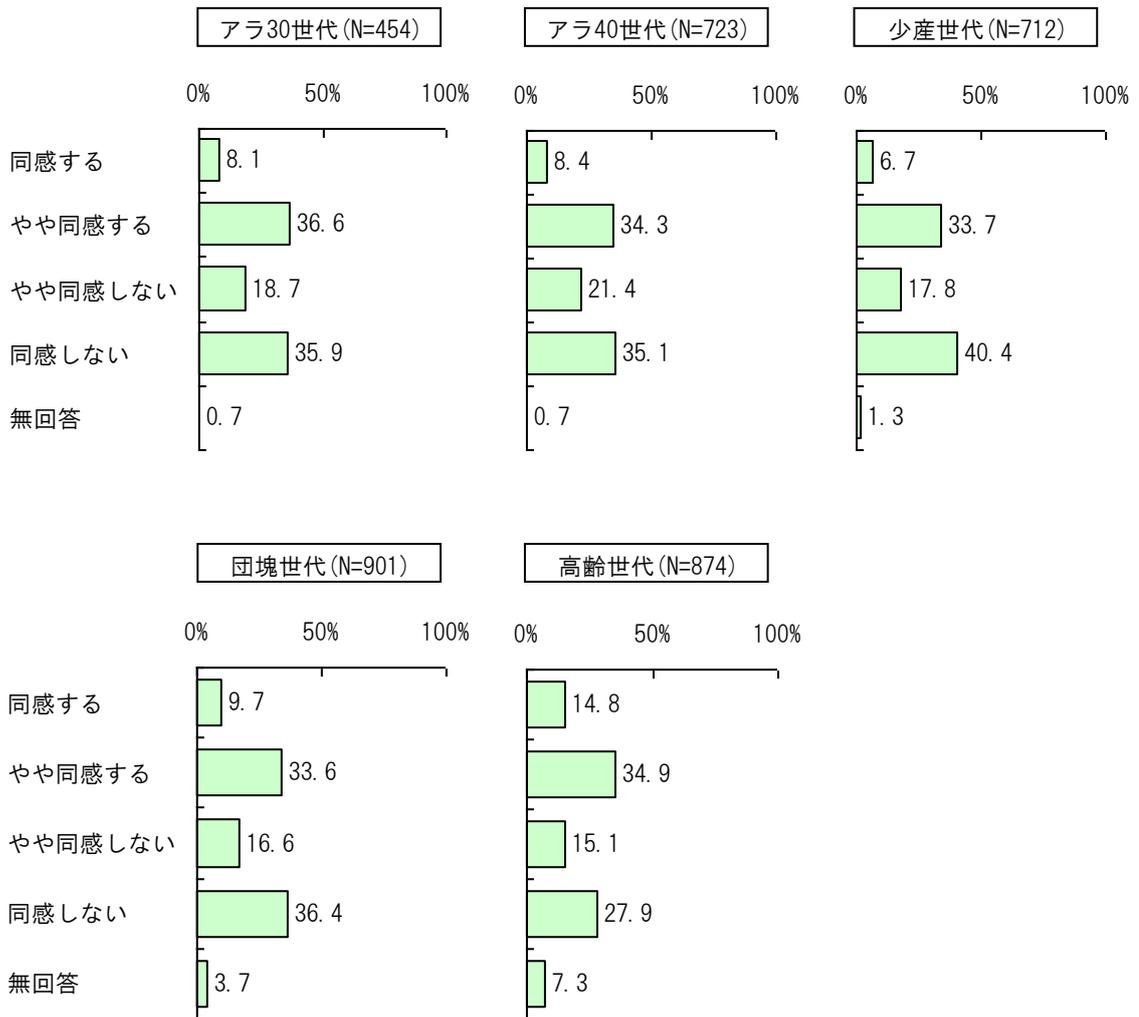


女性 (N=2,067)



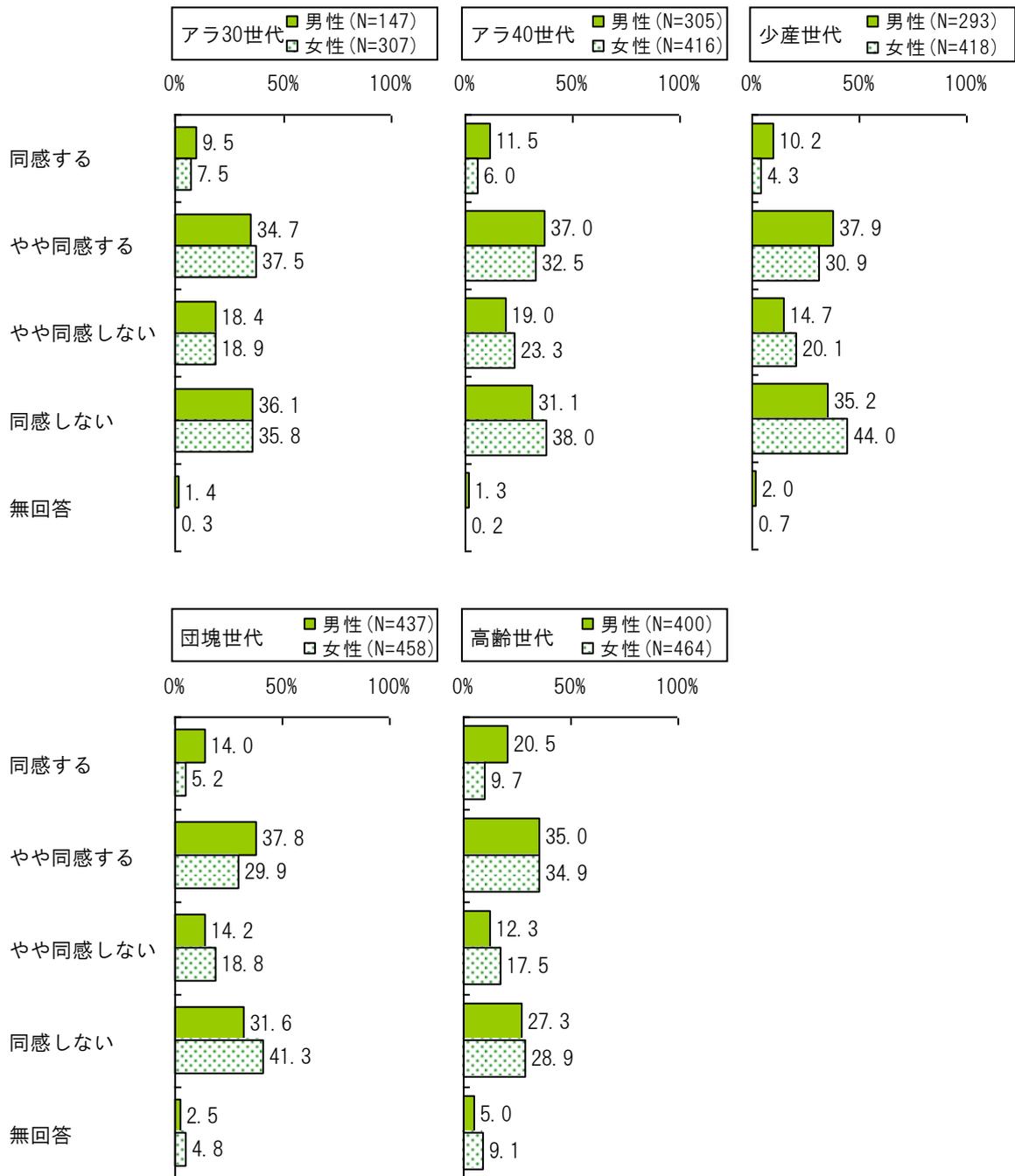
性別でみると、男性は「やや同感する」が36.6%と最も多く、次いで「同感しない」が31.4%などとなっています。女性は「同感しない」が37.5%と最も多く、次いで「やや同感する」が33.0%などとなっています。

◆ 年代別 ◆



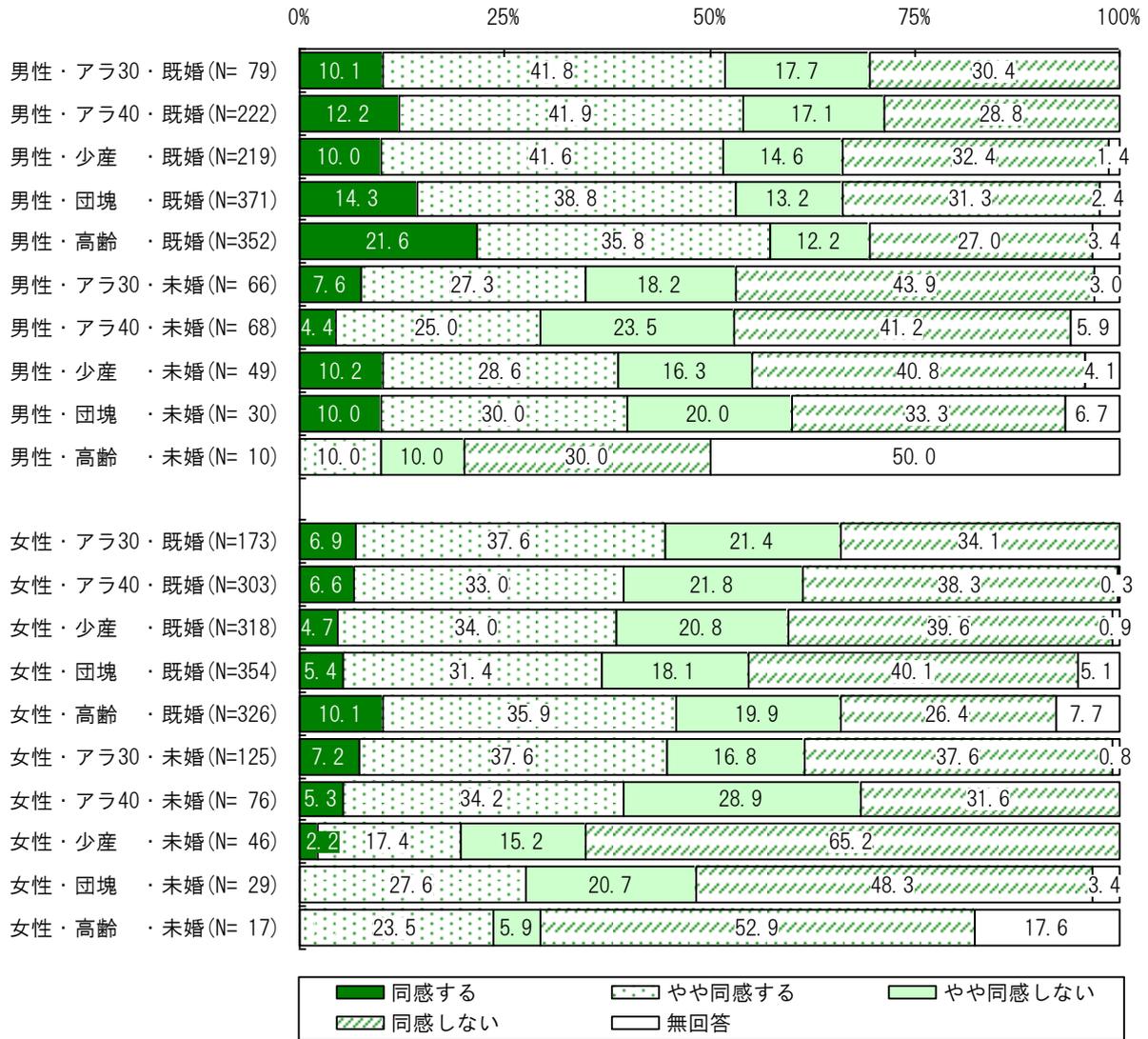
年代別で見ると、アラ 40 世代から団塊世代までは「同感しない」が多くなっています。一方、アラ 30 世代や高齢世代は「やや同感する」が多くなっています。

◆ 性・年代別 ◆



性・年代別で見ると、男性はアラ 40 世代から高齢世代までは「やや同感する」が多くなっています。一方、女性はアラ 40 世代から団塊世代までは「同感しない」が多くなっています。

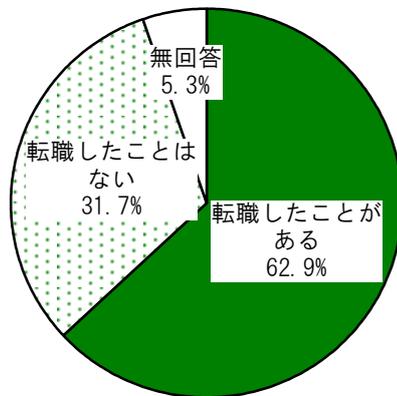
◆ 性・年代・未既婚別 ◆



性・年代・未既婚別でみると、「同意する」は男性の既婚者に多く、高齢世代では 21.6%と 2割を超えています。

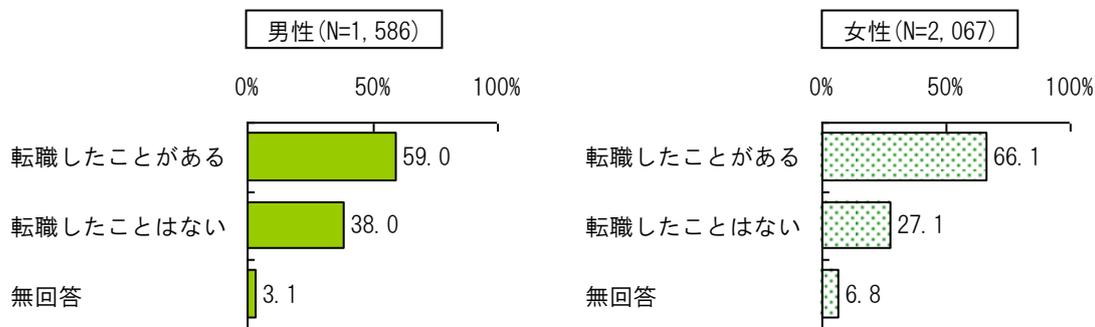
問26 あなたは、転職した経験がありますか。(〇は1つ)

全体 (N=3,675)



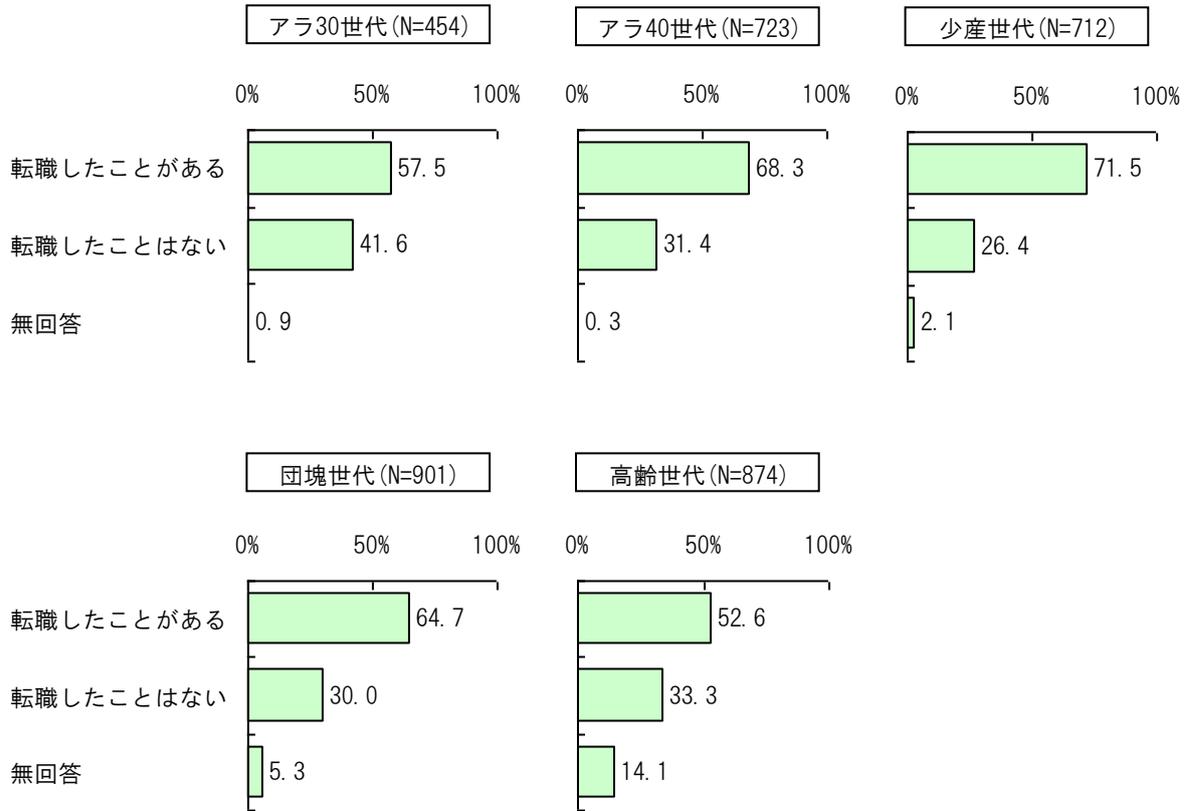
転職経験の有無は、「転職したことがある」が62.9%、「転職したことはない」が31.7%となっています。

◆ 性別 ◆



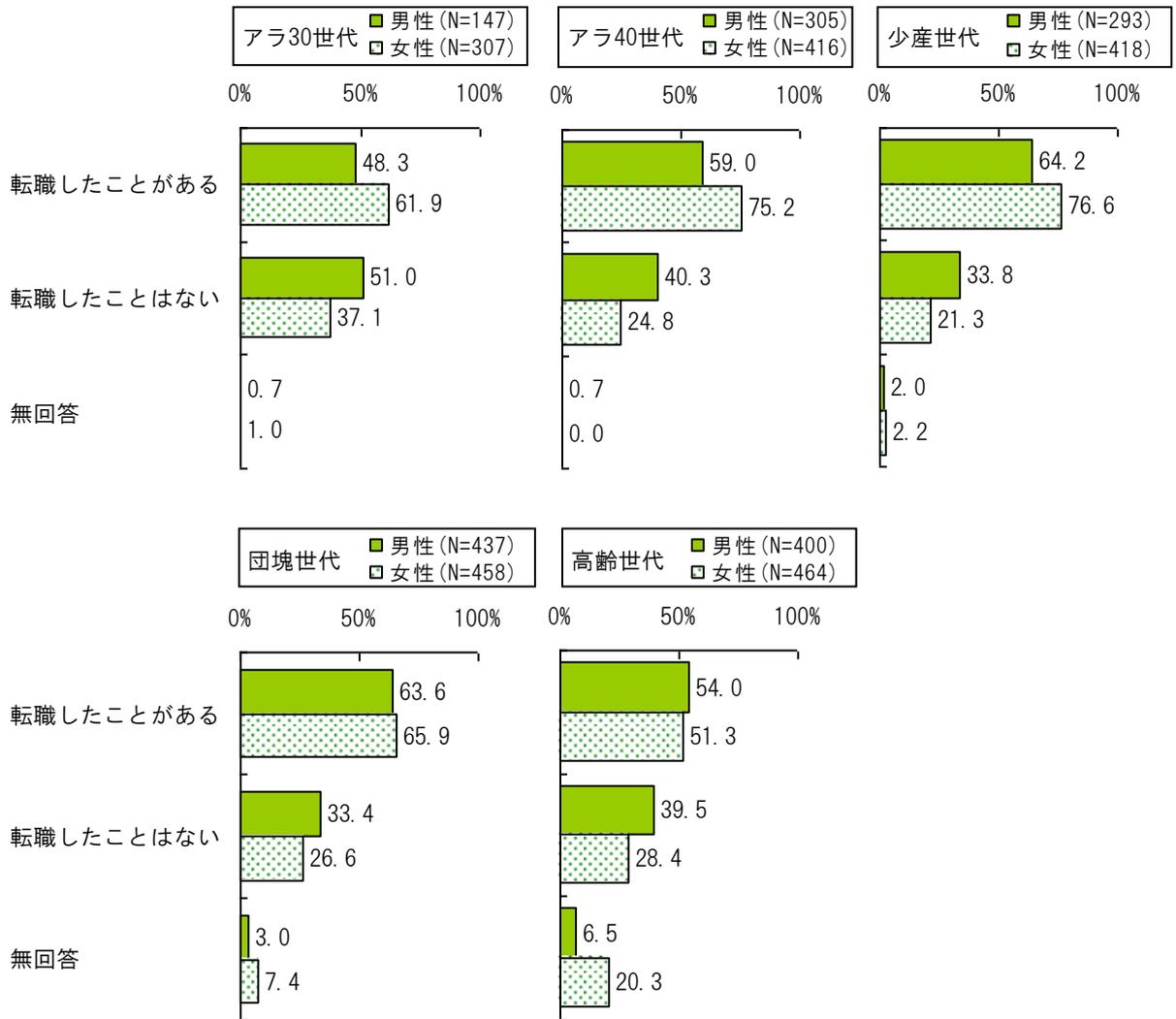
性別でみると、男性は「転職したことはない」が38.0%と、女性の27.1%よりも10.9ポイント高くなっています。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、いずれの年代も「転職したことがある」が多く、少産世代は71.5%、アラ40世代は68.3%、団塊世代は64.7%などとなっています。

◆ 性・年代別 ◆

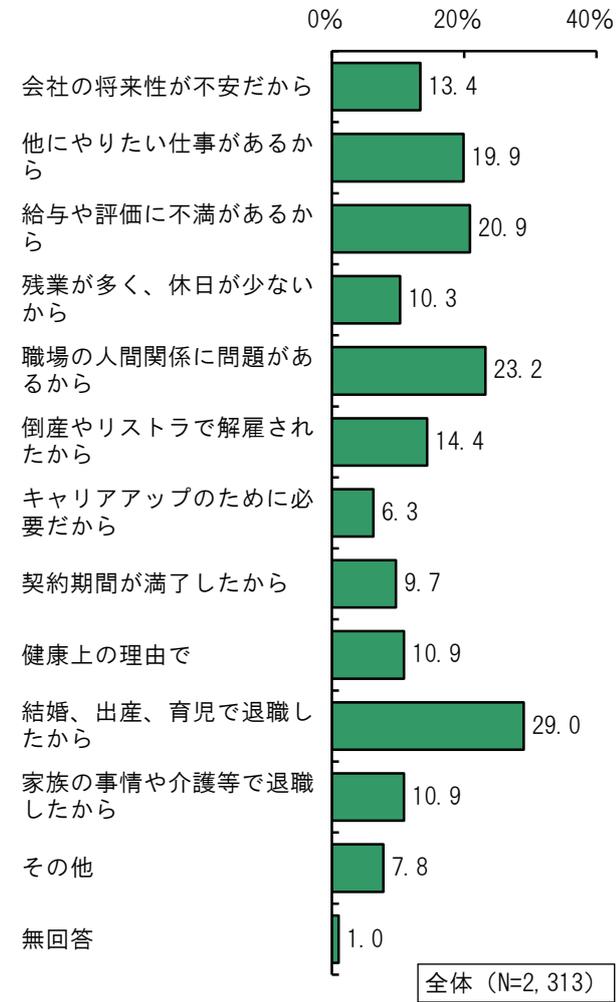


性・年代別でみると、男性のアラ30世代は「転職したことがない」が多く、5割を超えています。

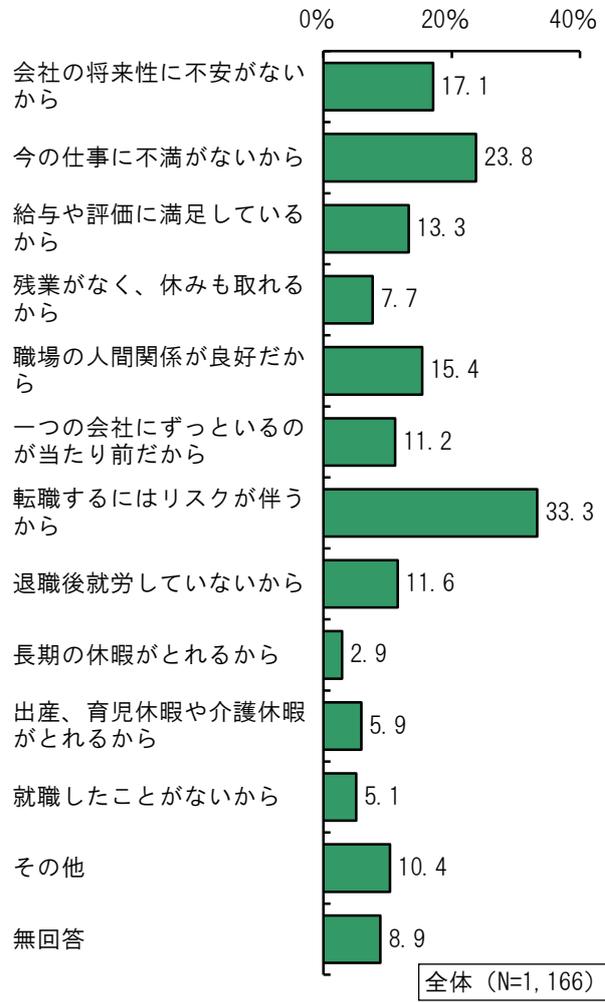
※問 26 でいずれかに答えた方のみ

問26-1、問26-2 理由を教えてください。(〇はいくつでも)

◆転職した理由



◆転職しない理由

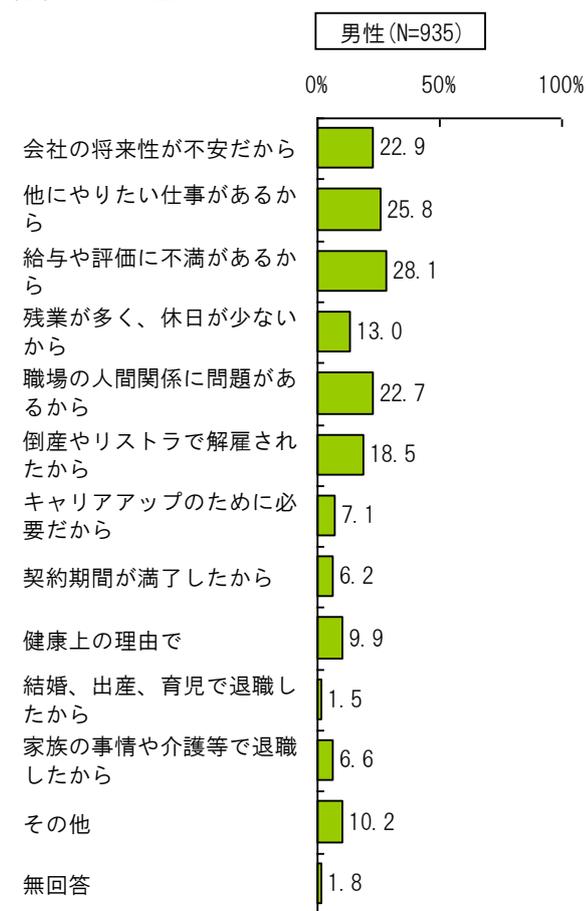


転職した理由は、「結婚、出産、育児で退職したから」が 29.0%と最も多く、次いで「職場の人間関係に問題があるから」が 23.2%、「給与や評価に不満があるから」が 20.9%などとなっています。

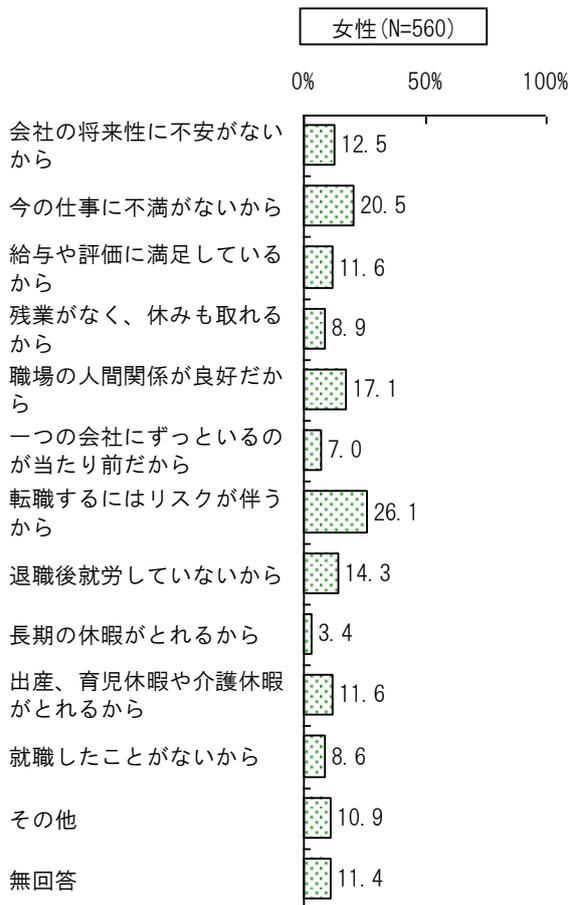
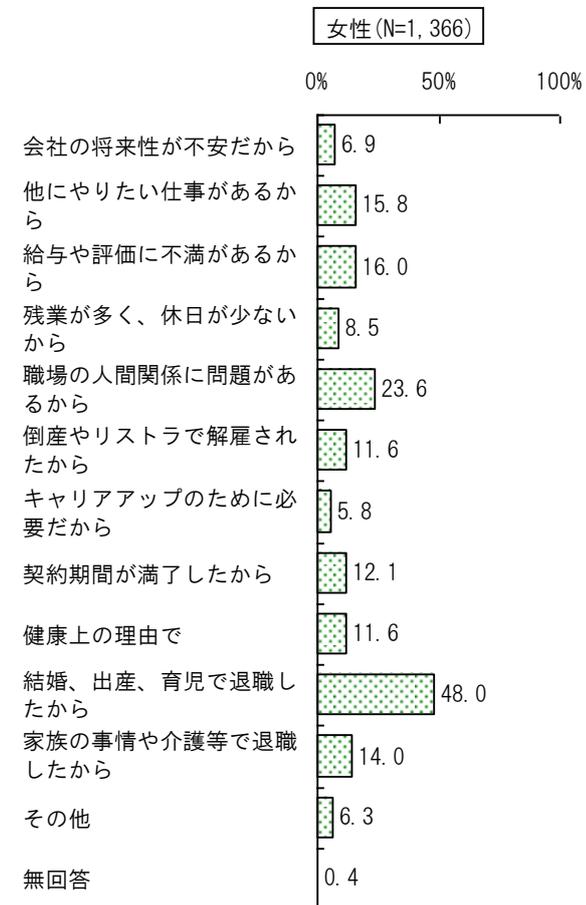
転職しない理由は、「転職するにはリスクが伴うから」が 33.3%と最も多く、次いで「今の仕事に不満がないから」が 23.8%、「会社の将来性に不安がないから」が 17.1%などとなっています。

◆ 性別 ◆

転職した理由



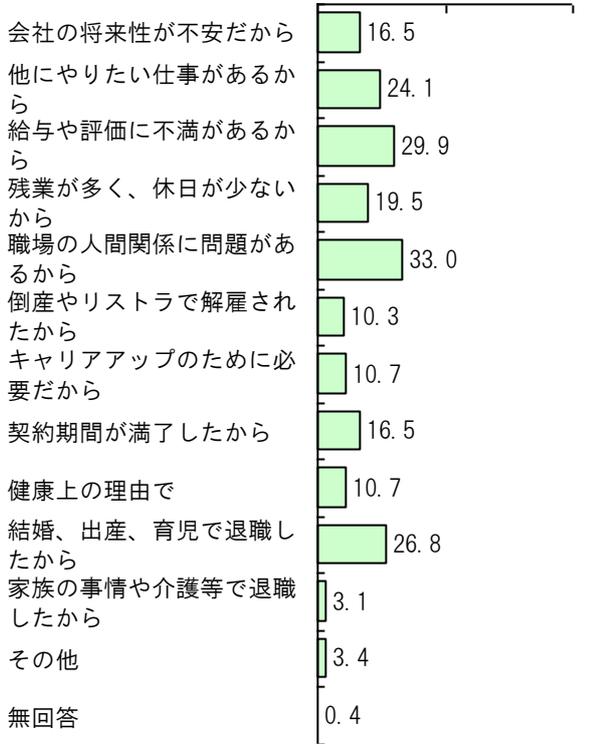
転職しない理由



◆ 年代別 ◆

転職した理由

アラ30世代(N=261)

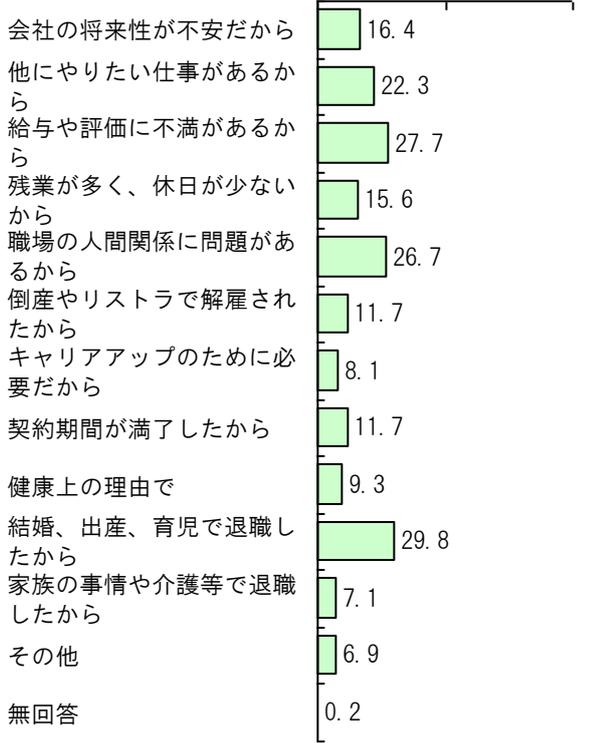


転職しない理由

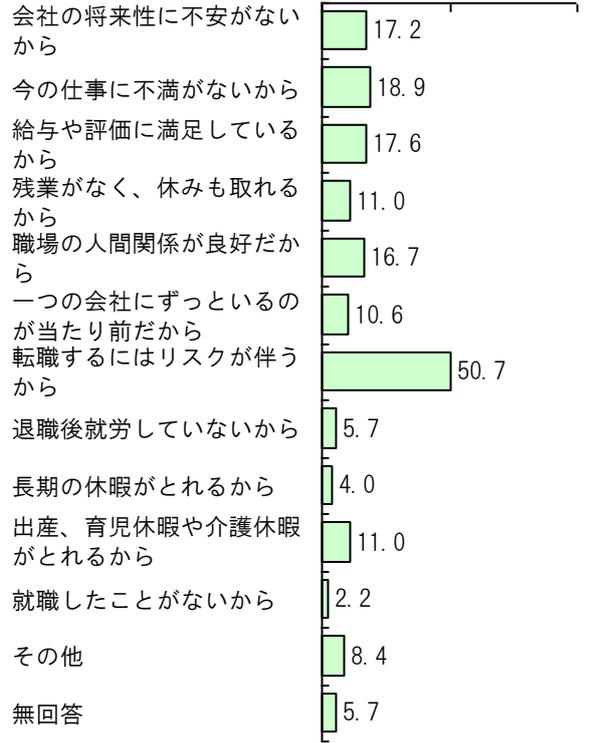
アラ30世代(N=189)



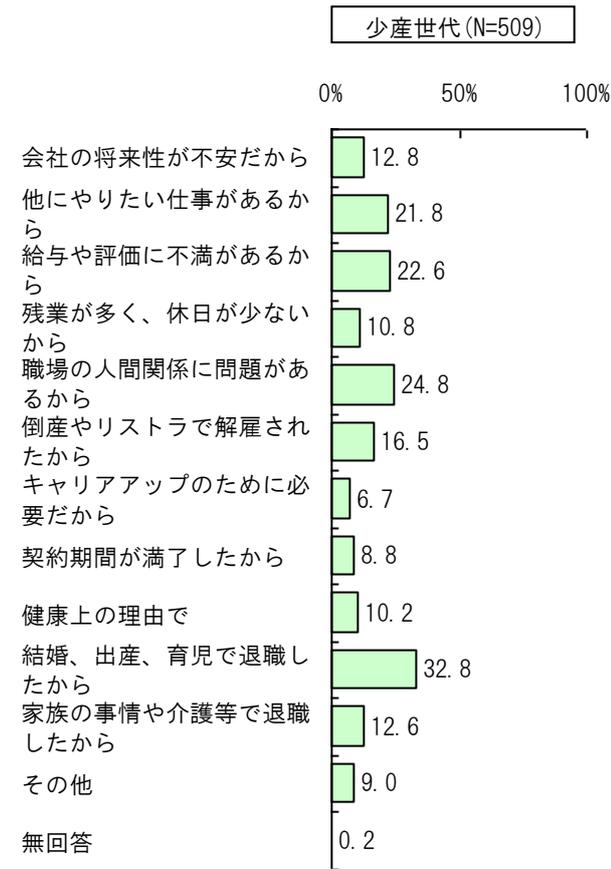
アラ40世代(N=494)



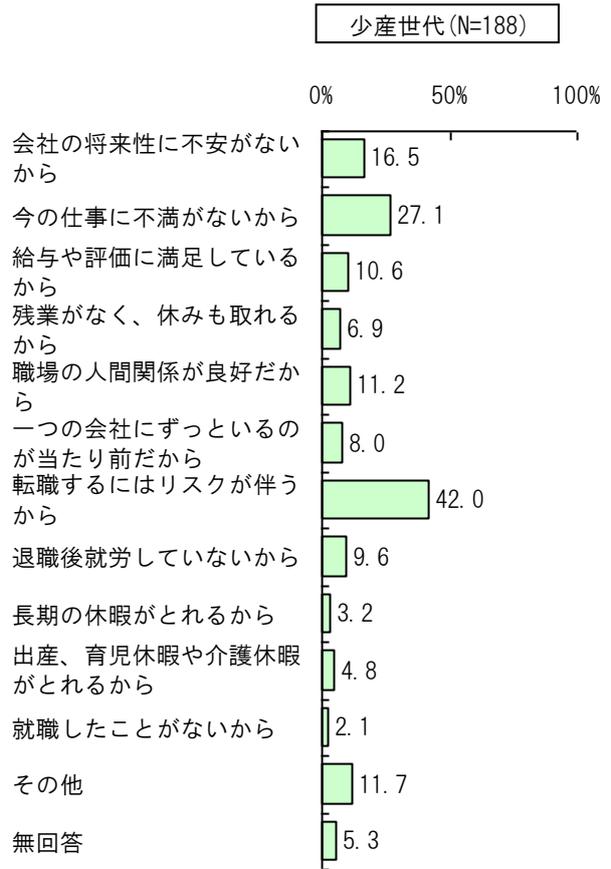
アラ40世代(N=227)



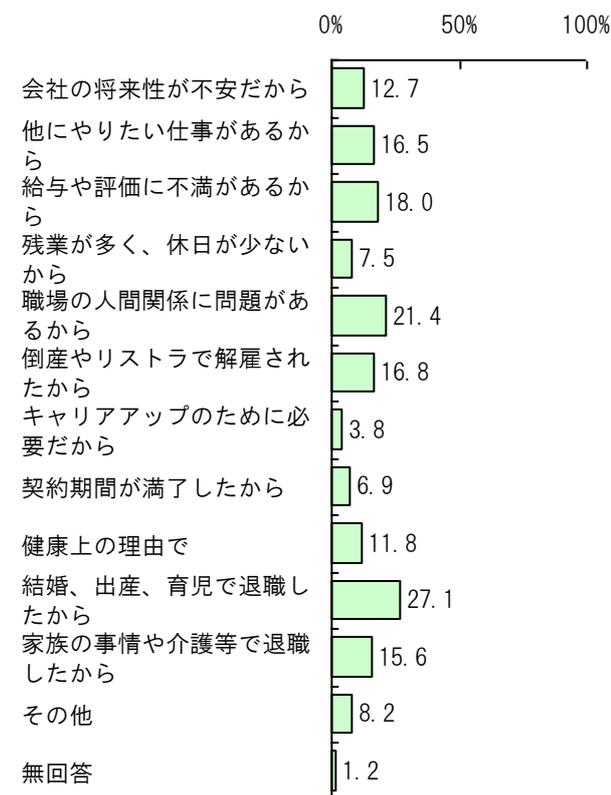
転職した理由



転職しない理由



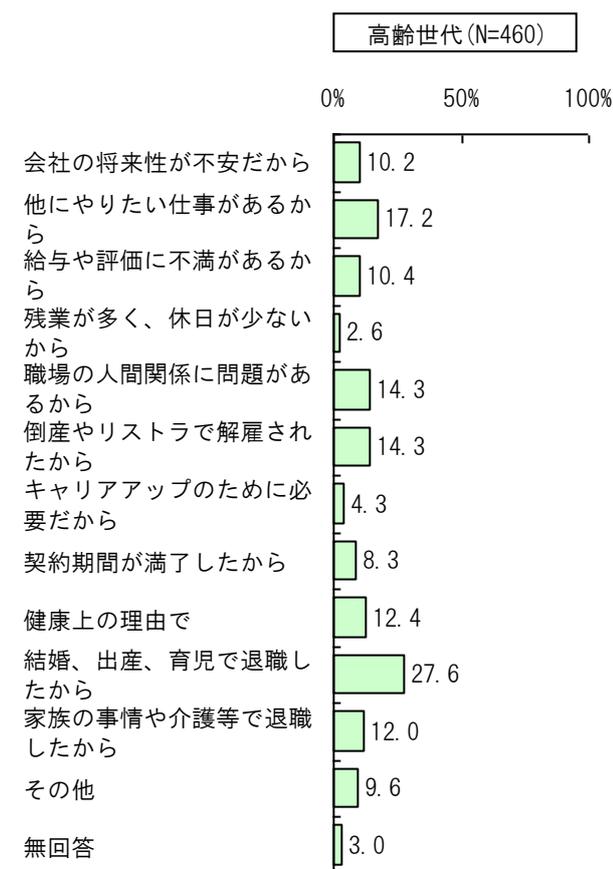
団塊世代 (N=583)



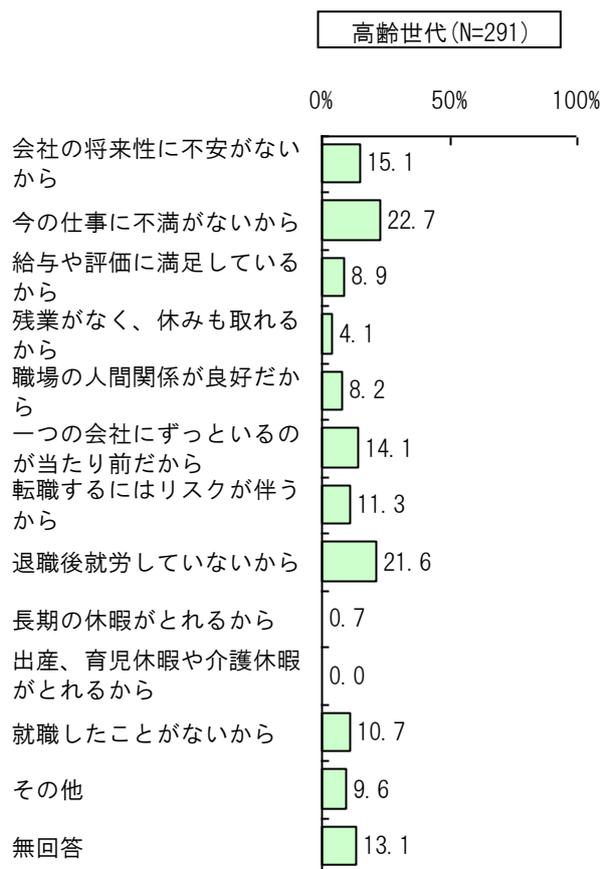
団塊世代 (N=270)



転職した理由



転職しない理由

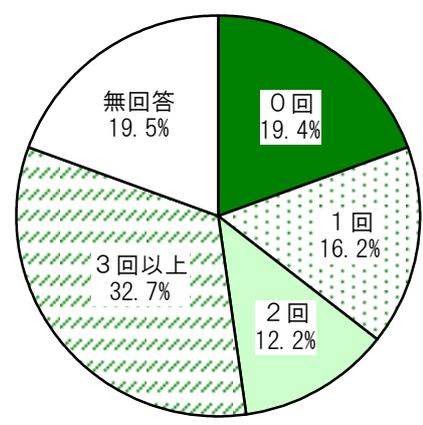


転職した理由を性別で見ると、男性は「給与や評価に不満があるから」が28.1%と最も多く、次いで「他にやりたい仕事があるから」が25.8%、「会社の将来性が不安だから」が22.9%などとなっています。一方、女性は「結婚、出産、育児で退職したから」が48.0%と最も多く、次いで「職場の人間関係に問題があるから」が23.6%などとなっています。

転職しない理由を性別で見ると、男性は「転職するにはリスクが伴うから」が40.0%と最も多く、次いで「今の仕事に不満がないから」が26.7%、「会社の将来性に不安がないから」が21.3%などとなっています。一方、女性は「転職するにはリスクが伴うから」が26.1%と最も多く、次いで「今の仕事に不満がないから」が20.5%、「職場の人間関係が良好だから」が17.1%などとなっています。

問27 現在職についてない方も含めて、これまでに転職した回数を教えてください。

全体 (N=3,675)

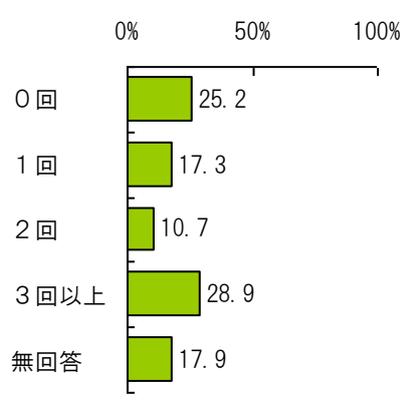


平均転職回数
 全体 2.35回
 転職経験者 2.84回

転職回数は、「3回以上」が32.7%と最も多く、次いで「0回」が19.4%、「1回」が16.2%などとなっています。平均転職回数は、全体は2.35回、転職経験者では2.84回となっています。

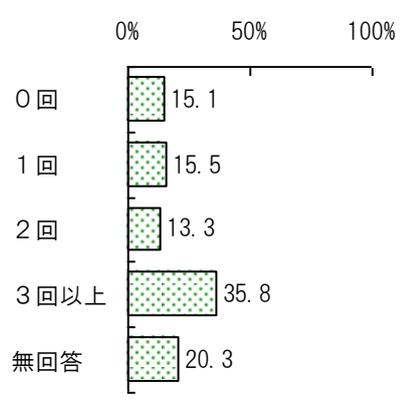
◆ 性別 ◆

男性 (N=1,586)



全体 2.23回
 転職経験者 2.76回

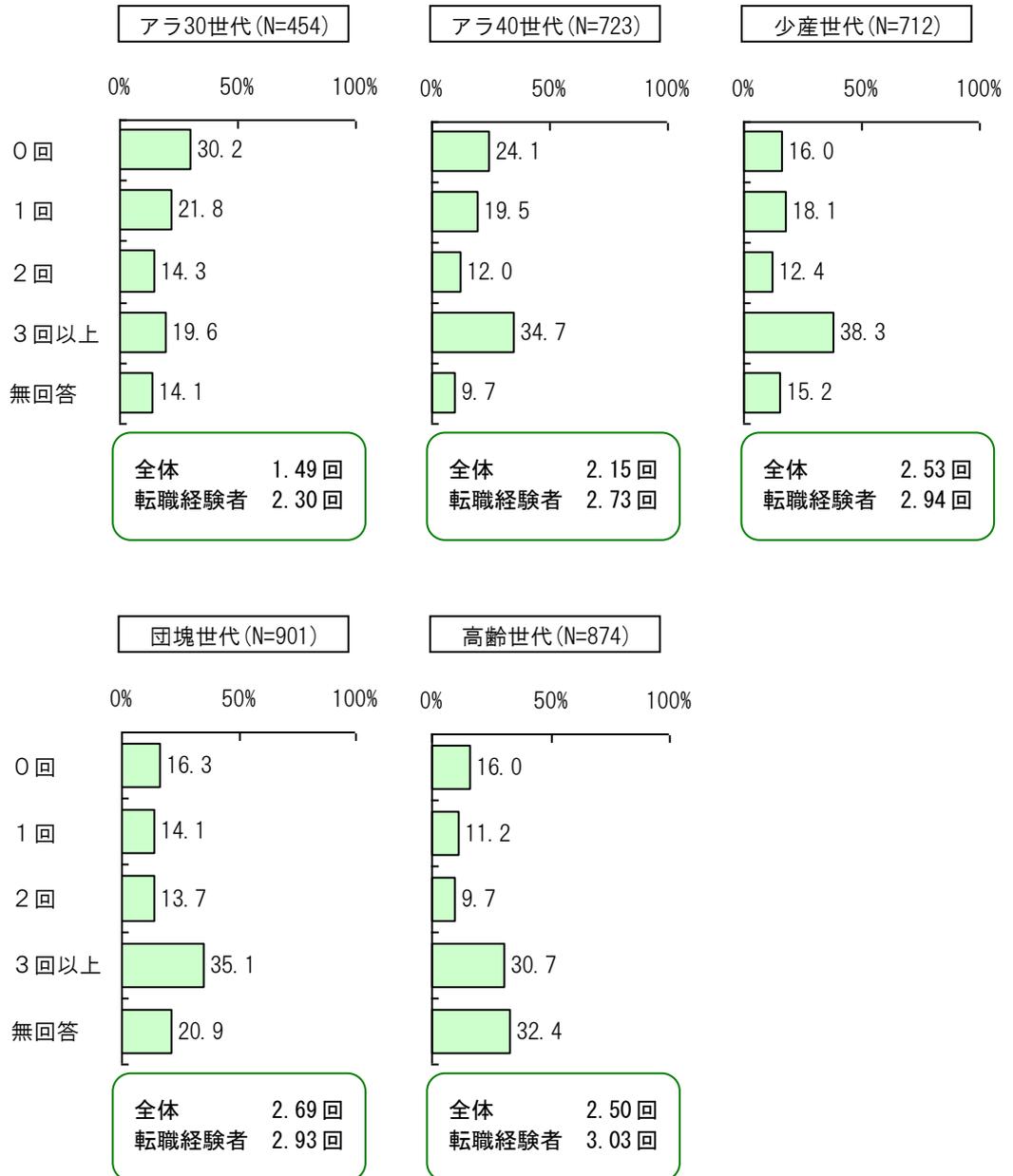
女性 (N=2,067)



全体 2.44回
 転職経験者 2.89回

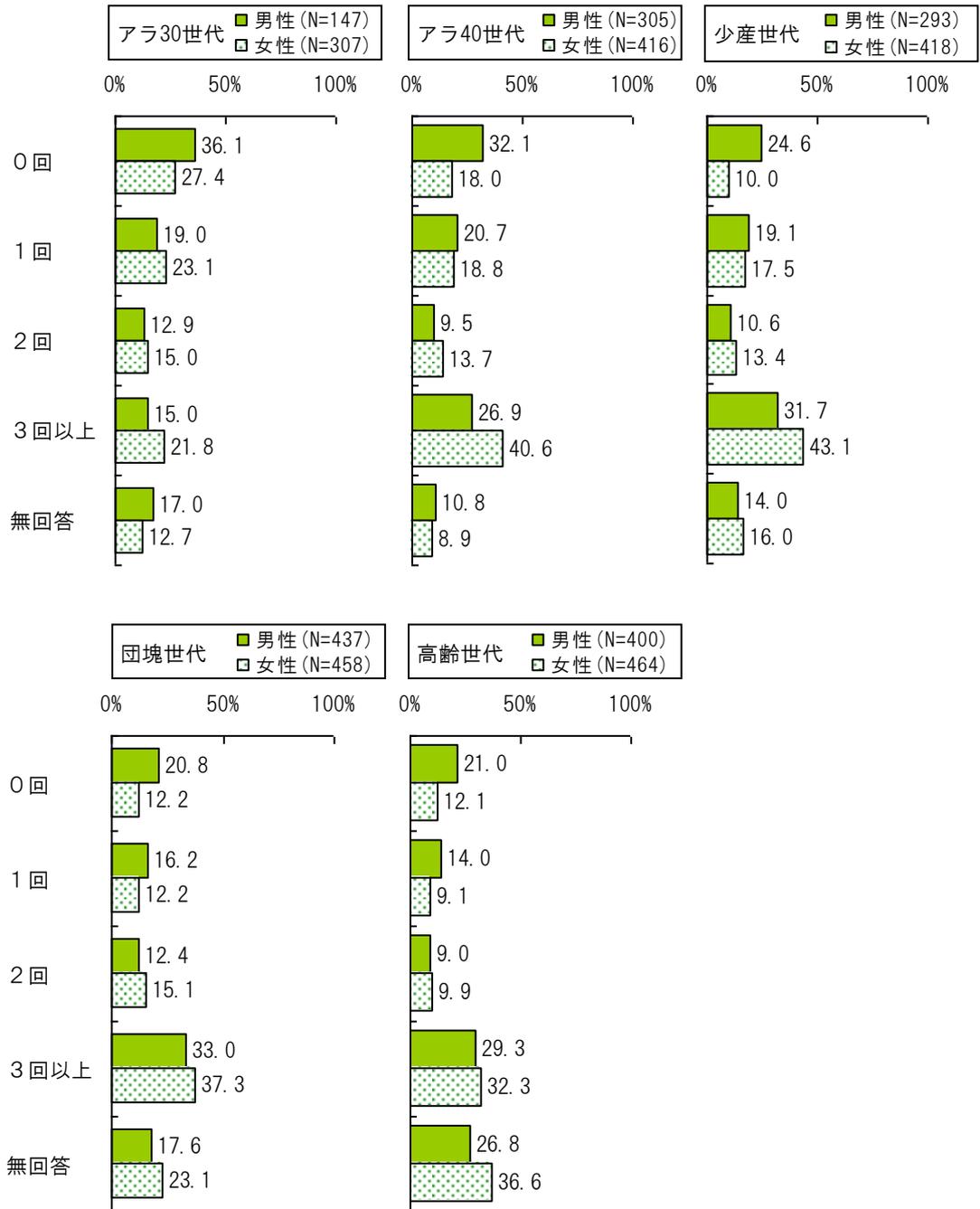
性別でみると、男女ともに「3回以上」が多く、女性は35.8%、男性は28.9%となっています。全体の平均転職回数は、女性が2.44回、男性が2.23回と、女性のほうがやや多くなっています。転職経験者の平均転職回数は、女性が2.89回、男性が2.76回と、女性のほうがやや多くなっています。

◆ 年代別 ◆



年代別で見ると、アラ40世代から高齢世代までは「3回以上」が多く、いずれも3割を占めています。一方、アラ30世代は「0回」が最も多く、3割を占めています。

◆ 性・年代別 ◆



性・年代別でみると、女性のアラ40世代から高齢世代までは「3回以上」が多くなっています。一方、男女ともにアラ30世代や、男性のアラ40世代は「0回」が多くなっています。

4 あなたの考えと、市の制度や政策についてうかがいます。

問28 次のうちあなたの考えはどちらに近いですか。(〇はそれぞれ1つ)

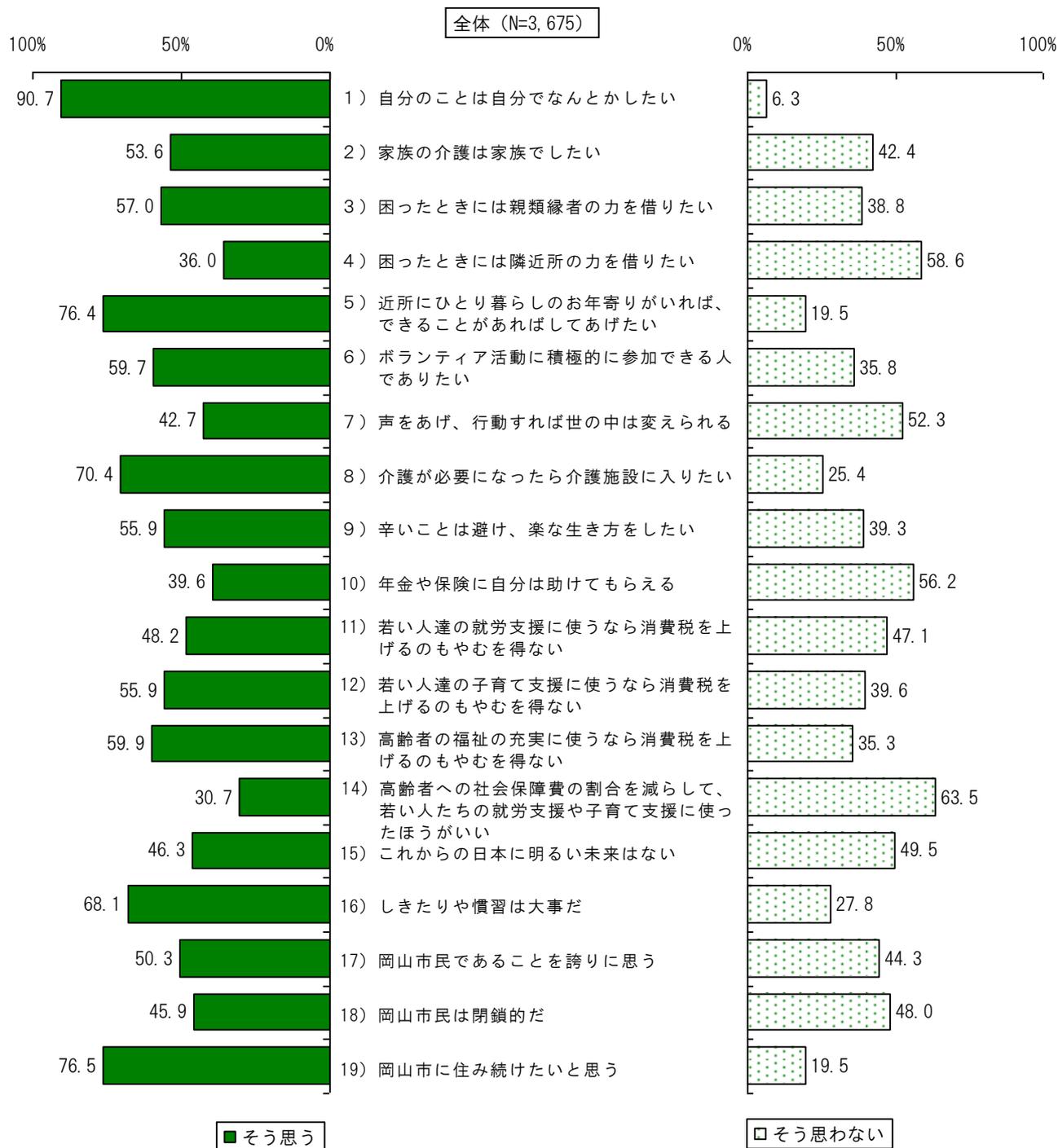


「そう思う」は、“1) 自分のことは自分でなんとかしたい”が 90.7%と最も多く、次いで“19) 岡山市に住み続けたいと思う”が 76.5%、“5) 近所にひとり暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい”が 76.4%などとなっています。

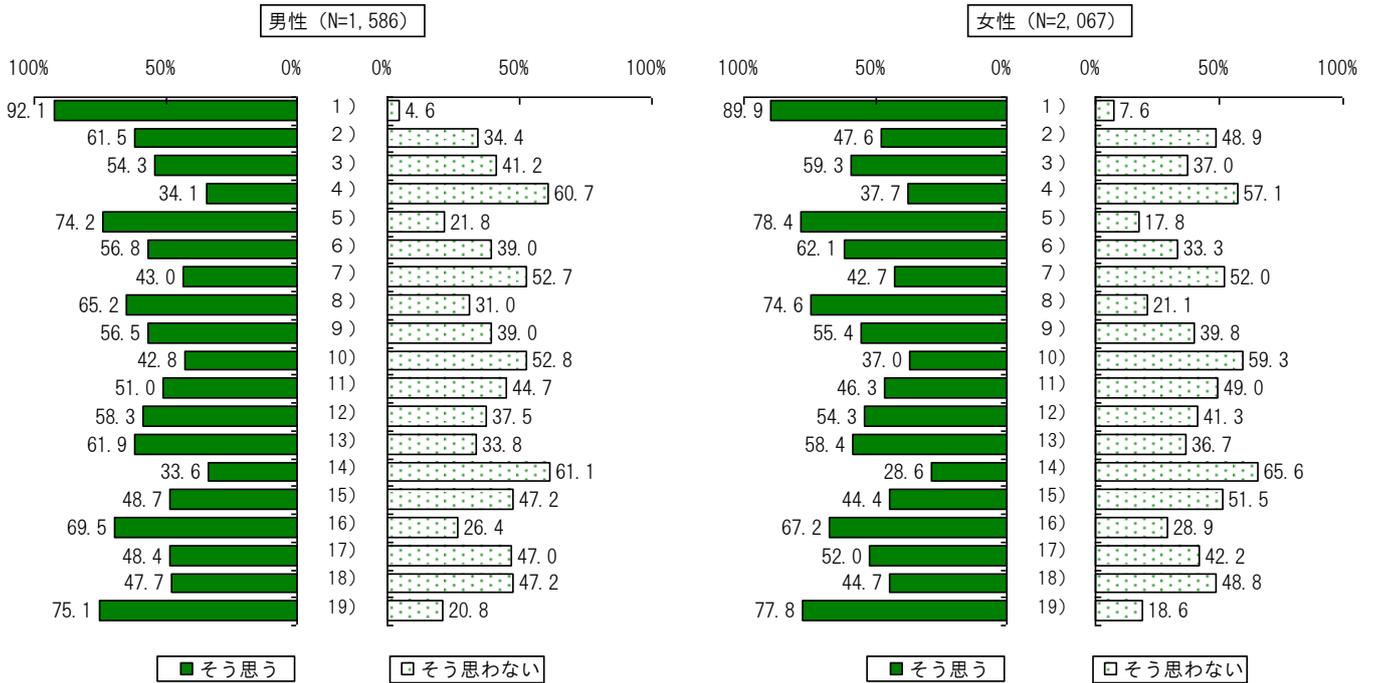
「そう思わない」は、“14) 高齢者への社会保障費の割合を減らして、若い人たちの就労支援や子育て支援に使ったほうがいい”が 63.5%と最も多く、次いで“4) 困ったときには隣近所の力を借りたい”が 58.6%、“10) 年金や保険に自分は助けてもらえる”が 56.2%などとなっています。

多い順	「そう思う」	「そう思わない」
1	1) 自分のことは自分でなんとかしたい	14) 高齢者への社会保障費の割合を減らして、若い人たちの就労支援や子育て支援に使ったほうがいい
2	19) 岡山市に住み続けたいと思う	4) 困ったときには隣近所の力を借りたい
3	5) 近所にひとり暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい	10) 年金や保険に自分は助けてもらえる
4	8) 介護が必要になったら介護施設に入りたい	7) 声をあげ、行動すれば世の中は変えられる
5	16) しきたりや慣習は大事だ	15) これからの日本に明るい未来はない

「そう思う」と「そう思わない」を左右に並べて比較すると下図のようになります。

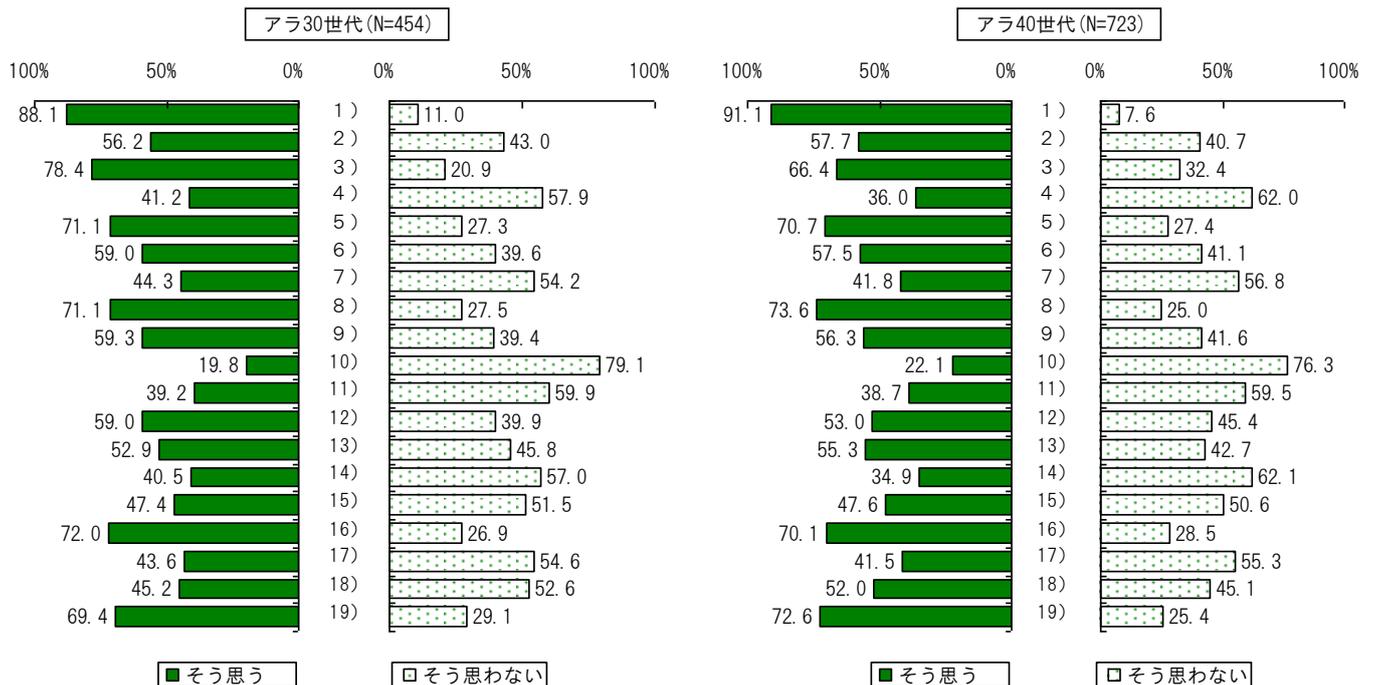


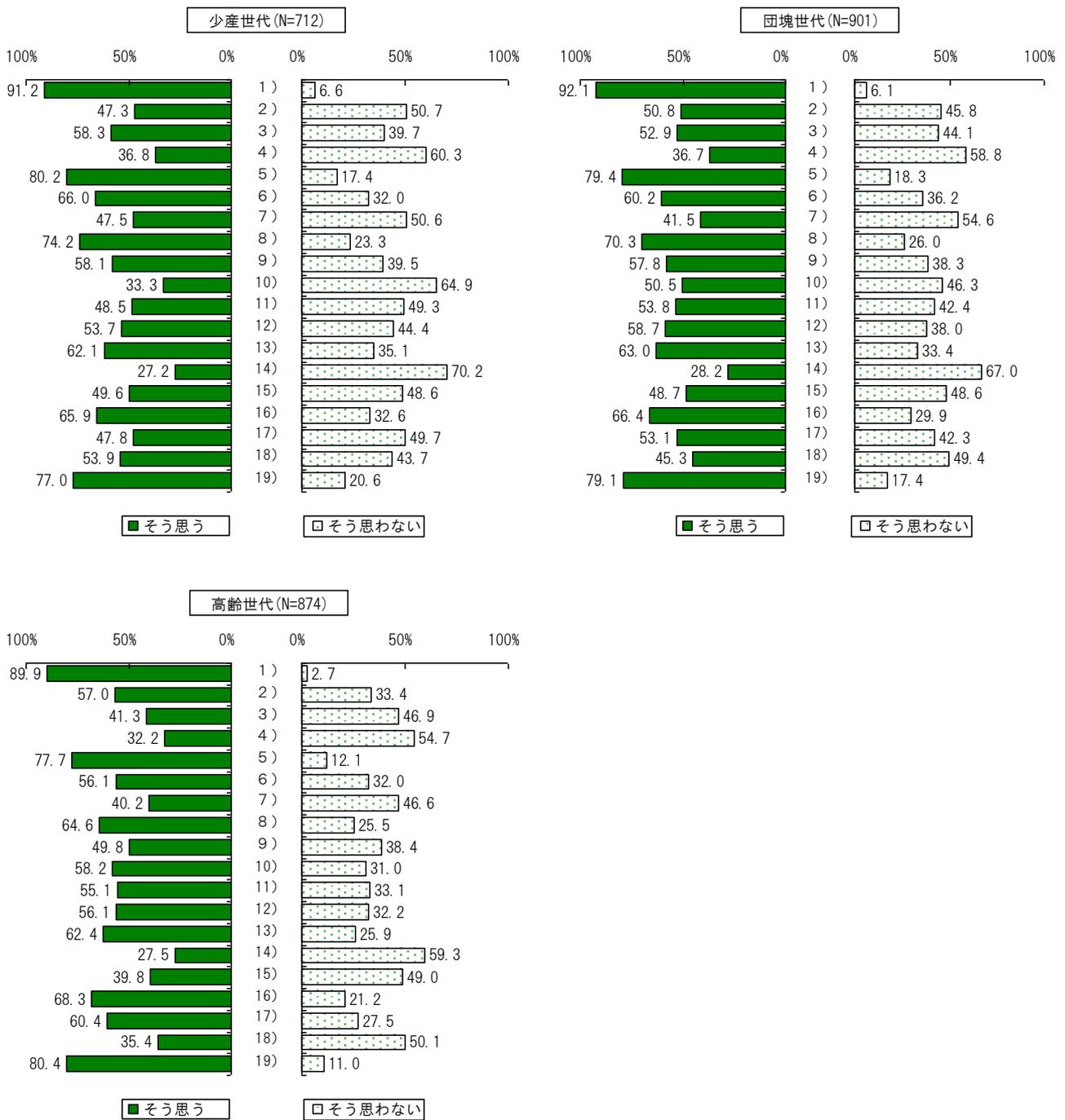
◆ 性別 ◆



性別でみると、“2) 家族の介護は家族でしたい”、“11) 若い人達の就労支援に使うなら消費税を上げるのもやむを得ない”は、男性に「そう思う」が多く半数を超えています。また、男女で10ポイント以上異なるのは、“2) 家族の介護は介護したい”の「そう思う」、1項目のみとなっています。

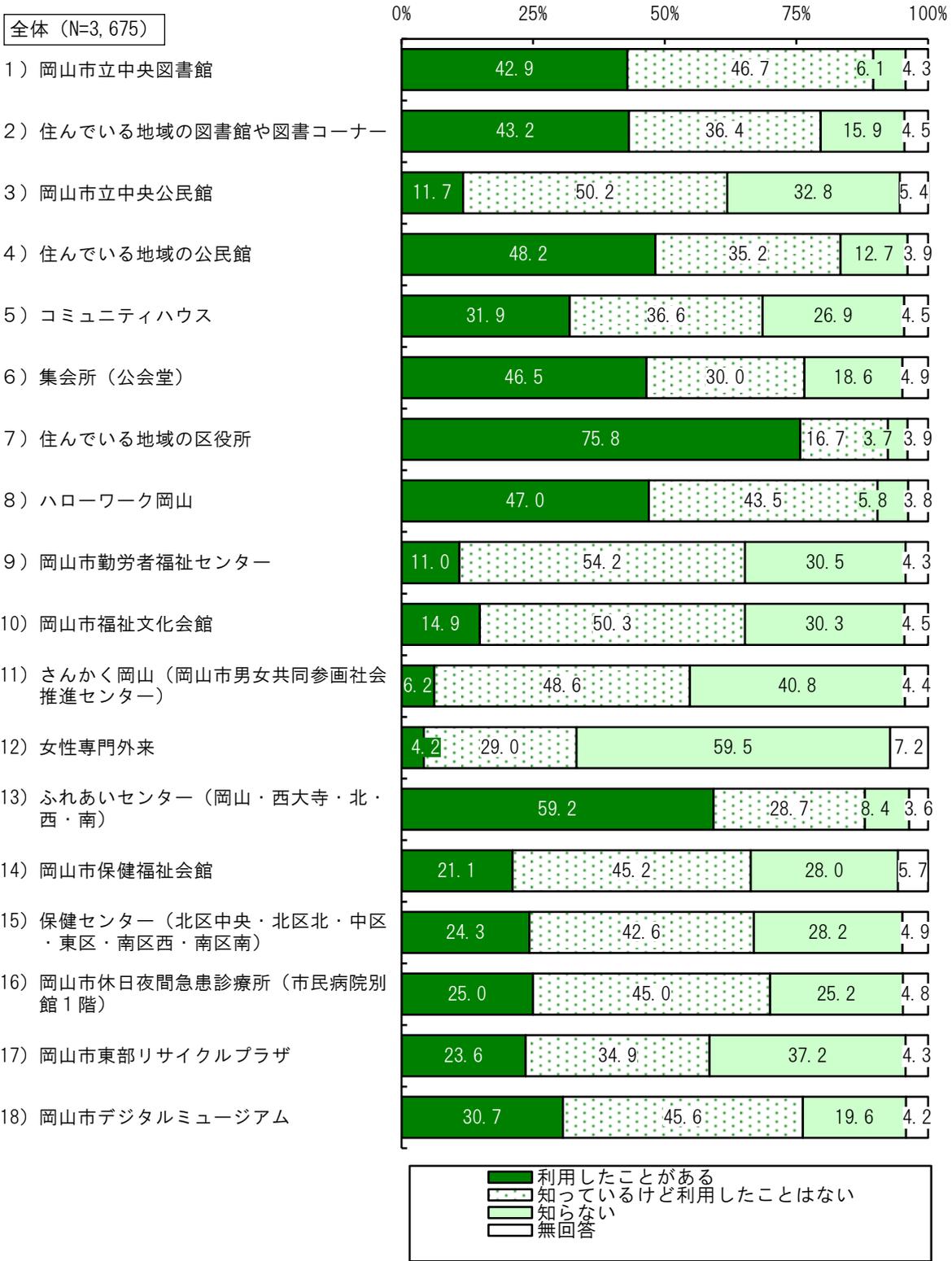
◆ 年代別 ◆





年代別で『そう思う』との回答をみると、“10) 年金や保険に自分は助けてもらえる”、“19) 岡山市に住み続けたいと思う”は、年代が上がるにつれて多くなっています。また、“3) 困ったときには親類縁者の力を借りたい”は、年代が上がるにつれて回答が少なくなっています。

問29 岡山市内にある公的施設を利用したことがありますか。(〇はそれぞれ1つ)



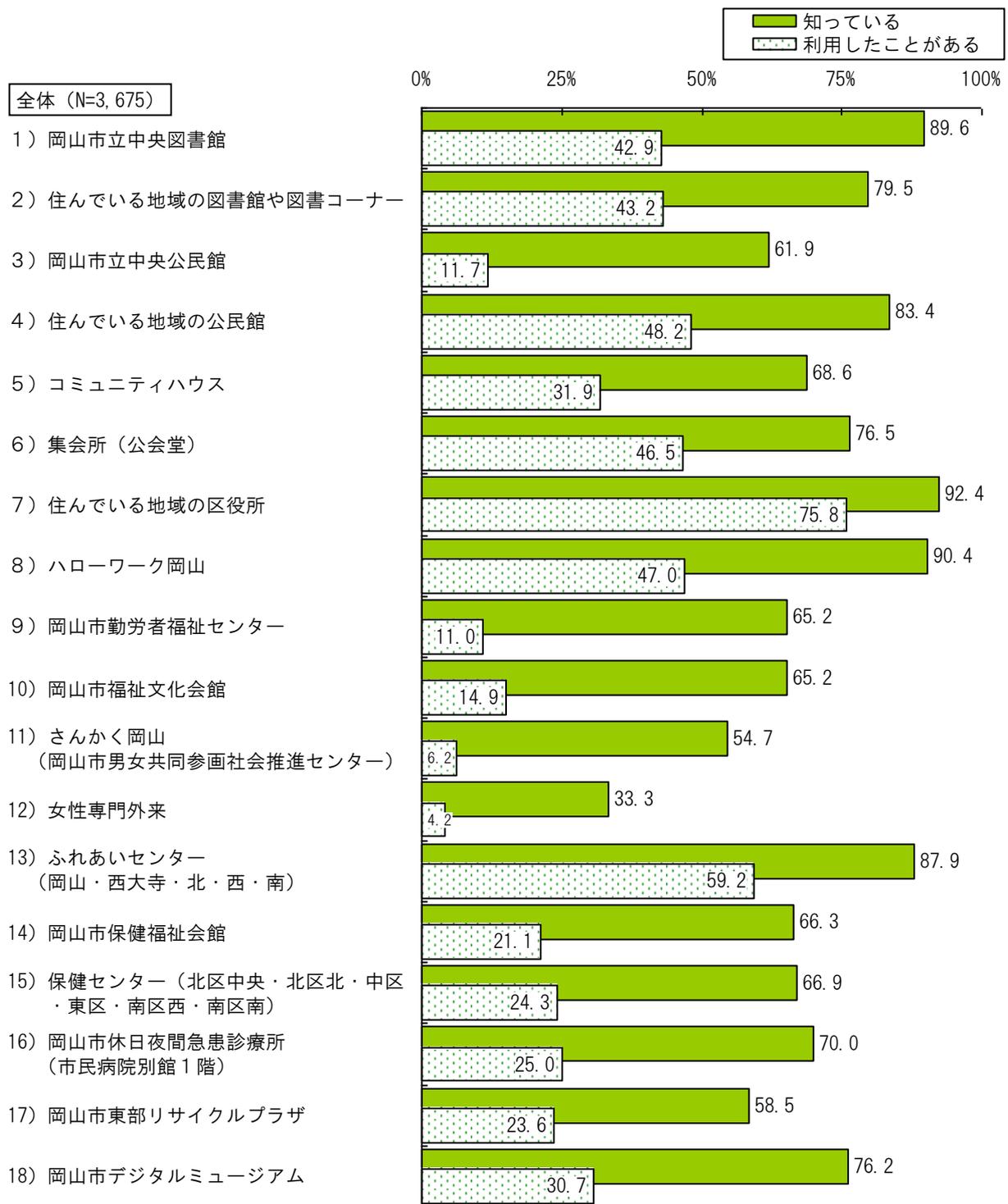
岡山市内にある公的施設で「利用したことがある」施設は、“7) 住んでいる地域の区役所”が75.8%と最も多く、次いで“13) ふれあいセンター（岡山・西大寺・北・西・南）”が59.2%、“4) 住んでいる地域の公民館”が48.2%などとなっています。

「知っているけど利用したことはない」施設は、“9) 岡山市勤労者福祉センター”が54.2%と最も多く、次いで“10) 岡山市福祉文化会館”が50.3%、“3) 岡山市立中央公民館”が50.2%などとなっています。

「知らない」施設は、“12) 女性専門外来”が59.5%と最も多く、次いで“11) さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）”が40.8%、“17) 岡山市東部リサイクルプラザ”が37.2%などとなっています。

多い順	「利用したことがある」	「知っているけど 利用したことはない」	「知らない」
1	7) 住んでいる地域の区役所	9) 岡山市勤労者福祉センター	12) 女性専門外来
2	13) ふれあいセンター（岡山・西大寺・北・西・南）	10) 岡山市福祉文化会館	11) さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）
3	4) 住んでいる地域の公民館	3) 岡山市立中央公民館	17) 岡山市東部リサイクルプラザ
4	8) ハローワーク岡山	11) さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）	3) 岡山市立中央公民館
5	6) 集会所（公会堂）	1) 岡山市立中央図書館	9) 岡山市勤労者福祉センター

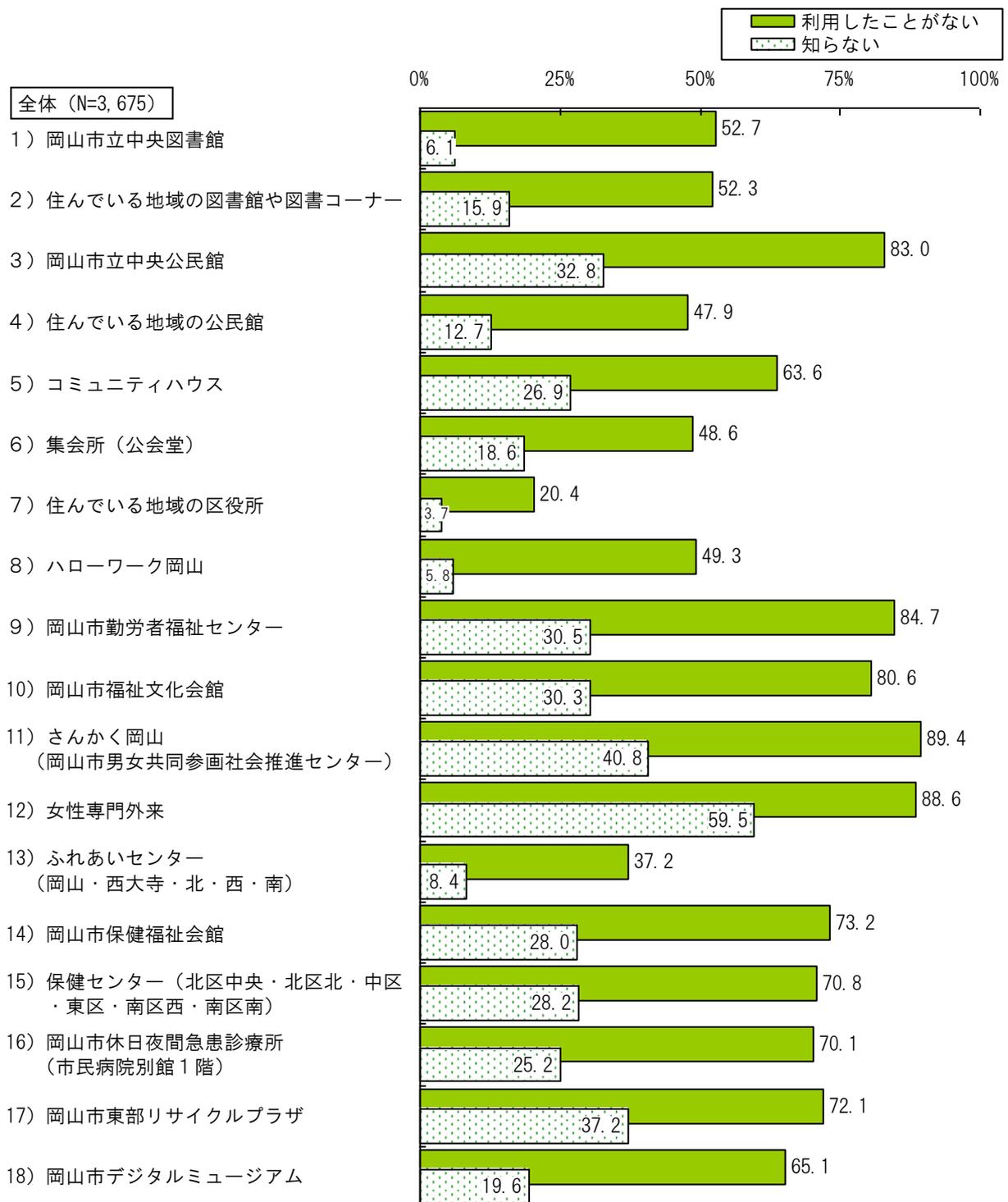
『知っている』（「利用したことがある」+「知っているけど利用したことはない」）施設と、
「利用したことがある」施設の比較



岡山市内にある公的施設で『知っている』施設は、“7) 住んでいる地域の区役所”が92.4%と最も多く、次いで“8) ハローワーク岡山”が90.4%、“1) 岡山市立中央図書館”が89.6%などとなっています。

『利用したことがない』（「知っているけど利用したことはない」+「知らない」）施設と、

「知らない」施設の比較



岡山市内にある公的施設で『利用したことがない』施設は、“11) さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）”が89.4%と最も多く、次いで“12) 女性専門外来”が88.6%、“9) 岡山市勤労者福祉センター”が84.7%などとなっています。

「利用したことがある」施設

単位：(%)

	全体 N=3,675	男性 N=1,586	女性 N=2,067	アラ30世代 N=454	アラ40世代 N=723	少産世代 N=712	団塊世代 N=901	高齢世代 N=874
7) 住んでいる地域の区役所	【1】 75.8	【1】 73.9	【1】 77.3	【1】 74.9	【1】 78.6	【1】 76.1	【1】 77.5	【1】 71.7
13) ふれあいセンター (岡山・西大寺・北・西・南)	【2】 59.2	【2】 50.0	【2】 66.7	【2】 57.9	【2】 67.8	【2】 69.5	【2】 56.7	47.1
4) 住んでいる地域の公民館	【3】 48.2	36.5	【3】 57.3	34.1	46.9	【3】 52.8	47.8	【3】 53.4
8) ハローワーク岡山	47.0	【3】 43.1	50.1	【3】 52.9	52.7	52.2	48.2	33.6
6) 集会所(公会堂)	46.5	42.1	50.1	22.7	41.1	51.5	【3】 51.4	【2】 54.1
2) 住んでいる地域の図書館や図書 コーナー	43.2	35.1	49.7	43.8	【3】 53.7	51.5	38.6	32.0
1) 岡山市立中央図書館	42.9	38.1	47.0	【3】 52.9	52.6	51.3	36.6	29.6
5) コミュニティハウス	31.9	25.9	36.6	15.2	28.6	35.4	35.4	37.1
18) 岡山市デジタルミュージアム	30.7	26.4	34.3	30.6	39.0	36.2	25.2	25.1
16) 岡山市休日夜間急患診療所 (市民病院別館1階)	25.0	23.1	26.6	23.3	35.3	34.1	21.8	13.3
15) 保健センター(北区中央・北区北 ・中区・東区・南区西・南区南)	24.3	15.2	31.4	32.2	33.9	24.4	20.4	16.2
17) 岡山市東部リサイクルプラザ	23.6	22.4	24.6	13.0	25.2	31.3	26.5	18.6
14) 岡山市保健福祉会館	21.1	14.6	26.0	20.3	24.2	23.9	19.3	18.5
10) 岡山市福祉文化会館	14.9	11.6	17.5	7.7	11.2	17.6	17.3	16.9
3) 岡山市立中央公民館	11.7	9.8	13.2	7.7	8.2	14.5	11.5	14.6
9) 岡山市勤労者福祉センター	11.0	10.0	11.9	6.2	7.9	13.6	13.5	11.6
11) さんかく岡山(岡山市男女共同 参画社会推進センター)	6.2	3.5	8.2	2.6	7.7	8.1	5.9	5.1
12) 女性専門外来	4.2	0.4	7.1	7.5	4.7	4.6	3.3	2.7

【 】内は順位

性別にみると、すべての施設において女性の利用度が男性よりも高くなっています。

年代別にみると、“7)住んでいる地域の区役所”がすべての年代で利用度が最も高くなっています。

また、少産世代では、利用度が50%を超える施設が7施設あり、他の年代よりも多くなっています。

『知っている』施設

単位：(%)

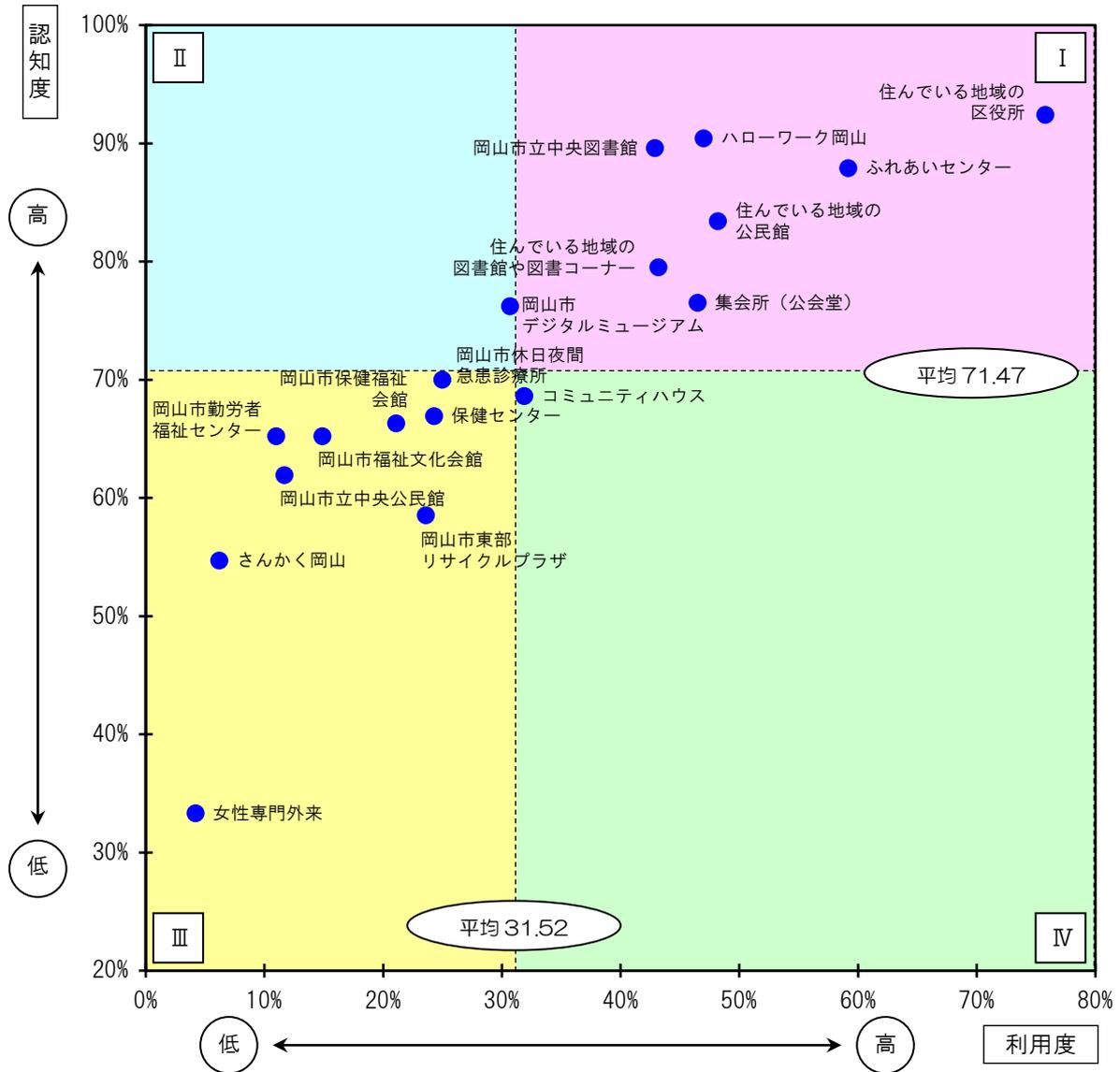
	全体 N=3,675	男性 N=1,586	女性 N=2,067	アラ 30 世代 N=454	アラ 40 世代 N=723	少産世代 N=712	団塊世代 N=901	高齢世代 N=874
7) 住んでいる地域の区役所	【1】 92.4	【1】 92.5	【1】 92.6	【3】 90.1	【2】 94.7	【2】 93.8	【1】 94.7	【1】 88.4
8) ハローワーク岡山	【2】 90.4	【2】 89.8	【3】 91.1	【1】 91.4	【1】 95.0	【1】 94.5	【2】 92.2	81.0
1) 岡山市立中央図書館	【3】 89.6	【3】 87.6	【2】 91.4	【2】 90.3	【3】 93.1	91.7	【3】 90.1	【3】 84.2
13) ふれあいセンター (岡山・西大寺・北・西・南)	87.9	85.2	90.3	82.2	91.1	【3】 92.6	89.8	82.6
4) 住んでいる地域の公民館	83.4	79.9	86.3	69.6	82.3	86.1	88.5	【2】 84.3
2) 住んでいる地域の図書館や図書 コーナー	79.5	76.0	82.4	74.4	80.5	83.1	81.7	76.2
6) 集会所(公会堂)	76.5	75.9	77.2	57.7	73.3	80.8	82.1	79.6
18) 岡山市デジタルミュージアム	76.2	73.5	78.7	77.1	84.8	82.6	72.4	67.6
16) 岡山市休日夜間急患診療所 (市民病院別館1階)	70.0	65.9	73.2	61.0	73.9	76.4	71.0	65.0
5) コミュニティハウス	68.6	67.7	69.3	48.5	62.4	71.9	75.8	74.0
15) 保健センター(北区中央・北区北 ・中区・東区・南区西・南区南)	66.9	61.3	71.4	63.2	69.6	68.1	68.4	64.3
14) 岡山市保健福祉会館	66.3	62.3	69.4	57.0	66.0	70.1	69.0	65.6
9) 岡山市勤労者福祉センター	65.2	65.5	65.2	46.9	58.2	68.5	73.3	69.6
10) 岡山市福祉文化会館	65.2	64.1	66.2	49.6	59.6	65.6	72.7	69.7
3) 岡山市立中央公民館	61.9	63.4	60.7	46.5	55.0	63.1	66.7	69.3
17) 岡山市東部リサイクルプラザ	58.5	57.8	59.2	41.4	59.9	67.0	62.9	54.7
11) さんかく岡山(岡山市男女共同参 画社会推進センター)	54.7	50.7	58.2	42.5	54.8	58.1	58.7	54.2
12) 女性専門外来	33.3	22.2	41.8	28.9	33.5	37.8	34.7	30.4

【 】内は順位

性別にみると、“3) 岡山市立中央公民館”、“9) 岡山市勤労者福祉センター”を除くすべての施設において女性の認知度が男性よりも高くなっています。

年代別にみると、アラ 30 世代以外の年代では、“12) 女性専門外来”を除き、すべての施設の認知度が 50%を超えています。

問 29 公的施設の利用度と認知度



認知度（知っている）を縦軸に、利用度（利用したことがある）を横軸にして図を作成すると、上図のようになります。利用度については、性別や年代によって利用に偏りがあることを考慮する必要がありますが、概ね第I象限から第IV象限にかけて正規分布の傾向にあり、認知度が高い公的施設ほど利用されている傾向が読み取れます。

『利用したことがない』施設

単位：(%)

	全体 N=3,675	男性 N=1,586	女性 N=2,067	アラ30世代 N=454	アラ40世代 N=723	少産世代 N=712	団塊世代 N=901	高齢世代 N=874
11) さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）	【1】 89.4	【1】 91.7	【2】 87.9	【1】 96.5	【2】 91.0	【2】 88.9	【1】 90.5	【1】 84.1
12) 女性専門外来	【2】 88.6	【2】 88.9	【1】 88.7	91.0	【1】 92.7	【1】 91.7	【2】 89.7	【2】 80.5
9) 岡山市勤労者福祉センター	【3】 84.7	【3】 85.4	【3】 84.3	【2】 93.0	【3】 90.6	【3】 83.8	【3】 83.2	【3】 77.7
3) 岡山市立中央公民館	83.0	84.6	81.9	【3】 91.2	89.9	82.7	83.1	72.9
10) 岡山市福祉文化会館	80.6	83.5	78.6	【3】 91.2	87.3	79.5	79.6	71.9
14) 岡山市保健福祉会館	73.2	79.0	68.9	78.2	73.2	73.0	76.0	67.8
17) 岡山市東部リサイクルプラザ	72.1	72.6	71.9	86.1	73.2	66.6	70.4	70.1
15) 保健センター（北区中央・北区北・中区・東区・南区西・南区南）	70.8	79.6	64.2	66.7	64.3	72.8	75.5	72.0
16) 岡山市休日夜間急患診療所（市民病院別館1階）	70.1	71.5	69.2	74.4	63.1	63.6	74.6	74.6
18) 岡山市デジタルミュージアム	65.1	68.8	62.3	68.5	59.6	61.5	71.3	64.5
5) コミュニティハウス	63.6	69.5	59.3	83.5	69.8	62.1	61.6	51.3
1) 岡山市立中央図書館	52.7	57.1	49.2	46.3	46.2	46.1	59.5	60.0
2) 住んでいる地域の図書館や図書コーナー	52.3	60.3	46.1	55.3	45.1	46.2	57.7	56.2
8) ハローワーク岡山	49.3	53.1	46.4	46.5	46.1	45.5	49.5	56.2
6) 集会所（公会堂）	48.6	53.0	45.3	76.4	57.5	46.2	44.2	33.5
4) 住んでいる地域の公民館	47.9	59.3	39.3	64.8	51.9	45.1	48.8	37.1
13) ふれあいセンター（岡山・西大寺・北・西・南）	37.2	45.6	30.5	41.4	30.7	28.8	40.5	43.5
7) 住んでいる地域の区役所	20.4	22.4	18.9	24.2	20.1	21.8	19.8	18.4

【 】内は順位

性別にみると、利用したことがない施設は、すべての施設において男性に多く、“13) ふれあいセンター（岡山・西大寺・北・西・南）”、“7) 住んでいる地域の区役所”以外では50%を超えています。

年代別にみると、利用したことがない施設はアラ30世代に多く、“1) 岡山市立中央図書館”、“13) ふれあいセンター（岡山・西大寺・北・西・南）”、“7) 住んでいる地域の区役所”以外では50%を超えています。

「知らない」施設

単位：(%)

	全体 N=3,675	男性 N=1,586	女性 N=2,067	アラ30世代 N=454	アラ40世代 N=723	少産世代 N=712	団塊世代 N=901	高齢世代 N=874
12) 女性専門外来	【1】 59.5	【1】 67.2	【1】 53.9	【1】 69.6	【1】 63.9	【1】 58.6	【1】 58.3	【1】 52.9
11) さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）	【2】 40.8	【2】 44.6	【2】 37.9	【3】 56.6	【2】 44.0	【2】 38.9	【2】 37.6	【2】 35.0
17) 岡山市東部リサイクルプラザ	【3】 37.2	【3】 37.2	【3】 37.3	【2】 57.7	38.5	30.9	【3】 34.0	【3】 34.1
3) 岡山市立中央公民館	32.8	31.0	34.4	52.4	【3】 43.0	【3】 34.1	28.0	18.2
9) 岡山市勤労者福祉センター	30.5	29.9	31.0	52.2	40.2	28.9	23.5	19.7
10) 岡山市福祉文化会館	30.3	31.0	29.9	49.3	38.9	31.5	24.2	19.1
15) 保健センター（北区中央・北区北・中区・東区・南区西・南区南）	28.2	33.5	24.2	35.7	28.6	29.1	27.5	23.9
14) 岡山市保健福祉会館	28.0	31.3	25.5	41.4	31.4	26.8	26.3	20.8
5) コミュニティハウス	26.9	27.6	26.5	50.2	36.1	25.6	21.2	14.3
16) 岡山市休日夜間急患診療所（市民病院別館1階）	25.2	28.7	22.6	36.8	24.5	21.3	25.3	22.9
18) 岡山市デジタルミュージアム	19.6	21.6	17.9	22.0	13.8	15.2	24.1	22.0
6) 集会所（公会堂）	18.6	19.2	18.2	41.4	25.3	17.0	13.4	8.0
2) 住んでいる地域の図書館や図書コーナー	15.9	19.4	13.4	24.7	18.3	14.6	14.7	12.0
4) 住んでいる地域の公民館	12.7	15.8	10.4	29.3	16.5	11.8	8.2	6.2
13) ふれあいセンター（岡山・西大寺・北・西・南）	8.4	10.3	6.9	17.2	7.3	5.8	7.4	8.0
1) 岡山市立中央図書館	6.1	7.7	4.8	8.8	5.7	5.6	6.0	5.4
8) ハローワーク岡山	5.8	6.4	5.4	7.9	3.7	3.2	5.4	8.8
7) 住んでいる地域の区役所	3.7	3.8	3.6	9.0	3.9	4.1	2.6	1.7

【 】内は順位

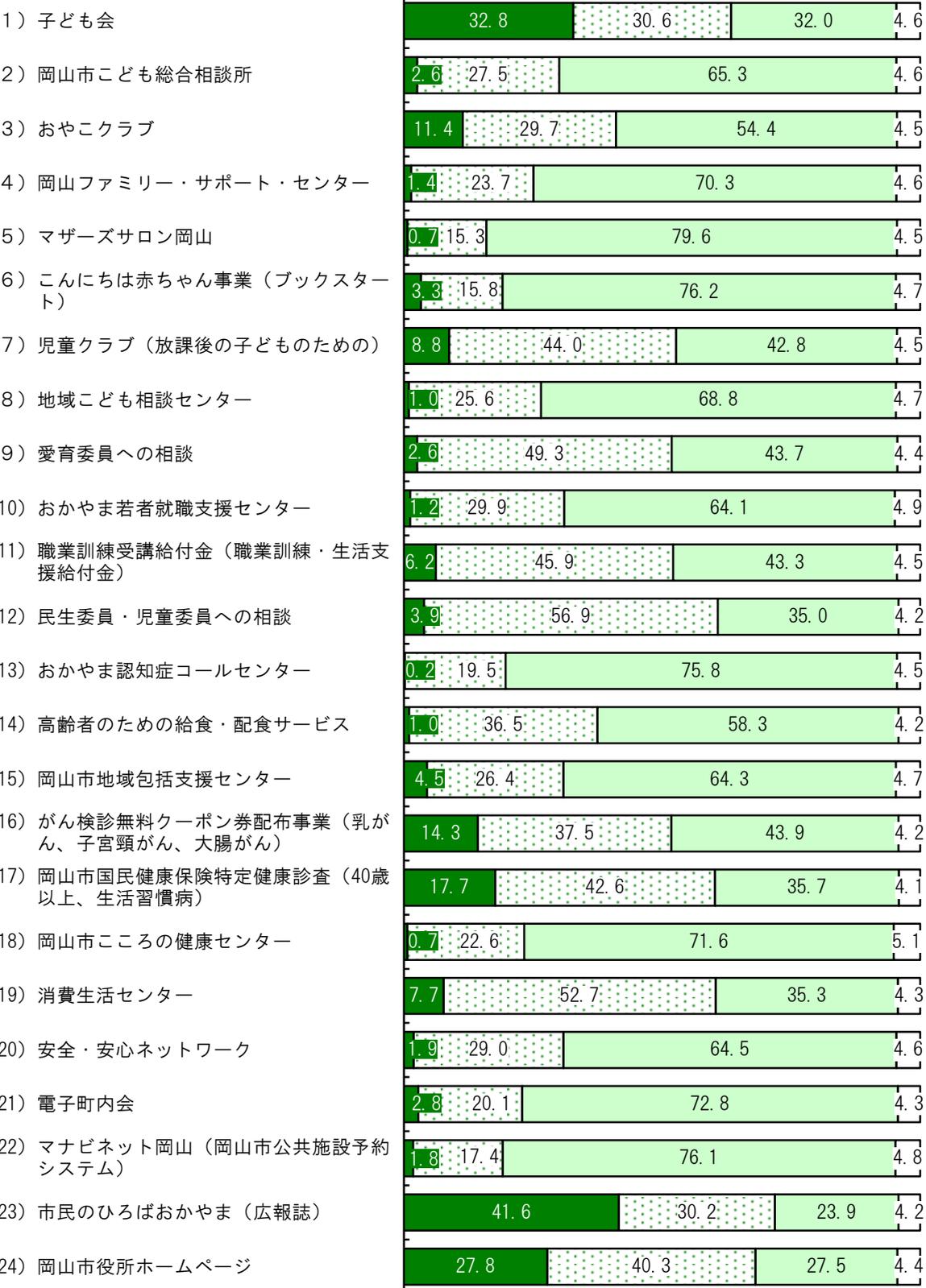
性別にみると、男女とも“1) 女性専門外来”が知らない施設の1位となっており、半数を超えています。特に男性は67.2%で、3人に2人は知らないと回答しています。

年代別にみると、アラ40世代、少産世代、団塊世代、高齢世代ともに、“12) 女性専門外来”だけが知らない施設として半数を超えています。一方、アラ30世代では、“12) 女性専門外来”だけでなく、“11) さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）”、“17) 岡山市東部リサイクルプラザ”、“3) 岡山市立中央公民館”、“9) 岡山市勤労者福祉センター”、“5) コミュニティハウスの6施設が知らない施設として半数を超えています。

問30 行政で実施している次の取り組みを知っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

全体 (N=3,675)

0% 25% 50% 75% 100%



利用したことがある
 知っているけど利用したことはない
 知らない
 無回答

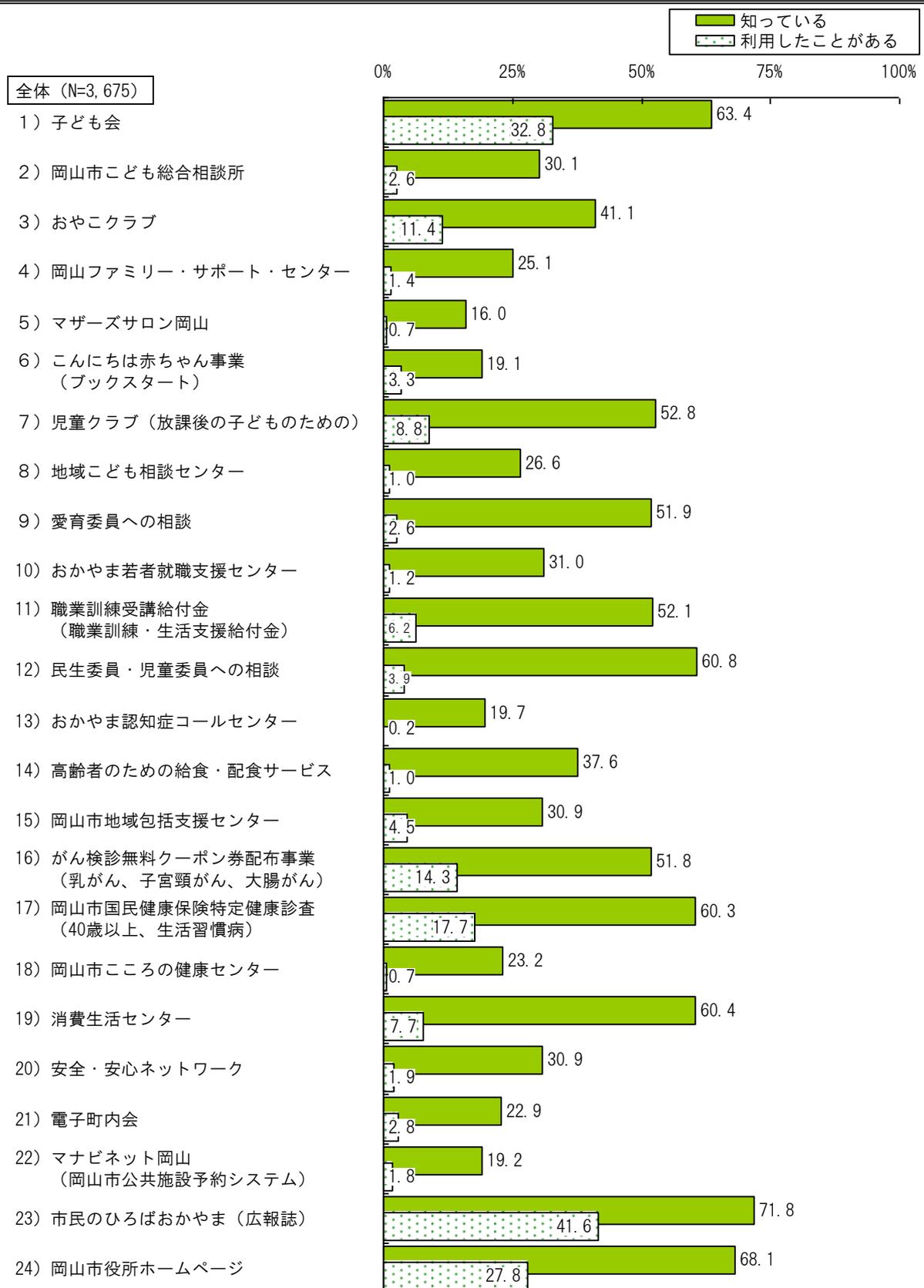
行政で実施している取り組みで「利用したことがある」取り組みは、“23) 市民のひろばおかやま (広報誌)” が 41.6%と最も多く、次いで“1) 子ども会” が 32.8%、“24) 岡山市役所ホームページ” が 27.8%などとなっています。

「知っているけど利用したことはない」取り組みは、“12) 民生委員・児童委員への相談” が 56.9%と最も多く、次いで“19) 消費生活センター” が 52.7%、“9) 愛育委員への相談” が 49.3%などとなっています。

「知らない」取り組みは、“5) マザーズサロン岡山” が 79.6%と最も多く、次いで“6) こんにちは赤ちゃん事業 (ブックスタート)” が 76.2%、“22) マナビネット岡山 (岡山市公共施設予約システム)” が 76.1%などとなっています。

多い順	「利用したことがある」	「知っているけど利用したことはない」	「知らない」
1	23) 市民のひろばおかやま (広報誌)	12) 民生委員・児童委員への相談	5) マザーズサロン岡山
2	1) 子ども会	19) 消費生活センター	6) こんにちは赤ちゃん事業 (ブックスタート)
3	24) 岡山市役所ホームページ	9) 愛育委員への相談	22) マナビネット岡山 (岡山市公共施設予約システム)
4	17) 岡山市国民健康保険特定健康診査 (40歳以上、生活習慣病)	11) 職業訓練受講給付金 (職業訓練・生活支援給付金)	13) おかやま認知症コールセンター
5	16) がん検診無料クーポン券配布事業 (乳がん、子宮頸がん、大腸がん)	7) 児童クラブ (放課後の子どものための)	21) 電子町内会

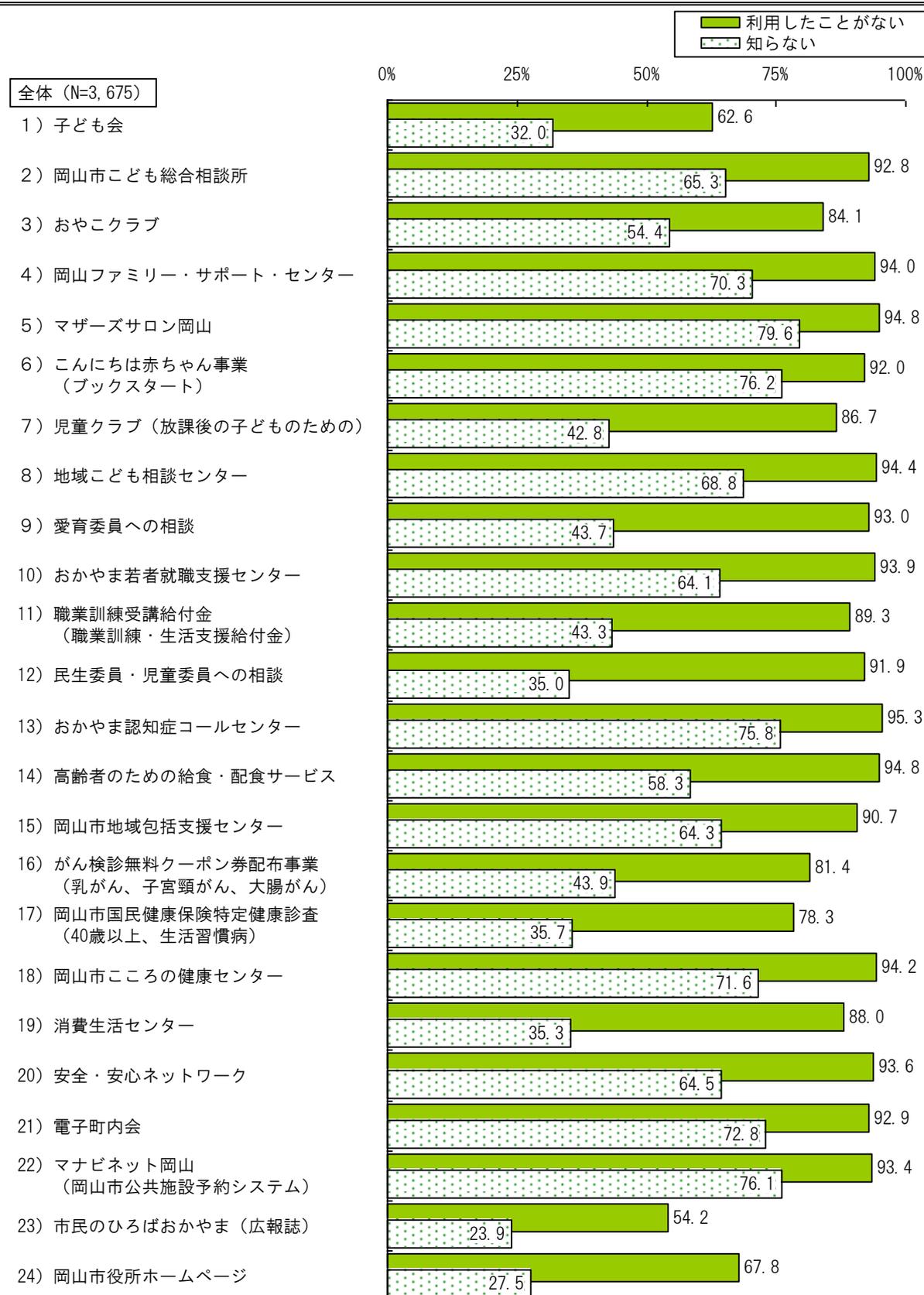
『知っている』（「利用したことがある」+「知っているけど利用したことはない」）取り組みと、
「利用したことがある」取り組みの比較



行政で実施している取り組みで『知っている』取り組みは、“23) 市民のひろばおかやま (広報誌)”が71.8%と最も多く、次いで“24) 岡山市役所ホームページ”が68.1%、“1) 子ども会”が63.4%などとなっています。

『利用したことがない』（「知っているけど利用したことはない」+「知らない」）取り組みと、

「知らない」取り組みの比較



行政で実施している取り組みで『利用したことがない』取り組みは、“13) おかやま認知症コールセンター”が95.3%と最も多く、次いで“5) マザーズサロン岡山”と“14) 高齢者のための給食・配食サービス”が94.8%などとなっています。

「利用したことがある」取り組み

単位：(%)

	全体 N=3,675	男性 N=1,586	女性 N=2,067	アラ30世代 N=454	アラ40世代 N=723	少産世代 N=712	団塊世代 N=901	高齢世代 N=874
23) 市民のひろばおかやま（広報誌）	【1】 41.6	【1】 31.8	【1】 49.3	【2】 38.5	【1】 50.9	【2】 47.1	【1】 38.3	【1】 34.4
1) 子ども会	【2】 32.8	【3】 24.8	【2】 39.2	【3】 21.8	【3】 40.0	【1】 50.1	【2】 32.6	【3】 18.6
24) 岡山市役所ホームページ	【3】 27.8	【2】 29.3	【3】 26.8	【1】 44.3	【2】 43.8	【3】 32.3	19.5	10.9
17) 岡山市国民健康保険特定健康診査 （40歳以上、生活習慣病）	17.7	13.6	20.9	0.7	7.1	19.9	【3】 21.3	【2】 29.9
16) がん検診無料クーポン券配布事業 （乳がん、子宮頸がん、大腸がん）	14.3	3.6	22.5	17.2	18.1	18.7	14.1	6.4
3) おやこクラブ	11.4	4.8	16.6	11.2	20.6	18.8	6.5	3.0
7) 児童クラブ（放課後の子どものため）	8.8	6.4	10.6	6.2	12.9	16.3	5.8	3.8
19) 消費生活センター	7.7	4.9	9.9	4.0	6.4	10.7	8.5	7.4
11) 職業訓練受講給付金（職業訓練・ 生活支援給付金）	6.2	4.3	7.7	8.8	9.0	6.0	6.1	2.7
15) 岡山市地域包括支援センター	4.5	2.6	6.0	1.3	1.9	4.2	7.3	5.7
12) 民生委員・児童委員への相談	3.9	2.5	4.9	1.8	2.2	3.4	4.1	6.6
6) こんにちは赤ちゃん事業（ブック スタート）	3.3	1.3	5.0	12.6	7.3	0.3	0.7	0.6
21) 電子町内会	2.8	3.2	2.6	2.0	3.7	3.1	2.4	2.5
2) 岡山市子ども総合相談所	2.6	2.0	3.1	2.6	4.0	4.4	1.7	1.0
9) 愛育委員への相談	2.6	1.6	3.4	2.4	2.4	2.0	2.2	4.0
20) 安全・安心ネットワーク	1.9	2.6	1.3	0.4	1.4	2.7	1.7	2.5
22) マナビネット岡山（岡山市公共施設 予約システム）	1.8	2.0	1.7	1.5	3.2	2.7	1.4	0.5
4) 岡山ファミリー・サポート・ センター	1.4	0.8	1.9	0.9	2.9	2.4	0.8	0.2
10) おかやま若者就職支援センター	1.2	1.0	1.3	4.0	1.2	0.8	0.7	0.6
8) 地域子ども相談センター	1.0	0.3	1.5	2.0	1.7	1.1	0.2	0.5
14) 高齢者のための給食・配食サー ビス	1.0	0.6	1.3	1.3	0.1	0.8	1.4	1.4
5) マザーズサロン岡山	0.7	0.1	1.2	2.6	1.4	0.4	0.0	0.1
18) 岡山市こころの健康センター	0.7	0.4	0.8	0.4	0.6	1.1	0.8	0.5
13) おかやま認知症コールセンター	0.2	0.1	0.3	0.2	0.0	0.4	0.2	0.3

【 】内は順位

性別にみると、多くの施設で女性の利用度が男性よりも高くなっています。

年代別にみると、アラ30世代では“24) 岡山市役所ホームページ”、アラ40世代、団塊世代、高齢世代では“23) 市民のひろばおかやま（広報誌）”、少産世代では“1) 子ども会”の利用度が最も高くなっています。

また、利用度が50%を超えているのは、アラ40世代の“23) 市民のひろばおかやま（広報誌）”と、少産世代の“1) 子ども会”の2つのみとなっています。

『知っている』取り組み

単位：(%)

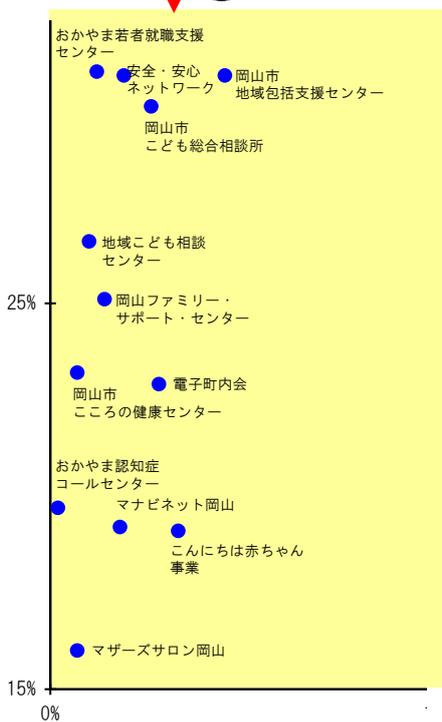
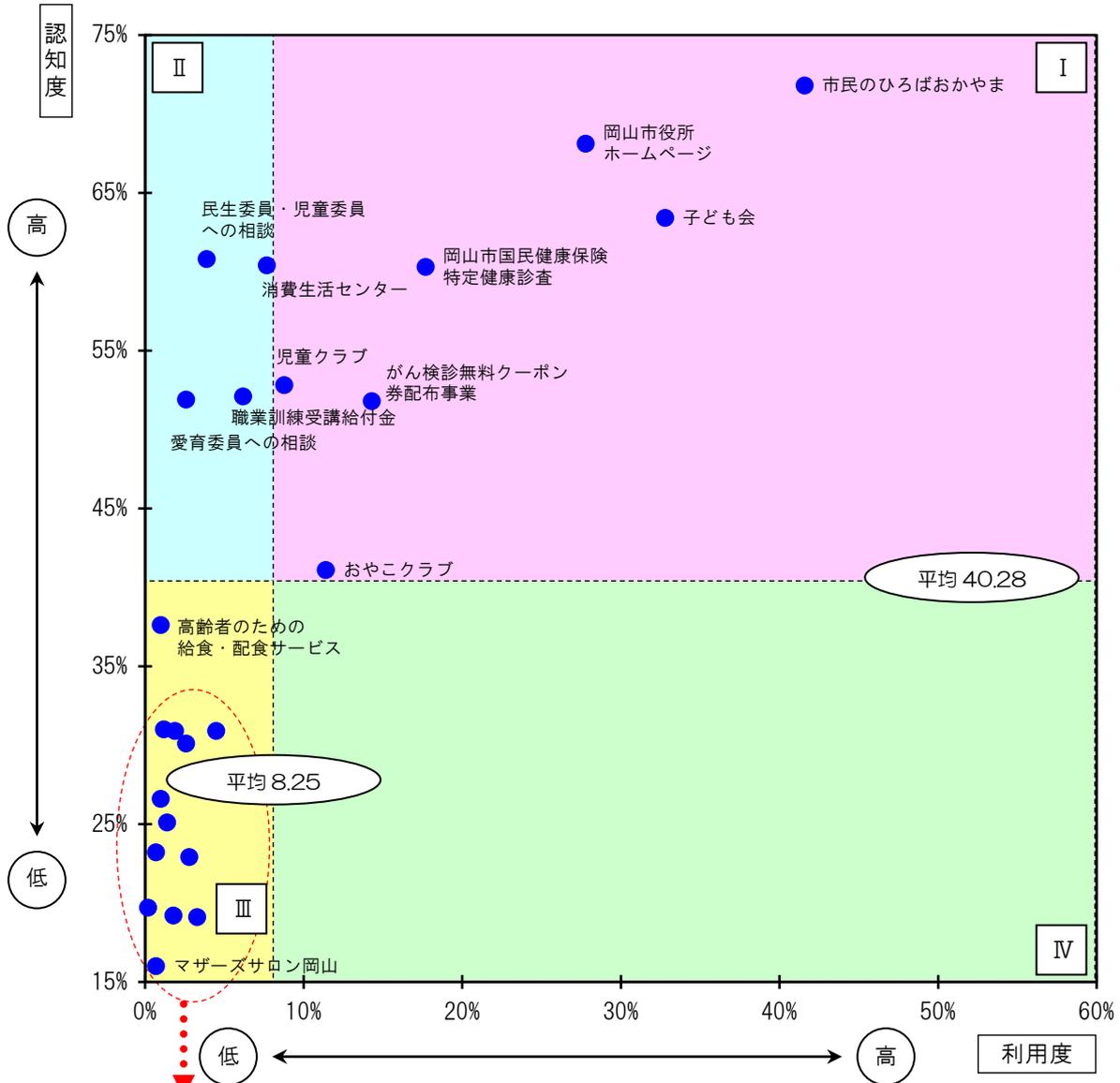
	全体 N=3,675	男性 N=1,586	女性 N=2,067	アラ30世代 N=454	アラ40世代 N=723	少産世代 N=712	団塊世代 N=901	高齢世代 N=874
23) 市民のひろばおかやま（広報誌）	【1】 71.8	【2】 64.5	【1】 77.7	【2】 65.0	【2】 73.9	【1】 78.2	【1】 73.1	【1】 67.0
24) 岡山市役所ホームページ	【2】 68.1	【1】 66.7	【2】 69.5	【1】 77.1	【1】 77.7	【2】 74.7	63.7	54.5
1) 子ども会	【3】 63.4	56.2	【3】 69.2	【3】 61.5	【3】 70.8	【3】 74.6	63.3	49.4
12) 民生委員・児童委員への相談	60.8	【3】 56.3	64.3	36.6	52.3	67.1	【2】 68.8	【2】 66.9
19) 消費生活センター	60.4	54.2	65.2	51.5	56.4	68.4	64.5	57.7
17) 岡山市国民健康保険特定健康診査 （40歳以上、生活習慣病）	60.3	52.1	66.6	36.1	51.7	69.4	【3】 66.4	【3】 66.1
7) 児童クラブ（放課後の子どものため の）	52.8	38.8	63.7	49.1	63.6	62.6	49.7	40.7
11) 職業訓練受講給付金（職業訓練・ 生活支援給付金）	52.1	47.4	56.1	56.2	59.6	55.9	53.5	39.4
9) 愛育委員への相談	51.9	40.8	60.6	40.3	49.2	53.1	55.6	55.5
16) がん検診無料クーポン券配布事業 （乳がん、子宮頸がん、大腸がん）	51.8	36.0	64.0	52.6	57.7	58.1	52.8	40.4
3) おやこクラブ	41.1	28.1	51.2	43.4	49.7	48.0	37.5	31.0
14) 高齢者のための給食・配食サー ビス	37.6	28.6	44.6	23.3	27.7	40.3	45.0	43.2
10) おかやま若者就職支援センター	31.0	27.6	33.8	32.2	27.9	34.0	34.4	27.2
15) 岡山市地域包括支援センター	30.9	24.7	35.8	24.0	23.9	32.0	35.6	34.7
20) 安全・安心ネットワーク	30.9	30.8	31.1	20.9	25.9	33.6	36.0	33.1
2) 岡山市子ども総合相談所	30.1	25.9	33.4	29.5	30.2	31.0	31.5	28.4
8) 地域こども相談センター	26.6	20.6	31.2	31.3	30.0	25.6	25.4	23.2
4) 岡山ファミリー・サポート・ センター	25.1	18.5	30.2	27.8	29.5	29.1	23.4	18.5
18) 岡山市こころの健康センター	23.2	17.5	27.7	21.4	22.0	25.8	24.3	22.1
21) 電子町内会	22.9	22.3	23.3	13.7	20.1	26.4	24.4	25.4
13) おかやま認知症コールセンター	19.7	16.4	22.2	15.2	13.8	18.4	24.2	23.3
22) マナビネット岡山（岡山市公共施 設予約システム）	19.2	18.3	19.9	18.9	19.8	23.2	19.3	15.4
6) こんにちは赤ちゃん事業（ブック スタート）	19.1	13.2	23.7	32.4	25.6	14.5	15.9	14.1
5) マザーズサロン岡山	16.0	13.3	18.0	22.5	18.5	14.6	13.9	13.7

【 】内は順位

性別にみると、すべての取り組みにおいて女性の認知度が男性よりも高くなっています。

年代別にみると、アラ30世代とアラ40世代では、“24) 岡山市役所ホームページ”の認知度が最も高く、少産世代、団塊世代、高齢世代では、“23) 市民のひろばおかやま（広報誌）”の認知度が最も高くなっています。

問 30 行政の実施している取り組みの利用度と認知度



認知度（知っている）を縦軸に、利用度（利用したことがある）を横軸にして図を作成すると、上図のようになります。利用度については、性別や年代によって利用に偏りがあることを考慮する必要がありますが、利用度、認知度ともに低いために、左下に固まってしまう取り組みがみられます。

『利用したことがない』取り組み

単位：(%)

	全体 N=3,675	男性 N=1,586	女性 N=2,067	アラ30世代 N=454	アラ40世代 N=723	少産世代 N=712	団塊世代 N=901	高齢世代 N=874
13) おかやま認知症コールセンター	【1】 95.3	【2】 95.0	【1】 95.8	【1】 98.7	【1】 98.2	【1】 97.8	【1】 96.8	【3】 87.6
5) マザーズサロン岡山	【2】 94.8	【1】 95.3	【3】 94.8	96.5	97.1	【1】 97.8	【2】 96.7	【1】 87.9
14) 高齢者のための給食・配食サービス	【2】 94.8	【3】 94.8	【2】 95.1	97.6	【2】 98.1	97.3	95.7	【2】 87.8
8) 地域こども相談センター	94.4	【3】 94.8	94.4	97.1	96.7	96.9	【3】 96.4	87.0
18) 岡山市こころの健康センター	94.2	94.1	94.6	【1】 98.7	【3】 97.4	96.3	95.4	86.3
4) 岡山ファミリー・サポート・センター	94.0	94.4	94.0	98.2	95.4	95.9	95.9	87.3
10) おかやま若者就職支援センター	93.9	94.1	94.1	95.2	97.1	97.2	95.7	86.3
20) 安全・安心ネットワーク	93.6	92.5	94.6	【1】 98.7	96.7	95.5	95.0	85.4
22) マナビネット岡山 (岡山市公共施設予約システム)	93.4	93.1	94.0	96.9	94.7	95.4	95.4	87.1
9) 愛育委員への相談	93.0	93.7	92.7	96.7	96.0	96.3	94.6	84.2
21) 電子町内会	92.9	92.1	93.7	97.1	94.6	95.1	94.5	85.9
2) 岡山市こども総合相談所	92.8	93.3	92.7	96.5	94.5	93.7	94.7	87.0
6) こんにちは赤ちゃん事業 (ブックスタート)	92.0	93.8	90.9	86.6	90.9	【1】 97.8	95.9	87.0
12) 民生委員・児童委員への相談	91.9	93.1	91.2	97.4	95.7	94.8	93.2	82.2
15) 岡山市地域包括支援センター	90.7	92.4	89.8	97.4	96.0	93.7	89.5	81.9
11) 職業訓練受講給付金(職業訓練・ 生活支援給付金)	89.3	91.0	88.3	90.1	89.5	92.3	90.7	84.9
19) 消費生活センター	88.0	90.5	86.4	95.2	92.0	87.6	88.5	81.0
7) 児童クラブ (放課後の子どものための)	86.7	88.7	85.6	93.0	85.5	82.2	90.9	84.1
3) おやこクラブ	84.1	90.5	79.4	87.7	77.6	79.4	90.0	85.4
16) がん検診無料クーポン券配布事業 (乳がん、子宮頸がん、大腸がん)	81.4	91.5	74.0	81.9	80.4	79.8	82.9	81.9
17) 岡山市国民健康保険特定健康診査 (40歳以上、生活習慣病)	78.3	82.0	75.6	98.5	91.4	78.1	75.8	59.6
24) 岡山市役所ホームページ	67.8	66.0	69.3	54.6	54.5	65.7	77.1	77.7
1) 子ども会	62.6	70.3	56.7	77.3	58.0	48.2	64.4	68.6
23) 市民のひろばおかやま(広報誌)	54.2	63.6	47.0	60.4	47.4	51.4	58.4	54.5

【 】内は順位

性別にみると、利用したことがない取り組みは男女とも多く、男性では19項目、女性では14項目において9割以上が利用したことがない取り組みとなっています。

年代別にみても、9割以上が利用したことがない取り組みとなっている部分が多いものの、高齢世代だけは、利用したことがない取り組みが9割を超えるものではありません。

「知らない」取り組み

単位：(%)

	全体 N=3,675	男性 N=1,586	女性 N=2,067	アラ30世代 N=454	アラ40世代 N=723	少産世代 N=712	団塊世代 N=901	高齢世代 N=874
5) マザーズサロン岡山	【1】 79.6	【1】 82.0	【1】 78.0	76.7	【2】 79.9	【1】 83.6	【1】 82.8	【1】 74.3
6) こんにちは赤ちゃん事業 (ブックスタート)	【2】 76.2	【2】 81.8	72.2	66.7	72.6	【1】 83.6	【2】 80.7	【2】 73.5
22) マナビネット岡山 (岡山市公共施設予約システム)	【3】 76.1	76.7	【2】 75.8	【3】 79.5	78.1	74.9	【3】 77.6	【3】 72.1
13) おかやま認知症コールセンター	75.8	【3】 78.8	【3】 74.0	【2】 83.7	【1】 84.4	【3】 79.8	72.8	64.6
21) 電子町内会	72.8	73.0	72.9	【1】 85.5	【3】 78.3	71.8	72.5	63.0
18) 岡山市こころの健康センター	71.6	77.0	67.7	77.8	75.9	71.6	71.9	64.6
4) 岡山ファミリー・サポート・センター	70.3	76.7	65.7	71.4	68.9	69.2	73.3	69.0
8) 地域こども相談センター	68.8	74.5	64.7	67.8	68.3	72.5	71.3	64.2
2) 岡山市こども総合相談所	65.3	69.3	62.5	69.6	68.3	67.0	64.8	59.6
20) 安全・安心ネットワーク	64.5	64.2	64.9	78.2	72.2	64.6	60.7	54.8
15) 岡山市地域包括支援センター	64.3	70.4	60.0	74.7	74.0	65.9	61.2	53.0
10) おかやま若者就職支援センター	64.1	67.6	61.6	67.0	70.4	64.0	61.9	59.6
14) 高齢者のための給食・配食サービス	58.3	66.9	51.8	75.6	70.5	57.9	52.2	45.9
3) おやこクラブ	54.4	67.2	44.8	55.5	48.5	50.1	59.0	57.3
16) がん検診無料クーポン券配布事業 (乳がん、子宮頸がん、大腸がん)	43.9	59.1	32.5	46.5	40.8	40.3	44.2	47.9
9) 愛育委員への相談	43.7	54.5	35.5	58.8	49.1	45.2	41.2	32.7
11) 職業訓練受講給付金 (職業訓練・生活支援給付金)	43.3	47.9	39.9	42.7	38.9	42.4	43.3	48.3
7) 児童クラブ (放課後の子どものための)	42.8	56.4	32.5	50.0	34.7	35.8	46.9	47.1
17) 岡山市国民健康保険特定健康診査 (40歳以上、生活習慣病)	35.7	43.4	29.9	63.0	46.7	28.7	30.7	23.3
19) 消費生活センター	35.3	41.2	31.0	47.6	41.9	29.9	32.5	30.8
12) 民生委員・児童委員への相談	35.0	39.2	31.9	62.6	45.6	31.0	28.5	21.9
1) 子ども会	32.0	38.9	26.7	37.7	27.1	23.7	33.7	37.9
24) 岡山市役所ホームページ	27.5	28.6	26.6	21.8	20.6	23.3	33.0	34.1
23) 市民のひろばおかやま (広報誌)	23.9	30.8	18.6	33.9	24.5	20.2	23.5	21.9

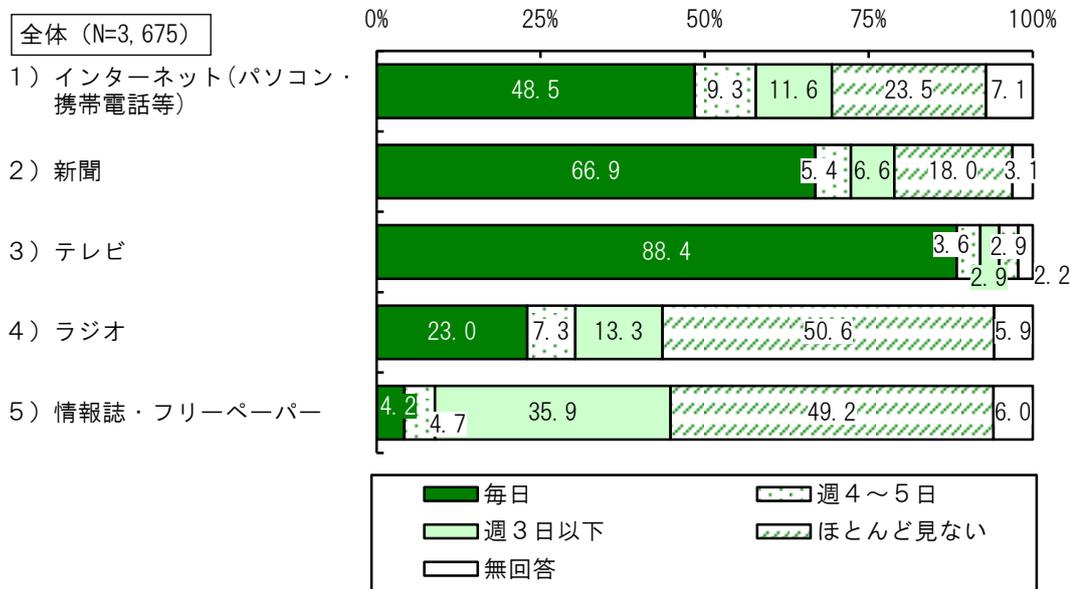
【 】内は順位

性別にみると、“20) 安全・安心ネットワーク”を除くすべての取り組みにおいて、男性のほうが女性よりも知らない取り組みが多くなっています。

年代別にみると、アラ30世代では“21) 電子町内会”、アラ40世代では“13) おかやま認知症コールセンター”、少産世代では“5) マザーズサロン岡山”と“6) こんにちは赤ちゃん事業(ブックスタート)”、団塊世代と高齢世代では“5) マザーズサロン岡山”が知らない施設として最も多く回答されています。

5 最後に全員にうかがいます。

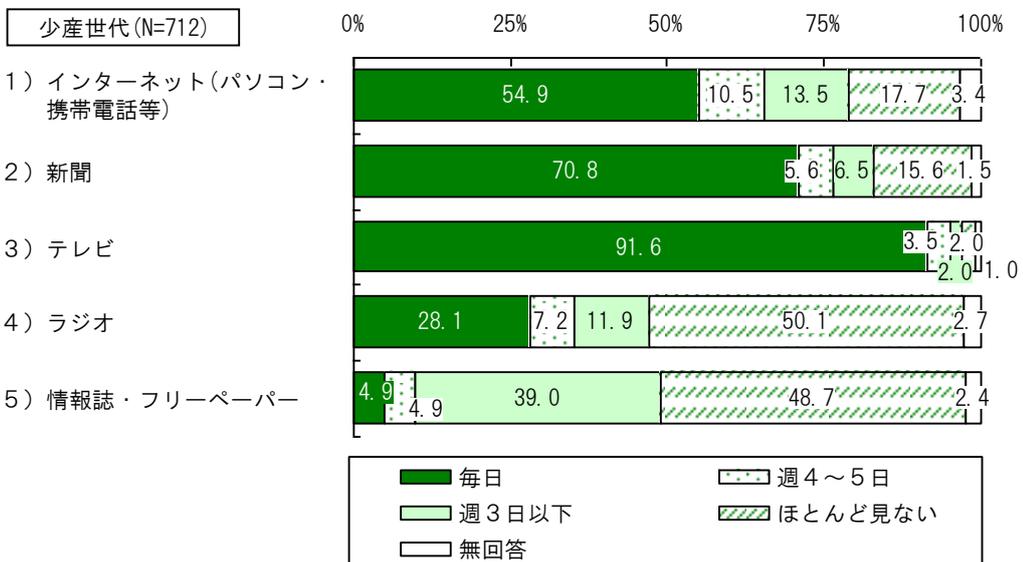
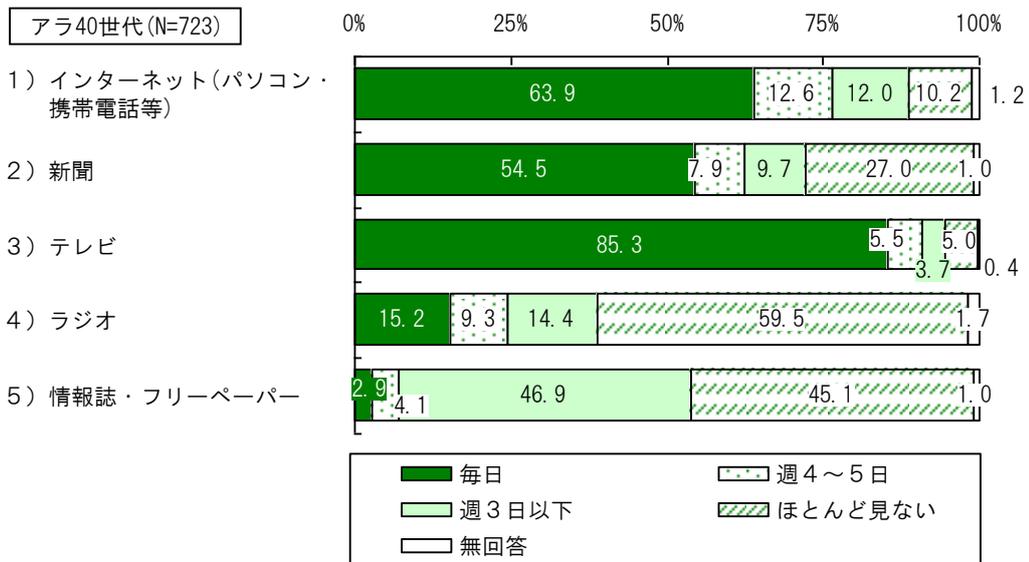
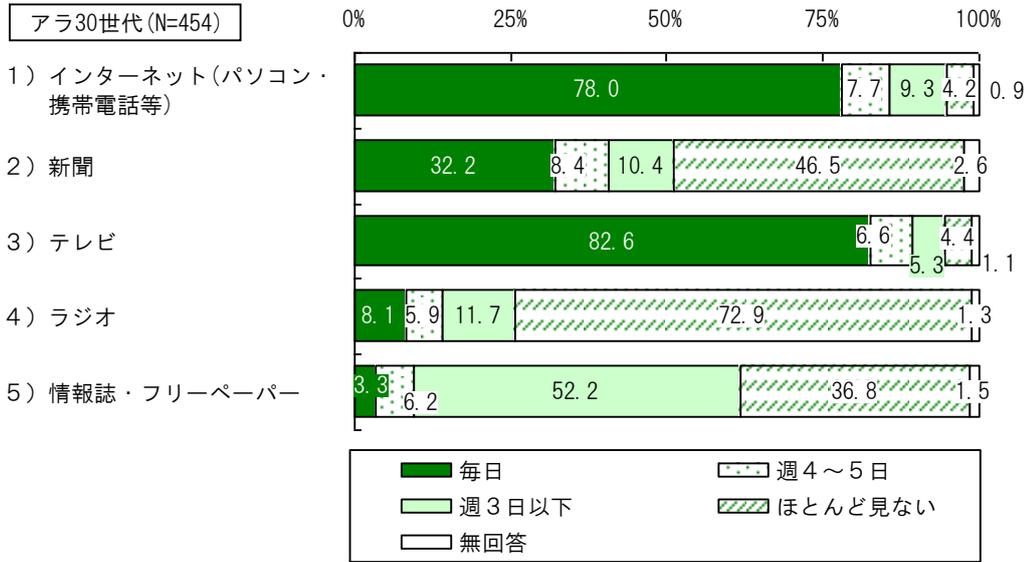
問31 あなたは日常生活において、情報ツールをどのくらいの頻度で利用しますか。(〇はそれぞれ1つ)

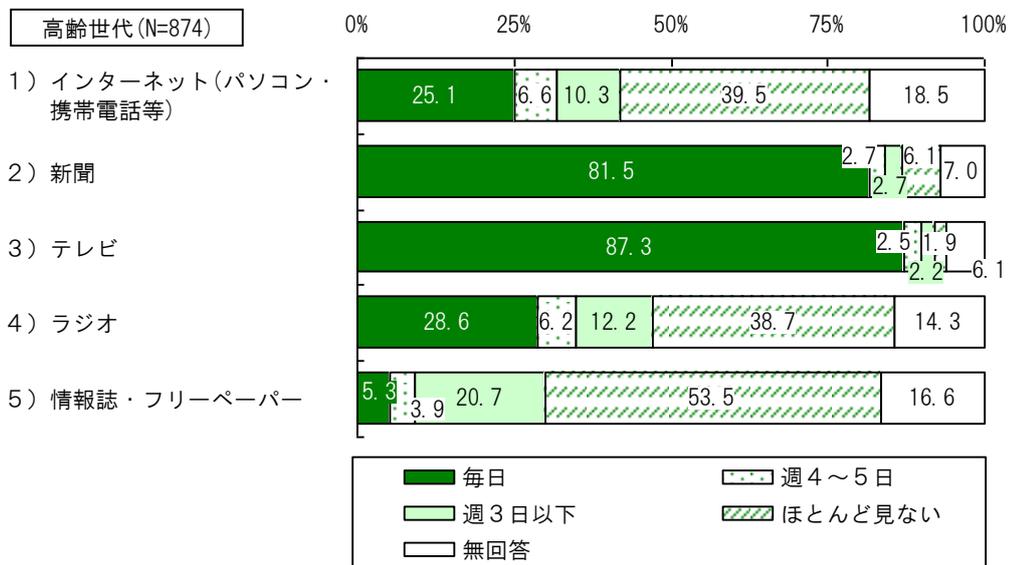
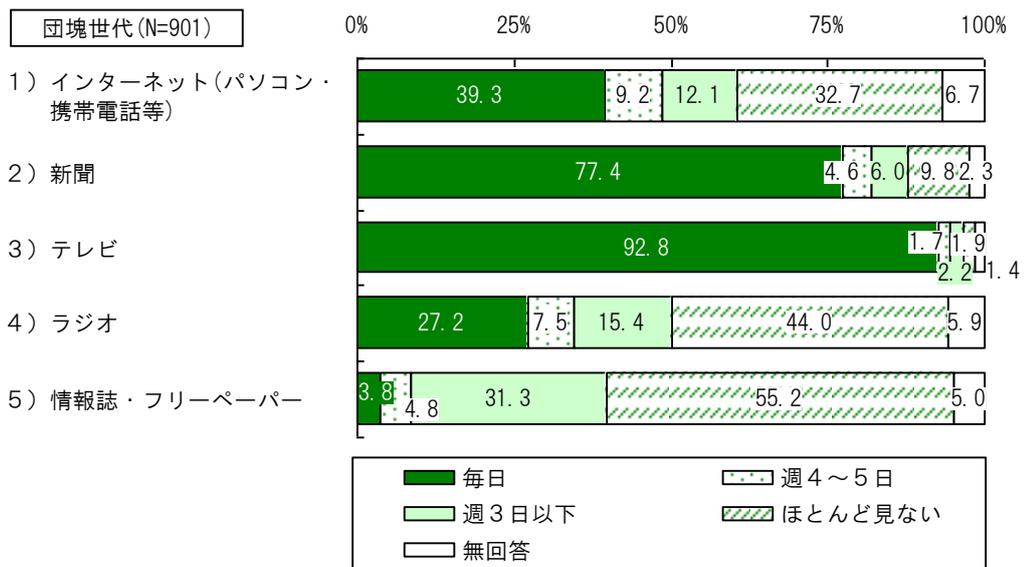


情報ツールの使用頻度で「毎日」は、「3) テレビ」が 88.4%と最も多く、次いで「2) 新聞」が 66.9%、「インターネット (パソコン・携帯電話等)」が 48.5%などとなっています。

一方、「ほとんど見ない」は、「4) ラジオ」の 50.6%と、「5) 情報誌・フリーペーパー」の 49.2%が半数を占めています。

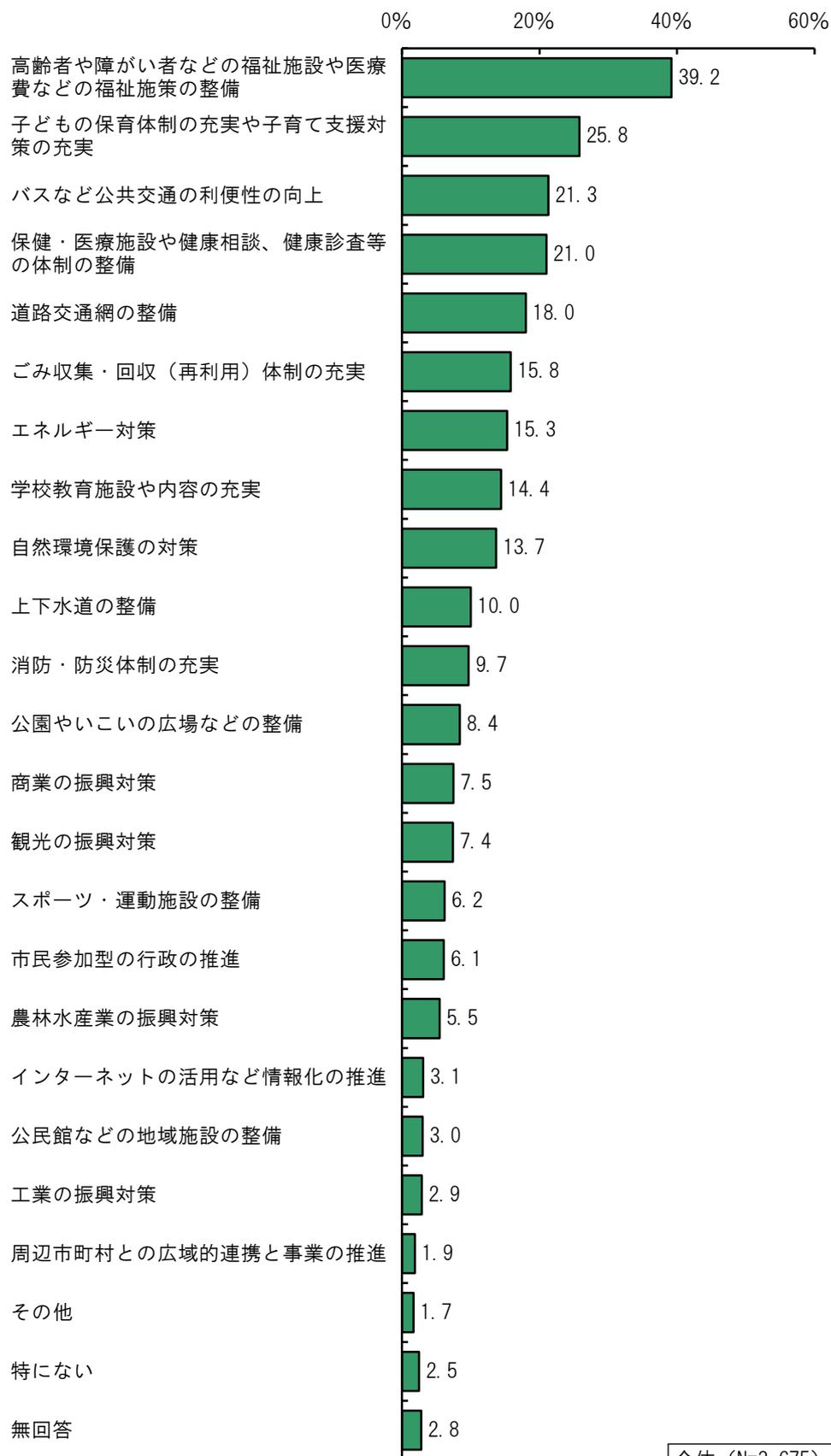
◆ 年代別 ◆





年代別で見ると、使用頻度が「毎日」は、いずれの世代も“3) テレビ”が多く、8割を超えています。次いで、アラ30世代とアラ40世代は、“1) インターネット(パソコン・携帯電話等)”が、少産世代から高齢世代までは“2) 新聞”が多くなっています。

問32 これからのまちづくりにおいて、行政に充実を求めることは何ですか。(〇は3つまで)

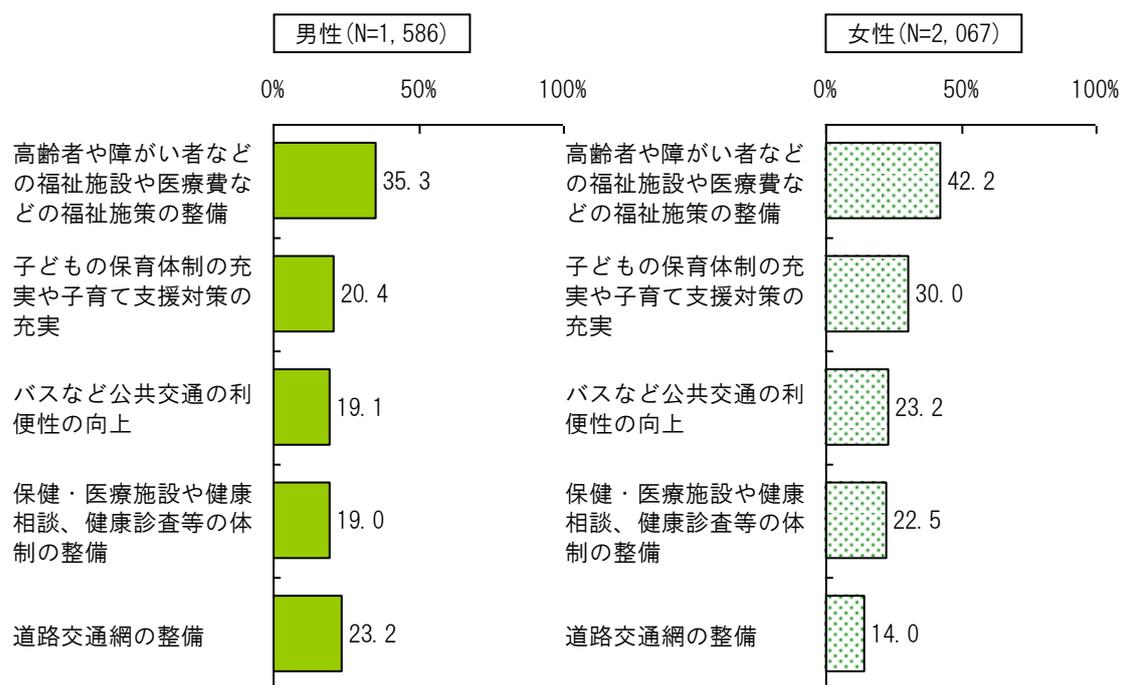


全体 (N=3,675)

これからのまちづくりにおいて行政に求めることは、「高齢者や障がい者などの福祉施設や医療費などの福祉施策の整備」が39.2%と最も多く、次いで「子どもの保育体制の充実や子育て支援対策の充実」が25.8%、「バスなど公共交通の利便性の向上」が21.3%などとなっています。

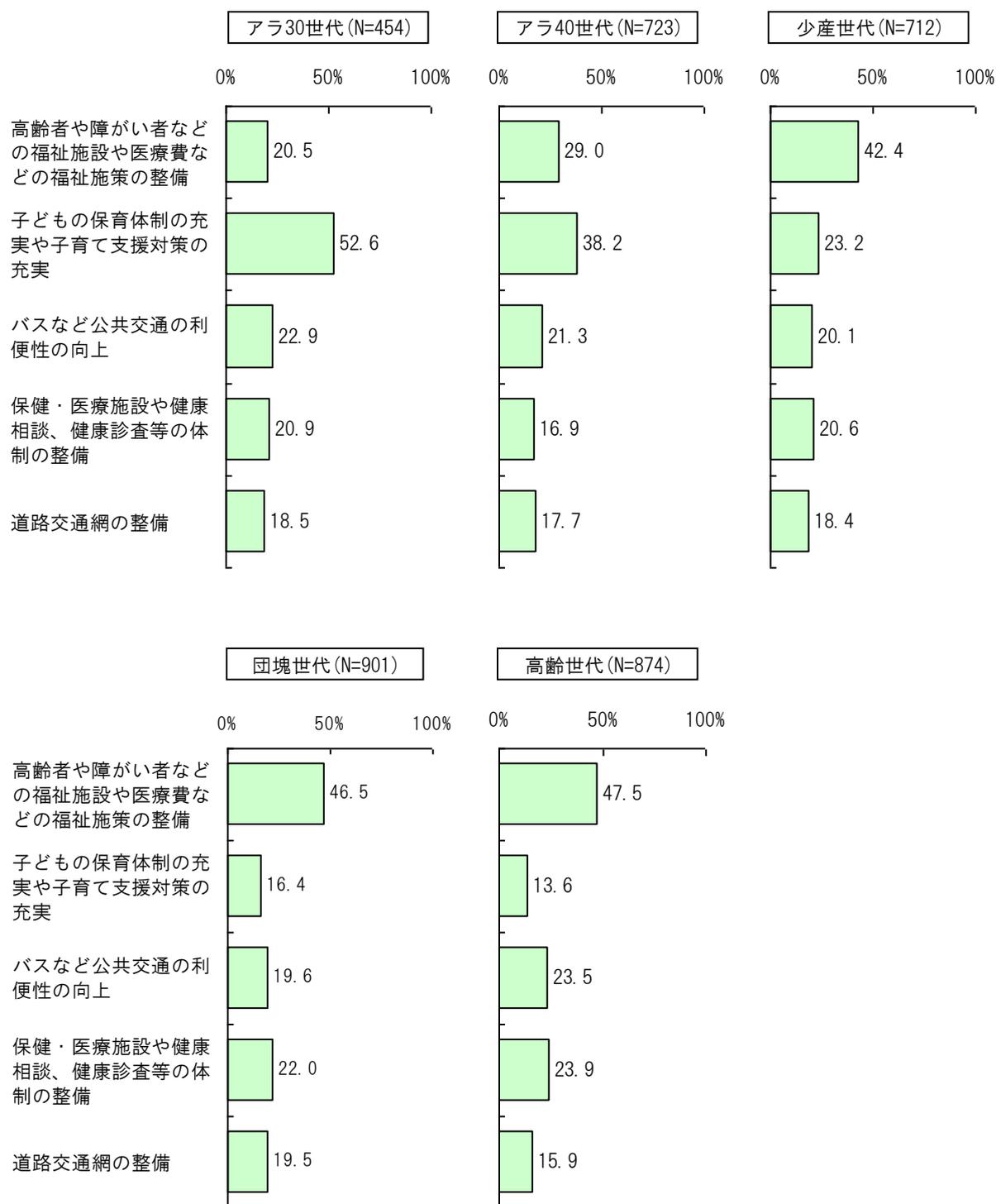
上位5項目を掲載

◆性別◆



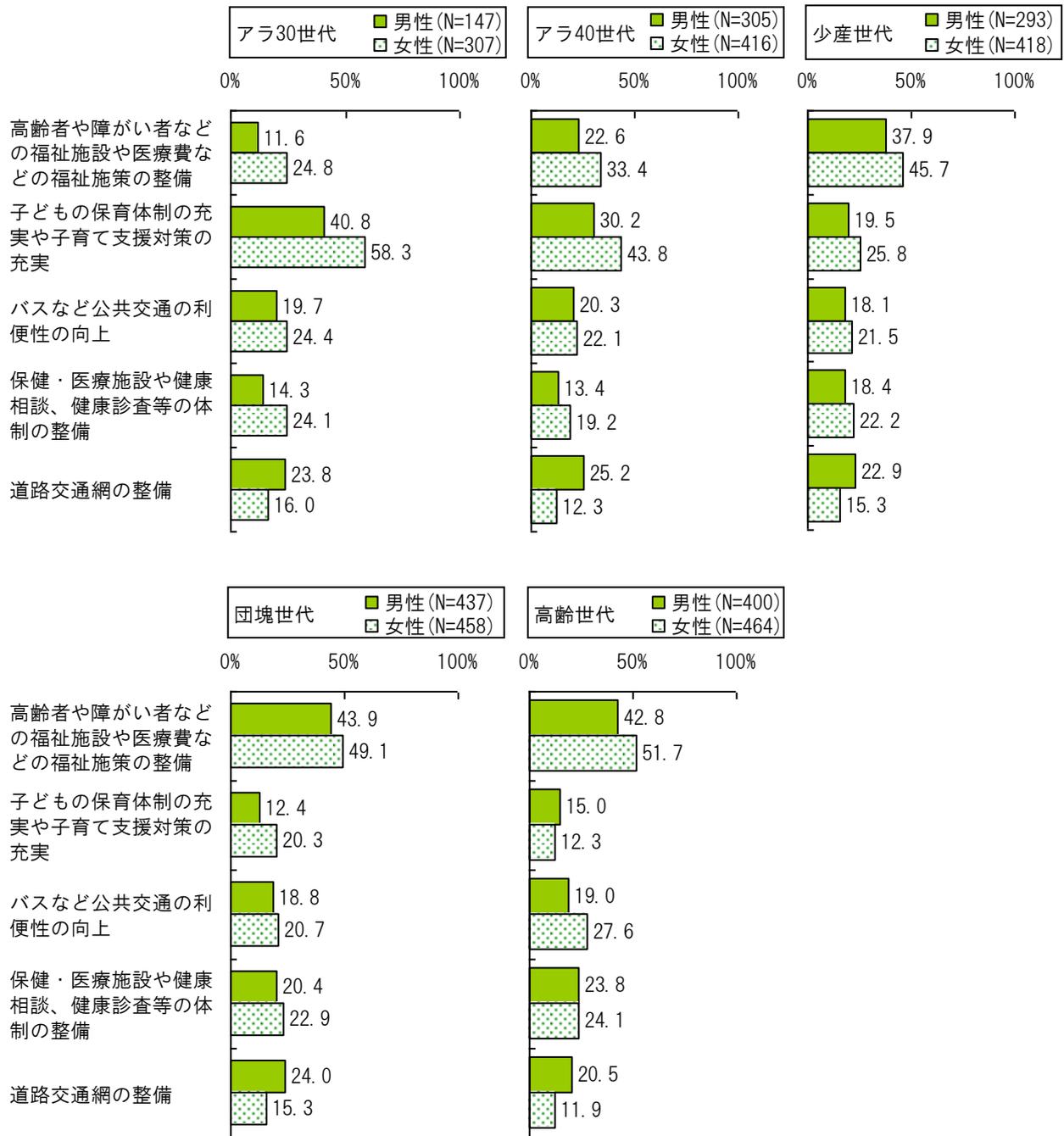
性別で見ると、男性は「高齢者や障がい者などの福祉施設や医療費などの福祉施策の整備」が35.3%と最も多く、次いで「道路交通網の整備」が23.2%、「子どもの保育体制の充実や子育て支援対策の充実」が20.4%などとなっています。一方、女性は「高齢者や障がい者などの福祉施設や医療費などの福祉施策の整備」が42.2%と最も多く、次いで「子どもの保育体制の充実や子育て支援対策の充実」が30.0%、「バスなど公共交通の利便性の向上」が23.2%などとなっています。

◆年代別◆



年代別で見ると、少産世代から高齢世代までは「高齢者や障がい者などの福祉施設や医療費などの福祉施策の整備」が多く、いずれも4割を超えています。年代が下がるほど「子どもの保育体制の充実や子育て支援対策の充実」が多く、アラ30世代は52.6%、アラ40世代は38.2%となっています。

◆性・年代別◆



性・年代別でみると、男女ともにアラ 30 世代は「子どもの保育体制の充実や子育て支援対策の充実」が多く、女性は 58.3%、男性は 40.8%と、女性のほうが 17.5 ポイント高くなっています。また、アラ 40 世代も「子どもの保育体制の充実や子育て支援対策の充実」が多く、女性は 43.8%、男性は 30.2%と、女性のほうが 13.6 ポイント高くなっています。

Ⅲ 考察

調査結果からみた岡山市の現状の特色と課題

馬居政幸

Ⅲ 考察：調査結果からみた岡山市の現状の特色と課題

馬居政幸

1 はじめに

2011年度が始まる4月初旬に、岡山市議会公明党議員団（以後、市議団と略す）より、政令市になった岡山市が必要とする新たなまちづくりのための政策を立案するための政策アドバイザーに就任することを要請された。私は職務内容をより広く、「岡山市を中心に地方行政・まちづくりに関する政策の調査研究・提言」とする「兼業依頼書」を、国立大学法人静岡大学長に提出していただくことを市議団にお願いした。その結果、6月1日付で、2013年3月末までの約2年間の任期により、大学長の許可を得た。

その後、6月13日をスタートに、岡山市を定期的に訪問し、調査研究の観点や方法について市議団の皆さんと検討会議を行い、その検討結果にしたがって自治体行政にかかわる公的機関や地域活動中心者への聞き取り調査を開始した。さらに、調査の進行に応じて、その調査結果の分析のための会議や政策立案のために必要な自治体行政の課題や地方都市に居住する市民への行政サービスの問題点についての市議団のみなさんへの講義を継続的に実施してきた。

このように、2011年6月から2012年3月までの約10か月にわたり、岡山市の現状に関する聞き取り調査、参与観察、資料分析、研究協議・講義を重ねてきた。その過程で、改めて「市民の側からのまちづくり」という政策立案のコンセプトにたちもどり、市民1万人を対象にした『岡山のまちづくり』に関する質問紙調査（以後「市民調査」と略す）の必要性が明確になり、その準備にとりかかった。それは、本調査研究の目的である、政務調査費による「岡山市のまちづくりに関する政策立案」において重視すべき観点を、改めて確認する作業となった。

市民調査は、市議団による調査内容の検討を経て、2012年1月から6月にかけて、サーベイリサーチセンターにより実施された。調査実施準備の中心にある調査票作成のための基本コンセプトと調査結果が示唆する施策課題については、「3岡山市民への「まちづくり」に関する調査結果から」において詳論する。

2012年度は、さまざまな事情で、市民調査結果の分析が主たる作業となった。その中間報告として、『岡山のまちづくり』に関する調査結果の概要（以後「概要」と略す）を作成した。概要には、調査結果の分析から見えてきた、施策立案への課題を示唆するコメントの記入を試みた。しかし、本調査研究の目的である政策立案の作業にまで、次の二つの理由により進めることができなかった。

その一つは、調査結果の分析に関することである。調査結果全体を総合的に分析し、政策立案の基礎となる岡山市民の類型を析出するために多変量解析の手法を用いた。その作業が予想を超えて複雑になり、より高度な統計処理と多様な要素を加味した読み取り作業が必要になり、年度を超える時間を要することが明確になった。

その二つは、2012年12月の総選挙により政権が代わり、政治と経済に大きな変化が生じたことである。アベノミクスと総称される政策転換の影響は、政令市岡山の未来にとって無視できない変数といわざるをえない。

そこで、本考察では、政策提言の前提として実施してきた2011年度、2012年度の質的（聞き取り）量的（質問紙）調査の総括であるとともに、2013年度の作業となった政策提言作業の準備ともなることを意図して、調査結果の分析を進めたい。

2 有識者への聞き取り調査による岡山市の現状の特色と課題

1) 岡山市の現状の特色

最初に、1万名市民への質問紙調査の前提となった、行政機関の担当者や地域活動のリーダー、あるいは女性団体や産業界のリーダーへの聞き取り調査によって収集できた情報や資料の整理・分析によって明らかになった、岡山市の現状の特色を示すことから始めたい。それは、「功」と「罪」の二つの尺度から、岡山市の過去と現在を評価し、未来への課題を提起する作業になった。

(1) 功：豊かな社会的資源（ハード）と社会的資本（ソフト）

「功」にあたる尺度から評価される岡山市の特色は、ソーシャルリソース（社会的資源）とソーシャルキャピタル（社会的資本）の豊かさである。

社会的資源の代表は、教育・学習システム、医療福祉システム、地域自治支援システムという三種の市民の日常を支える社会システムが、その担い手となるヒト、モノ、コトとセットで、相互に重なって蓄積されていることである。また、社会的資本の代表は、この三つのシステムを学区という地域の単位で運用するノウハウの蓄積である。この二つは、少子高齢・人口減少社会へのソフトランディングという、自治体行政が今後担うべき最も重い課題に 대응するために必要な政策の土台を形成するインフラとみなすことができる。

さらに、次の4点も今後のまちづくりのための価値あるインフラとなろう。

①市内全域に広がる分散型の消費・生産・遊び・表現の場（インフラ）

②関西、中国、九州、四国を結ぶ交通網とその結節点となる岡山駅

③岡山駅を核とするヒト、モノ、情報の集約・分散のシステム

④岡山城、後樂園に代表される城下町としての歴史と文化というインフラの蓄積

この4点は、新たなまちづくりのまさに貴重な資源や資本になる潜在力とみなすことができる。しかし、他方で、「罪」の側面も否定できない。

(2) 罪：居住地と伝統（高齢者）に偏した社会的資源・資本の活用（機能）

たとえば、上述した三重の社会的資源と資本のシステムは、いずれも居住地という地域（学区）を単位に、人、予算、施設が配置され、この枠に適合する市民の要望に応じて機能するように組み立てられている。このことは、岡山市全体、あるいは他市、他県、他国との関係を含んだ場を単位に活動する人たちにとっては、社会的な資本や資源として活用（機能）することが困難なインフラともみなせる。

同様に、城下町の伝統は、市民の交流を妨げる壁にもなりうる。岡山市で代々生まれ育ってきた人たちと、他市、他県、他国から移り住む人たちとの間（あいだ）に、共生の文化が育ちにくい。特に、関西・中国・九州の結節点となる岡山市という位置は、広島市にもまして、20代、30代の男女を吸引するエネルギーが蓄積される。しかし、行動と判断の基準を仕事、趣味、社会的

活動、消費、遊び、学習、好みにおく世代にとっては、居住の場に根差したヒト、モノ、コトを優先するシステムが、自分たちが求めるまちづくりを阻むインフラに変貌する。

何よりも、岡山市の行政が、自立した都市機能の喚起を前提とする政令市化という制度転換を積極的に生かすまちづくりを志向するなら、その成否は、居住の場という地域社会に固有の人間関係や慣習で構成される社会システムの改編（広域化、多様化、多元化）の進行度に依存することを指摘しておかなければならない。まちの拡大は活動する場の広がり、集う人の広がりによって可能になるからである。事実、岡山市は、市の外、県の外、国の外で生まれ育った人たちが、さまざまな理由で移り住む自治体である。その人たちにとっての住みやすさ、働きやすさ、学びやすさ、遊びやすさが共有されなければならない。何よりも、だれもが安心して子どもを産み育てることができ、老いを支え合えるために、世代と生まれ育った地の差異を超えた人と施設のネットワークが形成されなければならない。

しかし、聞き取り調査の結果では、少なくとも行政施策とその担い手となる各領域のリーダーの志向性は逆の方向に向かっているとみなさざるをえない。その象徴が、政令市を準備した行政のリーダーと政令市になった後のリーダーとの間に連携が認められないことである。その結果、現在の岡山市の行政機構、人、施策のいずれにおいても、政令市化を積極的に生かすまちづくりへの意欲とプランに欠けるとみなさざるをえない。

2) 岡山市の新たなまちづくりのための課題

(1) 岡山市の新たな自己認識を

プランづくりへの意欲を向けるべき自治体の課題とは何か。いうまでもなく、少子高齢・人口減少の進行に伴って生じる問題への準備である。そのために、ここでは、上述した調査結果を踏まえて、次の五つの課題を人口減少社会への転換に挑む岡山市の未来を拓くための仮説として提示しておきたい。

i 岡山市の新たな自己認識の必要性

ii 市民のための行政への転換

iii 移り住む人によって担われるまちへの変貌過程の解析

iv 岡山市だけで岡山市を維持できない現実への醒めた認識と施策の展開

V 関西、四国、九州の結節都市としての自負と責任に耐えるインフラの再構築

(2) 市民の現実改編のための行政に

さらに、この5種の課題の解決のために必要な市民の現実の改編に寄与する“岡山のまちづくりのための施策立案”の原則として、次の三点を加えておきたい。

vi 最大の人口コーホートであるアラサー、アラフォーの男女に適合した施策の創造

vii 2013年から3年かけて順次65歳以上の高齢期に移行する団塊の世代の活性化

viii 豊富な社会的資源と社会的資本の活用システムの再構築

先の i から v は、行政が既存の施策を再評価し、新たなまちづくりへの設計図を描くための準備作業の方法と方向を示すものである。それに対して、ここにあげる vi から viii は、市民自身が積極的にまちづくりに参画することによってしか具体化できない施策である。言い換えれば、今後、日本の自治体が責任を担わなければならない、最も重要かつ困難な課題は、市民とその生きる場の変化がもたらす問題の解決において、市民自体の自己変革とセットになった社会的条件（課題）の改編（システム転換）を組み込む施策の実施が求められることである。「市民の現実改編」というコンセプトを提示した理由である。

行政当局のみでなく市民の側の変化と参画を必要とする以上、市民の今を知ることが、政策立案の基盤になければならない。すなわち、上記8種の課題に応じた作業の開始の位置にあるのが「市民調査」である。

新たな“岡山のまちづくり”のための政策プランを作成するために、最も必要なのは、「i 岡山市の新たな自己認識の必要性」に応える作業である。現在の岡山のまちを構成する市民のみなさんの今を知ることからすべての作業は始まる。

これが、2012年1月から3月にかけて、岡山市民10000名を対象に「市民調査」を実施することになった理由である。

3 岡山市民への「まちづくり」に関する調査結果から

1) 市民の側からのまちづくりのための市民調査コンセプト

①市民の側からの視点を中核に位置づけた “岡山のまちづくりプラン” の作成

②プランの具体化に必要な政策と施策の案の立案

この二つが、政務調査費に基づく本調査研究の目的である。その基礎資料とするために実施したのが「市民調査」である。したがって、調査票を構成する質問には、先立って実施された2011年度の岡山市と周辺自治体での聞き取り調査と資料分析によって明らかになった、“岡山のまちづくりプラン”のための課題が凝縮されている。「市民調査」の質問項目の前提にあるコンセプトは、我々が目指すべき“岡山のまちづくり”の課題を整理することから生まれた。

そのため、調査票を構成する質問内容を貫くコンセプトを確認しておきたい。

調査票は、次に示す5種の領域と33種の間で構成される。

領域 1:あなたご自身のことについてうかがいます (性別、年齢などの基本属性)

領域 2:健康についてうかがいます (健康診断、健康保険、ストレスなど)

領域 3:就労についてうかがいます (就労状況、勤務時間、転職など)

領域 4:あなたの考えと、市の制度や政策についてうかがいます

(岡山市の施設や施策の利用度、認知度)

領域 5:最後に全員にうかがいます (情報ツール、行政に求めること)

この構成が端的に示すように、「基本属性」(領域1)に加えて、市民の「健康」(領域2)と「就労」(領域3)の状況を「まちづくり」の基本におくことが、2011年度の聞き取り調査で得た結論である。言い換えれば、めざすべきまちづくりの基本コンセプトは、健康と就労の現実をより良い方向に誘引する政策展開によって、市民一人ひとりの現在と未来の安心を構築することである。

そのために領域2の「健康」では、健康診断や検診の受診状況、使用している健康保険の種類、ストレスの内容・原因・解消方法などの問いで構成される。いずれも、公的な福祉行政が直接かかわる分野である。ただし、その多くは、自治体にとっては、国の施策を実施する役割として位置付けられ、独自の判断で実施可能な分野は限られる。それでも、国の施策を市民の健康保持のために実施するかどうかの判断に対して、自治体の意思を反映できる制度設計になっている。特に、実施方法については、自治体独自の仕組みを付加する余地は大きい。

他方、領域3の「就労」では、就労状況、通勤先、勤務時間、帰宅時間、収入、仕事と家庭の関係、「男は仕事、女は家庭」の同感度、転職経験・理由・回数などの問いで構成される。「健康」とは対照的に「就労」については、労働行政が直接かかわる問は、転職との関係で利用されるハローワークのみである。ただし、周知のように、ハローワークは厚生労働省の部局であって、自治体行政が市民へのサービスとして直接運営する施設ではない。

あえて指摘するまでもなく、健康と就労は市民が日常生活を送るうえで、もっとも基本となる分野である。したがって、健康の領域において、自治体の判断や積極的な関与の道筋があることは評価すべきであろう。ただし、このことは、自治体が市民の健康保持に対する行政上の責任を担う主体として位置付けられることを意味する。

他方、就労の領域に関しては、自治体行政が担うことが可能な権限の範囲はきわめて狭いといわざるをえない。特に、市町村が保持する行政上の権限は皆無に近い。

これが、政令市となった岡山市が、市民の現在と未来の生活を支える新たな施策を展開する基礎資料とするために、健康と就労の実態を調査票の中心においた理由である。現行の法や制度を基準にするのではなく、岡山市の今と未来を担う市民のみなさんの現実から施策を組み立てるために必要な課題に応えることが、政策立案の基本であることを示す調査票構成コンセプトでもある。

ただし、市民は多様である。要望も異なる。どこに焦点をあてるべきか。この問題を解決するために準備した質問の束が、領域1と領域4である。

すなわち領域1では、性別、年齢、結婚の有無などの社会調査においてフェイスシートと表現される「基本属性」に加えて、小学校時代を過ごした地と休日のショッピング地を加えた。前者は他市から移り住む岡山市民にとっての施策とまちづくりの課題、後者は、岡山のまちづくりの中核の位置を問い直し、多極分散型の特性を生かした、特色ある地点のネットワーク化を構想するための基礎データを得るためである。

さらに、市民の視点からまちづくりを構想する上で重要になるのは、市民のなかにある判断軸や価値意識の構造を析出するための基礎データの収集である。そのために、現在の生活に対する満足度、結婚観、子育てや高齢者のサポートシステムの現状評価、町内会や地域活動の必要度と参加度などに関する問を、領域1に加えた。

領域4では、より積極的に、現在の日本社会で、また岡山市民として、日常生活を繰り返すことで生じる意図せざる社会過程において培われる内的な判断基準を取り出すために、18種の問を準備した。この問の解答パターンを析出することにより、岡山市民の類型化を試みる。その類型単位に、市政の現状と課題を明らかにするために、市民の活用を前提に設置された18施設と24施策への認知度と利用度という尺度を形成するための基礎データを収集する問を準備した。したがって、「『岡山のまちづくり』に関するアンケート調査」の土台となる問で構成されるのが領域4である。

さらに、領域4の問で得たデータを用いて上記の目的を達成するためには、クラスター分析などの多変量解析といった高度な統計処理が必要になることも指摘しておきたい。

そして、調査票の最終ページに、より具体的かつ直般的に市民の市政への要望を出していただくのが領域5である。ここでは、まず、市民の皆さんの状況に応じて、行政サービスの認知と利用の拡大を適切かつ確実に促進するための基礎データとするために、情報ツールの活用実態を明らかにする問を準備した。さらに、市民が求める行政施策の傾向を知るために、22種の選択肢を準備した。そして最後に、「岡山の未来を豊かなものにするために、ご意見やご提言がありましたら、ご記入ください。」との質問文と6本の罫線が引かれた自由記述の回答欄を準備した。

以上、調査票を構成する6種の領域の基本コンセプトを、それぞれの領域におかれた合計33種の問が求めるデータの意図を示すことにより明らかにしてきた。それは、本調査研究の目的である政令市岡山の未来を拓く新たな政策立案のための基本コンセプトを志向したものであることも確認しておきたい。

2) 調査結果から見てくる特色と課題は

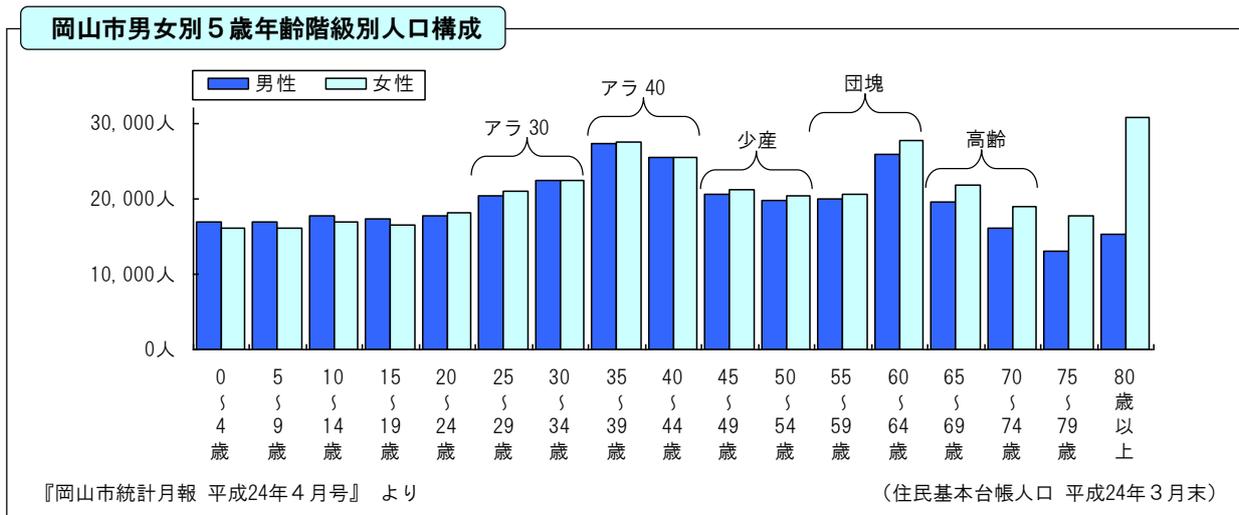
(1) 調査の概要

調査対象：岡山市内在住の25歳～74歳の男女
 標本数：10,000人
 抽出方法：選挙人名簿より無作為抽出
 調査方法：郵送配布 郵送回収
 調査期間：平成24年3月1日
 ～平成24年3月31日
 監修：馬居政幸（静岡大学 教育学部 教授）

全体の回収率は、郵送調査のため36.8%と低いが、標本数を10,000人にするこで、この調査は統計的に妥当な調査と判断できる。

また、分析においては高齢世代の回収率が高く、全体平均が高齢者の回答に偏る傾向を避けられないため、世代別のクロス集計を中心に分析を行う。

その際、岡山市の課題を明確にするため、人口構成の特徴に応じて、アラ30（25～34歳）、アラ40（35～44歳）、少産（45～54歳）、団塊（55～64歳）、高齢（65～74歳）の5種の世代別に分析する。（下図参照）



	アラ30		アラ40		少産		団塊		高齢		年齢不詳	計
	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳		
発送数	819	894	1,211	1,183	978	972	942	1,263	955	783	-	10,000
有効回収数	207	247	368	355	349	363	360	541	457	417	11	3,675
有効回収率	26.5%		30.2%		36.5%		40.9%		50.3%		-	36.8%

	アラ30		アラ40		少産		団塊		高齢		無回答	計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性		
有効回収数	197	307	305	416	293	416	437	458	400	464	20	3,675

※有効回収数は、回収数の3,682票(36.8%)から記入のない（または少ない）調査票を除いた数です。

※調査結果は5.0%未満の数字の表示を割愛している場合があります。

※回答者数は、Nと表示しており、回答比率はこれを100%として算出しています。

(2) 対象者と有効回答者の間に見えてくるもの

今回の調査実施において最も危惧されたことは、郵送調査という調査方法を用いたために、統計的に有意なサンプル数と回収率を確保できるかどうかであった。そのために次の工夫を行った。

1. 全体として回収率が30%前後になっても統計的に妥当なサンプル数が得られることをサンプリング数の基準にする。
2. 通常、回収率は若い世代ほど低くなることに加えて、岡山市の人口構成が区と年代においてアンバランスであること考慮して、区別・年代別にサンプリングを行う。

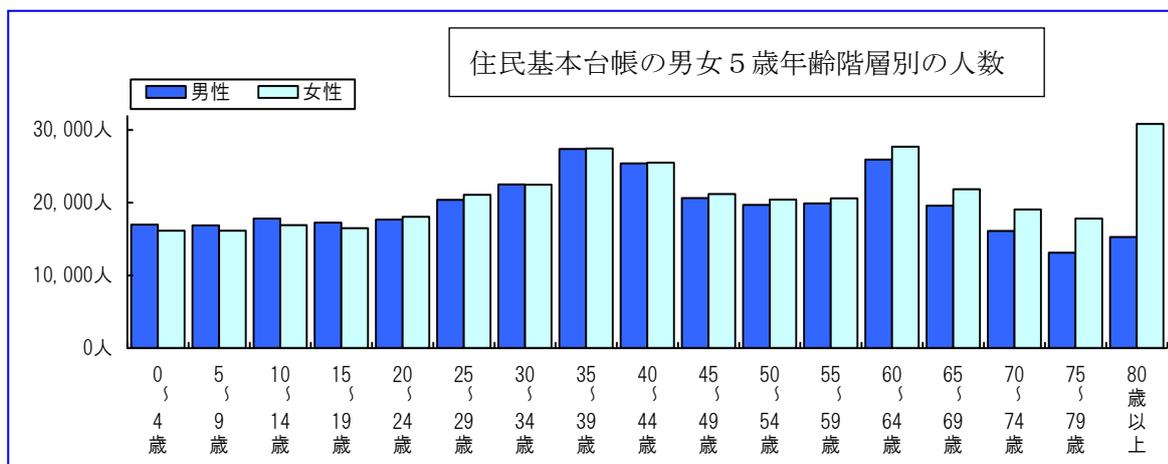
この二つの作業をふまえての調査対象者数（発送数）と有効回収数・率が、上記「(1) 調査の概要」に掲載した「男女世代別の発送数と有効回収数（率）」の数値である。

さらに、調査結果の分析においては、地方中心都市である岡山市の施策課題を明らかにするために、次の二点を重視することにした。

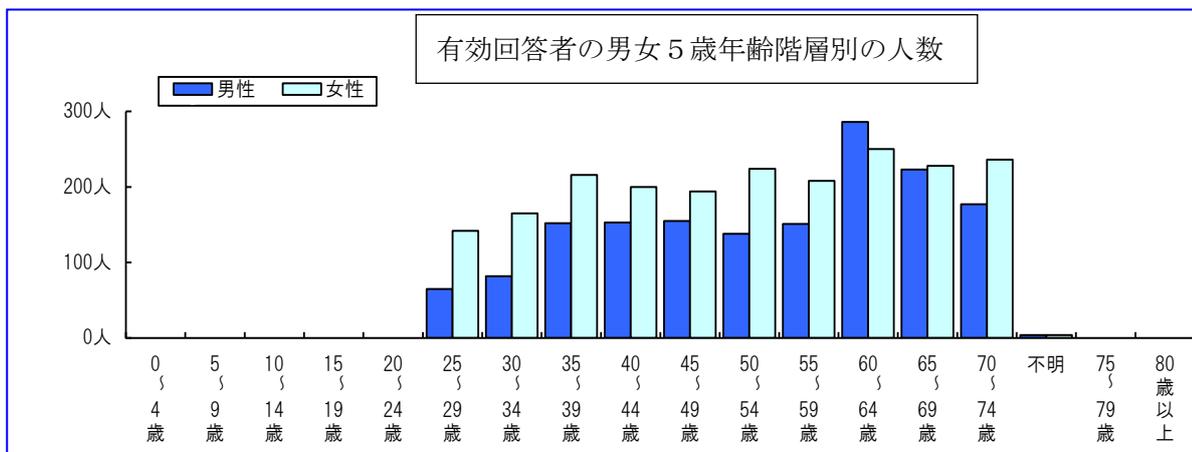
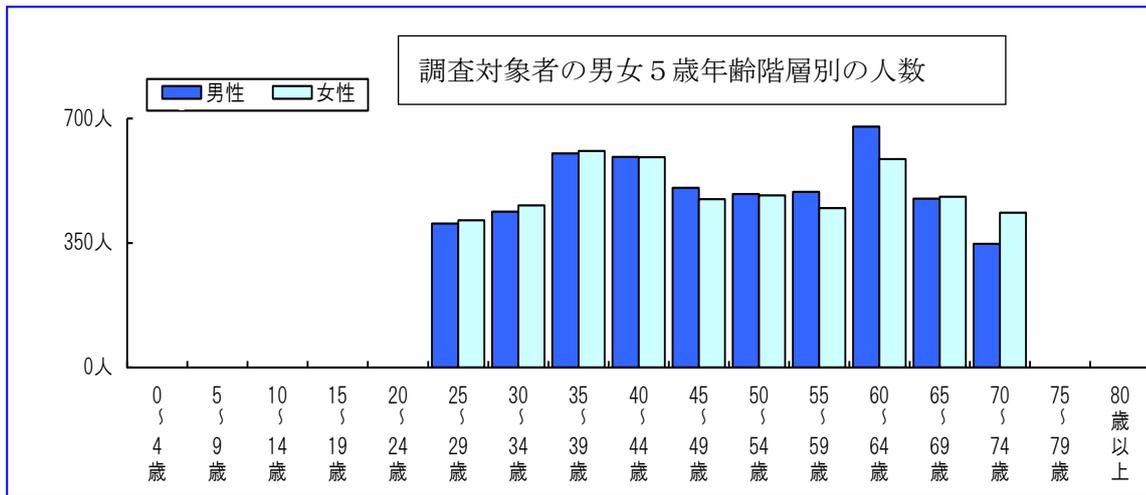
1. 人口の山を形成する40歳前後（団塊ジュニア）と60歳代前半（団塊の世代）という二つの年代を中心に、「調査の概要」に示したように次の5種の世代に分類する。
「アラ30世代（25歳～34歳）」 「アラ40世代（35～44歳）」
「少産世代（45～54歳）」 「団塊世代（55～64歳）」 「高齢世代（65～74歳）」
2. 回収率が世代によってかなり大きく異なるために、世代別に調査結果の特性を読み取ることを基本にする。

このような事前の準備をふまえて行った調査の結果は、「男女世代別の発送数と有効回収数（率）」の下段に、性別、年代別、世代別に示されている。やはり、回収率と回数数の世代差が大きい。性差も無視できない差である。ただし、最も少ない「男性アラ30」が147人と三桁の有効回収数を得たため、性・世代別の分析が可能と判断した。

さらに1ページでも示したが、本調査対象の分母となる2012年3月の岡山市住民基本台帳に基づく市民の5歳年齢階層を示したのが次の図である。



また、本調査のために、有権者台帳からランダムサンプリングされた調査対象者（発送者）と有効回答者の5歳年齢階層の構成を示したのが次の二つの図である。



住民基本台帳（実態）では30代後半（団塊ジュニア）と60代前半（団塊）に人口の山がある。調査対象者も同様の年代が山を形成する。ランダムサンプリングであることの証左だが、60～64歳では男性が多い。住民基本台帳と異なる選挙人名簿を分母にしたランダムサンプリングの結果とみなせるが、統計的には問題ないと判断できる。

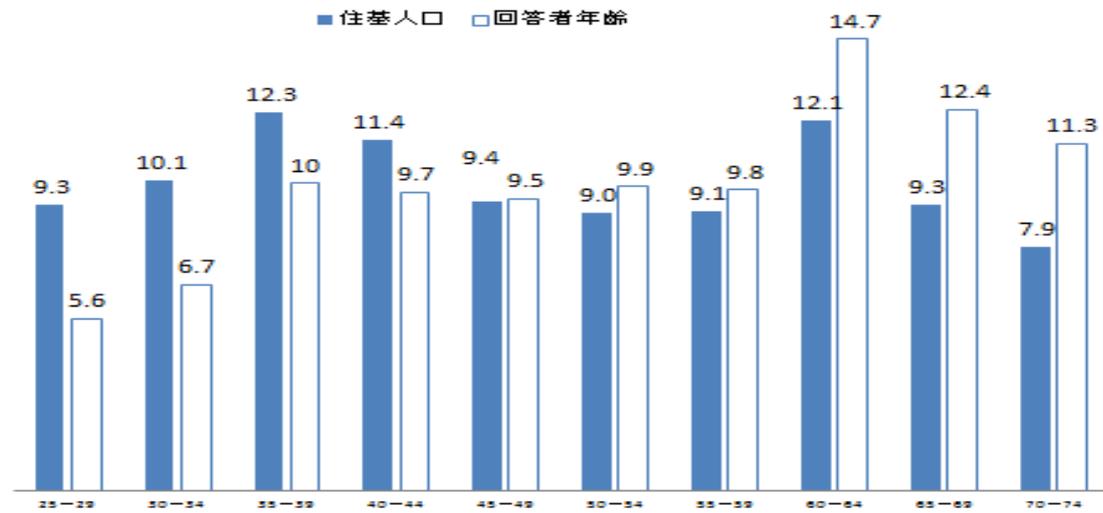
他方、有効回答者の構成は大きく異なる。人口の山は60代前半のみで、その割合が大きい。郵送調査による質問紙調査という制約のもとでの調査であるため、このような回答者の分布になることはやむを得ない。このズレは、一義的には調査結果の解釈において慎重に考慮すべき数値である。そのために、まず、数値の意味を世代別に読み取ることが求められる。さらに、個々の世代の回収率によっては、全体を代表する回答とする判断を留保すべき場合も生じる。特に、アラサーの読み取りには工夫が必要になろう。さらに、このような市民全体と回答者の年齢構成のズレと同質の構造が、国政もふくめた公的財、施策、制度の判断枠組みにもみられないだろうか。言い換えれば、必要な層（人口コーホート）に必要な公的判断が適切になされないことが構造化されていないか。

この点に注目して、2012年3月の岡山市住民基本台帳に基づく市民の5歳年齢階層間の構成比と本調査有効回答者間と同構成比を比較したのが次の二つの図である。

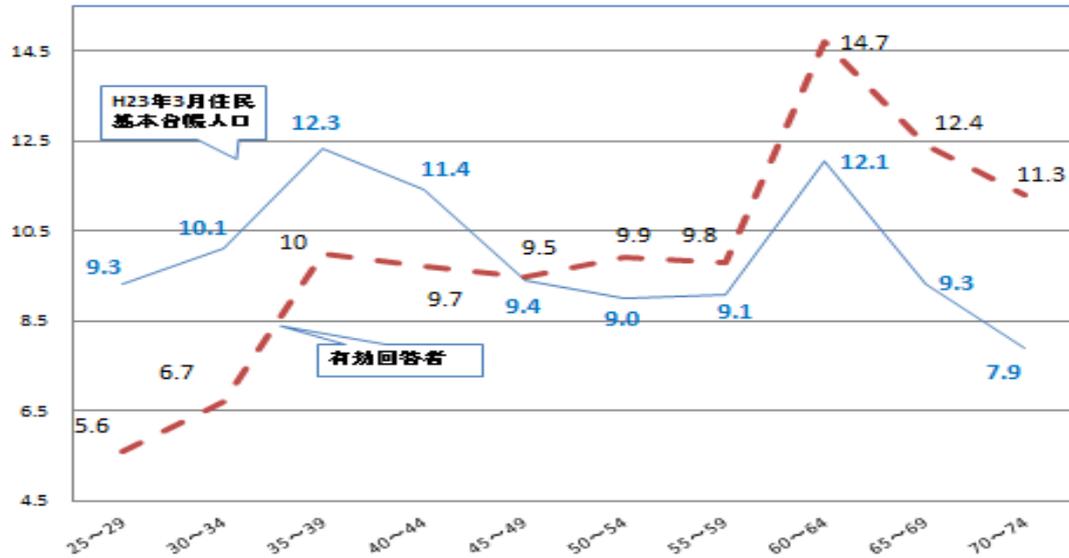
住民基本台帳の人口構成では、30代後半（団塊ジュニア）と60代前半（団塊）に人口の山がある。他方、有効回答者では、60代前半のみであることに加えて、実態（住民基本台帳による人口構成）よりも、60代以上の割合が大きいことをより明確に確認できる。

さらに、問題点を顕在化させるために本調査の分析単位である10歳年齢階層の5世代別（アラ30、アラ40、少産、団塊、高齢）の構成比を示すのが三つ目の図である。

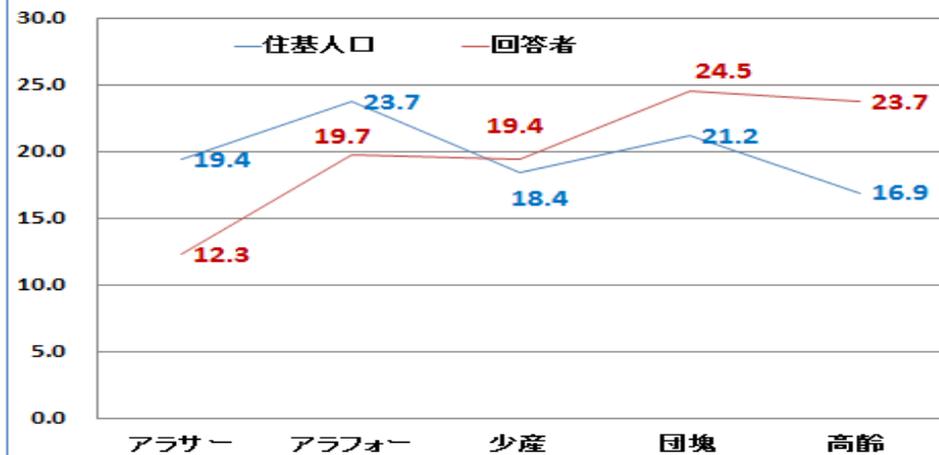
図〇 住民基本台帳と回答者の5歳階層年齢別割合の差



H23年3月住民基本台帳と有効回答者の5歳年齢階層の差異



住民基本台帳と5世代別割合の差



住民基本台帳（実態）による世代別人口割合の順位

アラ 40（23.7%）→団塊（21.2%）→アラ 30（19.4%）→少産（18.4%）

→高齢（16.9%）の順

有効回答者の世代別割合の順位：

団塊（24.5%）→高齢（23.7%）→アラ 40（19.7%）→少産（19.4%）

→アラ 30（12.3%）の順

有効回答者の相互の比率の差を見ると、高齢世代と団塊世代が、ほぼ同率で高位にある。同様に、アラ 40 と少産は、ほぼ同率で中位を形成する。

しかし、住民基本台帳（実態）では高位層を形成するアラ 30 が、有効回答者では下位層になる一方で、住民基本台帳では下位層の少産世代が中位層とみなされる。

さらに、高齢層は住民基本台帳では下位層だが、有効回答者では上位層である。逆に、アラ 30 層は住民基本台帳（実態）では上位層だが、有効回答者間では下位層である。

これらの差異の変化を考慮しながら調査結果を読む必要がある。

郵送、質問紙という調査形式に回答する市民という条件は、公的判断に積極的に関与する（影響する）可能性の高さに重なる、との仮説の検証を試みたい。

この点について、もう一つ付言しておきたい。本調査が公明党岡山市議団による政務調査費に基づく調査であることを明記されていることに伴う課題である。

一般に、公明党は支持層と非支持層が明確に分かれる政党とされる。調査設計において、潜在的にはあるが、考慮した点である。

しかし、幸いにも、有効回答数（率）にその影響をみることがなかった。むしろ、研究者が実施する郵送調査より多くの回答を、市民の皆さんが返送してくれたと判断する。

このことは、岡山市における公明党への支持層の広がりを示唆するものと考えたい。同時に、先に行政の課題で指摘したことは、公明支持層にもあてはまるともいわざるをえない。

5種の世代間における回収比率の差異と人口構成との比較によるズレの拡大は、公明支持層の高齢層への偏りと世代交代の遅れの反映とみなすべきか。

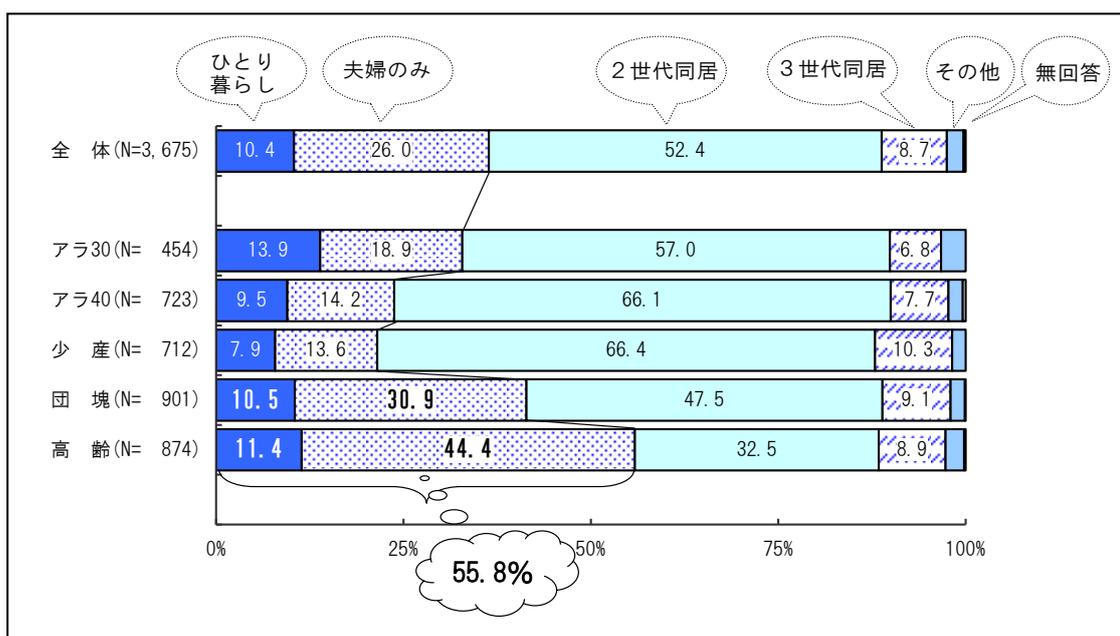
この問いを反芻しながら、調査結果の読み取り作業に進みたい。

(3) 結果の概要

①世帯の状況

◎世帯の状況を教えてください。

高齢世代では、「夫婦のみ」の世帯が44.4%、「ひとり暮らし」の世帯が11.4%となり、高齢者だけの世帯が半数を超えている。団塊の世代の老いとともに単身高齢者の急激な増加が予測される。



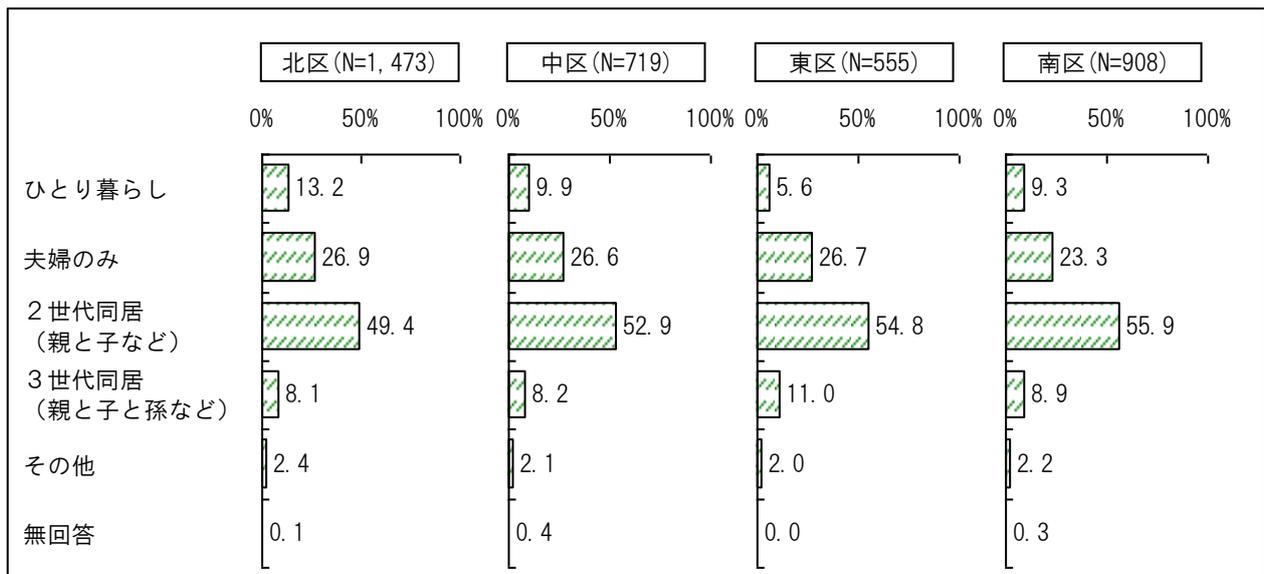
岡山市は市外、県外から若者が流入する都市のため、高齢化率の上昇は緩やかだが、高齢者数の増加は急である。人口規模の大きい団塊の世代が70代に入る10年後に向けて、高齢者のみで生活する人たちが急増する。地縁と血縁を超えて支える仕組みと人（あいだ）創りが課題である。

アラ30世代とアラ40世代の2世代の場合、回答者が親と子いずれかで問題の所在が異なる。親子ともに成人である場合、成人未婚者とその親による2世代家族になる。いわゆるパラサイト（寄生虫）と問題視された家族形態だが、実はパラサイトは老いる親を支える役割が組み込まれた家族とみなすことも可能である。だが他方で、自立できない親子共倒れのリスクがあることを忘れてはならない。

団塊世代と高齢世代の2世代同居のなかで、未婚の子どもとの同居の割合の高さは、その数値によっては介護虐待の潜在的要因の多さに連動する。単身と夫婦のみは、時間のズレを考慮に入れば、ともに「ひとり暮らし」とみなせる。高齢者の多数派が、高齢者のみか単身ということの意味する。

今後、団塊世代の加齢とともに、この傾向のまま実数が増える可能性が高い。あるいは、団塊の世代が形成した家族の子ども数は二人。老いと単身者化の連動割合は、現在より高くなるとみなすべきであろう。老いて単独世帯になった膨大な団塊男女を誰が支えるのか。介護保険節約のための家族内介護は画餅にすぎないのでは。

◆ 居住区別 ◆



居住区別でみると、いずれの区も「2世代同居(親と子など)」が多く、南区は55.9%、東区は54.8%、中区は52.9%などとなっている。北区は「ひとり暮らし」が13.2%と、他の区よりもやや多くなっている。

世帯の構造の変化が今後の行政の最大の課題になる可能性を示唆するデータ。日本の法制度はすべて世帯単位に機能するように作成されている。だが、今後、世帯の単身化が進行することは明白である。高齢化率の上昇は、夫婦のみから単身へと世帯構造の変化が拡大することを意味する。

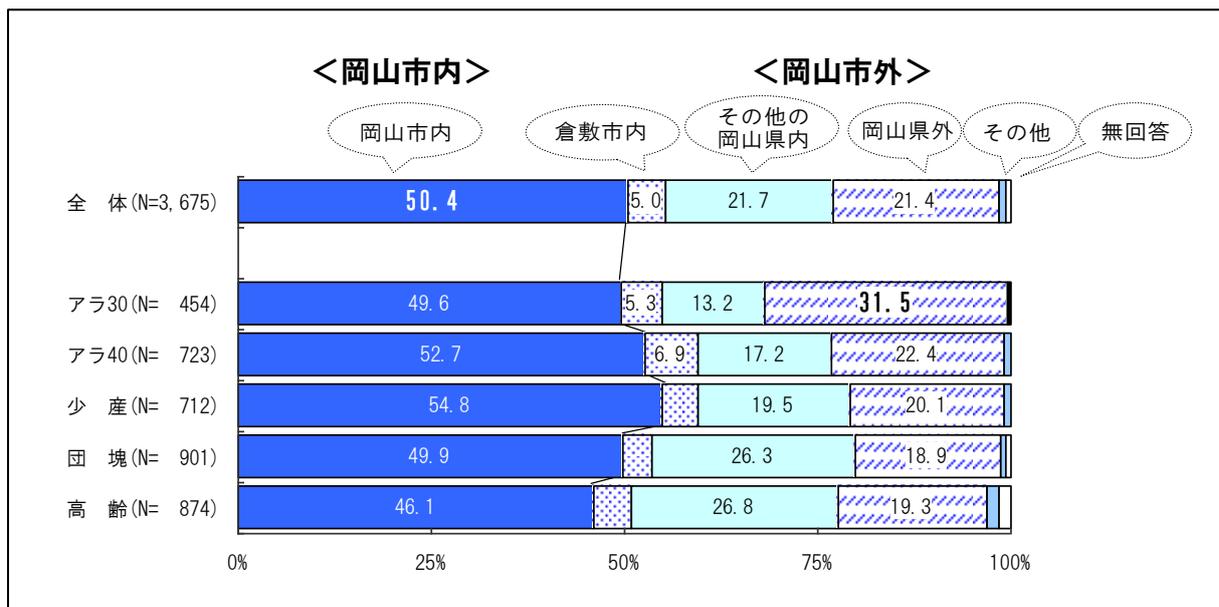
他方、就業機会が都市部に集中することにより、青年層の都市部への集中が進む。その結果、高齢化率の上昇は緩和するが、夫婦のみ、もしくは単身の高齢者世帯の増加を止めることにはならない。むしろ、岡山市のように、神戸、大阪、名古屋、東京と大都市圏に移動しやすい都市は、老親のみの世帯数は多くなる。しかも、今回の調査は、岡山市の高齢者においても地域活動への積極的参加者(意欲も含めて)は多数派ではない。逆に、意義は認めても参加したくない人たちが高齢者においても多数派であることを示している。

互いに見知らぬ人たちが多数派を占める都市におけるコミュニティ再構築の施策の再検討が急務だが、その課題は、「⑫町内会について」で確認する。

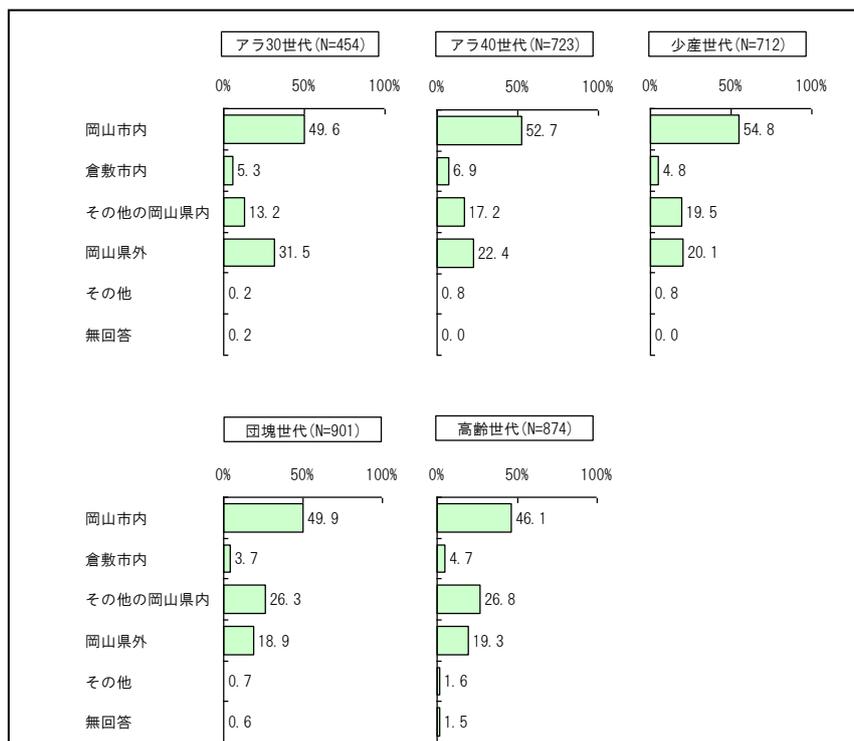
②小学校時代を過ごした主な場所

◎あなたが小学校時代を過ごした主な場所はどこですか。

小学校時代を過ごした場所は、＜岡山市内＞と＜岡山市外＞が半々である。特にアラ30世代は3割が「岡山県外」で過ごしたと回答している。岡山市は地方の中心都市として、地縁や血縁の薄い男女が移り住むまちである。＜岡山市外＞で生まれ育った人たちが都市間競争に勝利するOKAYAMAの民力の源になる。



◆ 年代別 ◆



年代別でみると、いずれの年代も「岡山市内」が多く、少産世代は54.8%、アラ40世代は52.7%、団塊世代は49.9%などとなっている。「その他の岡山県内」は、年代が上がるほど多く、高齢世代は26.8%、団塊世代は26.3%と、いずれも2割を超えている。「岡山県外」はアラ30世代が31.5%と他の年代よりも多くなっている。

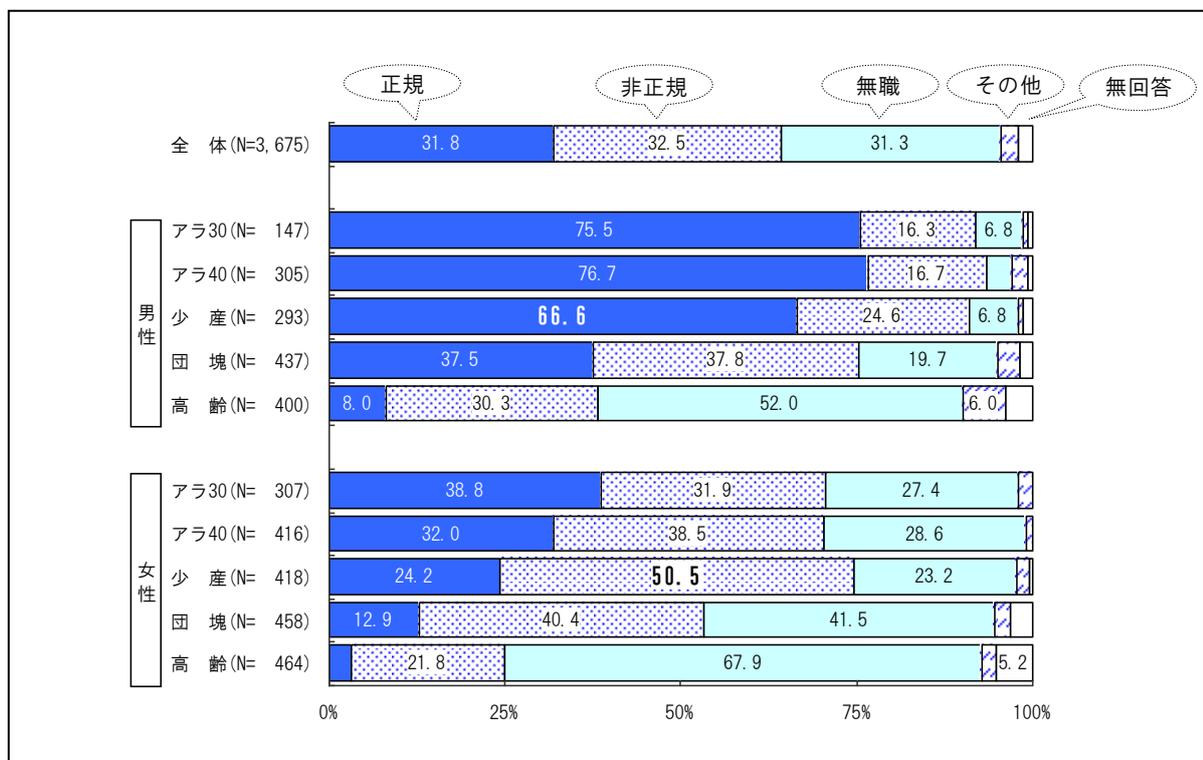
県外の比率は、若い世代ほど高い。岡山市生まれと岡山市以外はほぼ同率。岡山市もまた、外から来た人たちによって担われていることを明示するデータである。子どもの割合に比して、岡山市の意思決定する層のヒトの配置はなされているか。行政の判断基準に移り住む人たちにとっての岡山市の評価が取り入れられているか。再確認する必要性を求める数値でもある。

③雇用形態

◎雇用形態を教えてください。

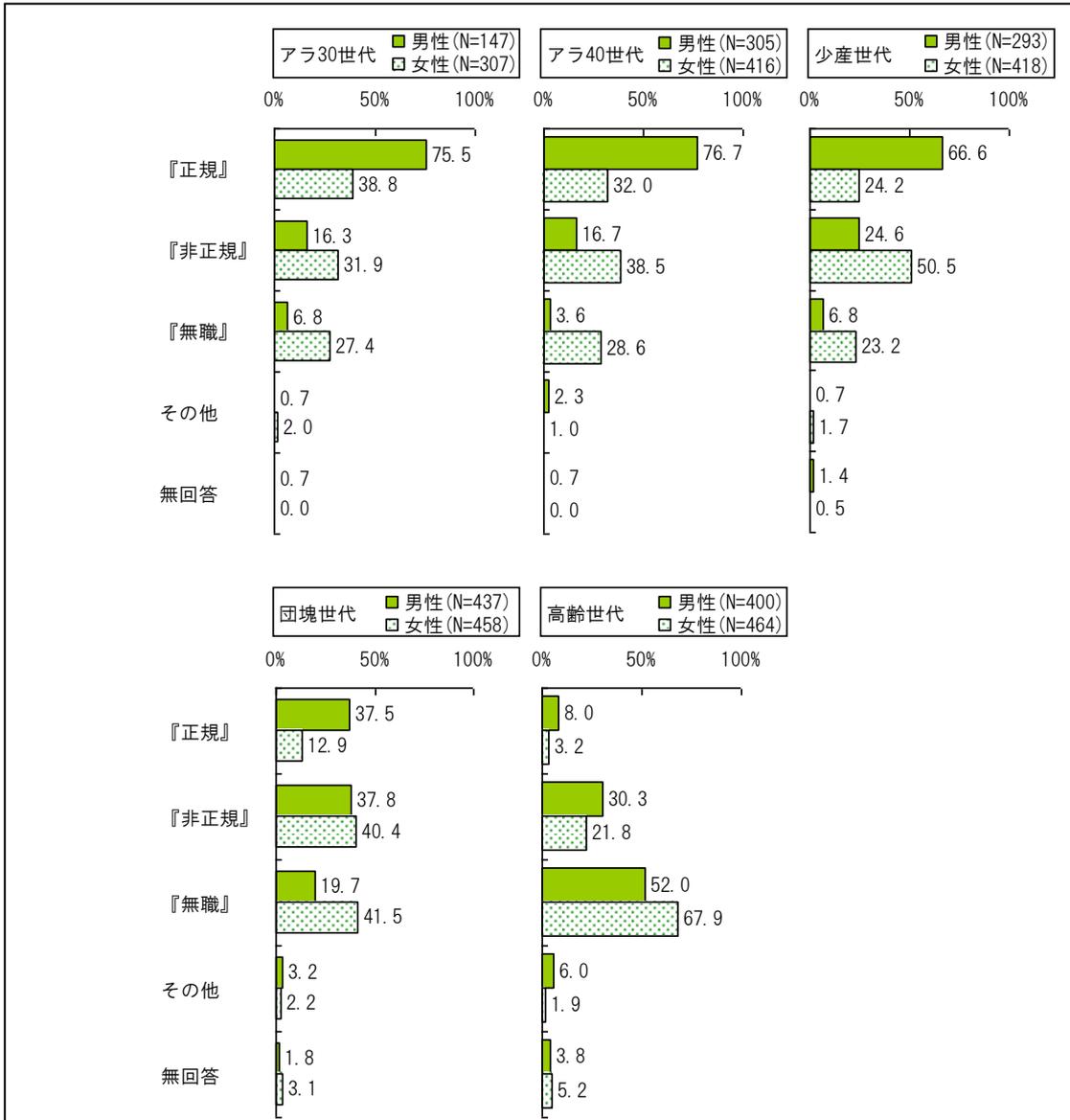
アラ30世代から少産世代までの現役世代をみると、アラ30・アラ40世代の男性は「正規」が75%以上だが、少産世代では66.6%と少なくなっている。

女性は、アラ30・アラ40世代が「正規」・「非正規」とも3割台だが、少産世代では「非正規」が5割である。



現役世代の雇用の不安定さはアラ30・アラ40世代を超えて50歳前後の少産世代にも及んでいることを示す調査結果である。また男女の雇用形態の相違も注目すべきである。特に、女性のアラ30・アラ40世代の健康診断を受診していない割合の高さが、雇用状況とリンクしているとすれば問題。公的支援の検討が求められる。

◆ 性・年代別 ◆

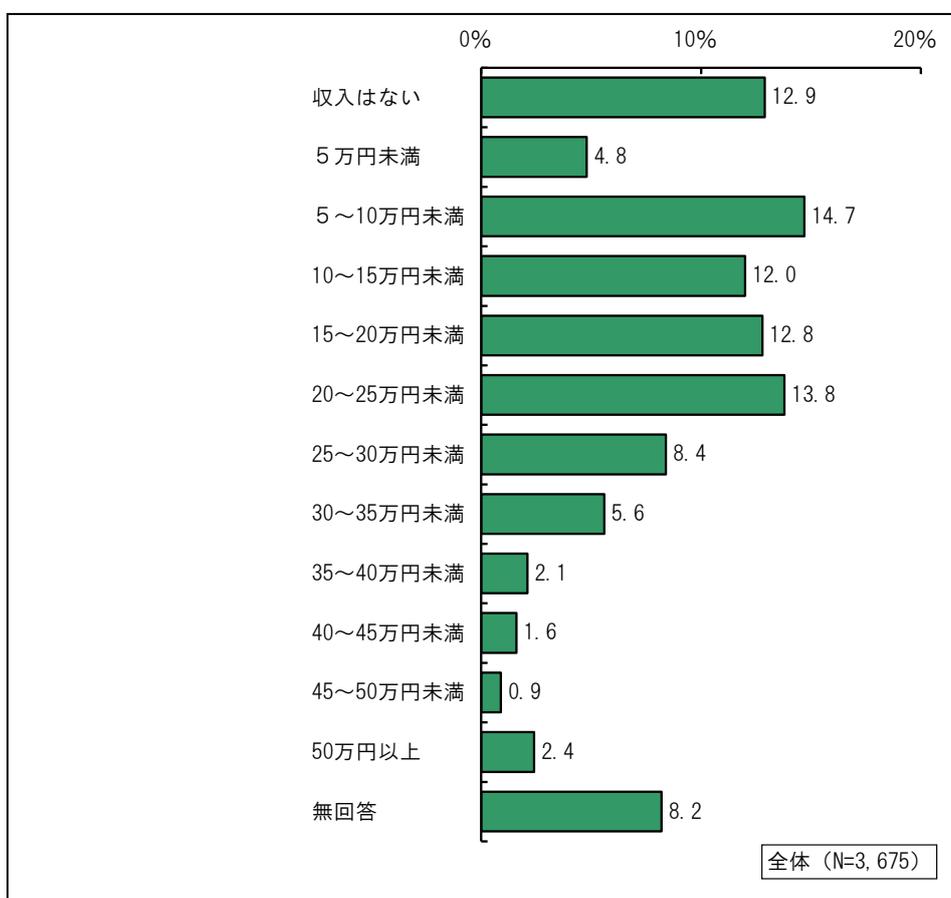


性・年代別でみると、女性は年代が下がるほど『正規』が多く、アラ30世代は38.8%となっている。

アラ30世代、アラ40世代の男性『正規』は7割半ばだが、少産世代の男性は6割半ばで1割少ない。この世代は国民健康保険の割合が高い。子どもに最も費用がかかる年代になったこの世代に何が生じているのか。いわゆるバブル世代でもある少産世代の課題に目を向ける必要があることを示唆するデータとみなしたい。女性はどうか。少産世代の半数が『非正規』の職に就く。子育て後の再就職の条件の悪さを反映した数値か。この状況が、アラ30世代、アラ40世代の結婚、出産、離職というコースへの抵抗（拒否）感を生んでいないか。男性の『非正規』の前に女性の就労条件の改変（就労を前提とした出産育児の支援システム）が急務。出生率ではなく出生数の減少の時代に変化してきている以上、残された時間は少ない。

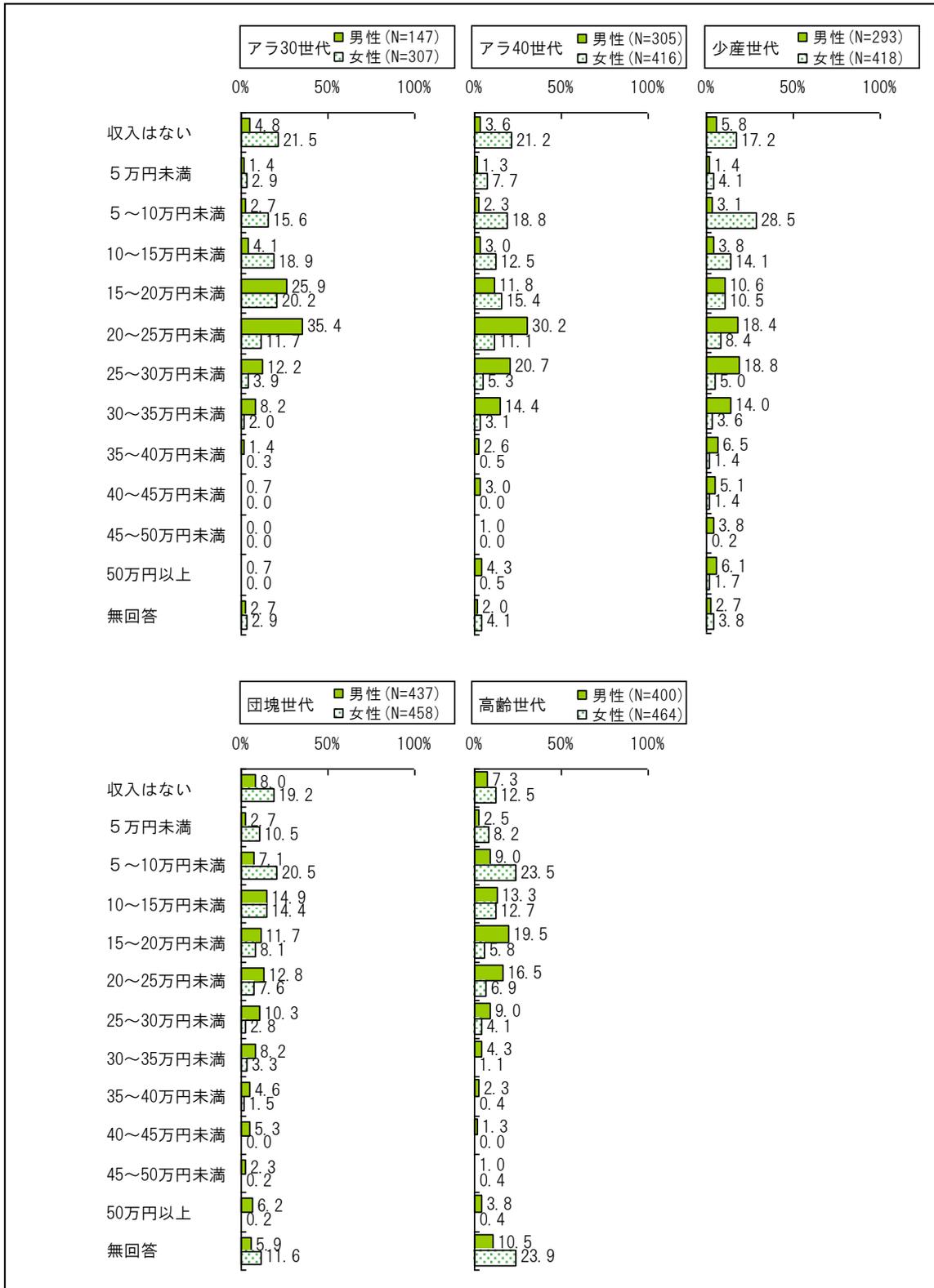
④月の平均収入

◎毎月の収入（手取り）は平均してどのくらいですか。（〇は1つ）



月収は、「5～10万円未満」が14.7%と最も多く、次いで「20～25万円未満」が13.8%、「収入はない」が12.9%などとなっている。

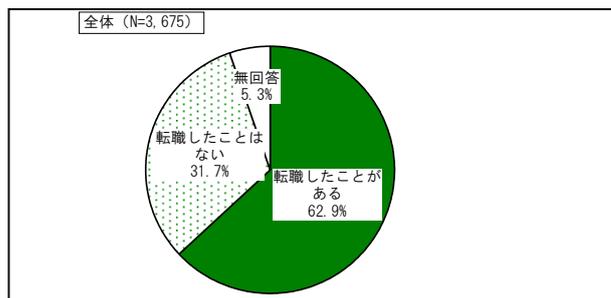
◆ 性・年代別 ◆



世代別のクロス集計をみると、男性アラ30世代、アラ40世代のピークが「20～25万円」に、少産世代は「25～30万円」への広がりを確認できるが、20万円以下も少なくない。女性は山が三種。「なし」、「5～10万円」、「10～15万円」である。無職、パート、フルタイムということにわかれよう。男性より5万低い。フルタイムに『非正規』の割合が男性より多いことも。女性にとって、選択肢は三種あっても、収入の低さは共通である。

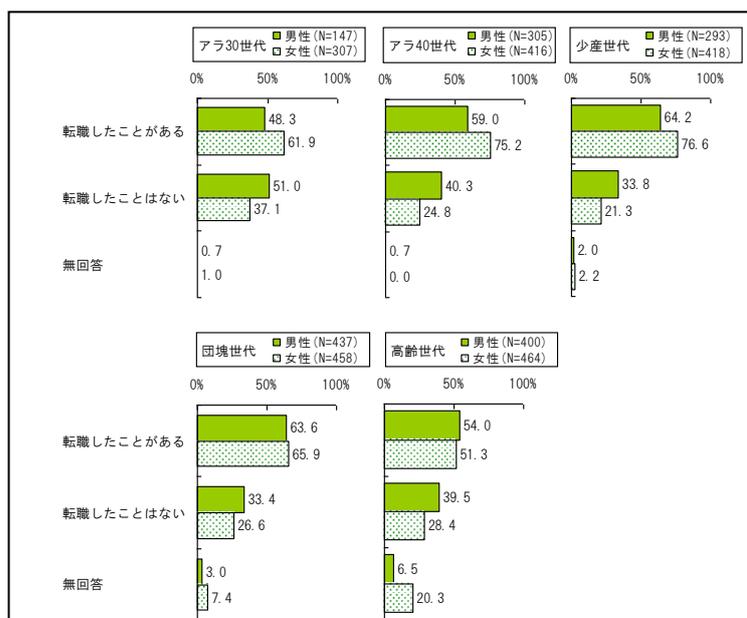
⑤ 転職経験

◎あなたは、転職した経験がありますか。(〇は1つ)



転職経験の有無は、「転職したことがある」が62.9%、「転職したことはない」が31.7%。いまさらだが、転職経験者が多数派、という現実から、日本の就労システムと、そのシステムにリンクして制度化されている保険、年金、納税のシステムの見直し（システム転換）が求められるが、クロス集計をみると…。

◆ 性・年代別 ◆

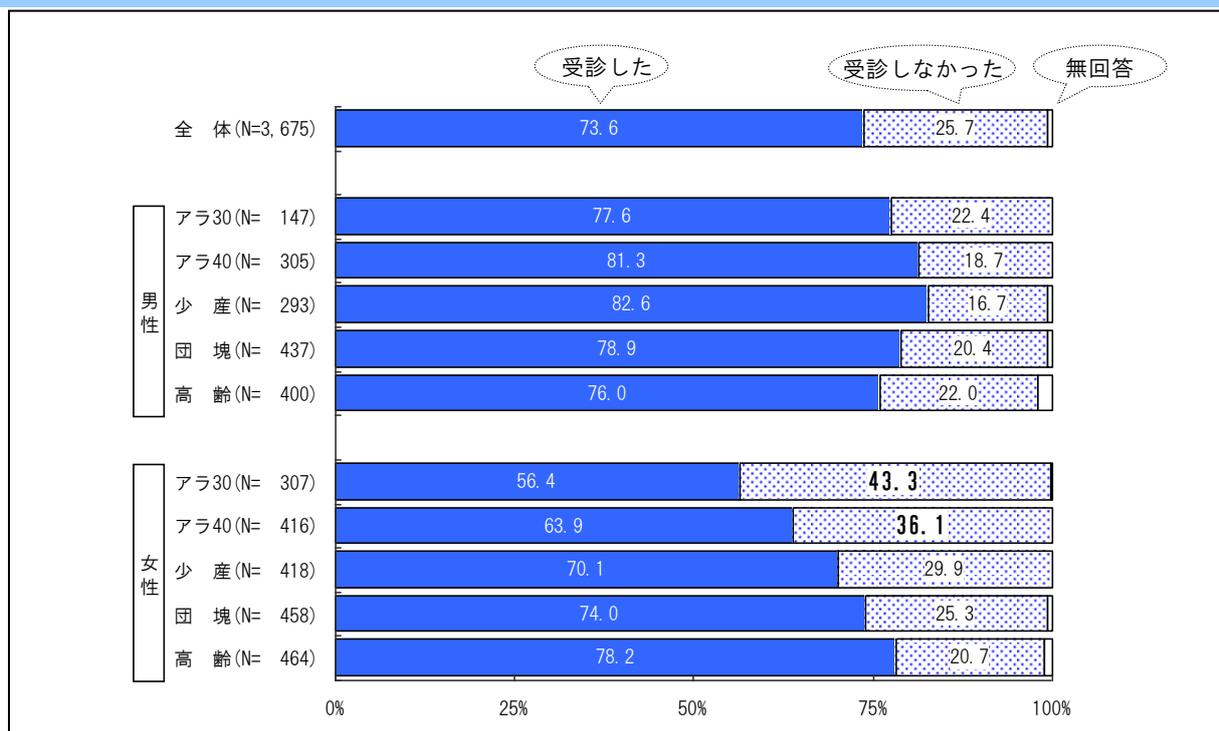


月収は、「5～10万円未満」が14.7%と最も多く、次いで「20～25万円未満」が13.8%、「収入はない」が12.9%である。

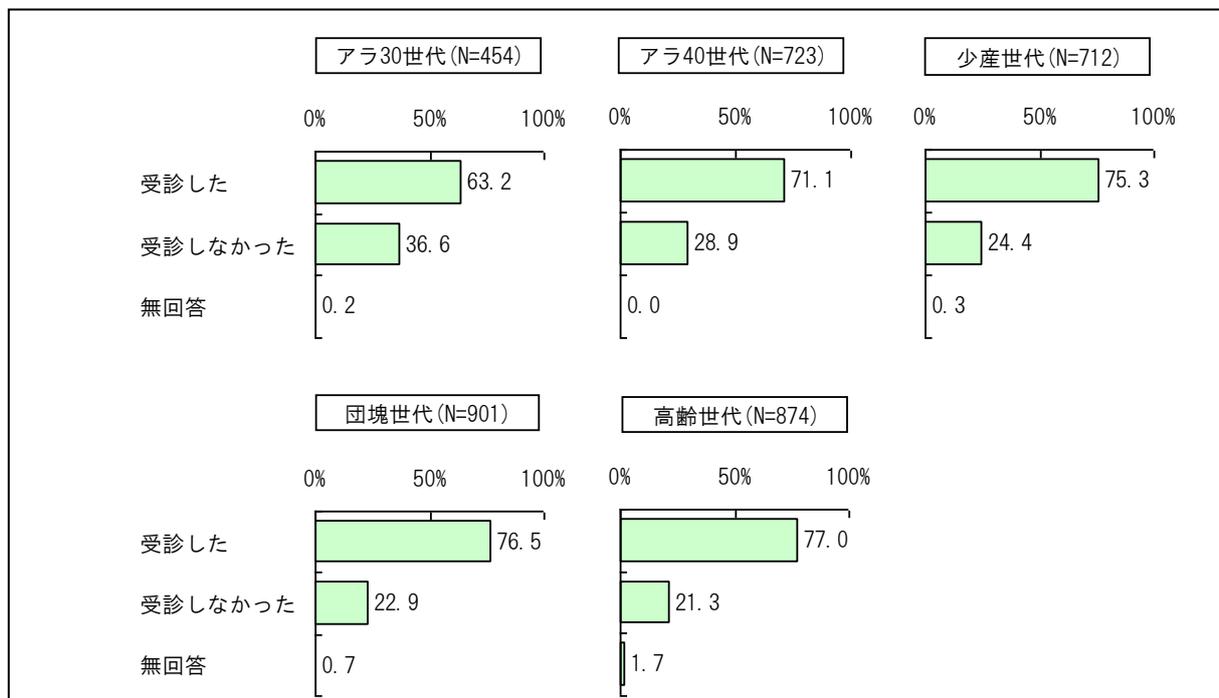
性・年代別でみると、男性のアラ30世代は「転職したことがない」が多く、5割を超えている。転職経験は、世代を問わず多数派である。女性の場合は、支える側の3世代の転職経験者は男性より多い。この何割かは結婚、出産、子育ての過程での離職であろう。未既婚での差を確認しなければならないが、問題は離職の理由である。結婚、育児が理由であれば、日本社会は職業よりも子育てを重視する社会とみなせる。だが、それは間違った認識であることは、本調査でも明確である。転職・離職の理由に、結婚や子育てをあげる必要がなくなったときに、システム転換の成果が定着、ということになるだろう。さらに、転職することを前提に社会保障のシステムを構築するためには、現在のように仕事の内容ではなく、所属する組織によって異なることを前提にした保険システムの改編が必要。どのような職場であれ、まじめに働くこと自体に同等の社会保障が準備されるシステムにすべきではないか。

⑥健康診断の受診状況

◎この1年以内に健康診断を受診しましたか。



◆ 年代別 ◆

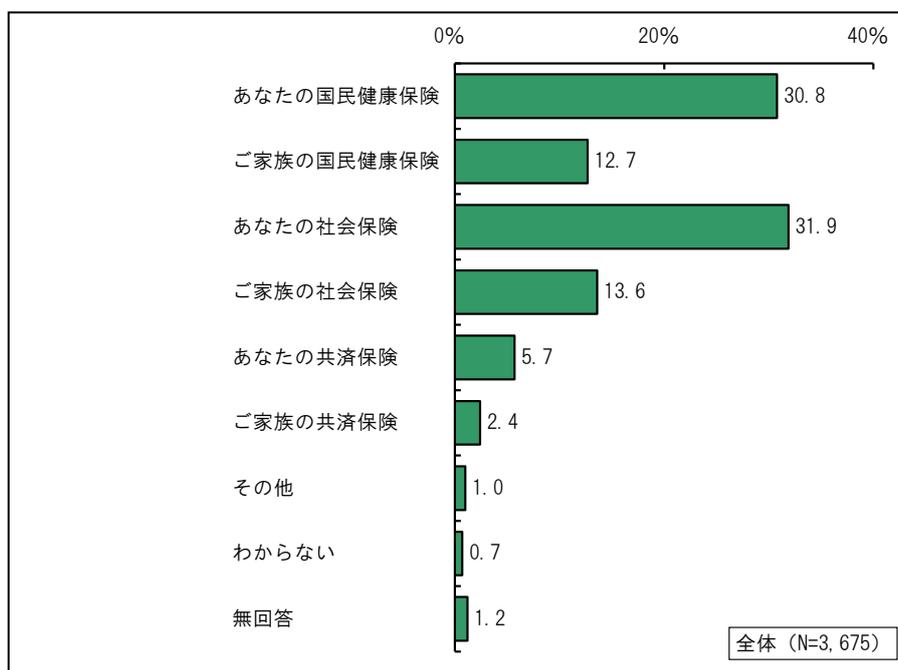


男性は、未受診がどの世代も2割前後である。女性は、年齢とともに受診率が上がるが、特にアラ30・アラ40世代では、3割以上が受診していない。年代別でみると、年代が上がるほど「受診した」が多く、高齢世代は77.0%、団塊世代は76.5%、少産世代は75.3%などとなっています。

世代差でみると、年齢とともに受診率が上がり、アラ30世代と高齢世代では約14%の差がある。性差も確認したうえで、受診率をあげる細やかな施策が求められる。

⑦加入している健康保険

◎あなたが加入している健康保険は、次のどれですか。(〇は1つ)



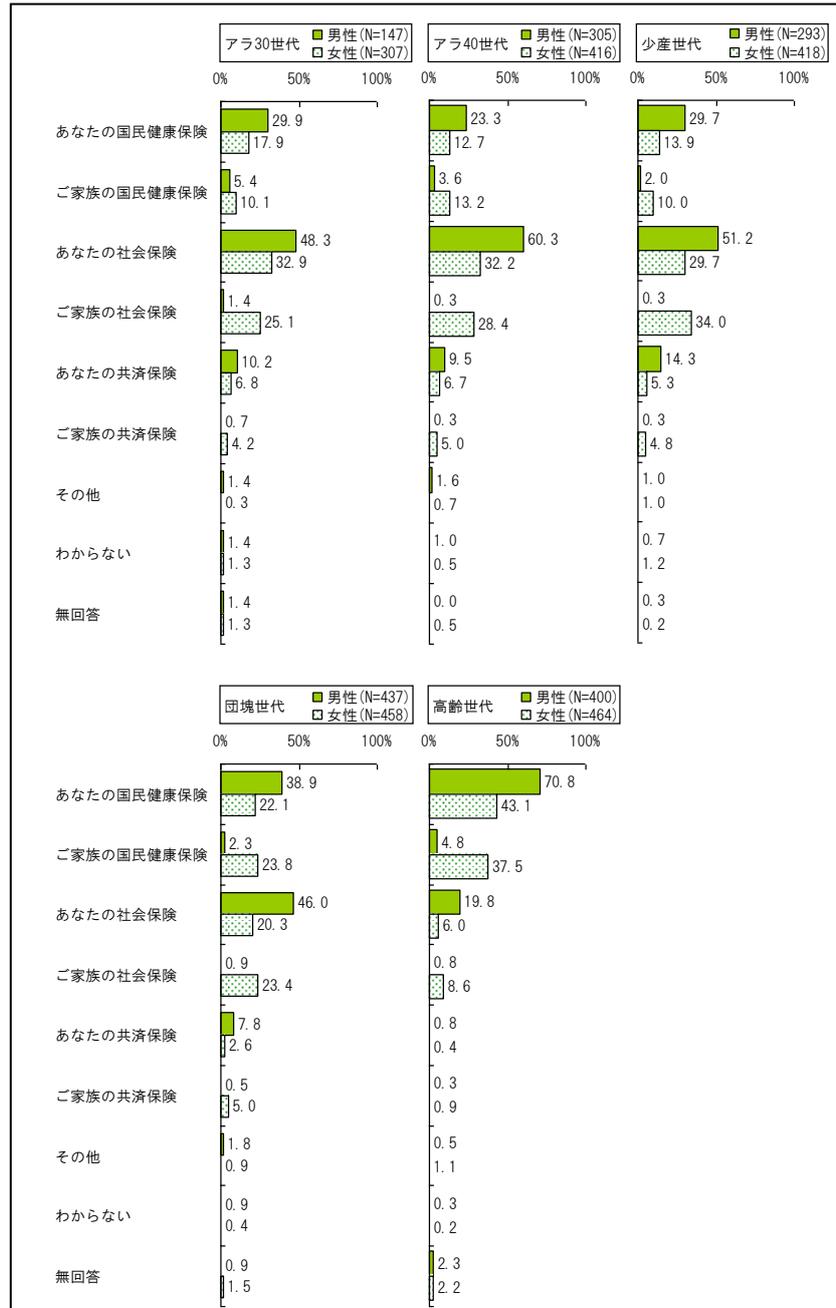
加入している健康保険は、「あなたの社会保険」の31.9%と、「あなたの国民健康保険」の30.8%が多く、次いで「ご家族の社会保険」が13.6%などとなっている。

自分、家族、いずれも国民健康保険と社会保険がほぼ同率である。高齢者の回答率が高いことの反映か。それとも、本来社会保険に入るべき人たちが国民健康保険加入者になっているためか。

次頁の図に示すように、性・年代別で見ると、男性はアラ30世代から団塊世代までは「あなたの社会保険」が多く、アラ40世代は60.3%、少産世代は51.2%、アラ30世代は48.3%、団塊世代は46.0%などとなっている。また、女性のアラ30世代やアラ40世代も「あなたの社会保険」が多く、いずれも3割を超えている。男性の高齢世代は「あなたの国民健康保険」が7割を占めている。

女性の少産世代は「ご家族の社会保険」が多く、34.0%となっている。

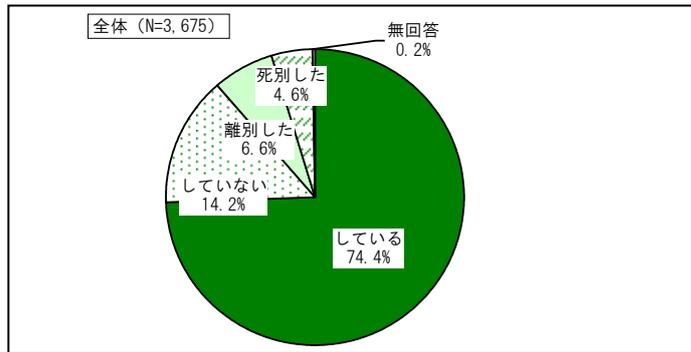
◆ 性・年代別 ◆



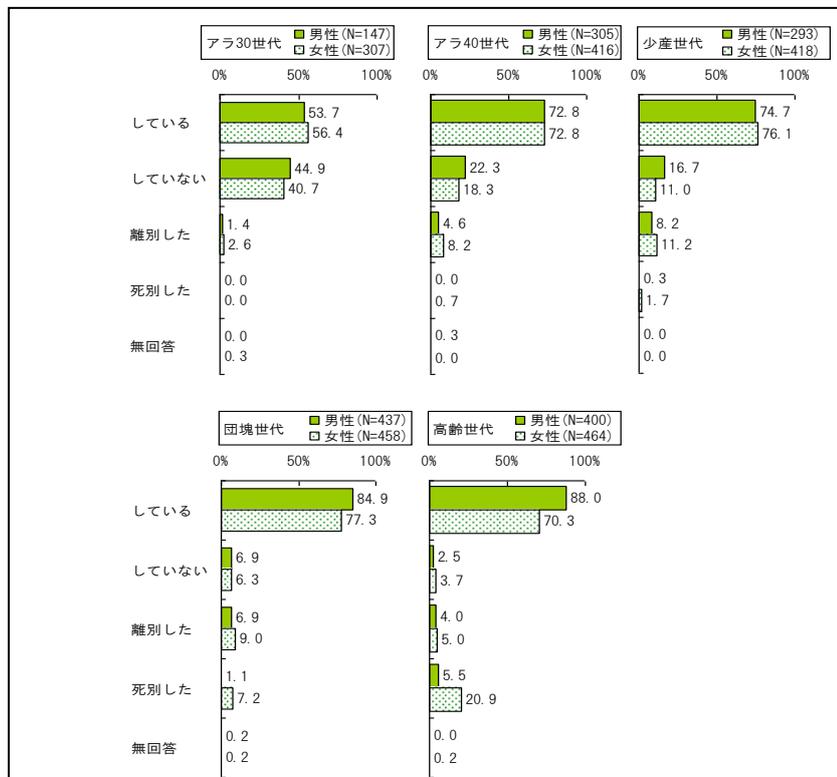
アラ 30 世代の男性 29.9%、アラ 40 世代の男性 23.3%、少産世代の男性の 29.7%が国民健康保険という事実の重みを確認しておきたい。本来自営業者のための保険が、小規模もしくは経営状態の悪い事業所の従業員の受け皿になっていることの問題点を明確にすることを求める数値とみなしたい。また、団塊世代の社会保険加入者の多くが、あと数年で国民健康保険に移行することも考慮すべき課題である。社会保険加入者は厚生年金加入者のため、比較的安定した収入がある。その増加とともに保険財政の赤字化を緩和する役割を果たすかもしれない。しかし、老いの進行とともに、医療費はこれまでにない速さと倍率で膨張する。そのときに支える側の保険が不安定であればどうなるか。社会保険における配偶者の保険料（年金の3号被保険者）の問題と共に改変すべき時期がきているといわざるをえない。

⑧未・既婚状況

◎結婚していますか。(〇は1つ)



◆ 性・年代別 ◆



結婚しているかは、「している」が74.4%と最も多く、次いで「していない」が14.2%、「離別した」が6.6%などとなっている。性・年代別でみると、アラ30世代で「していない」は、男性が44.9%、女性が40.7%と、男性がやや多くなっている。

未婚者の割合は男性が女性より、離婚者は男性より女性が多い。生涯未婚率の上昇と離婚率の上昇が確認できる。これらは、家族内における高齢者を看取る基盤が縮小していることを示すデータである。このことは、介護保険の破たんを家族内介護で補填する発想の非現実性を示す。あわせて、近年の家族内支援の強制による生活保護縮小論の非現実性も示唆している。

子どもが2人になって以降の家族の構造変動を考慮しない伝統的家族主義への回帰は、問題の解決策にはならないことを確認する調査結果である。

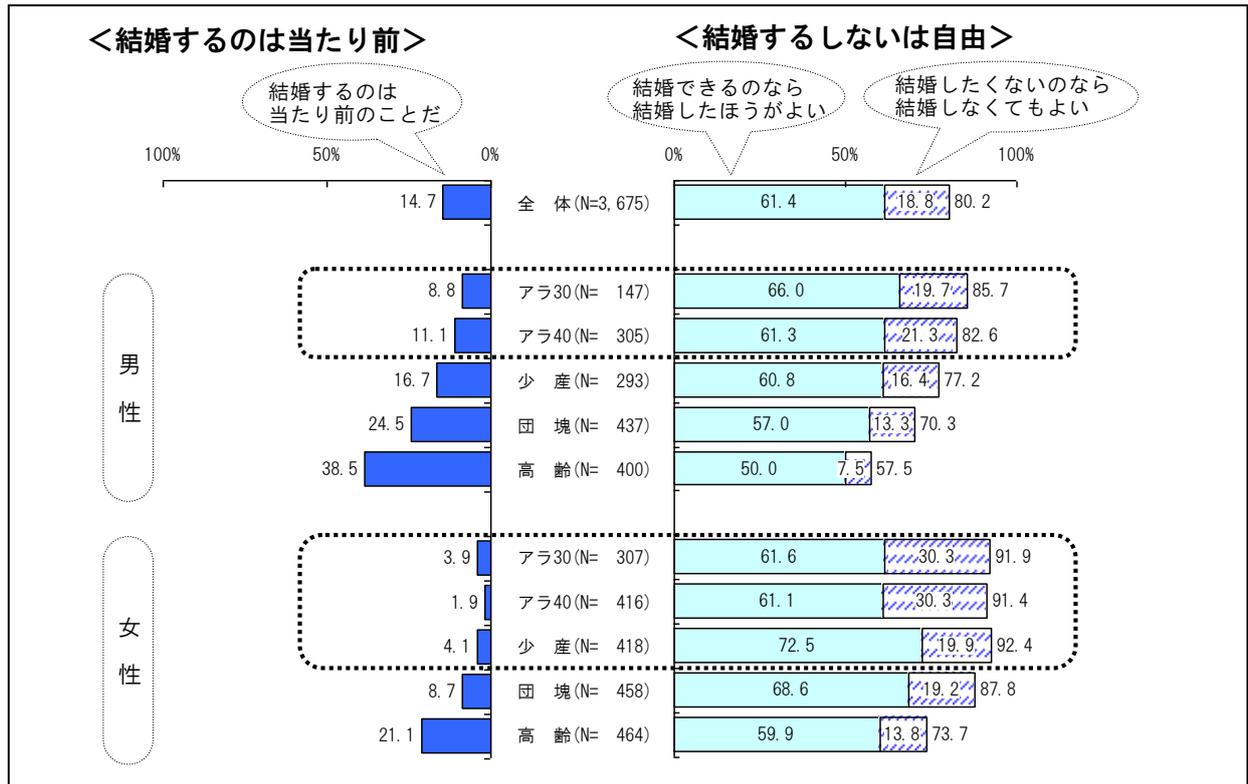
既婚女性と死別女性合わせて91%が既婚であることは、現在の高齢者は配偶者の存在が前提の高齢者福祉であることも確認しておく。それは生涯未婚率の上昇とともに、不合理な前提になることも確認しておきたい。

⑨結婚について

◎結婚についてどう思いますか。

「できるのならしたほうが」「したくないならしなくても」をあわせ、＜結婚する・しないは自由＞とする人は、男性のアラ30・アラ40世代が8割を超え、女性ではアラ30・アラ40・少産世代がともに9割を超えている。

結婚は、人生の目的ではなく、選択肢の一つになったとみなせる。



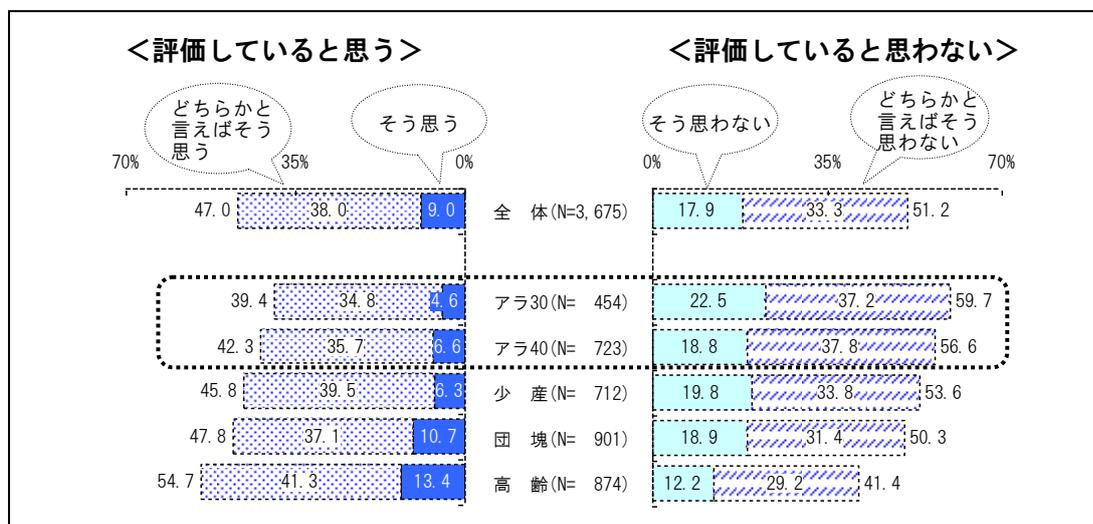
日本は結婚と出産をセットとみなす社会である。「できるのならしたほうが」との結婚の条件に、出産・育児の安心が入っていないなければならないが、子どもを生き育てることを「社会が評価」とみるアラ30・アラ40世代の女性はたったの5%しかいない。6割が「そう思わない」と答えている。未婚率上昇、出生率低下を解消するカギは明確だが、この意味を当事者の側から内在的共感的に読み取ることにはできる政策立案（制度設計）の担い手がどれほどいるか。

近年の社会調査で確認される若年層の専業主婦志向の高まり、待機児童をなくすことを景気対策に重ねた政策課題に掲げる政治風土、子どもの貧困を就労構造ではなく対処施策で解消可能と仮想する政策判断・・・いずれも対処療法の域をでないとなさざるをえない。

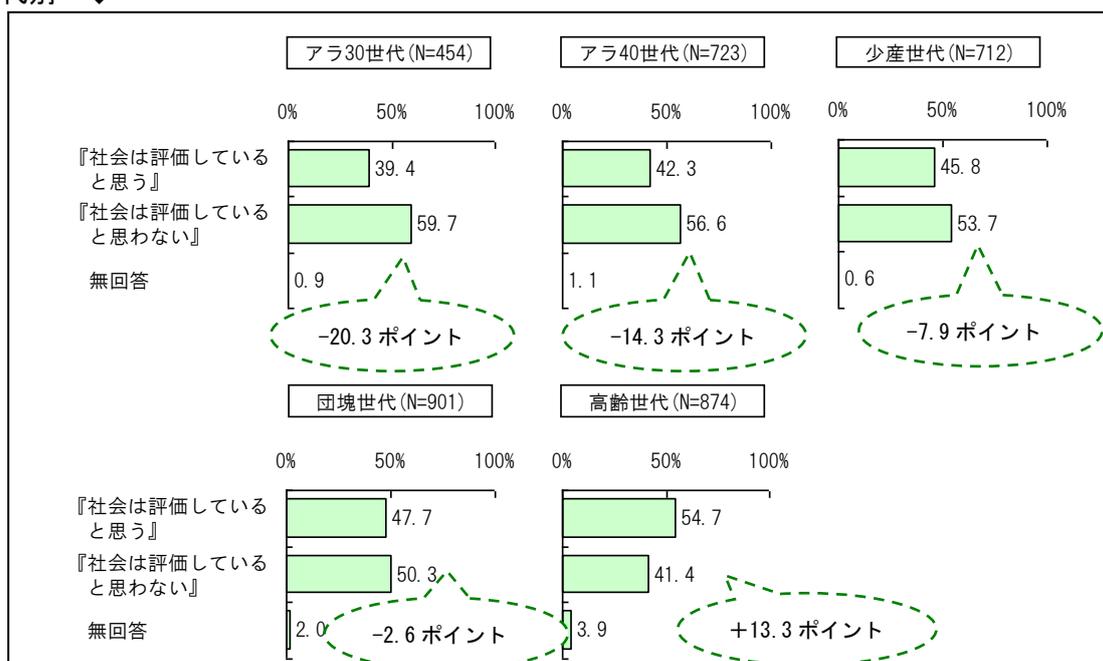
子どもを産む育てることで、生活が保障される社会システムへの転換なくして、ここでの問と答え背後にある問題を解消することは困難であることを強調しておく。

⑩ 「子どもを産み育てること」に対する社会の評価

◎ 「子どもを産み育てること」を、今の社会は十分に評価していますか。



◆ 年代別 ◆



子育て期の方が多いアラ30・アラ40世代の6割近くが、「どちらかと言えば」をあわせて、子どもを産み育てることを今の社会は<評価していると思わない>と感じている。「そう思う」が5%前後と極端に低いことも注目しておきたい。

年代別でみると、年代が下がるほど『社会は評価していると思わない』が多くなっている。一方、『社会は評価していると思う』は、年代が上がるほど多くなっている。

評価していると「思う」と「思わない」の差を世代別に見ると、アラ30世代では「思わない」が約20ポイント高い。逆に、団塊世代ではほぼ同率になり、高齢世代では逆に「思う」が13.3ポイント高い。当事者は否定するが、支える側は肯定する。

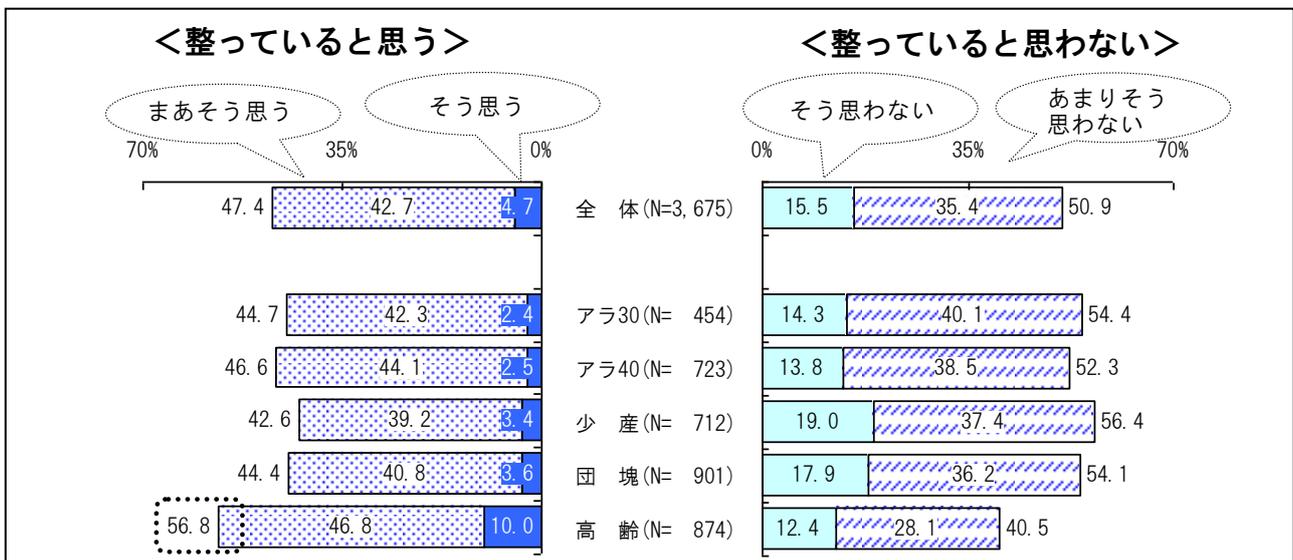
この差が、当事者にとって、「思わない」ととらえる理由につながるのでは。団塊世代より上の世代（少産世代も含む？）は専業主婦が理想の時代に子育てを、あるいは、子育て支援という概念すらない時代に子育てをした世代にとって、現在は恵まれていると判断するかもしれない。

しかし、母親としてしか生きることが許されなかった世代と異なり、子育てに入ることで多くのことを捨てなければならない世代には、子育ては負担の選択になる。仕事をやめて母親になることが幸せの基準であった世代と仕事に自己実現を求める楽しさを見出した世代では、負担を感じる度合いが異なる。自分が育つ過程で、母親のモデルを身近にみて、自らも日常生活のなかで子育ての経験を学習できた世代と学校の成績によって自己実現の尺度を問われた世代では・・・。

まだまだあげられるが、子どもを生み育てる当事者が、評価されていないと思っている割合が極めて高いということは、その社会に未来はない、ということと同義といえまいか。

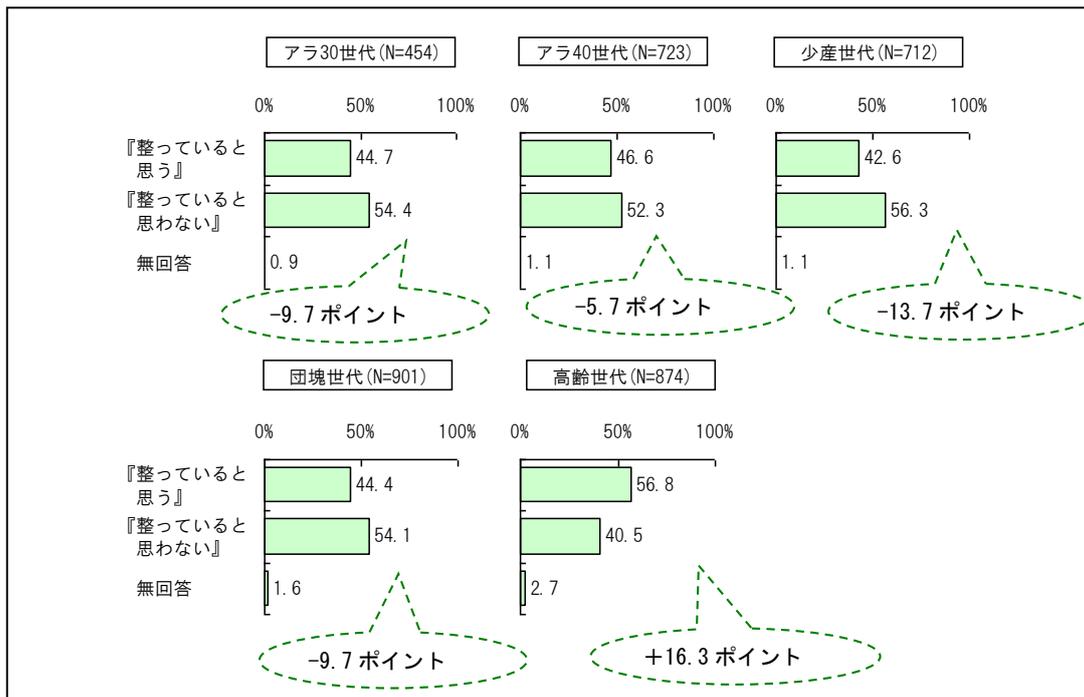
⑪高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境

◎岡山市は高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が整っていますか。



高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が「整っていると思う」との回答は、他の世代が4割台であるのに対し、高齢世代は6割近くが「整っていると思う」と回答している。高齢者にとって岡山市は暮らしやすいまちのようだが、若い世代の評価が低いのは気になる。女性の3人に1人が、町内会は大切だが自分は参加したくないという結果を重ねると、家族や隣近所の人間関係に依存する仕組みでは、超高齢社会を支えられない現実が見えてくる。特に、参加したくない割合が最も高い団塊世代の女性の拒否感を和らげる施策の展開が急務。

◆ 年代別 ◆



年代別でみると、アラ30世代から団塊世代までは『整っていないと思う』が多く、いずれも5割を超えている。一方、高齢世代は『整っていると思う』が多く、56.8%となっている。少産世代や高齢世代は、『整っていると思う』と『整っていないと思う』のポイント差が、それぞれ10ポイント以上ある。

世代間の差はあるが、子育てへの評価とは異なる傾向。当事者の高齢世代の「思う」と「思わない」の差は+16.3ポイントと肯定度が非常に高い。

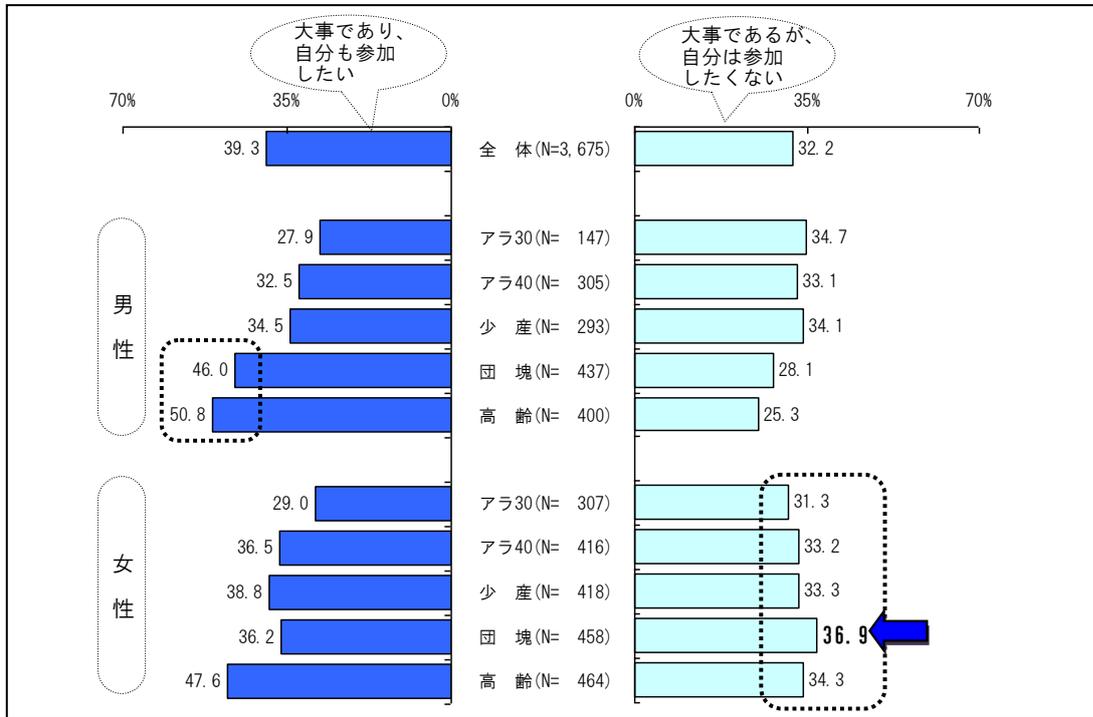
逆に現在50歳前後の少産世代は13.7ポイントと「思わない」が多い。実はこの世代から、日本は子どもが2人の社会になる。女性が男性と同等に生きることを当然視するようになったのもこの世代からである。

しかし、子ども2人ということは、自分と結婚相手の両親の4人の老後の面倒を見ることを求められる可能性がある。この世代から3世代家族は縮小する。都市で家族をもつ子どもの割合が増える世代。団塊世代と異なり、兄弟姉妹のだれかが親のもとやそばで生活するという選択肢はない。夫婦のみから単身者へと変化する老親の未来を想像すれば、当事者の高齢者よりも、また兄弟姉妹が多く、子育てと同様に老いた身内の世話を自らが育つ過程で学習できた最後の世代の団塊世代とも異なり、高齢者を支える社会的条件への不安が高まるということか。

この面でも、少産世代から質の異なる評価軸が組み込まれるとすれば、現在のアラ40世代、アラ30世代も、親の老いが身近になるにしたがい、マイナスのポイント数が上昇することになるろう。ここでも世代間の条件の差異を考慮した施策と制度の改編が求められる。

⑫町内会について

◎町内会についてどう思いますか。



町内会への参加が、大事だと思っている人は多いものの、男性の現役世代（アラ30世代から少産世代）は、自分も「参加したい」と「参加したくない」が3割前後で拮抗している。男性の団塊世代では46.0%、高齢世代では50.8%が「参加したい」と回答している。

一方、女性は全ての世代で「参加したくない」が3割以上で、とりわけ団塊世代は最も多く36.9%である。

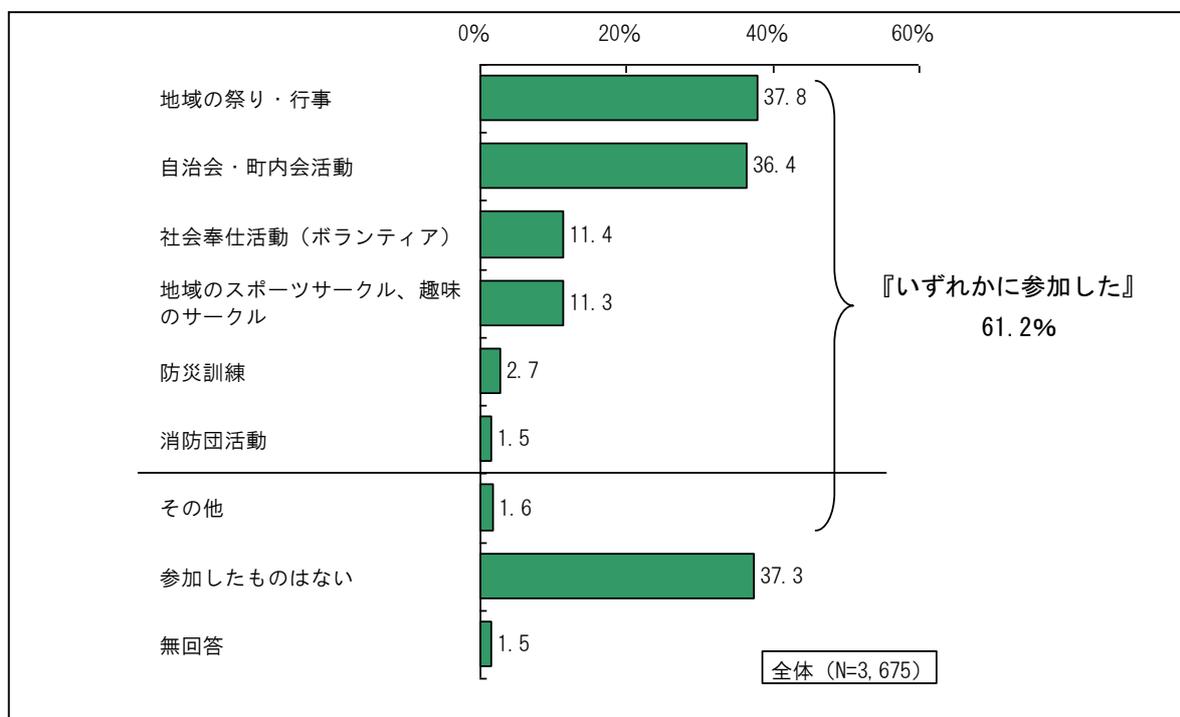
団塊世代の女性の「したくない」割合が男女世代別で最も高いことに注目したい。若い男女の意欲の低さは当然視されているが、団塊世代の女性の拒否感がそれより高いという結果は、今後の地域活動のありかたを左右する問題と考えるからである。

加えて、高齢世代の女性の「参加したくない」37.3%は、アラ30世代の女性34.9%より高く、アラ40世代や少産世代の女性とほぼ同率である。

岡山市の町内会活動は、女性の力を必要としていないのか。あるいは、女性の拒否感を高める傾向があるのか。その真偽を次の問14と問15で確認したい。

⑬地域活動の参加状況

◎あなたはこの1年間に、地域活動に参加したことがありますか。

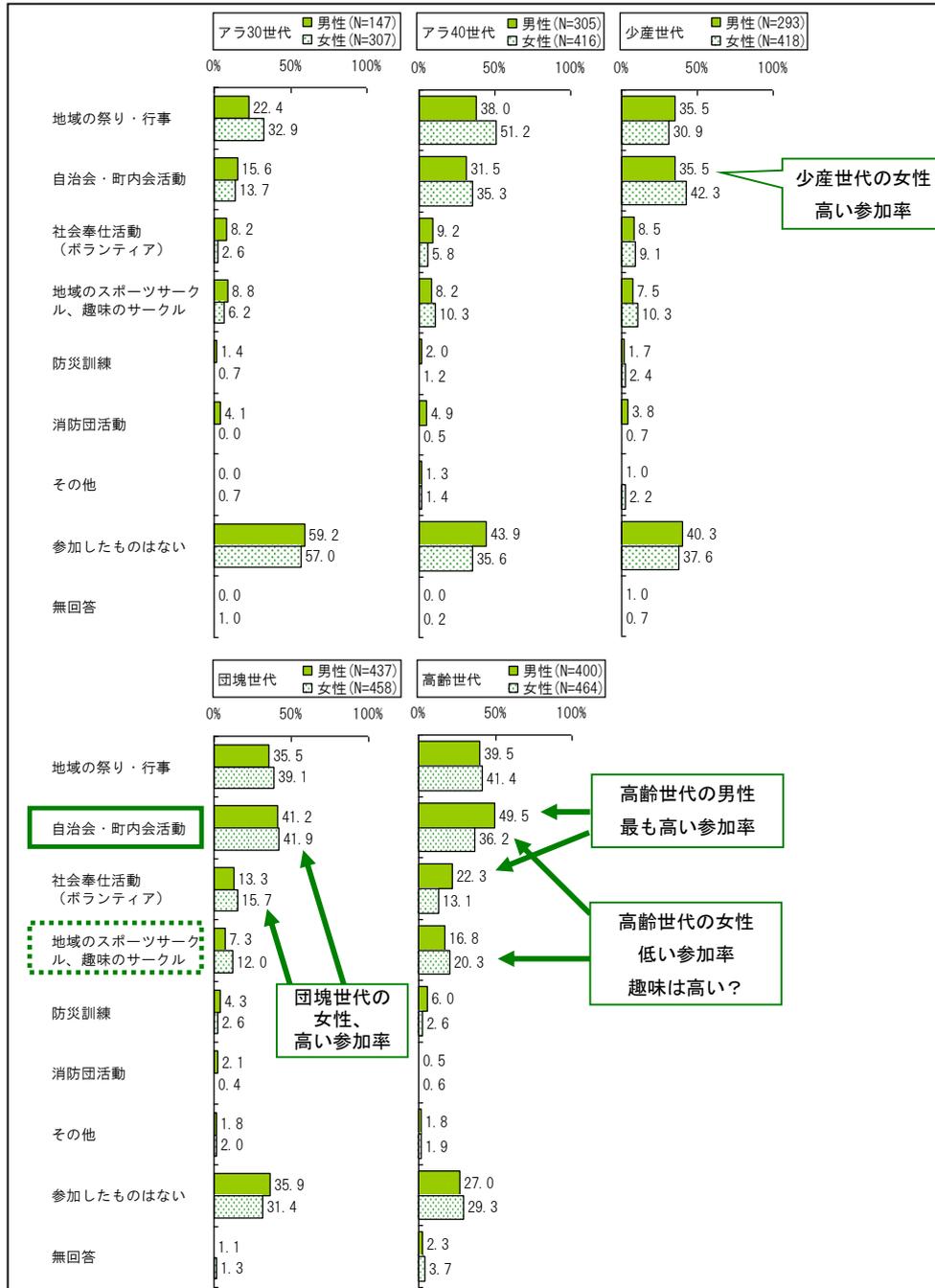


1年間で参加した地域活動は、「地域の祭り・行事」の37.8%と、「自治会・町内会活動」の36.4%が多く、次いで「社会奉仕活動 (ボランティア)」が11.4%などとなっている。参加の有無は、『いずれかに参加した』が61.2%、「参加したものはなし」が37.3%となっている。

性・年代別で見ると、「地域の祭り・行事」は女性のアラ40世代が51.2%と最も多く、次いで女性の高齢世代が41.4%、男性の高齢世代が39.5%などとなっている。「自治会・町内会活動」は男性の高齢世代が49.5%と最も多く、次いで女性の少産世代が42.3%、女性の団塊世代が41.9%などとなっている。

「参加したものはなし」は男性のアラ30世代が59.2%と最も多く、次いで女性のアラ30世代が57.0%、男性のアラ40世代が43.9%などとなっている。

◆ 年代別 ◆



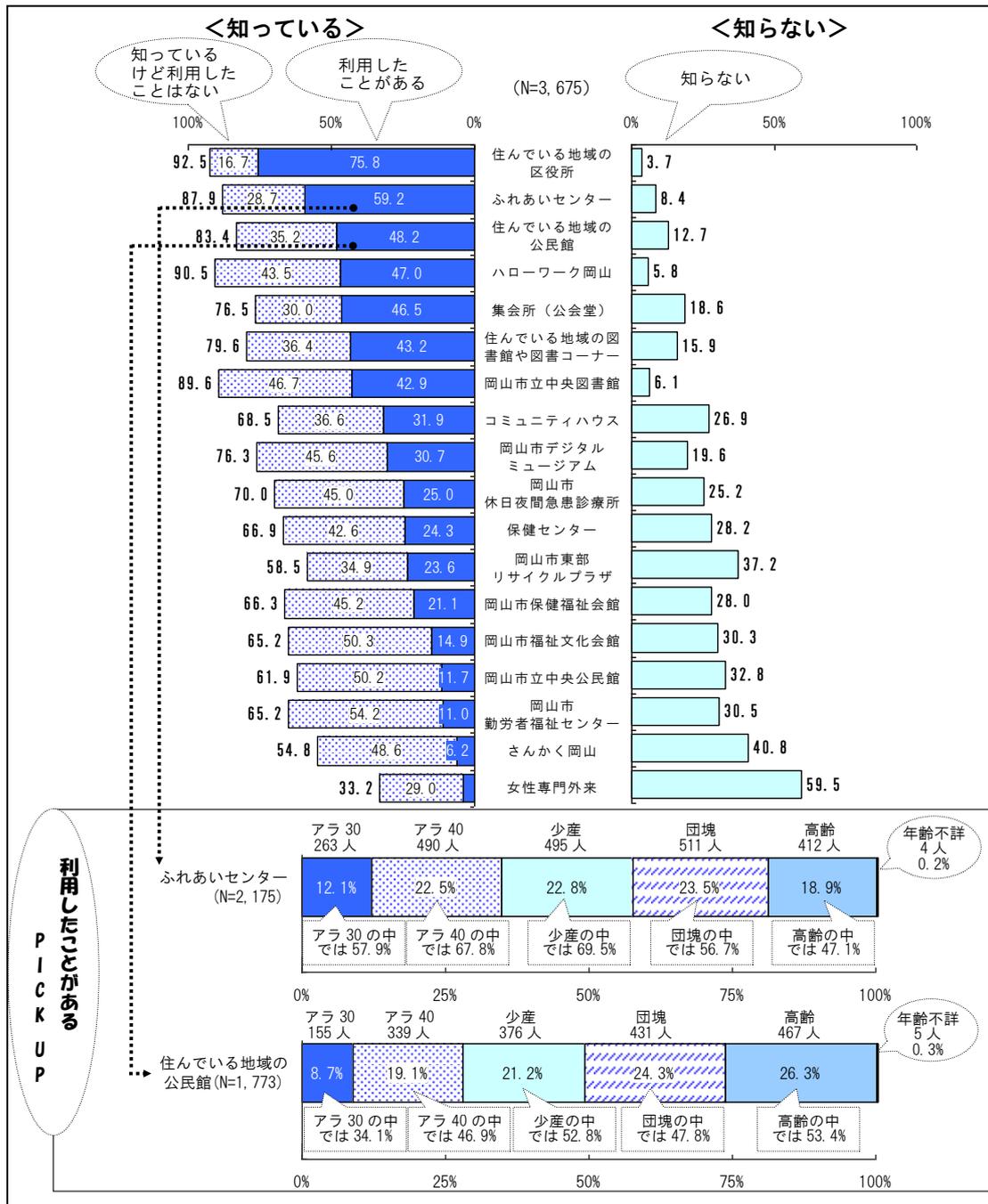
参加者は団塊世代の女性と少産世代の女性、リーダーは高齢世代の男性という町内会活動の現場の姿が想像できる。

それにしてもなぜ高齢世代の女性は団塊世代や少産世代より低いのか。参加拒否の割合も高い。高齢世代の男性のリーダーシップへの拒否感故か。あるいは、高齢が理由なら、高齢世代の男性の参加は何を意味するか。町内会活動がだれのためのものかが疑問視される結果といわざるをえない。

少なくとも現場を担う女性を主体にした運営がなされているとは思えない。活動の実態が拒否者の拡大再生産につながっていないか。団塊世代の退職後、岡山市の地域活動の世代交代が進むかどうか疑問。それは全国のリーダーを排出してきた岡山市の町内会の組織と活動のありかたへの疑問符と重なる。

⑭ 公的施設の利用状況

◎岡山市にある公的施設を利用したことがありますか。



市内の公的施設で、半数以上が利用した施設は、「区役所」と「ふれあいセンター」の2施設のみ。18施設中11施設の利用率が3割以下。市内5箇所の「ふれあいセンター」と中学校区単位に37館ある「公民館」の利用率と利用者の差異の特徴が、市民の求める公的施設のありかたを示唆している。「ふれあいセンター」(2,175人)と「住んでいる地域の公民館」(1,773人)のグラフの下の各世代別の利用者割合をみてほしい。アラ40・少産世代の約7割、アラ30世代も6割近くが「ふれあいセンター」を利用している。公的施設の課題を読み取るヒントにしてほしい。

多い順	「利用したことがある」	「知っているけど利用したことはない」	「知らない」
1	7) 住んでいる地域の区役所	9) 岡山市勤労者福祉センター	12) 女性専門外来
2	13) ふれあいセンター（岡山・西大寺・北・西・南）	10) 岡山市福祉文化会館	11) さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）
3	4) 住んでいる地域の公民館	3) 岡山市立中央公民館	17) 岡山市東部リサイクルプラザ
4	8) ハローワーク岡山	11) さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）	3) 岡山市立中央公民館
5	6) 集会所（公会堂）	1) 岡山市立中央図書館	9) 岡山市勤労者福祉センター

問題点を顕在化されるために、「利用したことがある」「知っているけど利用したことがない」「知らない」の三つの尺度で上位5種を一覧にした。

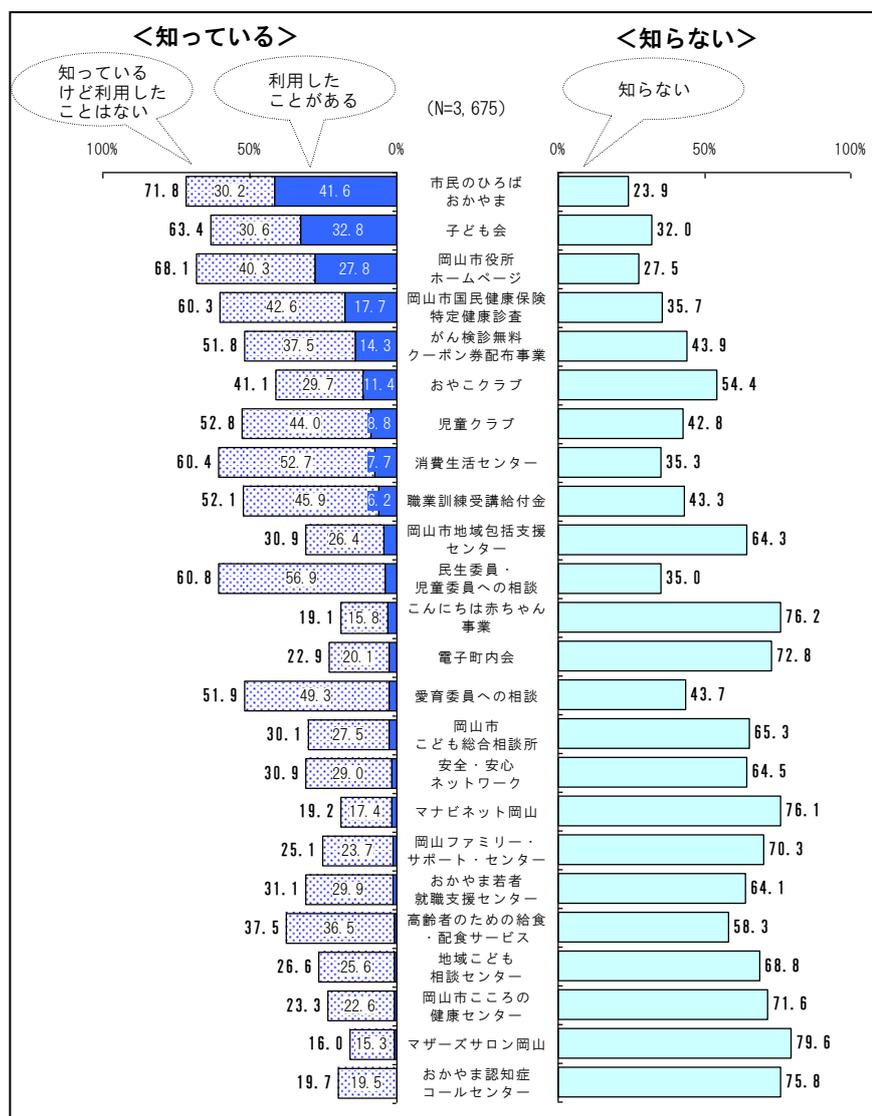
既に確認しているが、市民の半数以上が「利用したことがある」と答えた施設は「住んでいる地域の区役所」と「ふれあいセンター（岡山・西大寺・北・西・南）」だけ。全国で最も整備されたと位置付けられる地域の公民館でさえ、利用者は4割。中央公民館の利用度は1割で3割が知らないと答える。

最も市民と疎遠とみなせる「知らない」割合が高い施設はいずれも今後の町づくりに欠かせない専門的機能をはたすべき施設である。利用以前に、その価値を知らせることから始めざるをえない。特定のヒトとグループの活動の場としてしか活用されていないとすれば、その人たちの老いとともに過去の施設にならざるをえない。

市民の利用度ではなく、必要度を基準に、認知されていない背景をさぐり、活用の条件を整えることに集中すべきであろう。逆に、この結果が市民の必要度を示すものとしてみるなら、どの世代が活用しているかを確認しなければならない。

⑮行政で実施している取り組みの認知状況

◎行政で実施している取り組みを知っていますか。



行政で実施している取り組み、すなわち施策のうち、24項目中18項目が1割以下の利用率で、3割以上利用しているのは、「市民のひろば」と「子ども会」のみである。他方、<知らない>割合が5割を超える項目は14項目である

施設と施策の利用と認知の特徴を一言でいえば、非常に利用率が低いといわざるをえない。郵送調査で回収率が36.8%ということは、本調査の回答者は岡山市の行政に関心のある方たちと推察できる。岡山市全体では、施設と施策の利用率はもっと厳しい数値になるであろう。

認知に関しても、施設では5割以下は「女性専門外来」だけだが、施策では5割を超えるのは24項目中10項目である。市民の多様性（世代間と世代内双方）に応じたニーズの把握、双方向的な情報ネットの整備、アクセスの方法などの評価項目により、改廃をも選択肢においた総合評価が緊急課題になるであろう。ただし、改廃の基準のなかに、岡山市で生活する市民のみなさんの未来の可能性を拓くために何が必要かという観点を忘れてはならないことも強調しておきたい。

多い順	「利用したことがある」	「知っているけど利用したことはない」	「知らない」
1	23) 市民のひろばおかやま(広報誌)	12) 民生委員・児童委員への相談	5) マザーズサロン岡山
2	1) 子ども会	19) 消費生活センター	6) こんにちは赤ちゃん事業(ブックスタート)
3	24) 岡山市役所ホームページ	9) 愛育委員への相談	22) マナビネット岡山(岡山市公共施設予約システム)
4	17) 岡山市国民健康保険特定健康診査(40歳以上、生活習慣病)	11) 職業訓練受講給付金(職業訓練・生活支援給付金)	13) おかやま認知症コールセンター
5	16) がん検診無料クーポン券配布事業(乳がん、子宮頸がん、大腸がん)	7) 児童クラブ(放課後の子どものための)	21) 電子町内会

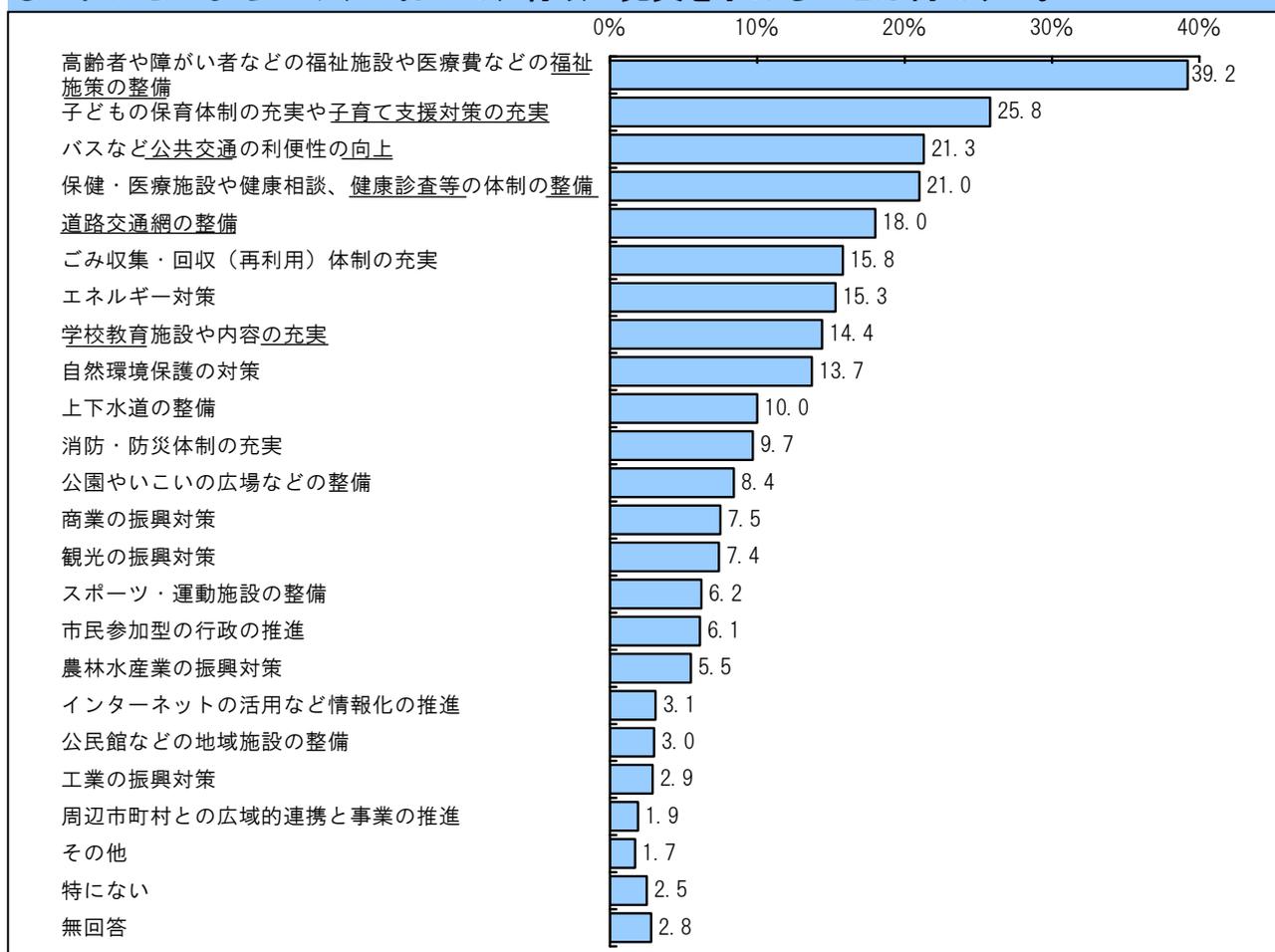
施設と同様に、問題点を顕在化されるために、「利用したことがある」「知っているけど利用したことがない」「知らない」の三つの尺度で上位5種を一覧にした。

施策の利用度は施設以上に低い。認知度も低い。半数が利用した施策はゼロである。最も利用度の高い「広報紙」でさえ4割。知らない人が23.9%と5人に1人に近い数値である。また、今回の調査準備過程での取材で、岡山市が最も重視していると判断した「安心、安全ネットワーク」の利用者は1.9%、認知は30.9%にすぎない。同様に岡山市独自の地域子育て支援組織の「愛育委員への相談」の利用度は2.6%。利用する対象が重なると思われる「子ども会」が32.8%、「おやこクラブ」が11.4%と比較しても少ないといわざるをえない。あるいは、問19で確認したように、市民のストレスを感じた割合は非常に高い。それにもかかわらず、「岡山市こころの健康センター」の利用度は0.7%。認知度は23.3%である。

メニューはあっても市民に届いていない施策の典型が並ぶ。問題はどこにあるのか。施設以上に検証が必要である。認知度と利用度に機能と世代を組み合わせた診断を実施しなければならない。

⑩まちづくりにおいて行政に充実を求めること

◎これからのまちづくりにおいて、行政に充実を求めることは何ですか。



男性・女性ともに、アラ30・アラ40世代では、「子どもの保育体制の充実や子育て支援対策の充実」が1番多く、少産・団塊・高齢世代では、「高齢者や障がい者などの福祉施設や医療費などの福祉施策の整備」が1番多い。2番目をみると、アラ30世代から団塊世代まで、男性は「道路交通網」を、女性は「福祉施設」、「子育て」、「健康診査」を求めている。

順位	全体 (N=3, 675)		アラ30	
			男性(N=147)	女性(N=307)
1	福祉施設の整備	39.2%	子育て支援対策の充実 40.8%	子育て支援対策の充実 58.3%
2	子育て支援対策の充実	25.8%	道路交通網の整備	福祉施設の整備 24.8%
3	公共交通の向上	21.3%	公共交通の向上	公共交通の向上 24.4%
順位	アラ40		少産	
	男性(N=305)	女性(N=416)	男性(N=293)	女性(N=418)
1	子育て支援対策の充実 30.2%	子育て支援対策の充実 43.8%	福祉施設の整備 37.9%	福祉施設の整備 45.7%
2	道路交通網の整備 25.2%	福祉施設の整備 33.4%	道路交通網の整備 22.9%	子育て支援対策の充実 25.8%
3	福祉施設の整備 22.6%	学校教育の充実 30.8%	子育て支援対策の充実 19.5%	健康診査等の整備 22.2%
順位	団塊		高齢	
	男性(N=437)	女性(N=458)	男性(N=400)	女性(N=464)
1	福祉施設の整備 43.9%	福祉施設の整備 49.1%	福祉施設の整備 42.8%	福祉施設の整備 51.7%
2	道路交通網の整備 24.0%	健康診査等の整備 22.9%	健康診査等の整備 23.8%	公共交通の向上 27.6%
3	健康診査等の整備 20.4%	公共交通の向上 20.7%	道路交通網の整備 20.5%	健康診査等の整備 24.1%

市民が求める施策は、上の表に示すように、世代と性差によって異なることに注目してほしい。この質問結果を、前頁において施設と施策の調査結果に基づき指摘した、総合評価の評価項目に組み込み、新たな施策設計の課題にすべきであろう。

4 結語にかえて

当初の調査設計にしたがえば、156 ページに記したように、各質問での回答傾向を分析した後に、クラスター分析などの多変量解析といった高度な統計処理によって、調査結果を総合する岡山市民の類型化を図り、政策策定作業のための課題の提示を試みなければならない。そのために準備したのが、問 28 の質問項目の調査結果に対する等質性分析とクラスター分析であった。

しかし、実際にこの方法で作業を進めたところ、残念ながら調査対象となった岡山市民全体の傾向を分別する軸の意味を読み取ることが困難であった。

そのため、2012 年度における本調査報告での考察は上記にとどめ、政策策定作業の課題については、新たな統計手法による調査結果の総合分析を実施することになった 2013 年度の作業としたい。

その上で、2013 年度における調査結果の総合分析と政策提言作成作業の一助となることを願って、次の附論を付記することで、監修者の責を果たしたい。

附論 1 三種の政策提言の構想私案

附論 2 人口減少下の日本社会の課題

附 論

2年間にわたる、聞き取り調査と質問紙調査の分析と公明党岡山市議団のみなさんとの論議をふまえ、2013年度の政策立案のための検討作業の課題として、次の観点を提示しておきたい。

1) 人口減少社会へのソフトランディングのための確かな視点を

- (1) 人口減少の偏頗性と格差の構造化
- (2) 産業構造の変動とキャリアシステムの改編
- (3) 個人化の進行と社会保障システムの再構築
- (4) 富の分配から負担の分担に

2) 豊富な社会的資源と社会的資本の活用システムの再編成

- (1) 関西、四国、九州の結節都市との自負と責任に耐えるインフラの再構築
- (2) 最大人口コーホートのアラサー、アラフォー男女の参画によるまちづくり
- (3) 2013年から順次65歳以上の高齢期に移行する団塊世代の活性化プラン

さらに、より具体的な政策と施策の立案の枠組みの例示となることを願って、「三種の政策提言の構想私案」を附論1として提示しておきたい。

また、上記課題の検討を進める素材として、人口減少が進行する日本社会の特性に関する監修者の考察を附論2として提示しておきたい。

附論 1

★三種の政策提言の構想私案★

提言 1. 岡山駅を基点とする

「OKAYMA ビッグプレイゾーン」の再開発

- ・岡山駅通行者とイオン利用客の潜在力開発による岡山市経済成長策
- ・岡山駅を基点に、次の地点を、
 - ・遊歩＋自転車のグリーンラインとライトレールによる
二つの円（サークル）で結ぶ、ビッグプレイゾーンの再開発
- ◇アウトサイドサークル（外円）：
岡山駅→イオン→山陽新聞→市役所→（病院？）→県庁・市民会館→
後楽園→美術館・図書館・TV局→音楽ホール→西川→
岡山駅＋シティミュージアム（区役所総合分室）・NHK
- ◇インナーサークル（内円）：
岡山駅→イオン→表町→西川→岡山駅

提言 2. “公立幼稚園の新子ども園化”を起点に、

小・中・高・大連携を視野に置く「岡山っ子・未来飛翔システム」の創生

- ・公立幼稚園の新子ども園化による公立保育・教育・福祉施設の再編・創生
- ・新子ども園、公立保育園、認可保育園、認可外保育施設を統合する
“岡山っ子”育成基準（プラン）と基金（ファンド）の創生
- ・小学校＋児童クラブ＋児童館＋αによる
“岡山っ子”のためのネオ安心安全ネットワークの創生
- ・新子ども園＋小・中学校の教育課程再編による
「岡山っ子」新学力（知力＋他者貢献力）飛翔システムの創生
- ・給食システムの再編による「岡山っ子」の心身を育む
食育＋産業振興＋基金基盤構築システムの創生
- ・高齢者支援システムとの連携と転用のための制度設計チームの創生

提言3. シティミュージアムと公民館の再定義・リファイニングを核に、
市民参画による「ネオ安心安全ネットワーク」の再構築

- ・シティミュージアムをシティセンターに、公民館をエリアセンターに、
次の10種のシステムを多様・多元・可変に結ぶ、
市民参画・相互支援のためのネオ安心安全ネットワークの再構築
- i 学習システム→公民館+図書館+他
- ii 福祉システム→ふれあいセンター+包括支援センター+福祉事務所+他
- iii 自治システム→コミュニティハウス+他
- iv 女性支援システム→さんかく岡山+女性団体・サークル
- v 就労支援システム
- vi ESD 推進システム
- vii 医療・研究・先端産業システム
- viii スポーツ・健康システム
- ix 観光・余暇システム
- x 市民活動支援システム→多様な目的の公的施設・機関やNPO・NGOなど

◇三つの政策提言の略称◇

1. OKAYAMA ビッグプレイゾーン再開発
→人が集まり表現するまちに→経済活性化
2. 岡山っ子・未来飛翔システム創生
→すべては未来からの使用者のために
→支援のみなさんの原点
3. ネオ安心安全ネットワーク再構築
→生活→市民がまちづくりの主体者
→公明党結党の精神

☆3種の提言の背景と課題☆

1 提言の背景・・・23年度調査と24年度調査で明らかになったこと

1) 23年度調査・・・岡山市再発見の旅

(1) プラス面

- ①岡山市の社会的資源（ハード）と社会的資本（ソフト）の豊かさ
- ②岡山駅の集客・金力の大きさ
- ③岡山市と市民の潜在力の高さを

(2) マイナス面

- ①歴史と文化の豊かさに安住する閉鎖性と守旧性
- ②既得権益のバランスを優先するリーダーの判断軸
- ③現在の豊かさを担う多数派（アラサー、アラフォー）への関心の薄さ
- ④既存地域組織・活動への行政の過度の依存と担い手の空洞化

2) 24年度調査・・・市民のリアリティを求めて

(1) 「市民調査」の実施と結果の分析

- ①調査対象数と有効回答者数の差異が暗示する市政の偏頗性
- ②施設と施策の利用度と認知度の高度の低さと世代差の大きさ
- ③岡山市民の多数派は外来者
- ④地域活動を評価しても参加を渋る中高年は
- ⑤納税多数派（アラサー、アラフォー）の公的財と施策からの疎外
- ⑥世代間と世代内の双方に利害、意識、行動を分断する壁が存在

(2) 「市民調査」の分析が示唆する政策提言の柱

- ①市民の判断軸と類型に応じた施策の多様・多元・可変性
 - ・世代間と世代内の格差をかけあわせた市民の類型化とその判断軸の解明
 - 施策の多様化、多元化、可変性の道筋が明確に
- ②豊富な社会的資源と社会的資本の活用システムの再編成
 - ・関西、四国、九州の結節都市との自負と責任に耐えるインフラの再構築
 - ・最大人口コーホートのアラサー、アラフォー男女の参画によるまちづくり
 - ・2013年から順次65歳以上の高齢期に移行する団塊世代の活性化プラン

2 提言立案の課題・・・25年度政策立案作業とは

1) 提言の特性の明示

- ① 現行の法制度と政令市の権限の範囲で実行可能
- ② 施策項目はすべて岡山市に現存する社会的資源と資本の活用
- ③ 課題は岡山市の市民が各分野のリーダーも含めて、岡山市の潜在力の高さとその活用を阻む要因への関心・意欲・理解が低いこと

2) 提言を構成する施策項目の実現を阻む問題とその解決の調査

- ① 3 提言に束ねられる施策個々の活用と改編を阻む問題の調査
- ② 3 提言の実現を阻む問題点を解決する方法の調査

3) 実現を可能にする問題解決の方法と手順の立案

- ① 3 提言各施策の有用性を市民に伝えるプランの作成
- ② 個々の施策を具体化するための課題の調査
- ③ 3 種に束ねるための課題の調査

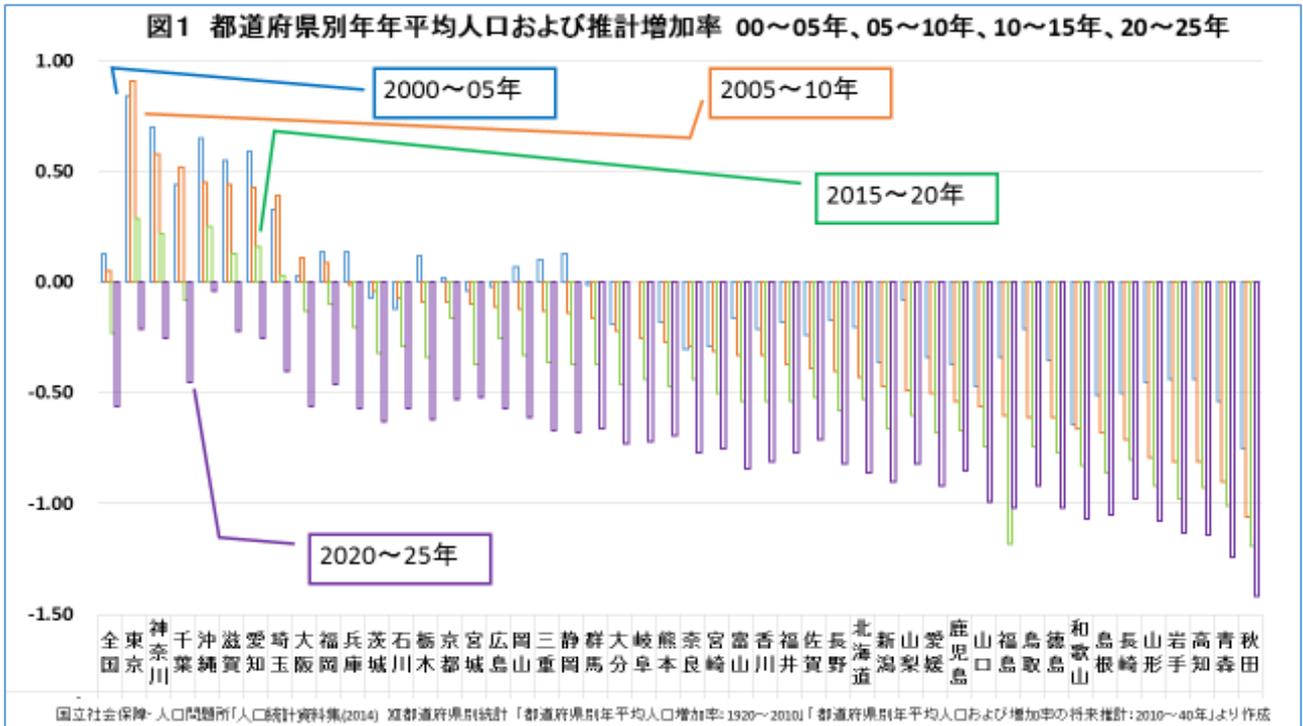
4) 政策提言として総合立案作業

- ① 上記(1)(2)(3)の作業を総合・整理
- ② 政策提言の理念、構成、施策の内容などの明記
- ③ 政策実現過程の計画立案

附論 2

★人口減少下の日本社会の課題★

1 人口減少の偏頗性



人口減少段階に入った日本社会における課題を考察する際に、前提とすべき二つの事象がある。人口減少における二つの偏頗性である。

その一つは自治体間における人口減少の進行度のズレである。

図1に示すように、2005年と2010年の国勢調査を代表に、日本全体の人口統計では、2005年から10年にかけて「人口の横ばい」が続き、2010～15年の推計から全国平均の増加率がマイナスになり、人口減少が本格化するとされる。だがそれは日本の全ての地で一斉に人口が減少するという意味ではない。東京、愛知、大阪、福岡という巨大都市圏を構成する自治体の増加率は2010年国勢調査の時点でも高い。特に、東京、神奈川、沖縄、滋賀、愛知、埼玉は2010～15年においてもなお増加率はプラスとされ、全都道府県が人口減に転じるのは2020～25年と推計される。逆に、最も減少率の高い秋田県の人口減少は、既に1980年代に進行していた。市町村のレベルでの差異も無視できない。県全体では人口減だが県都は人口増という自治体も少なくない。

もう一つの人口減少の偏頗性は世代間の減少時期のズレである。

人口減少はすべての年代に等しく生じるのではない。図2に示すように、まず14歳以下の年少人口が減り、時間の経過とともに15～64歳の生産年齢人口が減少する。だが65歳以上の老年人口は増え続け、年少人口や生産年齢人口の減少期との時間差は大きい。人口減少先進県秋田が高齢化率の最も高い県となる理由である。そして世代間扶養の不均衡が問題になる理由でもある。

なぜこのような偏頗性が生じるのか。人口減少の直接要因は死亡数が出生数を上回る（自然減）ことだが、それは国全体の人口が減少に転じるときにのみ当てはまる理由である。都道府県単位での人

口減少の進行度での20年以上の差は、進学、就職、転勤、結婚などの社会移動に伴う減少（社会減）が出生数（自然増）より多くなることで生じる。この傾向はこれまでも工業化による過疎と過密の問題として論じられてきた。だが、人口減少段階の社会では、過疎と過密の双方に同質の解決困難な問題が生じる。

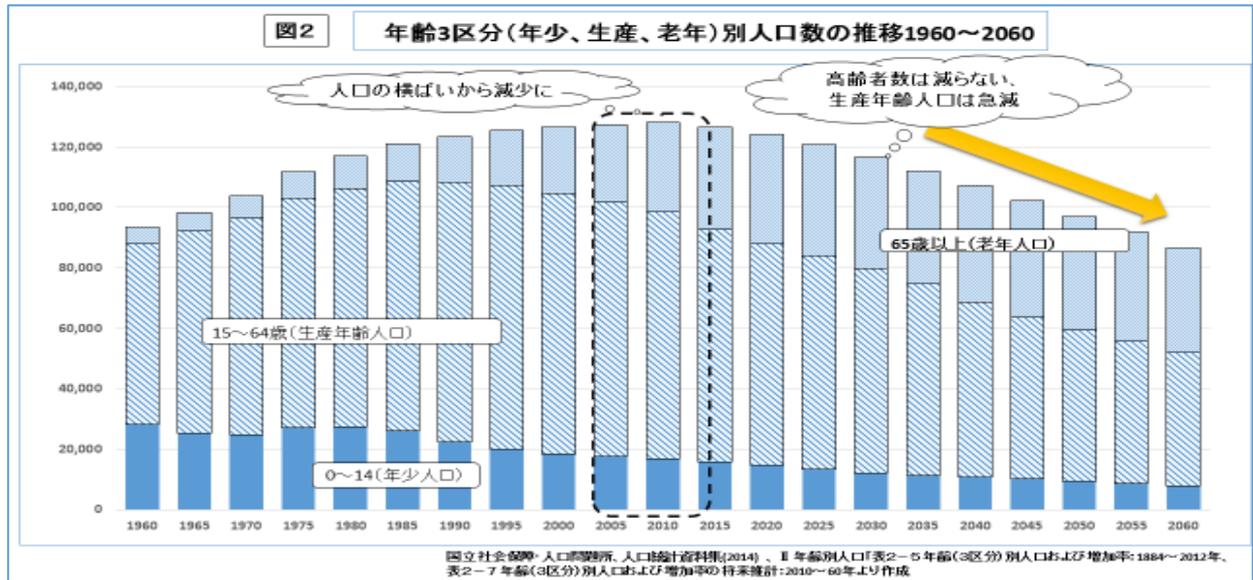


表1は、日本が人口減少社会に変化する過程を辿るために、i 1960~70年代：高度成長前期（工業化）、ii 80年代：高度成長後期（情報化）、iii 90年代：脱高度成長模索期（グローバル化）、iv 00年代：経済復活模索期（ICT化、大競争時代勃発期）という4期にわけて、都市に移動する青年層の特性とその結果生じた日本社会の変化と課題を整理したものである。この表から人口減少社会への転換をもたらす二つの要因を読み取ってほしい。

表1 「人口減少社会への転換の経緯」

- i 工業化：高度成長前期60~70年代
 - ⇒戦後1回目の青年層(団塊)の都市部の社会移動
 - 都市小家族(核家族)の激増→都市郊外ニュータウン→職住分離
 - 日本版近代家族成立(サラリーマンの夫、専業主婦の妻、子ども二人学校中心)
 - ⇒団塊の世代によるニューファミリーを家族モデルにした制度設計
- ii 情報化：高度成長後期80年代
 - ⇒戦後2回目の青年層(少産)の都市部への移動
 - 産業のサービス化+男女雇用均等法→未婚青年層+夫婦のみ中年層の漸増
- iii グローバル化(脱高度成長模索期：90年代)
 - ⇒脱日本型経営→デフレスパイラルに
 - 晩婚化による少子化の顕在化(1.57ショック)
 - ⇒高齢化率13%を超え高齢社会に転換
- iv ICT化(経済復活模索期、大競争時代勃発期00年代)
 - ⇒戦後3回目の青年層(団塊ジュニア)の都市部への社会移動
 - 単身青年男女+夫婦のみ・単身高齢者の増加
 - 血縁・地縁から疎遠な単身者(単独世帯)が世帯別割合の最大グループに……!
 - ⇒2005年国勢調査により人口減少社会への転換を確認

その一つは60年代に本格化する高度成長期に都市へ移動した青年層が高齢期を迎える時期と人口減少開始時が重なることである。工業化に伴う都市部への青年層の大規模な移動(過密)は、時の経過とともに、故郷(過疎)に残る老親の扶養と介護の問題が生じる。さらに、青年層自らの老いにより、都市部は大量の高齢者の老への対処が問題になる。他方、全国各地の過疎の町や村は、縮小・合併に止まらず消滅の危機にさらされる。

その二つは未婚率の上昇である。高度成長期に移動した都市の青年男女は日本版近代家族（恋愛結婚、夫はサラリーマン、妻は専業主婦、子ども二人を学校中心に育てる）の形成を人生の目的にした。だが 80 年代以降に都市へ移動した男女から晩婚化による未婚率の上昇が進行し、00 年代には男性の 3 人に 1 人、女性の 4 人 1 人が未婚から非婚への人生を歩みつつある。

この二つの要因が重なることにより、都市部はパートナーを看取った単身高齢者と流入する未婚の単身男女の激増により、血縁（家族・親族の支え）と地縁（近隣の支え）から離れた単身の男女が、互いに疎遠なまま生活する社会に変化する。他方、その結果、子どもが都市に移動した地方の小規模自治体で生活する老親は、家族（血縁）の後継者（孫）を失う。その後に残っているのが、上述した地方の町や村の消滅である。そしてそれは、大都市が多種多様な社会的役割の後継者の供給源を国内から失うことをも意味する。

この問題の深刻さは、国を単位とする解決策が、人口減少の二つの偏頗性に対応した地域間（大都市 vs 地方中心都市・県都 vs 小規模自治体）と世代間（老年 vs 生産年齢 vs 年少）に利害の対立（格差）をもたらすことにある。将来推計人口を活用して、具体的に示そう。

2 格差の構造化

図 3 は、高齢者を支える構造が 2010 年から 2040 年にかけての変化を推定する基礎資料として、支える側（生産年齢人口：15-64 歳）と支えられる側（老年人口：65 歳以上）の実数（2010）と推計値（2040）を都道府県別に図示し、それぞれ老年人口の多い順に並べ替えたものである。

さらに、上位 10 傑と下位 10 傑の都道府県を取り出し、「A：15-64 歳と 65 歳以上の人口差」と「B：15-64 歳÷65 歳以上」を求めて一覧表にしたのが図 4 である。数値の単位は千人だが、まずトップの東京都の変化をみてみよう。2010 年の生産年齢人口の 15-64 歳は 899 万 4 千人、老年人口の 65 歳以上は 267 万 9 千人、15-64 歳と 65 歳以上の差は 631 万 5 千人、比は 3.36 人である。3 人強で 1 人の高齢者を支えることを示す数値になる。

2040 年の推計値ではどうか。15-64 歳は 712 万 9 千人に減少するが 65 歳以上は 411 万 8 千人と大幅に増加する。その結果、15-64 歳の生産年齢人口と 65 歳以上の老年人口の差は 301 万 1 千人と半減し、両者の比は 1.73 に下がる。東京都に接する神奈川県と埼玉県はともに 1.58、千葉県は 1.47 とさらに低くなる。愛知県は 1.74 で東京都と同じだが、大阪府と福岡県は 1.51 と 1.53 で低い。ほぼ 3 人で 2 人を支えなければならないことを意味する数値であり、将来人口推計が示す日本の巨大都市圏の 25 年後の姿である。

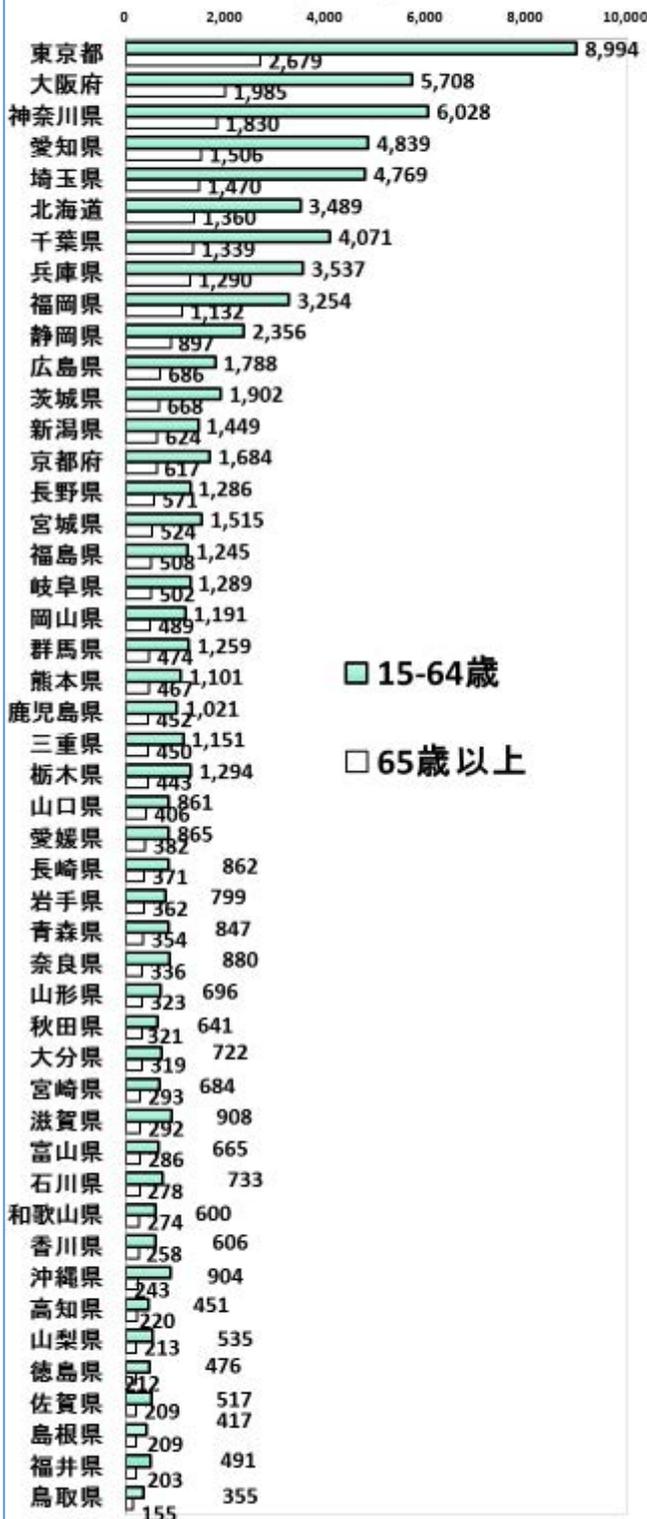
下位県ではどうか。最下位鳥取県をみると、2010 年の 15-64 歳は 35 万 5 千人、65 歳以上は 15 万 5 千人、両者の差は 20 万人だが、いずれも上位の都市部とは文字通り桁違いの人口数である。他方、生産年齢人口と老年人口の比は、都市部よりかなり低く 2.29 である。

2040 年の推計人口ではどうか。15-64 歳が 22 万 6 千人、65 歳以上は 16 万 8 千人で、両者の差は 5 万 8 千人に減少し、比は 1.34 と 1 に近づく。特に、下位 10 位に、最も早く人口減少が始まった秋田県があるが、その 15-64 歳は 33 万 5 千人、65 歳以上 30 万 6 千人で、両者の差はわずか 2 万 9 千人、その比は 1.09、1 人が 1 人を支える社会になることを示す数値である。

2010 年では、大都市圏を構成する自治体は 3 人で 1 人を、地方の小規模人口減少県は 2 人で 1 人を支えていた。それが 2040 年の大都市圏は 3 人で 2 人、小規模自治体は 1 対 1 で支えなければならない社会が来ることを推計人口は示している。ただし、上位 10 位と下位 10 位の人口は、文字通り桁が異なるほど大きな差であることも確認しておく。

図3

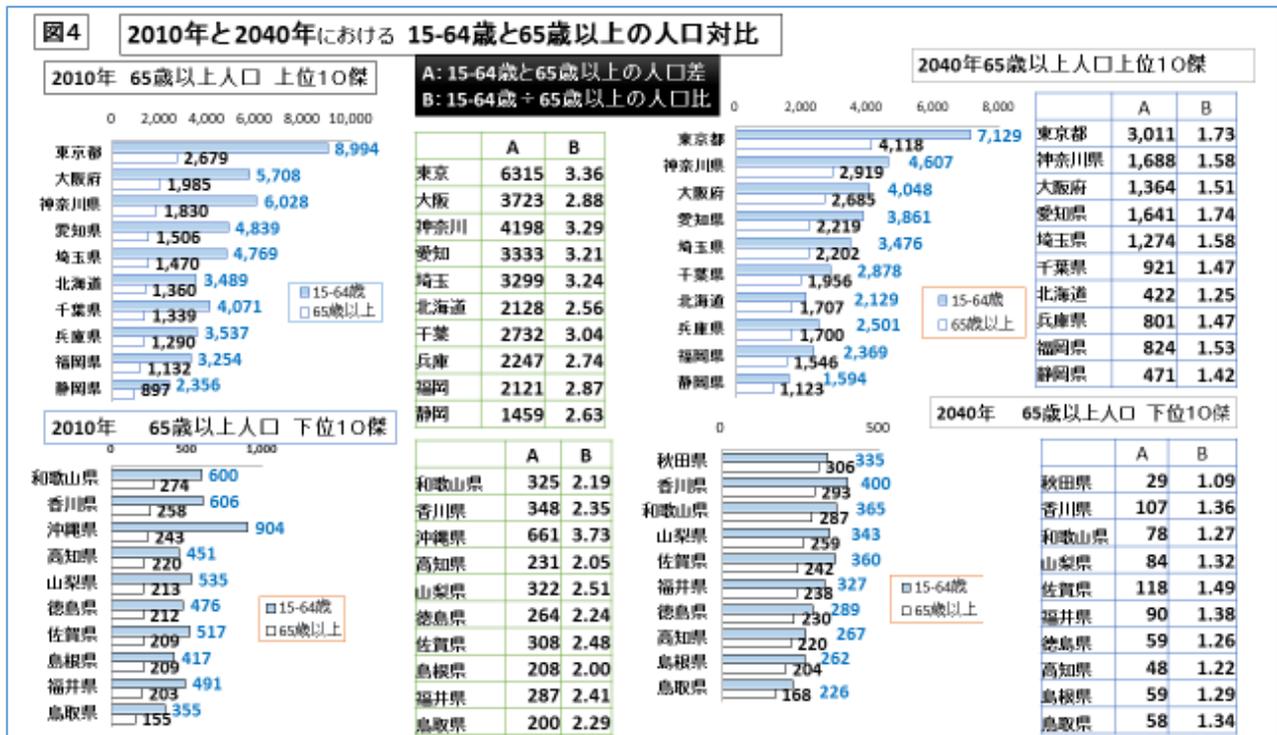
2010年都道府県別
15-64歳と65歳以上の人口



2040年都道府県別
15-64歳と65歳以上の人口



国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）』「表Ⅱ-1都道府県別総人口と指数」より作成



それにしてもこの数値は本当に日本の未来の現実を示すのか。否である。

まず2010年の下位に並ぶ県は、沖縄県を除けば、いずれも高齢化率が非常に高い人口減少先進県である。それは、先に表1で示したように、大都市に子どもたちを送り続けた県であることを示す。都市部の税が地方交付税として給付される県でもある。人口構成上は2人が1人を支える数値だが、実際は都市に出た子どもたちが故郷の老親を扶養することを想定した税と財政の仕組みとそれを正当化する政治と文化が支える。大都市圏と小規模県の桁違いの人口差が可能にする制度でもある。

だが、2040年の将来人口推計は大都市圏が3人で2人を支えなければならない人口構成に変わること示す。しかも人口規模は桁違いに大きい。大都市圏は小規模県に税収を移行する余裕がなくなる。その前に、老年人口と生産年齢人口の差の縮小を補うため、全国から労働力となる男女の移動を促進する施策を求めよう。その結果、故郷の町や村のレベルではなく、都道府県の合併・消滅による日本国全体の再編成が課題にならないか。

どうすればよいのか。原点にもどり、人口の将来推計とその描く社会像の意味を問い直す、すなわち再定義の作業から始めなければならない。

3 問題解決のための再定義と市民協働の課題

図1と図2の2010年までの人口は国勢調査結果を、また推計人口は『日本の地域別将来推計人口』（国立社会保障・人口問題研究所 2013年3月推計）を用いた。この人口推計作業の当事者である、国立社会保障・人口問題研究所の金子隆一人口動向研究部長は次のように述べる。

「こうした未来図を与える将来推計人口は、その科学的な位置づけからは、確定した将来を予測したのではなく、社会が現在動いている方向にそのまま進行した場合に実現するであろう人口の姿を描いたものであり、実のところ現在の人口、社会の問題点を将来というスクリーンに拡大して示したものである。したがって、それは現在を生きる世代の行動の指針ではあっても、真に将来を決めるのは、そのわれわれの今後の行動にほかならない。」（金子隆一「わが国の人口のゆくえー人口減少と高齢化の将来展望」樋口美雄他編『人口減少と日本経済』所収 日本経済新聞出版社 2009年 93頁）

実はこのような金子の指摘を重視し、「将来というスクリーンに拡大」された「現在の人口、社会の問題点」を明らかにするための作業が、先の「1人口減少の偏頗性」と「2格差の構造化」で述べた内容である。さらに、より根本的な観点から、言い換えれば原点に立ち返って問題点を開示するために、人口3区分の基準（定義）自体を問い直す作業（再定義）を試みた。推計人口の描く世界の課題が人口を三つに区分することに起因するのであれば、区分の基準（定義）を変えればデータの意味は動くと考えたからである。

この作業は、いうまでもなく、数値上の操作を意味するのではない。この国の民として生活を営む人たちに、生涯にわたる人生のあり方を問い直すことを求めることになる。強制ではなく学びと行動の課程と過程を経ることによって。すなわち、人口減少社会の課題は、すべて、課題の認知、選択肢の学習と判断、改編作業への参画という市民協働のフィルターを通すことによるのみ解決できることを確認する作業となろう。

具体的に4種の観点から再定義の方向を提示すことを通じて、人口減少社会が要請する市民協働のため課題を指摘しよう。

第1の観点は、老年人口の境を65歳より上に設定し、老年人口の年齢幅を縮小し、生産年齢人口の年齢幅を拡大させるための再定義である。

生活水準の上昇と医療の高度化による長寿化の進行が老年人口増の背景にある以上、平均余命の上昇にあわせて老年とする年齢の開始を引き上げることが社会的に合理性を有するとする立場である。既に欧米各国で政策課題になっている定年と年金支給開始の年齢の見直しが代表例であろう。介護を必要とする人たちの激増をはじめ、人口減少社会が求める課題自体が変わるわけではないが、課題解決のための公的施策と財源の選択肢は拡大する。

ただし、この作業は現行の老年人口に属する人たちにとって受け入れがたい制度変更となろう。負担の分散が期待される若い世代には歓迎すべき選択肢とみなせよう。他方で、定年の延長が後輩の就職と昇進の機会の縮小を伴うとすれば、反対の側に回る若年層も少なくないであろう。意欲と能力があっても、定年という強制によって職場を追われることに違和感を持つ中高年の男女にとっては、歓迎すべき再定義ともみなせよう。

この再定義により、世代間だけでなく世代内においても、新たな対立の創出を避けえない。だが、現在の延長に未来が存在し得ないことを推計人口が描くとすれば、利益を得る側と失う側の双方に理解を求める仕組みが、再定義による社会制度の改編プログラムの必須項目に位置づけられねばならない。市民協働という迂回なくして新たなまちづくりは困難であることを明示する課題である

第2の観点は、女性の労働力化の拡大により、生産年齢人口を実質的に拡大させるための再定義である。

家庭の内と外双方における性別役割分業を廃し、意欲、個性、能力に基づき男女が共に働くことで、支える側の拡大を図る。経済の高度成長が一定の成果を得た後の日本社会が繰り返し実現を求めてきた課題である。そのスタートが80年代に施行された男女雇用機会均等法であろう。90年代には男女共同参画社会基本法が制定され、00年代に入ってから、少子化対策と重なる施策が施行されてきた。だが今なお十分ではない。前提条件となる、女性（母、嫁、妻、娘）が担ってきた家事、育児、介護の社会化と産業化を阻む法制度と慣習の双方の問題を解決できないままに、個別対策のみが積み重ねられてきたとみなさざるをえない。

今後必要とされる女性の労働力化の拡大は、子育てと介護の社会化・産業化の実現度によって左右されよう。介護の社会化は介護保険により制度化されたが、子育ての社会化は、その必要性のコンセ

ンサスすら得られていない。その結果、実現したかに思えた介護の社会化も、産業化の段階での専門職としての介護士の不足に加えて、激増する高齢者の日常のサポートシステムの再構築も進んでいない。血縁や地縁を超える税と保険を介した（社会化）、介護職やNPOによる支援の仕組み（産業化）の基盤は、出産・育児における同等の支援システム構築（社会化・産業化）にあることを再確認する必要がある。それは税と保険を納め介護を職とする後継者育成の質的量的な源泉になるからである。その実現には、国民全体の思考、感受性、価値意識の変容が求められる。これは市民協働の具体化の社会的条件となる教育システム全体が担うべき課題である。

第3の観点は、国の境（国民の定義）の変更による世代間と世代内の不均衡修正のための再定義である。

拡大から縮小への転換は、社会集団間の利害の対立を伴う。拡大する社会の公正さの課題は“利益の再配分”だが、縮小する社会の公正さの課題は“負担の分担”になり、世代間、地域間、社会階層間の対立を伴わざるをえない。ただし、日本の価値が高ければ高いほど国境を越える人と文化の移動を避け得ない。自国の問題を自国内で処理可能な時代は終わった。自国の民が利害を共有する時代も終わった。かつて高度成長とともに拡大する日本社会では、国際社会における日本と日本人のありかたが学習課題になった。だが、縮小する社会では国民国家の枠組み自体がゆらぐ。

その結果、安価な労働力としての外国人労働者への依存を超えて、全ての職階での多国籍化と移民の受容も視野においた法制度の整備が喫緊の課題となる。さらにより深く重い課題として、文化・言語・慣習の壁（新たな格差・差別）の顕在化のリスクへの対処が必要になる。これもまた第2の観点と同様に、教育システム全体で対応すべき課題である。

しかし、実は最も困難な課題は教育システム自体に内在する。これが、再定義のための第4の観点である。

上記3種の観点は、いずれも社会制度全体の再編成を要請する。それは教育システムが現行社会制度の下位システムである限り、新たな制度への改編を妨げる学習機会として機能する可能性をも意味する。市民協働への道を拓く生涯学習の領域も例外ではない。生涯にわたる学習と教育を目的に設置されてきた施設、担い手、カリキュラムもまた再定義の対象になる。その一例として、誤解を恐れずに上述した“利益の再配分”から“負担の分担”への転換を、地域を基盤にした生涯学習の観点から再定義すれば次のようになろう。

まず“利益の再配分”とは、地域住民の学習ニーズに応える学習機会の拡充である。他方、“負担の分担”は、地域住民のニーズに反することも覚悟して、問題の解決のために必要となる選択肢をその理由とともに学習する機会を準備することである。それは学習者に対する前に、学習機会を準備する側にいる人たちへの学習機会を積極的に準備することから始めなければならない。

この原則は、市民協働によるまちづくりにも必要不可欠の条件である。とりわけ行政の側の責任は重い。さらに、市民の代表として行政と対峙するとされてきた地方議員個々とその集合体としての議会が果たすべき役割と責任は、自らの再定義の実践も含めて、より重く大きい。

このような自治体行政・議員・議会の役割と責任の再定義をはじめとして、上記の観点からの岡山市の現状と課題については、2013年度の政策立案作業の過程で追求していきたい。

IV 補充報告

岡山市民の多様性とその分類軸に関する多変量解析

監修者による「Ⅲ考察」の末尾に記したように、2012年度末にまとめた『「岡山のまちづくり」に関する調査報告書』では、調査結果を総合する岡山市民の類型化を記述する章を設けることができなかった。そのため、2013年度における政策策定作業と平行して、複数の統計手法による新たな分析を試みた。その結果、調査対象者のサンプリングの際に設定し、調査結果の分析の基本属性としても活用した「アラ 30」「アラ 40」「少産」「団塊」「高齢」という5種の世代単位で、問 28 の調査結果を使用した因子分析を行ったところ、岡山市民の価値意識や行動様式を区分する二種の因子を見出すことができた。またその因子を用いたクラスター分析により、調査結果を総合する岡山市民の類型の構成も可能になった。さらに析出された各類型と基本属性や個別質問結果とのクロス集計により、政策提言作業のためのデータを得ることも可能になった。

そのため、公明党岡山市議団の皆さんと監修者ならびに本調査の実施を委託されたサーベイリサーチセンターとの共同作業により、『「岡山のまちづくり」に関する調査報告書』の補充報告として、上記の統計分析過程を政策提言作業過程と重ねつつまとめておくべきとの結論にいたった。その意味で、この「IV」は2012年度の報告書を補充するだけでなく、「岡山市民未来創生プラン」によって提示した市民協働のスタートの位置を占めるものと評価したい。

2014年5月 馬居政幸

IV 補充報告：岡山市民の多様性とその分類軸に関する多変量解析

1 はじめに

1.1 目的

本調査の主眼の一つは市民が何を望んでいるかを明らかにすることです。しかし、市民は一つでは無く、多様であることがこれまでの分析でわかってきました。これは、岡山市民を一区切りに分析することには限界があるということを示しています。そこで本章では、岡山市民を分類し、岡山市民の多様性を明らかにすることを目的として分析を行いました。

1.2 なぜ世代内分析なのか

本分析をする前段階として、全年代を対象とした等質性分析を行いました。しかし、その結果から、岡山市民が多様であり、世代ごとに違いがあるということは明確になりましたが、世代内の違いというものを明らかにすることには結びつきませんでした。そこで、世代間の違いがあることを前提として、世代内の違いを明らかにする必要があるという判断のもと、世代内分析を行います。

1.3 世代内分析の課題

世代内の違いに着目すると、「何を基準としてどのように世代内を区切るのか」という疑問が生じます。まず、「何を基準とするか」という問に関しては、世代間の違いは年齢によって明確に分類することができますが、世代内を区切る指標のようなものは見当たりません。外的基準が無いものの分類を世論調査で行う際は、調査に用いた質問を基に何らかの指標を作成する必要があります。次に、「どのように世代内を区切るのか」に関してですが、世代間のように年齢という一つの基準があればその基準をもとに分類を行えばよいでしょう。しかし、世代内を分ける基準が複数個存在すれば、複数の基準をもとに分類を行う必要が生じることとなります。

1.4 分析の方法

本分析では「何を基準とするか」、「どのように世代内を区切るか」という二つの問に対して、因子分析で世代内を分ける基準を析出し、その析出された指標をクラスター分析を用いて分類しました。基準とする指標を作成するにあたっては、問28の「そう思う」、「そう思わない」の二者択一方式で個々の意識についての質問を用いました。この質問は個々の意識について問うたものであるため、岡山市民がどのような意識を持っているのかという観点からの分析に適合的であると判断し、用いています。具体的には、因子分析により問28の意識に関する設問を統合し、析出された結果をクラスター分析を用いて分類することで、岡山市民の多様性と分類する軸を明らかにしました。そして、明らかになった分類と他の設問とのクロス集計を行うことで、その類型の性質を分析しています。なお、本分析では統計解析ソフトであるR (Version. 3.0.1)、集計ソフトであるAssum (Version. 5.5) を用いています。

2 岡山市民を分類する軸の析出

問28の個々の意識に関する質問は多岐にわたるため、質問項目を合成する必要が生じると判断し、意識に関する質問に対して因子分析を行うこととしました。因子分析には、「自分のことは自分で何とかしたい」「家族の介護は家族でしたい」「困ったときには親類縁者の力を借りたい」「困ったときには隣近所の力を借りたい」「近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい」「ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい」「声をあげ、行動すれば世の中は変えられる」「介護が必要になったら介護施設に入りたい」「辛いことは避け、楽な生き方をしたい」「年金や保険に自分は助けてもらえる」「高齢者への社会保障費の割合を減らして、若い人達の就労支援や子育て支援に使った方がいい」「これからの日本に明るい未来はない」「しきたりや慣習は大事だ」「岡山市民であることを誇りに思う」「岡山市民は閉鎖的だ」「岡山市に住み続けたいと思う」という質問を使用しました。因子の解釈にあたっては最尤法、プロマックス回転を用い、因子負荷量は0.35以上を採用しています。また、因子の採用基準としてはここでは基本的に因子負荷量の二乗和の値1以上、もしくは1に近いものを採用しています。その結果を以下、世代ごとに記述していきます。

2.1 アラ30世代

表2.1はアラ30世代の因子分析の結果です。因子負荷量が小さいものはblank、また因子負荷量が0.3以上に網掛け表示をしています。Factor 1では「岡山市民であることを誇りに思う」、「岡山市に住み続けたいと思う」が高い値を示しています。これは岡山市に対する好意に関する質問であるので、「岡山好意因子」と呼ぶことにします。Factor 2では「家族の介護は家族でしたい」、「介護が必要になったら介護施設に入りたい」が高い値を示しています。これは家族の介護に関する質問であるので、「家族介護因子」と呼ぶことにします。最後にFactor 3ですが、「近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい」、「ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい」、「声をあげ、行動すれば世の中は変えられる」、「声をあげ、行動すれば世の中は変えられる」が高い値を示しています。これは誰かを助けたいという質問であるので、「共助因子」と呼ぶことにします。

表2.1：因子分析結果（アラ30世代）

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4
自分のことは自分で何とかしたい		0.177		-0.224
家族の介護は家族でしたい		0.992		
困ったときには親類縁者の力を借りたい				0.845
困ったときには隣近所の力を借りたい			0.285	0.287
近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい			0.487	
ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい			0.614	
声をあげ、行動すれば世の中は変えられる			0.398	
介護が必要になったら介護施設に入りたい		-2.150		
辛いことは避け、楽な生き方をしたい			-0.215	
年金や保険に自分は助けてもらえる		-0.144		
高齢者への社会保障費の割合を減らして、若い人たちの就労支援や子育て支援に使った方がいい				
これからの日本に明るい未来はない			-0.171	
しきたりや慣習は大事だ			0.292	
岡山市民であることを誇りに思う	0.358		0.190	
岡山市民は閉鎖的だ	-0.113			
岡山市に住み続けたいと思う	1.005			
因子負荷量の二乗和	1.184	1.116	1.068	0.884

2.2 アラ40世代

表 2.2 はアラ 40 世代の因子分析の結果です。Factor 1 では「困ったときには隣近所の力を借りたい」、「近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい」、「ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい」が高い値を示しています。これは誰かを助けたいという質問であるので、「共助因子」と呼ぶことにします。Factor 2 では「困ったときには親類縁者の力を借りたい」が高い値を示しています。これは家族に対する依存に関する質問であるので、「家族依存因子」と呼ぶことにします。最後に Factor 3 ですが、「岡山市民であることを誇りに思う」、「岡山市に住み続けたいと思う」が高い値を示しています。これは岡山市に対する好意に関する質問であるので、「岡山好意因子」と呼ぶことにします。

表 2.2 : 因子分析結果 (アラ 40 世代)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4
自分のことは自分で何とかしたい			0.135	
家族の介護は家族でしたい	0.113		0.187	0.129
困ったときには親類縁者の力を借りたい		1.013		
困ったときには隣近所の力を借りたい	0.376	0.247	-0.109	
近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい	0.651			
ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい	0.661			
声をあげ、行動すれば世の中は変えられる	0.319			-0.199
介護が必要になったら介護施設に入りたい				
辛いことは避け、楽な生き方をしたい				0.175
年金や保険に自分は助けてもらえる				-0.246
高齢者への社会保障費の割合を減らして、若い人たちの就労支援や子育て支援に使った方がいい			0.009	
これからの日本に明るい未来はない			-0.133	0.548
しきたりや慣習は大事だ	0.260		0.107	0.123
岡山市民であることを誇りに思う			0.679	-0.167
岡山市民は閉鎖的だ			-0.190	0.211
岡山市に住み続けたいと思う			0.575	
因子負荷量の二乗和	1.215	1.134	0.948	0.561

2.3 少産世代

表 2.3 は少産世代の因子分析の結果です。Factor 1 では「近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい」、「ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい」、「声をあげ、行動すれば世の中は変えられる」が高い値を示しています。これは誰かを助けたいという質問であるので、「共助因子」と呼ぶことにします。Factor 2 では「岡山市民であることを誇りに思う」、「岡山市に住み続けたいと思う」が高い値を示しています。これは岡山市に対する好意に関する質問であるので、「岡山好意因子」と呼ぶことにします。最後に Factor 3 ですが、「困ったときには親類縁者の力を借りたい」、「困ったときには隣近所の力を借りたい」が高い値を示しています。これは他者に対する依存に関する質問であるので、「他者依存因子」と呼ぶことにします。

表 2.3 : 因子分析結果 (少産世代)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4
自分のことは自分で何とかしたい				0.241
家族の介護は家族でしたい				0.742
困ったときには親類縁者の力を借りたい			0.499	
困ったときには隣近所の力を借りたい			0.781	
近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい	0.500		0.176	
ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい	0.706			
声をあげ、行動すれば世の中は変えられる	0.514			-0.117
介護が必要になったら介護施設に入りたい				-0.240
辛いことは避け、楽な生き方をしたい	-0.156			-0.167
年金や保険に自分は助けてもらえる		0.196		
高齢者への社会保障費の割合を減らして、若い人たちの就労支援や子育て支援に使った方がいい				
これからの日本に明るい未来はない	-0.179	-0.263		
しきたりや慣習は大事だ		0.102		0.156
岡山市民であることを誇りに思う		0.644		
岡山市民は閉鎖的だ		-0.317		
岡山市に住み続けたいと思う	-0.132	0.672		
因子負荷量の二乗和	1.120	1.107	0.907	0.752

2.4 団塊世代

表 2.4 は団塊世代の因子分析の結果です。Factor 1 では「岡山市民であることを誇りに思う」、「岡山市民は閉鎖的だ」、「岡山市に住み続けたいと思う」が高い値を示しています。これは岡山市に対する好意に関する質問であるので、「岡山好意因子」と呼ぶことにします。Factor 2 では、「近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい」、「ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい」が高い値を示しています。これは誰かを助けたいという質問であるので、「共助因子」と呼ぶことにします。

表 2.4 : 因子分析結果 (団塊世代)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4
自分のことは自分で何とかしたい				0.254
家族の介護は家族でしたい				0.685
困ったときには親類縁者の力を借りたい			0.639	
困ったときには隣近所の力を借りたい		0.178	0.472	
近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい		0.580		
ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい		0.611		
声をあげ、行動すれば世の中は変えられる		0.323		
介護が必要になったら介護施設に入りたい				-0.249
辛いことは避け、楽な生き方をしたい		-0.175	0.136	
年金や保険に自分は助けてもらえる	0.146		0.162	
高齢者への社会保障費の割合を減らして、若い人たちの就労支援や子育て支援に使った方がいい				
これからの日本に明るい未来はない	-0.192	-0.165		
しきたりや慣習は大事だ	0.237			0.160
岡山市民であることを誇りに思う	0.690			
岡山市民は閉鎖的だ	-0.476			
岡山市に住み続けたいと思う	0.481	-0.111		
因子負荷量の二乗和	1.073	0.924	0.703	0.653

2.5 高齢世代

表 2.5 は高齢世代の因子分析の結果です。Factor 1 では「しきたりや習慣は大事だ」、「岡山市民であることを誇りに思う」、「岡山市に住み続けたいと思う」が高い値を示しています。これは岡山市に対する好意に関する質問であるので、「岡山好意因子」と呼ぶことにします。Factor 2 では「家族の介護は家族でしたい」が高い値を示しています。これは家族の介護に関する質問であるので、「家族介護因子」と呼ぶことにします。最後に Factor 3 ですが、「近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい」、「ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい」、「声をあげ、行動すれば世の中は変えられる」が高い値を示しています。これは誰かを助けたいという質問であるので、「共助因子」と呼ぶことにします。高齢世代では Factor 4 においても因子負荷量の二乗和の値が 1 に近いですが、4 軸となると分類が煩雑となるため、ここでは便宜上 3 因子までの解釈にとどめています。

表 2.5 : 因子分析結果 (高齢世代)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4
自分のことは自分で何とかしたい	0.182			
家族の介護は家族でしたい		0.995		
困ったときには親類縁者の力を借りたい				0.891
困ったときには隣近所の力を借りたい			0.210	0.354
近所に一人暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい			0.560	
ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい			0.622	
声をあげ、行動すれば世の中は変えられる			0.380	-0.137
介護が必要になったら介護施設に入りたい		-0.187		
辛いことは避け、楽な生き方をしたい			-0.199	
年金や保険に自分は助けてもらえる	0.178		0.168	
高齢者への社会保障費の割合を減らして、若い人たちの就労支援や子育て支援に使った方がいい			0.140	
これからの日本に明るい未来はない	-0.251		-0.109	
しきたりや慣習は大事だ	0.376	0.112		
岡山市民であることを誇りに思う	0.668			
岡山市民は閉鎖的だ	-0.288			
岡山市に住み続けたいと思う	0.637			
因子負荷量の二乗和	1.198	1.092	1.000	0.958

2.6 小括

以上より、因子分析によって得られた分類軸を整理すると、年代ごとに差はあれども、岡山市に対する好意に関する因子と誰かを助けたいという共助に関する因子がどの年代でも析出されました。岡山好意と共助に関する因子に加えて、アラ 30 世代と高齢世代では家族で介護をしたいかに関する因子、アラ 40 世代では家族に依存しているかに関する因子、少産世代では他者に依存するかに関する因子が析出されました。中でも家族介護に関する因子と共助に関する因子は世代によって異なる意味を有していることが推察されます。アラ 30 世代と高齢世代にみられる家族介護に関する因子では、アラ 30 世代では、自分の親を介護したいかどうかを意味し、高齢世代では自分の家族に介護をしてほしいかどうかを意味していると考えられます。また、どの世代にもみられる共助因子に関しては、若い年代では誰かを助けたいという意味を有していますが、年代が上がるにつれて、誰かに助けてもらいたいかという意味を帯びようになっていると考えられます。

3 岡山市民の分類

前節で析出された軸をもとに、本節では分類を行います。析出された軸が一つであればその大小を用いて分類を行えばよいですが、前節で析出された軸は2から3と一つではないため、本稿ではクラスター分析を用いて分類を行うことが適格的と考えられます。本節では第2節で析出された軸をもとにクラスター分析を行っていきませんが、因子得点をプロットしたものをを用いることで視覚的な分布も確認していきます。以下、世代ごとに行ったクラスター分析の結果を順に述べることにします。表側の数値はクラスター番号、Factor は因子分析で析出された因子を示しています。なお表中の値は中心座標の位置を、Nの値はそのクラスターに含まれるサンプル数を示しています。

3.1 アラ30世代

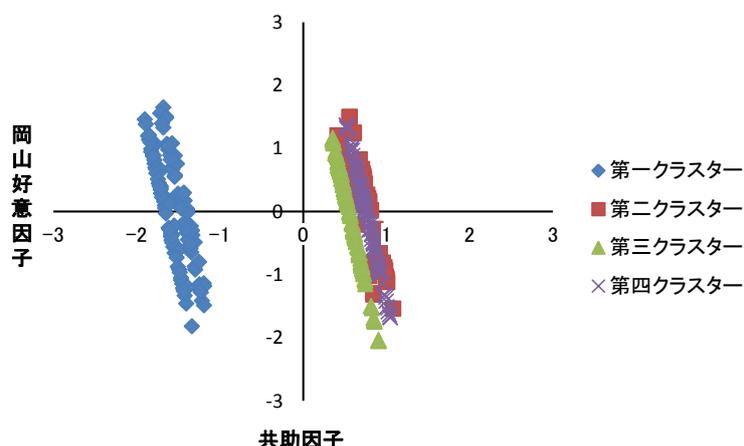
表 3.1 はアラ 30 世代を対象に行ったクラスター分析の結果です。ここからアラ 30 世代は4つのクラスターに分けることができることがわかります。前節の結果から、Factor 1 は岡山好意因子、Factor 2 は家族介護因子、Factor 3 は共助因子を示しています。

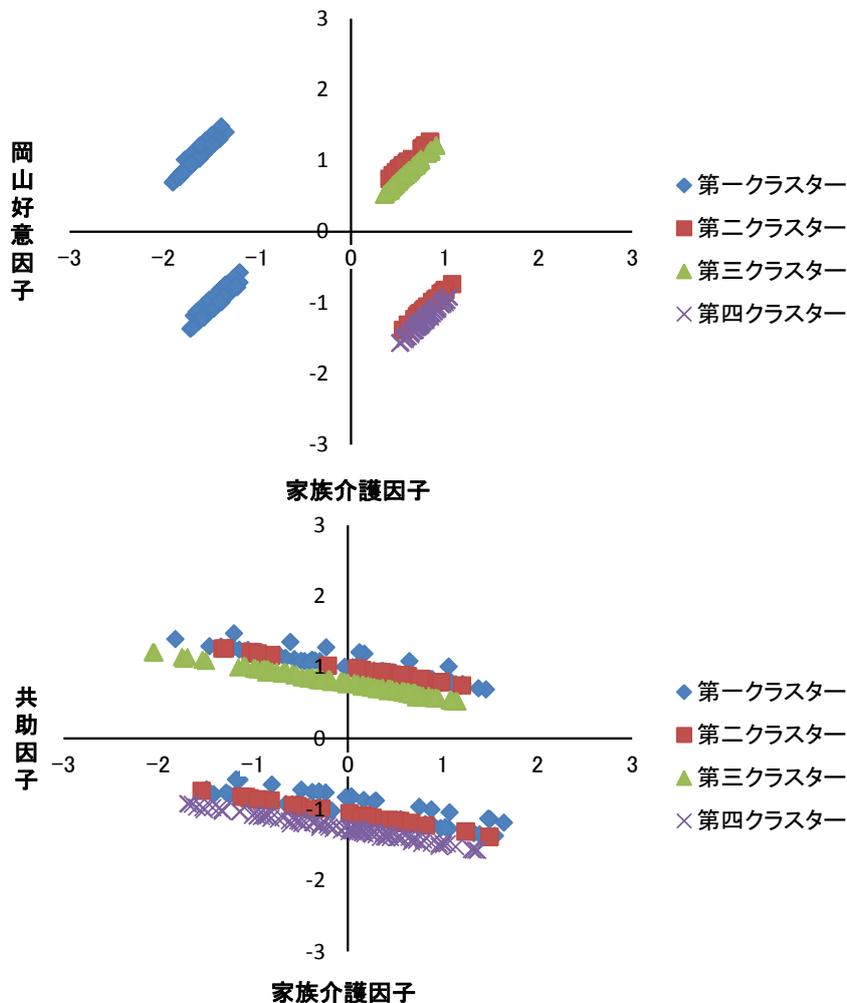
図の 3.1 は座標上に因子得点をプロットしたものです。岡山好意因子に着目すると、第一クラスターは負、それ以外のクラスターは正に分布しています。家族介護因子に着目すると、第三クラスターは正、第四クラスターは負に分布しています。第一クラスターと第二クラスターは正負の両方に分布していますが、中心座標の正負をみると、第一クラスターは正の方向に、第二クラスターは負の方向に分布しています。共助因子は正負の両方に分布していますが、中心座標の正負を踏まえると第四クラスター以外は正の方向に分布していることがわかります。

表 3.1 : クラスター分析結果 (アラ 30 世代)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	N
1	-1.541	0.067	0.020	-0.012	127
2	0.708	-0.027	0.058	-1.675	59
3	0.557	0.769	0.011	0.347	146
4	0.772	-1.269	-0.081	0.529	94

図 3.1 : 因子得点プロット図 (アラ 30 世代)





3.2 アラ40世代

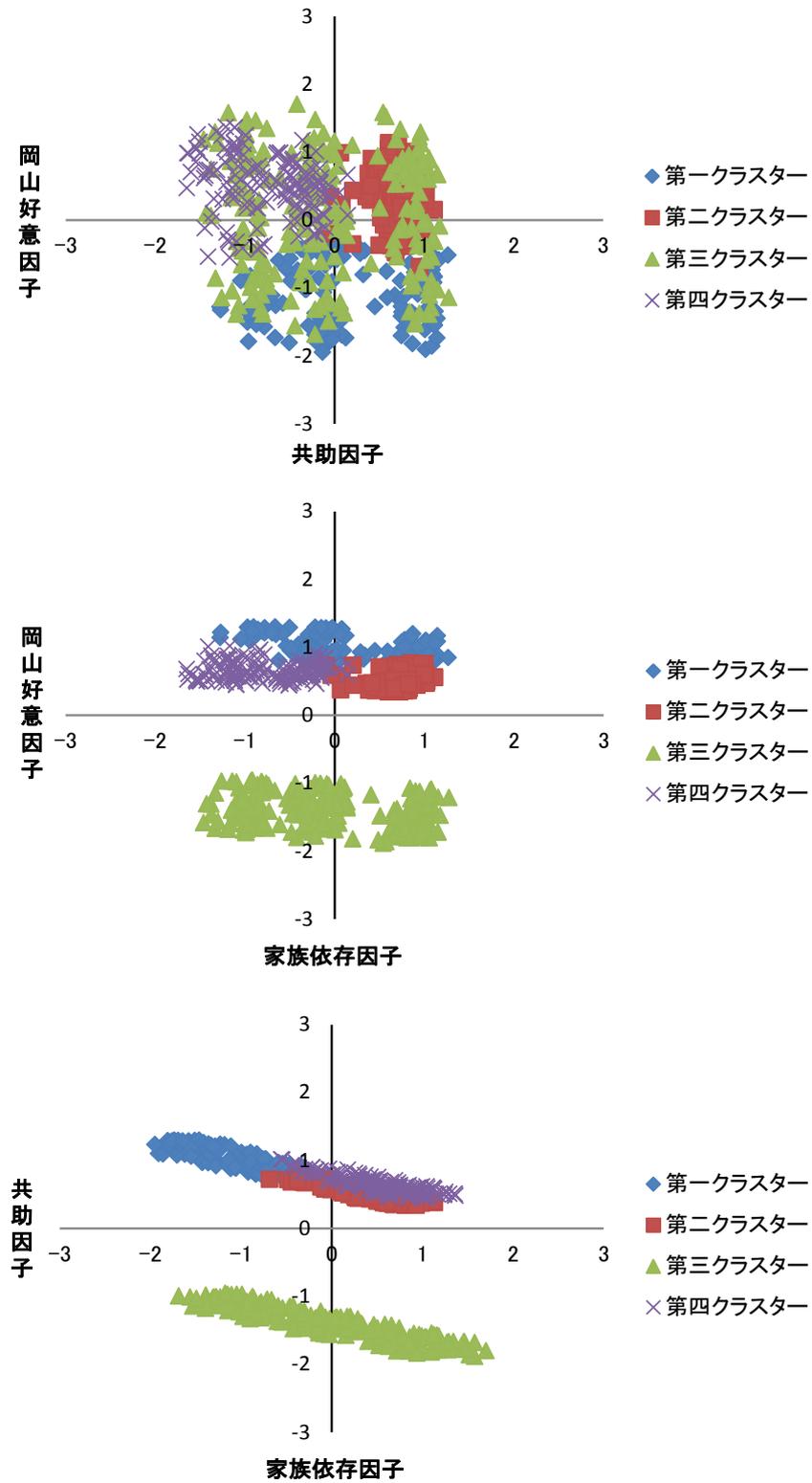
表 3.2 はアラ 40 世代を対象に行ったクラスター分析の結果です。ここからアラ 40 世代は 4 つのクラスターに分けることができることがわかります。前節の結果から、Factor 1 は共助因子、Factor 2 は家族依存因子、Factor 3 は岡山好意因子を示しています。

図の 3.2 は座標上に因子得点をプロットしたものです。岡山好意因子に着目すると、第二クラスターは正、第四クラスターは負に分布しています。第一クラスターと第三クラスターは正負の両方に分布していますが、中心座標の正負をみると、第一クラスターは正の方向に、第三クラスターは負の方向に分布しています。共助因子に着目すると、第一クラスターは負、第二クラスターと第四クラスターは正の方向に分布していることがわかります。第三クラスターは正負の方向に分布していますが、中心座標の正負をみると、正の方向に分布しています。家族依存因子に着目すると、第三クラスターは負、それ以外は正に分布していることがわかります。

表 3.2 : クラスター分析結果 (アラ 40 世代)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	N
1	-1.118	1.036	0.150	0.053	144
2	0.451	0.489	0.697	-0.233	146
3	0.069	-1.425	-0.038	-0.018	223
4	0.524	0.640	-0.756	0.200	152

図 3.2 : 因子得点プロット図 (アラ 40 世代)



3.3 少産世代

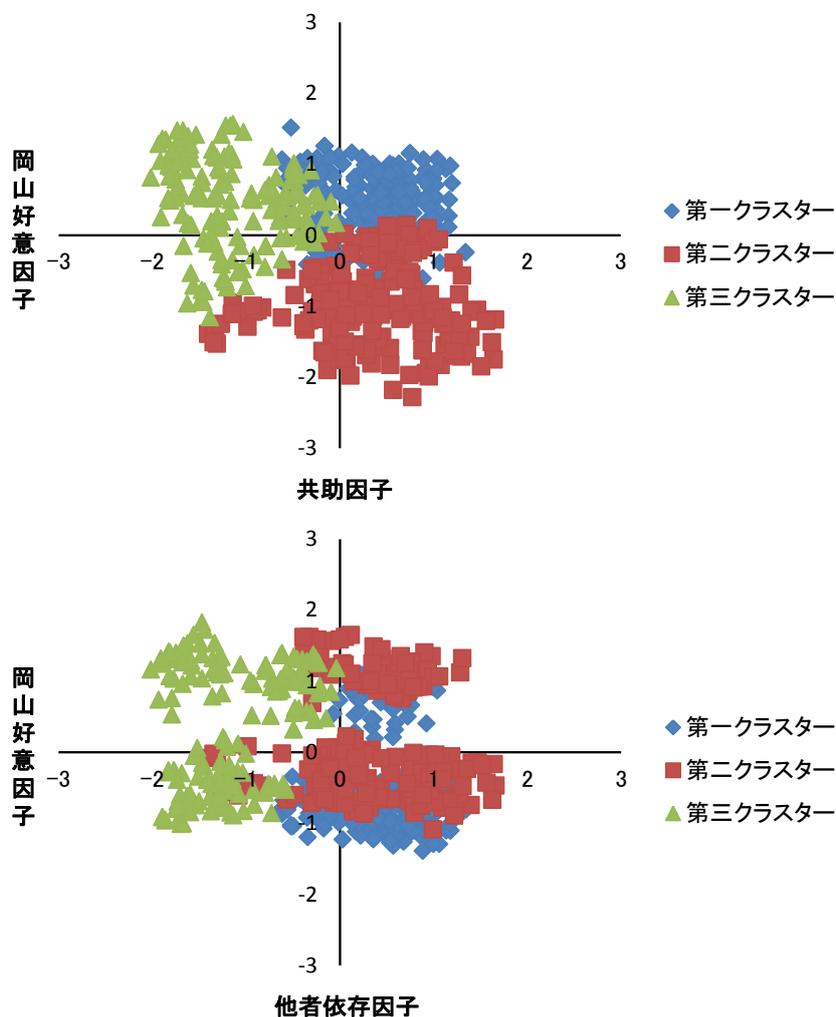
表 3.3 は少産世代を対象に行ったクラスター分析の結果です。ここから少産世代は3つのクラスターに分けることができることがわかります。前節の結果から、Factor 1 は共助因子、Factor 2 は岡山好意因子、Factor 3 は他者依存因子を示しています。

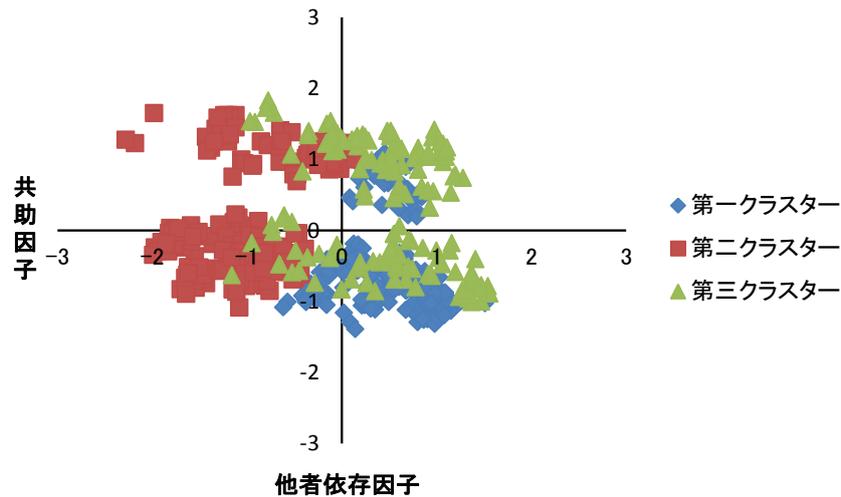
図の 3.3 は座標上に因子得点をプロットしたものです。岡山好意因子に着目すると、第三クラスターは負の方向に、第一クラスターと第二クラスターは正の方向に分布していることがわかります。共助因子に着目すると、第三クラスターは正負の両方に分布していますが、第二クラスターは負の方向、第一クラスターは正の方向に分布していることがわかります。第三クラスターに関して、中心座標を見ると、正の方向に分布していることがわかります。他者依存因子に着目すると、すべてのクラスターで正負の両方に分布していますが、中心座標の正負を踏まえると、第一クラスターは負、それ以外は正の方向に分布しています。

表 3.3 : クラスター分析結果 (少産世代)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	N
1	0.492	0.412	-0.351	-0.013	276
2	-0.953	0.317	0.187	-0.029	221
3	0.466	-1.141	0.344	0.062	161

図 3.3 : 因子得点プロット図 (少産世代)





3.4 団塊世代

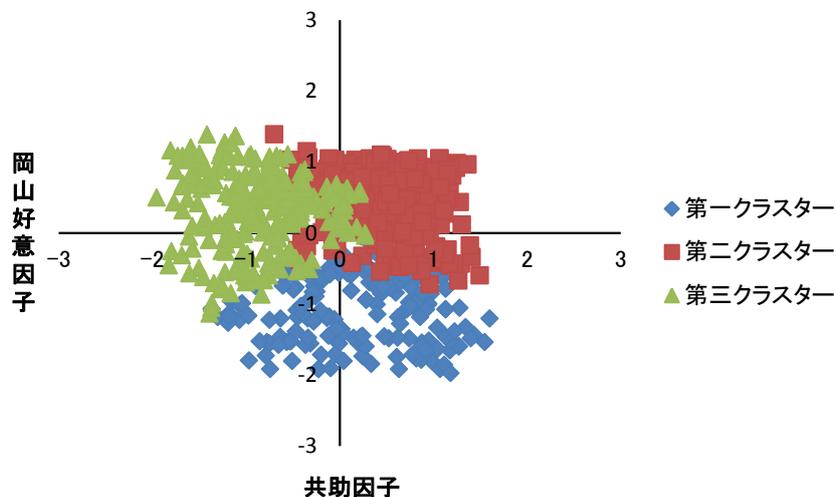
表 3.4 は団塊世代を対象に行ったクラスター分析の結果です。ここから団塊世代は3つのクラスターに分けることができることがわかります。前節の結果から、Factor 1は岡山好意因子、Factor 2は共助因子を示しています。

図の 3.4 は座標上に因子得点をプロットしたものです。岡山好意因子に着目すると、第三クラスターでは負の方向に、第二クラスターでは正の方向に分布していることがわかります。第一クラスターは正負の両方に分布していますが中心座標の正負をみると、正の方向に分布していることがわかります。共助因子に着目すると、第三クラスターと第二クラスターは正の方向に、第一クラスターは負の方向に分布しています。

表 3.4 : クラスター分析結果 (団塊世代)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	N
1	0.212	-1.086	0.126	-0.003	188
2	0.572	0.387	-0.248	-0.201	316
3	-0.865	0.321	0.215	0.252	255

図 3.4 : 因子得点プロット図 (団塊世代)



3.5 高齢世代

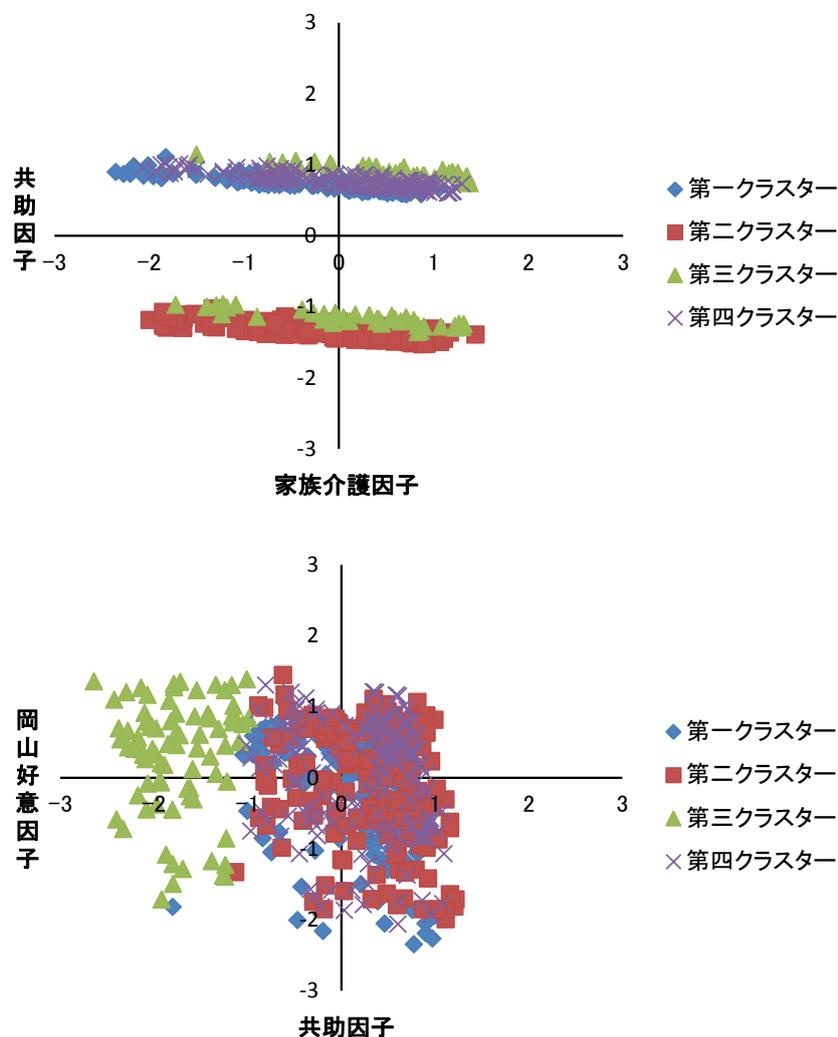
表 3.5 は高齢世代を対象に行ったクラスター分析の結果です。ここから高齢世代は4つのクラスターに分けることができることがわかります。前節の結果から Factor 1 は岡山好意因子、Factor 2 は家族介護因子、Factor 3 は共助因子を示しています。

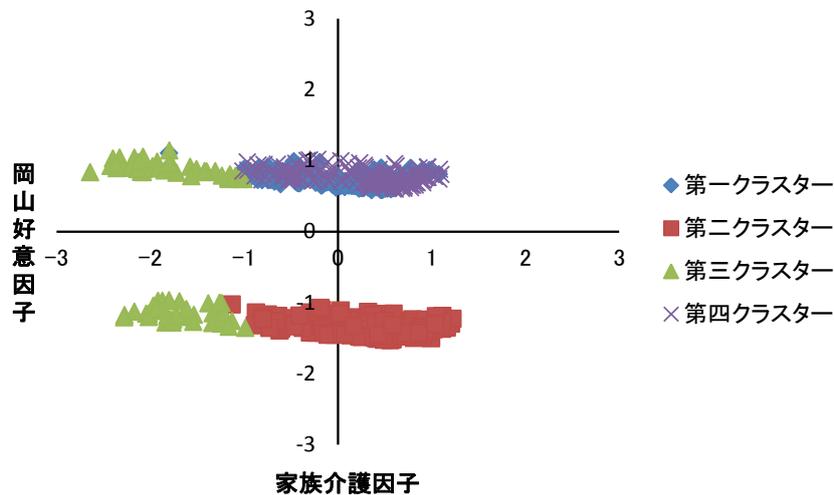
図の 3.5 は座標上に因子得点をプロットしたものです。岡山好意因子に着目すると、第三クラスターは負の方向に分布しています。その他のクラスターは正負の両方に分布していますが、中心座標の正負を踏まえると、すべて正の方向に分布しています。共助因子に着目すると、第三クラスターは正の方向に分布していることがわかります。その他のクラスターについて中心座標の正負を踏まえると、すべて負の方向に分布しています。家族介護因子に着目すると、第一クラスターと第四クラスターは正、第二クラスターは負に分布しています。第三クラスターは正負の両方に分布していますが、中心座標の正負を踏まえると、負の方向に分布しています。

表 3.5 : クラスター分析結果 (高齢世代)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	N
1	0.158	0.702	-0.054	0.890	192
2	0.340	-1.353	-0.051	-0.122	194
3	-1.734	-0.088	0.333	0.139	82
4	0.261	0.767	-0.040	-0.901	176

図 3.5 : 因子得点プロット図 (高齢世代)





3.6 小括

本節では第2節で行った因子分析の結果をもとにクラスター分析を行いました。ここまでは因子得点の正負について論じてきました。具体的な傾向も含めてこれまでの結果をまとめると以下ようになります。

アラ 30 世代

第1クラスター (127 サンプルで二番目に多い)

岡山に好意的でない、介護は家族依存、共助意識が高い

第2クラスター (59 サンプルで最も少ない)

岡山に好意的、介護は家族依存ではない、共助意識が高い

第3クラスター (146 サンプルで最も多い)

岡山に好意的、介護は家族依存、共助意識が高い

第4クラスター (94 サンプルで三番目に多い)

岡山に好意的、介護は家族依存ではない、共助意識が低い

アラ 40 世代

第1クラスター (144 サンプルで最も少ない)

共助意識が低い、家族依存、岡山に好意的

第2クラスター (146 サンプルで三番目に多い)

共助意識が高い、家族依存、岡山に好意的

第3クラスター (223 サンプルで最も多い)

共助意識が高い、家族依存ではない、岡山に好意的でない

第4クラスター (152 サンプルで二番目に多い)

共助意識が高い、家族依存、岡山に好意的でない

少産世代

第1クラスター (276 サンプルで最も多い)

共助意識が高い、岡山に好意的、他者依存が弱い

第2クラスター (221 サンプルで二番目に多い)

共助意識が低い、岡山に好意的、他者依存が強い

第3クラスター (161 サンプルで最も少ない)

共助意識が高い、岡山に好意的でない、他者依存が強い

団塊世代

第1クラスター (188 サンプルで最も少ない)

岡山に好意的、共助意識が低い

第2クラスター (316 サンプルで最も多い)

岡山に好意的、共助意識が高い

第3クラスター (255 サンプルで二番目に多い)

岡山に好意的でない、共助意識が高い

高齢世代

第1クラスター (192 サンプルで二番目に多い)

岡山に好意的、介護は家族依存、共助意識が低い

第2クラスター (194 サンプルで最も多い)

岡山に好意的、介護は家族依存ではない、共助意識が低い

第3クラスター (82 サンプルで最も少ない)

岡山に好意的でない、介護は家族依存ではない、共助意識が高い

第4クラスター (176 サンプルで三番目に多い)

岡山に好意的、介護は家族依存、共助意識が低い

4 岡山市民類型の特徴

前節では、世代ごとに因子分析とクラスター分析を行うことで岡山市民について意識という点から類型化を試みました。結果として、アラ 30 世代、アラ 40 世代、高齢世代では 4 つの類型、少産世代、団塊世代では 3 つの類型を析出することができました。本節では析出された類型ごとに、クロス集計を行うことで、世代ごとのクラスターの特性を分析していきます。

4.1 アラ30世代

図 4.1.1 は結婚しているかどうかを示しています。「している」は第一クラスターで 57.5%、第二クラスターで 42.4%、第三クラスターで 63.7%、第四クラスターで 54.3%となっています。第二クラスターが他のクラスターに比べて、結婚している割合が低くなっています。

図 4.1.1 : 結婚しているかどうか

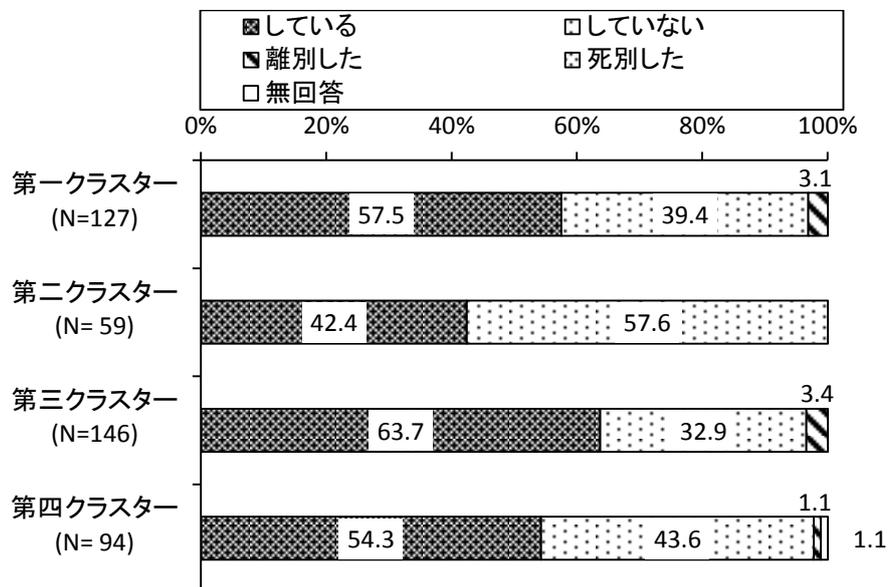


図 4.1.2 は小学校時代を主に過ごした場所を示しています。「岡山市内」は第一クラスターで 26.0%、第二クラスターで 74.6%、第三クラスターで 55.5%、第四クラスターで 56.4%となっています。第一クラスターは他のクラスターに比べて『岡山市外』の割合が高く、第二クラスターは他のクラスターに比べて「岡山市内」の割合が高くなっています。

図 4.1.2 : 小学校時代を主に過ごした場所

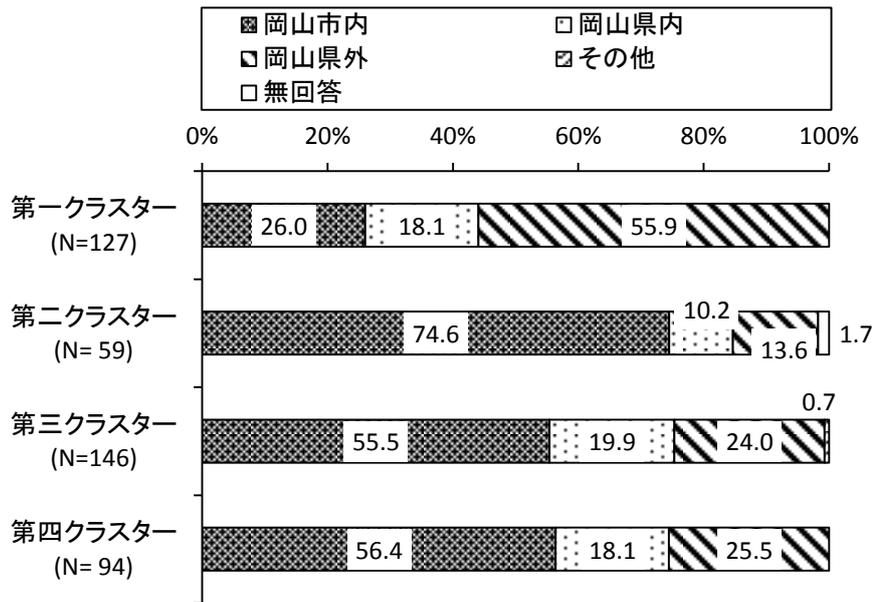


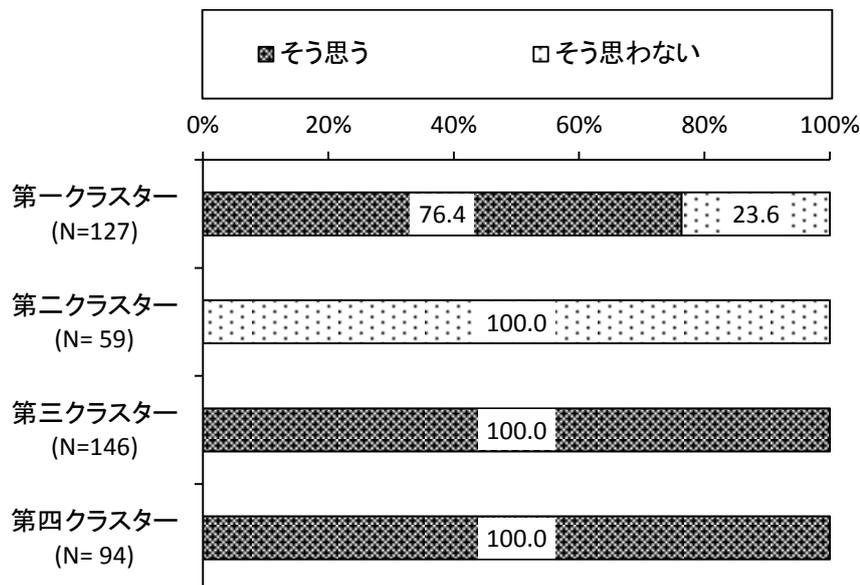
図 4.1.3 は困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうか、困ったときには隣近所の力を借りたいかどうかを示しています。困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうかに関しては、「そう思う」が第一クラスターで 76.4%、第三クラスターと第四クラスターで 100.0%、「そう思わない」が第二クラスターで 100.0%となっています。

困ったときには隣近所の力を借りたいかどうかに関しては、「そう思う」が第一クラスターで 40.9%、第二クラスターで 13.6%、第三クラスターで 46.6%、第四クラスターで 48.9%となっています。

第二クラスターは他のクラスターに比べて困ったときには親類縁者や隣近所の力を借りたいと思わない割合が高くなっています。

図 4.1.3

困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうか



困ったときには隣近所の力を借りたいかどうか

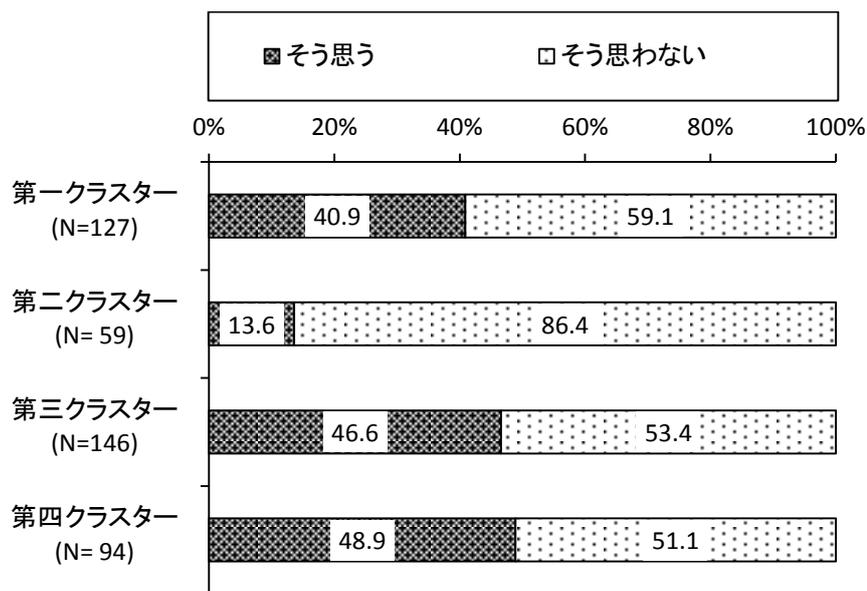


図 4.1.4 は声を上げ、行動すれば世の中は変えられるかどうかを示しています。「そう思う」は第一クラスターで 43.3%、第二クラスターで 32.2%、第三クラスターで 52.1%、第四クラスターで 43.6% となっています。第二クラスターは他のクラスターに比べて声を上げ、行動すれば世の中は変えられると思わない割合が高くなっています。

図 4.1.4 : 声を上げ、行動すれば世の中は変えられるかどうか

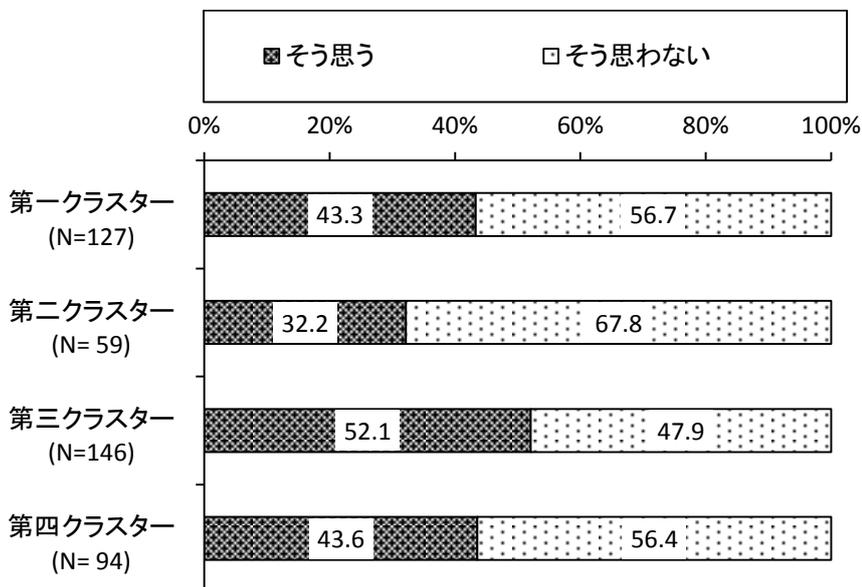
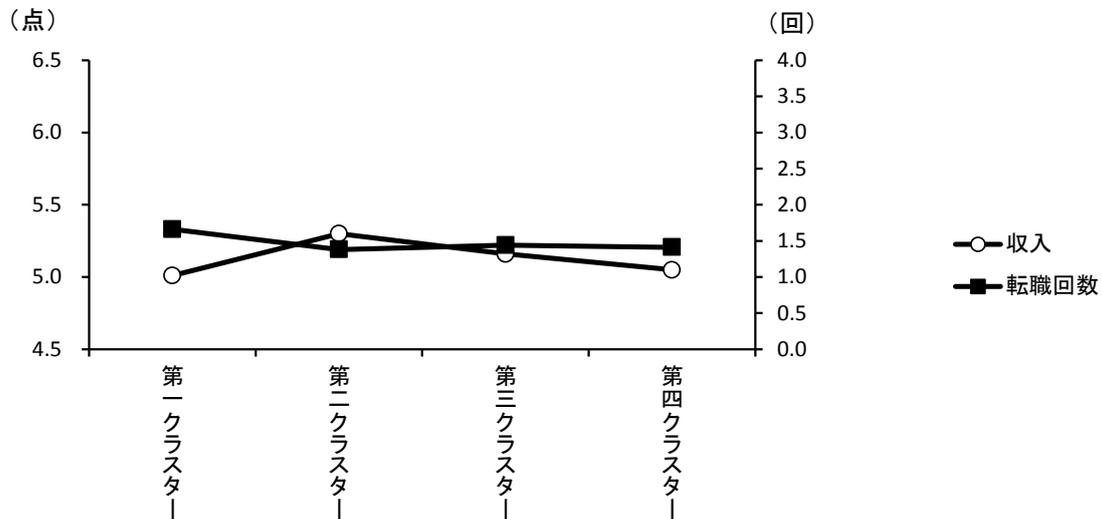


図 4.1.5 は収入・転職回数の平均を示しています。収入は第二クラスターが最も高く、第一クラスターが最も低くなっています。転職回数は収入の高低と反比例する傾向が読み取れます。

図 4.1.5 : 収入・転職回数の平均



4.2 アラ40世代

図 4.2.1 は結婚しているかどうかを示しています。「している」はどのクラスターでも7割を超えています。第三クラスターでは「していない」が22.0%と他に比べて高くなっています。

図 4.2.1 : 結婚しているかどうか

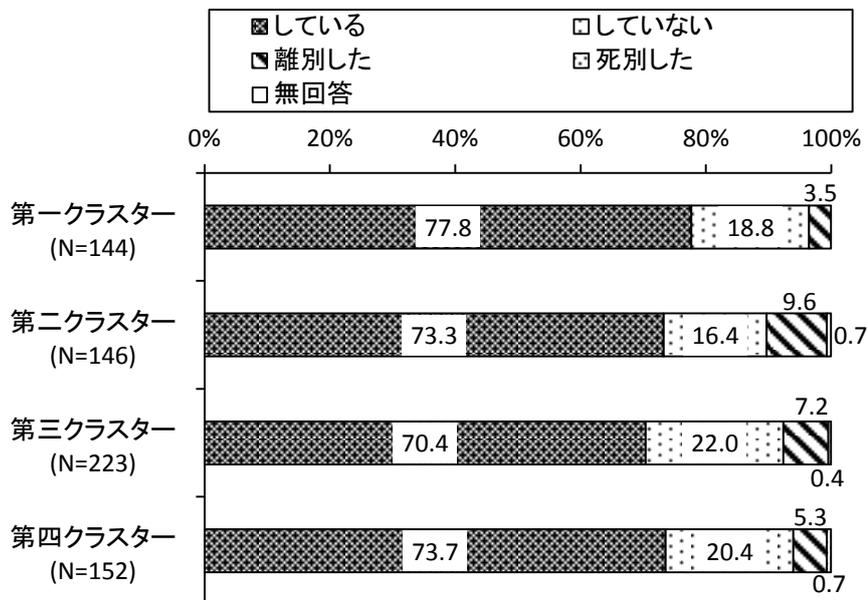


図 4.2.2 は小学校時代を主に過ごした場所を示しています。「岡山市内」は第一クラスターで56.3%、第二クラスターで61.0%、第三クラスターで53.8%、第四クラスターで39.5%となっています。第二クラスターは他のクラスターに比べて「岡山市内」の割合が高く、第四クラスターは他に比べて『岡山市外』の割合が高くなっています。

図 4.2.2 : 小学校時代を主に過ごした場所

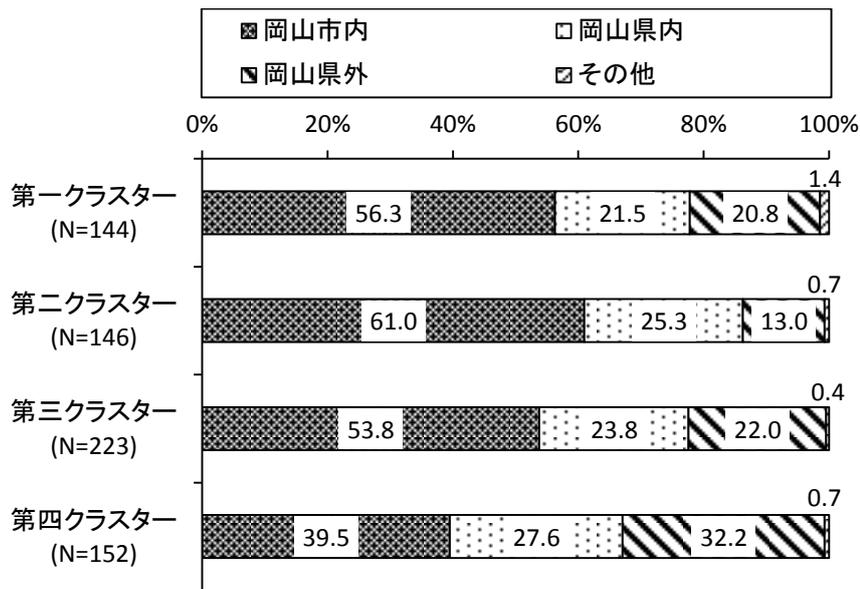
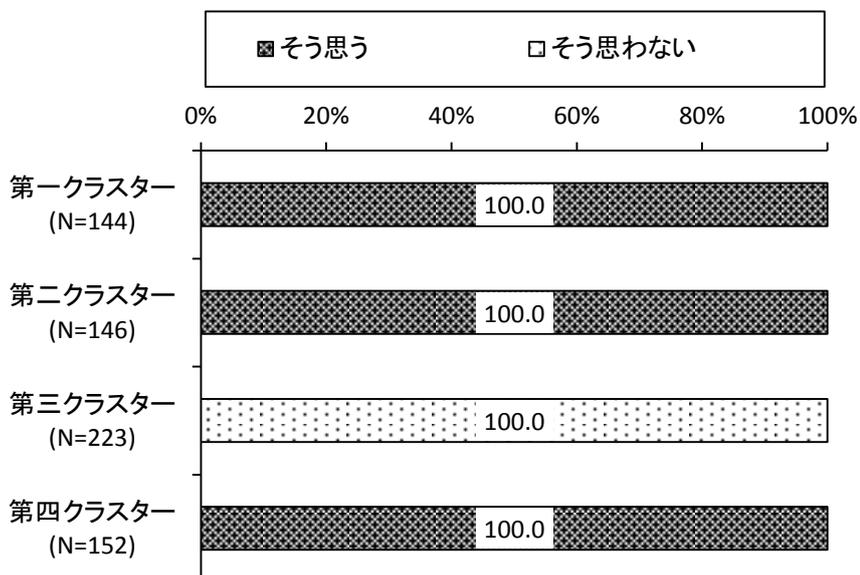


図 4.2.3 は困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうか、困ったときには隣近所の力を借りたいかどうかを示しています。困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうかに関しては、「そう思う」が第一クラスター、第二クラスター、第四クラスターで 100.0%、「そう思わない」が第三クラスターで 100.0%となっています。

困ったときには隣近所の力を借りたいかに関しては、「そう思う」が第一クラスターで 13.2%、第二クラスターで 65.8%、第三クラスターで 12.6%、第四クラスターで 65.8%となっています。

第一クラスターは他のクラスターに比べて困ったときには親類縁者の力は借りたいが、隣近所の力は借りたくない割合が高く、第三クラスターは困ったときには親類縁者の力も隣近所の力も借りたくない割合が高くなっています。

図 4.2.3
困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうか



困ったときには隣近所の力を借りたいかどうか

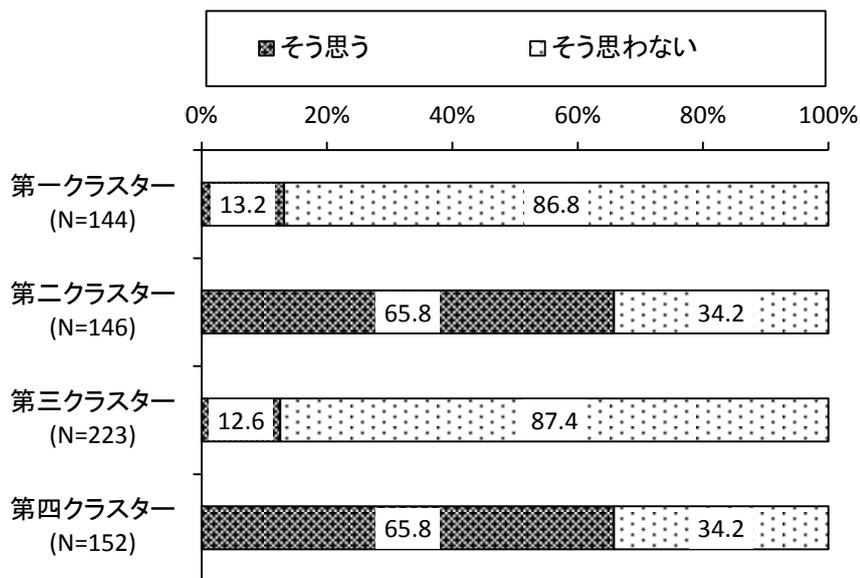


図 4.2.4 は声を上げ、行動すれば世の中は変えられるかどうかを示しています。「そう思う」は第一クラスターで 22.9%、第二クラスターで 63.7%、第三クラスターで 39.0%、第四クラスターで 48.0% となっています。第二クラスターは他のクラスターに比べて、声を上げ、行動すれば世の中は変えられると思う割合が高くなっています。

図 4.2.4 : 声を上げ、行動すれば世の中は変えられるかどうか

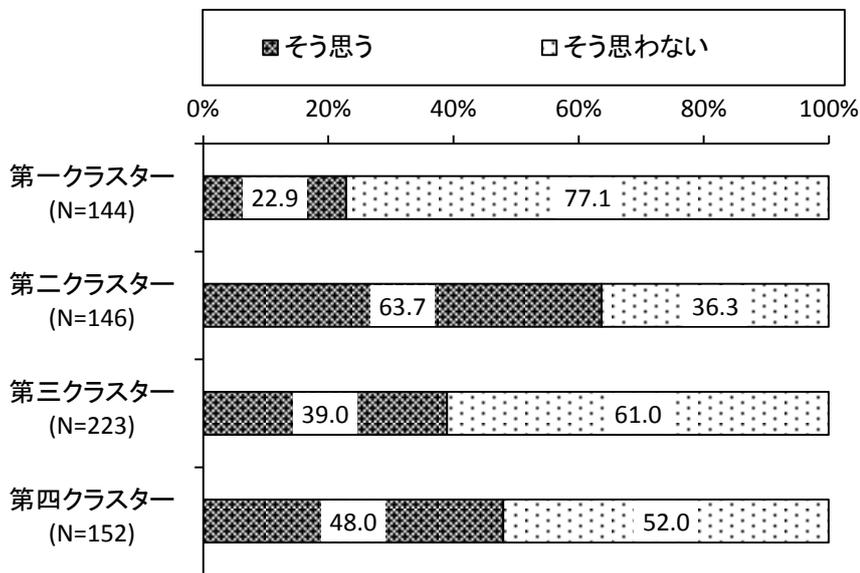
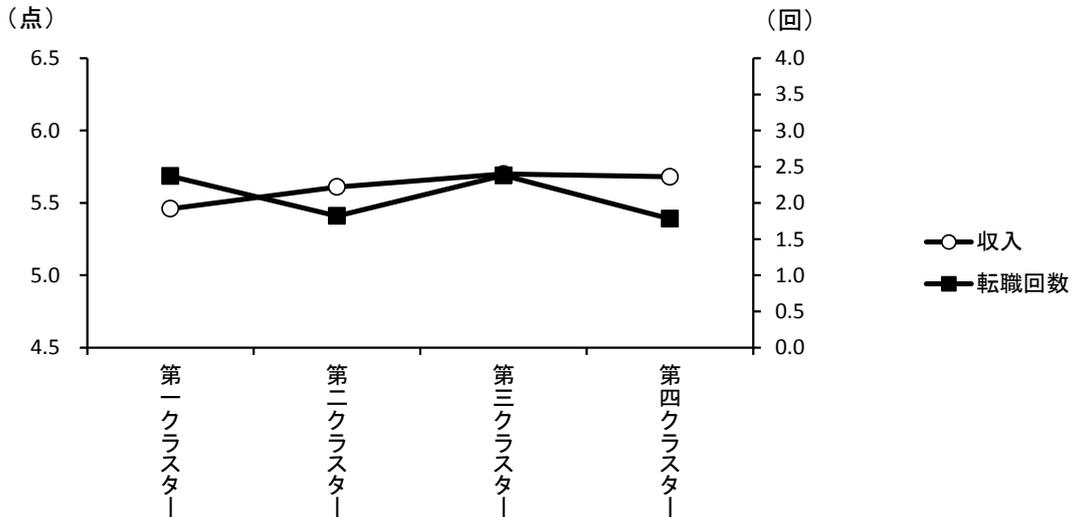


図 4.2.5 は収入・転職回数の平均を示しています。収入は第三クラスターが最も高く、第一クラスターが最も低くなっています。転職回数は第一クラスターと第三クラスターで多くなっています。

図 4.2.5 : 収入・転職回数の平均



4.3 少産世代

図 4.3.1 は小学校時代を主に過ごした場所を示しています。「岡山市内」は第一クラスターで 57.2%、第二クラスターで 62.9%、第三クラスターで 39.8% となっています。第一クラスターと第二クラスターは「岡山市内」の割合が高く、第三クラスターは『岡山市外』の割合が高くなっています。

図 4.3.1 : 小学校時代を主に過ごした場所

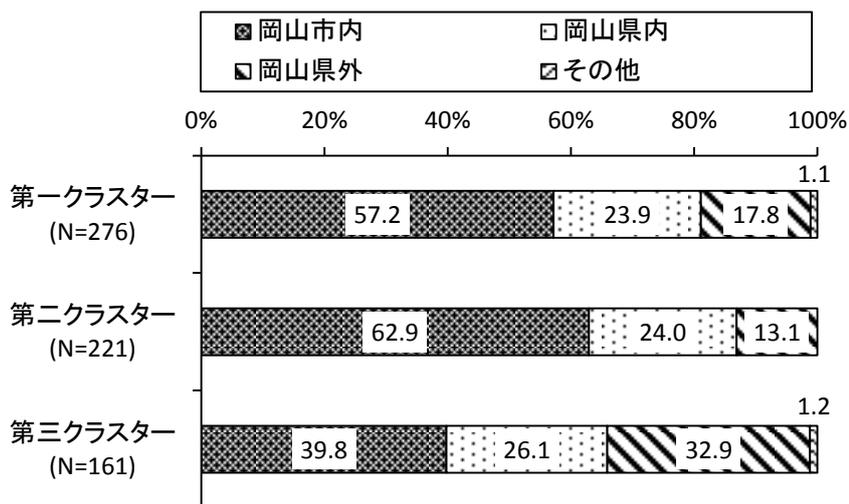


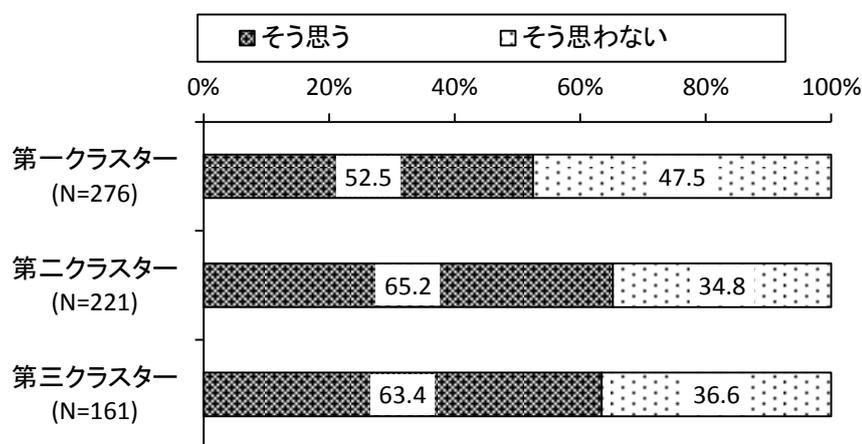
図 4.3.2 は困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうか、困ったときには隣近所の力を借りたいかどうかを示しています。困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうかに関しては、「そう思う」が第一クラスターで 52.5%、第二クラスターで 65.2%、第三クラスターで 63.4%となっています。

困ったときには隣近所の力を借りたいかに関しては、「そう思う」が第一クラスターで 28.3%、第二クラスターで 37.1%、第三クラスターで 53.4%となっています。

第一クラスターと第二クラスターは第三クラスターに比べて、困ったときには隣近所の力を借りたいと思う割合が低くなっています。

図 4.3.2

困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうか



困ったときには隣近所の力を借りたいかどうか

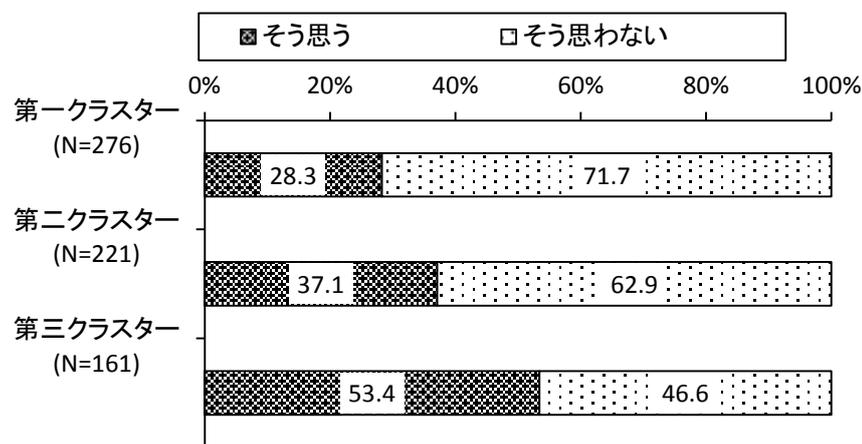


図 4.3.3 は声を上げ、行動すれば世の中は変えられるかどうかを示しています。「そう思う」は第一クラスターで 70.7%、第二クラスターで 14.0%、第三クラスターで 58.4%となっています。第一クラスターは他のクラスターに比べて声を上げ、行動すれば世の中は変えられると思う割合が高く、第二クラスターは声を上げ、行動すれば世の中は変えられると思わない割合が高くなっています。

図 4.3.3 : 声を上げ、行動すれば世の中は変えられるかどうか

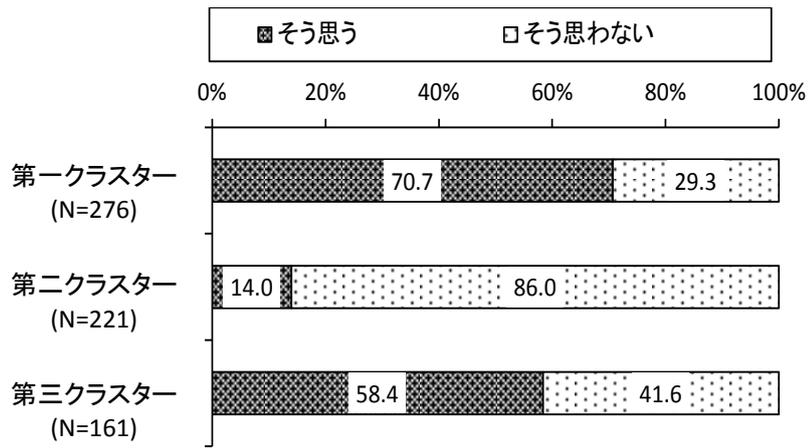
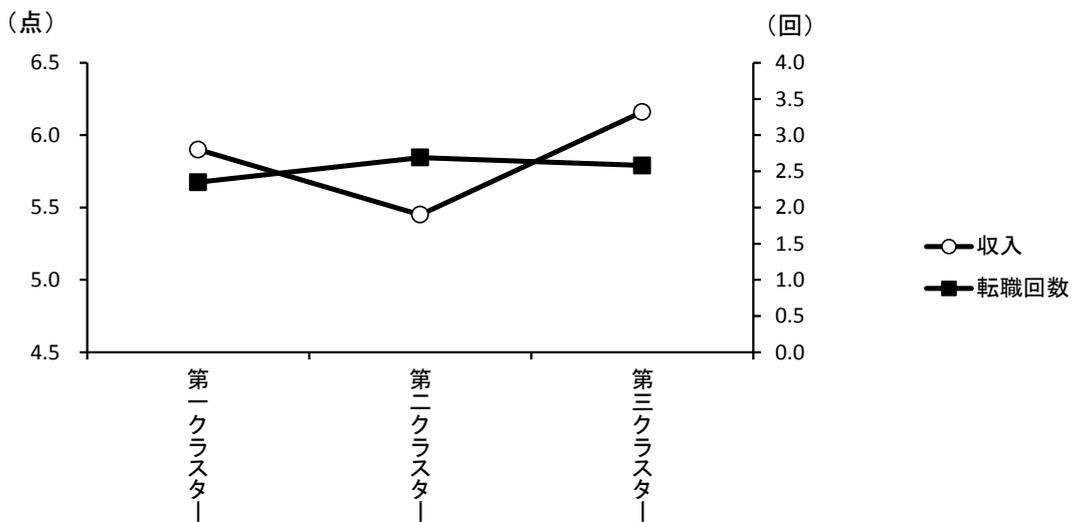


図 4.3.4 は収入・転職回数の平均を示しています。収入は第三クラスターが最も高く、第二クラスターが最も低くなっています。転職回数は第一クラスターが最も少なくなっています。

図 4.3.4 : 収入・転職回数の平均



4.4 団塊世代

図 4.4.1 は小学校時代を主に過ごした場所を示しています。「岡山市内」は、第一クラスターで 60.6%、第二クラスターで 51.3%、第三クラスターで 46.3%となっています。第一クラスターは他のクラスターに比べて「岡山市内」の割合が高く、第三クラスターは『岡山市外』の割合が高くなっています。第二クラスターは他のクラスターに比べて「岡山県内」の割合が高く、第一クラスターに比べると『岡山市外』の割合が高くなっています。

図 4.4.1：小学校時代を主に過ごした場所

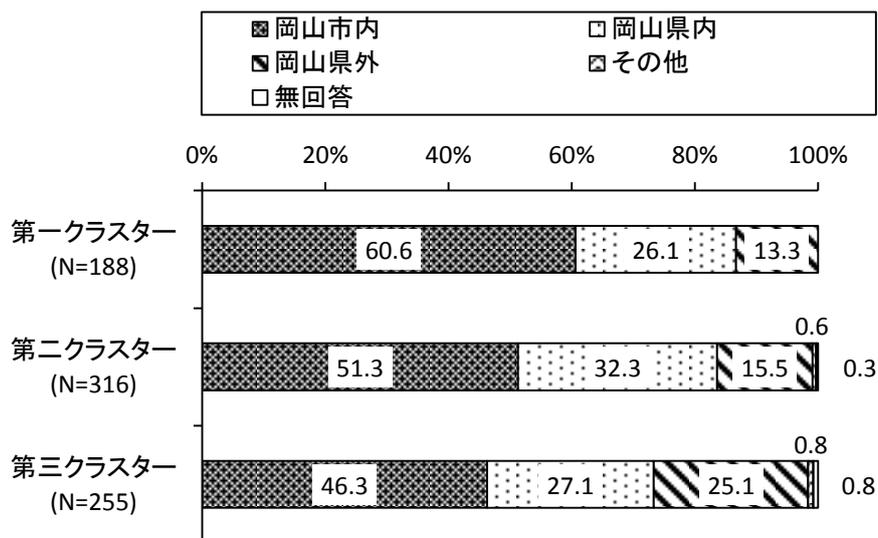


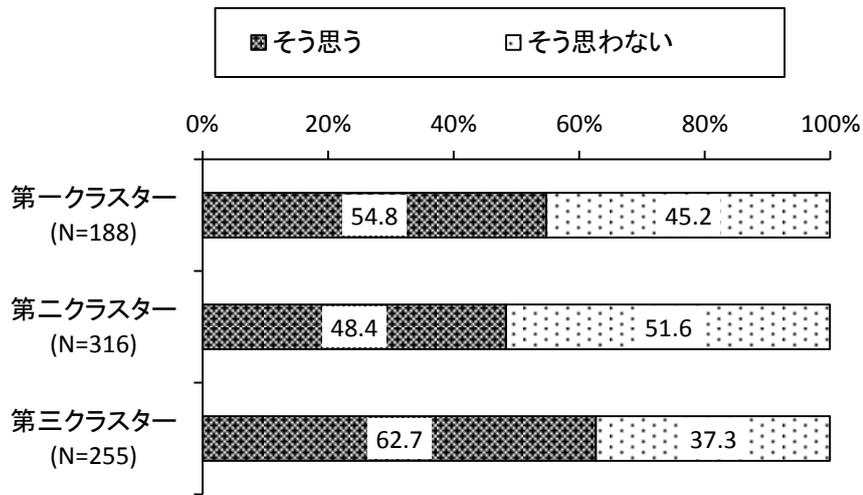
図 4.4.2 は困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうか、困ったときには隣近所の力を借りたいかどうかを示しています。困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうかに関しては、「そう思う」が第一クラスターで 54.8%、第二クラスターで 48.4%、第三クラスターで 62.7%となっています。

困ったときには隣近所の力を借りたいかに関しては、「そう思う」が第一クラスターで 23.9%、第二クラスターで 40.2%、第三クラスターで 45.9%となっています。

第二クラスターは他のクラスターに比べて困ったときには親類縁者の力を借りたいと思わない割合が高く、第一クラスターは他のクラスターに比べて困ったときには隣近所の力を借りたいと思わない割合が高くなっています。

図 4.4.2

困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうか



困ったときには隣近所の力を借りたいかどうか

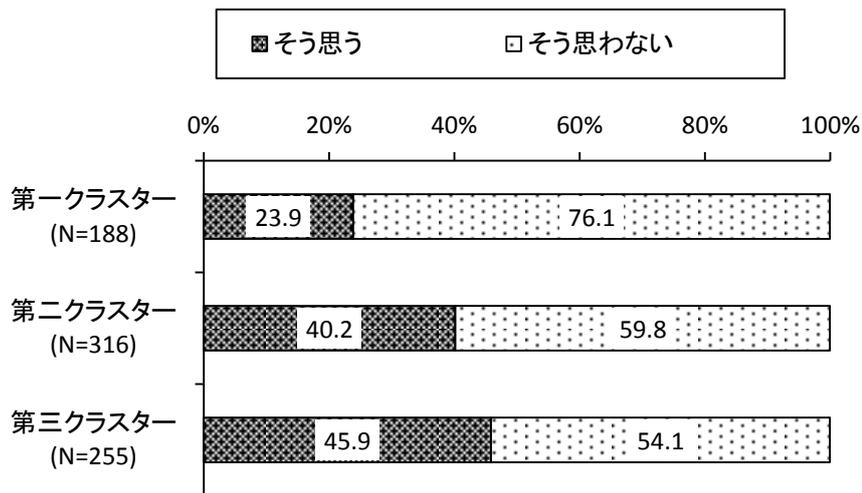


図 4.4.3 は声を上げ、行動すれば世の中は変えられるかどうかを示しています。「そう思う」が第一クラスターでは 22.9%、第二クラスターでは 55.7%、第三クラスターでは 41.2%となっています。第一クラスターは他のクラスターに比べて声を上げ、行動すれば世の中は変えられると思わない割合が高く、第二クラスターは声を上げ、行動すれば世の中は変えられると思う割合が高くなっています。

図 4.4.3 : 声を上げ、行動すれば世の中は変えられるかどうか

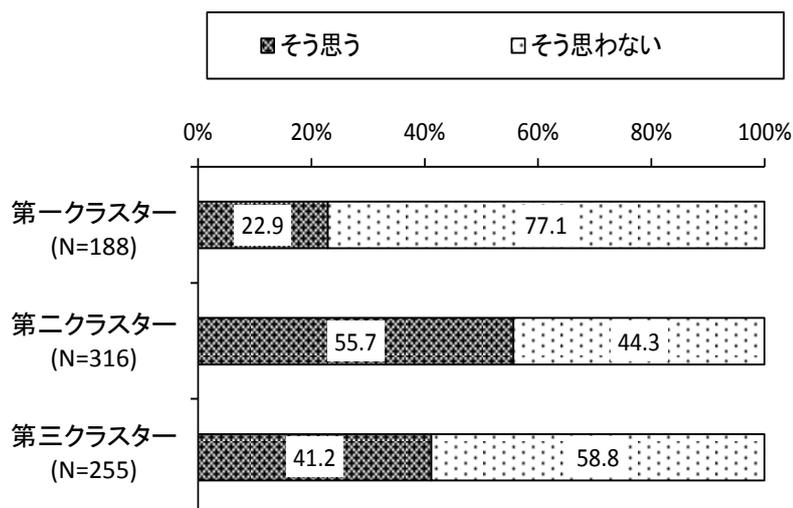
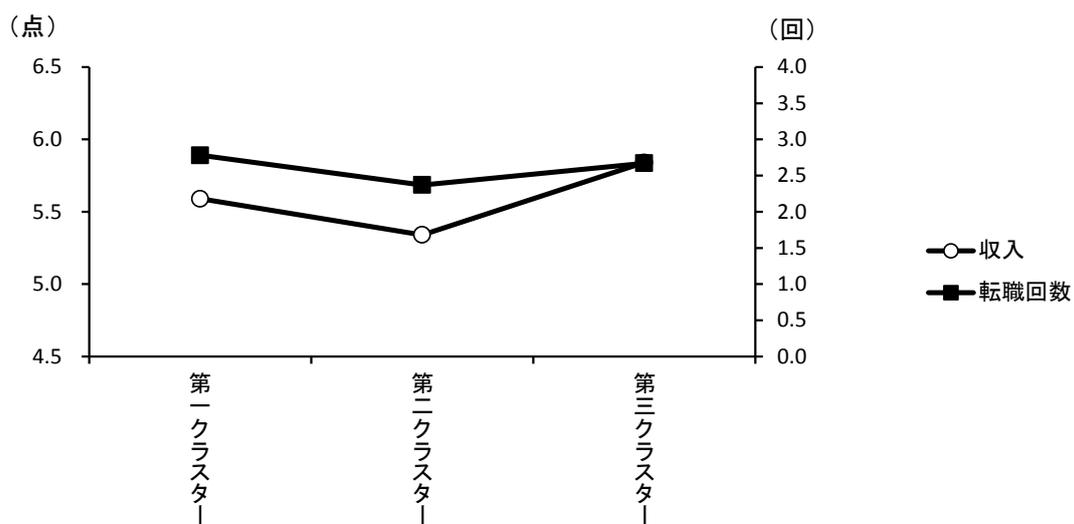


図 4.4.4 は収入・転職回数の平均を示しています。収入、転職回数共に、第二クラスターが最も低くなっています。

図 4.4.4 : 収入・転職回数の平均



4.5 高齢世代

図 4.5.1 は小学校時代を主に過ごした場所を示しています。「岡山市内」は第一クラスターで 58.9%、第二クラスターで 46.4%、第三クラスターで 29.3%、第四クラスターで 48.9%となっています。第一クラスターは他のクラスターに比べて「岡山市内」の割合が高く、第三クラスターは他のクラスターに比べて『岡山市外』の割合が高くなっています。第二クラスター、第四クラスターは「岡山市内」の割合が 5 割を下回っており、第一クラスターに比べると『岡山市外』の割合が高くなっています。

図 4.5.1 : 小学校時代を主に過ごした場所

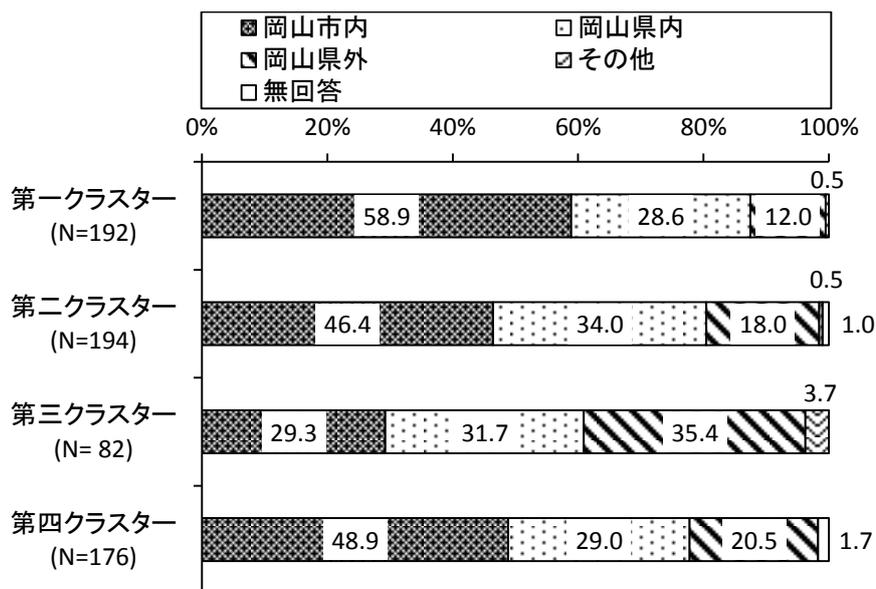


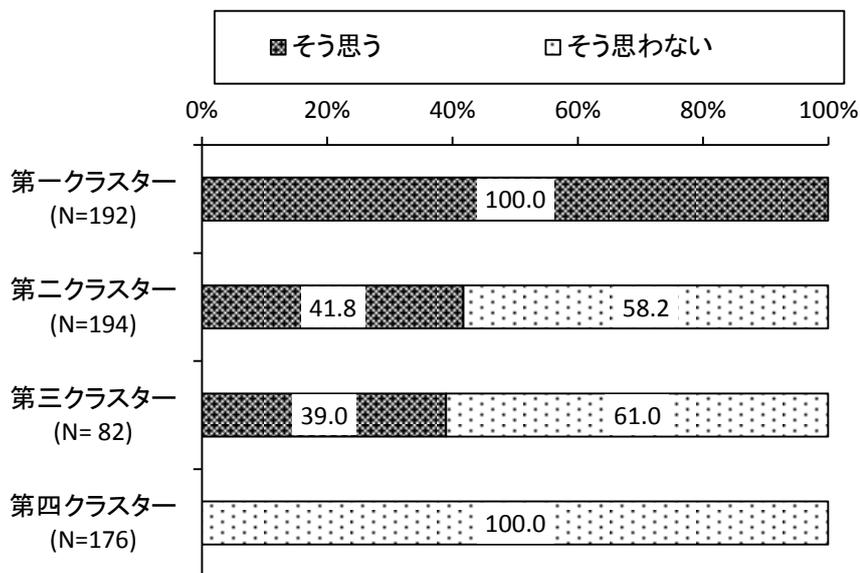
図 4.5.2 は困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうか、困ったときには隣近所の力を借りたいかどうかを示しています。困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうかに関しては、「そう思う」が第一クラスターで 100.0%、第二クラスターで 41.8%、第三クラスターで 39.0%となっており、「そう思わない」が第四クラスターで 100.0%となっています。

困ったときには隣近所の力を借りたいかに関しては、「そう思う」が第一クラスターで 52.1%、第二クラスターで 41.2%、第三クラスターで 26.8%、第四クラスターで 19.3%となっています。

第一クラスターは他のクラスターに比べて、困ったときには親類縁者と隣近所の力を借りたいと思う割合が高く、第四クラスターは困ったときには親類縁者と隣近所の力を借りたいと思う割合が低くなっています。

図 4.5.2

困ったときには親類縁者の力を借りたいかどうか



困ったときには隣近所の力を借りたいかどうか

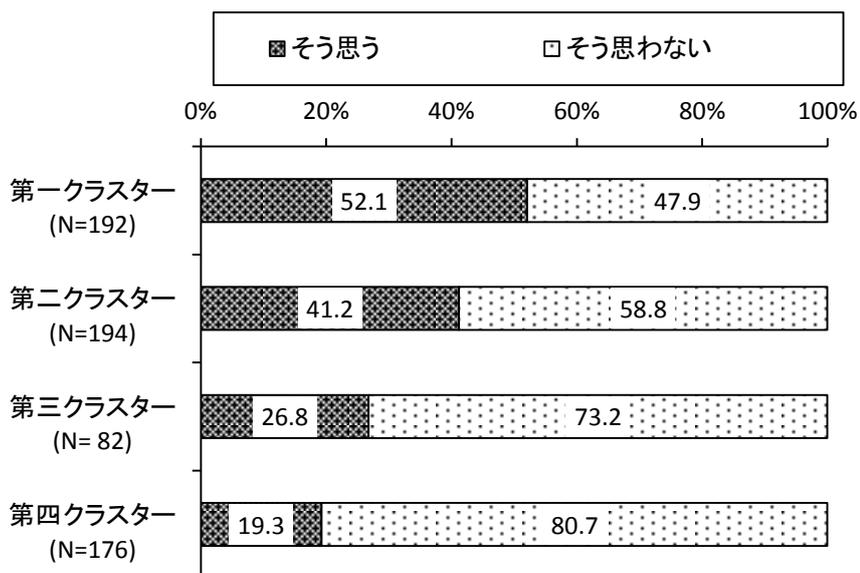


図 4.5.3 は声を上げ、行動すれば世の中は変えられるかどうかを示しています。「そう思う」は第一クラスターで 43.2%、第二クラスターで 47.4%、第三クラスターで 41.5%、第四クラスターで 47.7% となっており、すべてのクラスターで 5 割を下回っています。

図 4.5.3 : 声を上げ、行動すれば世の中は変えられるかどうか

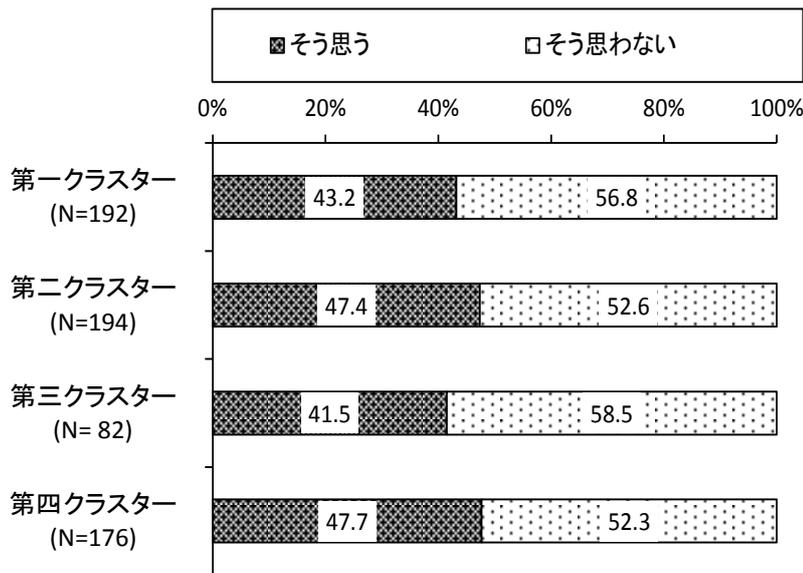
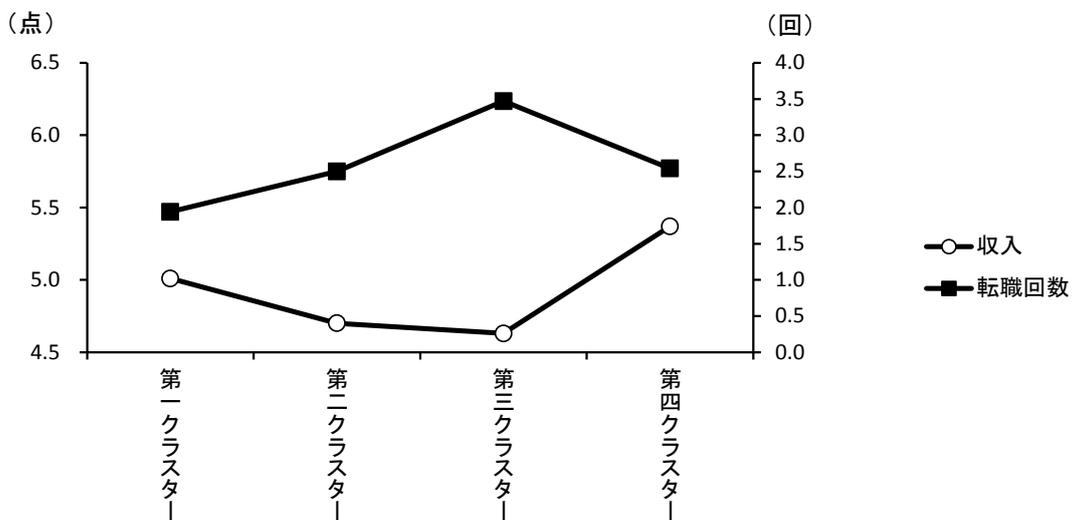


図 4.5.4 は収入・転職回数の平均を示しています。収入は第三クラスターが最も低く、第四クラスターが最も高くなっています。転職回数は収入の高低と反比例する傾向が読み取れます。

図 4.5.4 : 収入・転職回数の平均



5 まとめ

以上のように、因子分析とクラスター分析により析出された類型と、その他の質問項目とをクロス集計することにより、岡山市民の世代内の特性を明らかにしてきました。この分析結果をもとに、政策を立案していくこととなりますが、ただ分析結果を提示するだけでは不十分であると考えます。本調査は、岡山市民のための政策を立案するためのものであり、市民へわかりやすく伝えることも重要であるからです。そこで、これまでの分析で得た世代ごとの岡山市民の特性をさらにわかりやすくするために、イラストとして描写することを試みました。分析の結果、明らかになった特性を、監修者

の下でデザイナーと何度も協議を行い、イラストに仕上げました。そのイラストとクラスターごとの特性をまとめたものが図5です。これをもとに、岡山市民が自らまちづくりを行えるようになることを願っております。なお、回答者は女性が多く、若い世代にはその傾向が顕著になります。女性が多い世代内で男女比を議論することになるおそれがあるため、世代ごとの類型において男女差は考慮していません。しかし、各世代の類型に男女が存在することは明白であるため、イラストではその類型を代表する男女像を示しています。

図5：多様な市民像を構成する各クラスターの特性

●● アラ30世代 ●●

第一 クラスター

岡山県外出身で地域に溶け込めていない、家族志向の人たち。岡山市に好意的ではなく、アラ30世代では生活満足度も低く、家族志向



第二 クラスター



岡山市内で生まれ、岡山で働くエリート層。だれかを助けたいという思いはあるけれど、家族や隣近所には不満を持ち、楽な方向に流されがちな人たち

第三 クラスター

岡山市出身で、岡山で家庭を持ち、生活が安定した人たち。岡山市のことが好きで、社会にも好意的で家族志向が強い



第四 クラスター



個人主義的で現実主義。岡山市出身で、岡山市には好意的で生活には満足しているが、社会を否定的にみる人たち

●● アラ40世代 ●●

第一 クラスター

仕事が忙しく、近所づきあいなど周囲のことに時間を割く余裕がない日々の生活をするだけで精一杯の人たち



第二 クラスター



岡山市出身で家族や隣近所、社会にも肯定的。前向きで、生活にも満足しており、岡山市に対しても肯定的な人たち

第三 クラスター

町内会などの地域や社会にも否定的。家族に対しても頼りたくない、仕事一筋で現代的な価値観をもつ人たち



第四 クラスター



岡山市外出身で生活や近所づきあいが良好で、岡山市での生活には満足しているが、岡山市からは出て行きたい人たち

●● 少産世代 ●●

第一 クラスター

生活に満足し、社会にも肯定的で、周囲を助けたい気持ちの強い人たち



第二 クラスター



社会や隣近所に否定的で何かと文句を言う、家族以外の周囲を拒む保守的な人たち

第三 クラスター

岡山市外出身のエリート層。社会を冷静に見ており、自分の生活に満足せず、岡山市に好意的でない人たち



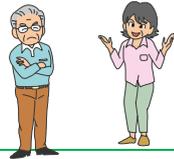
●● 団塊世代 ●●

第一 クラスター

岡山市出身の家族以外には拒否的で、社会に対しても否定的な頑固な人たち



第二 クラスター



岡山市外出身で岡山に定着した人たち。生活や社会にも満足している人たち

第三 クラスター

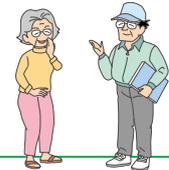
岡山市外出身のエリート層。隣近所や社会に対して肯定的だが、岡山市という土地をよく思っていない人たち



●● 高齢世代 ●●

第一 クラスター

岡山市で生まれ育ち、岡山市に好意的で、家族や隣近所との関係も良好な人たち



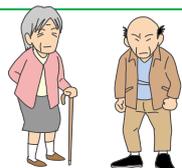
第二 クラスター



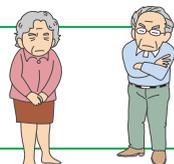
岡山市外出身で岡山市に定着しているが、家族にも周囲にも迷惑をかけたくないと考える自立的な人たち

第三 クラスター

岡山市外出身で、生活が安定していない岡山市にも生活にも満足していない悲観的な人たち



第四 クラスター



岡山市外出身だが、岡山市で仕事を持ち、岡山市に定着した家族内で完結した昔堅気の人たち

V 附録

- 資料1 「岡山のまちづくり」に関する調査結果の概要
(調査概要を市民にお知らせするために作成したものです。)
- 資料2 「岡山のまちづくり」に関するアンケート調査票
- 資料3 岡山・倉敷における聞き取り調査報告
(本調査の監修者である馬居政幸と研究室の学生3名による聞き取り調査の結果です。)

「岡山のまちづくり」に関する調査結果の概要

私たち公明党岡山市議団では、去る平成24年3月に、岡山市の未来のまちづくりを推進するための政策提言を行うにあたり、その基礎資料を得るためのアンケート調査を政務調査費により実施しました。

この調査は、岡山市民の皆さまの中から、合計1万人を岡山市公職選挙人名簿から無作為で選ばせていただき、健康、就労、市の制度や政策、公的施設の利用状況などについて、ご意見をお聞きしたものです。

この度、調査結果の一次報告がまとまり、その概要をお届けできるようになりました。調査にご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

調査結果に示された皆さまのお声を大切に、岡山市のまちづくりに活かしてまいりますので、本調査結果に対するご質問やご意見をお待ちしております。

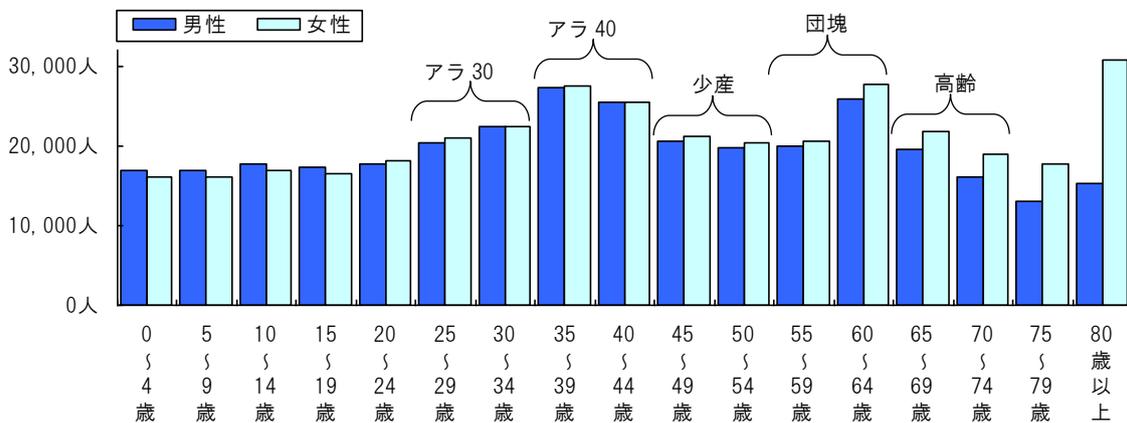
平成24年9月 公明党岡山市議団
 団長 磯野昌郎

調査の概要

調査対象：岡山市内在住の25歳～74歳の男女
 標本数：10,000人
 抽出方法：選挙人名簿より無作為抽出
 調査方法：郵送配布 郵送回収
 調査期間：平成24年3月1日
 ～平成24年3月31日
 監修：馬居政幸（静岡大学 教育学部 教授）

全体の回収率は、郵送調査のため36.8%と高くはありませんが、標本数を10,000人にするので、この調査は統計的に妥当な調査となっています。
 また、分析においては高齢世代の回収率が高く、全体平均が高齢者の回答に偏る傾向を避けられないため、世代別のクロス集計を中心に分析を行っています。
 その際、岡山市の課題を明確にするため、人口構成の特徴に応じて、アラ30（25～34歳）、アラ40（35～44歳）、少産（45～54歳）、団塊（55～64歳）、高齢（65～74歳）の5種の世代別に分析します。（下図参照）

岡山市男女別5歳年齢階級別人口構成



『岡山市統計月報 平成24年4月号』より

（住民基本台帳人口 平成24年3月末）

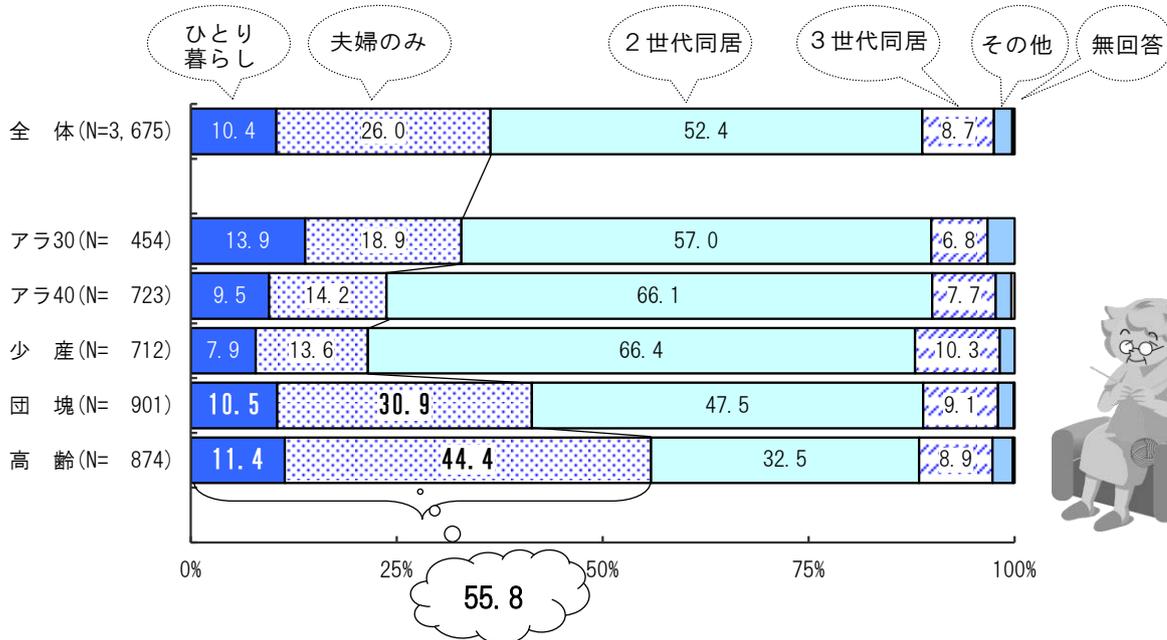


	アラ30		アラ40		少産		団塊		高齢		年齢不詳	計
	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳		
発送数	819	894	1,211	1,183	978	972	942	1,263	955	783	-	10,000
有効回収数	207	247	368	355	349	363	360	541	457	417	11	3,675
有効回収率	26.5%		30.2%		36.5%		40.9%		50.3%		-	36.8%

※有効回収数は、回収数の3,682票(36.8%)から記入のない(または少ない)調査票を除いた数です。
 ※調査結果は5.0%未満の数字の表示を割愛している場合があります。
 ※回答者数は、Nと表示しており、回答比率はこれを100%として算出しています。

◎世帯の状況を教えてください。

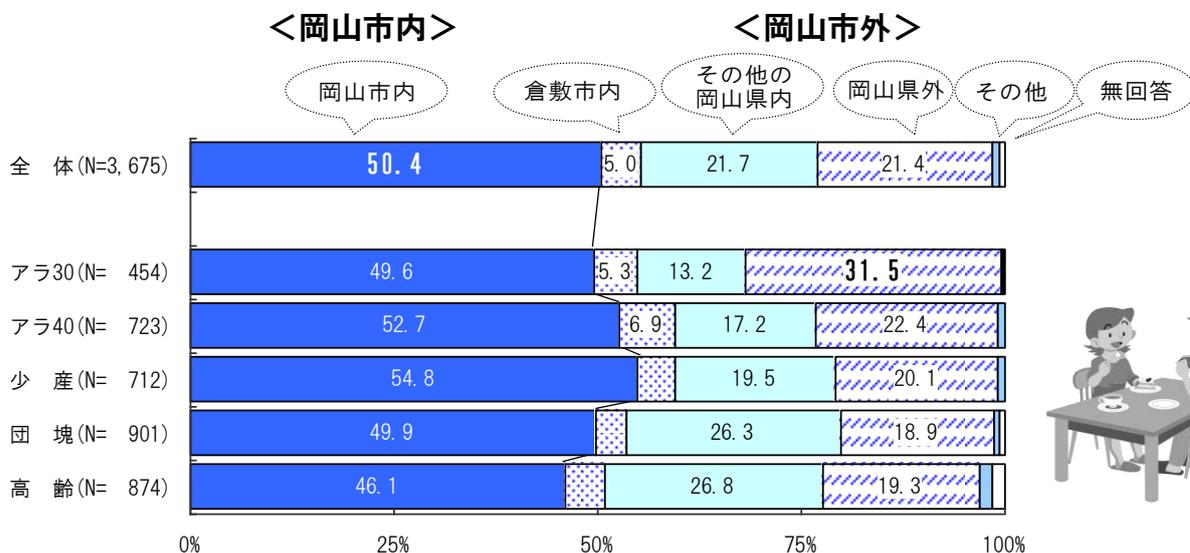
高齢世代では、「夫婦のみ」の世帯が44.4%、「ひとり暮らし」の世帯が11.4%となり、高齢者だけの世帯が半数を超えています。団塊の世代の老いとともに単身高齢者の急激な増加が予測され



岡山市は市外、県外から若者が流入する都市のため、高齢化率の上昇は緩やかですが、高齢者数の増加は急です。人口規模の大きい団塊の世代が70代に入る10年後に向けて、高齢者のみで生活する人たちが急増します。地縁と血縁を超えて支える仕組みと人との間（あいだ）創りが課題です。

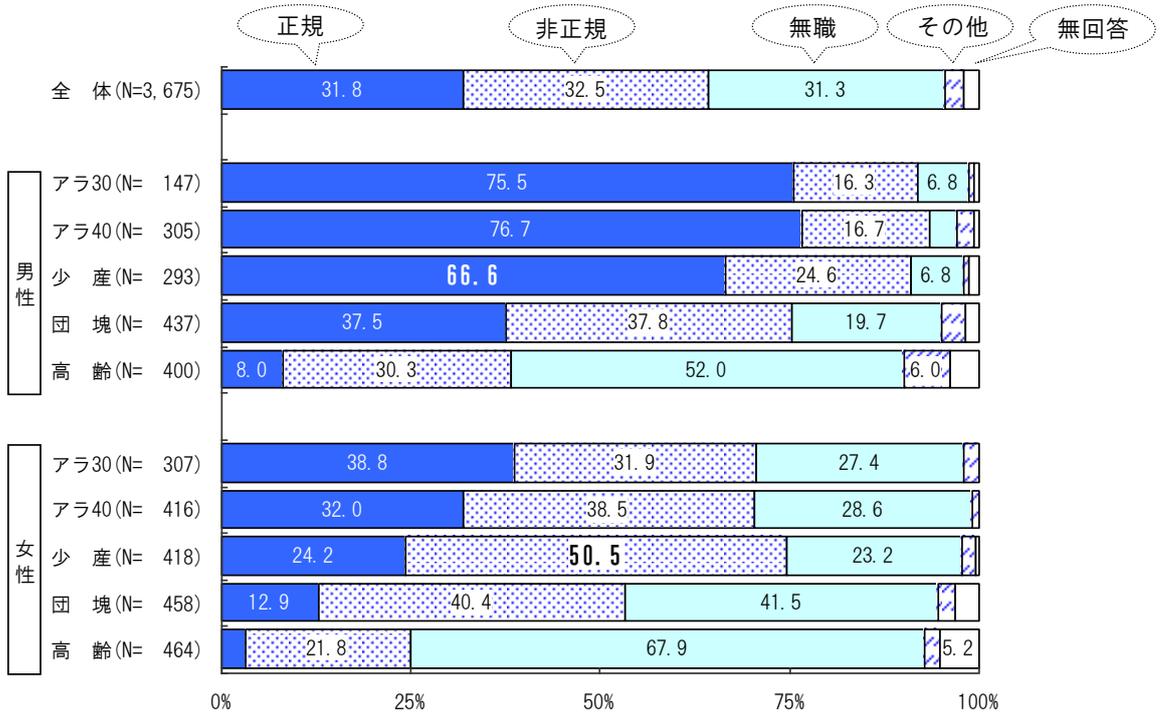
◎あなたが小学校時代を過ごした主な場所はどこですか。

小学校時代を過ごした場所は、＜岡山市内＞と＜岡山市外＞が半々になっています。特にアラ30世代は3割が「岡山県外」で過ごしたと回答しています。岡山市は地方の中心都市として、地縁や血縁の薄い男女が移り住むまちです。＜岡山市外＞で生まれ育った人たちが都市間競争に勝利するOKAYAMAの民力の源です。



◎雇用形態を教えてください。

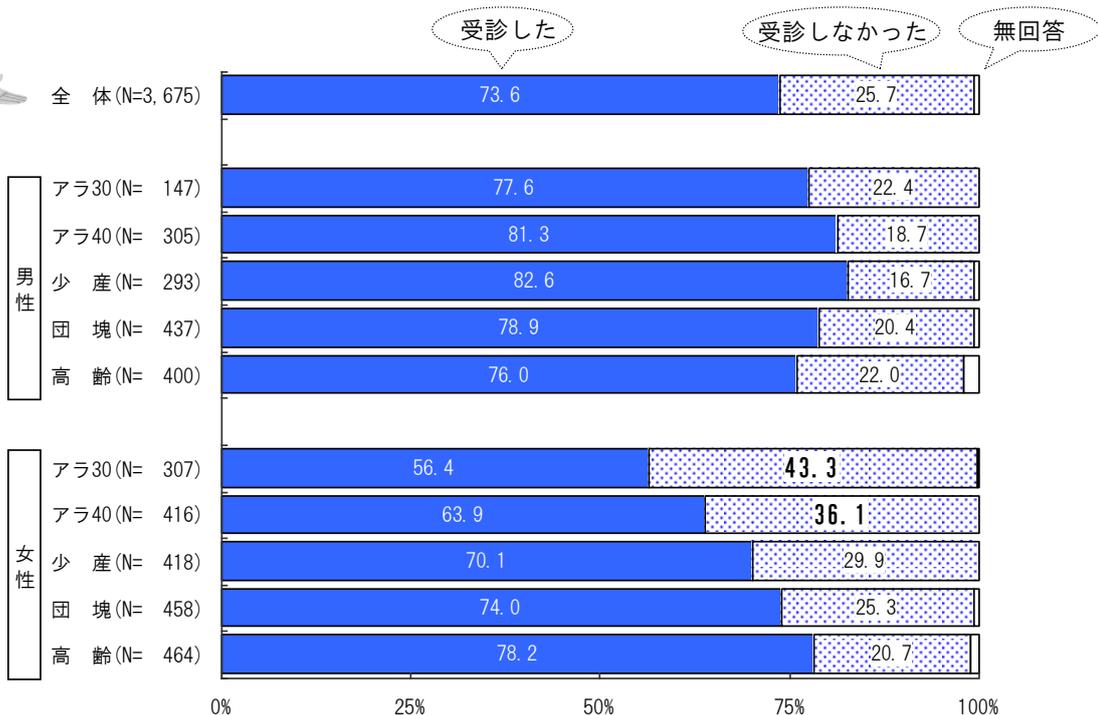
アラ30世代から少産世代までの現役世代をみると、アラ30・アラ40世代の男性は「正規」が75%以上ですが、少産世代では66.6%と少なくなっています。女性は、アラ30・アラ40世代が「正規」・「非正規」とも3割台ですが、少産世代では「非正規」が5割です。



現役世代の雇用の不安定さはアラ30・アラ40世代を超えて50歳前後の少産世代にも及んでいることを示す調査結果です。また男女の雇用形態の相違も注目すべきです。特に、女性のアラ30・アラ40世代の健康診断を受診していない割合の高さが、雇用状況とリンクしているとすれば問題です。公的支援の検討が求められます。

◎この1年以内に健康診断を受診しましたか。

男性は、未受診がどの世代も2割前後です。女性は、年齢とともに受診率が上がりますが、特にアラ30・アラ40世代では、3割以上が受診していません。

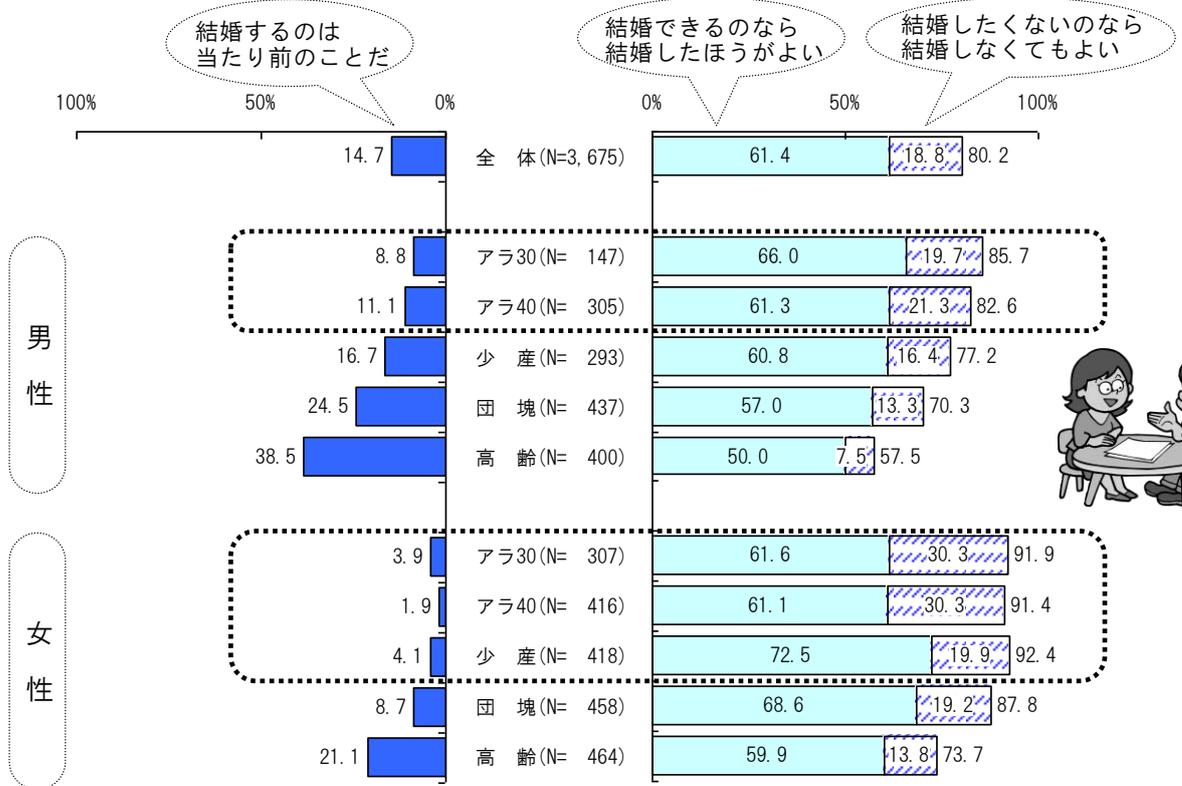


◎結婚についてどう思いますか。

「できるのならしたほうが」「したくないならしなくても」をあわせ、<結婚するしないは自由>とする人は、男性のアラ30・アラ40世代が8割を超え、女性ではアラ30・アラ40・少産世代がともに9割を超えています。結婚は、人生の目的ではなく、選択肢の一つになったようです。

<結婚するのは当たり前>

<結婚するしないは自由>



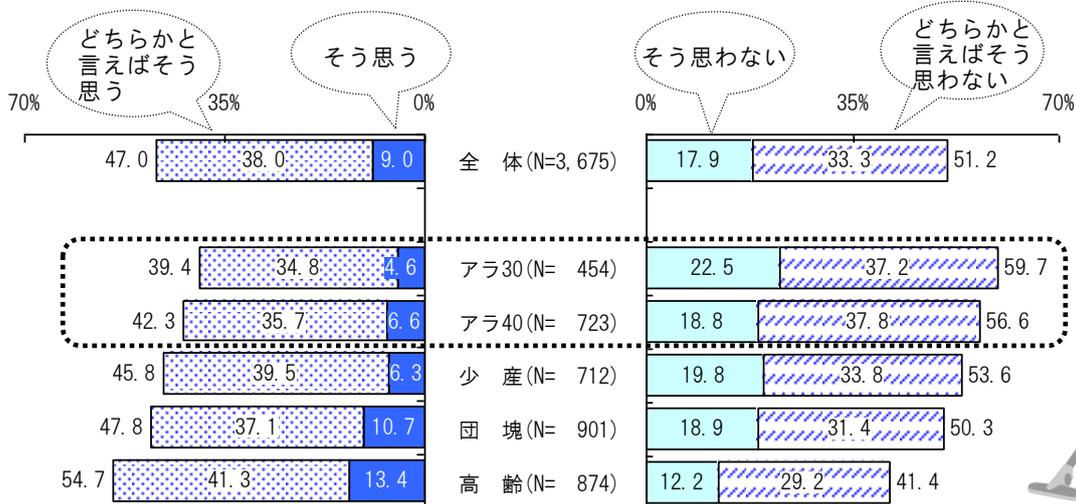
日本は結婚と出産をセットとみなす社会です。「できるのならしたほうが」との結婚の条件に出産・育児の安心が入っていないなければならないのですが、子どもを生き育てることを「社会が評価」とみるアラ30・アラ40世代の女性はたったの5%、6割が「そう思わない」のです。未婚率上昇、出生率低下を解消するカギは明確ですが…！

◎「子どもを産み育てることを、今の社会は十分に評価していますか。」

子育て期の方が多いアラ30・アラ40世代の6割近くが、「どちらかと言えば」をあわせて、子どもを産み育てることを今の社会は<評価していると思わない>と感じています。「そう思う」が5%前後と極端に低いことも注目しておきたいです。

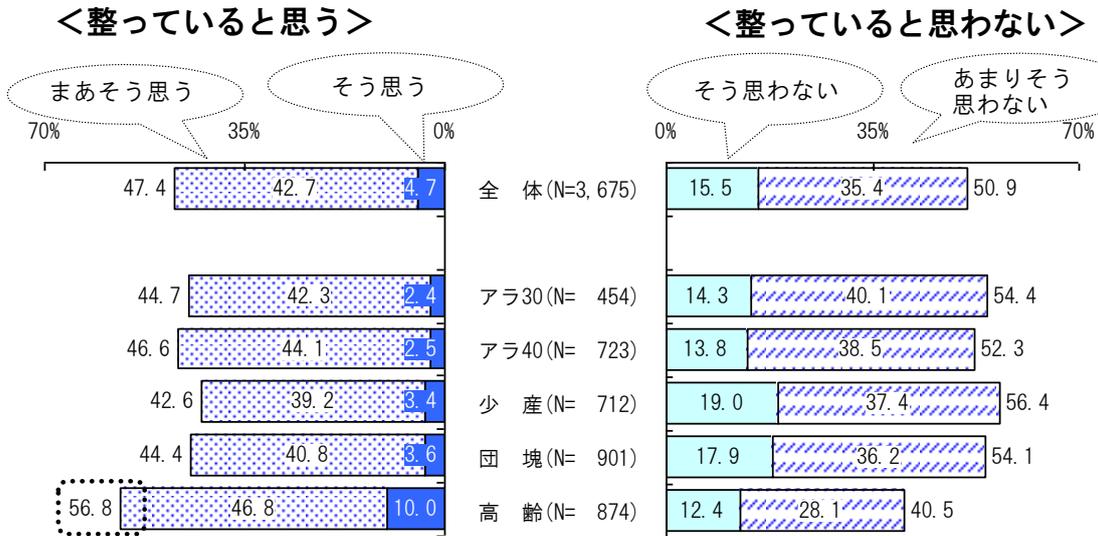
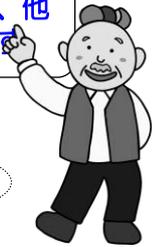
<評価していると思う>

<評価していると思わない>



◎岡山市は高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が整っていますか。

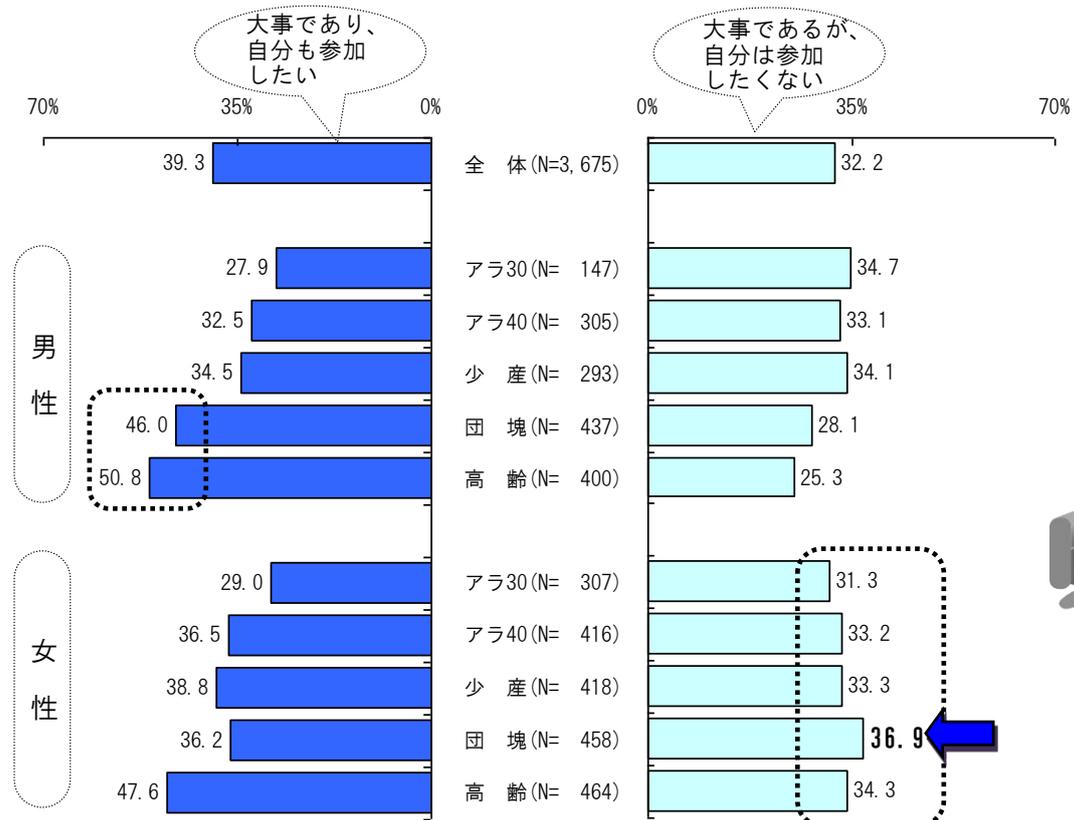
高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が<整っていると思う>との回答は、他の世代が4割台であるのに対し、高齢世代は6割近くが<整っていると思う>と回答しています。



高齢者にとって岡山市は暮らしやすいまちのようですが、若い世代の評価が低いのは気になります。女性の3人に1人が、町内会は大切だが自分は参加したくないという結果を重ねると、家族や隣近所の人間関係に依存する仕組みでは、超高齢社会を支えられない現実が見えてきます。特に、参加したくない割合が最も高い団塊世代の女性の拒否感を和らげる施策の展開が急務です。

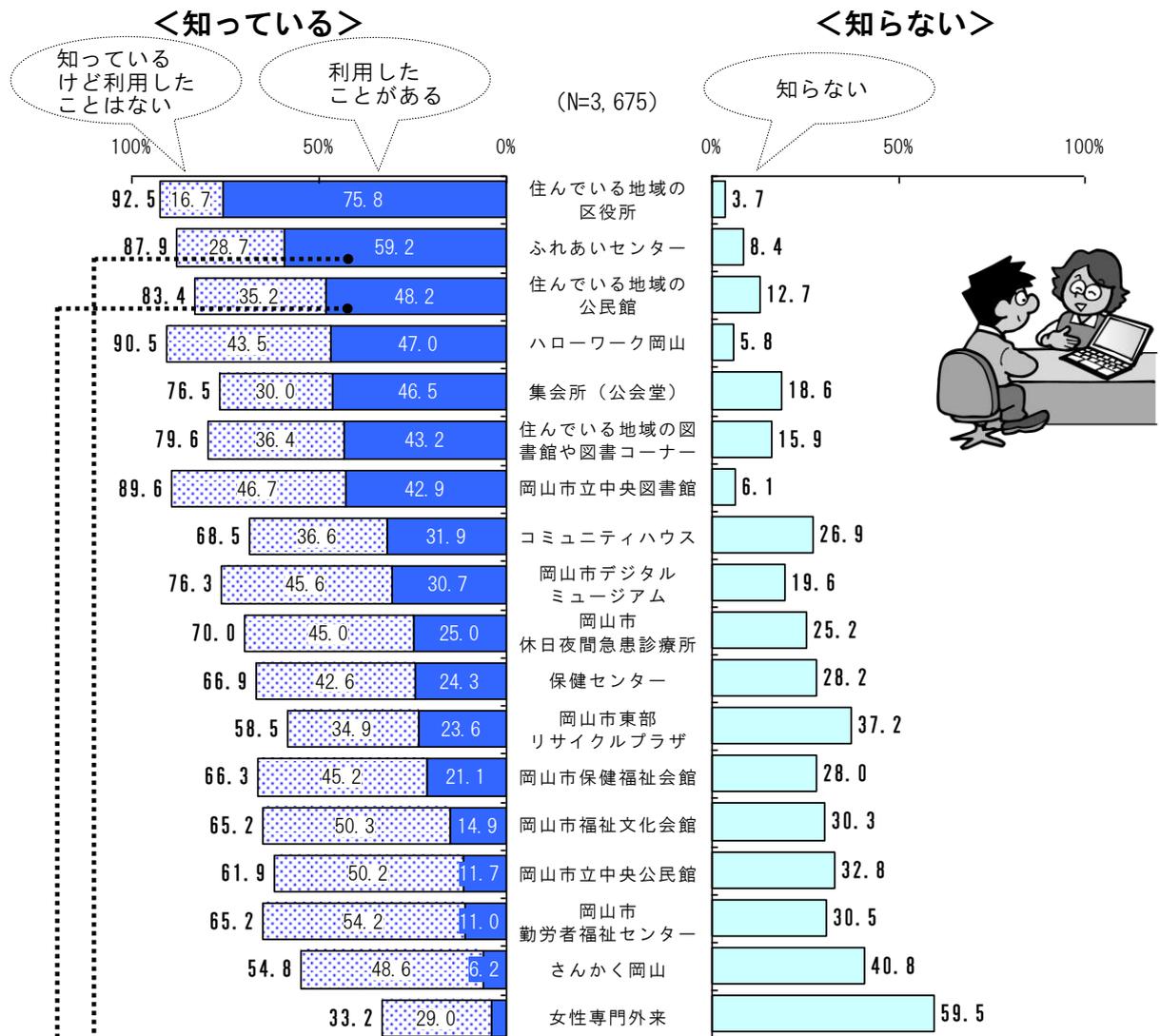
◎町内会についてどう思いますか。

町内会への参加が、大事だと思っている人は多いものの、男性の現役世代（アラ30世代から少産世代）は、自分も「参加したい」と「参加したくない」が3割前後で拮抗しています。男性の団塊世代では46.0%、高齢世代では50.8%が「参加したい」と回答しています。一方、女性は全ての世代で「参加したくない」が3割以上で、とりわけ団塊世代は最も多く36.9%です。

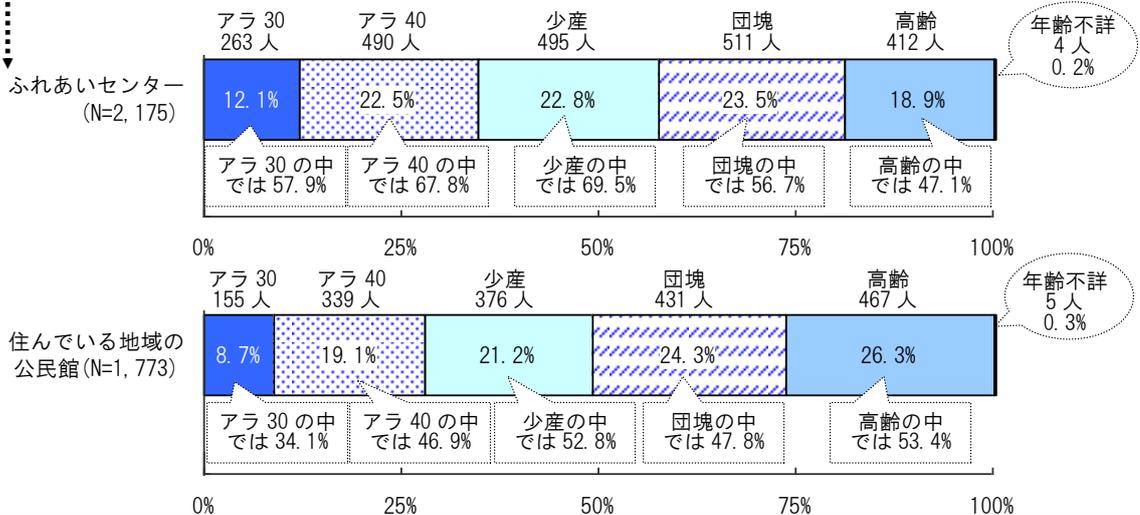


◎岡山市にある公的施設を利用したことがありますか。

市内の公的施設で、半数以上が利用した施設は、「区役所」と「ふれあいセンター」の2施設のみです。18施設中11施設の利用率が3割以下です。市内5箇所「ふれあいセンター」と中学校区単位に37館ある「公民館」の利用率と利用者の特徴が、市民の求める公的施設のありかたを示唆しています。



利用したことがある
PICK UP



「ふれあいセンター」(2,175人)と「住んでいる地域の公民館」(1,773人)のグラフの下の各世代別の利用者割合をみてください。アラ40・少産世代の約7割、アラ30世代も6割近くが「ふれあいセンター」を利用しています。公的施設の課題を読み取るヒントにしてください。

◎行政で実施している取り組みを知っていますか。

行政で実施している取り組み、すなわち施策のうち、24項目中18項目が1割以下の利用率で、3割以上利用しているのは、「市民のひろば」と「子ども会」のみです。他方、〈知らない〉割合が5割を超える項目は14項目です。



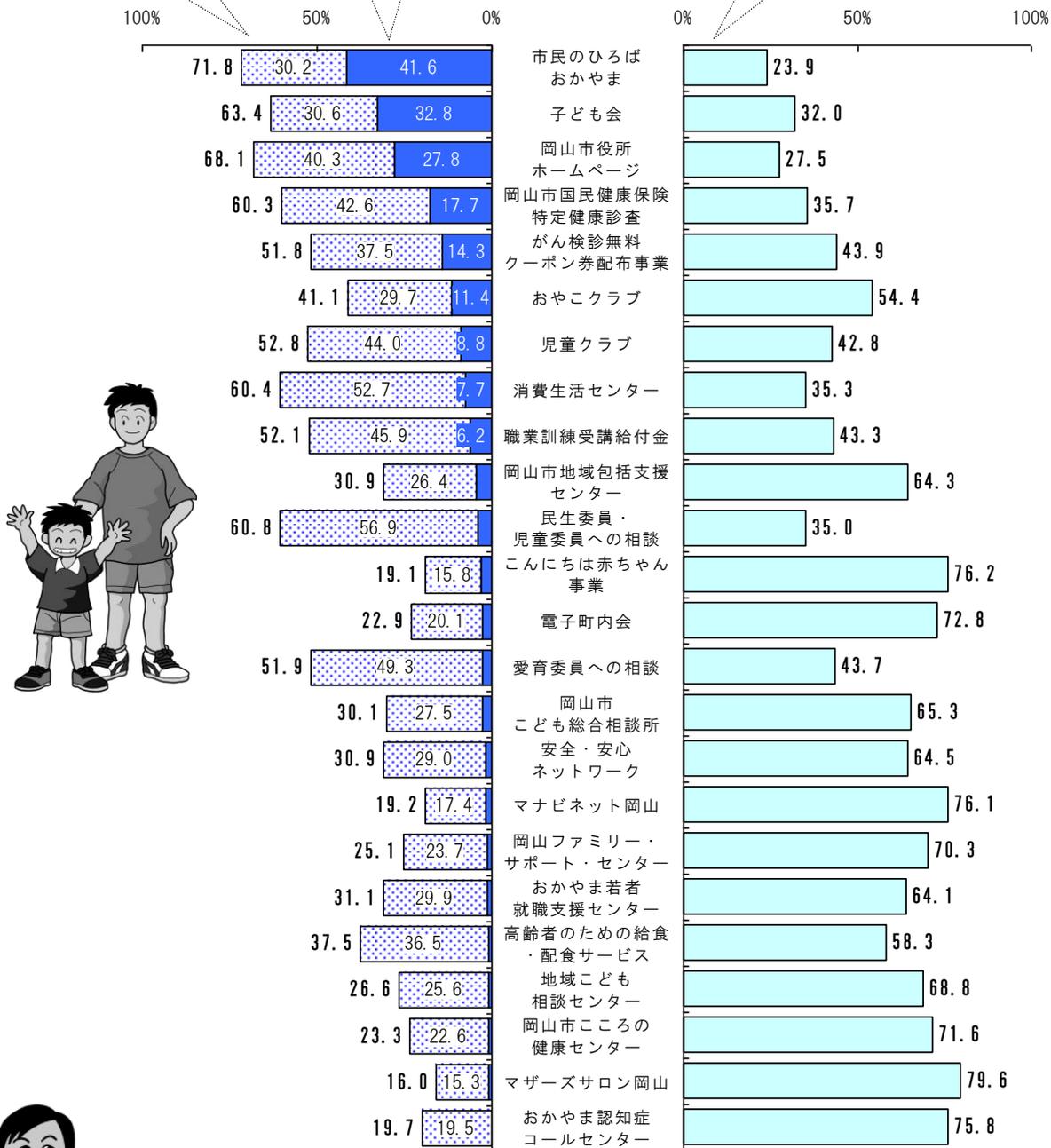
<知っている>

<知らない>

知っているけど利用したことはない
利用したことがある

(N=3,675)

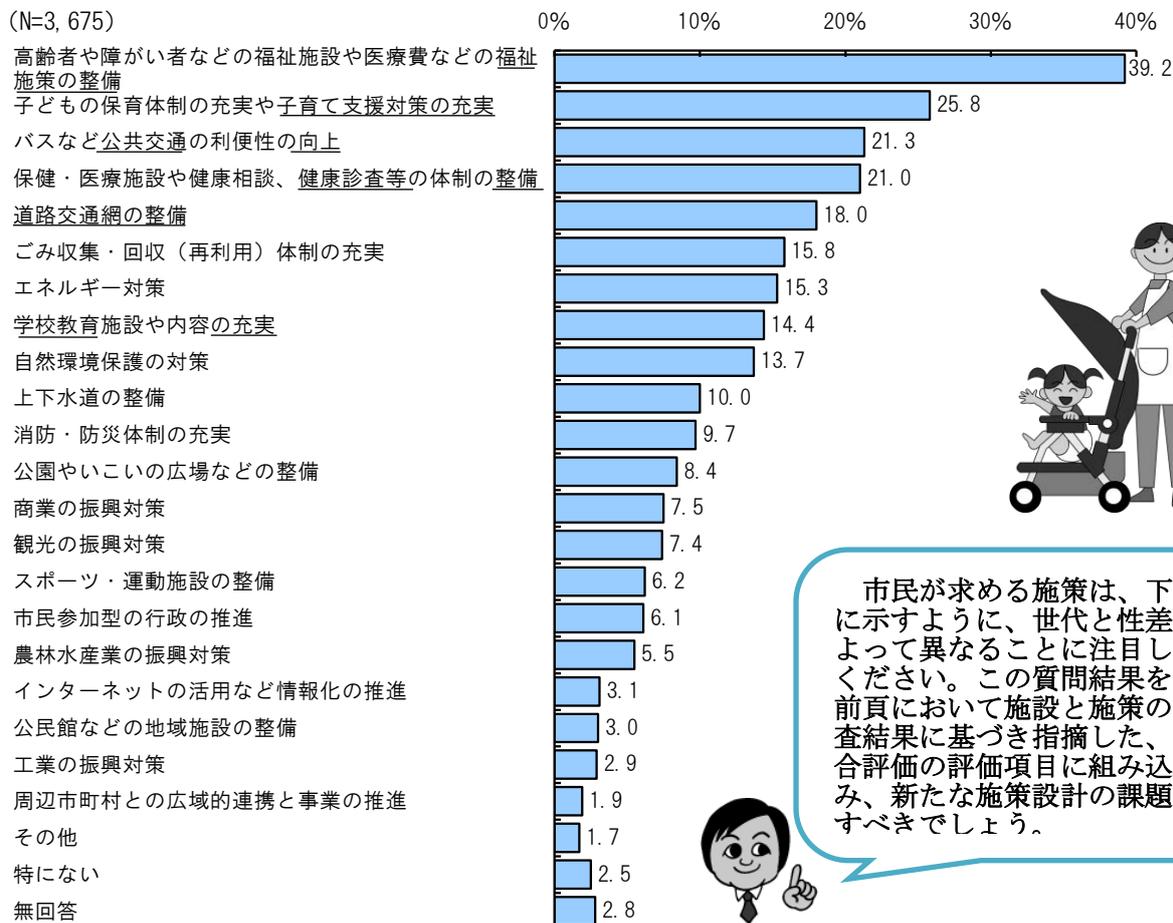
知らない



施設と施策の利用と認知の特徴を一言でいえば、非常に利用率が低いといわざるをえません。郵送調査で回収率が36.8%ということは、本調査の回答者は岡山市の行政に関心のある方たちと推察できます。岡山市全体では、施設と施策の利用率はもっと厳しい数値になるでしょう。認知に関しても、施設では5割以下は「女性専門外来」だけですが、施策では5割を超えるのは24項目中10項目です。市民の多様性（世代間と世代内双方）に応じたニーズの把握、双方向的な情報ネットの整備、アクセスの方法などの評価項目により、改廃をも選択肢においた総合評価が緊急課題になるでしょう。ただし、改廃の基準のなかに、岡山市で生活する市民の皆さんの未来の可能性を拓くために何が重要かという観点を忘れないでください。

◎これからのまちづくりにおいて、行政に充実を求めることは何ですか。

男性・女性ともに、アラ30・アラ40世代では、「子どもの保育体制の充実や子育て支援対策の充実」が1番多く、少産・団塊・高齢世代では、「高齢者や障がい者などの福祉施設や医療費などの福祉施策の整備」が1番多いです。2番目をみると、アラ30世代から団塊世代まで、男性は「道路交通網」を、女性は「福祉施設」、「子育て」、「健康診査」を求めています。



市民が求める施策は、下表に示すように、世代と性差によって異なることに注目してください。この質問結果を、前頁において施設と施策の調査結果に基づき指摘した、総合評価の評価項目に組み込み、新たな施策設計の課題にすべきでしょう。



順位	全体 (N=3, 675)		アラ 30	
	男性(N=147)	女性(N=307)	男性(N=147)	女性(N=307)
1	福祉施設の整備 39.2%	子育て支援対策の充実 40.8%	子育て支援対策の充実 40.8%	子育て支援対策の充実 58.3%
2	子育て支援対策の充実 25.8%	道路交通網の整備 24.8%	道路交通網の整備 24.8%	福祉施設の整備 24.8%
3	公共交通の向上 21.3%	公共交通の向上 24.4%	公共交通の向上 24.4%	公共交通の向上 24.4%

順位	アラ 40		少産	
	男性(N=305)	女性(N=416)	男性(N=293)	女性(N=418)
1	子育て支援対策の充実 30.2%	子育て支援対策の充実 43.8%	福祉施設の整備 37.9%	福祉施設の整備 45.7%
2	道路交通網の整備 25.2%	福祉施設の整備 33.4%	道路交通網の整備 22.9%	子育て支援対策の充実 25.8%
3	福祉施設の整備 22.6%	学校教育の充実 30.8%	子育て支援対策の充実 19.5%	健康診査等の整備 22.2%

順位	団塊		高齢	
	男性(N=437)	女性(N=458)	男性(N=400)	女性(N=464)
1	福祉施設の整備 43.9%	福祉施設の整備 49.1%	福祉施設の整備 42.8%	福祉施設の整備 51.7%
2	道路交通網の整備 24.0%	健康診査等の整備 22.9%	健康診査等の整備 23.8%	公共交通の向上 27.6%
3	健康診査等の整備 20.4%	公共交通の向上 20.7%	道路交通網の整備 20.5%	健康診査等の整備 24.1%

「岡山のまちづくり」に関するアンケート調査票

【ご記入のお願い】

- 1 回答は、宛名のご本人（アンケート中では「あなた」）がお答えください。
- 2 質問は該当する番号を○で囲む方式ですが、1つだけ選んでいただく場合と、複数を選んでいただく場合があります。また、一部に記入していただく質問もありますので、ご注意ください。
- 3 「その他」を選ばれた方は、お手数ですが（ ）内に具体的にご記入ください。
- 4 あなたのご住所やお名前を記入する必要はありません。お答えいただいた内容は、すべて統計的数値として処理いたします。

●あなたご自身のことについてうかがいます。●

問1 性別を教えてください。（○は1つ）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 3月1日現在の年齢を教えてください。（○は1つ）

- | | | | |
|----------|-----------|----------|----------|
| 1 25～29歳 | 2 30～34歳 | 3 35～39歳 | 4 40～44歳 |
| 5 45～49歳 | 6 50～54歳 | 7 55～59歳 | 8 60～64歳 |
| 9 65～69歳 | 10 70～74歳 | | |

問3 結婚していますか。（○は1つ）

- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1 している | 2 していない | 3 離別した | 4 死別した |
|--------|---------|--------|--------|

問4 お子さんはいらっしゃいますか。（○は1つ）

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

問4-1 お子さんは何人いらっしゃいますか。（○は1つ）

- | | | |
|------|------|-----------|
| 1 1人 | 2 2人 | 3 3人 |
| 4 4人 | 5 5人 | 6 6人以上（ ） |

問5 世帯の状況を教えてください。（○は1つ）

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 ひとり暮らし | 2 夫婦のみ |
| 3 2世代同居（親と子など） | 4 3世代同居（親と子と孫など） |
| 5 その他（ ） | |

問6 お住まいの区を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|------|-------------|------|
| 1 北区 | 2 中区 | 3 東区 |
| 4 南区 | 5 わからない () | |

問7 あなたが小学校時代を過ごした主な場所は次のうちどちらですか。(○は主なもの1つ)

- | | | |
|--------|-----------|------------|
| 1 岡山市内 | 2 倉敷市内 | 3 その他の岡山県内 |
| 4 岡山県外 | 5 その他 () | |

問8 あなたは休日にショッピング(買い物)に行く際、どの商店街で買うことが多いですか。

(○は2つ)

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 1 表町商店街 | 2 駅周辺店舗街 | 3 駅地下・駅ビル |
| 4 奉還町商店街 | 5 問屋町 | 6 その他 () |

問9 あなたは、現在の生活に満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 満足している | 2 どちらかといえば満足している |
| 3 どちらかといえば満足していない | 4 満足していない |

問10 あなたは、結婚についてどのように考えていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 結婚するのは当たり前のことだ | 2 結婚できるのなら結婚したほうがよい |
| 3 結婚したくないのなら結婚しなくてもよい | 4 結婚しないのは当然のことだ |
| 5 その他 () | 6 わからない |

問11 「子どもを産み育てること」を、今の社会は十分に評価していると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 そう思う | 2 どちらかと言えばそう思う |
| 3 どちらかと言えばそう思わない | 4 そう思わない |

問12 岡山市は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための生活環境が整っていると思いますか。

(○は1つ)

- | | |
|-------------|----------|
| 1 そう思う | 2 まあそう思う |
| 3 あまりそう思わない | 4 そう思わない |

問13 岡山市の町内会は活動が盛んであると言われていますが、あなたは町内会についてどう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 大事であり、自分も参加したい | 2 大事であるが、自分は参加したくない |
| 3 大事でなく、自分も参加したくない | 4 わからない |

問14 あなたは、普段ご近所の方と、どの程度のおつきあいをしていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 日頃から助け合っている人がいる | 2 気の合った人とは親しくしている |
| 3 たまに立ち話をする | 4 顔が合えばあいさつ程度はする |
| 5 その他 () | 6 ほとんどつきあわない |

問15 あなたはこの1年間に、地域活動に参加したことがありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 1 地域の祭り・行事 | 2 自治会・町内会活動 |
| 3 地域のスポーツサークル、趣味のサークル | 4 消防団活動 |
| 5 社会奉仕活動 (ボランティア) | 6 防災訓練 |
| 7 その他 () | 8 参加したものはなし |

●健康についてうかがいます。●

問16 あなたは、この1年以内に健康診断を受診しましたか。(○は1つ)

- | | |
|--------|-----------|
| 1 受診した | 2 受診しなかった |
|--------|-----------|

▶ 問16-1 受診の際に、保険を使用しましたか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|--------------|---------|
| 1 保険を使用した | 2 保険を使用していない | 3 わからない |
|-----------|--------------|---------|

▶ 問16-2 使用した保険はあなたの保険ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 1 自分が加入している保険 | 2 配偶者や親など家族の保険 (扶養家族として) |
| 3 わからない | |

▶ 問16-3 受診していない理由を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| 1 行く時間がない | 2 職場での受診環境がない | 3 受診料を払えない |
| 4 必要と思っていない | 5 その他 () | |

問17 あなたが加入している健康保険は、次のどれですか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| 1 あなたの国民健康保険 | 2 ご家族の国民健康保険 | 3 あなたの社会保険 |
| 4 ご家族の社会保険 | 5 あなたの共済保険 | 6 ご家族の共済保険 |
| 7 その他 () | 8 わからない | |

問18 次のような検診や健康診断を受けたことがありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 子宮頸がん検診を受けたことがある | 2 乳がん検診を受けたことがある |
| 3 大腸がん検診を受けたことがある | 4 ストレスチェックのカウンセリングを受けた |
| 5 その他 () | 6 受けたことがない |

問19 この1年の間に悩み事やストレスを感じたことがありましたか。(○は1つ)

1 あった

2 なかった

問19-1 それは、どのような事柄が原因ですか。(○はいくつでも)

1 家庭の問題 (家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病など)

2 健康の問題 (自分の病気の悩み、身体の悩みなど)

3 経済の問題 (倒産、事業不振、負債、失業など)

4 勤務の問題 (転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働など)

5 男女の問題 (失恋、恋愛、結婚をめぐる悩みなど)

6 友人の問題 (友だちとの人間関係など)

7 その他 ()

問20 悩み事やストレスを解消するためにどのようなことをしますか。(○はいくつでも)

1 家族や親族に相談する

2 友人や知人に相談する

3 近所の人に相談する

4 町内会役員に相談する

5 民生委員・児童委員に相談する

6 学校や職場の人に相談する

7 市の相談窓口相談する

8 地域包括支援センターに相談する

9 社会福祉協議会に相談する

10 病院や診療所に相談する

11 福祉施設の窓口相談する

12 ハローワークに相談する

13 弁護士・家庭裁判所に相談する

14 睡眠、食事、買い物等、生活の中で発散する

15 お酒を飲んで気分転換をはかる

16 スポーツ、散歩等で体を動かす

17 ボランティアや社会活動に参加する

18 その他 ()

19 誰にも相談しない

20 悩み事やストレスを感じることはなかった

●就労についてうかがいます。●

問21 あなたは次のうちどれにあてはまりますか。(○は主なもの1つ)

1 正社員

2 派遣社員・契約社員

3 パート・アルバイト

4 公務員

5 自営業

6 自由業

7 家事専業

8 学生

9 その他 ()

10 無職

問22 あなたの現在の主な通勤先(学生の方は通学先)はどちらですか。(○は主なもの1つ)

1 通勤・通学していない

2 岡山市内

3 倉敷市内

4 その他の岡山県内

5 岡山県外

6 その他 ()

問22-1 1日の平均勤務時間と平均帰宅時刻(24時間制で)を()にお書きください。

1日平均()時間勤務

()時()分頃帰宅

※通勤・通学していない人は空欄で可

※通勤していない人は空欄で可

問23 毎月の収入（手取り）は平均してどのくらいですか。（○は1つ）

- | | | | |
|-------------|--------------|--------------|-------------|
| 1 収入はない | 2 5万円未満 | 3 5～10万円未満 | 4 10～15万円未満 |
| 5 15～20万円未満 | 6 20～25万円未満 | 7 25～30万円未満 | 8 30～35万円未満 |
| 9 35～40万円未満 | 10 40～45万円未満 | 11 45～50万円未満 | 12 50万円以上 |

問24 あなたは、仕事と家庭の関係についてどのように考えていますか。（○は1つ）

- | |
|-------------------------|
| 1 家庭も大切だが、仕事を一番に考えた方がよい |
| 2 仕事も大切だが、家庭を一番に考えた方がよい |
| 3 仕事も家庭も両立した方がよい |
| 4 その他（ ） |

問25 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感するほうですか、それとも同感しないほうですか。（○は1つ）

- | | |
|-----------|----------|
| 1 同感する | 2 やや同感する |
| 3 やや同感しない | 4 同感しない |

問26 あなたは、転職した経験がありますか。（○は1つ）

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 転職したことがある | 2 転職したことはない |
|-------------|-------------|

↓
問26-1 理由を教えてください。
（○はいくつでも）

- | |
|---------------------|
| 1 会社の将来性が不安だから |
| 2 他にやりたい仕事があるから |
| 3 給与や評価に不満があるから |
| 4 残業が多く、休日が少ないから |
| 5 職場の人間関係に問題があるから |
| 6 倒産やリストラで解雇されたから |
| 7 キャリアアップのために必要だから |
| 8 契約期間が満了したから |
| 9 健康上の理由で |
| 10 結婚、出産、育児で退職したから |
| 11 家族の事情や介護等で退職したから |
| 12 その他（ ） |

↓
問26-2 理由を教えてください。
（○はいくつでも）

- | |
|------------------------|
| 1 会社の将来性に不安がないから |
| 2 今の仕事に不満がないから |
| 3 給与や評価に満足しているから |
| 4 残業がなく、休みも取れるから |
| 5 職場の人間関係が良好だから |
| 6 一つの会社にずっといるのが当たり前だから |
| 7 転職するにはリスクが伴うから |
| 8 退職後就労していないから |
| 9 長期の休暇がとれるから |
| 10 出産、育児休暇や介護休暇がとれるから |
| 11 就職したことがないから |
| 12 その他（ ） |

問27 現在職についてない方も含めて、これまでに転職した回数を教えてください。

（ ）回

●あなたの考えと、市の制度や政策についてうかがいます。●

問28 次のうちあなたの考えはどちらに近いですか。(○はそれぞれ1つ)

項 目	そう思う	そう思わない
【記入例】自分のことは自分でなんとかしたい	①	2
1) 自分のことは自分でなんとかしたい	1	2
2) 家族の介護は家族でしたい	1	2
3) 困ったときには親類縁者の力を借りたい	1	2
4) 困ったときには隣近所の力を借りたい	1	2
5) 近所にひとり暮らしのお年寄りがいれば、できることがあればしてあげたい	1	2
6) ボランティア活動に積極的に参加できる人でありたい	1	2
7) 声をあげ、行動すれば世の中は変えられる	1	2
8) 介護が必要になったら介護施設に入りたい	1	2
9) 辛いことは避け、楽な生き方をしたい	1	2
10) 年金や保険に自分は助けてもらえる	1	2
11) 若い人達の就労支援に使うなら消費税を上げるのもやむを得ない	1	2
12) 若い人達の子育て支援に使うなら消費税を上げるのもやむを得ない	1	2
13) 高齢者の福祉の充実に使うなら消費税を上げるのもやむを得ない	1	2
14) 高齢者への社会保障費の割合を減らして、若い人たちの就労支援や子育て支援に使ったほうがいい	1	2
15) これからの日本に明るい未来はない	1	2
16) しきたりや慣習は大事だ	1	2
17) 岡山市民であることを誇りに思う	1	2
18) 岡山市民は閉鎖的だ	1	2
19) 岡山市に住み続けたいと思う	1	2

問29 岡山市内にある公的施設を利用したことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

項 目	利用したことがある	知っているけど利用したことはない	知らない
【記入例】住んでいる地域の図書館や図書コーナー	1	②	3
1) 岡山市立中央図書館	1	2	3
2) 住んでいる地域の図書館や図書コーナー	1	2	3
3) 岡山市立中央公民館	1	2	3
4) 住んでいる地域の公民館	1	2	3
5) コミュニティハウス	1	2	3
6) 集会所(公会堂)	1	2	3
7) 住んでいる地域の区役所	1	2	3
8) ハローワーク岡山	1	2	3
9) 岡山市勤労者福祉センター	1	2	3
10) 岡山市福祉文化会館	1	2	3
11) さんかく岡山 (岡山市男女共同参画社会推進センター)	1	2	3

項 目	利用した ことがある	知っている けど利用した ことはない	知らない
12) 女性専門外来	1	2	3
13) ふれあいセンター（岡山・西大寺・北・西・南）	1	2	3
14) 岡山市保健福祉会館	1	2	3
15) 保健センター（北区中央・北区北・中区・東区・南区 西・南区南）	1	2	3
16) 岡山市休日夜間急患診療所（市民病院別館 1 階）	1	2	3
17) 岡山市東部リサイクルプラザ	1	2	3
18) 岡山市デジタルミュージアム	1	2	3

問30 行政で実施している次の取り組みを知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

項 目	利用した ことがある	知っている けど利用した ことはない	知らない
【記入例】おやこクラブ	1	2	③
1) 子ども会	1	2	3
2) 岡山市こども総合相談所	1	2	3
3) おやこクラブ	1	2	3
4) 岡山ファミリー・サポート・センター	1	2	3
5) マザーズサロン岡山	1	2	3
6) こんにちは赤ちゃん事業（ブックスタート）	1	2	3
7) 児童クラブ（放課後の子どものための）	1	2	3
8) 地域こども相談センター	1	2	3
9) 愛育委員への相談	1	2	3
10) おかやま若者就職支援センター	1	2	3
11) 職業訓練受講給付金 （職業訓練・生活支援給付金）	1	2	3
12) 民生委員・児童委員への相談	1	2	3
13) おかやま認知症コールセンター	1	2	3
14) 高齢者のための給食・配食サービス	1	2	3
15) 岡山市地域包括支援センター	1	2	3
16) がん検診無料クーポン券配布事業 （乳がん、子宮頸がん、大腸がん）	1	2	3
17) 岡山市国民健康保険特定健康診査 （40 歳以上、生活習慣病）	1	2	3
18) 岡山市こころの健康センター	1	2	3
19) 消費生活センター	1	2	3
20) 安全・安心ネットワーク	1	2	3
21) 電子町内会	1	2	3
22) マナビネット岡山（岡山市公共施設予約システム）	1	2	3
23) 市民のひろばおかやま（広報誌）	1	2	3
24) 岡山市役所ホームページ	1	2	3



岡山・倉敷における聞き取り調査報告

2012.10.27-29

静岡大学教育学部教授 馬居政幸
馬居研究室3年 根岸康三 寺田祐基 早川由貴



まえがき

本報告は、2012年10月27日から29日にかけて、馬居と研究室の学生3名（早川由貴 根岸康三 寺田祐基）による次の調査対象者への聞き取り調査の結果をまとめたものである。

- 10月27日 19:00～20:30 林市議の同世代の友人2名 問屋町内コーヒーショップにて
28日 09:30～11:00 ライフパーク倉敷（生涯学習センター）所長と職員2名から
14:00～15:00 岡山ふれあいセンター センター長他4名から
15:30～17:00 さんかく岡山 所長他2名から
18:00～20:00 調査結果のまとめ ホテルエクセル会議室
29日 09:00～09:30 中央公民館等を視察
10:00～11:30 高島公民館にて公民館職員から

調査は、事前に配布した『『岡山のまちづくり』に関する調査結果の概要』への感想をうかがうことから始めた。そのうえで、調査結果をふまえての岡山市の未来を拓く政策提言への課題をうかがうことを共通の目的として聞き取りを進めた。その過程を3名の研究室の学生が記録したものが本報告である。

したがって、本報告の内容は、教員を志望する他県の大学3年生が、岡山市と倉敷市の市民と日常にかかわる施設とそこで市民のサービスに努める職員のみなさんとの対話で学び感じ取ったことからの記録である。その意味で、この記録は、その内容自体が、県都岡山市に集中する若い男女にとっての岡山市の課題を読み取る資料と位置付けたい。

馬居政幸

目次

まえがき

1 10月27日の聞き取り調査

－問屋町内のコーヒーショップにて . . . 資料 3-4

2 10月28日の聞き取り調査

－ライフパーク倉敷(生涯学習センター)にて . . . 資料 3-8

－岡山中央公民館にて . . . 資料 3-10

－おかやまふれあいセンターにて . . . 資料 3-11

－さんかく岡山にて . . . 資料 3-13

◎調査結果のまとめ ホテルエクセル岡山会議室にて . . . 資料 3-15

3 10月29日の聞き取り調査

－高島公民館にて . . . 資料 3-17

◎29日の総括 静岡駅に向かう新幹線車内にて . . . 資料 3-20

あとがき

1. 10月27日の聞き取り調査

[19:00~20:30 林市議の同世代の友人2名 問屋町内コーヒーショップにて]

[聞き取りは「『岡山のまちづくり』のための調査結果の概要」をみていただいた感想から始まる]

店内は若い客で賑わっていた。店内は装飾が隅々にまで行き届き、気軽に立ち寄れる雰囲気を作り出していた。壁や仕切りがなく、テーブルも形が様々で、開放感と新鮮さを感じた。聞き取り中もお客さんが途絶えることはなく、外の通りの暗さとは対照的であった。

<☆馬居先生の質問・回答者の発言 ⇒内容の詳細 >

☆数字だけを見れば、「そうなんだろうな」という感想。

- ・自分たちよりも上の世代の非正規雇用者が多いことに驚いた。
- ・少産世代の条件が悪い。

☆自分たちの世代の正規雇用者の割合が少ないことにも驚いた。

⇒郵送回答の問題点、高齢者の高返答率と若い世代の低返答率を考慮する必要あり。

☆全体の割合は高齢者に推移。：高齢者の実態は掴みやすい。

☆高齢者の独居と夫婦のみの世帯が多い。

⇒すでに岡山は単身世帯社会になっている。

☆2世帯家族はだめなのか？

☆回答者の割合において岡山市外の出身者が多い。

- ・奥さんが県外者、学生時代に知り合った、就職で岡山に来る人が多い。
- ・岡山生まれの人がやっているとしたいが、統計を見るとそうでもない。
- ・倉敷が思ったよりも少ない。

☆返答してくれていない。

- ・岡山市外出身者を迎え入れない閉鎖的雰囲気が染み出ているのではなか。
- ・東京でも岡山で幼少期を過ごした人は岡山を良くは思っていない。
- ・他の岡山出身者のイメージで見られている。

⇒腹黒い、橋本龍太郎の悪印象。

- ・広告業界でも出世するのは岡山出身者が多い。
- ・暗いイメージが印象や歴史的小話で広がっている。
- ・仕事柄で岡山のイメージが偏っている。

☆生粋の岡山の人では扱いが違うのか？

- ・投票する高齢者は地元生まれで地元育ちなら、地元の候補者を応援する。
- ・若い世代からすると自分たちのニーズが叶えば、あとは何でもいい。

⇒LOFT や HANDS ができた時もそれが単独なら好印象だが、天満屋が絡むと悪印象。

天満屋がある以上、PARCO は来ない。

若い世代はその状況に落胆・辟易している。

- ・経済界には2大派閥があってギクシャクしている。

⇒天満屋の力は強大。

☆地元の人が幅をきかせているのは岡山くらい。

- ・東京の人も驚くほど。
- ・倉庫街も10年前は低家賃だったが、現在は40万円近い。：行政はずるい。

☆正規でありながら、国民健康保険の人が多い。

- ・昔は社長でも国保だった。現在も株式会社で国保のところがある。
- ・税理士事務所でも保険の申請のために策を講じている。
- ・社会保険料を払えない事業所が多い。⇒届け出を変更している。
- ・日雇い派遣の人も保険を放棄して、手取りを多くしてくれと言っている。
⇒将来は生活保護を受けようとしている。
- ・1人企業として扱い、自営業としてその会社に賃金を支払う。
⇒下請けとして扱う。
- ・保険以外の税は払う。保険は持っていない状態。
- ・親の扶養にして申告を誤魔化す人もいる。
- ・国民年金は最初から入らない。
- ・本当に生活に困っている人は、そういう部分を削るしかない。
- ・アラ30/アラ40は保守的な人が多いと思う。
⇒企業に寄り添っている人が多い。

バブル時代に学校へ行っていたから、何とかなると思う人が多いのではないか。

会社として保険を負担したくない・負担できないというのが現実。

- ・天満屋などの大企業はやっていると思うが、末端の下請けまでは面倒見ていないのではないか。
- ・今の社長に財務管理・運用のノウハウはない。
- ・これからの社長さんには財務を見る力がないと務まらない。
⇒損益分岐点や先行きが見通せないと10年もたない。
- ・アメリカに比べて独立する人が圧倒的に少ない。
- ・大企業のポストにいる人が独立する社会状況ではない。

☆一時の繁栄で終わるのか、潜在的力を発揮するのか…福岡に近い岡山

- ・経済的に見れば、再チャレンジに対して岡山は手薄。
- ・岡山の弁護士は倒産を進めた。(ほぼ全て)：銀行も履歴で融資をしてくれない。
- ・東京の有名な弁護士さんは1年間面倒を見てくれた。：顧問契約をくれれば1円もいらぬ。
- ・親が債務者だと子供にも貸してくれない。
- ・岡山では、協議離婚まで勧められた。
- ・ベンチャースピリットを後押ししてくれる態勢が整っていない。
- ・このままでは、岡山で再チャレンジしようとする気が起きない。
- ・岡山出身でも岡山嫌悪になる。
- ・岡山には税金を落とそうとは思わない。
- ・悲惨な去り方をした人も景気が良くなると戻ってくる。←岡山県人の悪印象の一端。
- ・岡山は金融機関融資が東京と比べて圧倒的に少ない。

- ⇒ベンチャーキャピタルがない。：若い、新しい企業を応援しようとする仕組みや気がない。
- ・天満屋の横やりで新しい企業が来られなくなると岡山県人は失望する。
 - ・選対に若い世代の子が少ないと漏らす支援企業の人もいた。
 - ・候補者は天満屋というイメージを払拭したいと願っても有権者はそうは思っていない。
 - ・アンチ天満屋な人からすると県知事に落選したら面白いとも言う。
 - ・奥さんが岡山で仕事してなかったら、住んでいないかもしれない。
- ☆岡山には新しい勢力を抑え込もうとする力や雰囲気があるのか。
- ・人間関係で有効な人材や企業を事業に呼ばないということはザラにある。
- ☆それでも岡山に人が多くいるのは、店が新規開店、街が明るいのはなぜか？
- 電車の多さ。：福岡駅よりも金が落ちている。
- 神戸を過ぎると人が減るが、岡山で残りの大半が降りる。
- ・衰退している第3次産業や繊維産業が岡山だと生き残っている。
- ☆行政が街づくりに、どれだけ貢献しているのか。
- 市民の認知度で見て。
- 知っていても利用しないことについて。
- ・子どもができると色んな情報が入る。：愛育委員が家を訪問する。
 - ・税金は払っていても誰かのために使われているのだろうという感覚。
- ☆なんのための行政なのか…疑問に思わないのか。
- ・岡山市 HP を4年間請け負っていたが、市民のためになるのか疑問だった。
- お金の無駄だと感じた。
- ☆税金を使っているのにこれで良いのか？
- ・一般市民が事業名から内容を想像できない、疑問に思うものがある。
- ☆岡山の街作りに積極的に参加しようとする若い子は少ない？
- ・現役労働世代が岡山の未来に希望を抱けない現実。
- パルコがない、などの単純な気持ち。
- 岡山にはアニメヲタクが多い。
- ・映画の興行収入が全国的に見ても高い。
 - ・若い子が楽しめる TV 東京の番組が放送されていない。
- ⇒管轄・担当している人が年輩で、若い視聴者のニーズを把握できていない。
- ・近くで成功している事業・自治体があっても参考にしていない。
 - ・官民一体で事業をできていないのが岡山の欠点。
- ⇒岡山には県外者を受け入れる雰囲気が全くない。
- 観光に対する姿勢。儲けようとする気が乏しい。
- ・観光客に対して不親切にすら感じる。：県外者からの生の声。
- ☆イオンが来ることについて。
- ・岡山は事業の決定までは紆余曲折で混迷するが、決まると自分たちが生き残るために乗っかる。
- ☆岡山は都市の理想的な姿になる可能性がある。：それぞれが繋がると強みになる。
- ・遊ぶ選択肢が少ない。

⇒コンサートが少ない。若い子が好きなブランドが少ない。

・イオンが問題じゃなくて、何が入るかが問題。

☆男の子のエリアが少ない。

・ヤンキー車や車高の低い車が多い。

・渋谷のドンキより健康サンダルの商品ぞろえが全く違う。

・18歳になった時の行動の選択肢が低次元？…選択肢が少ない・乏しい。

・山梨や栃木で自分たちの育った土地と似たところの出身者とは心が通じ合える。

・無理に人間性を育む必要はないのではないか。

☆静岡と浜松、岡山と倉敷の関係。

・岡山と倉敷の仲の悪さ。

・同じ岡山弁でも通じ合えない。

・両者が理解し合えない。

・岡山の会社であっても、倉敷で仕事するには倉敷支社を作らないと成り立たない。

☆岡山と倉敷は相互に助け合うのが望ましい。実際はやっている。

・アラ30/40世代で両者を分けようとする社長はほとんどいない。

・行政がより柔軟な対応をしないと話が進まない。

・民間は行政の為すことに従うしかない。

・江戸期からの言葉が残っていることで、岡山市民は倉敷市民を見下している。

2. 10月28日の聞き取り調査

[09:30~11:00 ライフパーク倉敷（生涯学習センター） 所長と職員2名から]

朝の9時過ぎにも関わらず、広大な駐車場に多くの車が停まっていた。時間を経て振り返ると、駐車場の広さが非常に大きかった。スーパーマーケットや娯楽施設の駐車場に抱く印象の広さであった。また日曜日ということで、市の施設を利用する方が少ないと予想していたので、来場者の数に驚いた。施設内では、料理教室や子ども向けのプレイルームに親子や子どもが沢山参加していた。さらに、科学センターには社会科見学に訪れる多くの生徒たちの姿もあった。日曜日の午前中から各所で多くの利用者の姿が見られた。



ライフパーク倉敷外観

<☆馬居先生の質問 ・回答者の発言 ⇒内容の詳細 >

- ・パンフレットは春夏秋冬の4ターム。・各部局との連携を拡げている。
- ・くらしき市民講座一覧（A4横版）の12頁以降が昨年の訪問以降の取り組み。
- ・事業を始めて5年。・徐々にではあるが、確実に事業間の連携は広がっている。
- ・市の美術館の認知度を高めようとキャンペーンを展開している。
- ・様々な企画は若い社会教育主事が担当。
⇒事業所に、職員がいることで、交流が図りやすい。:前に働いていた職員や出入りの業者の人。
- ・101の下水施設見学は、幅広い年齢層を対象としている。
- ・教育委員会も基本的には口出ししていない。
- ・部局を超えて連携が図れるのは、発想の転換と人が少なく、理解があるから。
- ・前市長の理解もあった。
- ・ライフパーク倉敷の担当する範囲内で、部局間連携を図る。:それ以外は関わらない。
- ・重複する事業はあるが、そこをどうするのが今後の課題。
- ・若い視点で公民館を活用してもらおうとしている。
⇒学生の企画を積極的に取り入れて、支援している。
市として、若者の活動を応援しようとしている。
- ・基本的には大学の公認で行っている。
⇒岡山大学との連携は今後。 担当部局が交渉中。
倉敷市内の大学を中心にしているが、倉敷に在住歴があれば、どこの大学でも歓迎。
- ・各部局も作業の流れが分かったことで、積極的になってきている。

- ・趣味・文化講座よりも市民講座を重視。：地区の公民館では出来ないことを請け負う。
- ・基幹公民館を1つ設定して、その下に地区公民館があるという仕組み。
- ・全ての公民館に市の職員を派遣。
- ・正規職員が館長を務めるのが基幹公民館。
- ・館長以下が非正規職員・嘱託職員なのが地区公民館。
- ・年齢層は高齢者に偏りがち。：趣味的要素の強いグループに集中している。
- ・若い人たちが活躍する場所を公民館にするのか、別の場所にするのかが今後の課題。

☆人間関係作りについて。

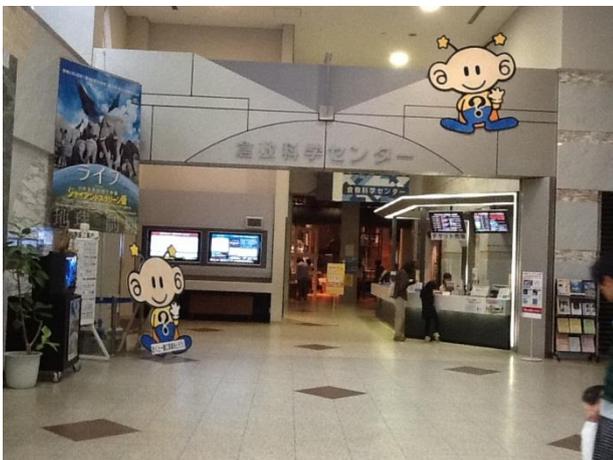
- ・課題意識と実際の事業の取り組みは乖離。
 - ⇒職員数と職員の関わっている年数の浅さ。
- ・地区公民館には難しいことは求めない。：基幹公民館までは市の方で指導する。
- ・倉敷市では公民館には任期制を5年で採用。
 - ⇒高度なことを求めても混乱を招くだけ。
- ・もともとの受け入れる人数も地区公民館では少ない。
 - ⇒子供たちを対象にして、簡単で親しみやすい講座を設定している。
 - 講座内容も軽くして参加しやすくしている。
- ・部局から挙がってきた企画については会議で検討して、基幹公民館へ指示する。
 - ⇒基幹公民館か地区公民館のどちらかで実施。：多くは基幹公民館。

☆公民館が市民にとって一番身近な施設なのか、一番身近でないのか。

- ・職員の技量と組織の技量が違う。
 - ⇒職員の技量に任せると事業が停滞する恐れがある。
 - 組織として成り立たなくなる。ライフパーク倉敷はその部分においてこの概念を打ち破った。

☆行政サービスの新たな方策。

- ・局の枠、組織の枠を超えなければ、これ以上のことはできない＝限界点。
- ・市民のことを考えると枠を超えることが理想としては望ましい。
- ・人事配置や職員の減少、組織の構造などが阻む要因。
- ・民間企業の人事配置を見習わなければいけない？
 - 職員が減少すればするほど、真ん中にできる人が集約される。



↑ライフパーク倉敷内にある科学センター



↑様々な体験型ブースがある科学センター内

[13:15~13:45 岡山中央公民館 写真のみ掲載]



→右のような施設が入った、
複合施設となっている。



→クラブ紹介や、子育て支援情報の掲示物が
豊富に掲載されている。



←中央公民館窓口(4階)



→多目的室がたくさんある。この日は吹奏楽
団が活動していた。



[14:00~15:00 岡山ふれあいセンター センター長他4名から]

お祭りの最終日ということで非常に多くの来場者で賑わっていた。聞き取りを開始した時点で3万人弱の集客数を記録。子ども連れの家族が多かった。大学生や高校生のボランティアが外のテントで活動する姿を数多く目にした。駐車場の広さは倉敷のライフパークと同等な印象。普段はガードマンだが、お祭りの際は来場者の多くが車で訪れるため、交通整理に必要な専門的な資格を持った警備員を雇っていた。広場の端から見ると5つの施設が並立しているというのが建物の敷地面積の広さから視えた。



ふれあいセンター外観

<☆馬居先生の質問・回答者の発言⇒内容の詳細>

- ・大ホールは営利目的・非営利関係なく貸し出している。
- ・20年来のイベントなので、認知度が高い。・市民も楽しみにしている人が多い。
- ・小学校などへパンフレットを配布した。
- ・児童館で就学前の子どもを対象にした講座を展開。
⇒2世代・3世代に渡って利用するようになる。(親から子へ：子から孫へ)
- ・高齢者のサロン活動がメインではなく、敷居を低くしている印象。
- ・他の施設と違って目的を持って運営しているのが盛況の要因。
- ・全体で3000万人近くが利用している。・児童館でも広域的に対象を捉えている。
- ・大きな駐車場などのインフラ整備のおかげ。

☆安心・安全ネットワークの認知度の低さについて。

- ・施策としての意識・認知度は低い。
- ・交通安全指導などの取り組みはある。

☆参加・不参加がはっきり分かれている

☆行政施策に対して積極的な人の認知度が低い。

☆本当に必要な人に対して情報が届いているのか。

- ・公民館は地域活動の拠点という位置づけ。
- ・町内会という組織の上にかぶさっている現状。
- ・岡山市は町内会の活動が活発。

☆若い世代への保障はどこがするのか？(ふれあいセンターはできている)

- ・行政における仕分けの場でも評議員の認知度が低いために議論になりにくい。
- ・認知度を上げるために広報誌に特集を組んでも市民が読まなければ意味がない。



センター内部

- ・若い世代と高齢者世代に繋がりが生まれてくる。
- ・現在のような活動状況であれば、税金をつぎ込むことも無駄ではない。

☆成功例を示すことで他の施設にも立ち直って欲しい。

- ・60前後の方は地域活動や講座に入るきっかけがない・敷居が高いように感じている。
- ・団塊の世代の男性を中心にきっかけをどのように作るかが課題。

- ・生きがい・やりがいを見つけられるように働きかけたい。
- ・女性に比べて男性を参加させるのは難しい。

☆町内会の上に乗っている様々な団体を繋げる役割が強い。

- ・ボランティア団体が手伝ってくれる。（社会福祉協議会と連携している）
- ・一戸建ての世帯が多い地区では町内会の機能が成立し、かつ充実している。
⇒マンションや団地のように人が入れ替わる地域では成り立たない。

- ・町内では婦人会があるが、市とは繋がっていない。
- ・婦会はないが、愛育委員はある。（他には栄養委員もいる）
- ・愛育委員の認知度が低いのは岡山の特徴。
- ・誰でもできることの手伝いをしている愛育委員。
- ・保健センターが愛育委員を統括している。
- ・子育てを忘れた世代の方が委員になると、ありがたいが上手く機能していない。
- ・保育士が相談にのっている。

⇒親を教育し、子供を育てる…保育士への信頼は厚い。

- ・直接は愛育委員とは繋がっていない。⇒相談はできても連携はない。
- ・民生委員さん自体が高齢者なので、相互介助のようになっている。
- ・町内会には縦の組織が今でも確実に残っている…今後も続いていくと思う。

☆団塊世代が70代になると相互介助の様相が一層強くなる。

☆単身や夫婦のみの世帯は誰を頼ったら良いのか？

- ・市役所自体の非正規雇用者の割合が多い。・色んな網を張っておかないといけない。
- ・包括支援センターや社会福祉協議会がきちんと役割を果たさなければいけない。

☆効果に対する検証。

- ・施策に沿って独立か指定管理かが違う。・指定管理は第3セクターに委託された。

☆今後の課題。

- ・地域包括支援センター。：認知度が低いのは問題。
⇒ふれあいセンター＝地域包括支援センターとなるくらいになりたいと思っている。

☆学校教育の問題。：厚労省と文科省の縦割りの題。

- ・各施設が問題意識を持ってやっているが、全体が繋がるようにしたい。



お祭りの様子



↑人で賑わうセンター内

[15:30~17:00 さんかく岡山 所長他2名から]

岡山県知事選挙の投票日ということで、施設の一部が投票所になっていた。目立った看板がなく、2階にあるため、初めて来る者には分かりにくかった。また、施設を利用している方も勉強している様子で内容までは分からなかったが、図書館の様な雰囲気を感じた。入り口にパンフレットが数種類並べてあったが、即座に施設の運営目的を察するには少々難しかった。日曜日の夕方ということもあって私たちが訪問した後に来た利用者の方は非常に少なかった。投票に来たにも関わらず、投票所の場所が分からず誤って入ってくる方もいた。

<☆馬居先生の質問・回答者の発言⇒内容の詳細>

- ・住民自身が岡山の持つ魅力や強みに気づいていない。
- ☆基幹拠点としての岡山駅の価値をもっと活用すべき。
- ・潜在力をどう活かすのか。隠れているという意味の潜在。
- ・消費者からすると東急ハンズを望む声が多い。
- ☆さんかく岡山について☆必要なのに認知度が低いことが問題。
- ☆啓発機関としての役割。
- ・年配の女性では女性専門外来のある病院がどこかを知らない人もいる。
- ・相談窓口まで来て帰ってしまう人が多い。：院長と交渉して開設。
- ☆男女共同参画と性の再生産の違い。：女性の体を理解した女性医師の存在の必重要性。
- ・全国的に、団体の名称を残すのは理念を大切にするため。
- ・地域の母として頑張りたいという女性の思い。
- ・地域によっては岡山でも婦人会が無くなってきている。・市に登録しているのは学区の半分程度。
- ☆女性センター的機能の繋がりとは？
- ・岡山市は、女性センターとしての機能はかなり遅れていた。（市役所の一室）
- ・96年頃に女性センターらしきものができた。：事務局は教育委員会内。
- ・県レベルでは婦人連合が女性センターを創っていた。⇒岡山市は別には持っていなかった。
- ・タミさんというリーダーの存在。・女性政策課を作る全国的な流れ。：目的の団体を束ねる。
- ・市が女性センターを持っていたので、名称の変更はあっさりとなされた。
⇒女性センター。…男女共同参画センター。
- ・婦人会と仲良くない…登録団体に名を連ねているが、婦人会が活動を支援しようとする団体ではない。
- ・連絡協議会を作っていない。：束ねられていない…必要な時に結束すれば良い。
⇒団体が集まると勢力争いが起こる…ならば横一線で良い。
市の助成金を貰わずとも自立してやっていける団体を目指している。
- ・若い人たちは独自に団体を立ち上げて活動し始めている。
- ・さんかく岡山は世代間の繋がりが薄い…生涯学習には繋がらない。
- ・高齢世代と団塊世代が別々に活動していることで若い世代との連携も図れない。
- ・男女共同参画社会の推進を目指す団体という理念を純粋に特化しすぎてしまった。

⇒興味・関心がある人しか訪れない。関心のない人には何をしているのか分からない。

- ・公民館は生涯学習センターとして様々なニーズに応じてきたが、さんかく岡山は特化しすぎた。
- ・働く女性（男性も）をターゲットとしようと方向転換を図っているところ。
- ・働く女性に対して、どのように情報を発信・届けていくのが課題。
- ・働く男女の共同参画をどのように推進していくのが今後の課題。

☆ふれあいセンターとの趣旨の違い…働く・働こうとする女性が悩みを相談する機関・施設がない
行政に聞くとあるというが、役に立たない。

- ・相談という分野を充実させる必要性が高まっている。
- ・就労（就職と仕事上の悩み）に関する支援も充実させなければならない。
- ・働いてはいても、女性の待遇が男性よりも悪い。…保険になると女性の方が男性よりも優位。
- ・アラ30・アラ40の男女間にこそ共同参画の推進が必要。
- ・非正規雇用の女性でも保障が充実している人はいる。…いつ首を切られるか分からない・不安定。
- ・男女ともに就労環境は極めて厳しいのに、相談する機関がない。
⇒その環境下にある人たちは自分が悪い・自分に能力がないと感じてしまっている。
- ・専業主婦は社会保険だから、3号保険を破棄すべき。
- ・破棄に反対するのは、専業主婦の夫。
- ・個人税制にすべき。…低収入者が高収入者を支える歪んだシステムを変えるべき。
- ・子育てママと高齢者が多く集まる平日の昼間は開催の必要性が疑わしい。
- ・夜や休日に講座を開こうと計画中。
- ・創設当時は、男性センターや障害者センターも必要になるからという論理で狭いスペースに開かざるを得なかった。
- ・駐車場がないことは岡山では致命的。
- ・創設に関わってくれた人たちも駐車場が高く、交通の便が悪いことで敬遠するようになった。
- ・市民が結束して行動しなければならない。

…専業主婦は参加しない+男女共同参画社会は達成された。

- ・交通の便が良く、より多くの人が集まり、目に触れる場所に立地できたら良かった。
- ・提示された資料を基に、職場内で議論をしようとする会社員もいる。
- ・ジェンダー統計資料を公開していない。
- ・細かい処理がなされていない・していても公開されていない。
- ・行政の縦割りや分担の違いでデータが出てこない・集計しないものがある。
- ・行政担当者がジェンダー統計・処理の必要性に気付いていない。
- ・政令指定都市に切り替わったことで、行政システムの移行が上手くいっていない。
- ・企業と関わりがなかった市が上手に関わっていないのも問題の一端。
- ・企業が姿勢を改めなければならない。…が、女性自身も自分の経済的自立について考える必要がある。進学や就職時に見つめなおす。
- ・学校教育においても女性教育に力を入れるべき…経済的自立や男女共同参画について。
- ・既存の教科に埋め込んでいく。・大学生の自己認識の低さも問題。
- ・性暴力について啓発していく必要。…学校教育でどのように伝えていくのか。

◎18:00～20:00 調査結果のまとめ ホテルエクセル会議室

①早川由貴

◇ライフパーク倉敷

- ・「公民館」というイメージが変わった。

→前：高齢者が娯楽に使ったり、会議したりするところ。さびれたイメージ(山梨)。

後：施設が整備されているし、人の集まるところにある(倉敷公民館)。観光客も市民もはいる資料が整っている(公民館内、市民向けともに)。→ある程度統括するところがあって、ネットワークもできている。

- ・公民館という今まであまり考えなかった可能性。

◇ふれあいセンター

- ・データの結果に納得がいくありさま。
- ・世代の移り変わりができているというのは貴重。

→もっと反映していくだらう未来に希望が持てる。

◇さんかく岡山

- ・働く女性の相談の場がない⇒それ以前に確かに教育現場にそういう場がない。

◇総括

- ・統計があつたり資料がしっかりしているところが多い。
- ・若者の姿は見るのができたが高齢者の居場所を見ていない。
- ・岡山は山がないので広い(駐車場や施設、道路)→駐車場がない施設は致命傷。まいまい、さんかく岡山 × ライフパーク倉敷、ふれあいセンター ○

②根岸康三

◇ライフパーク倉敷

- ・生涯学習センターのイメージとは違った。

①規模が大きい。②内装もきれい。

- ・子どもが多かった。

⇒料理教室やプレイルームにたくさんの子どもがいた。

保護者の理解と協力がなければできない。

- ・行政の問題を克服した事例を知ることができて興味深かった。

⇒部局間の連携がなされていたこと。組織の体制を保つ上での限界にきている。

- ・科学パークは親子で楽しめるだけでなく、学生でも楽しめる。

⇒社会科見学だけでなく、科学の面白さに気付ける。

社会科の授業で活かせる部分と理科で活かせる部分。

- ・遺跡展示ブースは郷土の歴史に関心を持つのに効果的。

⇒人形の展示はリアリティがあった。パズルや模型などは五感で学べて記憶に残る。

◇ふれあいセンター

- ・イベントを含めた年間来訪者が60万人ということに驚いた。

- ・遊具が充実していたが、芝生が広がったのも印象的。

- ・イベントの関係もあると思うが、乳幼児を連れてお母さんが多かった。
- ・5つの施設が並立していることもあってか全体で見ると規模が大きかった。
- ・駐車場が広大に設定されていたのは、車社会の岡山においては有効的な一面。

◇さんかく岡山

- ・自分の将来について現実的に考えさせられた。
- ⇒社会科教師として、男として、働く者としてという側面。
- ・立地は「ふれあいセンター」と比べて非常に悪い印象。
- ⇒道が狭く、位置が分かりにくい。
- 駐車料金が安くなっても来ようとする人が少なければ意味がない。
- ・男女ともに、労働環境と待遇について考えなおす必要がある。
- ⇒正規でも保険が国保な男性と非正規でも保障が充実していて社会保険の女性。
- どちらも不安定性や危険性を抱えている。
- ・女性の権利や生き方について考えさせられた。
- ⇒女性自身が経済的自立や共同参画について認識する必要がある。

③寺田祐基

◇ライフパーク倉敷

- ・大きな施設に様々な機能があることに驚いた。自分の身近にこのような総合的な施設がないため。
- ・学校行事の遠足や社会科見学に生かせそう。
- ・若い世代を取り入れることとして、大学生が企画できることは羨ましいと思う。ただ、自分が企画するとしたら、と考えると難しいことではあるが。
- ・子どもたちがたくさんいたために、賑わっているように感じた。

◇ふれあいセンター

- ・ここもやはり大きな施設。きれい。
- ・市民に定着していることが大きい。
- ・子ども同士、親子、さらに家族連れと様々な来場者がいた。
- ・幼少期に利用した人が親になって子どもができたときにその子どもを連れてくるというサイクルができていくほどに市民に定着している。

◇さんかく岡山

- ・行ってみて利用者が少ないことを実感した。
- ・なかなか入りにくい雰囲気。・駐車場がない。
- ・何をしている機関なのかなかなか想像できない。→利用しにくい。
- ・学校教育で女性の権利についてのカリキュラムを作らなければならない。
- ・立地問題や仕組みなど、様々な対立やしがらみが重なり合っていて、本質的な問題から遠ざかってしまっているような気がした。
- ・さんかく岡山を利用しているのはさんかく岡山に目的がある人だけ。それだけでは認知度は上がらない。

3. 10月29日の聞き取り調査

[10:00~11:30 高島公民館にて公民館職員から]

月曜日で平日の午前中ということで、部屋を借りて利用する方以外の利用者は少なかった。室内は中央に本棚が並べられており、天井が高く開放感があった。空調設備の設置位置の関係で室温調整が難しく、冬は防寒着を着たまま利用する方が多いと説明を受けた。窓際に椅子を並べることで本を読む利用者への配慮がなされていた。貸室では、子供向けの講座から高齢者向けの講座まで幅広い年齢層の方が参加できる予定が組まれていた。当たり前であるが、全体的に静かで落ち着いた室内環境であった。



↑高島公民館外観

<☆馬居先生の質問 ・回答者の発言 ⇒内容の詳細 >

・歌舞伎の公演を呼んだ時から、年2回公演を依頼している。

☆岡山は中心のない公民館行政。

・公民館で働くうちに、公民館職員が社会教育や公民館の役割について知識が乏しすぎた。
⇒講師として呼んだ方が、戦後の公民館行政を支えた年代の方だった。

☆古典的な社会教育の延長線上、生涯学習教育、どちらでもない、という側面。

・人作り。…地域を担っていく世代を育てるための施策。
⇒公民館の連携。

・選挙時に地域の状況も変化していた。

⇒従来の投票日は高島公民館の付近は交通渋滞が起こっていたが、今回は閑古鳥が鳴いていた。

・97年以来新しい女性団体が生まれていない。

⇒所属している人たちが年を重ねているだけ。

・市や「さんかく岡山」から、やれることをやるようにという指示が出た。

⇒公民館職員からすると、何でも良いならやらなくて良いという思いが出てくる。

☆岡山市の公民館ってどんなところ??

*課題

- ・古典的な公民館を維持しているため、倉敷のように成人した若者を取り込む雰囲気がない。
- ・職員の力量にバラつきがある。
- ・職員の主体性が薄い。
- ・場所でしかなかった。
- ・建物の管理人であるかのような存在でしかなかった。

- ・中学校区に公民館を整備することを最優先にしてきた。
- ⇒職員の教育は後回し。…89年から試験採用に移行。
- 管理人や電話番号というイメージで入ってきていた職員は困惑。
- 時代の流れと共に、職員自体に組合を作る意識が芽生えた。
- …身分保障に見合うスキルを身に付けようとする姿勢も生まれた。
- ・試験採用前は縁故採用だった。
- ・職員のほとんどが社会教育主事の資格を持っている。
- ☆専門性の高い職場に素人の上司が来ると、本人も大変だが、職員も苦勞する。
- ・公民館の中での人事交流にとどまっている。
- ・社会教育主事は正規職員で、33人いる。
- ⇒中央公民館には社会教育主事は置かない。
- ・地域公民館で証明書（住民票）の発行といった行政サービスが始まった。
- ・公民館の間で姿勢にバラつきがある。
- ⇒それぞれの職員の能力や公民館のキャパシティを考えてもできる限り取り組む姿勢が大切。
- *同じ方向だけはみていたい。…が、果たして本当に見られているのか？
- 地域への貢献や主体性を持って臨めている職員がどれほどいるのかが疑問。
- ・行政サービスが始まった公民館で行政サービスが最優先事項になる恐れ。
- ⇒住民向けの講座や事業が従来のように捌けなくなる。
- ・行政サービスと公民館事業の担当は分離しているはず。
- ⇒職員の数もあって併任状態なため、実際は分離していない。
- ・行政サービスを実施している公民館は高島公民館を入れて2館のみ。
- ・拠点性からすれば、公民館のサービス拡大は歓迎すべきこと。
- ・職員の数を筆頭に、行政サービスと住民事業を両方充実させることが大切。
- ・公民館とは「人」が何より大切。
- ☆公民館を強くするのは、「人」「金」「権限」。
- ・プロジェクトチームの課題。…職員の数が増えると怠る人が出てくる。
- ・チームにより異なるが、会議は週に1回。
- ・5人に満たないチームは作業が認められない。
- ・5人に達していても増えすぎると怠る人が出てくる。
- ・行政が事業について評価しきれていない。
- ・任された範囲内でしか物事を考えられない。…拡大よりも閉鎖的。
- ・行政は出来ない方にモデルを焦点化する。
- ・岡山も行政各部局の案を統合して下を自由に動けるように統括する中央公民館。
- ・近年は研修の内容と質が向上してきている。
- ・中央公民館の館長を筆頭に、官の側で現場を理解する人が増えることも必要。
- ⇒中央公民館内にもやる気に溢れた人がいる。
- ☆団塊の世代の女性の拒否感は危険。
- ・「ふれあいセンター」のような理念や事業展開を目指しているが、浸透していない。

- ・公民館も広報誌を出して終わりにしているところがある。
- ・公民館の館長の中には、民間からの採用でなる人もいる。
- ・公民館は中学校区にある⇒小学校区に公民館があれば、活用度が上がるが、遠いと下がる。
⇒小学校区にない場合は、コミュニティハウスや学校を集会所として利用している。
お年寄りにとっては、歩いていける公民館というのが行くかどうかにおいて大きい。
- ・公民館は日常生活に即した施設。…歩いて行ける+すぐに行ける。
- ・公民館も車で来ることを前提にする必要があるのではないか。
- ・出張講座なども展開している。…ほとんどの公民館が実施している。
- ・公民館同士の連携が希薄…範囲の感覚が要因。
- ・やる気のある人や活動的な人が異動すると公民館の運営自体が変化する。
- ・異動したての4～6月は時間の進み具合が遅い。
- ・6月の後半からは高島公民館と同じ時間の感覚になった。
- ・活性化している地域を引き延ばす役割。
⇒活性化の必要な地域よりも引き延ばす方を優先。
- ・全国連合町内会長のお膝下に配属。



←高島公民館内。見通しをよくして、受付から館内を見渡せるようレイアウトしてある。畳ブースがあったり、地元の小学生から寄贈された魚を育てていたりする。



↑各種証明書請求記載台。住民票などが公民館で発行できる。



↑広い和室もある。

◎29日の総括…感想と考察（静岡駅に向かう新幹線車内にて）

①寺田祐基

- ・自分がイメージする公民館に近いイメージ。施設自体も地元の公民館とほぼ同じ。ただ、あれぐらいの規模で中学校区単位と考えると、少し小さい気もする。
- ・地元は小学校区単位で公民館があるために、比較的どの人も公民館を利用しやすい。確かに、自分の小学校区に公民館がなかったら利用しにくいと思う。
- ・行政サービス自体が公民館に入っているのはいいことだと思う。それだけで公民館を訪れる機会ができる。そうすれば公民館でどのようなことが行われているか、知るきっかけにもなる。市民にとっても便利なはず。
- ・今日のお話からは、公民館が市民同士の交流の場になり、人とのつながりが生まれる場所になっているのかは分からなかった。

②根岸康三

- ・実技室や調理室はライフパーク倉敷と似たような設備だと感じた。
- ・内装は地域に身近な公民館にしては綺麗で、開放的な印象を受けた。自分の地元の公民館がさびれすぎているのかもしれませんが…。
- ・地元で取り組んでいる活動がアピールされているのは広報活動の成果だと思う。アユモドキなどの飼育展示は興味深かった。
- ・戸籍抄本の申請ができるというのは驚いた。市役所まで行かなくて済むのは高齢者にとって有効だと思う。
- ・中央公民館の4階にあった女性向けの各種広報・情報誌と同じくらい様々な資料が並んでいた。利用者にとっては機会の門戸が幅広いが、利用しない人に対して認知度を上げていけるとより良いと思った。
- ・職員が異動してから公民館の運営態勢が衰退というかネガティブになったのは今後の課題だと感じた。職員の意識について再三触れられていたので、積極的かつ主体性のある人が活躍できる場になるように願っています。

③早川由貴

- ・岡山と倉敷の公民館の在り方の違いがわかったが、そのふたつで、会議や連携はしているのかきになりました。
- ・職員の人々の力量次第で変わるのだと実感できました。と同時にそのようなリーダーシップを育てていく環境や責任は教育現場にあるのだと再確認しました。
- ・異動して最初の4・5月に地域の探検をして、農家や学校を見て回られたことはとても大事だと思いました。
- ・中学校区に公民館があるということはもったいないと思いました。「歩いて行ける距離」というのは特に高齢者にとって便利です。車とは違って歩くことで地域との交流が増えるかもしれません。
- ・また、公民館を先導していくグループに女性が多いことにびっくりしました。

あとがき

私たち馬居研究室3名にとって、今回の調査で初めて岡山という地に訪れることができました。岡山駅前には静岡以上にショッピング街が充実しており、平日にも関わらず多くの若者の姿をみかけました。また、倉敷や後樂園では落ち着いた雰囲気の中できれいに整えられた美しい景色に感銘を受け、岡山の魅力を十分に感じとることができました。

3日間という短い間ですが、ライフパーク倉敷やふれあいセンター、各公民館を回り、聞き取り調査を行う中で、それに携わる人々の思い、これからの展望、そして限界を知ることができました。私たちの調査報告が、これからのよりよい岡山の未来へ少しでも貢献できれば幸いです。

最後になりますが、調査に際し大変お世話になりました、中原議員、林議員、本当にありがとうございました。この場を借りてお礼を述べさせていただきます。

馬居研究室3年
根岸康三
寺田祐基
早川由貴

「岡山のまちづくり」に関するアンケート調査報告書

平成 25 年 3 月

公明党岡山市議団

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目 1 番 1 号

電話 086-803-1701

URL : <http://www.komei-okayama.jp/>